

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵. 尾山 廣. 久保 貞也. 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 teamsを活用したオンライン授業を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9月12日(土) 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分)
2	チームビルディング 9月12日(土) 2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分)
3	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 9月26日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
6	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 10月10日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
9	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 10月17日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
12	北河内地域に関する講演 11月14日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月14日(土) 2時間目	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月5日(土) 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月5日(土) 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

実務経験

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	j4ihms4			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科) 11号館7階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
------	---

授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	2019年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること (2時間)
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 企業の事例を調べること (2時間)
	3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べること (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間)
	4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間)
	5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間)
	6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間)
	7	ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間)
	8	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間)
	9	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること (2時間)
	10	ビジネス実務の基本④ - ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス (経理財務) -	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること (2時間) ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること (2時間)
	11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること (2時間)
	12	ビジネスプラン① - 起業への意識 -	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 各自がテーマを見つけること (2時間) ・事後学修: ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと (2時間)

			行う（とくに CSR に関するもの）。																	
	13	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 CM 比較プレゼンテーションを準備する。 実際に企画を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネスプランを発展させること（2時間） 事後学修：ビジネスプランを再考すること（2時間） 																
	14	寄付の教室	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2時間） 																
	15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2時間） 事後学修：新たな発見をすること（2時間） 																
実務経験																				
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20 歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	dgautb5																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 																			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	xxuzj4r
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	k8m701sn@yahoo.co.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のF Bを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	18zm0y3																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
15	ふり返り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
学生への メッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	6zei4yu
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール、チーム内のチャット等
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	オンライン授業時の参加度、確認問題、活動、課題等の提出物により総合的に判断する。
学生への メッセージ	オンライン授業では積極的に発言することが求められます。

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語で自分の意見を明確に表明できるようになることを目的とします。また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。 授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。
---------	---

到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。
------	--

授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策を提示する。 教員は適宜フィードバックを行う。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)	
13	発表準備 2	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 3	発表資料の修正	発表練習	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	自分の発表の反省	

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み 50%、口頭発表 50%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、発表形式とし、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解FII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法F I、日本語読解F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	u34q4dh																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	2	テーマ「大学生生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	3	テーマ「大学生生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	4	テーマ「大学生生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
	12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)	

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A○,A科:C○,M科:B2○,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,Ⅷ○,Ⅷ科:DP1○,DP7△,DP8△,D科:DP1○,S科:DP1○,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1○,W科:DP1○,DP7○,N科:DP1○,DP8△N:DP1○,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語FII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業内での取り組み、小テスト等(70%)、課題等の提出物(30%)
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろうか?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろうか?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
---------	--

到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>【授業スケジュール】 下記のものを基に今回のスケジュール変更に合わせてものとなります。各回の授業内容についてはその都度お知らせします。</p> <p>【授業方法】 ①基本的に「教材・課題提供型授業」で行います。毎回、こちらから課題を提示しますので、教科書を使って課題に取り組んでください。終了後は課題を提出してください。 ②毎回の授業の終わりにコメントペーパーOPPシート(One Page Portfolioシート)を書いてもらいます。課題と一緒に提出してください。その中からいくつかを次の授業の資料として紹介し</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろうか?」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。	
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。	
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。	
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。	
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。	
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。	
8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.20～22及びP.94～95を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。	
9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.23～25及びP.77を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。	
10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.26～27及び81～82を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。	
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.28～29を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。	
12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。	
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。	
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。	
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。	

実務経験	
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーOPPシートの内容(30%)や学期末のレポート結果(70%)等をもとに総合的に評価します。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習は今回できません。しかし、皆さんからの質問やこちらからのコメント・補足、授業資料上での感想や疑問等の共有、等の方法を考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	遠隔授業の講義方法により授業を行う。具体的には Moodle や Teams、Zoom 等を用い、教材・課題提供型の授業を行う。その他、双方向性が可能かつ履修学生のみなさんの利用しやすい SNS などにも利用する予定である。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
	2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について、学校教育を社会学観点から考察する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	3	マイノリティと教育Ⅰ	マイノリティという概念について	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	4	マイノリティと教育Ⅱ	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について検討する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	5	マイノリティと教育Ⅲ	前時の内容を受けて、実際に学校現場において「外国にルーツのある子どもたち」の生活実態、学校における支援体制について学ぶ。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	6	教育格差・学力格差問題Ⅰ	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	7	教育格差・学力格差問題Ⅱ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考え、子どもたちの現状についての理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	8	教育格差・学力格差問題Ⅲ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	9	学校教育の現場を知るⅠ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	10	学校教育の現場を知るⅡ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	11	学校教育の現場を知るⅢ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	12	ジェンダーと教育Ⅰ	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	13	ジェンダーと教育Ⅱ	事前課題として出していたジェンダー問題を扱った資料(読み物)についての解説と説明。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。
	14	ジェンダーと教育Ⅲ	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	15	総括	全体のふりかえり	事前課題：最終レポートの準備

実務経験									
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」								
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題 (60%)、宿題 (20%)、最終レポート (20%) それぞれの提出状況、及びその内容をチェックし、総合的に判断し、評価する。			
学生への メッセージ	毎回の事前課題にしっかりと取り組み、授業 (遠隔授業) を受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。	
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。	
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。	
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。	
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。	
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。	
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。	
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。	
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。	
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。	
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。	
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」 「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。	
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。	
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。	

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通じた学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材やICTの活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第7章、第8章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第19章	
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第12章	
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第12章	
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第13章	
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第10章	
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第11章	
8	模擬授業と分析(1)	単独領域模擬授業	第10～13章、第19章、第20章	
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第10～13章、第19章、第20章	
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第4章	
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第15章	
12	ICTを用いた活動	ICTを用いた活動例の紹介、実践	第16章	
13	模擬授業と分析(2)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章	
14	模擬授業と分析(3)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章	
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第5章	

実務経験	
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Sunshine English Course 1, 2, 3		開隆堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
	2	英語4技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
	3	英語リーディングの科学―読めたつむりの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	①筆記試験・レポート(50%) ②模擬授業(学習指導案作成・実技・実技分析)(50%)
学生への メッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらい入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★WebFolderで授業方法を確認し、同時にTeamsへの参加をお願いします。
担当者の 研究室等	7号館5階(松田研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」(「聞く」「読む」「話す(やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。

科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「5つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習(読み方・聞き分け・調音の仕組み)
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(1)	
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(2)	
4	教材研究と学習指導案の作成(1) 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(3)	
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く(1)	
6	模擬授業と分析(1) 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く(2)	
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(1)	
8	教材研究と学習指導案作成(2) ICT等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(2)	
9	ICT活用と教授言語:学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書とICTの演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる	
10	模擬授業と分析(2) 教員1人でICT機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(1)	
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(2)	
12	教材研究と学習指導案作成(3) ALT等とのチーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習	
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習	
14	模擬授業と分析(3)教員2人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習	
15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表	復習	

実務経験																	
関連科目	教職科目全般 英語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 [ISBN 978-4-469-24621-6]</td> <td>望月 昭彦 編著</td> <td>大修館書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]</td> <td>Brigit Viney</td> <td>Oxford UP</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 [ISBN 978-4-469-24621-6]	望月 昭彦 編著	大修館書店	2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 [ISBN 978-4-469-24621-6]	望月 昭彦 編著	大修館書店														
2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Web Folder/Zoom																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	@edu の学内メール（初回授業でお知らせ）																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 （1）模擬授業（レクシプラン作成・授業時間中に行う実技・レポート） （2）レポート 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点中の60点以上で合格とする。																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。 英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 <p>・担当者は、大阪府内の小学校での英語活動の授業を数年間、ALTや担任の先生方と共に担当するとともに、寝屋</p>																
担当者の 研究室等	7号館4階（齋藤研究室）																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 																

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に</p> <p>①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導</p> <p>に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」)を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価基準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。</p>
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブローケンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足り
科目学習の効果(資格)	<p>英語教員免許(中・高)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導(1)+指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導(2)+指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがひ	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第2言語習得と英語教育 音声指導(3)+模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導:リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導:指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導:ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導:指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業(1):リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう:学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業(2):ライティング指導	授業づくり 授業の狙いと機器の価値:実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標	これまでの自分の学習を振り返る

			と到達のための手がかりを探す	
実務経験				
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職科目全般 ・英語科目全般 			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (レッスンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート) (2) 筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・大好きな科目、大好きな学校で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし 			
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 			

科目名	英語科教育法IV	科目名 (英文)	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章

実務経験	
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Sunshine English Course 1, 2, 3		開隆堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモビア	
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店	

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teamsコード	ixzhlqu
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	①筆記試験・レポート(50%) ②模擬授業(学習指導案作成・実技・実技分析)(50%)
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらい入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★WebFolderで授業方法を確認し、同時にTeamsへの参加をお願いします。
担当者の研究室等	7号館5階(松田研究室)

備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	-----------------------------

科目名	中国語科教育法 I	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語および中国語教授法についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。発音や文法の指導のなかでつまづきやすい問題を重点的に理解を深め、それを伝えるためにはどうすればよいのかを考える。
到達目標	中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。

授業方法と留意点	動画配信またはオンライン双方向の形式で授業を行う。
----------	---------------------------

科目学習の効果(資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音 1・「是」・副詞	中国語の発音指導のポイントとその指導法。	事後にこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
2	発音 2・指示代名詞・「?」疑問文と反復疑問文	日本人にとって習得が難しい声調。疑問文における英語、日本語、中国語の対比。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
3	形容詞述語文とその否定や疑問	英語 be 動詞を例にとった中国語「是」の教え方と注意点。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
4	「的」	日本語「の」と中国語「的」を対比させた教え方とその問題点。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
5	前置詞「在」・「是～的」構文・疑問詞疑問文	疑問詞疑問文と「?」疑問文の違い、中国語の前置詞フレーズの文中位置を英語の前置詞フレーズと比較しながら教える。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
6	数詞・疑問数詞・文末助詞「?」	日本語と中国語の間で数詞を比較する。「几」と「多少」の使い分け。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
7	量詞「二」と「?」・動詞「有」と「在」	「二」と「?」の使い分け。「ある」を表す「有」と「在」の意味と文型の違い。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
8	二種類の「怎?」「?什?」「??」「那?」	Howの「怎?」とWhyの「怎?」の使い分けと見分ける方法について。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
9	進行文・「ねばならない」助動詞群	助動詞の使い方を英語助動詞と対比させることで理解を促す。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
10	連動文・使役を表す「叫」と「?」・兼語文	使役文が兼語文からの派生であることを理解し、教授法に取り入れる。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
11	「不」と「没」・二重目的語・様態補語	中国語の授与動詞や二重目的語文型を英語の give 文と対比させながら理解する。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
12	「できる」助動詞群・「したい」助動詞群・了	可能表現にまつわる助動詞文と可能補語文の違いと使い分け。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
13	アスペクト「着」「?」	時制とアスペクトの違いとその中国語での文法形式について。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
14	「了1」と「了2」・2つの「?」「快～了」	「了1」と「了2」の使い分け。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。
15	「把」構文・結果補語・受け身	「把」構文を使う目的とその条件。	事前に1時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに1時間かけて復習する。

実務経験	
------	--

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高校版 語法ルール 66	相原茂 / 玄宜青	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業参加 60%、レポート 40%
学生への メッセージ	比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 中西研究室
備考	事前・事後学習の総時間が60時間以上必要です。

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえて、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が不要でないかを学ぶ。 2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。
到達目標	<p>教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができるようになる。</p> <p>教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につけることができる。</p>
授業方法と留意点	教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。したがって実習にじゅうぶんな時間を当てる。
科目学習の効果(資格)	<p>中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
2	学習指導案作成Ⅰ(発音篇)	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パタンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回は作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
5	学習指導案作成Ⅱ(講読・作文篇)	動詞「是」の学習を想定する。英語のbe動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業を試みる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
7	リスニング指導と関連機器	テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
8	学習指導案作成Ⅲ(リスニング篇)	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
9	ディクテーションとシャドウイング	LL教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
11	テストを作ってみる	授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
12	学習者へのフィードバックと成績管理	(1) サービスの宣誓 (2) 信用失墜行為の禁止 (3) 兼職の禁止 等について	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
13	マルチメディアを利用する(1)	CDやDVDあるいはWebで入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
14	マルチメディアを利用する(2)	e-ラーニング及びさまざまなWebサービスを利用した授業を考える。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次回の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。	
15	マルチメディアを利用する(3)	CALL教室で模擬授業をする。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。	

実務経験																	
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teams コード	xg4wv37																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	Teams 上に質問用フォームを設置し、メールなどの方法で回答する。																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%																
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えたいと思います。																
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)																
備考	教材としてプリントを配布します。 事前・事後学習の総時間が60時間以上必要です。																

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語教育の歴史と現状、中国語の学習内容など、中国語および中国語教育の基礎知識を学ぶ。また中国語教科書によって、発音・文法・語彙などのように教えられているのかを理解する。
到達目標	日本における中国語教育の歴史や現状、学習すべき内容を説明することができる。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式(双方向を主とする)による。受講者は教科書の該当部分をあらかじめしっかりと予習し、授業では教員が補助資料などを示しながら、内容について討論する。
科目学習の効果(資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の中国語教育① (第2章)	日本における中国語教育の歴史を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
3	日本の中国語教育② (第3章)	日本における中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
4	中国の外国人向け中国語教育 (第4章)	中国・台湾における外国人向け中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
5	漢字と発音表記 (第5章)	漢字や発音表記法について学習し、中国語辞典についても検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
6	発音の学習① (第6章)	発音の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
7	発音の学習②	中国語教科書によって、発音の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
8	文法の学習① (第7章)	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
9	文法の学習② (第7章)	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
10	文法の学習③	中国語教科書によって、文法の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
11	語彙の学習① (第8章)	語彙の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
12	語彙の学習②	中国語教科書によって、語彙の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
13	基本技能の習得と評価 (第9章)	学習目標と評価について検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
14	授業計画と評価	授業計画と評価について検討し、学習指導案を作成する。	事前に中国語教科書をもとに学習指導案を準備し、事後に授業をふまえて指導案を修正する。
15	まとめ	学習指導案にしたがってプレゼンを実施し、課題や問題点を検討する。	事前にプレゼンを準備し、事後に課題をまとめる。

実務経験	
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語の教え方・学び方 中国語科教育法概説	輿水優	日本大学文理学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	授業・課題への取り組み(50%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)
備考	事前・事後にあわせて60時間程度の学習を要する。 課題に対する評価はその日、あるいは次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の4つの分野を学ばなければならない。この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読み、解説する。中国語科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指す。
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学ぶ。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読する。高度な内容の論文を読むので、必ず予習が必要である。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
科目学習の効果(資格)	中国語科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 1	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 2	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 3	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 4	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。
	14	まとめ 1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。
	15	まとめ 2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。	レポートを書く。

実務経験	
------	--

関連科目	中国語科教育法Ⅲ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布		
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	y3jb6pl
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法(基準)	小レポート(60%)、レポート(40%)
----------	----------------------

学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力が付きます。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	事前・事後学習総時間は、毎回4時間程度とする。
----	-------------------------

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、対面の講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業等を適宜取り入れます。 また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8~17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6~12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12~25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26~35及びテキスト2のP.26~29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36~48及びテキスト2のP.30~33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49~58及びテキスト2のP.34~37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59~68及びテキスト2のP.38~41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業タイプのねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業タイプのそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71~85及びテキスト2のP.42~45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86~95及びテキスト2のP.46~49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96~106及びテキスト2のP.50~53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107~130及びテキスト2のP.54~57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131~152及びテキスト2のP.58~61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえて、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62~65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66~69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
実務経験																				
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 火5 「道徳教育の研究」(担当：谷口雄一) yuichi																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにしたワークを行う。</p> <p>また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及</p>
授業方法と留意点	<p>講義は遠隔授業 (Moodle) によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立ち、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、学級内のディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションを意識した授業への積極的な参加を求める。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワーク)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワーク)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワーク)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワーク)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワーク)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
7	特別活動の歴史・領域・原理ワーク⑥いじめへの対応(1)(グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦いじめへの対応(2)(グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力への対応(即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をする(1時間)。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校への対応(ソロワーク)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点ワーク⑩いじめへの対応(3)(ソロワーク)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導(ソロワーク)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブな学級づくり(ソロワーク)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
14	総合的な学習の時間の指導	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前

		計画と評価 ワーク⑬ジェンダーフリー な学級づくり (ソロワーク)	生徒の学習状況の評価	に読んでおく (1 時間)。講義資料を参考に復習をす るとともに課題を作成する (1 時間)。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項につ いて再度振り返り整理する。 集団活動の留意点、特別活動の指導の配 慮事項及び担当する教師、総合的な学習 の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第 4 章第 2・3・4 節、総合的な学 習の時間のテキスト第 9 章を事前に読んでおく (1 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題 を作成する (1 時間)。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	kcsmc51																			
Moodle コース名 および登録キー	特別活動の理論と方法																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	レポート (30%)、毎回の課題 (40%)、講義の視聴及び問への回答等授業への参加状況 (30%) を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 (林研究室)																			
備考	授業外総学習時間は 60 時間とする。																			

科目名	教育相談	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義部分は、基本的に遠隔授業（資料配信型）で行う。 ・グループでの活動は、対面授業と遠隔授業（オンライン型）を組み合わせで行う。 ・遠隔授業は、Teams と Moodle を併用する。 ・全体のスケジュール等は、第1回授業で示す。
----------	---

科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	_____
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む	
3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備	
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協働体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む グループ発表の準備	
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備	
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備	
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備	
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、 適応過程	テキスト第3章を読む グループ発表の準備	
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む グループ発表の準備	
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、 仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備	
11	相談援助活動の実際1	不登校.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第5章を読む	
12	相談援助活動の実際2	いじめ.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第6章を読む	
13	相談援助活動の実際3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第7章を読む	
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第8章を読む	
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む	

実務経験	
関連科目	教職課程の科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teamsコード	q4ztxbf
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	ICTツール内での投稿、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	グループ発表50%，期末試験50%

(基準)	
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する	
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する	
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する	
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する	
6	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する	
7	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する	
8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する	
9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する	
10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
14	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する	
15	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する	

実務経験	
関連科目	教職課程で学んだ全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	2020年度教育実習 I (金曜5限・朝日クラス) 20TP1F5A
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
学生への	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

メッセージ	
担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室（7号館3階） 谷口研究室（7号館4階）
備考	教育実習体験発表会（10月末土曜日）、教育実習総括講義（11月末土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおよそ60時間程度となる。

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を問い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前) 第1回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	5	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	6	学校の危機管理①: 学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理②: 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	8	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。

			景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事後) ミニレポートを課す。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
実務経験				
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 年度教職実践演習 (金曜 3 限・朝日講座)、2020 年度教職実践演習 (金曜 3 限・谷口担当) 6gazelle、taniguchi			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。</p> <p>【方法】 ①基本的に Moodle を使って、教科書についての解説資料等を提供します。 加えて、授業のはじめと終わりに受講される皆さんの考えを共有する場を設けています。 ②毎回の授業の終わりにコメントペーパーOPPシート(One Page Portfolio シート)を書いてもらいます。 その中からいくつかを次の授業の資料として紹介します(※匿名です)。 これにより、自分とは異なる他の人の考えも参考にし</p>
科目学習の効果(資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項: 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス: 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①: 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59~63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②: 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59~63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③: 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76~85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④: 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69~73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤: 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93~97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥: 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86~90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①: コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.20~22及びP.94~95を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②: ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.23~25及びP.77を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③: ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.26~27及び81~82を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	11	現代の教育理論①: デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.28~29を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	12	現代の教育理論②: 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29~32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①: 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50~54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
	14	現在の教育課題②: 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147~151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ: 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169~178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいか」について自分の考えをまとめる。
実務経験				

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	9bs70tx			
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 月1（※木1の方は木1）「教育原理」（担当：谷口雄一） yuichi			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や学期末試験の結果(70%)等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学修は遠隔のためできませんが、チャット機能を使っての意見交換を予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史的変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高（小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p>
授業方法と留意点	講読演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	8	通常学級での特別支援教育の実践（通級による指導を含む）	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
	11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働	校内での連携。他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	14	社会的養護にある子供、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。

実務経験				
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特別支援教育資料（平成31年度版）	文部科学省	Web

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階林研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	遠隔授業中心に課題提出型の授業スタイルが基本となります。よって、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業全体を通して、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読み、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、熟読しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。授業後にまとめたレポートをオンライン提出する。
2	日本における教育課程の歴史の変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
3	日本における教育課程の歴史の変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成し、オンライン提出する。

実務経験	
関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1~Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	

	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	事前課題とふりかえりレポートの内容 (60%) と最終レポート (40%) により総合的に評価する。		
学生への メッセージ	毎回、事前学習をしっかりと行い、ふりかえりレポートを期限内に提出してください。		
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp		
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。		

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材の開発及びマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場からの能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、moodle及びTeamsを使用して遠隔授業で行います。</p> <p>授業担当者も受講者の皆さんも遠隔授業に不慣れだと思えます。途中で問題が生じるようなことがあれば、その都度、指示や修正を行います。皆さんの協力がないと授業が成り立ちませんので、是非とも主体的に取り組んで下さい。</p> <p>(1) 講義資料(通常は紙)は、moodle上にPDFで配布します。できる限り印刷し手元に置いて受講するようにしてください。</p> <p>(2) 講義のスライド・音声・動画の配信は、moodle上で行います。皆さんは自身の環境に合わせて</p>
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)	
7	授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)	
8	教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)。	
9	何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	
11	ICTを活用した授業をつくる① ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・テ	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	

		イーチャング実施		
	12	ICTを活用した授業をつくる ② ワーク6 第7・8グループの チームによるマイクロ・ティ ーチャング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラ ーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料 を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の 準備・振り返りを行う(2時間)
	13	インクルーシブな授業をつ くる ワーク7 チームによるマイ クロ・ティーチャングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指 導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応 じた指導とは、学級集団づくりと授業づ くり、授業の「わかりやすさ」と多様な 参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に 学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う(2 時間)。
	14	ユニバーサルデザインの授 業をつくる ワーク8 チームによるマイ クロ・ティーチャングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・ 叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、 学習環境のユニバーサルデザイン化、指 導方法のユニバーサルデザイン化、学習 のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料 を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業を の振り返りを行う。
	15	まとめ～学び続ける教員像 をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グル ープ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教 師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく(1時間)。教科 書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。 模擬授業の振り返りを行う(2時間)
実務経験				
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業における課題・アンケートの提出状況(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価します。			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点 でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。			

科目名	生徒指導論	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
	2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
	3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
	4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
	5	生徒理解の進め方 (1)	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
	6	生徒理解の進め方 (2)	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
	7	学級経営の進め方 (1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	8	学級経営の進め方 (2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
	9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
	11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)	文部科学省	
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	木曜日 2 限の履修者→2020 生徒指導論 (木曜 2 限) 木曜日 5 限の履修者→2020 生徒指導論 (木曜 5 限) 金曜日 1 限の履修者→2020 生徒指導論 (金曜 1 限) 木曜 2 限→20SgctH2 木曜 5 限→20sgcTh5 金曜 1 限→20Sgcf1
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生への メッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	Moodleを通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 テキストは授業の各回に先立ち配布します。 事前・事後学習総時間はおよそ 60 時間程度です。

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Communitiy-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	すべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ確かなコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果(資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	すべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(大野研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習	
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習	
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習	
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習	
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習	
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習	
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習	
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習	
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習	
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習	
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習	

実務経験	
関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7号館3階 (吉田研究室)

備考	<ul style="list-style-type: none">・授業内で, moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。・期末試験は希望者に返却します。・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	---

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解</p>
授業方法と留意点	<p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p>
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワークと意見交換)	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
6	体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ (1) (グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども (グループ討議・発表)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育 (即興劇・交流)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育 (グループ討議・発表)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT (即興劇・発表)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
14	総合的な学習の時間の指導	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前	

		計 画 と 評 価 ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉	生徒の学習状況の評価	に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
	15	補足とまとめ 補足を行うとともに全学習 事項について再度振り返り 整理する。	特別活動の指導の配慮事項及び担当す る教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学 習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講 義資料を参考に復習する。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	i92crs8																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3F 林研究室																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		その他 SPI や玉手箱関連の問題集	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣・寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	v7t5tc3
Moodleコース名および登録キー	就職実践基礎 (後期火4) sjt4
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	7zblcpo
Moodleコース名および登録キー	就職実践基礎(後期火5) sjt5
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実には則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指します。</p> <p>サブテーマとして、ESG・SDG's 等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持つよう授業に出席すること。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 ・株式シミュレーションゲームを行う予定ですが、評価の対象とはしません。 ・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
	2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
	3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
	4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
	5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
	6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
	7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
	8	アセットクラス※の基礎知識 / 株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
	9	アセットクラスの基礎知識 / 株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割合・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
	10	アセットクラスの基礎知識 / 債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省のHPで20年度予算の概要を確認

			す。債券の種類・特徴とリスク、“格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいただいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	試験	試験時間60分。記述式、複数回答からの選択式の併用。全14回授業のレジュメから出題。※なお、試験は電卓以外持ち込み不可。	30分程度試験のポイント解説予定
実務経験				
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	日興リサーチセンター宛てメール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	理解度等を総合的に評価します。 ・レポート：100%（レポート内容は今後確定）			
学生への メッセージ	実務経験をベースとたし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	質問等は、遠隔授業を前提とし、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります asano_hiroshi3@nrc.nikko.co.jp この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷―	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。土曜日に集中講義で開講する。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	9月19日 オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	9月19日 グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	9月19日 チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学修: 講義資料を熟読する(1時間)
4	10月3日 チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの10箇条	事後学習: 自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1時間)
5	10月3日 チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事後学修: 自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1.5時間)
6	10月3日 チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける
7	10月24日 話し合う技術①	・GDに関する知識を学ぶ	事後学修: 講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
8	10月24日 話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習: 講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
9	10月24日 組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	11月7日 情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習: 講義資料を熟読すること(1.5時間)
11	11月7日 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
12	11月7日 チームで企画する	・チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する	事後学修: チームでの話し合いを振り返ること(1.5時間)
13	11月21日 チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修: チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
14	11月21日 チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修: チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間)

実務経験	
関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト (青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー) で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間 で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すぎがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パ	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			スワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
実務経験				
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること (2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間) 	
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間) 	
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間) 	
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間) 	
6	性役割の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間) 	
7	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 中間発表準備 (2時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間) 	
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間) 	
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間) 	
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること (2時間) ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること (2時間) 	
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間) 	
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによ 	

				る自身の変化についてレポートを作成すること（2時間）																
	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
実務経験																				
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	800myjf																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上で一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 「「被害者」概念について説明できる 「犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる 「犯罪被害者の支援制度について理解できる」 <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2時間）
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と被害者救済 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2時間） 	
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪被害特有の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・DV被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーカーへの対抗手段 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット犯罪被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の意義 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の加害行為と対処法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2時間） 	
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 	

			<ul style="list-style-type: none"> 被害者における心情陳述 被害者等特定事項の非公開 遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）
	11	犯罪被害救済総論③	<ul style="list-style-type: none"> 損害賠償命令制度 	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	12	犯罪被害救済総論④	<ul style="list-style-type: none"> 被害回復給付金制度 	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	13	犯罪被害救済総論⑤	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪被害者等給付金支給制度 	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> 加害者情報へのアクセス 法テラス 	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）
実務経験				
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する。		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	wol2lfc			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名 (英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 川崎 勝己, 木村 朋紀, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明, 向井 歩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う（第1回）。

到達目標
 教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解

授業方法と留意点
 配布資料に沿って、教材・課題提供型授業を行う。

科目学習の効果 (資格)
 生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学 (西矢)	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学 (大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学 (宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み (ホメオスタシス) を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学 (川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学 (青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学 (長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
7	細胞機能学 (船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
8	環境毒理学 (木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学 (中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
10	共生機能材料学 (松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学 (西村)	多くの生命現象は「現在 (いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学 (井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学 (居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学 (向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
15	生体分子機能学 (尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。

実務経験
 無し

関連科目
 生物学概論、物理科学、生物無機化学、生物統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態
 Teams コード

Moodle コース名
 および登録キー

連絡手段
 無し

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポートまたは確認小テスト 100%
学生への メッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の 研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全教員)
備考	欠席・遅刻などの扱いは理工学部の規定に従って処理する(80%以上の出席が必要)。 事後学習に要する総時間の目安は15時間

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	<ul style="list-style-type: none"> 授業のオリエンテーション 授業のルール あいさつの真の意味とは 正しい基本姿勢を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	<ul style="list-style-type: none"> 定型業務と非定型業務 コスト意識とエコ活動 仕事の基本の8つの意識 話し方と聞き方 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。 	
3	目標設定とPDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定 (MBO) PDCAとは チームと個人の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: PDCAについて調べる。 事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる (400字以上)。 	
4	スケジュールと出張業務	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールの作り方 業務としての出張-YTT方式- 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。 	
5	ビジネスの場での敬語表現	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な敬語表現の復習 ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに- 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 敬語プリント①をする。 事後学修: ケーススタディプリントをする。 	
6	電話応対	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスフォンの扱い方 5W2Hから6W3Hへ 簡潔メモの作り方 不在処理と伝言 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 電話応対プリントをする。 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。 	
7	来客応対	<ul style="list-style-type: none"> 組織図と対応 簡単な応対から不在処理や重複処理まで 名刺交換 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 来客対応プリント①をする。 事後学修: 来客対応プリント②をする。 	
8	ハウ・レン・ソウ	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスにおける「報連相」 指示の受け方 業務の優先順位 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる 事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。 	
9	ビジネス文書の基本①	<ul style="list-style-type: none"> 社外文書が基本 商取引文書と社外文書の相違 社内文書と社外文書の種類 ファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書始める前にをする。 事後学修: ビジネス文書②をする。 	
10	ビジネス文書の基本②	<ul style="list-style-type: none"> 実践 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス文書③をする。 事後学修: ビジネス文書④をする。 	
11	ビジネス通信の基本	<ul style="list-style-type: none"> 通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 作成上の注意点 郵便・宅配便の知識 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 事後学修: メール文書を作成する。 	
12	法的業務	<ul style="list-style-type: none"> 押印と印鑑の意味 内容証明 個人情報保護 (Pマーク) コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: コンプライアンスについて調べる。 事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。 	
13	設営の基本	<ul style="list-style-type: none"> YTT方式からの業務遂行 確認の必要性 他部署とのコミュニケーションの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 事後学修: 設営事例をまとめる。 	
14	慶弔と贈答	<ul style="list-style-type: none"> 慶弔時の基本的マナー 「式」について 業務としての贈答 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 事後学修: ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。 	
15	協働とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 外国人同僚・異文化への対応 働き方とキャリア開発 公共の場でのマナー 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 事後学修: 全体をまとめる。 	
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」//Web Folder			
Teams コード	w3uk3fb			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされいいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢の観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 (6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
11	自分はどういうビジネスリーダーになるか	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。二人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例1 二宮尊徳	成長・働く・奉仕 (奉公) を実践	第11回参照
13	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
14	事例3 藤沢武夫	No2の役割とは何か。	
15	企業不正	誰も教えてくれない。あなた達が必ず直面する。どう対処すればよいのか	
16	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がったことを総括する。	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6y3a3rw			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを使用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(25%)、第10回時のレポート(25%)、定期試験(50%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史の流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・授業の一環としての映画鑑賞は、各自で動画配信サービス等を利用して行なうものとします。 (詳細については、Moodle および配布レジュメにおいて説明します。)
科目学習の効果 (資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識 (1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識 (2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解 (1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解 (2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解 (3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解 (4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う (1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う (2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分)

				[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・提出レポートについては、授業内で課される小レポートと最終レポートを併せて総合評価を行なうものとします。 (ともにMoodleを通じて提出することになります。)			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子・横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年からの教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGsを実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1)世界の目標SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。 (2)時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3)問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4)チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標SDGsを学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通してSDGsの理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。学修法としては、ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)協働学習による学び、QFT(問い作り)で探求のテーマ設定をします。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果(資格)	社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGsカードゲーム 振り返りシート	事後:SDGsを調べる (Moodleに資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どのSDGsが気になりましたか?)
2	SDGsを学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs前文仮訳ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:SDGsを1分で話せるようにまとめる 事後:今日の学びまとめ
3	SDGs目標1?10を学ぶ	理解度確認テスト(目標1-10) SDGs目標1-10ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標1-10の予習 事後:今日の学びまとめ
4	SDGs目標11?17を学ぶ	理解度確認テスト(目標11-17) SDGs目標11-17ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標11-17の予習 事後:今日の学びまとめ
5	SDGsの問い作り	理解度確認テスト(SDGs復習) システム思考ミニ講義 SDGs目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前:目標すべての復習 事後:今日の学びまとめ
6	SDGsのポスターづくり	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前:新聞づくりの調査 事後:今日の学びまとめ
7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前:新聞づくりの追加調査 事後:振り返りレポート
8	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第1章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第1章の予習 事後:今日の学びまとめ
9	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第2章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第2章の予習 事後:今日の学びまとめ
10	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第3章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第3章の予習 事後:今日の学びまとめ
11	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第4章ABD リレープレゼン 対話	事前:第4章の予習 事後:今日の学びまとめ

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本のSDGsについて調べる (ジェンダー平等、貧困、テクノロジー) 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、 振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを 押さえた振り返り
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	落合陽一	SBクリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター、新聞づくり/発表 (チーム：25%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・資料ファイリング (個人5%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	大塚正人 (薬学部1号館5F)、伊藤諱 (1号館3F)、原由紀子 (非常勤講師室)			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年からの教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGsを実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1)世界の目標SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。 (2)時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3)問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4)チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標SDGsを学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通してSDGsの理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。学修法としては、ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)協働学習による学び、QFT(問い作り)で探求のテーマ設定をします。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果(資格)	社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGsカードゲーム 振り返りシート	事後:SDGsを調べる (Moodleに資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どのSDGsが気になりましたか?)
2	SDGsを学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs前文仮訳ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:SDGsを1分で話せるようにまとめる 事後:今日の学びまとめ
3	SDGs目標1?10を学ぶ	理解度確認テスト(目標1-10) SDGs目標1-10ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標1-10の予習 事後:今日の学びまとめ
4	SDGs目標11?17を学ぶ	理解度確認テスト(目標11-17) SDGs目標11-17ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標11-17の予習 事後:今日の学びまとめ
5	SDGsの問い作り	理解度確認テスト(SDGs復習) システム思考ミニ講義 SDGs目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前:目標すべての復習 事後:今日の学びまとめ
6	SDGsのポスターづくり	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前:新聞づくりの調査 事後:今日の学びまとめ
7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前:新聞づくりの追加調査 事後:振り返りレポート
8	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第1章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第1章の予習 事後:今日の学びまとめ
9	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第2章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第2章の予習 事後:今日の学びまとめ
10	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第3章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第3章の予習 事後:今日の学びまとめ
11	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第4章ABD リレープレゼン 対話	事前:第4章の予習 事後:今日の学びまとめ

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本のSDGsについて調べる (ジェンダー平等、貧困、テクノロジー) 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを押さえた振り返り
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	落合陽一	SBクリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター、新聞づくり/発表 (チーム：25%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・資料ファイリング (個人5%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	大塚正人 (薬学部1号館5F)、伊藤諱 (1号館3F)、原由紀子 (非常勤講師室)			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	株式投資と起業家育成	科目名 (英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【SDGs-4】（質の高い教育をみんなに）</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることに	

			基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と市場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習として設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1, N科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的
近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化すると言われていいます。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。

到達目標
(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること
(2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること
(3) AI を活用したビジネスプランを提案し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションできること

授業方法と留意点
本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。
授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams の AI ビジネス創造実習クラスにアップロードする。
毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。
なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
9	AI によるビジネスプランの 考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し
10	AI によるビジネスプランの 考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案
11	AI によるビジネスプランの 考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成
12	AI によるビジネスプランの 考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化
13	AI によるビジネスプランの 考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り

実務経験

関連科目
情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名
および登録キー

連絡手段

メールアドレス
メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法
(基準)
成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点となる。

学生への
メッセージ
Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができてしまう世の中になっていきます。この授業をとおして、そのことを実感してほしいと思います。

担当者の
研究室等
備考
11 号館 8 階 塚田講師室

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個人々の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	---

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
7	認知症と地域生活	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事後学修: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2時間)	
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学修: 講義の内容について振り返りを行うこと (4時間)	

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	eqjnral			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート50%、最終レポート50%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙, 大塚 正人, 荻田 喜代一, 久保 貞也, 佐井 英子, 瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む (1.5 時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む (1.5 時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読む (1.5 時間以上)	
4	教養入門: 第五章 経済学	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第一章を読む (1.5 時間以上)	
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート 1 回目 事前学習: SDG s とは何かを調べる (3 時間以上)	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDG s とは何か調べる (1.5 時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる (1.5 時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 振り返りレポート 2 回目 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読む (2 時間以上)	
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読む (1.5 時間以上)	
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読む (1.5 時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読む (1.5 時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート 3 回目 (2 時間以上)	
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習: 振り返りレポート 4 回目 (2 時間以上)	

実務経験																	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版														
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・振り返りレポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・ファイル管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>																
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																
担当者の 研究室等	荻田喜代一 (7号館 8F, 学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 石井三恵 (7号館 5F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 久保貞也 (11号館 7F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スボ振), 古矢篤史 (7号館 4F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F), 羅鵬飛 (経済)																
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。																

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙・上野山 裕士・友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話(感想を述べ合うこと、質疑応答)を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	この授業は対面授業(6回)と遠隔授業(9回)で行う。 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート(学習範囲を200~250字で要約)を作成する。教科書 p.48-79 を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート。教科書 p.80-108 を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	事後学習シート
5	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	学びの振り返り(整理、共有) 要約・プレゼン・対話の要点を説明	教科書 p.109~146 を読み、事前学習シートに記入する。
6	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	事後学習シート
7	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p.148~181 を読み、事前学習シートを作成する
8	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p.181~203 を読み、事前学習シートを作成する
9	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 協働学習(要約・プレゼン・対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート ポスター作成 プレゼン準備 図書館の利用
10	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	ポスター作成 発表・質疑応答、投票と表彰 振り返りシート	振り返りレポート1回目 「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シートを作成
11	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 11~20章を読み、事前学習シートを作成
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 21~27章を読み、事前学習シートを作成
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート 事前学習シート(ポスター作成・プレゼン準備)
14	教養としての文学作品に触れる:「未来の年表」	解説、確認試験 ポスター作成	振り返りレポート2回目 図書館の利用

			発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	
	15	全体振り返り	各グループで選択した文学作品の紹介。 バインダーチェック 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	大学教養実践 DKJ			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢/ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%)、・事後学習シート (個人：10%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F)、上野山裕士(7号館 3F)、寺内睦博 (11号館 10F)、水野武 (7号館 3F)、友枝恭子 (3号館 3F)、瀧 (スポ振)			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同スタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？			

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する授業は演習形式で実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験
 関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改定版>	西谷 恒志	成美堂
3	Easy Access to Basic English Grammar	Shunkei Funada	Asahi Press

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態
 Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス
 メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法 (基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ
 英語学習に近道はありませんので、コツコツと学習していきましょう。

担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	English Central 50% 100SSの文法事項に関する成果物 50% ※「100SS タイピングテスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。

担当者の研究室等	7号館3階 吉村研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。

担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法の習得には、毎日コツコツ学習したことを、なるべくすぐ使うことが大切です。読んだり書いたりしながら楽しく学習しましょう。

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	TOEIC TEST GRAMMAR 5 分間 TOEIC テストサブリメント 文法・語法	小池直己	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。

担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	

担当者の研究室等	7号4階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	

担当者の研究室等	7号館永富研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 修正シラバスはWebFolderを参照のこと。
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文(there構文)と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称のit文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	haveとgetの用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験
関連科目
 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態
Teamsコード
Moodleコース名および登録キー
連絡手段
 メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス：
評価方法(基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への
 予習ではあらかじめ疑問点を整理し、何を学ぶかを意識して主体的に授業に臨んでください。復習では授業をとらして理解した内容を自分の力

メッセージ	(=自分で使える力)として定着させることが重要です。
担当者の研究室等	船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。

担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)。

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test1<旧版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30%、100SS 筆記テスト 30%、授業中の小テスト・発表、提出物等 40%
学生へのメッセージ	英語を好きになることから始めてみましょう。
担当者の	7 号館 4 階 中島研究室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後または学生センターにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	教科書等に基づく成果物 50% English Central (588-1240) 50% ※「100SS タイピング」51-100 が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	

担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 授業は「教材・課題提供型」による遠隔授業とする。本科目での取り組みは、以下に示す 3 つの通信環境を使用する。
 ①WebFolder・・・『暗唱英文 100』（『100SS』）に関連する文法事項の解説を提供する。第 2 回目以降、1 回の授業につき 5 つの暗唱文をとりあげ、詳しく解説する。また、この解説で扱った内容をもとに、定期的小テストを行い理解度を測る。
 ②EnglishCentral・・・学期内に運営サイト上で各自が取り組む。学習範囲は 588～1240 とし、100%になるまで取り組む。なお、期限は授業をつ

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)	

実務経験
 関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態 Web Folder/Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/english central の運営サイト
Teams コード jid1mt9
Moodle コース名 100SS タイピング 2020
および登録キー 100ss
連絡手段 学内メール, Teams
メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。
 メールアドレス：
評価方法 (基準) 教科書等に基づく成果物 50%
 English Central (588-1240) 50%
 ※「100SS タイピング」51-100 が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。

学生への メッセージ	この科目は原則として遠隔授業で行われる。通信障害など、オンライン特有のトラブルも想定される。特に、期限のある課題等については、想定されるトラブルに備えて早めに取り組み、問題があれば躊躇なく担当教員にメール等で相談してほしい。 予習ではあらかじめ疑問点を整理し、何を学ぶかを意識して主体的に授業に臨んでください。復習では授業をとおして理解した内容を自分の力(=自分で使える力)として定着させることが重要です。
担当者の 研究室等	7号館船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 ・『暗唱英文 100』の文法事項を中心に学習し、レポートを作成する。
 ・English Central (588-1240) と「100SS タイピング」(51-100)を(全クラス共通で)行う。
 ・学習には(電子)辞書の活用が不可欠である。
 ◇「教材・課題配信型」のオンライン(遠隔)授業の形式で行う。
 ※ただし、初回の授業(オリエンテーション)は教室(対面形式)で行う予定である。

科目学習の効果(資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
13	英文法の要点整理と語彙について(1)	英文法と語彙のポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
14	英文法の要点整理と語彙について(2)	英文法と語彙のポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)	
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習(1時間)	

実務経験
 関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	7i2tiol
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	教科書に基づく成果物(レポート) 50% English Central (588-1240) 50% ※「100SS タイピング」51-100が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ	語彙と文法は語学力の大切な基礎となりますので、しっかり学習していきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後または学生アワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する授業は演習形式で実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

実務経験
 関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3	Easy Access to Basic English Grammar	Shunkei Funada	Asahi Press

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態 Teams「オンライン型」/Web Folder

Teams コード inn1178

Moodle コース名および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ 英語学習に近道はありませんので、コツコツと学習していきましょう。

担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。授業は演習形式で実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験
 関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態 Teams 「オンライン型」
Teams コード 7jn13bd

Moodle コース名および登録キー 100ss タイピング

連絡手段 学内メール、個人メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	7号館5階永富研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	68zditi
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	教科書等に基づく成果物 50% English Central 50% ※「100SS タイピング」51-100 が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	ajkwlko
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	

担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Zoom
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	@edu の学内メール(初回授業でお知らせ)
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	1) 教科書等に基づく成果物 50% 2) English Central?(588-1240) 50% 3) ※「100SS タイピング」51-100 が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。 1) については初回授業で説明します。

	2) と 3) の メ 切は、授業の中でお知らせします。
学生へのメッセージ	外国語を使えるようになるには、材料(語彙・構文)と技術(発音・話し方)が欠かせません。あなたの「気持ち」をきちんと相手に伝えられるようになるために、いい材料を仕込んで技術を磨きましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	nbc8f1
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	原則 Teams、学内メールも可
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	【遠隔授業化にともない変更しています】 教科書等に基づく成果物 50% English Central (588-1240) 50% ※「100SS タイピング」51-100 が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文(筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	2020 Vocabulary & Grammar ヌ (後期月2 高橋真理子) maplesugar3
連絡手段	学内メール、個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	教科書等に基づく成果物 50% English Central (588-1240) 50% ※「100SS タイピング」51-100 が完了しない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	

担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<旧版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Zoom
Teams コード	yhk9mor
Moodle コース名 および登録キー	Vocabulary & Grammar b 2020 - Rens Lohmann cod0elephant
連絡手段	Campus email
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)	
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)	

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class.
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	暗唱英文100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	In addition to the syllabus content explained above, you will practice writing and speaking about your daily life and asking follow up questions. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomple
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおお
----	--

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	---

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	質問はいつでも授業中にしてください。 みんなの為になります。 積極的に話す練習をしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室木曜午前中
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて

対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	オンラインの授業および課題を通して、スピーキングとライティングの練習を行う。毎回の授業で、与えられたトピックに沿ってスピーキングとライティングについて学習する。また、120-150words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	スピーキング課題 30% ライティング課題 30% 宿題、提出物等 40%
学生へのメッセージ	This course focuses on improving your speaking and writing skills. The more you speak and write in class each week, the more you will improve. So come to class each week prepared to try your best.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて

対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等90%
学生へのメッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
	15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Welcome to Speaking and Writing Ia. We will focus on building speaking and writing skills plus confidence! Please read the text materials before the lesson and be ready to participate. Please don't be afraid to speak and most importantly relax and have fun!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Be prepared to speak a lot in this class. Preview work before class and make sure to do all homework assignments. Ask me if you have any trouble and questions. See you in class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン パーメンター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.
担当者の研究室等	I would like to have all my classes in room 1055 please
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること このコースでは、同期性の授業でズームとチームズ使い、筆記課題にはムードルを使います。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)	
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/その他
Teams コード	aixhi9g
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	email or Teams chat
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Don't be shy! I'm looking forward to hearing and reading your ideas in class. You will improve your speaking and writing stamina in this class.
担当者の	7号館3階 フーバー研究室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle/その他
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	HiGrant1B
------------------------	-----------

連絡手段	School mail, but try Teams first.
------	-----------------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 100%
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおお
----	--

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	---

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Moodle

Teams コード qq0m5oq

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法(基準) 暗唱英文100発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ In addition to the syllabus content written above, you will practice writing and speaking about your daily life and asking follow up questions.

担当者の In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete
7号館 2階非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Google Meet(前期と同じコード) / Web Folder / Teams 「教材・課題配信型」

Teams コード u4n7y79

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 下記の個人メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法(基準) 暗唱英文100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ 後期はmoodle を使いません。 web folder かメール添付にて(前期と同じアドレスです。ガイダンスプリントにて再掲します) 課題は提出してください。クラス全体にお知らせをしたいときは teams にて掲載します。オンライン授業は前期と同じコードで Google Meet の meet.google.com/vek-snm-urnm です。

担当者の研究室等

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はメールにて。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業および課題を通して、スピーキングとライティングの練習を行う。毎回の授業で、与えられたトピックに沿ってスピーキングとライティングについて学習する。また、120-150words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対する実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態 Teams「オンライン型」/Moodle/Zoom, Seesaw

Teams コード 2icqo9i

Moodle コース名 Speaking & Writing Ib Yano 2020

および登録キー saw1b2020

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

メールアドレス:

スピーキング課題 30%

ライティング課題 30%

宿題、提出物等 40%

学生へのメッセージ This course focuses on improving your speaking and writing skills. The more you speak and write in class each week, the more you will improve. So come to class each week prepared to try your best.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。その他の質問等はメールにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	vc2ray7
Moodle コース名 および登録キー	Speaking & Writing Ib Carr 2020 jointheclass
連絡手段	neil.carr@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生への メッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・タイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Moodle/Zoom

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 email

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法(基準) 暗唱英文100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ Don't be shy! I'm looking forward to hearing and reading your ideas in class. You will improve your speaking and writing stamina in this class.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおお

	よそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	---

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	69w15j8
Moodle コース名および登録キー	Speaking & Writing Ib Bell 2020 flower7power
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Welcome back for Speaking & Writing Ib. Now it's time to build upon the skills you learned last semester. Once again, always come to class prepared and ready to participate in all activities to get the most out of this course.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Zoom / Web Folder
------	-------------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	martin.oickle@edu.setsunan.ac.jp
------	----------------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	暗唱英文100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	ズームはオンラインクラスで使用されます。ズーム URL は、クラス WebFolder の第1週に提供されます。1学期と2学期のズーム URL が異なります。注意してください。宿題は WebFolder にアップロードされて送信されます。Zoom will be used for online classes. A Zoom URL will be provided in Week 1 of the class WebFolder. The Zoom URL for the first and second sem
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS発音テスト」を行う。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Zoom
------	-----------------------------

Teamsコード	iudzjri
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	robert.condon@edu.setsunan.ac.jp
------	----------------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	暗唱英文100発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	--

学生へのメッセージ	Be prepared to speak a lot in this class. Preview work before class and make sure to do all homework assignments. Ask me if you have any trouble and questions. See you in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン パーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

実務経験	
------	--

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle / zoom
------	---------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名	Speaking and Writing I b
-------------	--------------------------

および登録キー	
---------	--

連絡手段	学内メールアドレス
------	-----------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	--

学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 2: Foods	速読活動 精読活動: Unit 2「パプリカの色と値段の微妙な関係」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
3	Unit 3: Foreign Language Learning	速読活動 精読活動: Unit3「目からウロコの英語上達法」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
4	Unit 4: Sports	速読活動 精読活動: Unit4「アメリカのスーパーボールのスーパーな点」	多読学習 予習・復習 小テストの準備
5	Unit 5: Fashion	速読活動 精読活動: Unit5「ファッションは無駄?」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
6	Unit 6: Living Things	速読活動 精読活動: Unit6「人間の繁栄を支える骨とは?」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
7	Unit 7: Art	速読活動 精読活動: Unit7「美と美が響きあう不思議」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
8	Unit 8: Global Issues	速読活動 精読活動: Unit8「先進国と途上国はなぜ意見が分かれるのか?」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
9	Unit 9: Japanese Culthre	速読活動 精読活動: Unit9「和食が世界で愛される理由」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
10	Unit 10: Human Rights	速読活動 精読活動: Unit10「死刑」について	多読学習 予習・復習 小テスト準備
11	Unit 11: Health and Medical Issues	速読活動 精読活動: Unit11「笑いと健康の関係」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
12	Unit 12: Environmental Issues	速読活動 精読活動: Unit12「地球温暖化の始まり」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
13	Unit 13: Economy & Industry	速読活動 精読活動: Unit13「就活必勝法」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
14	Unit 15: Science and Technology	速読活動 精読活動: Unit15「自動運転実用化」	多読学習 予習・復習 まとめのテスト準備
15	前期学習範囲まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習 前期学習範囲の復習と確認

実務経験	
------	--

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ANBITIONS Pre-intermediate	VELTEC 研究会教材開発グループ	金星堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
学生への メッセージ	テキストは前期使用です。しっかり予習をして授業に臨んでください。授業は予習が終わっているものとして進めていきます。精読、速読、多読 をすることでリーディング能力の向上を目指してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	真弓 香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	・授業の進め方、評価方法等の説明 ・速読活動・多読活動	授業の復習 多読活動(1時間)
2	Chapter 1: What makes Kobe beef so special?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
3	Chapter 2: What are those backpacks Japanese schoolchildren wear?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
4	Chapter 3: What are the seven things in shichimi?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
5	Chapter 4: Why does Japan's postal symbol look like that?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
6	Chapter 5: Why is there plastic grass in my bento?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
7	Chapter 6: Why is there a 5 o'clock bell?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 中間テストの準備 多読活動(2時間)
8	Chapter 7: Why do train drivers in Japan make those strange gestures? 中間テスト	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 ・中間テスト(Chapters 1 - 6)	授業の予習・復習 中間テストの準備 多読活動(2時間)
9	Chapter 8: How is nori made?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
10	Chapter 9: Why do Japanese wear masks?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
11	Chapter 10: What do the dates food packages mean?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
12	Chapter 11: Why do Japanese ask about blood type?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)
13	Chapter 12: Do Japanese mosquito coils work?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動(2時間)

			・速読活動・多読活動	
	14	Chapter 13: Why does miso soup move by itself?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む	授業の予習・復習 期末テストの準備 多読活動 (2 時間)
	15	前期のまとめ 期末テスト	・速読活動・多読活動 ・前期学習内容の総復習 ・期末テスト (Chapters 7 - 13)	期末テストの準備 多読活動 (2 時間)
実務経験				
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Surprising Japan! 2 日本の不思議 2	Alice Gordenker / John Rucynski	松柏社
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、発表、中間・期末テストなどを含む)			
学生への メッセージ	Reading の力は他のスキルにも大きく影響します。「読む」ことを毎日の習慣にして、Reading 力の向上に努めましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業、評価方法等説明	教科書のはしがきをしっかりと読む(1時間)
	2	Unit 1 Daisies (1)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 1の予習・復習(1時間)
	3	Unit 2 Daisies (2)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 2の予習・復習(1時間)
	4	Unit 3 Sentence (1)	速読・多読 読解・問題	Chapter 3の予習・復習(1時間)
	5	Unit 4 Sentence (2)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 4の予習・復習(1時間)
	6	Unit 5 Pattern (1)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 5の予習・復習
	7	Unit 1-5 復習	Chapter 1-5の復習及び質問受付	Chapter 1-5の復習(1時間)
	8	中間試験	Chapter 1-5 中間試験	Chapter 1-5の復習(試験勉強)(1時間)
	9	中間試験評	中間試験返却及び解説	Chapter 1-5の復習(1時間)
	10	Unit 6 Pattern (2)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 6の予習・復習(1時間)
	11	Unit 7 Solipsist (1)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 7の予習・復習(1時間)
	12	Unit 8 Solipsist (2)	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 8の予習・復習(1時間)
	13	Unit 9 Preposterous	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 1の予習・復習(1時間)
	14	Unit 6-9 復習	Review Chapter 6-8 & 1	Review Chapter 6-8 & 1の復習(1時間)
15	Unit 6-9 確認試験	Chapter 6-8 & 1までの総まとめ	Chapter 6-8 & 1までの授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと(1時間)	

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Enjoy SF Short-Shorts	Takako Takamoto & Hiroshi Ikezono	KAIBUNSHA
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
--------------	---

学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
---------------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1 Amazing Chocolates	授業内容についての説明 読解・問題 (pp.10~15)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
2	Unit 2 Jokes	Quiz 1 読解・問題 (pp.16~21)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
3	Unit 3 The First Money	Quiz 2 読解・問題 (pp.22~27)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
4	Unit 4 White Noise	Quiz 3 読解・問題 (pp.28~33)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
5	Unit 5 The Genius of Albert Einstein	Quiz 4 読解・問題 (pp.34~39)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
6	Unit 6 Leonardo da Vinci	Quiz 5 読解・問題 (pp.40~45)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
7	Unit 7 Taiwan - Beware of Typhoons	Quiz 6 読解・問題 (pp.46~51)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
8	Unit 8 Pie Chart: Better Sundays Through Efficiency	Quiz 7 読解・問題 (pp.52~57)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
9	Unit 9 Global Warming	Quiz 8 読解・問題 (pp.58~63)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
10	Unit 10 Avoiding Cancer	Quiz 9 読解・問題 (pp.64~69)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
11	Unit 11 Obesity	Quiz 10 読解・問題 (pp.70~75)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
12	Unit 12 Democracy in the Modern World	Quiz 11 読解・問題 (pp.76~81)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
13	Unit 13 Borrowing From a Living Library	Quiz 12 読解・問題 (pp.82~87) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
14	Unit 14 The Importance of Language	Quiz 13 読解・問題 (pp.88~94)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
15	General Review	Unit 1~Unit 14 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。 (2~3時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Success with Reading Book 1	池田 真生子 他	成美堂
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動(提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
担当者の	7号館2階 非常勤講師控室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1 Our Garden --be 動詞 2 Do you trust your GPS?	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
3	2 Do you trust your GPS? 3 The History of the Village --一般動詞	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
4	3 The History of the Village	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
5	4 Waiting for a Plane	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
6	5 .Where are my socks? --代名詞	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
7	6 Are you all right?	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
8	中間テスト	速読演習 前半の既習内容の確認テスト	テスト勉強
9	7 Checking in at a Hotel --教詞	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
10	8 Tour Schedule	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
11	9 House for Sale --前置詞、接続詞	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
12	10 The City	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
13	11 Our Company --助動詞・完了形	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
14	12 At the Hospital	速読演習 本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動(1~2時間)
15	期末テスト	速読演習 後半の既習内容の確認テスト	テスト勉強

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング I b
------	------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	English Here and There (「読解と基本文法で極める総合英語」)	Terry O'brien/三原京 /他2名	南雲堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	速読活動 10% 多読活動 10% 精読学習 80% -- 中間・期末テスト、課題、発表、授業態度
----------	---

学生への	精読は、多読や速読と違って、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。
------	---

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン パーinker
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Dolphins Talk	Orientation - class explanation, textbooks, grading, tour of library Timed Reading for Fluency (TRFF) Unit one Reading One	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
	2	Levels in Nature Extensive Reading	TRFF Unit One Reading 2 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
	3	A Dangerous Wind Extensive Reading	TRFF Unit 2 Reading 3 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
	4	A Hard Working Plant Lost Forever? Extensive Reading	TRFF Unit 2 Readings 4 and 5 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	5	Music - Fun and Games and Music Extensive Reading	TRFF Reading 6 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	6	That Can Make Music? Extensive Reading	TRFF Reading 7 extensive reading score check Extensive Reading score check/troubleshooting	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	7	Healthy to hear Extensive Reading	TRFF Reading 8 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	8	Music that stays in your head Only Voices Extensive Reading	TRFF Readings 9 and 10 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	9	Health Extensive Reading	TRFF Reading 11 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	10	Doctor Trees Blood Work Extensive Reading	TRFF Readings 12/13 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	11	Are You Under Stress? Getting Vitamin D Extensive Reading	TRFF Readings 14/15 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	12	Education Extensive Reading	TRFF Readings 16/17	Extensive Reading at home review class lesson (1 hour)
	13	How to take Notes A Part of Learning	TRFF Readings 18/19 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	14	Private Vs Public Schools Extensive Reading	TRFF Reading 20 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
15	Reading Activity - handout (to be planned) Extensive Reading Collect Extensive Reading Records and Speed Reading Records	Fun Reading Activity Extensive Reading End of Term Wrap Up	Keep Reading over the holidays! (1 hour)	

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a, スピーキング&ライティング Ia, ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	I will make prints for the students		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Can Babies Choose between Good and Bad?	速読活動 精読活動: Unit 1 の後半部を終える。Unit 2 にはいる。	多読学習 Unit 1 を最後までと Unit2 の予習 小テスト準備
3	Unit 2: Half-Empty or Half-Full?	速読活動 精読活動: 楽観思考と悲観思考についてのニュース記事	多読学習 予習・復習 小テスト準備
4	Unit 3: How to Pass a Test	速読活動 精読活動: テストを受けるための心構えや受け方についてのニュース記事	多読学習 予習・復習 小テスト準備
5	Unit 4: Soccer Brain Study	速読活動 精読活動: サッカーを例にとりプレー中の頭への衝撃についてのニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
6	Unit 5: Google Glass for Firefighters	速読活動 精読活動: コンピューターの役割をもつ Google Glass についてのニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
7	Unit 6: Women on Submarine	速読活動 精読活動: 海軍での任務を選択したアメリカ人女性のニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
8	Unit 7: iPhone Musician	速読活動 精読活動: iPhone で作曲を始めて有名になったミュージシャンのニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
9	Unit 8: Bringing People Back to Baseball	速読活動 精読活動: 集客率をあげる工夫をした日本の球団、横浜 Bay Stars のニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
10	Unit 9: Smell of Success	速読活動 精読活動: 食品の売り上げを伸ばすために香りを出すマシーンを導入したスーパーのニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
11	Unit 10: Octocopter	速読活動 精読活動: Amazon が模索する新たな配送方法についてのニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
12	Unit 11: Staying Safe Online	速読活動 精読活動: Free Wi-Fi 地域での危険についてのニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
13	Unit 12: Air Pollution in Asian Cities	速読活動 精読活動: 香港、インド、東京をとりあげアジアの大気汚染を伝えるニュース	多読学習 予習・復習 小テスト準備
14	unit 15: Light Pollution	速読活動 精読活動: 夜の都市の明かりが引き起こす汚染やその他の問題についてのニュース	多読学習 予習・復習 まとめのテスト準備
15	後期学習範囲のまとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習 後期学習範囲の復習と確認

実務経験	
------	--

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CNN Student News for Reading & Writing	関戸彦彦 他	朝日出版社
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」／Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	c7hfk06
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
学生への メッセージ	授業は予習が終わっているものとして進めていきます。精読、速読、多読をすることでリーディング能力の向上を目指してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	真弓 香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで授業を実施するので、課題に前向きに取り組む姿勢が重要な評価項目となる。 ・授業方法・内容については、初回授業時に詳細を連絡する (Moodle を利用する)。 ・速読活動と多読活動にも計画的に取り組み、リーディング能力の向上に努めること。 ・辞書を活用すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1: Star Wars? More of an "Experience" than a Show	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価方法等の説明 ・パッセージの内容理解 ・速読活動・多読活動 	授業の復習 多読活動 (2時間)
2	Unit 2: Frozen? A Contemporary Fairy Tale	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
3	Unit 3: Toy Story? The Timeless World of "Make-believe"	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
4	Unit 4: Harry Potter? A Masterful Blend of Reality and Fantasy	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
5	Unit 5: The Lord of the Rings? Surpassing the Imagination	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
6	Unit 6: Titanic? The Class-Defying Love Story	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
7	Unit 7: Stand by Me? Searching for a Place in the World	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 中間テストの準備 (2時間)
8	Unit 8: Pirates of the Caribbean? A Pirate with a Free Soul	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 ・中間テスト 	授業の予習・復習 多読活動 中間テストの準備 (2時間)
9	Unit 9: E.T.? A Strange Friend from Outer Space	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
10	Unit 11: Forrest Gump? Life Is Chance: An Individual in History	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
11	Unit 12: Die Hard? The Birth of a New Type of an Action Hero	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
12	Unit 13: Environmental Issues	<ul style="list-style-type: none"> ・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む 	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)

			・速読活動・多読活動	
	13	Unit 14: Good Will Hunting??What Is Success?: Self-fulfillment in the U.S.	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
	14	Unit 15: The Devil Wears Prada??Finding Oneself in Cinema	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した演習問題に取り組む ・速読活動・多読活動	授業の予習・復習 多読活動 (2時間)
	15	後期のまとめ	・後期学習内容の総復習	多読活動 (2時間)
実務経験				
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Our Time, Our Lives, Our Movies	Joseph Tabolt / 森永弘司	金星堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Teams 「オンライン型」			
Teams コード	x4d7ulg			
Moodle コース名 および登録キー	Reading Ib 2020 Mayumi magpie			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 20% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 70% (提出物、小テストなどを含む) *小テストについては、進度を考慮しながら、後日、実施回を設定する。			
学生への メッセージ	計画的に課題に取り組み、リーディング能力の向上に努めましょう。 特別な事情で課題が提出できない場合、システムエラー等で小テスト受験に支障が生じた場合には、各自で責任を持って早めに連絡してください。			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション 速読に挑戦する。 精読に挑戦する。	多読学習 テキストの予習 技術・社会に関する単語の学習 (1時間)
2	Harry Potter and Chocolate Frogs	速読活動: Dolphin Talks 精読活動: AI と社会についての文章	多読学習 AI についての追加記事を読んでくる (1時間)
3	Peter Rabbit and Pie	速読活動: Levels in Nature 精読活動: AI についての文章	多読学習 テキストの予習 社会経済に関する単語の学習 (1時間)
4	Mrs. Rabbit and Herb Tea	速読活動: A Dangerous Wind 精読活動: 地域社会経済についての文章	多読学習 社会経済についての追加記事を読んでくる (1時間)
5	Winnie-the-Pooh and Honey	速読活動: A Hard-Working Plant 精読活動: 社会経済についての文章	多読学習 テキストの予習 経済活動に関する単語の学習 (1時間)
6	Daddy-Long -Legs and Ice Cream	速読活動: Lost Forever? 精読活動: 国境を越える商売についての文章	多読学習 商売についての追加記事を読んでくる (1時間)
7	Chapter 1- 5 Review	速読活動: Fun and Games and Music 精読活動: 文化を超えた商売についての文章	多読学習 テキストの予習 観光に関する単語の学習 (1時間)
8	中間試験	Chapter 1-5 試験	多読学習 外国人観光客についての追加記事を読んでくる (1時間)
9	中間試験評	中間試験返却及び見直し	多読学習 テキストの予習 生活に関する単語の学習 (1時間)
10	Kenji Miyazawa and Tomatoes	速読活動: Music That Stays in Your Head 速読活動: 人々の生活の変化についての文章	多読学習 生き方の多様性についての追加記事を読んでくる (1時間)
11	O. Henry and "Witches' Loaves"	速読活動: Only Voices 精読活動: 生き方の多様性についての文章	多読学習 テキストの予習 技術革新に関する単語の学習 (1時間)
12	The old man and the Fish	速読活動: Sleep -- You Need It! 精読活動: 技術革新についての文章	多読学習 最新科学についての追加記事を読んでくる (1時間)
13	East of eden and Lettuce	速読活動: Doctor Trees 精読活動: 最新科学技術についての文章	多読学習 テキストの予習 日本社会に関する単語の学習 (1時間)
14	Chapter 6-9 Review	Chapter 6-9 復習	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、自分の意見が言えるようにしておく (1時間)
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習 (1時間)

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
2	A Taste of English: Food and Fiction	Fiona Wall Minami et al.	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1 Arriving in London Unit 2 London's museums and art galleries	授業内容についての説明 読解・問題 (pp. 1~10)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	2	Unit 2 London's museums and art galleries Unit 3 Royal palaces and castles	読解・問題 (pp. 10~18)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	3	Unit 4 Sports venues Unit 5 Shopping in London	読解・問題 (pp. 19~27)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	4	Unit 5 Shopping in London Unit 6 Canterbury	読解・問題 (pp. 28~34)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	5	Unit 6 Canterbury Unit 7 Cheddar, Wells and Galstonbury	読解・問題 (pp. 34~39)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	6	Unit 7 Cheddar, Wells and Galstonbury Unit 8 Cheltenham and Broadway	読解・問題 (pp. 40~45)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	7	Unit 8 Cheltenham and Broadway Unit 9 Chester	読解・問題 (pp. 46~51)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	8	Unit 9 Chester Unit 10 The Yorkshire Dales	読解・問題 (pp. 52~57)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	9	Unit 10 The Yorkshire Dales Unit 11 Newcastle-upon-Tyne	読解・問題 (pp. 58~63)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	10	Unit 11 Newcastle-upon-Tyne Unit 12 Swansea and Gower	読解・問題 (pp. 64~69)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	11	Unit 12 Swansea and Gower Unit 13 Brecon Beacons	読解・問題 (pp. 70~75)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	12	Unit 13 Brecon Beacons Unit 14 Conwy and Caernarfon	読解・問題 (pp. 76~82)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	13	Unit 14 Conwy and Caernarfon Unit 15 Edinburgh	読解・問題 (pp. 82~90)	授業範囲の予習と復習 (1~2時間)
	14	Unit 16 Glasgow	読解・問題 (pp. 91~96)	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	15	General Review	Unit 1~Unit 16 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。(1時間)

実務経験

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touring Britain	Kazumi Aizawa 他	朝日出版社
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 WebFolder/Zoom

Teams コード

Moodle コース名

および登録キー	
連絡手段	メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。各自が読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解するようにしてください。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。 Moodleによる遠隔授業です。提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するようにしてください。 4回を超える未提出、つまり欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト 1 Wedding Ceremonies in the World	授業の進め方の説明 精読テキスト Chapter 1 を始める	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	2	1 Wedding Ceremonies in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	3	2 Runerals in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	4	3 Coming-of-Age Ceremonies in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	5	4 Toilets in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	6	5 Alcoholic Beverages in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	7	6 Unusual Foods in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	8	7 Women's Status in the World	前半の既習内容の確認	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	9	8 Greek and Japanese Mythologies	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	10	9 Children's Recreation in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	11	10 Sports of the World: the Olympics	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	12	11 A Strange Custom: Geophagy	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	13	12 Religions Vary in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	14	13 Is "Right" always Right?	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。
	15	14 P-time Culture and M-time Culture	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動(1~2時間) 提出期限に注意すること。

実務経験	
関連科目	リーディング I a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Cross-Cultural Awareness--英語で学ぶ異文化の不思議	石井隆之監修・岩田雅彦・山口修・他2名	開文社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	Reading I b L1 リヌ 2020 秋 (金原) EOG			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	速読活動 20% 多読活動 10% Moodle による課題の提出等 70%			
学生への メッセージ	精読は、多読や速読と違って、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。後期も遠隔授業です。自宅での学習時間が長くなり、じっくり紙の辞書を引いて力を付けるチャンスです。自分で電子辞書や紙の辞書をできるだけ引いてください。 Moodle の機械は設定時間に閉じますから、time over 「時間切れ」にならないよう気をつけてください。入力時間を短く抑えられるよう予め準備するなど工夫してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン パーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Business Extensive Reading	TRFF Unit 5 Reading 21 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
	2	The Work Week	TRFF Unit 5 Reading 22 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
	3	Desks at the Office Brands and Colours Extensive Reading	TRFF Unit 5 Readings 23/24 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
	4	Who Owns a Song? Extensive Reading	TRFF Unit 5 Reading 25 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	5	Food Extensive Reading	TRFF Unit 6 Reading 26 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	6	Green Tea Waste Not Extensive Reading	TRFF Unit 6 Readings 27/28 extensive reading score check Extensive Reading score check/troubleshooting	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	7	Marmite Extensive Reading	TRFF Reading 29 (plus taste test!) Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	8	Urban Legends Extensive Reading	TRFF Reading 30 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	9	Stack Your Engines Cup Stacking Extensive Reading	TRFF Readings 31/32 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	10	Kicking it for fun Believe it or Not Extensive Reading	TRFF Readings 33/34 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	11	The No-sweat Sport Extensive Reading	TRFF Reading 35 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	12	People Extensive Reading	TRFF Readings 36/37 Extensive Reading	Extensive Reading at home review class lesson (1 hour)
	13	Making Beautiful Music An Internet Star Extensive Reading	TRFF Readings 38/39 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
	14	Review of Reading Strategies Born to be the same? Extensive Reading	TRFF Reading 40 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
15	Reading Activity - handout (to be planned) Extensive Reading Collect Extensive Reading Records and Speed Reading Records	Fun Reading Activity Extensive Reading End of Term Wrap Up	Keep Reading over the holidays! (1 hour)	

実務経験	
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Read This! Intro [ISBN-13: 978-1107630710]	Daphne Mackey	Cambridge University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/zoom
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	Reading Ib

連絡手段	学内メールアドレス
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲(1~50)の例文を中心に学習する。 ※今学期のこの授業は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態で、すべて「WebFolder」を利用して行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	第1~第5文型	第1~第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	※今学期は「教材・課題提供型の遠隔授業」のため、提出物等（100%）に基づいて評価します。
学生への メッセージ	語学力の基礎となる内容ですので、しっかり学習していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて
2		辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3		音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4		ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5		第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6		5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7		there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8		時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9		態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10		進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11		完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12		関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13		few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14		many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15		まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習 (1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	Bottom Up Listening for the TOEIC Test	湯舟 英一/Bill Benfield	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
担当者の 研究室等	後藤研究室 (7号館 5階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて
2		辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3		音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4		ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5		第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6		5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7		there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8		時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9		態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10		進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11		完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12		関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13		few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14		many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15		まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習 (1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の 研究室等	鈴木研究室 (7号館 5階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて
2		辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3		音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4		ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5		第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6		5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7		there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8		時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9		態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10		進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11		完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12		関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13		few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14		many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15		まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名

および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	語彙・文法は英語力の基本です。毎日、継続することで、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて
2		辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3		音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4		ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5		第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6		5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7		there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8		時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9		態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10		進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11		完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12		関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13		few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14		many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15		まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館永富研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験

関連科目 ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】<旧版>	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ポキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	71ch75x
Moodleコース名および登録キー	

連絡手段	ポータル、学内、個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館永富研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキिल्ズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は原則として「教材・課題提供型」による遠隔授業とする。本科目では、教材・課題の受け渡しはWebFolderを通じて行う。また、授業で扱う内容に応じてTeamsによるオンライン型も適宜併用する。したがって、遠隔授業であっても時間割上の時間帯は授業に参加できるよう準備すること。 共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS暗唱テスト」を実施する。 学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	基礎的学習スキルの確認	スキिल्ズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3	STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING	塚田 幸光	金星堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	対面授業
Teams コード	w2nh107
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール, Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト (音読) 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
担当者の 研究室等	7号館船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ポキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teamsコード	iqli3kn
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階 吉村研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	ポキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3	STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING	塚田 幸光	金星堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teamsコード	na0aef3
Moodleコース名および登録キー	

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱/音読テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
担当者の 研究室等	後藤研究室 (7号館5階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。 ・授業は active learning 形式で実施する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	No. 1-5の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	No. 1-5の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 6-10の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	No. 6-10の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 11-15の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	No. 16-20の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 21-25の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	No. 21-25の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 26-30の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	No. 31-35の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 31-35の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	No. 36-40の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 41-45の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	No. 46-50の例文の暗記と暗唱、および授業の下調べをすること（2時間）
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習を行うこと（2時間）。

実務経験	
関連科目	ボキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業成果物 100%
学生への メッセージ	英語上達に近道はありません。コツコツ学習していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は原則として「教材・課題提供型」による遠隔授業とする。本科目では、教材・課題の受け渡しはWebFolderを通じて行う。また、授業で扱う内容に応じてTeamsによるオンライン型も適宜併用する。したがって、遠隔授業であっても時間割上の時間帯は授業に参加できるよう準備すること。 共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS暗唱テスト」を実施する。 学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習(1時間)

実務経験	
関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】<旧版>	西谷 恒志	成美堂
3	New Connection Book 1	角山 照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane	成美堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	対面授業
Teams コード	mkbs7hp
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール, Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	

実務経験	
関連科目	プレゼンテーションなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet. [ISBN:9788853006868]	William Shakespeare / adapted by Derek Sellen	Black Cat
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	ドラマ上演: 40% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%
----------	--

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。 ・劇は役を演じるだけでなく、照明・音響・衣装といった裏方や時代考証、広報、経済、政治などたくさんのおもしろい要素につながっています。多層的に読めるようになると、デジタルゲームやテレビドラマの観方も変わります。 ・今学期の教材は、400年前に書かれたお芝居が世界中の言語に翻訳され、今でもいろんなメディアで商業的にヒットしているモンスター作品
-----------	--

	です。その秘密を、ちょっと覗いてみよう！
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、シェイクスピアの生涯に関する英語表現を予習する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	これまでの授業で学んだ内容や英語表現について総復習する。(1時間)	

実務経験	
関連科目	プレゼンテーションなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	ドラマ上演: 60% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等: 40%
----------	---

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。 In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you come to class mo
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	

実務経験	
関連科目	プレゼンテーションなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	

実務経験	
関連科目	プレゼンテーションなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
担当者の研究室等	7号館2F 非常勤講師室 木曜午前
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)	
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)	
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)	

実務経験	
関連科目	プレゼンテーションなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	最終課題: 20% 宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1. 1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。 このコースでは、非同期性の授業でムードルトとチームズを使います。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

実務経験	
関連科目	ドラマ

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他
Teams コード	qd51gle
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	email or Teams chat
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Giving a presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills.
担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1. 1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な単語や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

実務経験	
関連科目	ドラマ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Google Meet Web Folder) Teams「教材・課題配信型」)
Teams コード	5bt9aop
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	下記個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	プレゼンテーション 23点 課題 5点 X 15 = 75点 参加点 2点
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons
担当者の研究室等	質問はメールで随時受け付けています。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な単語や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

実務経験	
関連科目	ドラマ

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	WebFolder/Zoom/ Seesaw
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	ファイナルプレゼンテーション 20% 課題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。その他の質問等はメールにて対応する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な単語や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

実務経験	
関連科目	ドラマ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	6gcxrjl
Moodle コース名 および登録キー	Presentation Carr 2020 jointheclass
連絡手段	neil.carr@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1. 1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な文句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容や表現方法について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	ドラマなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	a44uyzw
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	Presentations 60% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 40%
学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills. In order to pass this course, you mu
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Crime	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Mobile phones	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Junk food	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Celebrity marriage	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)	

実務経験	
関連科目	トピックスタディーズIIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN'UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

		according to the textbook parameters.		
	15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
実務経験				
関連科目	トピックスタディーズⅡなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	The goals of this course are to: 1. Encourage students to communicate on important topics and issues that affect people both within Japan and internationally 2. Provide students the opportunity to learn new language (vocabulary and grammar) that will enable them to increase their ability to communicate at greater length on course topics and issues 3. Provide opportunities for students to create a presentation and media-based project, in groups, utilizing some writing and media creation skills (video, PowerPoint) 4. Provide students the opportunity to relate course topics and issues to their own experiences outside of the classroom (through homework and preparation) 5. Encourage students to gain confidence in the above areas
到達目標	There will be opportunities to develop and use the four basic skills of speaking, listening, reading, and writing throughout the course. Students are encouraged to use their knowledge of English inside and outside of the classroom. Vocabulary and grammar
授業方法と留意点	Students should check the weekly schedule in order to remain aware of the expectations of each lessons' contents, upcoming quizzes, and assigned homework.
科目学習の効果 (資格)	Four skills are used in this course (speaking, listening, reading, and writing). Speaking and listening are given priority in the classroom, while listening/viewing, reading, and some brief writing will be included within homework assignments.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	A discussion of course expectations, grading, and assessments	Do homework activities to prepare for Unit 1A classwork (1hr)
2	Unit 1A: The birth rate	Introduction to the topic and related issues; introduction to key language for discussion	Do homework activities to prepare for Unit 1B classwork (1hr)	
3	Unit 1B: The birth rate	Using key language in a discussion of possible solutions	Do homework activities to prepare for Unit 2A classwork; prepare for Unit Quiz 1 (2hrs)	
4	Unit 2A: Immigration	Unit Quiz 1 Introduction to the topic and related issues; introduction to key language for discussion	Do homework activities to prepare for Unit 2B classwork (1hr)	
5	Unit 2B: Immigration	Using key language in a discussion of possible solutions Unit Quiz 1 is returned	Do homework activities to prepare for workshop; prepare for Unit Quiz 2 (2hrs)	
6	Workshop: presentation preparations	Unit Quiz 2 Guided preparation for presentations	Practice presentations in groups (2hrs)	
7	Presentation performances	Students perform presentations in groups Unit Quiz 2 is returned	Do homework activities to prepare for Unit 3A classwork (1hr)	
8	Unit 3A: Travel and culture	Introduction to the topic and related issues; introduction to key language for discussion	Do homework activities to prepare for Unit 3B classwork (1hr)	
9	Unit 3B: Travel and culture	Using key language in a discussion of possible solutions	Do homework activities to prepare for Unit 4A classwork; prepare for Unit Quiz 3 (2hrs)	
10	Unit 4A: Communication and technology	Unit 3 Quiz Introduction to the topic and related issues; introduction to key language for discussion	Do homework activities to prepare for Unit 4B classwork (1hr)	
11	Unit 4B: Communication and technology	Using key language in a discussion of possible solutions Unit 3 Quiz is returned	Do homework activities to prepare for Unit 5A classwork; prepare for Unit Quiz 4 (2hrs)	
12	Unit 5A: Security and safety	Unit 4 Quiz Introduction to the topic and related issues; introduction to key language for discussion	Do homework activities to prepare for Unit 5B classwork (1hr)	
13	Unit 5B: Security and safety	Using key language in a discussion of possible solutions Unit 4 Quiz is returned	Do homework activities to prepare for project workshop; prepare for Unit Quiz 5 (2hrs)	
14	Workshop: final project preparations	Unit Quiz 5 Guided preparation for projects	Do homework activities to prepare for sharing the final project. (2hrs)	
15	Final project performances	Students show final projects Unit Quiz 5 is returned	A final review of the course is optional. (1hr)	

実務経験	
関連科目	リーディング II a, b 等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Topic Studies Ia materials are provided by the instructor.		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	Unit Quizzes (5) -- 30% Presentation (preparation and performance) -- 20% Final project (preparation and performance) -- 20% Active classroom participation (15 lessons) -- 30%			
学生への メッセージ	Students will develop their communication skills in four areas (speaking, listening, writing, and reading) by attending class regularly, arriving prepared, and participating actively in the lessons. Speaking and listening is generally done in class, while			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	Homework includes four types: 1. Preparation for discussions in the next lesson 2. Preparation for Unit Quizzes 3. Writing and practicing a presentation 4. Creating a final media-based project *The total time spent on homework outside of the classro			

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果(資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction	Introduction exercises	Students should prepare the next lesson (1 hour)
	2	Ch 1: The Beauty of the Seasons	Seasonal changes	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 2: History of the Hamburger	U.S. Fast Food	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 3: Importance of English	Why English is Important	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	Ch 4: How the Internet Evolved	Evolution of the Internet	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 5: Liquid Candy	Sodas	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 6: Travel in Japan	Japanese Travel	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	8	Ch 7: The Secret of Happiness	Becoming Happy	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	9	Ch 8: Shopping on the Internet	Net Shopping	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 9: Do Aliens & UFOs Exist?	UFO Stories	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 9: Aliens & UFOs	Scenes from the movie Paul	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Ch 10: Happiest Country in the World	Denmark	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 11: Secondhand Smoke	Dangers of Smoking	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	14	Ch 11: Secondhand Smoke	Tabacco Vending Machines	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	15	End of Semester Test.	End of Semester Test.	Study for test. (1 hour)

実務経験	
関連科目	トピックスタディーズIIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester test.
学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7c, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果(資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction	Introduction exercises	Students should preview the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	2	Ch 12: Plastic Surgery	Changing features	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 13: What Colors Tell About You	Color & Personality	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 14: Free Music	Music Downloading	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	Ch 15: Ghosts	Haunted Places	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 16: Fast Food & Health	Fast Food & Obesity	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 17: Artificial Insemination	Pregnancy & Science	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	8	Ch 18: Dangers of Credit Cards	Plastic Money	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	9	Ch 19: Young Men: No Girls, No Money	Herbivore Men	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 20: Old Media New Media	Differences	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 21: Women in College	Getting Higher Grades than Men?	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Ch 22: Gene Therapy	Creating Better Humans	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 22: Gene Therapy	Debate	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	14	Text Review	Text Review	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
15	End of Semester Test.	End of Semester Test.	Study for test. (1 hour)	

実務経験	
関連科目	トピックスタディーズIIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	t1ctv46
Moodleコース名 および登録キー	Topic Studies Ib Bell 2020 egg9man
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	100% Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including an end of semester test.
学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7c, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

		according to the textbook parameters.		
	15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
実務経験				
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他			
Teams コード	6k72fr7			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams chat			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7c, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)	

実務経験	
関連科目	トピックスタディーズIIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	5dzldz6
Moodle コース名 および登録キー	Topic Studies Ib Carr 2020 jointheclass
連絡手段	neil.carr@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP7c, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	The goals of this course are to: 1. Encourage students to communicate on important topics and issues that affect people both within Japan and internationally 2. Provide students the opportunity to learn new language (vocabulary and grammar) that will enable them to increase their ability to communicate at greater length on course topics and issues 3. Provide opportunities for students to create a presentation 4. Provide students the opportunity to relate course topics and issues to their own experiences outside of the classroom (through homework and preparation) 5. Encourage students to gain confidence in the above areas
到達目標	There will be opportunities to develop and use the four basic skills of speaking, listening, reading, and writing throughout the course. Students are encouraged to use their knowledge of English inside and outside of the classroom. Vocabulary and grammar
授業方法と留意点	Students should check the weekly schedule in order to remain aware of the expectations of each lessons' contents, upcoming quizzes, and assigned homework.
科目学習の効果 (資格)	The four main skills are used in this course. Speaking and listening are given priority in the classroom, while listening/viewing, brief reading, and some brief writing will be included within homework assignments.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	A discussion of course expectations, grading, and assessments	End of class report Preview contents of the course
	2	Unit 1A: Pop culture	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 1
	3	Unit 1B: Pop culture	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Presentation 1 Worksheet: topic choice
	4	Unit 2A: The music that moves us	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 2
	5	Unit 2B: The music that moves us	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Presentation 1: complete presentation
	6	Presentation Day	Presentation 1	End of class report Study for Speaking Quiz 1
	7	Speaking Assessment	Speaking Quiz 1	End of class report Extensive Listening Homework 3
	8	Unit 3A: Design	Vocabulary, listening, speaking	End of class report
	9	Unit 3B: Design	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 4
	10	Unit 4A: Fashion	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Presentation 2 Worksheet: topic choice
	11	Unit 4B: Fashion	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 5
	12	Unit 5A: The future	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Presentation 2: complete presentation
	13	Unit 5B: The future	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 6
	14	Presentation Day	Presentation 2	End of class report Study for Speaking Quiz 2
	15	Speaking Assessment	Speaking Quiz 2	End of class report

実務経験	
関連科目	リーディング II a, b 等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Topic Studies Ib materials are provided by the instructor.		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder, その他
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Zoom chat, Teams chat
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	Speaking Quizzes (2 x 15%) -- 30% Presentation (preparation and performance - 2 x 10%) -- 20% Extensive Listening Homework (5 x 4%) -- 20% Active classroom participation (15 reports x 2%) -- 30%
学生への	Students will develop their communication skills in four areas (speaking, listening, writing, and reading) by attending class

メッセージ	regularly, arriving prepared, and participating actively in the lessons. Speaking and listening is generally done in class, while
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>Homework includes four types:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Preparation for discussions in the next lesson 2. Preparation for Unit Quizzes 3. Writing and practicing a presentation 4. Reporting on classwork at the end of class <p>*The total time spent on homework outside of the c</p>

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2013c0		

授業概要・目的	1年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICTを用いた所定のe-learning課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 1	人やものが存在するという行き先や目的を述べる	授業中に指示(1時間)
2	Unit 2	いつ～するか言う いつ開始するか言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
3	Unit 2	いつ完了するか言う 頻度を言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
4	Unit 3	習慣・事実・未来 進行・状態・継続	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
5	Unit 3	過去・完了 経験	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
6	Unit 4	他人の行動を見聞きする	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
7	Unit 4	他人の行動を強制・依頼・許可する	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
8	Unit 5	説明される名詞が動詞の「目的語」 説明される名詞が「所有者」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
9	Unit 5	説明される部分が「義務・用途」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
10	Unit 6	確実に起きること・もう起きたこと 起きるかどうかわからないこと	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
11	Unit 6	起こりそうもないこと 願望	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
12	Unit 7	意見・感想を述べる 時制の一致	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
13	Unit 7	意見・感想の尋ね方 予想との違い	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
14	Unit 8	好き嫌いの表し方 可能の表し方	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
15	Unit 8	移動の方向 やりもらいと貸し借り	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Useful Hints and Examples on Basic English Writing	鈴木卓	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	ICT教材課題 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	留学後にどれだけ英語力を伸ばせるかは、日本での学習準備にかかっています。一日一日を大切に、頑張ってください。
担当者の 研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2013c0		

授業概要・目的	1年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICTを用いた所定のe-learning課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	Unit 2: Reading for Fun	Exchanging Ideas	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
3	Unit 3: Dreams and Ambitions	Talking about Opportunities and Disappointments	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
4	Unit 4: The World of Food	Talking about Annoyances	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
5	Unit 5: Art and Creativity	Expressing Anxiety	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
6	Unit 6: Going for Gold	Describing Amazing and Boring Things	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
7	Unit 7: Mysteries of the Human Body	Talking about Natural Talents	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
8	Unit 8: Architectural Wonders	Talking about Work	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
9	Unit 9: Loving the Earth	Expressing Stress and Comfort	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
10	Unit 10: Expressing Yourself	Talking about Experts	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
11	Unit 11: Trends and Fads	Studying Something	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
12	Unit 12: Seeing the World	Discussing Fashions	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
13	Unit 13: Therapy and Wellness	Getting into Difficult Situations	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
14	Unit 14: Amazing Inventions	Facing the Consequences	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)
15	Review	Review	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	ICT教材課題 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
----------	---

学生へのメッセージ	留学後にどれだけ英語力を伸ばせるかは、日本での学習準備にかかっています。一日一日を大切に、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
4	ロールプレイ:空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
8	ロールプレイ:ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
10	モチベーション作り:目標を達成するには/英語学習の戦略	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
12	ロールプレイ:教室外での様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館5階(田浦研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
4	ロールプレイ:空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
8	ロールプレイ:ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
10	モチベーション作り:目標を達成するには/英語学習の戦略	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
12	ロールプレイ:教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館3階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
4	ロールプレイ:空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
8	ロールプレイ:ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
10	モチベーション作り:目標を達成するには/英語学習の戦略	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
12	ロールプレイ:教室外での様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2015c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。「TOEIC 基本語彙テスト」およびリソガボルタによる単語学習課題「Academic Reading 用課題 no. 1-1500」を課す。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
	2	トピック: 期末試験	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	3	トピック: 留学	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	トピック: 映画製作	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	5	トピック: 期待の若手アーティスト	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	6	トピック: 人体の驚異	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	7	トピック: 自由時間	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	レビュー 1	Individual tasks and pair work.	Review the contents of Units 1-6.
	9	トピック: 音楽の世界	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	トピック: 進路	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	11	トピック: 食文化	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	トピック: 宣伝の秘訣	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	13	トピック: 食と環境	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.
	14	トピック: 未来に向けて	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	15	レビュー 2	Individual tasks.	Review the contents of Units 7-12.

実務経験	
関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage
	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 20%、 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	留学前にしっかり読解力を身に付けて、留学中の授業に活かせるように頑張りましょう 多読が成績の20%を占めますので、易しめの本をたくさん「楽しみながら」読み続けることを心がけてください。 ★WebFolder で授業方法を確認し、同時に Teams への参加をお願いします。
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2015c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
	2	トピック: 期末試験	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	3	トピック: 留学	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	トピック: 映画製作	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	5	トピック: 期待の若手アーティスト	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	6	トピック: 人体の驚異	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	7	トピック: 自由時間	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	レビュー 1	Individual tasks and pair work.	Review the contents of Units 1-6.
	9	トピック: 音楽の世界	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	トピック: 進路	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	11	トピック: 食文化	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	トピック: 宣伝の秘訣	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	13	トピック: 食と環境	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.
	14	トピック: 未来に向けて	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	15	レビュー 2	Individual tasks.	Review the contents of Units 7-12.

実務経験	
関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage
	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 20%、 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	留学の前に読む力を養っておくことはとても大切です。
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2016c0		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview (2 hours)
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンスを書き始める	Creating topic sentences	Review / Preview (2 hours)
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview (2 hours)
	4	サポーティングセンテンスを書き始める パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを書き始める	Creating supporting sentences	Review / Preview (2 hours)
	5	サポーティングセンテンスを発展させる パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview (2 hours)
	6	パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview (2 hours)
	7	パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを書き始める	Improving detail sentences	Review / Preview (2 hours)
	8	結びのセンテンスを学習する パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation (2 hours)
	9	中間チェック: パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Preview (2 hours)
	10	エッセイ執筆演習: アウトラインをつくる 全体の内容のまとまりを確認する	Unity	Review / Preview (2 hours)
	11	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを下書きする 内容の一貫性を確認する	Coherence	Review / Preview (2 hours)
	12	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを完成させる 文法的結束性を確認する	Cohesion	Review / Preview (2 hours)
	13	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを下書きする 編集のスキルを学ぶ	Editing techniques	Review / Preview (2 hours)
	14	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを完成させる 様式・エッセイライティングの要素を復習	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation (2 hours)
15	まとめ: エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test		

実務経験	
------	--

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Together-From Sentence to Paragraph	Mark D. Stafford	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 30% 授業内ライティングテスト 40% その他の授業内外課題および提出物 30%
学生への メッセージ	1 Unit ずつ進む予定なので、結構なスピードになると思います。欠席するとついて行けなくなりますので、毎回出席し、与えられた課題をタイムリーにこなしていくことが成功の鍵です。
担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2016c0		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview (2 hours)
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンスを書き始める	Creating topic sentences	Review / Preview (2 hours)
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview (2 hours)
	4	サポーティングセンテンスを書き始める パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを書き始める	Creating supporting sentences	Review / Preview (2 hours)
	5	サポーティングセンテンスを発展させる パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview (2 hour)
	6	パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview (2 hours)
	7	パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを書き始める	Improving detail sentences	Review / Preview (2 hours)
	8	結びのセンテンスを学習する パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation (2 hours)
	9	中間チェック: パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Preview (2 hours)
	10	エッセイ執筆演習: アウトラインをつくる 全体の内容のまとまりを確認する	Unity	Review / Preview (2 hours)
	11	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを下書きする 内容の一貫性を確認する	Coherence	Review / Preview (2 hours)
	12	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを完成させる 文法的結束性を確認する	Cohesion	Review / Preview (2 hour)
	13	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを下書きする 編集のスキルを学ぶ	Editing techniques	Review / Preview (2 hours)
	14	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを完成させる 様式・エッセイライティングの要素を復習	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation (2 hours)
15	まとめ: エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test		

実務経験	
------	--

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Together-From Sentence to Paragraph	Mark D. Stafford	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Success with College Writing-From Paragraph to Essay	Dorothy E Zemach & Lisa A. Rumisek	Macmillan Language House
	2			

	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内ライティングテスト 30% その他の授業内外課題および提出物 70%			
学生への メッセージ	1 Unit ずつ進む予定なので、結構なスピードになると思います。欠席するとついて行けなくなりますので、毎回出席し、与えられた課題をタイムリーにこなしていくことが成功の鍵です。 ★WebFolder で授業方法を確認し、同時に Teams への参加をお願いします。			
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	Global Issues	科目名 (英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2017c0		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。			
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。			
授業方法と留意点	リスニングを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で実施する。			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。Global Issues に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	Global Issues に関わるトピックの英文記事をリサーチする (1 時間)。
	2	年代記 (1) ナポレオンについて	ナポレオンについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ナポレオンに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	3	年代記 (2) ボンベイについて	ボンベイについてあつかった英英講義を聞き、理解を深める。	ボンベイに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	4	インターネットについて	インターネットについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	インターネットに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	5	言語習得について	言語習得についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語習得に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	6	振り返り、およびまとめテスト (1)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。
	7	津波について	津波についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	津波に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	8	言語使用について (フォーマル・インフォーマルの違い)	言語使用についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語使用に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	9	類似性と差異について	類似性と差異についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	類似性と差異に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	10	振り返り、およびまとめテスト (2)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。
	11	リンカーンとケネディについて	リンカーンとケネディについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	リンカーンとケネディに関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	12	絶滅動物について	絶滅動物についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	絶滅動物に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	13	アメリカ独立戦争について	アメリカ独立戦争についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	アメリカ独立戦争に関する英語表現を勉強する (1 時間)。
	14	振り返り、およびまとめテスト (3)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。
	15	総括する	これまでの内容の総括を行う。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2 時間)
実務経験				
関連科目	Academic Reading, Academic Writing			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Dynamic Listening Comprehension	Patricia A. Dunkel and Phyllis L. Lim	Cengage
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	まとめテスト 30% 提出物等 70%			
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を聞いて、英語力を高めていきましょう!			
担当者の研究室等	7号館3階 吉村研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ			

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	English for TOEFL	科目名 (英文)	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2018c0		

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、4 技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション Listening, Structure, Reading	授業内容と説明 導入 Understanding agreement and disagreement Verb tenses Understanding gist	Module 1 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	2	Listening, Structure, Reading	Understanding agreement and disagreement Verb tenses Understanding gist	Module 1 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	3	Listening, Structure, Reading	Understanding gist Verb tenses Understand purposes	Module 1 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1時間)
	4	Listening, Structure, Reading 理解度 Test 1	Understanding gist Verb tenses Understand purposes	Module 1 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1時間)
	5	Listening, Structure, Reading	Understanding negatives Articles Understanding specific information	Module 2 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	6	Listening, Structure, Reading	Understanding negatives Articles Understanding specific information	Module 2 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	7	Listening, Structure, Reading	Understanding specific information Comparatives and superlatives Understanding pronoun reference	Module 2 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1時間)
	8	Listening, Structure, Reading 理解度 Test 2	Understanding specific information Comparatives and superlatives Understanding pronoun reference	Module 2 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1時間)
	9	Listening, Structure, Reading	Understanding idiomatic expressions Participles Understanding unfamiliar words	Module 3 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	10	Listening, Structure, Reading	Understanding idiomatic expressions Participles Understanding unfamiliar words	Module 3 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	11	Listening, Structure, Reading	Understanding implication Prepositions Understanding implication	Module 3 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1時間)
	12	Listening, Structure, Reading 理解度 Test 3	Understanding implication Prepositions Understanding implication	Module 3 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1時間)
	13	Listening, Structure, Reading	Understanding wishes and the conditional Plurals Understanding attitude	Module 4 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
	14	Listening, Structure, Reading	Integrating listening skills Present modals Integrating reading skills	Module 4 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1時間)
15	総復習 理解度 Test 4	全体を復習し、理解度をはかる	Modules 1-4 の総復習 (1時間)	

実務経験	
関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All-Round Practice for the TOEFL Test	菊地恵太&Jeffrey Durand	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEFL-ITP (模擬テスト) 30% 課題・提出物等 70%
学生への メッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。また、様々な語彙や表現に慣れるためにも多読に励みましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 吉村研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

実務経験	
関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通課題(プレゼンテーション)15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%,
学生へのメッセージ	Do your best to make a positive atmosphere in class by supporting one another
担当者の研究室等	7号館5階 Taura 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English a、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop a と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題(プレゼンテーション)15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%,
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	7号館3階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

実務経験	
関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題(プレゼンテーション)15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%,
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

実務経験	
関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題(プレゼンテーション)15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, S
学生へのメッセージ	The function of education is to teach one to think intensively and critically.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business Thinking "Design"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business Thinking "Design"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

実務経験	
関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/Zoom & Line
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	Amanda Taura English for Global Communication b
連絡手段	Line
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Mini-discussion
学生へのメッセージ	We will follow the same format as in 1st term
担当者の研究室等	7号館5階 Taura 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応

する。

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English b、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop b と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Web Folder/その他/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	h4s7voq
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writin
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の研究室等	7号館3階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business Thinking "Design"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business Thinking "Design"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

実務経験	
関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	WebFolder/その他
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	william.ives@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writin
学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don't be shy to speak and make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

実務経験	
関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	email
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writin
学生へのメッセージ	Education is the passport to the future.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応

する。

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語4技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]レベルの英語4技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication aおよびEnglish Writing Workshop aと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication aで討議し、English Writing Workshop aで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 2の映像視聴(1時間)
3	言語学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 3の映像視聴(1時間)
5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 1-2の復習 Unit Test Proficiency Assessment など (1時間)
6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リスト1時間
8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Unit 3の復習 Unit Test Proficiency Assessment など (1時間)
9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 5の映像視聴(1時間)
11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 6の映像視聴(1時間)
13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Units 1-6総復習(1時間)
15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト35-50レベル3回分)		Pearson	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	初日からすぐ授業に入りますので、テキストを買って持参してください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時や研究室で対応する。			

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語4技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]レベルの英語4技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication aおよびEnglish Writing Workshop aと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication aで討議し、English Writing Workshop aで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 2の映像視聴 (1時間)
3	言語学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 3の映像視聴 (1時間)
5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 1-2の復習 Unit Test Proficiency Assessment など (1時間)
6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リスト (1時間)
8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Unit 3の復習 Unit Test Proficiency Assessment など (1時間)
9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 5の映像視聴 (1時間)
11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 6の映像視聴 (1時間)
13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 テキストの予習+Unit 1の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1時間)
14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 16 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Units 1-6 総復習 (1時間)
15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成 (1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト 35-50 レベル 3 回分)		Pearson	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	★WebFolder で授業方法を確認し、同時に Teams への参加をお願いします。			
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時や研究室で対応する。			

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語4技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]レベルの英語4技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication bおよびEnglish Writing Workshop bと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication bで討議し、English Writing Workshop bで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 テキストの予習+Unit 7の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 8の映像視聴(1時間)	
3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 テキストの予習+Unit 8の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
4	生物学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 9の映像視聴(1時間)	
5	まとめテストと進度調整、討論による復習	進度調整	Units 7-8の復習 Unit Test Proficiency Assessment など(1時間)	
6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 テキストの予習+Unit 9の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 10の映像視聴(1時間)	
8	まとめテストと進度調整、討論による復習	進度調整	Units 9の復習 Unit Test Proficiency Assessment など(1時間)	
9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 テキストの予習+Unit 10の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
10	歴史学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 11の映像視聴(1時間)	
11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 テキストの予習+Unit 11の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
12	哲学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 12の映像視聴(1時間)	
13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 テキストの予習+Unit 12の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
14	情報技術の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 7-12の総復習(1時間)	
15	まとめテストと進度調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストを予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成(1時間)	

実務経験	
関連科目	English for Global Communication b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト35-50レベル3回分)		Pearson	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/zoom			
Teams コード	h41p30r			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール、個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	初回の授業から教科書を使います。			
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語4技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]レベルの英語4技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication bおよびEnglish Writing Workshop bと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication bで討議し、English Writing Workshop bで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 テキストの予習+Unit 7の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)
2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 8の映像視聴(1時間)	
3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 テキストの予習+Unit 8の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
4	生物学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 9の映像視聴(1時間)	
5	まとめテストと進度調整、討論による復習	進度調整	Units 7-8の復習 Unit Test Proficiency Assessment など(1時間)	
6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 テキストの予習+Unit 9の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 10の映像視聴(1時間)	
8	まとめテストと進度調整、討論による復習	進度調整	Units 9の復習 Unit Test Proficiency Assessment など(1時間)	
9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 テキストの予習+Unit 10の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
10	歴史学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 11の映像視聴(1時間)	
11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 テキストの予習+Unit 11の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
12	哲学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 12の映像視聴(1時間)	
13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 テキストの予習+Unit 12の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習(1時間)	
14	情報技術の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 7-12の総復習(1時間)	
15	まとめテストと進度調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストを予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成(1時間)	

実務経験	
関連科目	English for Global Communication b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト35-50レベル3回分)		Pearson	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業			
Teams コード	0rsyw6y			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	教養ある英語の使い手になるために、日ごろから情報のアンテナを張ってインプットを増やし、アウトプットのスキルも磨きましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Comprehensive English a, English for Global Communication aと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

実務経験	
------	--

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Comprehensive English a, English for Global Communication aと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.	

実務経験	
------	--

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館5階 Taura 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Comprehensive English b, English for Global Communication bと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.	

実務経験	
------	--

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/Zoom & Line (Teams なし)
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Line
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館5階 田浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Comprehensive English b, English for Global Communication bと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.	

実務経験	
------	--

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/その他/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	hbq26pc
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	Education is an admirable thing, but it is well to remember from time to time that nothing that is worth knowing can be taught. Oscar Wilde
担当者の 研究室等	7号館3階 Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEICスコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文(レポート)課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	人間関係論(Human Relations)序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。(4時間)	
2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
4	「感情知性」(Emotional Intelligence)とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)	
7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
12	レポート作成演習:トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
13	レポート作成演習:初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
14	レポート作成演習:第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
15	復習テストと質疑応答	テストを復習します。	ノートを復習します。(4時間)	

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepared t
担当者の 研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEICスコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 必ず辞書を持参すること。 作文(レポート)課題は Setsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	人間関係論(Human Relations)序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。(4時間)	
2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
4	「感情知性」(Emotional Intelligence)とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)	
7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)	
12	レポート作成演習:トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
13	レポート作成演習:初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
14	レポート作成演習:第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
15	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)	

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名	
1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132	
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名	
1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEICスコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文(レポート)課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。(4時間)
	2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。(4時間)
	7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。
	9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)
	12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	13	レポート作成演習：初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	14	レポート作成演習：第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。(4時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		

	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	sdrnums			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	Line			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEICスコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生へのメッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEICスコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文(レポート)課題はSetsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自でTOEICでの高得点も目指すこと。 <p>このコースでは、非同期性の授業でムードルトとチームズを使います。</p>
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。(4時間)	
2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。(4時間)	
7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。(4時間)	
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
13	レポート作成演習：初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)	
15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。(4時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部)		

		編)		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	m3iw4mj			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	email or Teams chat			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生へのメッセージ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepared t			
担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	English Lecture II a	科目名 (英文)	English Lecture II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3027b0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。講義テーマは国際語としての英語である。
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 必ず辞書を持参すること。 作文(レポート)課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Why a global language? Why English?	Why do we need a global language? What are the dangers of a global language?	Preview/ review (4時間)
3	The historical context [1]	English varieties of the Inner Circle	Preview/ review (4時間)
4	The historical context [2]	English varieties of the Outer Circle	Preview/ review (4時間)
5	The historical context [3]	English varieties of the Expanding Circle	Preview/ review (4時間)
6	English in Japanese society	English in Japan	Preview/ review (4時間)
7	The cultural foundation	Political developments and access to knowledge	Preview/ review (4時間)
8	The cultural legacy [1]	International relations and the media	Preview/ review (4時間)
9	The cultural legacy [2]	International travel, international safety	Preview/ review (4時間)
10	Review week	Review and summary of what has been covered so far	Preview/ review (4時間)
11	In-class test and feedback	In-class test and feedback	Preview/ review (4時間)
12	The future of global English [1]	Contrasting attitudes	Preview/ review (4時間)
13	The future of global English [2]	The linguistic character of new Englishes	Preview/ review (4時間)
14	The future of global English [3]	The future of English as a world language	Preview/ review (4時間)
15	Summary and feedback	Summary of the course, feedback	Preview/ review (4時間)

実務経験	
関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English as a Global Language (Canto classics edition)	David Crystal	Cambridge University Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Englishes: A Resource Book for Students (3rd edition)	Jennifer Jenkins	Routledge
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	Participation 40% In-class test 30% Writing check 10% Final essay 20%
学生へのメッセージ	Let's learn and think about the reality of English as an international language.
担当者の	7号館4階 高橋研究室

研究室等	
備考	授業内容については、進度等により調整する場合がある。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture II b	科目名 (英文)	English Lecture II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3028b0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This is a content-based academic English course on an Australian drama show and the cultural themes discovered while watching the episodes. Australian English will also be examined and an attempt made to familiarise the students with everyday life in Australia and the implications.
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking and listening skills and building up the vocabulary necessary to understand Australian culture.
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文(レポート)課題は Setsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 The topics will be introduced in visual form in the drama series, with background readings given for study at

科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS
-------------	-------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course. (4時間)
	2	Notetaking, reading, and strategies for discussion. Final essay guidelines and topics.	The way to study to improve your Academic English skills.	Listening and speaking techniques. (4時間)
	3	Episode 1	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	4	Episode 1	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	5	Episode 1	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	6	Episode 2	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	7	Episode 2	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	8	Episode 2	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on (4時間)
	9	Episode 3	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	10	Episode 3	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	11	Episode 3	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	12	Episode 4	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4時間)
	13	Episode 4	Listening skills	Final Essay (4時間)
	14	Episode 4	Discussion on the cultural issues in Australia.	Final Essay due for assessment (4時間)
	15	Final review	Evaluations	Verbal Presentations on final essay topics (4時間)

実務経験	
関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Readings provided by teacher		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
授業形態	Web Folder for Line QR code/Moodle /Zoom & Line		
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー	Amanda Taura English Lecture IIb 2020		
連絡手段	Line		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	Class attitude 30% (Prepared, Enthusiastic, On time, Willing to learn), Quizzes 20%, Writing Portfolio 20% (short weekly writing assignments), Final essay & Presentation 20%, English zone maintained 10%		
学生への メッセージ	Notebook is necessary		
担当者の 研究室等	7号館5階 田浦研究室		
備考			

科目名	Debate & Presentation a	科目名 (英文)	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3029b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITCを用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業初めに単語テストを行います。 ・教科書は2冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は3回で1回欠席扱いとなります。4回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 導入 UNIT12 No place like home 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・めざしたい発表を考える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
2	単語テスト1 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 仕上げ UNIT12 No place like home 2	プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・インタビュー	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
3	単語テスト2 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 発表 UNIT 10 Adult Children 1	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・その場にはいない人物を描写する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)	
4	単語テスト3 プレゼンテーション 問題 解決 導入 UNIT 10 Adult Children 2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング ・問題点を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
5	テスト1回目 UNIT14 High Tech Toys 1	内容チェックテスト1 リスニング リピーティング 語彙	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
6	単語テスト4 プレゼンテーション 問題 解決 仕上げ UNIT14 High Tech Toys 2	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・解決案を提案する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
7	コミュニティの中のルール 単語テスト5 プレゼンテーション 問題 解決 発表 UNIT4 Rules1	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・規則を説明する ・日本の習慣を説明する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)	
8	コミュニティの中のルール 単語テスト6 プレゼンテーション 日本 紹介 導入 グループ分け UNIT4 Rules2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・グループ対抗でプレゼン	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
9	要約をする 単語テスト7 プレゼンテーション日本紹介 調査 UNIT3 I don't care 1	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・会話文を要約する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
10	要約をする テスト2回目 UNIT3 I don't care 2	内容チェックテスト2 プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・書かれた文章を要約する	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
11	意見を掘り下げる 単語テスト8 プレゼンテーション日本紹介 発表1 UNIT1 Cosmetic Surgery	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・根拠を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
12	意見を掘り下げる 単語テスト9 プレゼンテーション日本紹介 発表2 UNIT19 One-sided love	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・具体例を挙げる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	
13	質問をする 単語テスト10 プレゼンテーション 夏休み 導入	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・予定を尋ねる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)	

		UNIT17 The compromise 1		
	14	質問をする 単語テスト11 プレゼンテーション夏休み 仕上げ UNIT17 The compromise 2	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	15	テスト3回目 プレゼンテーション 夏休 み 発表	内容チェックテスト3 プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等	テスト勉強 語彙の復習 プレゼン原稿暗記 (2時間)
実務経験				
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	One-minute Presentation in English	松岡 昇/傍島一夫	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	身近な話題で英語プレゼンテーションをします。人前で分かりやすくプレゼンテーションができるようにしましょう。例に倣って情報を埋めていくことによってある一定のフォーマットでの発表ができます。ある程度パターン化することによって徐々に自分で文が作れるようになっていきます。会話独特の和訳しづらい表現に接して、よりネイティブライクな表現に慣れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室 木曜午前中			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Debate & Presentation b	科目名 (英文)	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3030b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。CEFR-J[B1-2]レベルの表現力を目標とする。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITCを用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 上記の2タイプの発表に加えて、自分がひとに伝えたい大切な内容を語る Bibliobattle を英語で行う。毎週のさまざまな練習が、5分間ライブ感たっぷりの、目の前の聴衆にメッセージを伝える素地をつくる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	2	描写 (1)	時系列にそって出来事を伝える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	3	描写 (2)	位置関係がわかるように伝える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (1時間)
	4	比較 (1)	絵画などの真作と贋作の違いを述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	5	比較 (2)	文書などの引用と盗用の違いを述べる	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	6	プロセスを伝える (1)	使い方を説明する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	7	プロセスを伝える (2)	作り方を説明する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (1時間)
	8	チーム対抗でプレゼン大会	(互いのプレゼンテーションを見て、質問する)	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1時間)
	9	メリットとデメリットを述べる (1)	長期留学は得か損か	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	10	メリットとデメリットを述べる (2)	外見の美しさは得か損か	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	11	相手の意見を引き出す質問 (1)	Yes/No の質問で話を方向づける	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	12	相手の意見を引き出す質問 (2)	5W1H の質問で話を展開する	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	13	異なる立場で考える (1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)
	15	チーム対抗でディベート大会	(課題は前の週に発表)	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Zoom
------	-----------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	@edu の学内メール (初回授業でお知らせ)
------	-------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 30% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	外国語での会話が楽しい、という時期を過ぎ、しっかりした内容を伝えるためにはオリジナリティと同時にやっぱり語彙と文法が必要、ということに、気づいている頃ではありませんか?この授業は、「ああ、もっと自由に言葉を使いこなして言いたい!」というフラストレーションがときどきたまるけれど、話の展開のバリエーションをたくさん模索できる時間になるでしょう。過去には協定校からの留学生も参加してくれて、マルチリンガルな環境、そして視点の多い授業になりました。
-----------	---

	・担当者は、学生として英語を学んで留学した後、仕事で大人を相
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	Oral Communication a	科目名 (英文)	Oral Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3031b0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等			事前・事後学習課題
	1	Natural lists	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	2	Adding more information	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	3	Order and priority	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	4	Habits and routines	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	5	Advice	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	6	Future - probability and speculation	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	7	Conditional imagination	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	8	Instructions and process	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	9	Creative instructions	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	10	Relative location	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	11	Giving directions	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	12	Daily diaries	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	13	Simple stories	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	14	Description	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)
	15	Conversation and reported speech	Textbook, expression	discussion,	self-	Announced weekly in class (4時間)

実務経験	
関連科目	English for Global Communication a, b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Oral Communication b	科目名 (英文)	Oral Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3032b0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Making Comparisons	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	2	Creating inventions	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	3	Opinions 1 - What is best	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	4	Opinions 2 - Good or bad	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	5	Opinions 3 - True or false	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	6	Explanations	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	7	Tall tales & exaggeration	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	8	Advertising	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	9	Interpreting the news	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	10	Evaluation & review	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	11	All kinds of research	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	12	Rethinking history	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	13	Envisioning the future	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4時間)
	14	Review	Discussion	Announced weekly in class (4時間)
	15	Review and evaluation	Discussion, presentation	Announced weekly in class (4時間)

実務経験	
関連科目	English for Global Communication a, b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/その他
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	Online Presentation 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Advanced English a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3033b0		

授業概要・目的	様々なトピックに関するリスニングやリーディングを行い、その内容、構造、表現について話し合い、プレゼンテーションや作文をする総合演習授業となる。
到達目標	3年次までに培った英語力をさらに伸ばし、CEFR-J [B2-2] レベルの4技能の習得を目指す。
授業方法と留意点	・授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・コミュニケーション重視の授業となるため、授業への積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	Review (4時間)
	2	Unit 1 Communication studies: Slang and language change	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview/ review (4時間)
	3	Unit 1 Communication studies: Slang and language change	Activities, unit test 1	Preview/ review (4時間)
	4	Unit 2 Child psychology: The genius within	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview/ review (4時間)
	5	Unit 2 Child psychology: The genius within	Activities, unit test 2	Preview/ review (4時間)
	6	Unit 3 Sociology: Online communities	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview/ review (4時間)
	7	Unit 3 Sociology: Online communities	Activities, unit test 3	Preview/ review (4時間)
	8	Unit 4 Business: Core business skills	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview/ review (4時間)
	9	Unit 4 Business: Core business skills	Activities, unit test 4	Preview/ review / preparation for the short presentation (4時間)
	10	Unit 5 Cognitive psychology: Memory	Short presentations, activities	Preparation for the short presentation/ preview/ review (4時間)
	11	Unit 5 Cognitive psychology: Memory	Activities	Preview/ review (4時間)
	12	Unit 6 Anthropology/ Biology: The science of love	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview/ review (4時間)
	13	Unit 6 Anthropology/ Biology: The science of love	Activities, unit test 5	Preview/ review/ preparation of a short essay (4時間)
	14	Short essays and feedback	Sharing short essays with classmates	Preparation of a short essay/ review/ preparation for the final presentation (4時間)
15	Final presentations	Final individual presentations	Preparation for the final presentation/ review (4時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics 3	David Beglarand Neil Murray	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	Unit tests (5) 25% Short essay (1) 15% Presentations (2) 30% Active classroom participation (15) 30%
--------------	---

学生への	トピックに合わせたアクティビティを中心とした授業になります。英語でさらに色々なトピックについて考え、発信できるようになりましょう。
------	---

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室
備考	授業内容については進捗等により調整する場合があります。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Advanced English b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3034b0		

授業概要・目的	様々なトピックに関するリスニングやリーディングを行い、その内容、構造、表現について話し合い、プレゼンテーションや作文をする総合演習授業となる。			
到達目標	3年次までに培った英語力をさらに伸ばし、CEFR-J [B2-2] レベルの4技能の習得を目指す。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・コミュニケーション重視の授業となるため、授業への積極的な参加を求める。 			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	End of class report Preview textbook units
	2	Unit 8 Political science: Big brother and the surveillance society	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Extensive Listening Homework 1
	3	Unit 8 Political science: Big brother and the surveillance society	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Presentation Preparation: topic choice and planning
	4	Unit 9 Linguistics: Animal communication	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Extensive Listening Homework 2
	5	Unit 9 Linguistics: Animal communication	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Presentation Preparation: Writing the script and practicing
	6	Presentation Day	Presentation 1	End of class report Extensive Listening Homework 3 Study for speaking quiz
	7	Speaking Assessment	Quiz 1	End of class report
	8	Unit 10: Economics: The evolution of money	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Extensive Listening Homework 4
	9	Unit 10: Economics: The evolution of money	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Presentation Preparation: topic choice and planning
	10	Unit 11: Biology: The fountain of youth	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Extensive Listening Homework 5
	11	Unit 11: Biology: The fountain of youth	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report
	12	Unit 12: Sociology: Marriage	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Extensive Listening Homework 6
	13	Unit 12: Sociology: Marriage	Activities, vocabulary, unit lecture	End of class report Presentation Preparation: Practice speaking
	14	Presentation Day	Presentation 2	End of class report Study for speaking quiz
	15	Speaking Assessment	Quiz 2	End of class report
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics 3	David Beglarand Neil Murray	Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder, その他			
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	Zoom chat, Teams chat			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	Speaking Quizzes (2 x 10%) 20% Presentations ? prepare (5%) and perform (5%) (2 x 10%) 20% Extensive Listening Homework (6 x 5%) 30% Participation - end-of class reports (15 x 2%) 30%			
学生へのメッセージ	トピックに合わせたアクティビティを中心とした授業になります。英語でさらに色々なトピックについて考え、発信できるようになりましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			

備考	授業内容については進度等により調整する場合がある。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing Ⅱa	English Department	SetSunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! Be prepared to speak lots of English in each and every class. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a clas
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキ研究室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing Ⅱa	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ Coming to class regularly and actively participating in all classroom activities will benefit students greatly to improve their speaking and writing skills.

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing Ⅱa (大学オリジナルテキスト)	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ Students who consistently approach the classroom activities and homework with focus and enthusiasm will be able to speak and write English much better.

担当者の研究室等 7号館2階

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングII a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う(1時間)

実務経験

関連科目 リーディングIIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing IIa (大学オリジナルテキスト)	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法(基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class
N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing Ⅱa	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ 毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングII a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する(1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	リーディングIIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing Ⅱa (大学オリジナルテキスト)	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ Prepare for your future and study and speak English today.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングII a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う(1時間)	

実務経験

関連科目 リーディングIIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法(基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ Looking forward to seeing you in class every week! Also, please be prepared to have a lot of speaking practices in this course.

担当者の研究室等

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングII a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験

関連科目 リーディングIIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Speaking & Writing IIa (大学オリジナルテキスト)	English Department	Setsunan
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法(基準) 共通課題 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class
N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb (大学オリジナル教材)	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder/その他/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	4w5argh
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you in class every week. Be sure to come to class every week prepared to speak lots of English. Remember, "practice makes perfect"! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an exc
担当者の研究室等	7号館3階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/zoom
Teams コード	afvpwox
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	Coming to class regularly and actively participating in all classroom activities will greatly help students to improve their speaking and writing skills.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	0z91hbg
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の研究室等	7号館2階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Zoom
Teams コード	gi77qsu
Moodle コース名 および登録キー	Speaking & Writing IIb 2020 - Rens Lohmann curlw7falcon
連絡手段	Campus email
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」 / Zoom and Google classroom)
Teams コード	wn4jejl
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	personal email
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他
Teams コード	cczkjm2
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams chat
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	Plan for your future and study English today.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	<p>1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。</p> <p>Speaking and Writing 2A, 2020, Bruce Riley ? Updated Starter File</p> <p>Contact info: bruce.riley@edu.setsunan.ac.jp</p> <p>This class utilizes Zoom video technology for regular classes, and for man-to-man Talktime sessions. Talktime speaking sessions are arranged for out of class time.</p> <p>Announcements, assignments, and day-to-day work are managed through both Moodle and Google Classroom.</p> <p>Students are expected to attend weekly classes at the regular scheduled time and to be punctual.</p>																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>自己紹介と概要説明</td> <td>テキスト全体に目を通しておく (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レストランのレビューについて語る</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>映画や音楽について語る</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>理想的な仕事について語る</td> <td>グループ・ディスカッション</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>相手の理解をチェックする</td> <td>グループ・ディスカッション</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>不平、不満の表明</td> <td>グループ・ディスカッション</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>助言や提案をする</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>学習内容の確認と振り返り活動</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>義務の表明</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>報告したり尋ねたりすることの基礎</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>報告したり質問したりすることの実践演習</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>説得することと主張すること</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>可能性について述べること</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>個人的な問題について助言や提案をすること</td> <td>ペアワークとグループワーク</td> <td>今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>グループ協働パフォーマンスと振り返り活動</td> <td>グループ・パフォーマンスとディスカッション</td> <td>総復習を行う (1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1時間)	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)																																																																
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1時間)																																																																
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)																																																																
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Speaking & Writing IIb</td> <td>English Department</td> <td>Setsunan</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」、Moodle、その他																																																																		
Teamsコード	c3s7zgb																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	bruce.riley@edu.setsunan.ac.jp																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。																																																																		

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生への メッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	We will be mostly conducting asynchronous studies in this course, including prerecorded video lectures, completing weekly assignments, and learning from individual feed backs. The main tool for communication will be Teams. The main tool for submitting ass
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	オリエンテーション	Online session for orientation.	Review weekly materials and complete assignments	complete
2	レストランのレビューについて語る	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
3	映画や音楽について語る	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
4	理想的な仕事について語る	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
5	相手の理解をチェックする	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
6	不平、不満の表明	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
7	助言や提案をする	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
8	学習内容の確認と振り返り活動	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
9	義務の表明	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
11	報告したり質問したりすることの実践演習	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
12	説得することと主張すること	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
13	可能性について述べること	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
14	個人的な問題について助言や提案をすること	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments	complete
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	Final speaking group presentation	Final speaking group presentation	

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle
------	--------------------------------------

Teams コード	0vsdwt4
-----------	---------

Moodle コース名	S&W2bChu
-------------	----------

および登録キー	S&W2bChu
---------	----------

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	Completion of assignments: 75% Final speaking group presentation: 25%
-----------	--

	Assignments completed late within 12 hours: -10% Assignments completed late within 12-24 hours: - 20% Assignments completed late within 24-48 hours: - 40%
--	--

学生へのメッセージ	Now that we have experience working online, I expect that all students enrolled in this course to follow instructions and complete their assignments on time.
-----------	---

担当者の 研究室等	
備考	

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティング IIa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa (大学オリジナル教材)	English Department	Setsunan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle E Teams 「オンライン型」
Teams コード	mwloztt
Moodle コース名および登録キー	HiGrant2B
連絡手段	school mail, but try Teams first.
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	Speaking Interviews 30% Weekly Moodle tasks 70%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	比喻表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
4	比喻表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
6	比喻表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
8	比喻表現について（4）比喻複合	比喻複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喻複合に関する英語表現を勉強する。（2時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
10	擬人法について	比喻複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Choice	Yasuko Okino, Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting everyone. Don't be shy in class and ask me when you have questions or problems. Reading a lot is one of the best ways to improve your language skills.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	比喻表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
4	比喻表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
6	比喻表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
8	比喻表現について（4）比喻複合	比喻複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喻複合に関する英語表現を勉強する。（2時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
10	擬人法について	比喻複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	VOA 健康と環境レポート4	安浪誠祐/Richard Lavin	松柏社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名	
-------------	--

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 各 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習、宿題、提出物。授業態度等 80% 詳しくは第1回目の授業で説明します。
学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）

実務経験	
関連科目	リーディング Ia, Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー 連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	比喻表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
4	比喻表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
6	比喻表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
8	比喻表現について（4）比喻複合	比喻複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喻複合に関する英語表現を勉強する。（2時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
10	擬人法について	比喻複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Speed reading Exercises 3&4 Unit 2 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2 (2 hours)
3	Speed reading Exercises 5&6 Unit 3 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
4	Speed reading Exercises 7&8 Unit 4 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
5	Speed reading Exercises 9&10 Unit 5 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
6	Speed reading Exercises 11&12 Review Unit 1-5 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
7	Speed reading Exercises 13&14 Unit 6 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
8	Speed reading Exercises 15&16 Unit 7 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
9	Speed reading Exercises 17&18 Unit 8 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
10	Speed reading Exercises 19&20 Unit 9 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
11	Unit 10 from Reading	Vocabulary, everyday phrase and	Extensive Reading of Graded Readers

		Advantage 2	idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	12	Review Unit 6-10 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	13	TOEIC Vocabulary Test	Multi-choice test. and review	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	14	Test of Intensive Reading. Chapters 1-10 Reading Advantage 2.	Test of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Ensure all tasks are complete and records handed in.
	15	Final Review and check on progress and completion of tasks. Reading of Selected Current Topic.	Intensive reading for comprehension	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
実務経験				
関連科目	リーディング Ia, Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814352710
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10% Speed Reading 10% Intensive Reading 80%			
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	・速読・多読活動 ・Loneliness について	・Unit 17 を速読する ・Loneliness に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
3	・速読・多読活動 ・Importance of Grandmothers について	・Unit 18 を速読する ・Importance of Grandmothers に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
4	・速読・多読活動 ・Justice and crime について	・Unit 19 を速読する ・Justice and crime に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
5	・速読・多読活動 ・The Reliability of Eyewitnesses について	・Unit 20 を速読する ・The Reliability of Eyewitnesses に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
6	・速読・多読活動 ・Innocent until Proven Guilty について	・Unit 21 を速読する ・Innocent until Proven Guilty に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
7	・速読・多読活動 ・Solving Crimes について	・Unit 22 を速読する ・Solving Crimes に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
8	・速読・多読活動 ・中間テスト	・Unit 23 を速読する ・中間テストを実施する	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
9	・速読・多読活動 ・Science and history について	・Unit 24 を速読する ・science and history に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
10	・速読・多読活動 ・Ancient artifacts について	・Unit 25 を速読する ・Ancient artifacts に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
11	・速読・多読活動 ・Medical technology について	・Unit 26 を速読する ・Medical technology に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
12	・速読・多読活動 ・Mars について	・Unit 27 を速読する ・Mars に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
13	・速読・多読活動 ・Trends in Living について	・Unit 28 を速読する ・Trends in Living に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
14	・速読・多読活動 ・Issues in society について	・Unit 29 を速読する ・Issues in society に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	授業の総復習、および多読活動(2時間)

実務経験	
------	--

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Choice	Yasuko Okino, Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama	Cengage Learning
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Zoom
Teams コード	n77uv07
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	robert.condon@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting everyone. Don't be shy in class and ask me when you have questions or problems. Reading a lot is one of the best ways to improve your language skills. There will be a lot more reading this semester and we will see eac
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(2時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(2時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(2時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(2時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(2時間)

実務経験	
関連科目	リーディング Ia, Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	VOA 健康と環境レポート4	安浪誠祐/Richard Lavin	松柏社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	rv4hq61
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読 20% 多読 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習・宿題・提出物・授業態度 70%
学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(2時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(2時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(2時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(2時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(2時間)

実務経験	
関連科目	リーディング Ia, Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	email
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(2時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(2時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(2時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(2時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(2時間)

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	martin.oickle@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	速読・多読活動 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% Online extensive reading (多読) 10%, online speed reading (速読) 20%, textbook reading and comprehension (精読) 50%, short reports 20%.
学生への メッセージ	宿題が WebFolder にアップロードされます。 WebFolder の第1週の情報参照して、各教科書ユニットで学習する内容と質問への回答方法を確認してください。Homework will be uploaded to WebFolder. Please see the information in Week 1 in the WebFolder about what to study in each textbook unit and how to answer the questions. 何か質問
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Self enrolled on the moodle. Introduce yourself and your reading interests.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	2	Speed reading Unit 11 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	3	Speed reading Unit 12 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	4	Speed reading Unit 13 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	5	Speed reading Exercises Unit 14 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	6	Speed reading Exercises Unit 15 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	7	Speed reading Exercises Review Unit 11-15 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	8	Speed reading Exercises Unit 16 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	9	Speed reading Exercises Unit 17 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	10	Speed reading Exercises Unit 18 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	11	Speed reading	Vocabulary, everyday phrase and	Before class, check the moodle and Teams.

		Unit 19 from Reading Advantage 2	idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	After Class complete the work on the Moodle.																
	12	Unit 20 from Reading Advantage 2	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
	13	Seasonal Activities	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
	14	Review Unit 16-20 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Test of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
	15	Final Review and check on progress and completion of tasks.	Intensive reading for comprehension	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
実務経験																				
関連科目	リーディング Ia, Ib																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Reading Advantage 2</td> <td>Casey Malarcher</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」 Moodle Web Folder E																			
Teams コード	kbs5dwm																			
Moodle コース名 および登録キー	sardine8narwhal																			
連絡手段	setsunan e-mail, but try Teams first.																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10% Speed Reading 10% Weekly Activities 80%																			
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	News Made Easy: First Steps in Reading Newspapers	Yuri Takahashi	Kinseido
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応

する。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梶山 寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	環境と経済に関する記事	環境と経済に関する学生による発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
4	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する学生による発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
6	気候に関する記事	気候に関する学生による発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
8	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する学生による発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
10	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する学生による発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
11	災害救助のニュース	災害救助のニュースに関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
12	災害救助のニュース	災害救助のニュースに関する学生による発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道のニュースに関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
14	高速鉄道のニュース	高速鉄道のニュースに関する学生による発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現の講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 2	山崎達朗, Stella M. Yamazaki	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	社会の出来事をしっかりと理解し、それについて意見をもち、英語で発信できる能力をもつことはこれからの社会で重要なスキルとなります。楽しみながら頑張らしましょう。ジャーナリストとして日米で活動してきた実績を活かし、実践的な内容も採り入れたいと思っています。積極的な授業参加を期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Social Outlook-メディア英語で社会を視る-	深山晶子・村尾純子	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Surprising Japan! 2 ニッポンの不思議 2	Alice Gordenker / John Rucynski	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	作文課題 20% プレゼンテーション、授業中の小テスト・発言、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Social Outlook	Akiko Miyama 他	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（2時間）

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	News Made Easy: First Steps in Reading Newspapers	Yuri Takahashi	Kinseido
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Web Folder/その他/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	noea35a
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	梶山 寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	2	核兵器に関する記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	3	伝説的アスリートについての記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	4	伝説的アスリートについての記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	5	現代のアスリートについての記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	6	現代のアスリートについての記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	7	海外のツーリズムに関する記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	8	海外のツーリズムに関する記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	9	国際政治のニュース	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	10	国際政治のニュース	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	11	気候変動のニュース	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	12	気候変動のニュース	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	13	環境と交通機関に関する記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	14	環境と交通機関に関する記事	オンライン授業	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および課題の準備（2時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	オンライン授業	ニュース英語表現の総復習（2時間）

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2020/世界を読むメディア英語入門	村尾純子、深山晶子他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	ivngx1m
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メールを利用
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	期末の課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	社会の出来事、問題を理解し、意見を持ち、それを英語で発信する力はこれからの社会では大きなスキルとなります。オンライン授業特有の難しさはあると思いますが、一緒に楽しんで頑張りましょう。ジャーナリストとして日米で活動してきた実績を活かし、実践的な内容も採り入れたいと思っています。積極的な授業参加を期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声および映像によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。 Moodleによる遠隔授業を行います。教科書に沿って課題を提示していくので、音声を聴き教科書をしっかりと読むことが大事です。Moodleでは課題の提出期間内に提出して下さい。未提出は欠席扱いとします。欠席は3回までです。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Lesson 1 No poverty 貧困をなくそう	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
2	Lesson 1 No poverty 貧困をなくそう	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
3	Lesson 2 Zero Hunger 飢餓をゼロに	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
4	Lesson 2 Zero Hunger 飢餓をゼロに	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
5	Lesson 3 Good Health & Well-being 全ての人に健康と副詞を	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
6	Lesson 3 Good Health & Well-being 全ての人に健康と副詞を	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
7	Lesson 4 Quality Education 質の高い教育をみんなに	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
8	Lesson 4 Quality Education 質の高い教育をみんなに	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
9	Lesson 5 Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
10	Lesson 5 Gender Equality ジェンダー平等を実現しよう	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
11	Lesson 6 Clean Water & Sanitation 安全な水とトイレを世界に	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
12	Lesson 6 Clean Water & Sanitation 安全な水とトイレを世界に	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
13	Lesson 7 Affordable & Clean Energy エネルギーをみんなに、そしてグリーンに	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
14	Lesson 7 Affordable & Clean Energy エネルギーをみんなに、そしてグリーンに	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法 自由作文	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
15	Lesson 8 Decent Work & Economic Growth 働き甲斐も、経済成長も	ニュースの語彙を学習 映像を見ての理解と Listening Reading の内容理解と文法	課題提出のための学習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5 (「AFPで見る世界 5」)	宍戸真・ Kevin Murphy・ 高橋真理子	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	Media English b L2 おか 2020 秋 (金原) EOG			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	作文等 20% 課題の提出 80%			
学生への メッセージ	自分で電子辞書や紙の辞書をできるだけ引いてください。進度は受講生の学習状況により、予定より速く進むことも考えられます。 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。予習、復習をしっかりと行いましょう。 提出期限内に余裕を持って出してください。出来れば1日、2日早めに出すようにしましょう。 4回以上の未提出がある場合は単位を認めません。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	さく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2時間）	
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（2時間）	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<2020年度新刊>やさしく読める社会事情 Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell / 山内 圭	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	Media English b L2 さく narwhal7hedgehog
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	復習テスト 50% 課題提出 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	Chapter 2 Overtourism is a Problem!	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
3	Chapter 3 Gender Equality in the Workplace	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
4	Chapter 4 Changing Definitions of Beauty	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
5	Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
6	Chapter 6 Nature and Health	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
7	Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
8	Chapter 8 Trees: A Gift from Nature	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
9	Chapter 9 Tattoos	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
10	Chapter 10 Redefining Gender and Marriage	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
11	Chapter 11 All the Lonely People	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
12	Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
13	Chapter 13 Jeans Go Global!	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
14	Chapter 14 Helping People with Disabilities	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)	
15	Chapter 15 A Special Message	(Zoom) 日本語訳の確認など (答えを入力し送信) テキストの問題	ニュース英語表現の総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell / 山内 圭	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	WebFolder/Zoom
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	第1回目の講義にて伝えます。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の発言・討論、提出物等 80%
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際貢献に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	世界の様々な国で起きている、自然、動物と人間との関わりのストーリーを通して、環境問題、グローバリズムについて考え映像を見ることによってリスニングスキルを身につけると共に、ストーリーのイメージを掴みます。また、写真とともに地図や図表も使用し、内容を多角的に読み取ることができるようになる。「国際貢献」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	リスニングやリーディングを基本としながらも、ディスカッションやプレゼンテーションといった学習活動も織り交ぜて授業を進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 A Disappearing World: Part 1	前回の内容を確認 リーディング 2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
3	Unit 2 A Disappearing World: Part 2	語彙 リーディング 1	次回の授業の Topic 8 で分からない単語や表現を調べる(1時間)
4	Unit 2 A Disappearing World: Part 2	前回の内容を確認 リーディング 2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
5	Unit 3 The Missing Snows of Kilimanjaro: Part 1	語彙 リーディング 1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
6	Unit 3 The Missing Snows of Kilimanjaro: Part 1	前回の内容を確認 リーディング 2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
7	Unit 4 The Missing Snows of Kilimanjaro: Part 2	語彙 リーディング 1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
8	Unit 4 The Missing Snows of Kilimanjaro: Part 2	前回の内容を確認 リーディング 2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
9	Unit 5 Cambodia Animal Rescue: Part 1	語彙 リーディング 1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
10	Unit 5 Cambodia Animal Rescue: Part 1	前回の内容を確認 リーディング 2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
11	Unit 6 Cambodia Animal Rescue: Part 2	語彙 リーディング 1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
12	Unit 6 Cambodia Animal Rescue: Part 2	前回の内容を確認 リーディング 2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
13	Unit 7 Orangutan Language: Part 1	語彙 リーディング 1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
14	Unit 7 Orangutan Language: Part 1	前回の内容を確認 リーディング 2	確認(最終) テストの準備(1時間)
15	確認テスト 総括(まとめ)	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Messages from the Globe	Yasuko Okino, Mitsuru Yokoyama, Miwako Yamashina	センゲージ・ラーニング
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 確認テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	興味のあることはもちろん、初めて知ること、普段なら気にならないとビックであっても、積極的に取り組んでほしい。その姿勢こそが、国際貢献への第一歩だと考えます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 授業の進度は、上記の表を目安としますが、開講後のクラスの状況を見て、必要があれば調整します。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など

回数	授業テーマ		内容・方法等	事前・事後学習課題
	Unit	Topic		
1	Unit1: Yourself	Introducing Yourself	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit1の導入	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	Unit1: Yourself	Introducing Yourself	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーションのやり方を理解する。	Unit1に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
3	Unit1: Yourself	Introducing Yourself	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 各自、英語によるプレゼンテーションの内容を決定する。	今回のUnit1のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
4	Unit2: Companies	Introducing Companies	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション①	Unit2に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
5	Unit2: Companies	Introducing Companies	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション②	今回のUnit2のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
6	Unit3: Explaining Your Role	Explaining Your Role	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション③	Unit3に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
7	Unit3: Explaining Your Role	Explaining Your Role	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション④	今回のUnit3のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
8	Unit4: Products	Introducing Products	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑤	Unit4に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
9	Unit4: Products	Introducing Products	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑥	今回のUnit4のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
10	Unit5: Information	Checking Information	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑦	Unit5に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
11	Unit5: Information	Checking Information	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑧	今回のUnit5のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
12	Unit6: Giving Your Opinion	Giving Your Opinion	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑨	Unit6に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
13	Unit6: Giving Your Opinion	Giving Your Opinion	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Unit7の導入	今回のUnit6のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
14	Unit7: Making Requests	Making Requests	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapter7のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
15	まとめのテスト	Unit1~7のまとめ	Unit1~7までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと(1時間)

実務経験	
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% プレゼンテーション 20% まとめのテスト 30%
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応 する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>																																																																
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。 																																																																
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、「復習を忘れずにしてください」。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>																																																																
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>評価方法、授業の進め方、基本会話</td> <td>授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Transportation 交通案内</td> <td>交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン</td> <td>ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内</td> <td>ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Giving Directions 街歩きのための道案内</td> <td>街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Recommending a Trip 観光スポットを薦める</td> <td>観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Dining in Japan1&2 日本食の紹介</td> <td>日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Arranging a Tour 国内旅行の手配</td> <td>国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Staying at a Ryokan 旅館</td> <td>旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Culture Experience in Japan1 日本文化体験</td> <td>日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Culture Experience in Japan2 日本文化体験</td> <td>日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Japanese Souvenirs ショッピング</td> <td>ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応</td> <td>けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応</td> <td>クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>これまで学んできた授業内容について復習テストをする。</td> <td>これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)	2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)																																																														
2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)																																																														
実務経験																																																																	
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)bなど																																																																
教科書																																																																	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Hospitality on the Scene</td> <td>上杉恵美 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他	金星堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他	金星堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。																

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。日本と世界をアクトと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語を学習します。また、日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて自分の見解を述べるために必要な基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることも目標とします。
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進めていきます。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で時事問題を描く戯曲とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)
2	社会と子ども	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
3	難民状態になる、ということ	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
4	戦争と報道	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
5	世界と日本の難民事情比較	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
6	入国管理と受け入れ制度	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
7	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
8	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
9	受け入れ側の視点 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
10	受け入れ側の視点 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
11	歴史上の有名人の難民体験 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
12	歴史上の有名人の難民体験 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
13	多文化が共に生きる (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
14	多文化が共に生きる (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習(1時間)	
15	まとめ	これまで学んできた授業内容について総復習する。	授業内容のふりかえり(1時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『戯曲で学ぶ対話力：based on Promised Land by Peter Griffith』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。	塩沢泰子ほか	立教大学出版事業部
2	プリント教材			
3	そのほか教材フォルダにて配布			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生への メッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐野 仁志
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から外国語専門職に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「外国語専門職」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、発信したい内容を正しい英語で表現できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	対面授業が開始されるまでは、TED を利用します。TED の英文表示画面を見ながらリピーティング、シャドーイングによる発音練習。200字程度の英文で要約。送信される英文の翻訳演習。ライティング演習。使用教材は授業内で配布します。課題用の英文、和文は毎回送付されます。対面授業が開始されれば、配布された英文を用い、内容を理解しているかどうかの確認をするために、次の授業の冒頭で毎回小テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業概要説明 英語による自己紹介、他己紹介	自分自身のことを250字程度の英文で紹介できるようにしてください。
2	リーディング演習1回目	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 速読の方法 スピーキング演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。(1時間)	
3	リーディング演習2回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。スピーキングテストに備える。(1.5時間)	
4	リーディング演習3回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。(1時間)	
5	リーディング演習4回目 翻訳演習1回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 翻訳オリエンテーション	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。(1時間)	
6	リーディング演習5回目 翻訳演習2回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 翻訳演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。スピーキングテストに備える。(1.5時間)	
7	リーディング演習6回目 翻訳演習3回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト 翻訳演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。(1時間)	
8	リーディング演習7回目 翻訳演習4回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 翻訳演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。(1時間)	
9	リーディング演習8回目 ライティング演習1回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 ライティングオリエンテーション	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。 My Hometown について250字程度の英文を書く(1.5時間)	
10	リーディング演習9回目 ライティング演習2回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 英文チェック	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。 My Hometown について英語で発表できるようにする(1.5時間)	
11	リーディング演習10回目 プレゼンテーション1回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 プレゼンテーション	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。(1時間)	
12	リーディング演習11回目 ライティング演習3回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 ライティング	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。 My Future Plan について250字程度の英文を書く(1.5時間)	
13	リーディング演習12回目 ライティング演習4回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト 英文チェック	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次回の小テストに備える。 My Future Plan について英語で発表できるようにする(1.5時間)	
14	リーディング演習13回目 プレゼンテーション2回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト	まとめテスト準備(1.5時間)	

			プレゼンテーション	
	15	まとめテスト	学期中に扱った中から教材からテストを行う	レポート課題 (1時間)
実務経験				
関連科目	リーディング II a, b など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	英文要約30% 翻訳課題35% まとめのテストあるいはレポート35%			
学生への メッセージ	課題がかなり多く、授業中の学習内容も濃いいため、大変かと思いますが、楽しくやってゆきたいと思います。 授業外での質問等についてはメール (hi-sano@kyoto-saga.ac.jp) で対応します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 質問等については hi-sano@kyoto-saga.ac.jp で対応します。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	<p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。</p> <p>授業概要としては、次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「メディアビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常英語の延長線上にあるビジネス英語も学習し、高いコミュニケーション能力を身につけましょう。 ・ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 ・口語表現と書き言葉の違いに注目して、両方の解釈が取れるようにしましょう。
授業方法と留意点	<p>1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めますが、スマートフォンを辞書として活用することは認めません。</p> <p>2. 原則として欠席が4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で1回の欠席と勘定します。</p>
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Email Mania Night at the Museum	授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半	Unit 1の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
2	Unit 1 Email Mania Night at the Museum	単語テスト1 Volume explosion 映画1	Unit 1の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
3	Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト2 Irritated by spam 映画2	Unit 2の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
4	テスト Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト3 Fighting spam 映画3	テスト勉強 Unit 2の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
5	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	第一回チェックテスト Scam spam 映画4	Unit 3の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
6	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	単語テスト4 Getting personal information 映画5	Unit 3の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
7	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト5 LOL and more 映画調整日	Unit 4の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
8	テスト Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト6 Getting your point across 映画後半	テスト勉強 Unit 4の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
9	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	単語テスト7 Ending it with a click of the mouse 映画6	Unit 5の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
10	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	第二回チェックテスト Virtual goodbyes 映画7	Unit 5の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
11	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト8 Email on the go 映画8	Unit 6の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
12	テスト Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト9 Youth Shun Email 映画9	テスト勉強 Unit 6の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
13	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト10 Faster communication 映画10	Unit 7の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
14	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト11 Businessman prefer Email 映画調整日	Unit 7の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)	
15	テスト Night at the Museum	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強(2時間)	

実務経験	
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社
	2	Night at the Museum ナイトミュージアム	Robert B Grant 他	松柏社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	単語小テスト 33% 授業中テスト 54% 授業に対する積極的な姿勢 13% ※欠席4回未満、総合点60点以上を持って単位取得対象とする。			
学生への メッセージ	面白い内容で教材がそろえられたと思います。 口語表現やメディア用語は難しく思えるかもしれませんが、ひとつひとつ覚えていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室 木曜午前中			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>		
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。 		
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>		
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話
	2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館での滞在に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。
	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。
実務経験			
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など		
教科書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業参加 30% 小テスト 40% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐野 仁志
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から外国語専門職に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「外国語専門職」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、発信したい内容を正しい英語で表現できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	リピーティング、シャドーイングによる発音練習。速読用教材による速読練習。英文の翻訳演習。日常生活レベルのスピーキング。プレゼンテーション。ライティング演習。使用教材は授業内で配布します。課題用にリーディング用の英文が毎回配布されます。内容を理解しているかどうかの確認をするために、次の授業の冒頭で毎回小テストが実施されます。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	リーディング演習2回目 教科書Unit8	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 速読の方法 スピーキング演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。(1時間)
3	リーディング演習3回目	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。スピーキングテストに備える。(1.5時間)
4	リーディング演習4回目 教科書Unit9	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。(1時間)
5	リーディング演習4回目 翻訳演習1回目	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 翻訳オリエンテーション	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。(1時間)
6	リーディング演習5回目 翻訳演習2回目 教科書Unit10	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 翻訳演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。スピーキングテストに備える。(1.5時間)
7	リーディング演習6回目 翻訳演習3回目	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト 翻訳演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。(1時間)
8	リーディング演習7回目 翻訳演習4回目 教科書Unit11	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 翻訳演習	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。(1時間)
9	リーディング演習8回目	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 ライティングオリエンテーション	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。 My Ideal Partnerについて250字程度の英文を書く(1.5時間)
10	リーディング演習9回目 ライティング演習2回目 教科書Unit12	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 英文チェック	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。 My Ideal Partnerについて英語で発表できるようにする(1.5時間)
11	リーディング演習10回目 プレゼンテーション1回目	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキング演習 プレゼンテーション	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。(1時間)
12	リーディング演習11回目 教科書Unit13	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 ライティング	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。 My Future Jobについて250字程度の英文を書く(1.5時間)
13	リーディング演習12回目 ライティング演習4回目	リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト 英文チェック	配布された英文を学習した速読の方法で読み、内容を理解し、次の小テストに備える。 My Future Jobについて英語で発表できるようにする(1.5時間)
14	リーディング演習13回目 教科書Unit14	小テスト リピーティング、シャドーイング ポップソングによる発音練習 スピーキングテスト プレゼンテーション	まとめテスト準備(1.5時間)
15	まとめテスト	学期中に扱った中から教材からテストを行う	レポート課題(1時間)

実務経験

関連科目	リーディング II a, b など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The First Step for Studying Abroad	佐野 仁志	英宝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	遠隔授業 Webfolder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ライティング課題 30% 翻訳課題 30% まとめのテスト 40%			
学生への メッセージ	課題がかなり多く、授業中の学習内容も濃いいため、大変かと思いますが、楽しくやってゆきたいと思います。 授業外での質問等についてはメール (hitoshi.sano@edu.setsunan.ac.jp) で対応します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回のUnit8のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回のUnit9のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回のUnit10のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回のUnit11のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回のUnit12のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のUnit13のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のUnit14の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のUnit15の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
15	まとめのテスト 振り返り	Unit8～15までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1時間)

実務経験	
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global</td> <td>Garry Pearson 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
授業形態	Web Folder/Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」																
Teams コード	tkoy7js																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% 報告レポート 20% まとめのテスト 30%																
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応 する。																

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	<p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」を選択した学生を対象とした英語の授業です。</p> <p>授業概要： テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	・リスニングやリーディングを基本とし、自分自身でそれぞれの課のトピックに関連するダイアログなどを作成し、練習する。
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション Lesson 10 Kabuki and Noh (1) 歌舞伎を外国人の友人と一緒に観劇した日本人とその外国人との会話	授業の進め方と評価についての説明 歌舞伎の劇場での会話を聴き、それを口頭練習する。能についてのパラグラフを聴解する。	事前に、冒頭の会話を CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴いて口頭練習をする。(1時間)
2	Lesson 10 Kabuki and Noh (2) 日本の伝統芸能に関連した表現と会話の聴解	前回の授業で学んだ会話表現を基に、外国人と日本の伝統芸能を案内する日本人のダイアログを作成する。	事前に、日本の伝統芸能を英語で案内するときに必要な語彙・表現を調べておく。事後には、授業中の活動を振り返り、復習する。(1時間)	
3	Lesson 11 Kanazawa 金沢に住む日本人と、観光に来た台湾人との会話	冒頭の会話を聴き、表現を口頭練習する。金沢の民芸品に関する語彙や、金沢市の観光地についてのパラグラフも聴解し、それを学ぶ。	事前に、冒頭の会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1時間)	
4	Lesson 12 A Message from Hiroshima (1) 日本の研究に来ている外国人と、一緒に広島を訪れた日本人との会話	「負の世界遺産」として世界的に知られている広島を外国人に案内するときに伝えるべきことを、最初の会話のなかで学び、口頭練習する。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1時間)	
5	Lesson 12 A Message from Hiroshima (2) 原爆の被災地、広島と、その近くの観光地、宮島の紹介	前回の授業で学んだ表現を使って、自分が外国人にどのようにして広島を紹介したいかを考え、ダイアログを作成する。	事前に、広島や宮島について調べ、授業中のロールプレイに備える。事後には、授業中の活動を振り返り、復習する。(1時間)	
6	Lesson 13 World Heritage (Gokayama) 日本の伝統文化を伝える合掌造りの建物がたくさん残る富山県五箇山を案内する会話	「合掌造り」の説明のしかたや、白川郷について、冒頭の会話やパラグラフを聴いて、口頭練習しながら学ぶ。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1時間)	
7	Lesson 14 Mt. Fuji and National Park (1) 日本人が外国人の友人と富士山に登るとき会話	冒頭の会話を口頭練習する。その後、環境問題に関するパラグラフを聴解・読解し、そのなかで登場する語彙を学ぶ。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1時間)	
8	Lesson 14 Mt. Fuji and National Park (2) 国立公園に関連する語彙・表現	日本を案内するうえで欠くことのできない話題である「富士山」と国立公園に関連する語彙を学んだ後、環境問題も含めて、自分の考えを英語で述べる練習を行う。	事前に、富士山、国立公園、環境問題について調べたり、自分の意見を英語で述べるための準備しておく。事後には、授業中の活動を振り返り、復習する。(1時間)	
9	Lesson 15 Staying at the Hotel (1) 日本のホテルでの、受付の日本人と外国人観光客との会話	冒頭の会話をペアワークで口頭練習し、外国人への接客のしかたを学ぶ。ホテルに関連したパラグラフの聴解練習や、語彙を学ぶ。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1時間)	
10	Lesson 15 Staying at the Hotel (2) 外国人客への対応のしかた	前回の授業で学んだ表現と、新しく学ぶ「外国人客の苦情への対応のしかた」を使って、口頭練習する。	事前に、Lesson 15 の後半の練習問題を、できるだけ解いておく。そのなかの表現を応用してロールプレイをした後は、活動内容を振り返り、復習する。(1時間)	
11	Lesson 16 Money 外国通貨だけを持っている外国人旅行者と、日本の銀行員との会話	冒頭の会話を口頭練習する。世界の通貨や銀行に関連する語彙・表現を学ぶ。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1時間)	
12	Lesson 17 When You Get Sick (1)	冒頭の会話を口頭練習する。病気や病院に関連する語彙を学ぶ。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再	

		日本で体調を崩した外国人と、日本人の友人との会話		度 CD を聴き、口頭練習する。(1 時間)
	13	Lesson 17 When You Get Sick (2) 医師と患者との会話、病院の受付での会話	日本の医療機関で聞かれる会話を、練習問題を解きながら学び、それを口頭練習する。	事前に、Lesson 17 の後半の練習問題を、できるだけ解いておく。事後には、授業中の活動を振り返り、復習する。(1 時間)
	14	Lesson 18 Saying Good-bye to Your Friend (1) 空港で目にする航空会社や世界の都市名、それに関する日本人との会話	冒頭の会話を、それぞれの人物の気持ちになって、口頭練習する。その後、離れた友人と連絡を取り合うやり方に関するパラグラフの聴解練習をする。	事前に、会話やパラグラフを CD で聴いたり読んだりし、知らない表現を辞書で調べる。事後には、再度 CD を聴き、口頭練習する。(1 時間)
	15	Lesson 18 Saying Good-bye to Your Friend (2) 空港で目にする航空会社や世界の都市名、それに関する英作文	前回の授業で学んだ会話表現を使い、同じ状況でロールプレイする。	事前に、Lesson 18 の後半の練習問題を、できるだけ解いておく。事後には、授業中の活動を振り返り、復習する。
実務経験				
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Tourism English	河原・池中・Streetman 他	英宝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の提出物の内容を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	常に、自分自身が、外国人に日本を案内するという気持ちでいてください。そのために、実際の状況を想定し、ダイアログを英語で作成して練習してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 授業の進度は、上記の表を目安とするが、開講後の様子を見て、必要であれば調整します。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語を学習します。また、日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて自分の見解を述べるために必要な基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることも目標とします。
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進めていきます。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く映画・文学と は	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
2	食糧生産 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
3	食糧生産 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
4	食糧生産 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
5	国境を超える犯罪捜査 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
6	国境を超える犯罪捜査 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
7	国境を超える犯罪捜査 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
8	科学と倫理 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
9	科学と倫理 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
10	科学と倫理 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
11	日本発の製品・文化を世界に (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
12	日本発の製品・文化を世界に (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
13	日本発の製品・文化を世界に (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
14	発表 (1)	発表と相互に質問	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)	
15	発表 (2)	発表と相互に質問	ふりかえり (1 時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『戯曲で学ぶ対話力 : based on Promised Land by Peter Griffith』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。		
	2	プリント教材		
	3	そのほか教材フォルダで配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder / Zoom
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	@edu の学内メール (初回授業でお知らせ)
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :
評価方法 (基準)	作文課題 40% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%
学生への	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれ

メッセージ	ません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際貢献に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	世界の様々な国で起きている、自然、動物と人間との関わりのストーリーを通して、環境問題、グローバリズムについて考え映像を見ることによってリスニングスキルを身につけると共に、ストーリーのイメージを掴みます。また、写真とともに地図や図表も使用し、内容を多角的に読み取ることができるようになる。「国際貢献」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	Teamsにおいて遠隔授業を行います。 課題提出、連絡事項もすべて Teamsにて行います。 リスニングやリーディングを基本としながら、ライティングも交えながら授業を進めていきます。
科目学習の効果(資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8 Orangutan Language: Part 2	授業運営の説明 語彙 リーディング1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	2	Unit 8 Orangutan Language: Part 2	前回の内容を確認 リーディング2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	3	Unit 9 Cupid the Dolphin: Part 1	語彙 リーディング1	次回の授業の Topic 8 で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	4	Unit 9 Cupid the Dolphin: Part 1	前回の内容を確認 リーディング2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	5	Unit 10 Cupid the Dolphin: Part 2	語彙 リーディング1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	6	Unit 10 Cupid the Dolphin: Part 2	前回の内容を確認 リーディング2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	7	Unit 11 Cupid the Dolphin: Part 3	語彙 リーディング1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	8	Unit 11 Cupid the Dolphin: Part 3	前回の内容を確認 リーディング2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	9	Unit 12 Saving the Pandas: Part 1	語彙 リーディング1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	10	Unit 12 Saving the Pandas: Part 1	前回の内容を確認 リーディング2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	11	Unit 13 Saving the Pandas: Part 2	語彙 リーディング1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	12	Unit 13 Saving the Pandas: Part 2	前回の内容を確認 リーディング2	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	13	Unit 14 Saving the Pandas: Part 3	語彙 リーディング1	次回の授業で分からない単語や表現を調べる(1時間)
	14	Unit 14 Saving the Pandas: Part 3	前回の内容を確認 リーディング2	確認(最終) テストの準備(1時間)
	15	確認テスト 総括(まとめ)	これまで学んできた授業内容について 復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。 (1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Messages from the Globe	Yasuko Okino, Mitsuru Yokoyama, Miwako Yamashina	センゲージ・ラーニング
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	x5ekgsj
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teams、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	作文課題 20% 確認テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	興味のあることはもちろん、初めて知ること、普段なら気にならないとピックアップであっても、積極的に取り組んでほしい。その姿勢こそが、国際貢献への第一歩だと考えます。
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 授業の進度は、上記の表を目安としますが、開講後のクラスの状態を見て、必要があれば調整します。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	<p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。</p> <p>授業概要としては、次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「メディアビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常英語の延長線上にあるビジネス英語も学習し、高いコミュニケーション能力を身につけましょう。 ・ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 ・口語表現と書き言葉の違いに注目して、両方の解釈が取れるようにしましょう。
授業方法と留意点	<p>1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めませんが、スマートフォンを辞書として活用することは認めません。</p> <p>2. 原則として欠席が4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で1回の欠席と勘定します。</p>
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 8 Social Networking Sites Charade	単語テスト1 Social Networking Trouble 映画2	Unit 8の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
3	Unit 9 Blogging Charade	単語テスト2 Telling the World 映画3 & 4	Unit 9の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
4	テスト Unit 9 Blogging Charade	第一回チェックテスト Popular Japan 映画5	テスト勉強 Unit 9の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
5	Unit 10 Information Superhighway Charade	単語テスト3 Knowledge Haven 映画6	Unit 10の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
6	Unit 10 Information Superhighway Charade	単語テスト4 Sharing What You Know 映画7	Unit 10の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
7	Unit 11 Online Gambling Charade	単語テスト5 Clicking, Chances and Control 映画8	Unit 11の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
8	テスト Unit 11 Online Gambling Charade	単語テスト6 Online Casinos and Japan 映画9 & 10	テスト勉強 Unit 11の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
9	Unit12 Citizen Journalism Charade	単語テスト7 On-the-Scene Reporting 映画11	Unit 12の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
10	Unit12 Citizen Journalism Charade	第二回チェックテスト OHMYNEWS in Japan 映画12	Unit 12の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
11	Unit13 Online Shopping Charade	単語テスト8 E-Commerce Boom 映画13	Unit 13の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
12	テスト Unit13 Online Shopping Charade	単語テスト9 On line Shopong and Social Networks 映画14	テスト勉強 Unit 13の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
13	Unit14 Advertising Charade	単語テスト10 Cyberspace Sales 映画15	Unit 14の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
14	Unit14 Advertising Charade	単語テスト11 Japan connected to Advertising 映画16 まとめレポート4	Unit 14の語彙暗記 読み直し スクリプト確認(2時間)
15	テスト 復習	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強(2時間)

実務経験				
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社
	2	Charade	Kenzo Soneda 他	開文社

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Google Meet(前期と同じコード) / Web Folder / Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	6ifqvcy			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	下記の個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	課題 4X12回=48 テスト3回 18+17+17=52			
学生への メッセージ	教科書は早め入手しておいてください。オンライン授業は前期と同じ Google Meet にて行います。会議 ID も同じです。 meet.google.com/ecb-ghjr-cwc 教材は web folder にて配布、クラス全体にお知らせを回さないといけないときは teams にて連絡を回します。			
担当者の 研究室等	メールで質問は随時受け付けています。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時(木曜日午前中)に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	<p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」を選択した学生を対象とした英語の授業です。</p> <p>授業概要： テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングやリーディングを基本としながらも、ロールプレイなども取り入れて学習していきます。 ・テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方と評価についての説明	教科書を購入し、一読しておく。 次の授業で扱うチャプター1でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	2	Unit1:In-Flight Announcements	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター2でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	3	Unit2:At Immigration and Customs	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター3でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	4	Unit3:Getting to a Hotel	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター4でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	5	Unit4:Checking into a Hotel	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター5でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	6	Unit5:Checking in without a Reservation	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター6でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	7	Unit6:At a Restaurant	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター7でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	8	Unit7:Taking the Subway	中間のまとめテスト	次の授業で扱うチャプター8でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	9	Unit8:At a Fast-Food Restaurant	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター9でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	10	Unit9:Hotel Service	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業であつかうチャプター10でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	11	Unit10:Booking a Tour	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター11でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	12	Unit11:Health Care	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター12でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	13	Unit12:Shopping	リスニング リーディング ロールプレイ	次の授業で扱うチャプター13でわからない語句・表現を調べておく(1時間)
	14	Unit13:Making Complaints	リスニング リーディング ロールプレイ	チャプター1～13の復習をする(1時間)
	15	まとめ(復習)のテスト 総括	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Travel English at Your Fingertips --Revised Edition--	島田拓司 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle/Web Folder			
Teams コード	p44p40v			
Moodle コース名 および登録キー	ESPa (木4 平野) Iago			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業参加 30% 小テスト 40% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	本クラスではアメリカ旅行の出発から帰国までの中で出会う諸場面を題材に、リスニングやディクテーションを通じて、同じ意味合いにも幾つもの表現や受け取り方があることや、旅行パンフレットや地図から正しく情報を読み取る術を学びます。前期からの積み重ねの上に応用を身につける内容となるので、毎回の予習・復習を欠かさないようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through
科目学習の効果 (資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)

実務経験	
------	--

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Startup Level 3	Ken Beatty	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
学生への メッセージ	I am looking forward to having you in class. Be prepared to speak a lot in class.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	英語の総合教材を用いて「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を高めることが目的である。
到達目標	異文化コミュニケーションに役立つ題材に触れ、グローバル社会でいかにして生きるか、その心構えと表現方法を身に付け発信の元をつくる。
授業方法と留意点	論理的に書かれた文章である。英文を読みながらどのように論理が展開しているのかに注意を払うこと。下調べで文法や単語の意味などを調べるだけでなく、筆者の考えを追うことが大切である。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 簡単な確認テスト	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 Unit 1 を始める	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)
2	1 Globalization and Global Society	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
3	2 How Do You Define a Global Citizen?	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
4	3 You can Become Global Citizen?	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
5	4 Saying "Yes" or "No" Clearly	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
6	5 Start Conversations with a Nice Compliment	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
7	6 Why Can't People Read the Atmosphere?	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト	テスト勉強	
9	7 Don't Be Afraid to Make Mistakes	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
10	8 Develop the Ability to Express Your Thoughts	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
11	9 Prepare for Culture Shock	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
12	10 Overcome Communication Gaps in This Way	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
13	11 Effective Ways to Reduce Stress	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
14	12 Have a Positive Way of Thinking	課題のチェック 本文の内容確認、exercise をする	予習として、1ユニットすべての単熟語調べをし、筆者の考えを掴む(2時間)	
15	期末テスト	後半の既習内容の確認テスト	テスト勉強	

実務経験	
関連科目	トピックスタディーズⅡ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Surviving in a Global World(「グローバル社会をどう生きるか」)	中川準治・Justin Charlebois	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	中間・期末テスト 70% 発表(板書も含む)、積極的姿勢、課題提出 30%
学生へのメッセージ	辞書または電子辞書必携。 課題としての予習が出来ているかを重視します。 授業では質問に対する発言や回答を重視します。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロソグス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)	

実務経験	
------	--

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生への	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。
------	---

メッセージ	Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	真弓 香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	本講義は、イギリス文化を取り上げたテキストを用い、4技能の伸長を目的とする。特に、ペアワーク・グループワークを通じた表現活動に重点を置く。
到達目標	・4技能の向上。 ・客観的事実を述べるだけでなく、自分の意見及びその根拠について表現できるようになる。 ・他国の文化的側面に触れることで、日本の文化についても理解を深める。
授業方法と留意点	様々なタスクを通して、毎時のトピックの理解を深めると同時に、ペアワークやグループワークで英語を使う場を多く設定する。各授業の開始時には、前時の内容に関連するトピックでのグループワークを行う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	4技能の向上。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	Introduction	・授業の進め方、評価方法等の説明 ・Understanding the UK today
	2	Chapter 1: Animals: Fictional and Real	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	3	Chapter 2: Exporting Sport	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	4	Chapter 3: Literature: The Reading Boom	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	5	Chapter 4: Eating Habits: Changing Tastes	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	6	Chapter 5: Art: Attitudes and Anonymity	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 中間テストの準備 (2時間)
	7	Chapter 6: Population: Food for Thought 中間テスト	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表 ・中間テスト(Chapters 1 - 5)	授業の予習・復習 中間テストの準備 (2時間)
	8	Chapter 7: Antiques: Older Is Often Better	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	9	Chapter 8: Smoke-free Britain	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	10	Chapter 9: Edinburgh: A City of Festivals	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	11	Chapter 10: Television: Reflecting Our Lives	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	12	Chapter 12: Leisure: Indoor and Outdoor	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	13	Chapter 13: Education in the UK	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 期末テストの準備 ミニプレゼンテーションの準備 (2-3時間)
	14	Chapter 14: Superstition and Beliefs 期末テスト	・パッセージの内容理解 ・ペア・グループでのディスカッション及び発表 ・期末テスト	授業の予習・復習 期末テストの準備 ミニプレゼンテーションの準備 (2-3時間)
	15	プレゼンテーション 前期のまとめ	・各自が選んだトピックに基づいてミニプレゼンテーションを行う ・前期の総括	ミニプレゼンテーションの準備 (2時間)

実務経験	
関連科目	トピック スタディーズⅡb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	Insight into Britain	Anthony Allan / 井石哲也 / 井石令子
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 中間・期末テスト 40% 授業中の参加態度 (ペアワーク・グループワークへの積極的な参加・自発的な発言)・提出物など 40%			
学生への メッセージ	皆さんがこれまで知らなかったイギリスの姿に触れると同時に、日本の文化についても考える授業にしたいと思います。学びを深めるために、皆さんの積極的な授業への貢献に期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	2	Music Theory 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	3	Music Theory 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	4	Baroque Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	5	Baroque Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	6	Baroque Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	7	Classical Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	8	Classical Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	9	Classical Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	10	Romantic Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	11	Romantic Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	12	Romantic Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	13	Romantic Music 4	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	14	Romantic Music 5	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	15	Romantic Music 6	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)

実務経験	
------	--

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
------	--------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	email
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Participation 40%, Classwork 60%
学生への メッセージ	Please bring a dictionary.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズII b	科目名 (英文)	Topic Studies IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	教科書は2冊使用する。 あるトピックについてのエッセイを読み、論理的な組み方や述べ方を学ぶ。最終的には、「論理的展開」を意識して自分の意見を英語でエッセイにする。読み手を納得させる内容、展開であることが重要である。 同時に英文法の教科書も使用し正確な文法と英文構造への意識を高める。
到達目標	英文を構造で捉え、その論理的展開をつかむ練習を通して自己の「論理的思考」を養いエッセイに反映させることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業では主にトピック本文の論理的把握ができていないか、英文構造を意識した英作文が出来ているかを重視します。 エッセイ課題の提出については授業内で指示します。 Moodleによる遠隔授業なので、提出期間を確認し、余裕をもって提出して下さい。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 2冊の教科書の進め方などの説明	文法問題 Chapter1を読み始める	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	2	PART 1 1 Conclusion / Reasons	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	3	2 Social Phenomenon	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	4	3 Result / Cause	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	5	PART II 4 Several Explanations	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	6	5 Comparison	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	7	6 For and Against	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	8	7 Classification	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	9	PART III 8 History	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	10	9 Process	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	11	10 Cause and Effect	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	12	PART IV 11 Definition of a New Word	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	13	12 Research	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	14	13 New Products	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	15	13 Reading Graphs	文法問題 エッセイ購読と英作文 Writing (自分の意見)	文法課題、エッセイの下読みと exercise の予習 (2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。

実務経験																	
関連科目	トピックスタディーズⅡa など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>総合英語 FACTBOOK-English Grammar [Advanced]</td> <td>桐原書店編集部</td> <td>桐原書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Skills for Better Writing <Basic> (「構造で書く英文エッセイ<初級編>」)</td> <td>石谷由美子</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合英語 FACTBOOK-English Grammar [Advanced]	桐原書店編集部	桐原書店	2	Skills for Better Writing <Basic> (「構造で書く英文エッセイ<初級編>」)	石谷由美子	南雲堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	総合英語 FACTBOOK-English Grammar [Advanced]	桐原書店編集部	桐原書店													
	2	Skills for Better Writing <Basic> (「構造で書く英文エッセイ<初級編>」)	石谷由美子	南雲堂													
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Moodle																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー	Topic Studies IIb L2 2020 秋 (金原) EOG																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	課題の提出 70% エッセイ提出 30%																
学生への メッセージ	Moodle による遠隔授業を行います。教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。 自分で電子辞書や紙の辞書を引いてください。自宅学習の時間が長くなり力をつけるチャンスです。 4回を超える未提出、つまり欠席のあった者には原則として単位を認めない。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のためのテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。																

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies I Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロソグス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)	

実務経験	
------	--

関連科目	トピック スタディーズⅡa など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	seoulmon@hotmail.com
------	----------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
----------	--

学生への	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。
------	---

メッセージ	Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズII b	科目名 (英文)	Topic Studies I Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	真弓 香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	本講義は、現代イギリスに関するエッセイを基に、総合的な4技能の伸長を目的とする。特に、表現活動に重点を置くので、ペアワークを通して積極的に自分の意見を述べる事が求められる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・4技能の伸長。 ・根拠に基づいて自分の意見を述べる事ができる。 ・自分でリサーチしたことを基にプレゼンテーションを行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで授業を実施するので、前向きに学習及び課題に取り組む姿勢が重要な評価項目となる。 ・授業の詳細については、初回授業 (Moodle を利用) で説明する。 ・様々なタスクを通して、毎時のトピックの理解を深めると同時に、英語を使う機会を多く設定する。 ・ミニプレゼンテーションを数多く実施し、最終プレゼンテーションへと発展させる。 ・辞書を活用すること。
科目学習の効果 (資格)	4技能の総合的な伸長。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	・授業の進め方、評価方法等の説明	授業の復習 (1時間)
		Understanding the UK today	・The UK の現状を知る	
	2	Unit 1: The Brexit Referendum	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	3	Unit 3: Brits on Bikes	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	4	Unit 6: The Cost of Being Young Today	・ミニプレゼンテーション ・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	5	Unit 8: Britain and the Sea	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	6	Unit 9: Images of Scotland	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	7	Unit 10: "The New Look": Beards and Tattoos	・ミニプレゼンテーション ・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	8	Unit 11: The Japanese in Britain	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	9	Unit 13: The House of Windsor: Crisis and Continuity	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	10	Unit 14: The Changing London Skyline	・ミニプレゼンテーション ・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	11	Unit 15: Women's Rights: A Look through History	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	12	Unit 18: Charles Dickens: Childhood and Christmas	・ミニプレゼンテーション ・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 (2時間)
	13	Unit 19: The Great British Bake Off	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 最終プレゼンテーションの準備 (2-3時間)
	14	Unit 20: Brits Abroad	・エッセイの内容理解 ・ペアでのディスカッション及び発表	授業の予習・復習 最終プレゼンテーションの準備 (2-3時間)
15	最終プレゼンテーション 後期のまとめ	・プレゼンテーションの実施 ・後期学習内容の総括	プレゼンテーションの準備 (2時間)	

実務経験	
関連科目	トピック スタディーズIIa など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Britain at a Watershed	John H. Randle & Atsushi Mukuhira	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/Teams 「オンライン型」
Teams コード	n5rlii4
Moodle コース名 および登録キー	Topic Studies I Ib 2020 Mayumi elephant3

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	最終プレゼンテーション 20% 小テスト 20% 授業への取り組み (ミニプレゼンテーション・提出物など) 60% *小テストの実施回は、授業の進度に応じて設定する。また、ミニプレゼンテーションの実施回は変更する可能性がある。
学生への メッセージ	イギリスに関するエッセイを読み、メディア等で私たちが触れるのとは違うイギリスの姿について理解を深めましょう。自分の意見を発表する機会を多く設けたいと思いますので、皆さんの積極的な取り組みに期待しています。
担当者の 研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)	
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)	

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン パーソン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)	
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)	

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロンガス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)	
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)	

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	英語の発音は読む回数に比例して上達していきます。自分の音読した英語を聞くことはリスニングの強化にもなるので、毎日英語を最低1度は読む習慣をつけて下さい。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習(1時間)
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習(1時間)	
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習(1時間)	
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習(1時間)	
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習(1時間)	
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り(1時間)	
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り(1時間)	

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	英語の発音は読む回数に比例して上達していきます。自分の音読した英語を聞くことはリスニングの強化にもなるので、毎日英語を最低1度は読む習慣をつけて下さい。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)	
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)	
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)	
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)	

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	使える英語を意識して、一緒に楽しく学習していきましょう!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1時間)
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1時間)
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	ライティングとスピーキング(プレゼンテーション)は少しのコツと練習で上達できるスキルです。一緒に楽しんでそれらのスキルを学びましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	exxvphn
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Line
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン パーソン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

授業形態	Moodle / zoom
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	Speaking and Writing III b
連絡手段	学内メールアドレス
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook

	and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	A-サー ロッキング
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder/その他
Teamsコード	vzo127n
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	seoulmon@hotmail.com
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	We will be working asynchronously together again this semester. There will be prerecorded video lectures, materials and weekly assignments. Now that we know how to access ICT tools, we will be mainly using Teams to communicate and Moodle for weekly assign
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Online session for orientation	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
3	人や物について書く・話すスキルを身につけるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身につけるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身につけるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
8	これまで学んだスキルについて復習する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
9	統一性 (Unity) について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
10	一貫性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
11	結束性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.	
14	英語のプレゼンテーション (発表会 1/2)	Online oral presentations (1/2)	Online oral presentations	
15	英語のプレゼンテーション (発表会 2/2)	Online oral presentations (2/2)	Online oral presentations	

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle
Teamsコード	ftnd61b
Moodleコース名	S&W3bChu
および登録キー	S&W3bChu
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	Final oral presentation: 25% Weekly assignments and participation: 75%
学生へのメッセージ	Welcome to speaking and writing II b! This semester, we will shift our focus more to speaking instead of writing, so the amount of writing assignments will slightly decrease, and we will have more speaking assignments.

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1時間)
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1時間)
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1時間)
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り (1時間)
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	ライティングやプレゼンテーションでは、自分が相手に何を伝えたいのかを考えるところから始まります。相手に伝えたいと思う内容を自分の中で育てていけるよう、興味のあることについて複数のメディアや書籍から情報を収集したり、色々な人の話を聞いたり、そして時には体験から学

	ぶ姿勢を大切にしてください。授業では相手に言いたいことが効果的に伝えられるよう、文章の論理的な構成など、その方法について学んでいきます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習(1時間)
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習(1時間)
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習(1時間)
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り(1時間)
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り(1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	Speaking & Writing III b L3 か vulture2squirrel
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	受講時間内の課題提出 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	使える英語を意識して、一緒に楽しく学習していきましょう!

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習(1時間)
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習(1時間)
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習(1時間)
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習(1時間)
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り(1時間)
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り(1時間)

実務経験	
関連科目	スピーキング&ライティングⅡa, Ⅱb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	p960gdp
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	個人メール、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15% ※変更がある場合は、追ってお知らせします。
学生への	ライティングとスピーキング(プレゼンテーション)は少しのコツと練習で上達できるスキルです。

メッセージ	一緒に楽しんでそれらのスキルを学びましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように、英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力の養成を目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業を通して、英語で書かれた情報(新聞・雑誌・SNSなど)の内容を理解し、自分の知識や考えの幅を広げていくことができます。1回1回の講義に参加することを大切に、集中して取り組む機会にして下さい。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢa など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	b14nk7m
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢa など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように、英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	この授業を通して、英語で書かれた情報(新聞・雑誌・SNSなど)の内容を理解し、自分の知識や考えの幅を広げていくことができます。1回1回の講義に参加することを大切に、集中して取り組む機会にしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢa など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder/Youtube
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 課題提出 40%、課題内容 40%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	最新技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	福祉に関する話題 (1)	福祉に関する話題 (1) 世界各国の福祉の現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	福祉に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	健康に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	歴史に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	科学に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	メディアイングリッシュ a, b

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金 明現
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	労働に関する話題 (1)	企業の採用難についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	労働問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	労働に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	観光に関する話題 (1)	外国人観光客に関する現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	観光に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	観光に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	新潟米の中国への輸出を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	科学技術に関する話題 (1)	インドの有人宇宙飛行計画に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	科学技術に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	人権に関する話題 (1)	サウジアラビアにおける女性の人権を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	人権に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	人権に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	環境に関する話題 (1)	電気自動車タクシーを扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	環境に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	環境に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	科学技術に関する話題	カエルの鳴き声と通信技術との関連を扱った記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディングⅢなど

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	今、世界では何が起きているのか、それはみなさんにどう関わってくるのか。 英語を学ぶだけではなく、この授業を、世の中の様々なことに目を向け、深く考える契機としてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	嶋村 恵理
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱ったある程度長くてまとまりのある教材を用い精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めてメディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら、読む・聞くだけでなく自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	労働に関する話題 (1)	企業の採用難についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	労働問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	労働に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	観光に関する話題 (1)	外国人観光客に関する現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	観光に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	観光に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	新潟米の中国への輸出を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	科学技術に関する話題 (1)	インドの有人宇宙飛行計画に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	科学技術に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	人権に関する話題 (1)	サウジアラビアにおける女性の人権を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	人権に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	人権に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	環境に関する話題 (1)	電気自動車タクシーを扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	環境に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	環境に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	科学技術に関する話題	カエルの鳴き声と通信技術との関連を扱った記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2020: English through Newspapers	若原 保彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	学んだことを実際に使ってみるという意識をもって取り組んでいきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控え室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐野 仁志
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	送信される英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	労働に関する話題 (1)	企業の採用難についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	労働に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	労働に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	観光に関する話題 (1)	外国人観光客に関する現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	観光に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	観光に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	新潟米の中国への輸出を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	科学技術に関する話題 (1)	インドの有人宇宙飛行計画に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	科学技術に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	人権に関する話題 (1)	サウジアラビアにおける女性の人権を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	人権に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	人権に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	環境に関する話題 (1)	電気自動車タクシーを扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	環境に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	環境に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	科学技術に関する話題	カエルの鳴き声と通信技術との関連を扱った記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	メディアイングリッシュ a, b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若原 保彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	世界で今何が起きているのか。英語の学習のみならず、様々な時事問題を扱いながら、知識を得たり、自分の考えを深めたりすることは、みなさんの生活をより「良い」ものにすることでしょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 質問等については hi-sano@kyoto-saga.ac.jp にアクセスしてください。

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	文化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	文化に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	歴史に関する話題 (1)	歴史の話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	歴史に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	政治に関する話題 (1)	政治に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	政治に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	言語に関する話題 (1)	言語を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	言語に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	保険に関する話題 (1)	保険を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保険に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	保険に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	メディアイングリッシュ a, b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若有 保彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	kkm7sws
Moodle コース名 および登録キー	Current English b Carr 2020 jointheClass
連絡手段	neil.carr@edu.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 明現
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	科学技術に関する話題 (1)	トヨタ自動車の水素燃料電池についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	科学技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	環境に関する話題 (1)	グリーンランドの氷の溶解に関する話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	環境に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	環境に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	日本企業のアフリカの地熱発電に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	生物に関する話題 (1)	鳥のパートナー選びに関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	生物に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	生物に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	科学技術に関する話題 (1)	自動運転を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	科学技術に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	経済に関する話題 (1)	労働者不足を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	経済に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	観光に関する話題	ツタンカーメンの墓を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	観光に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの総復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	メディアイングリッシュ a, b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若有 保彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名	Current English b 2020
および登録キー	crow3e1am

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	今、世界では何が起きているのか、それはみなさんにどう関わってくるのか。 英語を学ぶだけでなく、この授業を、世の中の様々なことに目を向け、深く考える契機としてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	嶋村 恵理
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱ったある程度長くまとまりのある教材を用い精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めてメディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら、読む・聞くだけでなく自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を書けるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で書く。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経済に関する話題 (1)	日本企業のアフリカの地熱発電に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
2	経済に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
3	生物に関する話題 (1)	鳥のパートナー選びに関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	生物に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
5	経済に関する話題 (1)	労働者不足に関する内容を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	経済に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
7	健康に関する話題 (1)	サウナブームに関する内容を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	健康に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
9	環境に関する話題 (1)	温暖化に関する内容を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	環境に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
11	労働に関する話題 (1)	アジアの労働力に関する内容を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	労働に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
13	医療に関する話題 (1)	iPS細胞に関する内容を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	トピックに関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	医療に関する話題 (2)	読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめる。	課題を完成させる。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行う。	課題を完成させる。(1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World 2020: English through Newspapers	若原 保彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

授業形態	Moodle/Web Folder/zoom
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	カレントイングリッシュ b L3 えお(嶋村) current
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	学んだことを実際に使ってみる意識をもって取り組みましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐野 仁志
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	オリエンテーション	授業の進め方などを説明する。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方などを確認するとともに、最新技術に関する英語表現を予習する。(1時間)
2	科学技術に関する話題 (1)	トヨタ自動車の水素燃料電池についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	科学技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
4	環境に関する話題 (1)	グリーンランドの氷の溶解に関する話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	環境に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	環境に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
6	経済に関する話題 (1)	日本企業のアフリカの地熱発電に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
8	生物に関する話題 (1)	鳥のパートナー選びに関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	生物に関する英語表現を勉強する。(1時間)
9	生物に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
10	科学技術に関する話題 (1)	自動運転を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学技術に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	科学技術に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
12	経済に関する話題 (1)	労働者不足を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	経済に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1時間)
14	観光に関する話題	ツタンカーメンの墓を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	観光に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	科学に関する英語表現を勉強する。(1時間)

実務経験

関連科目 メディアイングリッシュ a, b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若野 保彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 遠隔授業

Teams コード zlvkwrp

Moodle コース名

および登録キー	
連絡手段	メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	世界で今何が起きているのか。英語の学習のみならず、様々な時事問題を扱いながら、知識を得たり、自分の考えを深めたりすることは、みなさんの生活をより「良い」ものにすることでしょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー(DP)	DP7oDP8o		
科目ナンバリング	LDL3051c0		

授業概要・目的	国際キャリアコース4年次の学生を対象とする。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。①対面および電話でのビジネス英会話を場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。②Eメールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。
到達目標	ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じてCEFR-J [B1.1]レベルの英語を話し、書けるようになる。
授業方法と留意点	ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等の演習が主となる。十分な予習をして授業に臨み、演習に積極的に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	電話のやりとり	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
3	伝言を受ける、依頼する	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
4	丁寧な依頼をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
5	不明点を問い合わせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
6	アポイントをとる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
7	要求をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
8	お詫びをする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
9	不在を知らせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
10	連絡事項の内容や理解を確認する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
11	電子メールの添付書類について説明する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
12	求人について問い合わせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
13	提案をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
14	お別れをする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
15	総括	全体ディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)

実務経験	
関連科目	リーディング IIIa, IIIb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Shorter Course in English for Business Communication	新田亜紀子	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト 40% 課題やレポートなどの提出物 30% 授業中の発表と取り組み姿勢 30%
学生へのメッセージ	慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しずつ学習していきましょう。 英語そのものだけではなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。 英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、一緒に頑張りましょう。 連絡先: iharashun0@gmail.com
担当者の研究室等	7号館2階非常勤控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	桑原 拓也
ディプロマポリシー(DP)	DP7oDP8o		
科目ナンバリング	LDL3052c0		

授業概要・目的	際キャリアコース4年次の学生を対象とする。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。①対面および電話でのビジネス英会話を場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。②Eメールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。
到達目標	ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じてCEFR-J [B1.1]レベルの英語を話し、書けるようになる。
授業方法と留意点	ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等の演習が主となる。十分な予習をして授業に臨み、演習に積極的に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アポイントとセールス	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
3	自己紹介、自社紹介	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
4	製品説明と交渉	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
5	希望、要望、提案を述べる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
6	製品について質問、確認をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
7	聞きにくいことを聞く、即答を避けたいことについて答える	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
8	賛成する、反対する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
9	妥協案や代替案を示す	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
10	譲歩を求める、問題点を指摘する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
11	価格と支払い条件を交渉する。	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
12	製品の数量、品質、保証について交渉する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
13	英文契約書を書く	サンプルの読解	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
14	英文契約書を書く	作文演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)
15	総括	全体ディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱(1時間)

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	v91hyn2
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト40% 課題やレポートなどの提出物30% 授業中の発表と取り組み姿勢30%
学生へのメッセージ	慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しずつ学習していきましょう。 英語そのものだけでなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。 英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、一緒に頑張りましょう。 使用するICTツール: Microsoft Teams
担当者の研究室等	7号館2階非常勤控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応

する。

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音(4), 子音(5)	発音編 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。課題やレポートに対するフィードバックはできるだけ詳細な講評を加えたうえで教室で行う。

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音(4), 子音(5)	発音編 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
------	--

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
--------------	-------------------------------

学生への メッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
---------------	--

担当者の 研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
--------------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1054e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	使役文、被動文、複合方向補語	第14課3	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
3	検定4級準備(1)リスニング	第15課1	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
4	検定4級準備(2)長文読解	第16課2	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
5	検定4級準備(3)長文読解	第17課2	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
6	第15課～17課到達度確認	復習+第15課～17単元テスト	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
7	検定4級準備(4)日文中訳	第18課4	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
8	検定4級準備(5)日文中訳	第19課4	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
9	検定4級準備(6)日文中訳	第20課4	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)教材音読	第21課3	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)日文中訳	第22課2	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)語彙と発音	第23課1	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
13	第21課～23課到達度確認	復習+第21課～第23課単元テスト	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)中文日訳	第24課4	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)教材音読	第25課3	教科書の該当部分を1時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	apk48fi
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	兪研究室(7号館3階)
備考	質問したい事項がある場合、担当教員の研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1054e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は演習形式で行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	第 15 課～17 課到達度確認	復習＋第 15 課～17 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	第 21 課～23 課到達度確認	復習＋第 21 課～第 23 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	20fabht
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を読む I a	科目名 (英文)	Chinese Reading I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1055e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (3), 鼻母音 (4), 子音 (3)	発音編 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	指示代名詞 2	第 6 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	能願動詞 1	第 10 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を読む I b	科目名 (英文)	Chinese Reading I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1056e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」のひとつで、『摂南大学中国語 I b』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は双方向のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	存現文、兼語文	第 14 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+ 第 15 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+ 第 16 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	160z1qe
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
備考	テストや課題は実施後に間違いの多かったところを復習し、口頭または書面でフィードバックを行います。

科目名	中国語を書く I a	科目名 (英文)	Chinese Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1057e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1)	発音編 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	形容詞述語文, 副詞 1, 変調	第 1 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	1 課小テスト, 是構文, 副詞 2, 構造助詞 1	第 2 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	2 課小テスト, 動目構造, 動詞重畳	第 3 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	数詞, 量詞 1	第 4 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	4 課小テスト, 数詞 3, 曜日	第 5 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	5 課小テスト, 方位詞, 不定代名詞, 量詞 2	第 6 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	選択疑問文, 副詞 7	第 7 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1 了 2, 副詞 8	第 8 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	副詞 9, 把字句	第 9 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	10 課小テスト, 能願動詞 2, 動量詞 3	第 11 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	11 課小テスト, 方向補語	第 12 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を書く I b	科目名 (英文)	Chinese Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1058e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	会話	第 13 課 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話	第 14 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) 長文読解	第 15 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 文法	第 16 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 文法	第 17 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (4) リスニング	第 18 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (5) リスニング	第 19 課 1+第 18 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (6) リスニング	第 20 課 1+第 19 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	第 18 課～20 課到達度確認	復習+第 18 課～20 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第 21 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第 22 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第 23 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第 24 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第 25 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第 25 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	5gt1bw5
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams 内のチャット、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得することができる。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。

試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業は双方型のオンラインで行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。

試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1060e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は演習形式で、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是への構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 1 b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	0ei5zzg
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1060e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は演習形式で、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是への構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 1 b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	3sg6tgq
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	ビジネス中国語 a	科目名 (英文)	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1061e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。基本的な語彙や文法を習得したあとはビジネス関連の内容も授業で取り上げる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできることを目指す。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルに到達できる。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、動画配信またはオンライン双方向の授業でしっかりと理解できるようにする。 2. 授業で学んだ内容についてWebでテストを行うほか、教材文の読み上げ音声や手書き原稿をWebFolderなどに提出することを求め、またその評価をフィードバックする。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	中国語知識	中国語を学ぶにあたっての基礎知識としての地理・民族・人口など中国に関する基本情報。	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
2	第1課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
3	第2課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
4	第3課	声調パタンの反復練習。 練習問題。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
5	第4課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
6	第5課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
7	第6課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
8	単元テスト1(第1課～第6課) 第7課	第1課～第6課で学習した事項の確認。 形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
9	第8課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
10	第9課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
11	第10課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
12	第11課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
13	第12課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
14	第13課	程度補語の使い方。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	
15	単元テスト2(第7課～第13課) まとめ	第1課～第6課で学習した事項の確認。 『中国語 I a』で学習したことのまとめ。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。	

実務経験	
------	--

関連科目	必修中国語科目(週4コマ)を必ず履修していること。
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	読み上げ音声など提出物：50% Moodle で実施するテスト：50%
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりとって授業に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	ビジネス中国語 b	科目名 (英文)	Business Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1062e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。ビジネス関連の話題も積極的に取り入れる。
到達目標	11月下旬の中国語検定4級試験受験までに、そのリスニング試験問題で6割以上の正答率を達成できるようになる。12月以降は4級試験の長文読解問題レベルの文章を教材とする。これにより正しくディクテーションしたりシャドーイングすることができる。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、演習形式の授業でしっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれら聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果(資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11月に実施される中国語検定試験4級に合格することを可能とする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第12課	12.1<方向補語> 12.2<進行文, 接続詞1> 12.3<疑問代名詞5, 副詞12> 12.4 会話12	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
3	復習	第10課～第12課会話文から出題	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
4	第13課	1. 是～的構文> 2. 助動詞「打算」「准?」、前置詞「?了」「除了」> 3. 疑問代名詞「?什?」、接続詞「因?」、 「所以」、可能補語> 4. 会話	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
5	第14課	1. 動態助詞「着」、気象現象> 2. 存現文, 兼語文> 3. 使役文, 被動文, 複合方向補語> 4. 会話	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
6	復習	第13課～第14課会話文から出題	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
7	第15課	漫画は好きですか? 検定4級準備(1)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
8	第16課	何年習っているの? 検定4級準備(2)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
9	第17課	どこで働いているの? 検定4級準備(3)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
10	第18課	お母さんのお仕事は? 検定4級準備(4)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
11	第19課	車で行く? 検定4級準備(5)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
12	第20課	電話くれた? 検定4級準備(6)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
13	第21課	ペットの名前は? 長文読解と既習事項確認(1)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
14	第22課	お友達の名前は? 長文読解と既習事項確認(2)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
15	第23課	妹さんおいくつ? 長文読解と既習事項確認(3)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。

実務経験	
関連科目	必修中国語科目「中国語を読むb」「中国語を話すb」「中国語を聞くb」「中国語を書くb」を必ず履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語1b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	bhxsohk			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 上に質問用フォームを設置し、メールなどの方法で回答する。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト：70% 単元テスト：30% ただし必要に応じてレポートの提出を求めこれを評価に含めることもある。			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりとって授業に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、下の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。			

科目名	映像中国語 a	科目名 (英文)	Film Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1063e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできるようになる。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルに到達できる。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1課	発音 四声、単母音、複母音、鼻母音 発音練習と聞く練習。	習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。
3	第2課	発音 母音の復習、子音。 発音練習と聞く練習。	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
4	第3課	「是」構文、「叫」と年齢の表現 読む、会話と聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第4課①	「在」、動詞述語文 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第4課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第5課①	形容詞述語文、疑問文 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第5課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	単元テスト1 (第3課～第5課) 第6課①	第1課～第6課で学習した事項の確認。 「有」構文、日付、時刻表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第6課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第7課①	反復疑問文、選択疑問文 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第7課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第8課①	動詞述語文、副詞「都」「也」 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第8課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	単元テスト2 (第6課～第8課) まとめ	第6課～第8課で学習した事項の確認。 まとめ	

実務経験	
関連科目	必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ここから 中国語	依藤 醇 工藤真理子	白帝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度と課題：70% テスト：30%			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりとって授業に臨んでほしい。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7号館2階			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西， 兪， 小都）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	映像中国語 b	科目名 (英文)	Film Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1064e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできるようになる。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルに到達できる。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。毎回出席し、課題を提出すること。テストを受けること。 1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、演習形式の授業によりこれらをしっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようにさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第9課①	副詞「在」「再」、時間の量 読む練習	習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。
	2	第9課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	3	第10課①	介詞「在」「離」 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	4	第10課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	5	第11課①	助動詞「会」、比較表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第11課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第12課①	介詞「給」、「怎?」の使い方 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第12課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	単元テスト1(第9課～第12課) 第13課①	第9課～第12課で学習した事項の確認。 助動詞「想」、「動詞+?’の使い方 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第13課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第14課①	買物するに関する表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第14課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第15課①	自己紹介に関する表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第15課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	単元テスト2(第13課～第15課) まとめ	第13課～第15課で学習した事項の確認。 まとめ	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
実務経験				

関連科目	必修中国語科目（週4コマ）を必ず履修していること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ここから 中国語	依藤 醇 工藤真理子	白帝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	qy0c1h6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度と課題 60% テスト：40%			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりとって授業に臨んでほしい。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7号館2階			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を聞くⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	礒 玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練し、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで6割以上を正解することができるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える。(1時間)
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)

実務経験	
関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を書くⅡa」「中国語を話すⅡa」 「メディア中国語Ⅰa」「観光中国語 a」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練し、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで6割以上を正解することができるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	一方向配信型授業によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。授業で学んだ内容についてWebでテストを行うほか、教材文の読み上げ音声や手書き原稿をWebFolderなどに提出することを求める。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法のガイダンス 問題のプレ実施	事後に問題を復習する。(1時間)
	2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える。(1時間)
	9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
	15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える。(1時間)

実務経験	
関連科目	「中国語を読むIIa」「中国語を書くIIa」「中国語を話すIIa」 「メディア中国語Ia」「観光中国語a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト:30% 単元テスト:70%
学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)
備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解し、これに受け答えできるように訓練するとともに、中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで7割以上を正解することができるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 Ib」「観光中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
------	-----------------

Teams コード	0120753
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	Teams上に質問用フォームを設置し、メールなどの方法で回答する。
------	-----------------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	レポート：70% テスト：30%
-----------	---------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。 試験や課題に対してメールなどを利用して必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礮 玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解し、これに受け答えできるように訓練するとともに、中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで7割以上を正解することができるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える。(1時間)
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする。事後に問題を復習する。(1時間)
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 Ib」「観光中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teams コード	tgekse1
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール、個人メール等
------	--------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を読むⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2067e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練し、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解することのできる読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は遠隔授業の教材配信型およびオンライン型による。本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級レベルの中国語の読解力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課 ?“洋?”	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
3	第1課 ?“洋?”	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
4	第2課 直率	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
5	第2課 直率	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
6	第3課 ??	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
7	第3課 ??	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
8	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第1回単元テスト	第1～3課の内容を復習し、単元テストにそなえる。
9	第4課 餐?	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第4課 餐?	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
11	第5課 ??和儿子	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第5課 ??和儿子	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
13	第6課 陪床	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第6課 陪床	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第2回単元テスト	第4～6課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

実務経験	
関連科目	「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「中国語を話すⅡa」「メディア中国語 a」「観光中国語 a」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：70% 単元テスト：30%
学生へのメッセージ	本文、文法の例文、練習問題はすべて事前に予習してきてください。原則として事前・事後に各60時間の学習を要します。
担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語を読むⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2068e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練し、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解することのできる読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は遠隔授業のオンライン型および教材配信型による。本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級レベルの中国語の読解力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	前期の復習	前期に学習した文法・語彙を復習する。
2	第7課 ??	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
3	第7課 ??	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
4	第8課 待遇	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
5	第8課 待遇	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
6	第9課 北京的天空	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
7	第9課 北京的天空	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
8	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第1回単元テスト	第7～9課の内容を復習し、単元テストにそなえる。
9	第10課 男朋友	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第10課 男朋友	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
11	第11課 没想到	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第11課 没想到	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
13	第12課 ?多芬和?板?	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第12課 ?多芬和?板?	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第2回単元テスト	第10～12課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

実務経験	
関連科目	「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」「メディア中国語 b」「観光中国語 b」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生のための現代中国 12話・4	黄漢青・杉野元子	白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	shy55f1
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：70% 単元テスト：30%
学生への メッセージ	本文、文法の例文、練習問題はすべて事前に予習してきてください。原則として事前・事後に各60時間の学習を要します。
担当者の 研究室等	小都研究室(7号館3階)
備考	課題および単元テストは次の授業または実施後に間違いの多かったところを復習し、口頭または書面でフィードバックを行います。

科目名	中国語を書くⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2069e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、中国語構文の仕組み全体を習得する。学んだ文法事項を日常会話に使える練習も行う。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・文型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得することができる。
授業方法と留意点	オンライン型授業を実施する。 演習形式の授業である。中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教科書のコンセプトの紹介	一、文の構造と語順 ①単文の語順習得ポイント ②複文の語順習得ポイント 二、日本語から中国語への変換するトレーニングについて 三、前期の目標	p6～p30 を読んでおくこと。
2	中級の基本文型を覚える①	(1)「述語+目的語」のバリエーション ・1～3 離合詞	p38～43 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p196 を学習すること。
3	中級の基本文型を覚える②	(2) 述語のバリエーション① ・4～5 状態補語 ・6～7 程度補語	p44～51 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p197 を学習すること。
4	中級の基本文型を覚える③	述語のバリエーション② ・8～9 可能補語 ・10 形容詞の重ね型	p44～51 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p198 を学習すること。
5	*復習と単元テスト1 中級の基本文型を覚える④	・単元テスト1 (3)「述語+目的語」のバリエーション 11 存在文 ・12 現象文 ・13「是・・・的」構文	第1回～4回までの例文を復習すること。 p52～63 の録音を聞いて例文を覚えること。
6	中級の基本文型を覚える⑤	(4) 動詞の修飾 ・14 受け身文 ・15～16「把」構文	p64～69 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p199 を学習すること。
7	中級の基本文型を覚える⑥	動詞の修飾 ・17～18「把」構文 ・19「～地」の連用修飾表現	p70～75 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p200 を学習すること。
8	補語のバリエーションを覚える①	(5) 述語のバリエーション① ・20～22 結果補語	p78～83 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p201 を学習すること。
9	補語のバリエーションを覚える②	述語のバリエーション② ・23～25 方向補語の派生用法	p84～89 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p202 を学習すること。
10	*復習と単元テスト2 補語のバリエーションを覚える③	・単元テスト2 述語のバリエーション③ ・26～27 方向補語の派生用法	第5回～9回までの例文を復習すること。 p90～93 の録音を聞いて例文を覚えること。
11	補語のバリエーションを覚える④	(6)「述語+目的語」のバリエーション① ・28～29 方向補語の派生用法	p94～97 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p203 を学習すること。
12	補語のバリエーションを覚える⑤	「述語+目的語」のバリエーション② ・30～31 方向補語の派生用法	p98～101 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p204 を学習すること。
13	補語のバリエーションを覚える⑥	「述語+目的語」のバリエーション③ ・32～33 方向補語の派生用法	p102～105 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p205 を学習すること。
14	補語のバリエーションを覚える⑦	「述語+目的語」のバリエーション④ ・34～35 方向補語の派生用法	p106～109 の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングの p206 を学習すること。
15	*復習と単元テスト2	・単元テスト3 ・p207～p216 のフレーズトレーニングの学習	第10回～14回までの例文を復習すること。トレーニングの p207～p216 を復習すること。

実務経験

関連科目 「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 口を鍛える中国語作文 初級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

授業形態
Teams コード
Moodle コース名

および登録キー 連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題提出 50%、単元テスト 50%
学生への メッセージ	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の 研究室等	7号館3階(兪研究室)
備考	オンライン型授業時間外に質問したい場合、担当教員にメールで問い合わせること。 Web 試験や課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を書くⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2070e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、中国語構文の仕組み全体を習得する。学んだ文法事項を日常会話に使える練習も行う。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・文型・語彙を使えばよいかを判断できるスキルを習得することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	補語のバリエーションを覚える	・後期の目標 (6)「述語+目的語」のバリエーション ・32～35方向補語の派生用法	p102～109の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp217を学習すること。
2	副詞を用いた文を覚える①	(7) 複文表現① ・36～38「就」の呼応表現 ・39「就」の呼応表現	p112～119の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp218を学習すること。
3	副詞を用いた文を覚える②	複文表現② ・40「也」の呼応表現 ・41「都」「也」の呼応表現 ・42～43「都」「也」の呼応表現	p121～127の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp219を学習すること。
4	副詞を用いた文を覚える③	複文表現③ ・44「都」「也」の呼応表現 ・45「都」「也」の呼応表現 ・46「才」の呼応表現 ・47「就」の表現	p129～135の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp220を学習すること。
5	*復習と単元テスト1 副詞を用いた文を覚える⑤	・単元テスト1 複文表現⑤ ・48「也」の表現 ・49「就」と「才」の表現	第1回～4回までの例文を復習すること。 p136～139の録音を聞いて例文を覚えること。
6	中国語特有の慣用表現①	(8) 慣用表現① ・50～52「除了・・・」「先・・・再・・・」 「一辺・・・」	p142～147の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp221を学習すること。
7	中国語特有の慣用表現②	慣用表現② ・53～55「或者・・・」「一会・・・」「不然・・・」	p148～153の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp222を学習すること。
8	中国語特有の慣用表現③	慣用表現③ ・56～58「有・・・」「与其・・・」「越・・・」	p154～159の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp223を学習すること。
9	中国語特有の慣用表現④	慣用表現④ ・59～61「只能・・・」「不但・・・」「雖然・・・」	p160～165の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp224を学習すること。
10	*復習と単元テスト2 中国語特有の慣用表現⑤	・単元テスト2 慣用表現⑤ ・62～64「不是・・・」「又・・・」「因為・・・」	第5回～9回までの例文を復習すること。 p166～171の録音を聞いて例文を覚えること。
11	中国語特有の慣用表現⑥	慣用表現⑥ ・65～67「対・・・來說・・・」「・・・是・・・, 但・・・」「好像・・・」	p172～177の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp225を学習すること。
12	中国語特有の慣用表現⑦	慣用表現⑦ ・68～70「有点・・・」「非・・・不可」「非得・・・」	p178～183の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp226を学習すること。
13	中国語特有の慣用表現⑧	慣用表現⑧ ・71～73「難怪・・・」「一則・・・」「難道・・・」	p184～189の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp227を学習すること。
14	中国語特有の慣用表現⑨	慣用表現⑨ ・74～75「要・・・」「寧可・・・也・・・」	p190～193の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp228を学習すること。
15	*復習と単元テスト2	・単元テスト3 ・p229～p233のフレーズトレーニングの学習	第10回～14回までの例文を復習すること。トレーニングのp229～p233を復習すること。

実務経験	
関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 口を鍛える中国語作文 上級編	平山邦彦	コスモビア
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	ilr9yg7
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テスト50%、単元テスト50%
学生への メッセージ	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
担当者の 研究室等	7号館3階(兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験3級の合格を目指すレベルに到達する。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第1課の会話 (後半) を覚えること。
3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第2課の会話 (前半) を覚えること。
4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第2課の会話 (後半) を覚えること。
5	復習課	・第1～2課の復習 ・単元テスト1	第1～2課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果…的話」 ・文型「一…就…」 ・助動詞「應該」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第3課の会話 (前半) を覚えること。
7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第3課の会話 (後半) を覚えること。
8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越来越…」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第4課の会話 (前半) を覚えること。
9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第4課の会話 (後半) を覚えること。
10	復習課	・第3～4課の復習 ・単元テスト2	第3～4課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「為了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第5課の会話 (前半) を覚えること。
12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第5課の会話 (後半) を覚えること。
13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「會」 ・動詞「告訴」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第6課の会話 (前半) を覚えること。
14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第6課の会話 (後半) を覚えること。
15	復習課	・第5～6課の復習 ・単元テスト3	第5～6課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

実務経験	
関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「メディア中国語 a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	出席・課題：70% テスト：30%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都、中西、兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験3級の合格を目指すレベルを目指す。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第1課の会話(後半)を覚えること。
3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第2課の会話(前半)を覚えること。
4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第2課の会話(後半)を覚えること。
5	復習課	・第1～2課の復習 ・単元テスト1	第1～2課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果…的話」 ・文型「一…就…」 ・助動詞「應該」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第3課の会話(前半)を覚えること。
7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第3課の会話(後半)を覚えること。
8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越来越…」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第4課の会話(前半)を覚えること。
9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第4課の会話(後半)を覚えること。
10	復習課	・第3～4課の復習 ・単元テスト2	第3～4課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「為了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第5課の会話(前半)を覚えること。
12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第5課の会話(後半)を覚えること。
13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「會」 ・動詞「告訴」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第6課の会話(前半)を覚えること。
14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第6課の会話(後半)を覚えること。
15	復習	・第5～6課の復習 ・単元テスト3	第5～6課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	出席・課題：70% テスト：30%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験3級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業である。読む、書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。「中国語を話すⅡ b」Lクラスの担当者は曹櫻。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59?p61) を解答してくること。第7課の会話 (後半) を覚えること。
3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65?p66) を解答してくること。第8課の会話 (前半) を覚えること。
4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67?p69) を解答してくること。第8課の会話 (後半) を覚えること。
5	復習課	・第7～8課の復習	第7～8課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一边・・・一边・・・」 ・文型「A跟(和) B一样・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73?p74) を解答してくること。第9課の話 (前半) を覚えること。
7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75?p77) を解答してくること。第9課の会話 (後半) を覚えること。
8	第十課 専門店で購入①	・終助詞「?」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81?p82) を解答してくること。第10課の会話 (前半) を覚えること。
9	専門店で購入②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83?p85) を解答してくること。第10課の会話 (後半) を覚えること。
10	復習課	・第9～10課の復習	第9～10課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89?p90) を解答してくること。第11課の会話 (前半) を覚えること。
12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91 - p93) を解答してくること。第11課の会話 (後半) を覚えること。
13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「??」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97?p98) を解答してくること。第12課の会話 (前半) を覚えること。
14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99?p101) を解答してくること。第12課の会話 (後半) を覚えること。
15	復習課	・第11～12課の復習	第11～12課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

実務経験	
関連科目	「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
2				

	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teams コード	pp17521		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	オンライン課題提出：60% オンラインテスト：40%		
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各60分の学修を要する。		
担当者の 研究室等			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。		

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験3級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。毎回出席し、課題を提出すること。テストを受けること。 読む、書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。 「中国語を話すⅡ b」Kクラスの担当者は段飛虹である。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59~p61) を解答していただくこと。第7課の会話(後半)を覚えること。
3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65~p66) を解答していただくこと。第8課の会話(前半)を覚えること。
4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67 - p69) を解答していただくこと。第8課の会話(後半)を覚えること。
5	復習課	・第7~8課の復習	第7~8課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一边・・・一边・・・」 ・文型「A跟(和) B一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73~p74) を解答していただくこと。第9課の会話(前半)を覚えること。
7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75 - p77) を解答していただくこと。第9課の会話(後半)を覚えること。
8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「?」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81~p82) を解答していただくこと。第10課の会話(前半)を覚えること。
9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83 - p85) を解答していただくこと。第10課の会話(後半)を覚えること。
10	復習課	・第9~10課の復習	第9~10課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89~p90) を解答していただくこと。第11課の会話(前半)を覚えること。
12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91 - p93) を解答していただくこと。第11課の会話(後半)を覚えること。
13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「?」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97~p98) を解答していただくこと。第12課の会話(前半)を覚えること。
14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99 - p101) を解答していただくこと。第12課の会話(後半)を覚えること。
15	復習課	・第11~12課の復習	第11~12課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

実務経験	
関連科目	「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		

	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	qryppu2			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題：60%、テスト：40%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	メディア中国語 a	科目名 (英文)	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2073e0		

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成することができる。検定3級レベルから2級レベルに焦点を合わせた授業によりこれらの級を取得することができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業である。既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各60分の学修を要する。 オンラインによる双方向授業を実施。
科目学習の効果(資格)	中国語検定3級合格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	呼び名の変化1	会話練習 と 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	2	呼び名の変化 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	3	呼び名の変化 チェックテスト 飲食の変化1	チェックテスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	4	飲食の変化2	会話練習 と 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	5	飲食の変化 チェックテスト 社会の変化1	文章読解 と 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	6	社会の変化2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	7	社会の変化 チェックテスト 住まい1	チェックテスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	8	住まい 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	9	住まい チェックテスト 現代の結婚観 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	10	現代の結婚観 2	★ 単元テスト(3) 第7回~9回 会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	11	現代の結婚観 チェックテスト 北京 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	12	北京 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	13	北京 チェックテスト 上海 1	チェックテスト 会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	14	上海 2	会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	15	上海チェックテスト	チェックテスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分

実務経験	
関連科目	「中国語を読むIIa」「中国語を聞くIIa」「中国語を話すIIa」「中国語を書くIIa」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知ってる?今の中国 ダイジェスト版	山下輝彦・路元	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	学期中に7回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と会話発表: 30% 単元テスト: 70%

学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師控室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	メディア中国語 b	科目名 (英文)	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2074e0		

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。
到達目標	中国語の総合力を養うことで、検定3級から2級合格する力をつけることができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業である。既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定3級～2級合格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	海外旅行 1	会話練習・基礎知識の演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	2	海外旅行 2	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	3	海外旅行 復習 Wechat 1	チェックテスト 文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	4	Wechat 2	★ 単元テスト(1) 第1～3回 会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	5	Wechat 復習 服装の変化 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	6	服装の変化 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	7	服装の変化 復習 移民 1	チェックテスト 会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	8	移民 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	9	移民 復習 西安 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	10	西安 2	会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	11	西安 復習 広州 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	12	広州 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	13	広州 復習 経済の発展 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	14	経済の発展 2	会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分
	15	復習	チェックテスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30分

実務経験	
関連科目	「中国語を読む I Ib」「中国語を聞く I Ib」「中国語を話す I Ib」「中国語を書く I Ib」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知ってる?今の中国 ダイジェスト版	山下輝彦・路元	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	rq4xtum
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	学期中に5回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と会話発表、平常評価 : 30% 単元テスト : 70%
学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。
担当者の研究室等	講師控室(7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	観光中国語 a	科目名 (英文)	Tourism Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2075e0		

授業概要・目的
 近年、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、自分の世界はもっと広がる。
 本講義は、中国一番の大都市―上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。

到達目標
 観光中国語の会話能力を身に付けることができる。

授業方法と留意点
 演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。春学期はオンライン授業を行います。

科目学習の効果 (資格)
 中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE! 上海1の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
8	第6課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
12	第10課 朝食後は何をしますか?	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
14	復習2、総合練習、小テスト	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2時間)。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2時間)。

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名

および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法 (基準) テスト、課題、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。
 授業への参加度と発表: 30%
 テスト: 70%

学生へのメッセージ 最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 事前・事後に各60分の学修を要する。
 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	観光中国語 b	科目名 (英文)	Tourism Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2076e0		

授業概要・目的	近年、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、自分の世界はもっと広がる。 本講義は、中国一番の大都市―上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付けることができる。

授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。秋学期もオンライン授業を行います。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。
--------------	-----------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
3	第12課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
4	第13課 日本料理を食べたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
5	第14課 お寺に興味はありますか 復習3	第10課から第14課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
6	小テスト 第15課 日本料理を食べ	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
7	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
8	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
9	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
10	第19課 帰国前のひととき、復習4	第15課から第19課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
11	小テスト 第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
14	復習5、小テスト、作文を書く	第20課から第22課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する (2時間)。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2時間)。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	d7oylgn

Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	Teams 内のチャット、学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% 単元テスト：60%
-----------	--

学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	貿易中国語 a	科目名 (英文)	Chinese for International Trade a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3077e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場、接客業のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を得る。
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、外国語でのコミュニケーション力を高めることができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。春学期はオンラインを行います。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験2級や通訳案内士試験の受験。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 金額を伝える、支払い方法、お金を受け取る・渡す	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
3	第3課 クレジットカード、ポイントカード・スタンプカード、レシート・領収書を発行する	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
4	第4課 電話を応対する、お客様を見送る、忘れ物の対応をする、営業日・営業時間を伝える	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
5	復習1、総合練習、小テスト	第1課から第4課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する
6	第5課 来店したお客様に、席に案内する、すぐに案内できない場合は、予約の電話を受ける	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
7	第6課 店のシステムを説明する、お代わり・食(飲み)放題の説明をする、注文を受ける	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
8	第7課 好み・意向を聞く、苦手食材・アレルギーを確認する、お薦めのメニューを案内する	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
9	第8課 特別な配慮をする、食材・食べ方の説明をする、料理を運ぶ・下げる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
10	復習2、総合練習、小テスト	第5課から第8課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する
11	第9課 問い合わせ・クレームに対応する、お願い・注意をする、ファストフード店・カフェ	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
12	第10課 和食店、居酒屋、バー	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
13	第11課 店内のお客様に声をかける、お客様の希望を尋ねる、セール・キャンペーンの案内をする、特長・お得感をアピールする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
14	第12課 褒める、意見・感想を述べる、「できない」と言う・注意する、在庫を確認する、取り寄せる、取り置きする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する
15	復習3、総合練習、小テスト、発表会	第9課から第12課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする	発表の内容を準備する

実務経験	
関連科目	3年次の専門科目の中の各中国語科目 (必修と選択)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テストと課題：60%			
学生への メッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	貿易中国語 b	科目名 (英文)	Chinese for International Trade b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3078e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場と接客業のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高めることができる。
授業方法と留意点	授業は双方型のオンラインで行う。単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験2級や通訳案内士試験の受験。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第11課 店内のお客様に声をかける、お客様の希望を尋ねる、セール・キャンペーンの案内をする、特長・お得感をアピールする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	2	第12課 褒める、意見・感想を述べる、「できない」と言う、注意する、在庫を確認する、取り寄せる、置き置きする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	3	第13課 免税品(消費税)を扱う、値引き交渉に対応する、包装方法を尋ねる、持ち帰り時の配慮をする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	4	第14課 配送方法を尋ねる、修理・返品について説明する、お待ちいただく、衣料品店	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	5	第15課 宝飾品店、サイズについて述べる、スーパー・コンビニ、家電量販店	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	6	復習1、小テスト 第16課 雑貨店・土産物屋、化粧品店、空港免税店	第11課から第15課までの内容を復習する 単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	7	第17課 あいさつ、チェックイン、フロント、館内案内、食事	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	8	第18課 電話(予約対応)、電話(宿泊客向け)、入浴、清掃	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	9	第19課 クレームに対応する、チェックアウト、写真を撮る、ツアー	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	10	第20課 遊園地、美術館・博物館・劇場、入場料、エステ・マッサージ店、美容院	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	11	復習2、小テスト 第21課 とっさの対応、病院・クリニック、ドラッグストア・薬局	第16課から第20課までの内容を復習する 単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	12	第22課 迷子・呼び出し、万引き・盗難、建物の中、建物の外	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	13	第23課 順番待ち、特売品・割引、禁止事項、セルフ・ご自由に、トイレ、店舗のサービス、お客様にお願い、在庫、お薦め	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	14	第24課 会計、日時・スケジュール、防犯、細やかな配慮、食べ放題・飲み放題	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	15	復習3、小テスト、発表会	第21課から第24課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする	発表の内容を準備する。

実務経験	
関連科目	3年次の専門科目の中の各中国語科目(必修と選択)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	mfj43sd			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 内のチャット、学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% 小テスト：60%			
学生への メッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習です。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高めます。パワーポイントを使ったプレゼンテーションの練習もします。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	オンライン型授業を実施する。 語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	a、コンビニが増えるのは必ずしも健全ではない b、東京スカイツリーと心柱	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
3	a、犬を飼うとはどういうことか b、幸せな晩年をすごせるだろうか?	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
4	a、同じ行為と違う目的 b、運動会の教訓	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
5	a、引越しとふるさと b、スポーツと年齢	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
6	a、画家の精神力 b、何が「本当の善意」か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
7	プレゼン会1	1、プレゼンテーション。2、筆記試験1。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。
8	パラダイム転換	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
9	a、適切な経済状態 b、発展の阻害要因	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
10	a、超二流をめざせ b、ビジネスの本質	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
11	a、他人を信じられますか b、国家の実力は武力に非ず	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
12	a、正しく歩くには何が必要か b、便利さを失いたくありませんか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
13	a、身近なハイテク b、誰が本当は有能なのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
14	プレゼン会2	1、プレゼンテーション。2、筆記試験2。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。
15	合同プレゼン会	合同プレゼン会。	合同プレゼン会の準備をする。

実務経験	
関連科目	特になし。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100読練習法	木本一彰	東方書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題提出 40%、プレゼン会 40%、筆記試験 20%の割合で成績を評価する。
学生への メッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	オンライン型授業時間外に質問したい場合、担当教員へメールで問い合わせること。 試験や課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。 (プレゼン会も筆記試験もオンライン型授業中に実施する。読み上げ音声の課題提出を求めることがある。)

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習です。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高めます。パワーポイントを使ったプレゼンテーションの練習もします。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	オンライン型授業を実施する。 語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	a、コンビニが増えるのは必ずしも健全ではない b、東京スカイツリーと心柱	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
3	a、犬を飼うとはどういうことか b、幸せな晩年をすごせるだろうか?	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
4	a、同じ行為と違う目的 b、運動会の教訓	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
5	a、引越しとふるさと b、スポーツと年齢	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
6	a、画家の精神力 b、何が「本当の善意」か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。2、筆記試験 1。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。
8	パラダイム転換	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
9	a、適切な経済状態 b、発展の阻害要因	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
10	a、超二流をめざせ b、ビジネスの本質	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
11	a、他人を信じられますか b、国家の実力は武力に非ず	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
12	a、正しく歩くには何が必要か b、便利さを失いたくありませんか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
13	a、身近なハイテク b、誰が本当は有能なのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
14	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。2、筆記試験 2。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。
15	合同プレゼン会	合同プレゼン会。	合同プレゼン会の準備をする。

実務経験	
関連科目	特になし。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100読練習法	木本一彰	東方書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題提出 40%、プレゼン会 40%、筆記試験 20%の割合で成績を評価する。
学生への メッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	オンライン型授業時間外に質問したい場合、担当教員へメールで問い合わせること。 試験や課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。 (プレゼン会も筆記試験もオンライン型授業中に実施する。読み上げ音声の課題提出を求めることがある。)

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習です。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高めます。パワーポイントを使ったプレゼンテーションの練習もします。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。与えられた課題にしっかり取り組むこと。繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	出世のゴール	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
2	a、不自由の自由はないのか b、発展の方向	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
3	a、スポーツと経済の関係 b、競争能力	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
4	a、友達の定義 b、寄付と善意	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
5	a、変わらない理由 b、誰を励ますのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
6	a、50歳の挑戦は大変 b、最後の仕事	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
7	プレゼン会1	1、プレゼンテーション。2、筆記試験1。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。
8	日本人の英語	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
9	a、日本の技術力をどう利用するか b、規定を守るべきか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
10	a、みんなが必要だと認めてはじめてルールを変えるべきだ b、一杯やる付き合いの効能	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
11	a、若い友人の結婚 b、宝塚「ブスの25か条」	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
12	a、やる気をもって自ら困難を克服しよう b、見識を増やす付き合い	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
13	a、自己肯定 b、老いることと成熟の違い	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
14	a、身近なハイテク b、だれが本当は有能なのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
15	プレゼン会2	1、プレゼンテーション。2、筆記試験2。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。

実務経験	
------	--

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100読練習法	木本一彰	東方書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	owl0yig
----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題発表 40%、プレゼン会 40%、筆記試験 20%の割合で成績を評価する。
学生への メッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に問い合わせること。

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習です。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高めます。パワーポイントを使ったプレゼンテーションの練習もします。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。与えられた課題にしっかり取り組むこと。繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	出世のゴール	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
2	a、不自由の自由はないのか b、発展の方向	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
3	a、スポーツと経済の関係 b、競争能力	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
4	a、友達の定義 b、寄付と善意	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
5	a、変わらない理由 b、誰を励ますのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
6	a、50歳の挑戦は大変 b、最後の仕事	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
7	プレゼン会1	1、プレゼンテーション。2、筆記試験1。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。
8	日本人の英語	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
9	a、日本の技術力をどう利用するか b、規定を守るべきか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
10	a、みんなが必要だと認めてはじめてルールを変えるべきだ b、一杯やる付き合いの効能	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
11	a、若い友人の結婚 b、宝塚「ブスの25か条」	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
12	a、やる気をもって自ら困難を克服しよう b、見識を増やす付き合い	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
13	a、自己肯定 b、老いることと成熟の違い	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
14	a、身近なハイテク b、だれが本当は有能なのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CDを聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
15	プレゼン会2	1、プレゼンテーション。2、筆記試験2。	プレゼン会の準備をする。筆記試験の準備をする。

実務経験	
------	--

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100読練習法	木本一彰	東方書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	3jeosxw
----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題発表 40%、プレゼン会 40%、筆記試験 20%の割合で成績を評価する。
学生への メッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組む姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7号館3階
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語コミュニケーション a	科目名 (英文)	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3081d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一歩向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 1 課から第 2 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第三課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第三課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第四課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第四課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 3 課から第 4 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第五課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第五課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第六課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第六課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
15	おさらい *単元テスト③	第 5 課から第 6 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。	

実務経験	
関連科目	特になし。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	温故知新！中国語	虞 萍	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	出席・課題 70% テスト：30%
学生への	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。

メッセージ	事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語コミュニケーション b	科目名 (英文)	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3082d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。			
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになる。			
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。毎回出席し、課題を提出すること。テストを受けること。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。			
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第七課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第八課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第八課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 7 課から第 8 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第九課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第九課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第十課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第十課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 9 課から第 10 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第十一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第十一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第十二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第十二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	15	おさらい *単元テスト③	第 11 課から第 12 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。
実務経験				
関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	温故知新! 中国語	虞 萍	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	tmni43b			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	課題・会話 60% テスト: 40%			

学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	スペイン語入門A	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1083e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。6月にポキャブラリ・コンテストを実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説と課題の提示をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて学習し、練習問題を通じて理解を図る。 教科書の文法解説ページの例文和訳、各課最後のページの練習問題、および補足で課す課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からの添削やフィードバックを必ず確認すること。 質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、受講生全員と共有する
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 スペイン語検定6級を取得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、教数0～10	教科書第1課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』pp.2-5の語彙を覚える。(1時間)
2	2課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞0～10	教科書2課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』pp.6-9の語彙を覚える。(1時間)
3	3課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書3課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1課～3課を終復習しテストに備える。(1時間)
4	1課～3課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。(1時間)
5	4課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a、de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書4課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』pp.15-18の語彙を覚える。(1時間)
6	5課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書5課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』pp.19-23の語彙を覚える。(1時間)
7	5課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書5課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』pp.23-27の語彙を覚える。(1時間)
8	6課 1人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞(前置形)	教科書6課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4課～6課を終復習しテストに備える。(1時間)
9	4課～6課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.28-33の語彙を覚える。(1時間)
10	7課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞(後置形)	教科書7課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』pp.34-39の語彙を覚える。(1時間)
11	8課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞(句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書8課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』pp.40-44の語彙を覚える。(1時間)
12	9課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書9課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9課を終復習し、テストに備える。(1時間)
13	7課～9課のテストと復習	不規則変化動詞(直説法現在のみ)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.46-49の語彙を覚える。(1時間)
14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1時間)
15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.7-43)までの総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語入門B スペイン語入門C スペイン語応用I スペイン語オラルI
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3科目で同じ成績がつく。 ・毎週の課題提出状況 (40%)、練習問題の解答の質 (30%)、語彙力セルフチェックテストの取り組み&ボキャブラリコンテスト (30%)
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習 (教科書や授業以外での取り組み) が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は14回目の授業で行い、その返却と見直しは15回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門A	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1083e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。6月にポキャブラリ・コンテストを実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説と課題の提示をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて学習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・教科書の文法解説のページの例文和訳、各課最後のページの練習問題、および補足で課す課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からの添削やフィードバックを確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、受講生全員と共有する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定6級を取得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、教数0～10	教科書第1課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』pp.2-5の語彙を覚える。(1時間)
2	2課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞0～10	教科書2課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』pp.6-9の語彙を覚える。(1時間)
3	3課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書3課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1課～3課を終復習しテストに備える。(1時間)
4	1課～3課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。(1時間)
5	4課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a、de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書4課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』pp.15-18の語彙を覚える。(1時間)
6	5課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問文を用いる疑問文の作り方	教科書5課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』pp.19-23の語彙を覚える。(1時間)
7	5課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書5課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』pp.23-27の語彙を覚える。(1時間)
8	6課 1人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞(前置形)	教科書6課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4課～6課を終復習しテストに備える。(1時間)
9	4課～6課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.28-33の語彙を覚える。(1時間)
10	7課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞(後置形)	教科書7課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』pp.34-39の語彙を覚える。(1時間)
11	8課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞(句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書8課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』pp.40-44の語彙を覚える。(1時間)
12	9課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書9課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9課を終復習し、テストに備える。(1時間)
13	7課～9課のテストと復習	不規則変化動詞(直説法現在のみ)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.46-49の語彙を覚える。(1時間)
14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1時間)
15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.7-43)までの総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語入門B スペイン語入門C スペイン語応用I スペイン語オラルI
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3科目で同じ成績がつく。 ・毎週の課題提出状況 (40%)、練習問題の解答の質 (30%)、語彙力セルフチェックテストの取り組み&ボキャブラリコンテスト (30%)
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は14回目の授業で行い、その返却と見直しは15回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門 B	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1084e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語入門 A」「同 B」「同 C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門 A」「同 B」「同 C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。6月にポキャブラリ・コンテストを実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門 A」「入門 B」「入門 C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説と課題の提示をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて学習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・教科書の文法解説ページの例文和訳、各課最後のページの練習問題、および補足で課す課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からの添削やフィードバックを確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、受講生全員と共有する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級を取得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、教数 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を終復習しテストに備える。(1 時間)
4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a, de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問文を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を終復習しテストに備える。(1 時間)
9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を終復習し、テストに備える。(1 時間)
13	7 課～9 課のテストと復習	不規則変化動詞 (直説法現在のみ)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語入門 A スペイン語入門 C スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語入門A、B、Cは総合的に評価するため、3科目で同じ成績がつく。 ・毎週の課題提出状況(40%)、練習問題の解答の質(30%)、語彙力セルフチェックテストの取り組み&ボキャブラリコンテスト(30%)
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習(教科書や授業以外での取り組み)が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	7号館5階 藤井研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は14回目の授業で行い、その返却と見直しは15回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門 B	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1084e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語入門 A」「同 B」「同 C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門 A」「同 B」「同 C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。6月にポキャブラリ・コンテストを実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門 A」「入門 B」「入門 C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説と課題の提示をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて学習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・教科書の文法解説ページの例文和訳、各課最後のページの練習問題、および補足で課す課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からの添削やフィードバックを確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、受講生全員と共有する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級を取得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、教数 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を終復習しテストに備える。(1 時間)
4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a、de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を終復習しテストに備える。(1 時間)
9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を終復習し、テストに備える。(1 時間)
13	7 課～9 課のテストと復習	不規則変化動詞 (直説法現在のみ)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語入門 A スペイン語入門 C スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語入門A、B、Cは総合的に評価するため、3科目で同じ成績がつく。 ・毎週の課題提出状況(40%)、練習問題の解答の質(30%)、語彙力セルフチェックテストの取り組み&ボキャブラリコンテスト(30%)
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習(教科書や授業以外での取り組み)が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 講師控室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は14回目の授業で行い、その返却と見直しは15回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門C	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1085e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。6月にポキャブラリ・コンテストを実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説と課題の提示をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて学習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・教科書の文法解説ページの例文和訳、各課最後のページの練習問題、および補足で課す課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からの添削やフィードバックを必ず確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、受講生全員と共有する
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定6級を取得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、教数0～10	教科書第1課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』pp.2-5の語彙を覚える。(1時間)
2	2課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞0～10	教科書2課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』pp.6-9の語彙を覚える。(1時間)
3	3課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書3課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1課～3課を終復習しテストに備える。(1時間)
4	1課～3課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。(1時間)
5	4課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a、de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書4課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』pp.15-18の語彙を覚える。(1時間)
6	5課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問文を用いる疑問文の作り方	教科書5課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』pp.19-23の語彙を覚える。(1時間)
7	5課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書5課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』pp.23-27の語彙を覚える。(1時間)
8	6課 1人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞(前置形)	教科書6課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4課～6課を終復習しテストに備える。(1時間)
9	4課～6課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.28-33の語彙を覚える。(1時間)
10	7課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞(後置形)	教科書7課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』pp.34-39の語彙を覚える。(1時間)
11	8課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞(句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書8課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』pp.40-44の語彙を覚える。(1時間)
12	9課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書9課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9課を終復習し、テストに備える。(1時間)
13	7課～9課のテストと復習	不規則変化動詞(直説法現在のみ)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.46-49の語彙を覚える。(1時間)
14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1時間)
15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.7-43)までの総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語入門B スペイン語入門C スペイン語応用I スペイン語オラルI
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3科目で同じ成績がつく。 ・毎週の課題提出状況 (40%)、練習問題の解答の質 (30%)、語彙力セルフチェックテストの取り組み&ボキャブラリコンテスト (30%)
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は14回目の授業で行い、その返却と見直しは15回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門C	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1085e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。6月にポキャブラリ・コンテストを実施する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説と課題の提示をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて学習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・教科書の文法解説ページの例文和訳、各課最後のページの練習問題、および補足で課す課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からの添削やフィードバックを必ず確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、受講生全員と共有する
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定6級を取得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、教数0～10	教科書第1課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』pp.2-5の語彙を覚える。(1時間)
2	2課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞0～10	教科書2課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』pp.6-9の語彙を覚える。(1時間)
3	3課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書3課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1課～3課を終復習しテストに備える。(1時間)
4	1課～3課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。(1時間)
5	4課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a、de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書4課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』pp.15-18の語彙を覚える。(1時間)
6	5課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問文を用いる疑問文の作り方	教科書5課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』pp.19-23の語彙を覚える。(1時間)
7	5課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書5課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』pp.23-27の語彙を覚える。(1時間)
8	6課 1人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞(前置形)	教科書6課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4課～6課を終復習しテストに備える。(1時間)
9	4課～6課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.28-33の語彙を覚える。(1時間)
10	7課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞(後置形)	教科書7課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』pp.34-39の語彙を覚える。(1時間)
11	8課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞(句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書8課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』pp.40-44の語彙を覚える。(1時間)
12	9課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書9課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9課を終復習し、テストに備える。(1時間)
13	7課～9課のテストと復習	不規則変化動詞(直説法現在のみ)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』pp.46-49の語彙を覚える。(1時間)
14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1時間)
15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.7-43)までの総復習(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語入門A スペイン語入門B スペイン語応用I スペイン語オラルI
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3科目で同じ成績がつく。 ・毎週の課題提出状況 (40%)、練習問題の解答の質 (30%)、語彙力セルフチェックテストの取り組み&ボキャブラリコンテスト (30%)
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習 (教科書や授業以外での取り組み) が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は14回目の授業で行い、その返却と見直しは15回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎 A	科目名 (英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1086e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語基礎 A」「同 B」「同 C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎 A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに運用できる。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 <p>接続法の 4 つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤を手にする。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎 A」「基礎 B」「基礎 C」のすべてを併せて履修すること。 ・Teams を使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収は WebFolder で行う。 ・教科書の各課ごとに、前期の「入門」と同様に、文法解説の 3 ページを書き写し、例文には和訳を付し、Ejercicios を解答する。それをその都度指定される教員の WebFolder に期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・補足教材として配布される課題の提出期日と小テスト (3-4 回実施) の日程・
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』 pp. 2-9 の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2 種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1 億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』 pp. 15-20 の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』 pp. 21-23 の語彙を覚える。10~12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課~12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』 pp. 24-27 の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去 (規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』 pp. 28-32 の語彙を覚える。
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去 (不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13~15 課を総復習しテストに備える『単語帳』 pp. 33-36 の語彙を覚える。
	9	13 課~15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』 pp. 37-39 の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』 pp. 45-46 の語彙を覚える。
	11	14 課~16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14~16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課~18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』 pp. 47-49 の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲 10~18 課を総復習しテストに備える。
15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 56-99) までの総復習およびテストの見直し	

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語基礎 B スペイン語基礎 C スペイン語応用 II スペイン語オラル II
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	Teams 「オンライン型」 / Web Folder
Teams コード	rsigx1o
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・評価基準：課題提出状況とその質 40%、小テスト 30%、単語テスト 30%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。</p>
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う

科目名	スペイン語基礎A	科目名 (英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1086e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法が多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに運用できる。 過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 <p>接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤を手にする。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収はWebFolderで行う。 教科書の各課ごとに、前期の「入門」と同様に、文法解説の3ページを書き写し、例文には和訳を付し、Ejerciciosを解答する(全文を書くこと)。それをその都度、指定される教員のWebFolderに期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 補足教材として配布される課題の提出期日と小テスト(3)
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp.2-9の語彙を覚える。
	2	10課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞101-1億	教科書10課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。
	3	11課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手tuに対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書11課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp.15-20の語彙を覚える。
	4	12課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書12課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp.21-23の語彙を覚える。10~12課を総復習しテストに備える。
	5	10課~12課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp.24-27の語彙を覚える。
	6	13課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書13課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書14課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp.28-32の語彙を覚える。
	8	15課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書15課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13~15課を総復習しテストに備える『単語帳』pp.33-36の語彙を覚える。
	9	13課~15課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp.37-39の語彙を覚える。
	10	16課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書16課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp.45-46の語彙を覚える。
	11	14課~16課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書14~16課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書17課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16課~18課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp.47-49の語彙を覚える。
	13	18課 直説法過去未来、直説法過去未来完了	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書18課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲10~18課を総復習しテストに備える。
15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.56-99)までの総復習およびテストの見直し	

実務経験

関連科目 スペイン語基礎B スペイン語基礎C スペイン語応用II スペイン語オラルII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態 Teams「オンライン型」/Web Folder

Teamsコード 8zuhwby

Moodleコース名

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語基礎 A, B, C」を総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・評価基準：課題提出状況とその質 40%、小テスト 30%、単語テスト 30%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。</p>
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。 ・授業内で行うテストは返却時に正答の確認を行う。臨時試験は14回目を実施し、その返却と見直しは15回目を行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎B	科目名 (英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1087e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法が多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤を手にする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収はWebFolderで行う。 ・教科書の各課ごとに、前期の「入門」と同様に、文法解説の3ページを書き写し、例文には和訳を付し、Ejerciciosを解答する。それをその都度指定される教員のWebFolderに期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・補足教材として配布される課題の提出期日と小テスト(3-4回実施)の日程・
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9の語彙を覚える。
2	10課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞 101-1億	教科書10課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14の語彙を覚える。	
3	11課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書11課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20の語彙を覚える。	
4	12課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書12課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23の語彙を覚える。10~12課を総復習しテストに備える。	
5	10課~12課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27の語彙を覚える。	
6	13課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書13課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。	
7	14課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書14課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32の語彙を覚える。	
8	15課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書15課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13~15課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36の語彙を覚える。	
9	13課~15課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39の語彙を覚える。	
10	16課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書16課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46の語彙を覚える。	
11	14課~16課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書14~16課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。	
12	17課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書17課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16課~18課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49の語彙を覚える。	
13	18課 直説法過去未来、直説法過去未来完了	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書18課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。	
14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲10~18課を総復習しテストに備える。	
15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp. 56-99)までの総復習およびテストの見直し	

実務経験

関連科目: スペイン語基礎A, スペイン語基礎C, スペイン語応用II, スペイン語オラルII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teamsコード	mfz8oum
Moodleコース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・評価基準：課題提出状況とその質 40%、小テスト 30%、単語テスト 30%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。

科目名	スペイン語基礎B	科目名 (英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1087e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法が多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 <p>接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤を手にする。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収はWebFolderで行う。 ・教科書の各課ごとに、前期の「入門」と同様に、文法解説の3ページを書き写し、例文には和訳を付し、Ejerciciosを解答する。それをその都度指定される教員のWebFolderに期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・補足教材として配布される課題の提出期日と小テスト(3-4回実施)の日程・
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9の語彙を覚える。
	2	10課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞 101-1億	教科書10課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14の語彙を覚える。
	3	11課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手tuに対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書11課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20の語彙を覚える。
	4	12課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書12課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23の語彙を覚える。10~12課を総復習しテストに備える。
	5	10課~12課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27の語彙を覚える。
	6	13課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書13課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書14課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32の語彙を覚える。
	8	15課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書15課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13~15課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36の語彙を覚える。
	9	13課~15課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39の語彙を覚える。
	10	16課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書16課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46の語彙を覚える。
	11	14課~16課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書14~16課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書17課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16課~18課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49の語彙を覚える。
	13	18課 直説法過去未来、直説法過去未来完了	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書18課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲10~18課を総復習しテストに備える。
15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp. 56-99)までの総復習およびテストの見直し	

実務経験																	
関連科目	スペイン語基礎A スペイン語基礎C スペイン語応用II スペイン語オラルII																
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語基礎文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>書き込み式 スペイン語単語帳</td> <td>藤井嘉祥ほか</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社													
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社													
3																	
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣敏博ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館													
	2																
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																
Teamsコード	5rkg51m																
Moodleコース名																	

および登録キー	
連絡手段	学内メールおよび Microsoft Teams のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・評価基準：課題提出状況とその質 40%、小テスト 30%、単語テスト 30%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。</p>
担当者の 研究室等	7号館 5階 藤井研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。

科目名	スペイン語基礎C	科目名 (英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1088e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法が多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 <p>接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤を手にする。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収はWebFolderで行う。 ・教科書の各課ごとに、前期の「入門」と同様に、文法解説の3ページを書き写し、例文には和訳を付し、Ejerciciosを解答する。それをその都度指定される教員のWebFolderに期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・補足教材として配布される課題の提出期日と小テスト(3-4回実施)の日程・
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp.2-9の語彙を覚える。
	2	10課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞101-1億	教科書10課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。
	3	11課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手tuに対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書11課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp.15-20の語彙を覚える。
	4	12課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書12課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp.21-23の語彙を覚える。10~12課を総復習しテストに備える。
	5	10課~12課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp.24-27の語彙を覚える。
	6	13課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書13課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書14課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp.28-32の語彙を覚える。
	8	15課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書15課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13~15課を総復習しテストに備える『単語帳』pp.33-36の語彙を覚える。
	9	13課~15課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp.37-39の語彙を覚える。
	10	16課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書16課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp.45-46の語彙を覚える。
	11	14課~16課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書14~16課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書17課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16課~18課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp.47-49の語彙を覚える。
	13	18課 直説法過去未来、直説法過去未来完了	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書18課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲10~18課を総復習しテストに備える。
15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.56-99)までの総復習およびテストの見直し	

実務経験

関連科目 スペイン語基礎A スペイン語基礎B スペイン語応用II スペイン語オラルII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teamsコード	jidp56i
Moodleコース名	

および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・評価基準：課題提出状況とその質 40%、小テスト 30%、単語テスト 30%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。 ・授業内で行うテストは返却時に正答の確認を行う。臨時試験は14回目を実施し、その返却と見直しは15回目を行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎C	科目名 (英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1088e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法が多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 <p>接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤を手にする。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収はWebFolderで行う。 ・教科書の各課ごとに、前期の「入門」と同様に、文法解説の3ページを書き写し、例文には和訳を付し、Ejerciciosを解答する。それをその都度指定される教員のWebFolderに期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・補足教材として配布される課題の提出期日と小テスト(3-4回実施)の日程・
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp.2-9の語彙を覚える。
	2	10課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞101-1億	教科書10課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp.10-14の語彙を覚える。
	3	11課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手tuに対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書11課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp.15-20の語彙を覚える。
	4	12課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書12課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp.21-23の語彙を覚える。10~12課を総復習しテストに備える。
	5	10課~12課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp.24-27の語彙を覚える。
	6	13課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書13課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書14課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp.28-32の語彙を覚える。
	8	15課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書15課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13~15課を総復習しテストに備える『単語帳』pp.33-36の語彙を覚える。
	9	13課~15課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp.37-39の語彙を覚える。
	10	16課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書16課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp.45-46の語彙を覚える。
	11	14課~16課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書14~16課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書17課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16課~18課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp.47-49の語彙を覚える。
	13	18課 直説法過去未来、直説法過去未来完了	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書18課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲10~18課を総復習しテストに備える。
15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書pp.56-99)までの総復習およびテストの見直し	

実務経験

関連科目: スペイン語基礎A スペイン語基礎B スペイン語応用II スペイン語オラルII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teamsコード	3a8cu2f
Moodleコース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・評価基準：課題提出状況とその質 40%、小テスト 30%、単語テスト 30%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。</p>
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1089e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」 「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。 遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも

科目学習の 効果 (資格)	スペイン語検定 6 級
------------------	-------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば。En el aula. 教室で	授業の進め方についての説明 あいさつ表現 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習 20 までの数字。人名。	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば。En el aula. 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
3	Unidad 1 ?Mira, un perro! 見て、犬がりるよ!	名詞の性と数 不定冠詞と定冠詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
4	Unidad 1 ?Mira, un perro! 見て、犬がりるよ!	ものを特定する 家の中にあるもの	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
5	Unidad 2 ?Qui?n es ella? 彼女は誰?	動詞 ser と主語代名詞 形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
6	Unidad 2 ?Qui?n es ella? 彼女は誰?	国名や国籍や職業を表わす。 人を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
7	Unidad 3 ?Estudias o trabajas? 学生さんですか?	直説法現在規則動詞 日常の生活を表わす。	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
8	Unidad 3 ?Estudias o trabajas? 学生さんですか? 理解度確認中間テスト	曜日、職場、頻度表現 理解度確認中間テスト	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習	
9	Unidad 4 ?Qu? hay en tu ciudad? 君の町には何があるの?	動詞 estar と hay 指示詞、場所を表す副詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
10	Unidad 4 ?Qu? hay en tu ciudad? 君の町には何があるの?	Muy と mucho 存在を表わす 位置表現 町を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
11	Unidad 5 ?Qu? preciosa! なんで素敵なんでしょう!	動詞 tener 所有詞前置形 感嘆文	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
12	Unidad 5 ?Qu? preciosa! なんで素敵なんでしょう!	状態を表わす 日付や年齢を表わす 家族 月の名前 20~100 までの数字	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
13	Unidad 6 ?A d?nde vamos este fin de semana? この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 I II 時間を表す表現	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
14	Unidad 6 ?A d?nde vamos este fin de semana? この週末どこへ行く?	情報を求めたり与えたりする 計画する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
15	Repaso これまでの総復習と目標達成度確認 期末テスト	臨時試験と総復習	これまでに学習した事項や表現の復習	

実務経験	
関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	!NOS GUSTA! 1 GRAMATICA PARA HABLAR 『発見! 大好き!! スペイン語!!! 1』	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai Hiroko Omori
2	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題（100%）から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業の前に1時間、後に1時間の学習時間を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に開設を行う。			

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1089e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「Zoom」、「gmail」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば En el aula. 教室で	授業の進め方についての説明 あいさつ表現 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad preliminar すでに知っているスペイン語のことば En el aula. 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす 20までの数字。人名。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1 ?Mira, un perro! 見て、犬がりるよ!	名詞の性と数 不定冠詞と定冠詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 1 ?Mira, un perro! 見て、犬がりるよ!	ものを特定する 家の中にあるもの	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2 ?Qui?n es ella? 彼女は誰?	動詞 ser と主語代名詞 形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 2 ?Qui?n es ella? 彼女は誰?	国名や国籍や職業を表わす。 人を描写する	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3 ?Estudias o trabajas? 学生さんですか?	直説法現在規則動詞 日常の生活を表わす。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Unidad 3 ?Estudias o trabajas? 学生さんですか? 理解度確認中間テスト	曜日、職場、頻度表現 理解度確認中間テスト	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
9	Unidad 4 ?Qu? hay en tu ciudad? 君の町には何があるの?	動詞 estar と hay 指示詞、場所を表す副詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4 ?Qu? hay en tu ciudad? 君の町には何があるの?	Muy と mucho 存在を表わす 位置表現 町を描写する	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5 ?Qu? preciosa! なんで素敵なんでしょう!	動詞 tener 所有詞前置形 感嘆文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5 ?Qu? preciosa! なんで素敵なんでしょう!	状態を表わす 日付や年齢を表わす 家族 月の名前 20~100までの数字	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6 ?A d?nde vamos este fin de semana? この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 I II 時間を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6 ?A d?nde vamos este fin de semana? この週末どこへ行く?	情報を求めたり与えたりする 計画する	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso これまでの総復習と目標達成度確認	臨時試験と解説	これまでに学習した事項や表現の復習

実務経験	
関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	!NOS GUSTA! 1 GRAMATICA PARA HABLAR 『発見! 大好き!! スペイン語!!! 1』	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題（100%）から総合的に評価す			
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 La participaci?n constante y din?mica en clase es la prioridad para evaluar a cada alumno. Para que la clase sea m?s interesante y agradable se espera que los alumnos asistan a clase ya preparados co			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の解説は次の週および最終回に行う。			

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名 (英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1090e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら2～3回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より前後することもある。各課は導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗詠練習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 Me gustan los gatos 私は猫が好きです。	動詞 gustar を用いた表現 好きや興味を表わす 好きみの一致や違いを表す	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
3	Unidad 7 Me gustan los gatos 私は猫が好きです。	レストランで食事する 食べ物 興味や娯楽	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
4	Unidad 8 Me levanto a las ocho 私は8時に起きます	再帰横文 習慣を表わす 時間を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
5	Unidad 8 Me levanto a las ocho 私は8時に起きます	日常生活を表わす動詞 一日の時間帯 動物	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
6	Unidad 9 ¿C?mo lo quiere? どんなのがいいですか?	直接目的語 直接目的代名詞 買い物する 衣装や品物を描写する	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
7	Unidad 9 ¿C?mo lo quiere? どんなのがいいですか?	衣装 色と材質 店舗や品物の語彙 100より大きな数字	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
8	理解度確認中間テスト 詩の朗詠練習	これまでの要点復習 詩の朗詠	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
9	Unidad 10 ¿Me prestas el diccionario? 辞書貸してくれる?	間接目的語 間接目的代名詞 依頼する 申し出る 依頼の理由を言う	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。	
10	Unidad 10 ¿Me prestas el diccionario? 辞書貸してくれる?	了承する 断る 身の回りのもの	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
11	Unidad 11 Tengo que ponerme guapo. カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 Conocer y saber 比較級 義務、可能性、知識を表わす 近い未来を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
12	Unidad 11 Tengo que ponerme guapo. カッコよくしないとね	学んでできるようになったことを表わす 天候を表わす 四季、旅行に関する語	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
13	Unidad 12 ¿A d?nde fuiste de vacaciones? 休暇はどこへ行ったの?	直説法点過去 完結した出来事を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
14	Unidad 12 ¿A d?nde fuiste de vacaciones? 休暇はどこへ行ったの?	連続して起こった出来事を表わす 過去の時を表わす表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
15	Repaso まとめ これまでの総復習と目標達成度確認 期末テスト	期末試験と総復習	これまでに学習した事項や表現の復習	

実務経験	
関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	!NOS GUSTA! 1 GRAMATICA PARA HABLAR 『発見! 大好き!! スペイン語!!! 1』	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	wulj673			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	uncantoalavida@gmail.com			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト、暗唱大会への参加度(30%)、臨時試験(40%)などから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は予習を欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。 La participaci?n constante y din?mica en clase es la prioridad para evaluar a cada alumno. Para que la clase sea m?s interesante y agradable se espera que los alumnos asis			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 臨時試験の後、解説を行う。			

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名 (英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1090e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗詠練習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 Me gustan los gatos 私は猫が好きです。	動詞 gustar を用いた表現 好きや興味を表わす 好きみの一致や違いを表す	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 7 Me gustan los gatos 私は猫が好きです。	レストランで食事する 食べ物 興味や娯楽	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 8 Me levanto a las ocho 私は8時に起きます	再帰横文 習慣を表わす 時間を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 8 Me levanto a las ocho 私は8時に起きます	日常の活動を表わす動詞 一日の時間帯 動物	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 9 ¿C?mo lo quiere? どんなのがいいですか？	直接目的語 直接目的代名詞 買う物する 衣装や品物を描写する	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 9 ¿C?mo lo quiere? どんなのがいいですか？	衣装 色と材質 店舗や品物の語彙 100より大きな数字	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	理解度確認中間テスト 詩の朗詠練習	これまでの要点復習 詩の朗詠	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Unidad 10 ¿Me prestas el diccionario? 辞書貸してくれる？	間接目的語 間接目的代名詞 依頼する 申し出る 依頼の理由を言う	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
10	Unidad 10 ¿Me prestas el diccionario? 辞書貸してくれる？	了承する 断る 身の回りのもの	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 11 Tengo que ponerme guapo. カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 Conocer y saber 比較級 義務、可能性、知識を表わす 近い未来を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 11 Tengo que ponerme guapo. カッコよくしないとね	学んでできるようになったことを表わす 天候を表わす 四季、旅行に関する語	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 12 ¿A d?nde fuiste de vacaciones? 休暇はどこへ行ったの？	直説法点過去 完結した出来事を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 12 ¿A d?nde fuiste de vacaciones? 休暇はどこへ行ったの？	連続して起こった出来事を表わす 過去の時を表わす表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso これまでの総復習と目標達成度確認 期末テスト	期末試験と総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

実務経験	
関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	『NOS GUSTA! 1 GRAMATICA PARA HABLAR 『発見! 大好き!! スペイン語!!! 1』』	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori
2	2			
3	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」			
Teams コード	96zz8mh			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	monserrat.loyde@edu.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題(100%)から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。 La participaci?n constante y din?mica en clase es la prioridad para evaluar a cada alumno. Para que la clase sea m?s interesante y agradable se espera que los alumnos asistan			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1091e0		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。多くの練習問題を通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布するスペイン語圏の歴史文化についての文章によりスペイン語の読解にも親しむ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門 A」「入門 B」「入門 C」で学んだばかりの文法事項を再確認しながら、課題に取り組むことで定着を図る。 ・「入門」の教科書をつねに参照しながら、正確を期して課題に当たること。 ・課題内容は、「入門」での学習進度に合わせる。教科書の順番通りとは限らず、教科書以外の出題も行う。 ・課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、履修者全員と共
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習 スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	科目の位置づけと授業の進め方を説明し、「入門」の初回授業で学んだアルファベットの文字の発音に慣れる	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	発音のルール 名詞の性・数	音節の分け方、アクセントの位置、名詞の性・数 pp. 2-5	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	冠詞、主語の人称代名詞、つなぎの動詞 ser	名詞の性・数に合わせた冠詞の使い方、主格人称代名詞、ser の活用と用法 pp. 6-7, 12	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	形容詞の語尾変化	名詞の性・数に合わせた形容詞の語尾変化、形容詞の語彙 p. 8+ 補足教材 ここまでの疑問点を点検し解説を受ける	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
5	第 1~4 回の学習内容に関する確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	直説法現在の規則動詞	動詞の活用変化に慣れる p. 16+ 補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	動詞 estar, hay、疑問文	ser と estar, estar と hay の使い分けを理解する pp. 13-14, 20-21	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の総合的理解 基数詞・序数詞 時刻、曜日、日付の表現 pp. 14-15, 92-93	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
9	第 6~9 回の学習内容に関する確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	不規則動詞 (1)	1 人称単数のみ不規則変化する動詞、指示詞、所有詞 (前置形) pp. 18, 9-11	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	不規則動詞 (2)	語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞、所有詞 (後置形) pp. 17, 22-23	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	不規則動詞 (3)	tener, venir, ir など使用頻度の高い不規則動詞 pp. 19, + 補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
13	第 10~12 回の学習内容に関する確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	gustar 型動詞、前置詞	gustar, encantar, doler, parecer, interesar, importar, pasar などの動詞の使い方 前置詞のいろいろ pp. 24-25 + 補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
15	臨時試験と解説	前期に学習した内容の包括的理解度確認と解説	復習 新出語彙を覚える 発音練習

実務経験				
関連科目	スペイン語入門 A、B、C			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レベル別スペイン語文法ドリル	西村君代ほか	朝日出版社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎週の課題提出状況 (40%)、課題の解答の質 (30%)、指定された日時に受験する複数回の理解度確認テスト (30%)			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	事前・事後学習に要する総学習時間は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 「応用」が「入門A、B、C」での学習内容に先行することがあろうとも、「入門」の教科書を参照しつつ予習していれば問題ない。			

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1091e0		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。多くの練習問題を通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布するスペイン語圏の歴史文化についての文章によりスペイン語の読解にも親しむ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門 A」「入門 B」「入門 C」で学んだばかりの文法事項を再確認しながら、課題に取り組むことで定着を図る。 ・「入門」の教科書をつねに参照しながら、正確を期して課題に当たること。 ・課題内容は、「入門」での学習進度に合わせる。教科書の順番通りとは限らず、教科書以外の出題も行う。 ・課題の解答は、答えの部分だけでなく全文を書き、指定された形式で期日までに提出すること。その後、教員からのフィードバックを必ず確認すること。 ・質問は指定の時間帯と形式を守って行うこと。疑問点に対する解説は、履修者全員と共
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習 スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	科目の位置づけと授業の進め方を説明し、「入門」の初回授業で学んだアルファベットの文字の発音に慣れる	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	発音のルール 名詞の性・数	音節の分け方、アクセントの位置、名詞の性・数 pp. 2-5	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	冠詞、主語の人称代名詞、つなぎの動詞 ser	名詞の性・数に合わせた冠詞の使い方、主格人称代名詞、ser の活用と用法 pp. 6-7, 12	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	形容詞の語尾変化	名詞の性・数に合わせた形容詞の語尾変化、形容詞の語彙 p. 8+ 補足教材 ここまでの疑問点を点検し解説を受ける	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
5	第 1~4 回の学習内容に関する確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	直説法現在の規則動詞	動詞の活用変化に慣れる p. 16+ 補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	動詞 estar, hay、疑問文	ser と estar, estar と hay の使い分けを理解する pp. 13-14, 20-21	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の総合的理解 基数詞・序数詞 時刻、曜日、日付の表現 pp. 14-15, 92-93	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
9	第 6~9 回の学習内容に関する確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	不規則動詞 (1)	1 人称単数のみ不規則変化する動詞、指示詞、所有詞 (前置形) pp. 18, 9-11	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	不規則動詞 (2)	語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞、所有詞 (後置形) pp. 17, 22-23	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	不規則動詞 (3)	tener, venir, ir など使用頻度の高い不規則動詞 pp. 19, + 補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
13	第 10~12 回の学習内容に関する確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	gustar 型動詞、前置詞	gustar, encantar, doler, parecer, interesar, importar, pasar などの動詞の使い方 前置詞のいろいろ pp. 24-25 + 補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
15	臨時試験と解説	前期に学習した内容の包括的理解度確認と解説	復習 新出語彙を覚える 発音練習

実務経験				
関連科目	スペイン語入門 A、B、C			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レベル別スペイン語文法ドリル	西村君代ほか	朝日出版社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎週の課題提出状況 (40%)、課題の解答の質 (30%)、指定された日時に受験する複数回の理解度確認テスト (30%)			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学習に要する総学習時間は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 「応用」が「入門A、B、C」での学習内容に先行することがあろうとも、「入門」の教科書を参照しつつ予習していれば問題ない。			

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1092e0		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。多くの練習問題を通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布するスペイン語圏の歴史文化についての文章によりスペイン語の読解にも親しむ。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 ・疑問を持ち、考え、質問すること。 ・Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布及び課題の回収はWebFolderで行う。 ・「スペイン語基礎」の教科書を参照しながら、正確を期して課題にあたること。 ・課題内容は、「スペイン語基礎」での学習進度に合わせるため、教科書の順番通りとは限らず、前後することもある。教科書以外の補足教材も課題として配布する。 ・課題の解答は、答えの部分だけ

科目学習の効果(資格)	文法項目を理解し、応用力を身につけることができる。
-------------	---------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	再帰動詞	再帰動詞の活用と用法、無人称文、1億までの基数詞 pp. 26-27, 42-45	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数・複数の相手に対する肯定命令文、文中での不定詞の用い方、現在分詞の形と用法 前回の残り+pp. 88-91の該当部分	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	過去分詞、直説法現在完了、不定語と否定語	過去分詞の形と用法、直説法現在完了の活用と用法、不定語と否定語を用いた文 pp. 28-29, 36-37	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	第3～5回の学習内容の確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	比較表現、感嘆文	比較級と最上級、感嘆文の形 pp. 52-55	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	直説法点過去(1)	規則動詞の直説法点過去：活用と用法 p. 30	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	直説法点過去(2)	不規則動詞の直説法点過去：5パターンの活用と用法 pp. 31-33	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	第7～9回の学習内容の確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去の活用と用法 pp. 34-35	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了の活用と用法 pp. 56-61	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	直説法過去未来、過去未来完了	直説法過去未来、過去未来完了の活用と用法 pp. 62-67	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	後期後半の学習内容の要点と復習	点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文を中心に 第12, 13回に未着手の練習問題+補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	臨時試験と解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う 後期の内容の総復習	復習 新出語彙を覚える 発音練習

実務経験	
関連科目	スペイン語基礎A、B、C

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レベル別スペイン語文法ドリル	西村君代ほか	朝日出版社
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	o2xb515			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎週の課題提出状況 40%、課題の質 30%、指示された日時にWeb受験する理解度確認テスト 30%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後に要する総学習時間は約15時間。			

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名(英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1092e0		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。多くの練習問題を通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布するスペイン語圏の歴史文化についての文章によりスペイン語の読解にも親しむ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。疑問を持ち、考え、質問すること。 ・Teamsを使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収はWebFolderで行う。 ・「スペイン語基礎」の教科書を参照しながら、正確を期して課題の解答に当たること。 ・課題内容は、「スペイン語基礎」での学習進度に合わせるため、教科書の順番通りとは限らず、前後することもある。教科書以外の補足教材も課題として配布する。 ・課題の解答は、答えの部分
科目学習の効果(資格)	文法項目を理解し、応用力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	再帰動詞	再帰動詞の活用と用法、無人称文、1億までの基数詞 pp. 26-27, 42-45	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数・複数相手の相手に対する肯定命令文、文中での不定詞の使い方、現在分詞の形と用法 前回の残り+pp. 88-91の該当部分	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	過去分詞、直説法現在完了、不定語と否定語	過去分詞の形と用法、直説法現在完了の活用と用法、不定語と否定語を用いた文 pp. 28-29, 36-37	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	第3～5回の学習内容の確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	比較表現、感嘆文	比較級と最上級、感嘆文の形 pp. 52-55	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	直説法点過去(1)	規則動詞の直説法点過去：活用と用法 p. 30	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	直説法点過去(2)	不規則動詞の直説法点過去：5パターンの活用と用法 pp. 31-33	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	第7～9回の学習内容の確認テストと解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去の活用と用法 pp. 34-35	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了の活用と用法 pp. 56-61	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	直説法過去未来、過去未来完了	直説法過去未来、過去未来完了の活用と用法 pp. 62-67	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	後期後半の学習内容の要点と復習	点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文を中心に 第12, 13回に未着手の練習問題+補足教材	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	臨時試験と解説	受験後、正答解説を聴き、自身で添削を行う 後期の内容の総復習	復習 新出語彙を覚える 発音練習

実務経験	
関連科目	スペイン語基礎A、B、C

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レベル別スペイン語文法ドリル	西村君代ほか	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	26mez7a			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎週の課題提出状況 40%、課題の質 30%、指示された日時に Web 受験する理解度確認テスト 30%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	事前・事後に要する総学習時間は約15時間。			

科目名	スペイン語総合A	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2093e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつと理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	<p>文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する（配布物の管理をきちんと行うこと）。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。</p> <p>また、オンライン授業にあたり、以下の点に留意すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の授業時間を意識し、その時間にPC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。課題提出、質問などは指定された方法・時間を厳守すること。 ・自学自習を基礎としながら、教科書・オンライン教材を補足する説明、質問に対する
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法 関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法(a:願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
4	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
5	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
6	中間試験1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
7	接続法現在完了と直説法未来完了 第5課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
8	ポキャブラリー・コンテスト 第6課 肯定命令	中級程度の語彙力を判定 肯定命令	語彙力試験の出題範囲を身に付けておく。 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	否定命令、直説法過去未来 第7課	直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
10	中間試験2	第5~7課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
11	接続法過去、比較表現 第8課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
12	第8課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
13	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第9課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
14	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第10課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
15	第10課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	今期のまとめ 接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同人社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題提出状況・その内容 80% + 小テスト20%			
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと（予習に必要）。			
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 試験の答えは実施後次回の授業内で解説し返却する（臨時試験の場合は可能な限り研究室で）。			

科目名	スペイン語総合A	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2093e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつと理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	<p>文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。</p> <p>また、オンライン授業にあたり、以下の点に留意すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の授業時間を意識し、その時間にPC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。課題提出、質問などは指定された方法・時間を厳守すること。 ・自学自習を基礎としながら、教科書・オンライン教材を補足する説

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級
-------------	--------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法 関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法(a:願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
4	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
5	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
6	中間試験1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
7	接続法現在完了と直説法未来完了 第5課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
8	ボキャブラリー・コンテスト 第6課 肯定命令	中級程度の語彙力を判定 肯定命令	語彙力試験の出題範囲を身に付けておく。 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	否定命令、直説法過去未来 第7課	直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
10	中間試験2	第5～7課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
11	接続法過去、比較表現 第8課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
12	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第9課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
13	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第10課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
14	第10課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 今期のまとめ	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同人社
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題提出状況・その内容 80% + 小テスト 20%			
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと（予習に必要）。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 試験の答えは実施後次回の授業内で解説し返却する（臨時試験の場合は可能な限り非常勤講師控室で）。			

科目名	スペイン語総合B	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2094e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつと理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	<p>文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する（配布物の管理をきちんと行うこと）。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。</p> <p>また、オンライン授業にあたり、以下の点に留意すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の授業時間を意識し、その時間にPC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。課題提出、質問などは指定された方法・時間を厳守すること。 ・自学自習を基礎としながら、教科書・オンライン教材を補足する説明、質問に対する
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法 関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法(a:願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
4	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
5	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
6	中間試験1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
7	接続法現在完了と直説法未来完了 第5課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
8	ポキャブラリー・コンテスト 第6課 肯定命令	中級程度の語彙力を判定 肯定命令	語彙力試験の出題範囲を身に付けておく。 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	否定命令、直説法過去未来 第7課	直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
10	中間試験2	第5~7課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
11	接続法過去、比較表現 第8課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
12	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第9課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
13	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第10課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
14	第10課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 今期のまとめ	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同人社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題提出状況・その内容 80% + 小テスト20%			
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと（予習に必要）。			
担当者の 研究室等	7号館5階 個人研究室			
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 試験の答えは実施後次回の授業内で解説し返却する（臨時試験の場合は可能な限り研究室で）。			

科目名	スペイン語総合B	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2094e0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつと理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	<p>文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する（配布物の管理をきちんと行うこと）。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。</p> <p>また、オンライン授業にあたり、以下の点に留意すること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の授業時間を意識し、その時間にPC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。課題提出、質問などは指定された方法・時間を厳守すること。 ・自学自習を基礎としながら、教科書・オンライン教材を補足する説明、質問に対する
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習 (1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習 (2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法 関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法 (a: 願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
4	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
5	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
6	中間試験1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
7	接続法現在完了と直説法未来完了 第5課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
8	ポキャブラリー・コンテスト 第6課 肯定命令	中級程度の語彙力を判定 肯定命令	語彙力試験の出題範囲を身に付けておく。 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	否定命令、直説法過去未来 第7課	直説法過去未来の活用と用法 (現在の事実に反する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
10	中間試験2	第5~7課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
11	接続法過去、比較表現 第8課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
12	第8課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
13	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第9課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
14	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第10課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
15	第10課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
16	臨時試験 接続法の総括	今期のまとめ 接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同人社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題提出状況・その内容 80% + 小テスト20%			
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと（予習に必要）。			
担当者の 研究室等	7号館2階 講師控室			
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 試験の答えは実施後次回の授業内で解説し返却する（臨時試験の場合は可能な限り研究室で）。			

科目名	スペイン語トピックス	科目名 (英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2095e0		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、スペイン語圏の様々なテーマについての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力と語彙力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	授業スケジュール及び内容は一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。レポートを課す予定である。(テーマなどは授業内に指示する。)
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	スペインの文化、歴史(1)	授業の進め方や評価基準について読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習
2	スペインの文化、歴史(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
3	スペインの文化、歴史(3)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
4	スペインの世界遺産(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
5	スペインの世界遺産(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
6	スペインの地理	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
7	ラテンアメリカの文化、歴史(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
8	ラテンアメリカの文化、歴史(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
9	ラテンアメリカの文化、歴史(3)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
10	ラテンアメリカの世界遺産(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
11	ラテンアメリカの世界遺産(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
12	ラテンアメリカの世界遺産(3)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
13	ラテンアメリカの地理	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
14	スペイン語圏の映画(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
15	スペイン語圏の映画(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	摂大ポータル、個人メール / Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題の提出状況・レポートなど 30%、課題の出来など 70%
学生へのメッセージ	配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。

科目名	スペイン語トピックス	科目名 (英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2095e0		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、スペイン語圏の様々なテーマについての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力と語彙力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	授業スケジュール及び内容は一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。レポートを課す予定である。(テーマなどは授業内に指示する。)
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	スペインの文化、歴史(1)	授業の進め方や評価基準について読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習
2	スペインの文化、歴史(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
3	スペインの文化、歴史(3)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
4	スペインの世界遺産(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
5	スペインの世界遺産(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
6	スペインの地理	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
7	ラテンアメリカの文化、歴史(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
8	ラテンアメリカの文化、歴史(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
9	ラテンアメリカの文化、歴史(3)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
10	ラテンアメリカの世界遺産(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
11	ラテンアメリカの世界遺産(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
12	ラテンアメリカの世界遺産(3)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
13	ラテンアメリカの地理	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
14	スペイン語圏の映画(1)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	
15	スペイン語圏の映画(2)	読解とテーマの理解など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。文法事項の確認、復習	

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	摂大ポータル、個人メール / Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題の提出状況・レポートなど 30%、課題の出来など 70%
学生へのメッセージ	配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2096e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行う。教材の配布やレポートの回収もTeamsで行う。 映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら書く場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teamsコード	5q2ogcr
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業での発表、提出物40% + 臨時試験の成績60%
学生への	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2096e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行う。教材の配布やレポートの回収もTeamsまたはWebFolderで行う。映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら書く場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teamsコード	ups2y2g
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業での発表、提出物40% + 臨時試験の成績60%
学生への	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名 (英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2097e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	1年次に学習したスペイン語の基礎知識を駆使しながら、スペイン語での簡単な応答練習を繰り返す。 オンライン授業にあたり、以下の点に注意すること： ・通常の授業時間帯に、PC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。 ・課題提出、質問等は指定された方法・日時を厳守すること。 ・提出した課題に対する教員からの添削やフィードバックを必ず確認すること。 ・教科書が入手できるまでの間は、教材を配布するので、それに基づいて学習することになる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、 伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、 人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたのに、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたのに、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	臨時試験と解説	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加状況、毎週の課題提出状況 (70%)、提出された課題の内容と質 (30%)
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後には解説を行う。

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名 (英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2097e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	1年次に学習したスペイン語の基礎知識を駆使しながら、スペイン語での簡単な応答練習を繰り返す。 オンライン授業にあたり、以下の点に注意すること： ・通常の授業時間帯に、PC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。 ・課題提出、質問等は指定された方法・日時を厳守すること。 ・提出した課題に対する教員からの添削やフィードバックを必ず確認すること。 ・教科書が入手できるまでの間は、教材を配布するので、それに基づいて学習することになる。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Nos gusta 2 の Unidad Preliminar 復習しましょう	授業の進め方について 復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、 伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、 人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたのに、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたのに、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	臨時試験と解説	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加状況、毎週の課題提出状況 (70%)、提出された課題の内容と質 (30%)
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後には解説を行う。

科目名	スペイン語オラルIV	科目名 (英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2098e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行う。教材の配布やレポートの回収にはTeamsまたはWebFolderを用いる。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直接法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示をを与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直接法未来 規則活用と不規則活用。-menteで終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからもずっとお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからもずっとお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	臨時試験とまとめ	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	izyywz5
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルIV	科目名 (英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2098e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行う。レポートの回収にはTeamsまたはWebFolderを用いる。その都度指示を与える。WebFolder上では、授業担当者は「n_o」の項で、Orashioとして表示されているので注意してもらいたい。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直接法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示をを与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直接法未来 規則活用と不規則活用。 -menteで終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからもずっとお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからもずっとお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 す好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	臨時試験とスペイン語での発表	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	ovjwpss
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2099e0		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作成し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	和辞典は必須です。必ず購入しておくこと。辞書は必ず授業に持参すること。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。受講生の理解度によっては、授業計画の進捗がずれる可能性があります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5級～4級 (4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 文の要素	授業の概要についての説明 主部・述部、句・節、単文・複文・重文、 目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	ser, estar, haber の使い分け	ser, estar, haber の使い分けと形容詞 と副詞の正確な使い方	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
3	冠詞、所有制、指示詞、数量 詞	名詞の前に置いて名詞を限定する冠詞、 所有詞、指示詞、数量詞の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
4	不定語・否定語	一般動詞と不定語・否定語を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
5	一般動詞と不定詞 天候・気候の表現	一般動詞と不定詞を用いた現在時制の 文 天候・気候を正しく表現する	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
6	gustar 型動詞	gustar, interesar, parecer, doler 等 の動詞	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
7	比較の表現	比較級と最上級	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の準備 (和文)
8	前半のまとめ	既習項目の復習	既習事項の復習 (配布プリント)
9	完了・経験・継続の表現	現在完了を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の西訳
10	点過去と線過去の使い分け	過去の動作・行為・出来事を正しく表現 する	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の添削を受け、理解した上で完成原稿 を作成する
11	再帰動詞 (1)	自動詞と他動詞の再帰動詞を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理と動詞の活用の確認 スピーチ原稿の西訳
12	再帰動詞 (2)	再帰動詞の相互・転意の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
13	受身の se を使った文 動詞三人称複数形を使った 文	再帰受動文と ser 受動文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、 同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネー ション、表現力などの指導を行う
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (配布プリント)

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 30%、練習問題の出来 70%			
学生への メッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。 自作原稿をスペイン語に訳して暗唱する初めてのスピーチを体験します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2099e0		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作成し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	和西辞典は必須です。必ず購入しておくこと。辞書は必ず授業に持参すること。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。受講生の理解度によっては、授業計画の進捗がずれる可能性があります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ser, estar, haber の使い分け	ser, estar, haber の使い分けと形容詞 と副詞の正確な使い方	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
3	冠詞、所有制、指示詞、数量 詞	名詞の前に置いて名詞を限定する冠詞、 所有詞、指示詞、数量詞の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
4	不定語・否定語	一般動詞と不定語・否定語を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
5	一般動詞と不定詞 天候・気候の表現	一般動詞と不定詞を用いた現在時制の 文 天候・気候を正しく表現する	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
6	gustar 型動詞	gustar, interesar, parecer, doler 等 の動詞	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理
7	比較の表現	比較級と最上級	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の準備 (和文)
8	前半のまとめ	既習項目の復習	既習事項の復習 (配布プリント)
9	完了・経験・継続の表現	現在完了を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の西訳
10	点過去と線過去の使い分け	過去の動作・行為・出来事を正しく表現 する	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の添削を受け、理解した上で完成原稿 を作成する
11	再帰動詞 (1)	自動詞と他動詞の再帰動詞を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理と動詞の活用の確認 スピーチ原稿の西訳
12	再帰動詞 (2)	再帰動詞の相互・転意の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
13	受身の se を使った文 動詞三人称複数形を使った 文	再帰受動文と ser 受動文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をして おくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、 同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネー ション、表現力などの指導を行う
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (配布プリント)

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 30%、練習問題の出来 70%			
学生への メッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。 自作原稿をスペイン語に訳して暗唱する初めてのスピーチを体験します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2100e0		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。
到達目標	複文を含めた文章構造を理解し、スペイン語での正確かつ多様な文章表現ができる。語彙力を高めて、自分の経験や考えを表現できる。
授業方法と留意点	必ず与えられた練習問題に取り組み、期限までに提出する。 授業スケジュールや内容は一応の目安であり、理解度や状況によって変更が生じ得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	既習項目の復習	点過去、線過去、現在完了、再帰動詞などの復習	点過去、線過去、現在完了の活用と用法の確認と再帰動詞の用法の確認 事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
2	一般の se を使った表現	特定の主語を立てず、一般の se を使った文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
3	未来	未来、推量の文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
4	命令表現(1)	目的格人称代名詞を伴う命令文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
5	命令表現(2)	再帰動詞の命令文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
6	接続法現在(1)	名詞節での接続法現在の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
7	接続法現在(2)	形容詞節と副詞節での接続法現在の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
8	接続法過去(1)	名詞節での接続法過去の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
9	接続法過去(2)	形容詞節と副詞節及び現在の事実に対する条件文での接続法過去の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
10	過去未来	過去における推量と現在の事実に対する条件文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
11	複合時制	多様な時制の完了形を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
12	関係詞	関係代名詞、関係形容詞、関係副詞を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
13	強調構文	関係詞を用いた強調構文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
14	現在分詞	現在分詞を用いた進行形や分詞構文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
15	過去分詞	過去分詞を用いた受動文や分詞構文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語トピックス、メディアのスペイン語Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	摂大ポータル、個人メール／ Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出状況 20%、提出課題の出来 80%
学生への メッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2100e0		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。
到達目標	複文を含めた文章構造を理解し、スペイン語での正確かつ多様な文章表現ができる。語彙力を高めて、自分の経験や考えを表現できる。
授業方法と留意点	必ず与えられた練習問題に取り組み、期限までに提出する。 授業スケジュールや内容は一応の目安であり、理解度や状況によって変更が生じ得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	既習項目の復習	点過去、線過去、現在完了、再帰動詞などの復習	点過去、線過去、現在完了の活用と用法の確認と再帰動詞の用法の確認 事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
2	一般の se を使った表現	特定の主語を立てず、一般の se を使った文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
3	未来	未来、推量の文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
4	命令表現(1)	目的格人称代名詞を伴う命令文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
5	命令表現(2)	再帰動詞の命令文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
6	接続法現在(1)	名詞節での接続法現在の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
7	接続法現在(2)	形容詞節と副詞節での接続法現在の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
8	接続法過去(1)	名詞節での接続法過去の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
9	接続法過去(2)	形容詞節と副詞節及び現在の事実に対する条件文での接続法過去の用法	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
10	過去未来	過去における推量と現在の事実に対する条件文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
11	複合時制	多様な時制の完了形を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
12	関係詞	関係代名詞、関係形容詞、関係副詞を用いた文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
13	強調構文	関係詞を用いた強調構文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
14	現在分詞	現在分詞を用いた進行形や分詞構文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理
15	過去分詞	過去分詞を用いた受動文や分詞構文	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語トピックス、メディアのスペイン語Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	摂大ポータル、個人メール／ Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出状況 20%、提出課題の出来 80%
学生への メッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2101e0		

授業概要・目的	直説法過去未来までの文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度の語彙を修得し、最小限の辞書の使用で比較的平易な新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと。 ・教科書を使用して、文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の書き写しと和訳に取り組む。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・定期的に語彙力セルフチェックテストおよび学期末にポキャブラリコンテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級 (直説法終了まで)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	教科書 1 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
2	1 課 SNS と余暇 (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認と発音練習	教科書 1 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
3	1 課 SNS と余暇 (2)	西文和訳	教科書 1 課の和訳の再確認、2 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
4	2 課 スペインテニス選手 (1)	文法 (gustar と不定詞)、語彙の確認、発音練習、単語テスト	教科書 2 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
5	2 課 スペインテニス選手 (2)	西文和訳	教科書 2 課の和訳の再確認、3 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
6	3 課 世界でもっとも古いレストラン (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書 3 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
7	3 課 世界でもっとも古いレストラン (2)	西文和訳	教科書 3 課の和訳の再確認および 1~3 課を総復習してテストに備える。(1 時間)
8	1 課~3 課の中間テストおよび既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	テストの見直しおよび教科書 4 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
9	4 課 ファッション (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書 4 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
10	4 課 ファッション (2)	西文和訳	教科書 4 課の和訳の再確認、5 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
11	5 課 養子縁組 (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書 5 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
12	5 課 養子縁組 (2)	西文和訳	教科書 5 課の和訳の再確認、6 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
13	ポキャブラリ・コンテスト中級	総合的な語彙力の確認	『単語帳』pp. 56-82 の語彙を再確認し、暗記度をチェックする (1 時間)
14	6 課 風力発電	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認、西文和訳	教科書 6 課の記事の本文写しと和訳 (1 時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	教科書 4~6 課を総復習してテストに備える。テストの見直し、学習事項の理解度の自己点検 (1 時間)

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語 (La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	課題への取り組み姿勢、課題の和訳の質および語彙力によって総合的に評価する。

(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出状況および課題の解答の質 (60%) ・語彙力セルフチェックの受験回数とボキャブラリコンテストの点数(40%)
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直しながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
担当者の研究室等	7号館2階 講師控室
備考	<p>各回の事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。</p> <p>テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。</p> <p>ボキャブラリ・コンテストの日程変更がある場合、授業進度が変更になる場合がある。</p>

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	非正規生	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2101e0		

授業概要・目的	直説法過去未来までの文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度の語彙を修得し、最小限の辞書の使用で比較的平易な新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと。 ・教科書を使用して、文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の書き写しと和訳に取り組む。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・定期的に語彙力セルフチェックテストおよび学期末にポキャブラリコンテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級 (直説法終了まで)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	教科書 1 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
2	1 課 SNS と余暇 (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認と発音練習	教科書 1 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
3	1 課 SNS と余暇 (2)	西文和訳	教科書 1 課の和訳の再確認、2 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
4	2 課 スペインテニス選手 (1)	文法 (gustar と不定詞)、語彙の確認、発音練習、単語テスト	教科書 2 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
5	2 課 スペインテニス選手 (2)	西文和訳	教科書 2 課の和訳の再確認、3 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
6	3 課 世界でもっとも古いレストラン (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書 3 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
7	3 課 世界でもっとも古いレストラン (2)	西文和訳	教科書 3 課の和訳の再確認および 1~3 課を総復習してテストに備える。(1 時間)
8	1 課~3 課の中間テストおよび既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	テストの見直しおよび教科書 4 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
9	4 課 ファッション (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書 4 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
10	4 課 ファッション (2)	西文和訳	教科書 4 課の和訳の再確認、5 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
11	5 課 養子縁組 (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書 5 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
12	5 課 養子縁組 (2)	西文和訳	教科書 5 課の和訳の再確認、6 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
13	ポキャブラリ・コンテスト中級	総合的な語彙力の確認	『単語帳』pp. 56-82 の語彙を再確認し、暗記度をチェックする (1 時間)
14	6 課 風力発電	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認、西文和訳	教科書 6 課の記事の本文写しと和訳 (1 時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	教科書 4~6 課を総復習してテストに備える。テストの見直し、学習事項の理解度の自己点検 (1 時間)

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語 (La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	課題への取り組み姿勢、課題の和訳の質および語彙力によって総合的に評価する。

(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提出状況および課題の解答の質 (60%) ・語彙力セルフチェックの受験回数とボキャブラリコンテストの点数(40%)
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直しながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
備考	<p>各回の事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。</p> <p>テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。</p> <p>ボキャブラリ・コンテストの日程変更がある場合、授業進度が変更になる場合がある。</p>

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2102e0		

授業概要・目的	接続法を中心に文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度から一部の専門的な語彙を修得し、最小限の辞書の使用で難易度の高い新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやっておくこと。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・課題は授業前日17時までにWebfolderにあげる。質疑応答は基本的にはTeams会議(ないしチャット)で行う。 ・はじめの教回は総合ABのテキストをも用いる。 ・授業計画はあくまで目安であり、集団の習熟度・進捗状況のみで適宜修正する。 ・小テスト(またはレポート)を随時実施する。

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級(3級の語彙は難易度が高い)
-------------	----------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	8課 エラスムス留学制度(1)	文法(比較級)と語彙の確認と発音練習	教科書8課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
2	8課 エラスムス留学制度(2)	西文和訳	教科書8課の和訳の確認、9課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
3	9課 ホンジュラスの交番(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書9課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
4	9課 ホンジュラスの交番(2)	西文和訳	教科書9課の和訳の確認、10課の文法問題、語彙の意味調べおよび8～9課の語彙の暗記(2時間)
5	10課 スペインの観光政策(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書10課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
6	10課 スペインの観光政策(2)	西文和訳	教科書10課の和訳の確認、8～10課を総復習しテストに備える(2時間)
7	8課～10課の中間および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよび読解の要点の解説	テストの見直し、11課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
8	11課 移民(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書11課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
9	11課 移民(2)	西文和訳	教科書11課の和訳の確認、12課の文法問題、語彙の意味調べおよび10～11課の語彙の暗記(2時間)
10	12課 闘牛反対運動(1)	文法(接続法現在全般)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書12課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
11	12課 闘牛反対運動(2)	西文和訳	教科書12課の和訳の確認、13課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
12	13課 バレンシアの火祭り(1)	文法(接続法過去)と語彙の確認と発音練習	教科書13課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
13	13課 バレンシアの火祭り(2)	西文和訳	教科書13課の和訳の確認と14課の記事の本文写しと和訳および13～14課の語彙の暗記(2時間)
14	14課 アカデミア辞書の改訂	文法(条件文)と西文和訳、単語テスト	14課の和訳の確認および11課～14課を総復習し臨時試験に備える。(2時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認および読解の要点の解説	テストの見直し、学習事項の理解度の点検(2時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語(La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
------	--------------------------

Teamsコード	j87s1kh
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	毎回の課題(提出状況と内容の精度)70%とオンライン授業での取り組み(発表・小テスト・レポート)30%
----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直しながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
----------	-------------

備考	<ul style="list-style-type: none">・各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	--

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2102e0		

授業概要・目的	接続法を中心に文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度から一部の専門的な語彙を修得し、最小限の辞書の使用で難易度の高い新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやっておくこと。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・課題は授業前日17時までにWebfolderにあげる。質疑応答は基本的にはTeams会議(ないしチャット)で行う。 ・はじめの教回は総合ABのテキストをも用いる。 ・授業計画はあくまで目安であり、集団の習熟度・進捗状況のみで適宜修正する。 ・小テスト(またはレポート)を随時実施する。

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級(3級の語彙は難易度が高い)
-------------	----------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	8課 エラスムス留学制度(1)	文法(比較級)と語彙の確認と発音練習	教科書8課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
2	8課 エラスムス留学制度(2)	西文和訳	教科書8課の和訳の確認、9課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
3	9課 ホンジュラスの交番(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書9課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
4	9課 ホンジュラスの交番(2)	西文和訳	教科書9課の和訳の確認、10課の文法問題、語彙の意味調べおよび8～9課の語彙の暗記(2時間)
5	10課 スペインの観光政策(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書10課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
6	10課 スペインの観光政策(2)	西文和訳	教科書10課の和訳の確認、8～10課を総復習しテストに備える(2時間)
7	8課～10課の中間および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよび読解の要点の解説	テストの見直し、11課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
8	11課 移民(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書11課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
9	11課 移民(2)	西文和訳	教科書11課の和訳の確認、12課の文法問題、語彙の意味調べおよび10～11課の語彙の暗記(2時間)
10	12課 闘牛反対運動(1)	文法(接続法現在全般)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書12課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
11	12課 闘牛反対運動(2)	西文和訳	教科書12課の和訳の確認、13課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
12	13課 バレンシアの火祭り(1)	文法(接続法過去)と語彙の確認と発音練習	教科書13課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
13	13課 バレンシアの火祭り(2)	西文和訳	教科書13課の和訳の確認と14課の記事の本文写しと和訳および13～14課の語彙の暗記(2時間)
14	14課 アカデミア辞書の改訂	文法(条件文)と西文和訳、単語テスト	14課の和訳の確認および11課～14課を総復習し臨時試験に備える。(2時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認および読解の要点の解説	テストの見直し、学習事項の理解度の点検(2時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語(La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
------	--------------------------

Teamsコード	8u7t3ri
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	毎回の課題(提出状況と内容の精度)70%とオンライン授業での取り組み(発表・小テスト・レポート)30%
----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直しながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	<ul style="list-style-type: none">・各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	--

科目名	スペイン語オラルV	科目名 (英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3103d0		

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。 De acuerdo a las habilidades del idioma espa?ol adquiridas hasta el segundo a?o, el objetivo no es solo comunicarse, sino tambi?n adquirir conocimientos b?sicos desde diversos temas que permitan ampliar las habilidades de conversaci?n.																																																																		
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。 Para lograr una conversaci?n diaria en el futuro, el objetivo del curso ser? investigar distintos temas por adelantado y explicarlo con sus propias palabras y conocimientos e																																																																		
授業方法と留意点	教科書は用いず、教材を配布する。 Se distribuir?n materiales did?cticos sin usar libros de texto. 授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」 「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。Se usar?n materiales																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Aprender un idioma</td> <td>Debate y opini?n a partir de una infograf?a.</td> <td>Ejemplos de distintos acentos y palabras en espa?ol seg?n pa?ses hispanohablantes.</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>?Qu? te sugiere esta imagen?</td> <td>Describir una fotograf?a.</td> <td>Hacer una historia a partir de una fotograf?a.</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>La moda</td> <td>Tema de conversaci?n y valoraci?n de opiniones.</td> <td>Buscar y comparar la moda de antes y despu?s.</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>El turista</td> <td>Describir lugares como tema de conversaci?n sobre el turismo.</td> <td>Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Libros y lecturas 1</td> <td>Presentaci?n con citas de lectura.</td> <td>Elegir lecturas para exponer en clase.</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Libros y lecturas 2</td> <td>Presentaci?n con citas de lectura.</td> <td>Elegir lecturas para exponer en clase.</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>La Unesco en el mundo hispano 1</td> <td>Patrimonio de la humanidad.</td> <td>Elegir lugares y presentar.</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>La Unesco en el mundo hispano 2</td> <td>Patrimonio de la humanidad.</td> <td>Elegir lugares y presentar.</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 1</td> <td>Escuchar y practicar espa?ol real.</td> <td>Elegir pel?culas en espa?ol.</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 2</td> <td>Escuchar y practicar espa?ol real.</td> <td>Elegir pel?culas en espa?ol.</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Biograf?a sobre un personaje que admires 1</td> <td>Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.</td> <td>Buscar personaje y para presentar.</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Biograf?a sobre un personaje que admires 2</td> <td>Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.</td> <td>Buscar personaje y para presentar.</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Mi trabajo ideal.</td> <td>Describir en qu? les gustar?a trabajar usando el espa?ol.</td> <td>Buscar sobre un trabajo ideal.</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Mi vida en 30 o 50 a?os.</td> <td>Imaginars e qu? estar?n haciendo en 30 o 50 a?os, qu? tipo de personas ser?n.</td> <td>Presentar opiniones.</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Presentaci?n como examen.</td> <td>Escoger un tema original</td> <td>Preparar el tema.</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Aprender un idioma	Debate y opini?n a partir de una infograf?a.	Ejemplos de distintos acentos y palabras en espa?ol seg?n pa?ses hispanohablantes.	2	?Qu? te sugiere esta imagen?	Describir una fotograf?a.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.	3	La moda	Tema de conversaci?n y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despu?s.	4	El turista	Describir lugares como tema de conversaci?n sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.	5	Libros y lecturas 1	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.	6	Libros y lecturas 2	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.	8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.	9	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 1	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.	10	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 2	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.	11	Biograf?a sobre un personaje que admires 1	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.	12	Biograf?a sobre un personaje que admires 2	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.	13	Mi trabajo ideal.	Describir en qu? les gustar?a trabajar usando el espa?ol.	Buscar sobre un trabajo ideal.	14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginars e qu? estar?n haciendo en 30 o 50 a?os, qu? tipo de personas ser?n.	Presentar opiniones.	15	Presentaci?n como examen.	Escoger un tema original	Preparar el tema.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Aprender un idioma	Debate y opini?n a partir de una infograf?a.	Ejemplos de distintos acentos y palabras en espa?ol seg?n pa?ses hispanohablantes.																																																																
2	?Qu? te sugiere esta imagen?	Describir una fotograf?a.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.																																																																
3	La moda	Tema de conversaci?n y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despu?s.																																																																
4	El turista	Describir lugares como tema de conversaci?n sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.																																																																
5	Libros y lecturas 1	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.																																																																
6	Libros y lecturas 2	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.																																																																
7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.																																																																
8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.																																																																
9	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 1	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.																																																																
10	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 2	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.																																																																
11	Biograf?a sobre un personaje que admires 1	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.																																																																
12	Biograf?a sobre un personaje que admires 2	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.																																																																
13	Mi trabajo ideal.	Describir en qu? les gustar?a trabajar usando el espa?ol.	Buscar sobre un trabajo ideal.																																																																
14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginars e qu? estar?n haciendo en 30 o 50 a?os, qu? tipo de personas ser?n.	Presentar opiniones.																																																																
15	Presentaci?n como examen.	Escoger un tema original	Preparar el tema.																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。																																																																		

(基準)	授業における・課題 (100%) から総合的に評価する。 Evaluaci?n de las tareas de la clase (100%)
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルV	科目名 (英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3103d0		

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「zoom」、「gmail」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Aprender un idioma	Debate y opini?n a partir de una infograf?a.	Encontrar diferentes acentos y uso de palabras seg?n pa?ses hispanohablantes.
	2	?Qu? te sugiere esta imagen?	Describir una fotograf?a.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.
	3	La moda	Tema de conversaci?n y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despu?s.
	4	El turista	Describir lugares como tema de conversaci?n sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.
	5	Libros y lecturas 1	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	6	Libros y lecturas 2	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.
	8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.
	9	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 1	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.
	10	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 2	Escuchar y practicar espa?ol real.	Pel?culas en espa?ol para comentar.
	11	Biograf?a sobre un personaje que admires 1	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	12	Biograf?a sobre un personaje que admires 2	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	13	Mi trabajo ideal.	Describir en qu? les gustar?a trabajar usando el espa?ol.	Buscar sobre un trabajo ideal.
	14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginarsen qu? estar?n haciendo en 30 o 50 a?os, qu? tipo de personas ser?n.	Presentar opiniones.
	15	Presentaci?n como examen.	Presentaci?n de tema original.	Preparar el tema.

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題（100%）から総合的に評価する
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。 La din?mica de la participaci?n constante ser? considerada para evaluaci?n. 授業への積極的な参加と発言を高く評価する。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3104d0		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。教科書は用いず、教材を配布する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級 (とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Aprender un idioma	Debate y opini?n a partir de una infograf?a.	
2	?Qu? te sugiere esta imagen?	Describir una fotograf?a.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.
3	La moda	Tema de conversaci?n y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despu?s.
4	El turista	Describir lugares como tema de conversaci?n sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.
5	Libros y lecturas 1	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
6	Libros y lecturas 2	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.
8	La Unesco en el mundo hispanohablante 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.
9	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 1	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.
10	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 2	Escuchar y practicar espa?ol real.	Pel?culas en espa?ol para comentar.
11	Biograf?a sobre un personaje que admires 1	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
12	Biograf?a sobre un personaje que admires 2	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
13	Mi trabajo ideal.	Describir en qu? les gustar?a trabajar usando el espa?ol.	Buscar sobre un trabajo ideal.
14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginarse qu? estar?n haciendo en 30 o 50 a?os, qu? tipo de personas ser?n.	Presentar opiniones.
15	Presentaci?n como examen.	Presentaci?n de tema original.	Preparar el tema.

実務経験	
関連科目	スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teams コード	35nfkfx
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	uncantoalavida@gmail.com
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業における参加状況・課題 (50%) や理解度確認テストの成績 (50%) から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。 La din?mica de la participaci?n constante ser? considerada para evaluaci?n. 授業への背景的参加と発言を高く評価する。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学修に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3104d0		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。遠隔授業の形式で、教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにこなすこと。 スペイン語検定3級（とりわけ留学帰国者）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Aprender un idioma	Debate y opini?n a partir de una infograf?a.	
	2	?Qu? te sugiere esta imagen?	Describir una fotograf?a.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.
	3	La moda	Tema de conversaci?n y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despu?s.
	4	El turista	Describir lugares como tema de conversaci?n sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.
	5	Libros y lecturas 1	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	6	Libros y lecturas 2	Presentaci?n con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad	Elegir lugares y presentar.
	8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad	Elegir lugares y presentar.
	9	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 1	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.
	10	Pel?culas y/o cortometrajes para aprender espa?ol real 2	Escuchar y practicar espa?ol real.	Elegir pel?culas en espa?ol.
	11	Biograf?a sobre un personaje que admires 1	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	12	Biograf?a sobre un personaje que admires 2	Comentar por qu? se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	13	Mi trabajo ideal.	Describir en qu? les gustar?a trabajar usando el espa?ol.	Buscar sobre un trabajo ideal.
	14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginarse qu? estar?n haciendo en 30 o 50 a?os, qu? tipo de personas ser?n.	Presentar opiniones.
	15	Presentaci?n como examen.	Presentaci?n de tema original.	Preparar el tema.

実務経験

関連科目 スペイン語通訳Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅳほかスペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」

Teams コード jzd0civ

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 monserrat.loyde@edu.setsunan.ac.jp

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。
授業における・課題 (100%) から総合的に評価する。

学生へのメッセージ 資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。
La din?mica de la participaci?n constante ser? considerada para evaluaci?n. 授業への積極的な参加と発言が高く評価される。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前・事後学修に要する総時間数は約15時間。
毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3105e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとまった文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。必ず与えられた練習問題に取り組み、期限までに提出する。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4級～3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 既習文法事項 (接続法現在の用法) の復習	接続法現在の活用 (規則形・不規則形) を確認しておくこと
	2	第 22 課 食生活	和文西訳	和文西訳 (94～95 頁) をしておくこと 語彙の整理
	3	第 23 課 天候・気象	和文西訳	和文西訳 (96～97 頁) をしておくこと 語彙の整理
	4	第 24 課 歴史上の出来事	和文西訳	和文西訳 (98～99 頁) をしておくこと 語彙の整理
	5	第 25 課 大学生活	和文西訳	和文西訳 (100～101 頁) をしておくこと 語彙の整理
	6	第 26 課 環境問題	和文西訳	和文西訳 (102～103 頁) をしておくこと 語彙の整理
	7	第 27 課 医療	和文西訳	和文西訳 (104～105 頁) をしておくこと 語彙の整理
	8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習	既習範囲 (94～105 頁) の復習
	9	第 28 課 日本の伝統文化	和文西訳	和文西訳 (106～107 頁) をしておくこと 語彙の整理
	10	政治と経済	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	11	趣味・娯楽	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	12	交通・旅行	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	13	通信	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	14	人生・人間関係	和文西訳	配布されたプリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (106～107 頁、配布プリント)

実務経験	
関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出状況 20% (提出期限を守れなかった場合減点します) 提出課題：80% (提出課題の出来を評価します。)
学生へのメッセージ	外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。

授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語文章構成Ⅳ	科目名 (英文)	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3106e0		

授業概要・目的
既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとまった文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
スピーチコンテスト（できるかぎり Web 上で実施することを予定している）に向けて原稿のスペイン語訳、添削、暗唱を同時進行で行う。授業内でスペイン語原稿の添削指導もするが、自分の原稿だけでなく、他者の文章のチェック、修正も行う。この取り組みへの積極的な参加が求められる。

到達目標
文法的に正確な作文ができ、話を論理的に展開させる文章表現ができる。
語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
スペイン語原稿の相互チェックの活動を通じて互いの成長のために他者と協働できる。

授業方法と留意点
・ Teams による双方向オンライン授業を行う。課題の配布と回収には WebFolder を用いる。
・ 毎回の授業までに教員が各自の作文を添削できるように、指示された課題の提出期日を厳守すること。
文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳を繰り返す。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を論理的に展開するための文と文の繋げ方を学ぶ。直訳するのではなく、スペイン語でどのような構文を用いるとよいかを考えてとりかかり、スペイン語特有の言い回しなどを駆使することで

科目学習の効果 (資格)
スペイン語検定 4 級～3 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導	スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出
2	プリント①: スペイン語圏の都市を紹介する (1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント①) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
3	プリント②: スペイン語圏の都市を紹介する (2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント②) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
4	プリント③: スペイン語圏の著名人 (1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント③) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
5	プリント④: スペイン語圏の著名人 (2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント④) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
6	プリント⑤: スペイン語圏の文化 (1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント⑤) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
7	プリント⑥: スペイン語圏の文化 (2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント⑥) 語彙の整理 スピーチの練習
8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習 スピーチ原稿指導	既習内容の復習 (プリント①～⑥) スピーチの練習
9	プリント⑦: スペイン語圏の社会問題 (1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント⑦) をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
10	プリント⑧: スペイン語圏の社会問題 (2)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	和文西訳 (プリント⑧) をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
11	プリント⑨: スペイン語圏の社会問題 (3)	和文西訳	和文西訳 (プリント⑨) をしておくこと 語彙の整理
12	プリント⑩: スペイン語圏の世界遺産 (1)	和文西訳	和文西訳 (プリント⑩) をしておくこと 語彙の整理
13	プリント⑪: スペイン語圏の世界遺産 (2)	和文西訳	和文西訳 (プリント⑪) をしておくこと 語彙の整理
14	プリント⑫: スペイン語圏の世界遺産 (3)	和文西訳	和文西訳 (プリント⑫) をしておくこと 語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (プリント①～⑫)

実務経験
関連科目: スペイン語オラルⅤ、同Ⅵ、スペイン語通訳Ⅰ、同Ⅱなど全てのスペイン語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態
Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード
qux.jhi2

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出状況と質およびスピーチの作成過程など授業参加意欲 70%、Web 上で指定した日時に受験する理解度確認テスト 30%
学生への メッセージ	スピーチ原稿作成に関しては、配布する実施要領に従って計画的に準備してください。 外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、語彙と構文を貪欲に覚え、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。教材やスピーチ原稿作成にあたって出てきた語彙・構文を何度も復習して自分のものにしてください。
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 理解度確認テストの解説はその時間内に行う。

科目名	スペイン語通訳 I	科目名 (英文)	Spanish for Interpreters and Tour Guides I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3107e0		

授業概要・目的	日本の習慣・文化・歴史・地理などをスペイン語で説明できることを目指す。 外国語に上達するには「外国語で考えろ」とよく言われる。確かにその通りだが、では「外国語で考えるにはどうすればよいか」について種明かししている本も人もあまりいないと思う。バイリンガル、マルチリンガルではない環境で、その術を身につける方法 (取り立てて言うほど新しい方法ではない) もこの授業で実践していく。
到達目標	自分の身の回りのことをスペイン語で説明できるようになることを目指す。我々日本人にとっては当たり前すぎて、日本人同士では説明する必要のないようなことも、異文化圏の人からは説明を求められることが多い。日常生活の中で質問に出くわす事柄をスペイン語で臨機応変に説明できるようになる。
授業方法と留意点	スムーズにスペイン語が出てくることを目指すため、日本語をスペイン語にスイッチする練習を中心に行う。 ほぼ毎回、和 → 西の単語帳を作る課題を出す。語彙レベルは基本的なものとし、短時間での提出を求める。 授業では基本的な構文を使った和文西訳を中心とする。教材はプリントで配布する。和西辞典と西和辞典を必ず授業に持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定3級、通訳案内士 (ガイド) 資格取得の一助となる。 オリンピック・パラリンピック (2020)、万博 (2025) などで、日本を訪れる外国からの観光客やビジネスマンと接する機会もますます増える。そうした際にこの授業で得たことを活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: 授業の進め方	「通訳案内士」(ガイド) 試験とは?	通訳案内士の国家試験について調べ、単語を覚える努力をする。
2	メニューを説明する (1)	料理の種類を説明する	自分の単語帳を作る。
3	メニューを説明する (2)	食材の説明	食べ物関係の単語帳を作る。
4	メニューを説明する (3)	レシピの説明	自分の単語帳を作る。
5	食べ方や食事のマナーを説明する	お箸の持ち方、用い方 種類の食べ方など	自分の単語帳を作る。
6	理解度確認テスト (1)	これまでに習った語句や表現を中心としたテスト	既習事項の見直し
7	理解度確認テスト (1) の見直し 道案内をする (1)	町なかでの案内	自分の単語帳を作る
8	道案内をする (2)	交通機関の利用法	自分の単語帳を作る
9	買い物の手伝い (1)	衣服	自分の単語帳を作る。
10	買い物の手伝い (2)	お土産	自分の単語帳を作る。
11	理解度確認テスト (2)	これまで做った語句や表現を中心に	既習事項の見直し
12	理解度確認テスト (2) の見直し 日本の風習 (1)	家の中で	出来なかった箇所の確認
13	日本の風習 (2)	町なかで	自分の単語帳を作る。
14	日本の風習 (3)	年中行事	自分の単語帳を作る。
15	臨時試験	これまでに学習したことの確認	既習事項の見直し

実務経験

関連科目: スペイン語の語学系科目 (オラル、文章構成など) 全般および日本の歴史・文化に関する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名および登録キー

連絡手段

メールアドレス: メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準): ほぼ毎回、行なう単語帳 (基本語彙を和 → 西) の期間内提出 40%
毎回の課題 (和 → 西) の期間内提出 40%
最終的な課題 20%

学生へのメッセージ: オリンピック、万博など大きなイベントだけでなく、来日外国人観光客は急増しています。接触機会が増えると、日本のことを意外と説明できないことに気づくでしょう。ごく当たり前のことでもどう説明するか、日頃から考え、必要な語彙を補っておきましょう。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師室

備考: 事前・事後学習に要する総時間は約15時間。
授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。
授業で課した課題や宿題や次週の授業で発表させ講評を行う。

科目名	スペイン語通訳Ⅱ	科目名(英文)	Spanish for Interpreters and Tour Guides II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3108e0		

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	日本の風習や文化についてスペイン語で説明できることを目指す。 おもに京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。 世界無形文化遺産である「和食」、日本人の生活習慣等、異文化圏の人に対して客観的にスペイン語で説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使った双方向オンライン授業を行なう。教材・課題の配布も Teams に掲示する。 課題の提出は締め切りを守る。また Teams での会議に参加できない時は前もって連絡すること。 毎回、単語課題を課す。教材はプリントで配布する。 西和辞典と和西辞典を必ず用意すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級、通訳案内士(ガイド)資格取得の一助となる。 オリンピック・パラリンピック(2020)、万博(2025)などで、日本を訪れる外国からの観光客やビジネスマンと接する機会もますます増える。 そうした際にこの授業で得たことを活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の内容の復習</td> <td>もう一度、単語テスト</td> <td>語彙の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の自然(1)</td> <td>地理、気候</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の自然(2)</td> <td>自然遺産を中心に</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の歴史(1)</td> <td>古代～中世</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本の歴史(2)</td> <td>室町時代～江戸時代</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本の歴史(3)</td> <td>明治維新以降</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>これまでの総括</td> <td>語彙と表現の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本の文化(1)</td> <td>仏教と神道</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本の文化(2)</td> <td>お寺と神社</td> <td>語彙力の重要性を再認識</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近畿地方の観光スポット(1)</td> <td>大阪の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近畿地方の観光スポット(2)</td> <td>大阪の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近畿地方の観光スポット(3)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近畿地方の観光スポット(4)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>エアガイド</td> <td>これまでの知識を活かして、自分のお気に入りスポットを説明する</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>到達度確認テスト</td> <td>主に学習した単語力の確認</td> <td>これまでの学習のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認	2	日本の自然(1)	地理、気候	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	3	日本の自然(2)	自然遺産を中心に	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	4	日本の歴史(1)	古代～中世	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	5	日本の歴史(2)	室町時代～江戸時代	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	6	日本の歴史(3)	明治維新以降	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	7	理解度確認テスト	これまでの総括	語彙と表現の復習	8	日本の文化(1)	仏教と神道	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	9	日本の文化(2)	お寺と神社	語彙力の重要性を再認識	10	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	11	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	12	近畿地方の観光スポット(3)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	13	近畿地方の観光スポット(4)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	14	エアガイド	これまでの知識を活かして、自分のお気に入りスポットを説明する	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	15	到達度確認テスト	主に学習した単語力の確認	これまでの学習のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認																																																																
2	日本の自然(1)	地理、気候	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
3	日本の自然(2)	自然遺産を中心に	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
4	日本の歴史(1)	古代～中世	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
5	日本の歴史(2)	室町時代～江戸時代	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
6	日本の歴史(3)	明治維新以降	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
7	理解度確認テスト	これまでの総括	語彙と表現の復習																																																																
8	日本の文化(1)	仏教と神道	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
9	日本の文化(2)	お寺と神社	語彙力の重要性を再認識																																																																
10	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
11	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
12	近畿地方の観光スポット(3)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
13	近畿地方の観光スポット(4)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
14	エアガイド	これまでの知識を活かして、自分のお気に入りスポットを説明する	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
15	到達度確認テスト	主に学習した単語力の確認	これまでの学習のまとめ																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	スペイン語の語学系科目(オラル、文章構成など)全般および日本の歴史・文化に関する科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	dat499c																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	単語課題(30%)、作文課題(40%)、到達度確認課題(30%)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。 配布物が多いので、それらをこの科目のための固有のファイルに綴じて活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学修に要する総時間は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は次週の授業で発表、講評を行う。 臨時試験の答案と解答例は北條研究室において返却する。																																																																		

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3109e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画作品(字幕付き)を指示された方法で部分で気に視聴し、映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行う時間を設け、その内容についての質問・応答をオンラインで行う。重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、作品の要約あるいは感想をスペイン語でレポートとして提出する(word文書)。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業での活動と発表(60%)、提出物(40%)
学生への	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3109e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画作品(字幕付き)を指示された方法で部分で気に視聴し、映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行う時間を設け、その内容についての質問・応答をオンラインで行う。重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、作品の要約あるいは感想をスペイン語でレポートとして提出する(word文書)。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業での活動と発表(60%)、提出物(40%)
学生への	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名 (英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3110e0		

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページ、ブログなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまな出来事・ニュースに敏感になる。																																																																		
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をPDFもしくはWordファイルにして配布する。 課題は授業前日の17時までにWebfolderにアップロードする。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の様子を見て、テーマやペースが変わる場合もある。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級、3級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の進め方 メディアの多様性</td> <td>授業の内容を理解しておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>言語に関するスペイン語の記事(1)</td> <td>文化記事の訳読1</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>言語に関するスペイン語の記事(2)</td> <td>文化記事の訳読2</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>言語に関するスペイン語の記事(3)</td> <td>社会記事の訳読1</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>言語に関するスペイン語の記事(4)</td> <td>社会記事の訳読2</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中間テスト</td> <td>既習事項の再確認</td> <td>到達度の確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>スペインに関するスペイン語の記事(1)</td> <td>文化記事の訳読1</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スペインに関するスペイン語の記事(2)</td> <td>文化記事の訳読2</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>スペインに関するスペイン語の記事(3)</td> <td>文化記事の訳読3</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>復習 ボキャブラリーコンテスト</td> <td>ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)</td> <td>記事の訳読</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>中南米に関するのスペイン語の記事(2)</td> <td>記事の訳読</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>世界の社会問題に関するスペイン語の記事(1)</td> <td>社会記事の訳読1</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>世界の社会問題に関するスペイン語の記事(2)</td> <td>社会記事の訳読2</td> <td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>臨時試験と解説</td> <td>既習事項の再確認</td> <td>さらなる復習を</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと	2	言語に関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	3	言語に関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	4	言語に関するスペイン語の記事(3)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	5	言語に関するスペイン語の記事(4)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認	7	スペインに関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	8	スペインに関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	9	スペインに関するスペイン語の記事(3)	文化記事の訳読3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	12	中南米に関するのスペイン語の記事(2)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	13	世界の社会問題に関するスペイン語の記事(1)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	14	世界の社会問題に関するスペイン語の記事(2)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと																																																																
2	言語に関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
3	言語に関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
4	言語に関するスペイン語の記事(3)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
5	言語に関するスペイン語の記事(4)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認																																																																
7	スペインに関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
8	スペインに関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
9	スペインに関するスペイン語の記事(3)	文化記事の訳読3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
12	中南米に関するのスペイン語の記事(2)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
13	世界の社会問題に関するスペイン語の記事(1)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
14	世界の社会問題に関するスペイン語の記事(2)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																																																																		
Teamsコード	qadom00																																																																		
Moodleコース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	毎回の課題と発表への取り組み100%																																																																		
学生への メッセージ	文法事項ももう一度きちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。 日本語にもっと注意を向けること。 新聞、書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室																																																																		
備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学修に各1時間を要す。																																																																		

科目名	スペイン語プレゼンテーション I	科目名 (英文)	Presentation in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3111d0		

授業概要・目的	3年次までに習得したスペイン語の基礎文法を素地として、比較文化の多様な観点からテーマを選定し、その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏はもちろん、異文化についての関心を深め、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	オンライン授業にあたり、予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説資料を提示します。教員による3分間スピーチを一例として示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの原稿準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定3級 (とりわけ留学帰国者)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方 自己紹介に必要な表現と語彙の解説	発表の準備
2	自己紹介	発表 誕生日を迎えるにあたって将来の目標を語るための表現と語彙の解説	発表の準備	
3	将来の目標	発表 死生観と「死者の日」についての解説	発表の準備	
4	「死者の日」	発表 「お盆」との比較	発表の準備	
5	「お盆」と「死者の日」の比較	発表 日本文化の独自性 (例:世界初の小説『源氏物語』) の紹介	発表の準備 過去時制の復習	
6	私が誇りに思う日本文化	発表 中国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習	
7	私が魅かれる中国文化	発表 スペイン語圏文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習	
8	この目で見てみたいスペイン語圏文化	発表 米国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習	
9	私が影響を受けた米国文化	発表 料理についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 命令文の復習	
10	得意料理の作り方	発表 旅行についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 過去未来の復習	
11	旅行するとしたら	発表 買物の場面で必要な表現と語彙 (気候、色、衣類、食べ物、飲み物等)	発表の準備	
12	買物の場で	発表	発表の準備	
13	買物の場で	発表	発表の準備	
14	訪日観光客を案内して	発表 固有の社寺を説明するための語彙	発表の準備	
15	訪日観光客を案内して	発表 料理文化についての語彙	発表の成果を振り返る	

実務経験

関連科目

スペイン語通訳ガイド (留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名
および登録キー

連絡手段

メールアドレス

メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準)

授業における参加状況・発表 (60%)、課題提出 (40%)

学生へのメッセージ

扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。

担当者の研究室等

7号館2階 非常勤講師室

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 受講生は毎回テーマに沿った発表を準備し、時間内に講評を受ける。 毎回の授業の始めに、前回の次学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	---

科目名	スペイン語プレゼンテーションⅡ	科目名(英文)	Presentation in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3112d0		

授業概要・目的	スペイン語とその文化がいかに様々な異言語・異文化の影響を取り込んできたかを理解できるよう、テーマを選定します。その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるようになるために、ここではスペイン語を用いて導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語とその文化が内蔵する異文化要素を理解し、それについての説明ができるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行います。資料の配布やレポートの回収にも Teams または WebFolder を用います。WebFolder 上では、授業担当者は「n_o」の項で、Orashio と表示されているので注意してください。 予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。教員による3分間スピーチを一例として示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じ
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにできるようになる。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	スペイン語・文化が日本に与えた影響	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
3	スペイン語・文化がギリシア語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
4	ラテン語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
5	アラビア語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
6	スペイン語圏の歴史(1)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
7	スペイン語圏の歴史(2)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
8	スペイン語圏の歴史(3)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
9	スペイン語圏の政治(1)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
10	スペイン語圏の政治(2)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
11	スペイン語圏の経済	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
12	スペイン語圏の貿易	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
13	通訳としての仕事	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
14	通訳としての実践	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
15	各自最良の発表を行う	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の成果を振り返る

実務経験	
関連科目	スペイン語通訳ガイド(留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	sf0mlw0			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業における参加状況・発表70%と課題提出30%をもとに総合的に評価する。			
学生への メッセージ	扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の発表・学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	インドネシア語入門 a (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1113e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 基本的に、Microsoft Teams 等を用いた「遠隔授業」(非同期型)とする。 教員は動画形式で講義を配布、学生はそれに基づき学習し、課題を提出する。 「インドネシア語入門 a (1)」では、課題提出は、Google フォームによるオンラインでの回答方式を予定している。「インドネシア語入門 a (2)」については別途確認すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	ガイダンス インドネシア語の綴りと発音 1	各自インドネシアについて調べておくこと。 次回までに教科書6～8ページに目を通しておくこと。 インドネシア語の綴りと発音1の再確認をしておくこと。
	2	第2課	インドネシア語の綴りと発音 2	教科書の12～13ページに目を通しておくこと。 インドネシア語の綴りと発音2の再確認をしておくこと。
	3	第3課	名詞の文法説明、講読	教科書の15～20ページに目を通しておくこと。 名詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	4	第4課	形容詞の文法説明、講読	教科書の23～27ページに目を通しておくこと。 形容詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	5	第5課	動詞の文法説明、講読	教科書の30～33ページに目を通しておくこと。 動詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	6	第6課	数詞の説明、講読	教科書の36～41ページに目を通しておくこと。 数詞の説明、講読の再確認をしておくこと。
	7	第7課	時の表現の説明、講読	教科書の44～50ページに目を通しておくこと。 時の表現の説明、講読の再確認をしておくこと。
	8	第8課	その他の品詞1の説明、講読	教科書の53～57ページに目を通しておくこと。 その他の品詞1の説明、講読の再確認をしておくこと。
	9	第9課	その他の品詞2の説明、講読	教科書の60～63ページに目を通しておくこと。 その他の品詞2の説明、講読の再確認をしておくこと。
	10	第10課	語順1の文法説明、講読	教科書の66～70ページに目を通しておくこと。 語順1の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	11	第11課	語順2の文法説明、講読	教科書の73～78ページに目を通しておくこと。 語順2の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	12	第12課	接辞の説明	教科書の81～83ページに目を通しておくこと。 接辞の説明の再確認をしておくこと。
	13	第13課	接頭辞 ber-の文法説明、講読	教科書の84～88ページに目を通しておくこと。 接頭辞 ber-の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	14	第14課	接尾辞-an、人称接辞の文法説明、講読	教科書の91～95ページに目を通しておくこと。 接尾辞-an、人称接辞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	15	総復習	第1課から第14課の復習	第14課までの復習をしておくこと。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (2,000円程度)	浦野崇央、山口真佐夫	
	2	インドネシア語辞典ポケット版 (8,000円+税)	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	定期試験(「インドネシア語入門」統一試験)60%、中間テスト20%、課題提出20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	1年次の基本となる授業なので、しっかり出席して、基礎を習得してください。
担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室
備考	復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。

科目名	インドネシア語入門 a (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1114e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることを目的とする。 本授業では、特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験については臨時試験とし、方法は追って知らせる。 授業時には辞書を必ず携行すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1課</td> <td>インドネシア共和国におけるインドネシア語の位置づけについての説明 インドネシア語の綴りと発音①</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2課</td> <td>インドネシア語の綴りと発音②</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3課</td> <td>名詞を使った文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第4課</td> <td>形容詞を使った文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第5課</td> <td>動詞を使った文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第6課</td> <td>数詞を使った文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第7課</td> <td>時の表現についての文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第8課</td> <td>その他の品詞を使った文の講読・作文①</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第9課</td> <td>その他の品詞を使った文の講読・作文②</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第10課</td> <td>語順①</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第11課</td> <td>語順②</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>中間テスト 復習</td> <td>中間テスト これまでに学んだことの復習</td> <td>これまでに学んだことの復習および再確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第13課</td> <td>接頭辞 ber-を使った文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第14課</td> <td>接尾辞-an、人称接辞を使った文の講読・作文</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>これまでに学んだことの再確認</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第1課	インドネシア共和国におけるインドネシア語の位置づけについての説明 インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認	2	第2課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認	3	第3課	名詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認	4	第4課	形容詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認	5	第5課	動詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認	6	第6課	数詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認	7	第7課	時の表現についての文の講読・作文	学んだことの再確認	8	第8課	その他の品詞を使った文の講読・作文①	学んだことの再確認	9	第9課	その他の品詞を使った文の講読・作文②	学んだことの再確認	10	第10課	語順①	学んだことの再確認	11	第11課	語順②	学んだことの再確認	12	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習および再確認	13	第13課	接頭辞 ber-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認	14	第14課	接尾辞-an、人称接辞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認	15	復習	これまでに学んだことの再確認	学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1課	インドネシア共和国におけるインドネシア語の位置づけについての説明 インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認																																																																
2	第2課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認																																																																
3	第3課	名詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
4	第4課	形容詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
5	第5課	動詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
6	第6課	数詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
7	第7課	時の表現についての文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
8	第8課	その他の品詞を使った文の講読・作文①	学んだことの再確認																																																																
9	第9課	その他の品詞を使った文の講読・作文②	学んだことの再確認																																																																
10	第10課	語順①	学んだことの再確認																																																																
11	第11課	語順②	学んだことの再確認																																																																
12	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習および再確認																																																																
13	第13課	接頭辞 ber-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
14	第14課	接尾辞-an、人称接辞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認																																																																
15	復習	これまでに学んだことの再確認	学んだことの再確認																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 a(1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>インドネシア語入門 (第3版)</td> <td>浦野崇央・山口真佐夫編</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インドネシア語辞典ポケット版</td> <td>末永晃</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語入門 (第3版)	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語入門 (第3版)	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	「インドネシア語入門」統一試験 (臨時試験) 80%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。																																																																		
学生への メッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館4階(浦野研究室)																																																																		
備考	毎回の予習は基本的に必要ないが、少なくとも毎週1時間程度以上の復習は欠かさず行うこと。																																																																		

科目名	インドネシア語入門 b (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1115e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第15課	綴りの規則の説明、講読	教科書の98~102ページに目を通しておくこと。綴りの規則の説明、講読の再確認をしておくこと。
	2	第16課	接頭辞 se-、共接辞 se- nya, ke- an、接尾辞 -nya の文法説明、講読	教科書の105~109ページに目を通しておくこと。接頭辞 se-、共接辞 se- nya, ke- an、接尾辞 -nya の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	3	第17課	接頭辞 me- の文法説明、講読	教科書の112~117ページに目を通しておくこと。接頭辞 me- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	4	第18課	接頭辞 di- の文法説明、講読	教科書の120~123ページに目を通しておくこと。接頭辞 di- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	5	第19課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	教科書の126~129ページに目を通しておくこと。接頭辞 ter- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	6	第20課	共接辞 ber- an, per- an の文法説明、講読	教科書の132~134ページに目を通しておくこと。共接辞 ber- an, per- an の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	7	第21課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- an の文法説明、講読	教科書の137~140ページに目を通しておくこと。接頭辞 pe-、共接辞 pe- an の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	8	中間テスト対策講座	中間テストのための準備を行う	第21課までの復習をしておくこと。
	9	第22課	接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読	教科書の143~148ページに目を通しておくこと。接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	10	インドネシア語でスピーチしてみよう	インドネシア語の暗唱練習	指定されたインドネシア語の文章を練習すること。
	11	第23課	接頭辞 memper- の文法的説明、講読	教科書の151~153ページに目を通しておくこと。接頭辞 memper- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	12	第24課	能動文と受動文の文法説明、講読	教科書の156~159ページに目を通しておくこと。能動文と受動文の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	13	第25課	重複の文法説明、講読	教科書の162~168ページに目を通しておくこと。重複の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	14	第26課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読	教科書の171~174ページに目を通しておくこと。接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読の再確認をしておくこと。
	15	第27課	接辞のまとめおよびその他の接辞	教科書の176~177ページに目を通しておくこと。もう一度教科書全体を見ておくこと。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (前期に購入済み)	浦野崇央、山口真佐夫	
	2	インドネシア語辞典ポケット版 (前期に購入済み)	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom
Teams コード	6vcp0s1
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール、Teams チャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	定期試験(「インドネシア語入門」統一試験) 60%、中間テスト 20%、積極的な授業参加度の度合い 20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ	1年次の基本となる授業なので、しっかり出席して基礎を習得してください。
担当者の研究室等	7号館5階金子研究室
備考	復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。

科目名	インドネシア語入門 b (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1116e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基本的な運用能力の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「インドネシア語入門 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、「インドネシア語入門」統一試験を実施する。授業時は辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			学んだことの再確認
1	第15課	綴りの規則に基づいた文の講読・作文	学んだことの再確認
2	第16課	接頭辞 se-、共接辞 se- -nya、ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の文法説明および講読	学んだことの再確認
3	第17課	接頭辞 me- を使った文の文法説明および講読	学んだことの再確認
4	第18課	接頭辞 di- を使った文の文法説明および講読	学んだことの再確認
5	第19課	接頭辞 ter- を使った文の文法説明および講読	学んだことの再確認
6	第20課	共接辞 ber- -an、per- -an を使った文の文法説明および講読	学んだことの再確認
7	第21課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an を使った文の文法説明および講読	学んだことの再確認
8	中間テスト復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習および再確認
9	第22課	接尾辞 -i、-kan を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
10	第23課	接頭辞 memper- を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
11	復習	「インドネシア語暗唱コンテスト」に向けての暗唱練習	学んだことの再確認
12	インドネシア語プレゼンテーションにトライしてみよう	インドネシア語によるプレゼンテーションの方法を学ぶ	学んだことの再確認
13	第25課	重複の文の講読・作文	学んだことの再確認
14	第26課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
15	総復習(講読・作文実践練習)	これまでに学んだ構文の講読・作文練習	学んだことの再確認

実務経験	
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 b(1)」)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語入門第3版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Zoom
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	「インドネシア語入門」統一試験 40%、中間テスト 40%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとも学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、毎週少なくとも1時間程度以上の復習は欠かせないこと。

科目名	インドネシア語コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1117e0		

授業概要・目的	インドネシア語の発音と基本文法を学習して、日常会話を話す事が出来るようになることを目指す。
到達目標	挨拶、自己紹介を始め、学んだ文法を使って様々な会話文を作成できるようになる。
授業方法と留意点	会話文を学習。基本会話を聞く・文法確認・会話練習。
科目学習の効果(資格)	挨拶、自己紹介、依頼、許可表現などを基本的な日常会話ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	アルファベット文字と発音	母音と子音の発音	二重母音と子音の発音を確認して練習する。
2	挨拶	日常に使われる挨拶	日常の挨拶練習。
3	お礼とお詫び	お礼とお詫びの表現。	お礼と謝る場合の表現を練習する。
4	自己紹介	人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。	授業内容を復習すること。
5	自己紹介	疑問詞“誰”・家族に関する単語を学習・家族に付いての自己紹介。	前回の授業の内容を使って会話の練習をする。
6	基本文・肯定文・否定文・疑問文	名詞・名詞の否定詞、動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。	周りにあるものの名前を覚える。日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。
7	2週目～6週目の復習。	小テスト	授業内容について復習。
8	呼びかけ	様々な人の呼びかけ方	授業内容を復習する。
9	聞き直し	時間の言い方	授業内容を復習すること。
10	依頼	tolong～(～してください)を使って人に何かを頼んでみましょう。	授業内容を復習すること。
11	第6～10までの復習	小テスト。聞き取りテスト及び筆記テストを行う。	前回の授業で学んだ単語を文書を作成。
12	許可表現	bolehを使って相手に許可を求めてみましょう。	授業内容を復習すること。
13	確認	bukanを使って「～ですね」と確認しましょう。	授業内容の復習。
14	願望表現	～が欲しい、～したいの表現	全部の授業内容の復習。
15	第11～14までの復習	これまでの復習 小テスト、聞き取り会話及び筆記テスト テスト。	学習した語彙・会話文テスト。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	クラス参加及びクラス活動会話学習の取り込む30% 聞き取り会話テスト30%書くテスト40%
学生へのメッセージ	授業で学んだ語彙を覚える為には、毎日インドネシア語の挨拶から学習した会話文を使用する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。

科目名	インドネシア語コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1118e0		

授業概要・目的	前期に引きつづきインドネシアへ行くことを想定して、現地の日常生活の中の場面での会話に使われる表現に関連する単語を学習する。
到達目標	インドネシア語の日常会話につづいて、現地の生活習慣やマナーなどを理解できるようになる。
授業方法と留意点	会話を聞く・話す・覚える。毎回会話を練習して。復習確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常コミュニケーションが能力を付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の復習。	これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。	前期の授業内容の事前に復習する。
2	機内にて	インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。
3	入国	入国管理窓口での会話。聞き取り会話を練習する。	授業内容に関連する単語を覚える。
4	タクシーに乗る	運転手との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。
5	ホテルにて	ホテル従業員との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。
6	第1回目～5回目までの復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。
7	観光案内所にて。	観光案内所の職員との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。
8	鉄道に乗る	窓口の人との会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。
9	レストランにて	ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。
10	買い物	店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。
11	第7回目～10回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。
12	道を探る。	自分の行きたい場所までの道を尋ね、右や左といった単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。
13	薬局にて。	薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。
14	電話をかける	インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。
15	第12回目～14回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	到達度の確認課題を行う。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	wy4f60b
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Bの中のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	クラス活動参加(会話練習の取り込む) 50% 聞き取り会話及び筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	会話文だけではなく、インドネシアの文化や生活習慣などを理解し、コミュニケーション能力を上達する。出来る限りクラスメートと先生との会話をインドネシア語でしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。

科目名	インドネシア語ボキャブラリー a	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1119e0		

授業概要・目的	インドネシア語を学ぶにあたって、単語力の強化はたいへん重要である。本授業では、インドネシア語の単語力を増強し、より豊かな表現ができることを目指す。
到達目標	日常生活に必要な語彙を習得することができる。
授業方法と留意点	本授業では、毎回、小テストを行う。日々の学習が効果を生むので、しっかりと取り組んでほしい。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	挨拶表現	簡単な挨拶表現を習得する。	覚えた単語の再確認
3	人間	人間 (個人) をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認
4	人間関係	人間関係をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認
5	飲食物、味覚、色彩	基本的な飲食物、調味料、味覚、色彩をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認
6	基本動詞	接辞を使わない基本動詞の単語を習得する。	覚えた単語の再確認
7	形容詞	基本的な形容詞の単語を習得する。	覚えた単語の再確認
8	前置詞および場所	前置詞および場所を表す単語を習得する。	覚えた単語の再確認
9	数詞および助数詞	数字の 100 万までの表現および助数詞の使い方を習得する。	覚えた単語の再確認
10	時の表現	年・月・曜日・時の表し方を習得する。	覚えた単語の再確認
11	助動詞および副詞	助動詞や副詞の使い方を習得する。	覚えた単語の再確認
12	地域および国	地域や国の名称を習得する。	覚えた単語の再確認
13	社会・生活	社会・生活にかかわる単語を習得する。	覚えた単語の再確認
14	その他の単語	その他、あらゆる分野の基本単語を習得する。	覚えた単語の再確認
15	臨時試験および総復習	臨時試験を実施し、学習項目の再確認を行う。	臨時試験で間違えた個所の再確認

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて (特に、「インドネシア語入門 a(1)(2)」)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語単語集 (2000 単語) <第 2 版>	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :
評価方法 (基準)	毎週の小テスト、「積極的な授業参加」の度合い、臨時試験などを総合的に判断して評価する。詳細は第 1 回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	初めて学ぶインドネシア語運用能力の向上にあたっては、単語力の増強が欠かせません。日頃から単語の暗記を心がけましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (浦野研究室)
備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間程度を目安とする。 教科書『インドネシア語単語集』は、第 1 回目の授業で配布します。

科目名	インドネシア語ボキャブラリーb	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1120e0		

授業概要・目的	インドネシア語を習得するうえで、語彙力を高めることはきわめて重要である。 この授業では、やや高度なインドネシア語の単語と表現を学び、インドネシア語の語彙数を増やし、豊かな表現力と理解力を身に付けることを目的とする。あわせて、インドネシア語の文章や映像を通して生きた表現を学び、人々の暮らしに対する理解を深める。
到達目標	インドネシア語のやや高度な単語と表現を習得する。
授業方法と留意点	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語のやや高度な単語と表現が習得できる。 インドネシア語技能検定試験のための準備を進めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。 既習事項について復習する。	前期「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。
2	既習事項の確認	既習事項について復習する。	前期「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。	
3	語彙 1	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
4	語彙 2	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
5	復習 1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	前回の復習	
6	語彙 3	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
7	語彙 4	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
8	語彙 5	政治・経済に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
9	語彙 6	芸術・文化に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
10	復習 2	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	
11	語彙 7	自然に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
12	語彙 8	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
13	語彙 9	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
14	復習 3	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	
15	総合復習	単語習得状況の確認とフォローアップを行う。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	

実務経験	
関連科目	インドネシア語、マレー語に関する科目すべて。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom
Teams コード	zx0q19y
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール、Teams チャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	・計3回の確認テスト(70%) ・ボキャブラリーコンテスト(30%) *詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	インドネシア語は、文法構造が他言語と比べてシンプルです。インドネシア語上達のためには、ボキャブラリーを増やすことが重要です。この講義で学ぶ内容の他、動画配信されているニュース番組や、新聞・雑誌のウェブサイトなども日常的にアクセスして、インドネシア語のボキャブラリーを増やす努力を続けてください。
担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室
備考	毎回の復習は時間をかけてしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、語彙を着実に増やしていきけるように努めてください。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。

科目名	インドネシア語表現法	科目名 (英文)	Indonesian Expression
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1121e0		

授業概要・目的	この授業では、インドネシア語の基本的な表現および単語を学び、基本的な表現力と理解力を身に付けることを目的とする。あわせて、文章や映像を通してインドネシア語の生きた表現を学び、人々の暮らしに対する理解を深める。
到達目標	インドネシア語の基本的な表現および単語を習得する。
授業方法と留意点	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語の基本的な表現と単語が習得できる。 インドネシア語翻訳通訳に役に立つ。インドネシアの社会における様々なジャンルを学習し、知識を習得することが出来る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。	インドネシアとインドネシア語について、基本的な情報を調べておくこと。
2	表現1:インドネシア語の挨拶	インドネシアの生活習慣の基本に表す表現・	インドネシアの社会の情報を調べておくこと。	
3	表現2:生活人の呼び方。	インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
4	表現3:誘う	インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
5	復習1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	
6	表現4:感情を表す表現①嬉しい・喜ぶ表現。	嬉しい・喜びに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
7	表現5:悲しい・痛いを表す表現	悲しい・痛に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
8	表現6:怒りを表す表現	怒りに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
9	表現7:驚き・悩みを表す表現	驚き・悩みに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
10	復習2	感情を表す表現を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	
11	表現8:禁止の表現	様々な禁止の表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
12	表現9:命令・依頼表現	命令・依頼の表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
13	表現10:愛情表現	愛情に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	
14	復習3	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	
15	総合復習	習得状況の確認とフォローアップを行う。	既習事項を復習すること。	

実務経験	
関連科目	インドネシア、マレーシア、東南アジアに関する科目すべて。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。 詳細は、第1回目の授業で伝える。 クラス活動40% 復習テスト60%

学生へのメッセージ	日々の研鑽を怠らないようにしてください。 授業の復習以外にも、自分の関心に合わせて、インドネシア語の文章・映像・音声に積極的に触れ、辞書を使ってその内容を理解しようと心がけてください。自分で調べる作業を経ることで、新しい表現や単語が印象に残りやすくなり、そのぶんスムーズに学習を展開できるはずです。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の復習は時間をかけてしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、語彙を着実に増やしていきけるように努めてください。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じますが、事前に連絡すること。

科目名	初級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Elementary Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1122e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験E級の過去問題に取り組み、E級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験E級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	練習問題(1) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	練習問題(1) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
5	練習問題(2) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	練習問題(2) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
8	練習問題(3) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	練習問題(3) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
11	練習問題(4) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	練習問題(4) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
14	練習問題(5) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	練習問題(5) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2				
3				

授業形態	Zoom
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
学生へのメッセージ	検定試験E級合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 (浦野研究室)
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習を必ず行うこと。事前・事後学習の総時間数は15時間程度を目安とする。

科目名	総合インドネシア語 a (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2123e0		

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。			
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。			
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験については「総合インドネシア語」統一試験とし、臨時試験として実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明	学んだことの再確認
	2	第3課	基礎力確認演習 (作文)	学んだことの再確認
	3	第5課	文の種類1 疑問文 (文法・講読・作文)	学んだことの再確認
	4	第7課	文の種類3 重文と複文 (文法・講読)	学んだことの再確認
	5	第8課	基礎力確認演習 (総合①②)	学んだことの再確認
	6	第10課	インドネシアの教科書の講読①	予習 学んだことの再確認
	7	第10課	インドネシアの教科書の講読③	予習 学んだことの再確認
	8	第10課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 学んだことの再確認
	9	第11課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認
	10	第12課	会話文の講読②	予習 学んだことの再確認
	11	第12課	会話文の講読④	予習 学んだことの再確認
	12	第14課	エッセイの講読①	予習 学んだことの再確認
	13	第14課	エッセイの講読③	予習 学んだことの再確認
	14	第14課	エッセイの講読⑤	予習 学んだことの再確認
	15	総復習	学んだことの総復習	学んだことの再確認
実務経験				
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (2)」)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一試験 (臨時試験) 80%、「積極的な授業参加」の度合い20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。			
学生への メッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。			
担当者の 研究室等	7号館4階(浦野研究室)			
備考	事前・事後学習課題欄を参考に、毎週少なくとも1時間程度以上の復習は欠かさず、指示がある時は予習もこなすこと。			

科目名	総合インドネシア語 a (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2124e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。本授業では、特に「読む」「書く」「話す」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。		
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業は、「総合インドネシア語 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。 なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 2. 「読む」「書く」「話す」の能力を高めることから、授業内では講義だけではなく演習と発表も中心となる。 3. 授業内で質疑応答の時間も設ける。 4. 授業時には辞書を必ず携帯すること。 		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	第2課	基礎力確認演習 (講読)
	2	第4課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)
	3	第6課	文の種類2 単文 ((2) 講読)
	4	第6課	文の種類2 単文 ((3) 作文)
	5	第7課	文の種類3 重文と複文 ((3) 作文)
	6	第9課	新聞に親しんでみよう
	7	第10課	インドネシアの教科書の講読②
	8	第10課	インドネシアの教科書の講読④
	9	第10課	インドネシアの教科書の講読⑥
	10	第12課	会話文の講読①
	11	第12課	会話文の講読③
	12	第13課	広告に親しんでみよう
	13	第14課	エッセイの講読②
	14	第14課	エッセイの講読④
	15	第14課	エッセイの講読⑥
			事前・事後学習課題
			・学んだことの再確認 (1時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (1時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (2時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (2時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (2時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (3時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (2時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (2時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (2時間) ・次週の課題の下調べ (2時間)
			・学んだことの再確認 (3時間) ・次週の課題の下調べ (3時間)
			・学んだことの再確認 (3時間) ・次週の課題の下調べ (3時間)
			・第15回までに学んだことの再確認 (夏季休暇中に30時間)
実務経験			
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a(1)」)		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	総合インドネシア語	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 試験 60%、随時課す宿題 20%、授業での発表 20%		
学生への メッセージ	高度なインドネシア語運用能力を身につけるために一生懸命取り組みましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	1. 授業内容を確実に理解するためにも、予習・復習には十分な時間を費やすこと。		

- | | |
|--|--|
| | <p>事前・事後学習内の表記時間は最低目安時間にすぎない。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて金曜の昼休み時間に受け付ける。 |
|--|--|

科目名	総合インドネシア語 b (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2125e0		

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (1)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携行すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 15 課</td> <td>手紙を書いてみよう①</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第 15 課</td> <td>手紙を書いてみよう②</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第 16 課</td> <td>ことわざの表現③④</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第 16 課</td> <td>ことわざの表現⑤⑥</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第 17 課</td> <td>映画を観てみよう</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読②</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読④</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読⑥</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読⑧</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第 19 課</td> <td>スピーチをしてみよう① 単語力確認テスト</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第 20 課</td> <td>bahasa baku と bahasa sehari-hari②</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第 19 課</td> <td>スピーチをしてみよう②</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第 21 課</td> <td>テレビを観てみよう</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第 22 課</td> <td>略語と借用語</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第 23 課</td> <td>新聞記事の購読②</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認	2	第 15 課	手紙を書いてみよう②	学んだことの再確認	3	第 16 課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認	4	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	予習 学んだことの再確認	5	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認	6	第 18 課	文学作品の講読②	予習 学んだことの再確認	7	第 18 課	文学作品の講読④	予習 学んだことの再確認	8	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 学んだことの再確認	9	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 学んだことの再確認	10	第 19 課	スピーチをしてみよう① 単語力確認テスト	学んだことの再確認	11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 学んだことの再確認	12	第 19 課	スピーチをしてみよう②	学んだことの再確認	13	第 21 課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認	14	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認	15	第 23 課	新聞記事の購読②	予習 学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認																																																																
2	第 15 課	手紙を書いてみよう②	学んだことの再確認																																																																
3	第 16 課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認																																																																
4	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	予習 学んだことの再確認																																																																
5	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認																																																																
6	第 18 課	文学作品の講読②	予習 学んだことの再確認																																																																
7	第 18 課	文学作品の講読④	予習 学んだことの再確認																																																																
8	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 学んだことの再確認																																																																
9	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 学んだことの再確認																																																																
10	第 19 課	スピーチをしてみよう① 単語力確認テスト	学んだことの再確認																																																																
11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 学んだことの再確認																																																																
12	第 19 課	スピーチをしてみよう②	学んだことの再確認																																																																
13	第 21 課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認																																																																
14	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認																																																																
15	第 23 課	新聞記事の購読②	予習 学んだことの再確認																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (2)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>総合インドネシア語 第4版</td> <td>浦野崇央・山口真佐夫編</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インドネシア語辞典ポケット版</td> <td>末永晃</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>最新インドネシア語小辞典</td> <td>佐々木重次編</td> <td>Grup Sanggar</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Zoom																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	試験(「総合インドネシア語」統一試験) 80%、「積極的な授業参加」の割合 20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。																																																																		
学生への メッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館4階(浦野研究室)																																																																		
備考	「事前・事後学習課題」欄を参考に、毎週少なくとも1時間程度以上の復習は欠かさず、指示のある時は予習をこなすこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 b (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2126e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の運用能力の一層の向上を目指す。前期開講の「総合インドネシア語 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。			
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。			
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業は、「総合インドネシア語 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。 なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 2. 「読む」「書く」「話す」の能力を高めることから、授業内では講義だけではなく演習と発表も中心となる。 3. 授業内で質疑応答の時間も設ける。 4. 授業時には辞書を必ず携帯すること。 			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第 15 課	手紙を書いてみよう ②手紙の書き方	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	2	第 16 課	ことわざの表現①②	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	3	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文指導)	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	4	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文原稿チェック)	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	5	第 18 課	文学作品の購読①	・学んだことの再確認 (3 時間) ・次週の課題の下調べ (3 時間)
	6	第 18 課	文学作品の講読③	・学んだことの再確認 (3 時間) ・次週の課題の下調べ (3 時間)
	7	第 18 課	文学作品の講読⑤	・学んだことの再確認 (3 時間) ・次週の課題の下調べ (3 時間)
	8	第 18 課	文学作品の講読⑦	・学んだことの再確認 (3 時間) ・次週の課題の下調べ (3 時間)
	9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	・学んだことの再確認 (4 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の練習 (2 時間)
	11	第 19 課	スピーチをしてみよう③ (スピーチコンテスト)	・学んだことの再確認 (4 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	13	第 23 課	新聞記事の購読①	・学んだことの再確認 (2 時間) ・次週の課題の下調べ (2 時間)
	14	第 23 課	新聞記事の講読③	・学んだことの再確認 (3 時間) ・次週の課題の下調べ (3 時間)
	15	第 23 課	新聞記事の講読④	第 23 課までに学んだことの総確認とまとめ (10 時間)
実務経験				
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b(1)」)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 (前期に購入済み)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	szhx3xj			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 60%、随時課す宿題 20%、授業での発表 20%			
学生への メッセージ	高度なインドネシア語運用能力を身につけるために一生懸命に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	1. 授業内容を確実に理解するためにも、予習・復習には十分な時間をかけること。			

- | | |
|--|--|
| | <p>事前・事後学習内の表記時間は最低目安時間にすぎない。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて金曜の昼休みに受け付ける。 |
|--|--|

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2127e0		

授業概要・目的	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。インドネシアでの様々な状況の会話文を学んで、コミュニケーションを取る練習。
到達目標	相手の発言に対して自分が応えることも重要であるが、まずは過去1年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	インドネシアに上陸する(1)	買い物する。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアに上陸する(2)	道を尋ねる。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアに上陸する(3)	病院にて。医者と会話する。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアに上陸する(4)	薬局にて。薬の種類や飲み方について。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小試験および第2回から第5回までの復習	第2回から第5回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
7	電話をかける。(1)	会う約束をするための知人に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	電話をかける。(2)	安い航空券を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	電話をかける。(3)	電話で料理を注文する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	電話をかける。(4)	警察署に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小試験および第7回から第10回までの復習	第7回から第10回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
12	インドネシアでの生活の準備。(1)	住居を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	インドネシアでの生活の準備。(2)	家具を買う。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	インドネシアでの生活の準備。(3)	乗り物をレンタルする。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	総復習試験	これまでの復習を行い、全回で学習した項目をもとに、シチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。

実務経験

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2				
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法 (基準) クラス参加及び活動(聞き取り会話学習) 50% 授業内中間及び期末筆記テスト 50%

学生へのメッセージ 間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ b	科目名 (英文)	Indonesian Communication II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2128e0		

授業概要・目的	一年半のインドネシア語学習を通じて、単語や文法の理解が深まったため、インドネシアに旅行でも長期滞在で現地の人とコミュニケーション出来る。インドネシアで様々な日常生活に会話出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分も答えることも重要であるが、まずは前期までの得た単語や表現をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に発言出来ることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じてどのような内容伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前に想像しておくこと。積極的発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシアでの日常生活 (1)	出会い。新しい友達と出会いの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現や自己紹介をする際に役立つ表現を覚えましょう。
2	インドネシアでの日常生活 (2)	手紙を送る。郵便局にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアでの日常生活 (3)	博物館を訪問する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアでの日常生活 (4)	映画館で映画を観る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアでの日常生活 (5)	手工芸品を見る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小テスト及び第1回目～5回目までの復習。	第1回目～5回目までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
7	日々の出来事。(1)	講義に遅刻する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	日々の出来事。(2)	運転免許証をうっかり置き忘れる。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	日々の出来事。(3)	郊外で休暇を過ごす。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	日々の出来事。(4)	病気。病院にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小テスト及び第7回目～10回目までの復習	第7回目～10回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
12	ホテルに泊まる。(1)	空港でホテルを予約する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	ホテルに泊まる。(2)	ホテルに到着する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	ホテルに泊まる。(3)	クリーニング、ルームサービスの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	復習試験	全回で学習項目を基に、ある場面を想定した会話を課する。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	hqckec2
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	Bの中のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	クラス参加及び活動(聞き取り会話学習) 50% 授業内中間・期末会話・筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	様々な会話を学習したので出来る限り復習の為にクラス活動をインドネシア語でおこなう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	旅行インドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2129e0		

授業概要・目的	インドネシア語の力を活かし個人で観光旅行に行くことを想定した授業です。変化の激しいインドネシアのいまを反映しながらも、短く的確なフレーズを主として実践的なインドネシア語の会話表現と多様な用語とともに、インドネシアを旅する際の基礎知識を学びます。インドネシア語での日常生活にも役立ちます。
到達目標	個人でインドネシアへ観光旅行に行っても困らないインドネシア語の会話力を修得することを目的とします。
授業方法と留意点	基本的に、Microsoft Teams 等を用いた「遠隔授業」(非同期型)とする。教員は動画形式で講義を配布、学生はそれに基づき学習し、課題を提出する。課題提出は、Google フォームによるオンラインでの回答方式を予定している。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (C、D、E 級)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、1年次で学んだことの確認。	1年次で学んだ文法事項を確認しておくこと。授業で学んだことを復習しておくこと。
2	旅の手配をする	インドネシアの旅の基本情報となる表現や単語、特に、インドネシアの航空便(国内線)予約、宿泊予約、鉄道予約など、旅行手配に必要な表現や単語を学ぶ。	1年次で学んだ会話表現を確認しておくこと。旅行にも用いる会話表現の復習をしておくこと。
3	インドネシアに入国する	入国ビザについて、携帯の現地 SIM カードを買う、両替する、買い物をするなど、現地で過ごすために必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
4	移動する (1)	空港鉄道、バス、タクシーなどの公共交通の利用など、特にジャカルタを中心とした「移動」に注目して必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
5	移動する (2)	タクシー、オジェック、バジャイ、トランスジャカルタ、MRT などの都市内の移動や、都市間の移動に注目した表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
6	観光する (1)	都市の観光について、オプション・ツアーの予約や、文化遺産など、現地の観光に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
7	観光する (2)	インドネシアの世界遺産や無形文化遺産を中心に伝統文化や身体表現を表す表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
8	7回までのまとめ	中間テストおよび解説	1?7回に学んだことを復習すること。
9	ご飯を食べる・必要なものを買う	レストラン (パダン料理やフードコート) や屋台 (ワルン) などで食事や、買い物に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
10	トラブルの際の表現 (1)	道や場所を尋ねたり、探したりする際に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
11	トラブルの際の表現 (2)	病院や薬局に行く際に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
12	インドネシア人と「旅」	インドネシア人の「旅」をめぐる様々な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
13	お土産物を買う	「モノ」に関するさまざまな表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
14	帰国する	帰国に必要な表現や単語に加え、その他の旅行に関連するさまざまな表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
15	総復習	理解度確認テストおよび解説	これまで学んだ表現や単語を復習すること。

実務経験	
関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	「旅行」を想定したさまざまな表現を身につけて、ぜひインドネシアのさまざまな地域を楽しく安全に巡ってください！
担当者の 研究室等	7号館 5階金子研究室
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。

科目名	基礎マレー語 a	科目名 (英文)	Basic Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2130e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。
到達目標	マレー語の運用能力の基礎を得る。
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。授業の進め方の詳細は初回授業画指示する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
6	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
7	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
8	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
11	文法 5	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
14	復習 2	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。	既習事項の確認
15	総合復習	とともに、理解力を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストのための復習に取り組むこと。

実務経験	
関連科目	基礎マレー語 b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
2	基礎マレー語	上田達		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	期末課題 (50%)、確認課題 (20%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。
担当者の研究室等	7号館5階 (上田研究室)
備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は一回目の授業から使用するので購入しておくこと。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	基礎マレー語 b	科目名 (英文)	Basic Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2131e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。			
到達目標	マレー語の基礎的な運用能力を獲得する。			
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。
	9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
	15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。
実務経験				
関連科目	基礎マレー語 a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
	2	基礎マレー語	上田達	
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	uavvlov			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	課題や提出物等の授業への取り組み (60%) と最終課題 (40%) から総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問してください。			
担当者の研究室等	7号館5階 (上田研究室)			
備考	拙著の教科書は前期開講の「基礎マレー語」を継続して使用する。 最終課題は授業期間終了後、採点のうえ返却する。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。			

科目名	中級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2132e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 (D級) 受検を想定した授業です。過去3年間の試験問題を元に、出題カテゴリのそれぞれ (①語彙、②文法、③作文、④リスニング) について実践的に学び、過去問題にも挑戦します。
到達目標	インドネシア語技能検定試験 (D級) 合格レベルのインドネシア語能力の修得を目指します。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験 (D級) の過去問題を中心に授業を進めます。適宜小テストも行う予定です。辞書は必ず携帯してください。

科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験
--------------	---------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	練習問題 (1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直すこと。
2	練習問題 (1) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
3	練習問題 (1) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
4	練習問題 (2)	過去問を解く	練習問題 (1) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
5	練習問題 (2) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
6	練習問題 (2) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
7	練習問題 (3)	過去問を解く	練習問題 (2) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
8	練習問題 (3) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
9	練習問題 (3) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
10	練習問題 (4)	過去問を解く	練習問題 (3) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
11	練習問題 (4) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
12	練習問題 (4) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
13	練習問題 (5)	過去問を解く	練習問題 (4) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
14	練習問題 (5) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
15	練習問題 (5) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom
------	--------------------

Teams コード	tep434b
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール、Teams チャット
------	------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階金子研究室
----------	------------

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。 なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。
----	---

科目名	実践インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3133e0		

授業概要・目的	この授業はインドネシア語、マレー語の中級以上の能力を養うことを目的とする。色々な分野のインドネシア語、マレー語の文献を読む。
到達目標	様々なインドネシア語、マレー語の文献を読む能力を習得することができる。
授業方法と留意点	この授業は多読、速読を目指している。指示に従って予習を行うこと。また新聞を読む場合はインターネットで、専門書を読む場合には図書館で、下調べをする必要もある。授業で用いるプリントは教員が用意する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業の進め方、基本的な知識の説明	新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。
2	新聞記事の講読についての説明	インドネシア語、マレー語の新聞を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
3	新聞記事の講読 1	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
4	新聞記事の講読 2	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
5	新聞記事の講読 3	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
6	学術雑誌の講読についての説明	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。
7	学術雑誌の講読 1	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
8	学術雑誌の講読 2	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
9	学術雑誌の講読 3	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
10	専門書の講読	インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。
11	専門書の講読 1	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
12	専門書の講読 2	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。
13	専門書の講読 3	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 次回の提出物の準備。
14	専門書の講読 4	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。 授業で得た知識を再確認しておくこと。 の提出	他の受講生の提出物を読んでおく。
15	翻訳	各自が行った翻訳を受講生同士で批評する。	各自が行った翻訳を他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。

実務経験	
関連科目	インドネシア語の科目すべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業での発表 (20%)、下調べと予習 (20%)、各自が選んで行った翻訳 (60%)
学生へのメッセージ	文献を読む際にどのように下調べを行い、どのような辞書を選び、最終的に内容を理解するプロセスを学んで下さい。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い60時間以上行うこと。

科目名	実践インドネシア・マレー語 b	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3134e0		

授業概要・目的	日々の文脈で使用されているマレー語に触れながら、話す・書くといったマレー語の実践的な運用能力の獲得を目指す。フォーマル/インフォーマルなさまざまな局面でのマレー語を使った適切な表現を理解するとともに、マレー語で意志を伝達することの訓練を行う。
到達目標	マレー語能力 (特に会話と表現) の向上。
授業方法と留意点	*資料の収集やマレー語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 *授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	紹介 1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成
5	演習 1	紹介文を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。
6	文書 1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲
9	演習 2	作成した文書を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。
10	広告 1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備
14	演習 3	第 13 講義までの内容について復習するとともに、理解度を問う確認テストをおこなう。	既習事項の復習。
15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成

実務経験	
関連科目	時事インドネシア・マレー語

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom
Teams コード	t1v21i9
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	最終課題 (60%)、発表等や提出物の提出状況等授業への取り組み (40%) から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	マレー語を使った表現を楽しみましょう。

担当者の研究室等	7号館5階上田研究室
備考	受講者の人数と関心を見て、課題の詳細（作成方法や提出方法等）を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。 参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3135d0		

授業概要・目的	この授業ではインドネシア⇄日本社会における話題や出来事について議論する。
到達目標	1. インドネシア語である程度の発表ができるようになること。 2. インドネシア語である程度の小レポートが書けるようになること。 3. プレゼンテーションインドネシア語にも役に立つ。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。復習も欠かさないこと。インドネシアの新聞や雑誌、メディア、SNS等から受講者がニュースや記事を取りあげて概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習
	2	日本のニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底
	3	インドネシアのニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底
	4	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底
	5	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底
	6	インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る	感想又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底
	7	第2回～6回までのテーマを選んで感想文を作成。	感想文作成する作業。	準備と予習、復習の徹底
	8	第2回～6回までの各テーマの発表。	発表又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底
	9	インドネシア 日本の音楽について。	動画を見る音楽を聴く。	準備と予習、復習の徹底
	10	インドネシア 日本の音楽について。	感想文を発表する。	準備と予習、復習の徹底
	11	日本の観光について。	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底
	12	インドネシアの観光について	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底
	13	日本 インドネシア観光について。	感想文あるいは意見交換する。	準備と予習、復習の徹底
	14	インドネシアの映画を観る	話や映画のテーマについて確認。	準備と予習、復習の徹底
	15	感想文の発表。	発表 又は意見交換。	準備と予習、復習の徹底

実務経験

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新聞記事		
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス：

評価方法 (基準) 1. 準備・予習・復習からなるホームワーク (50%)
2. 授業での発表とレポート (50%)
詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ 1. 予習ならびに準備として、インドネシア語の記事をより理解するために自ら参考文献を調べて読んでおくこと。
2. 必ず復習をおこなうこと。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。
----	---

科目名	インドネシア語コムニカシⅢ b	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3136d0		

授業概要・目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニュースや新聞等の情報を読んだり聴いたりし、その内容を理解できることを目標します。 2. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 3. 随時、レポートを課す。 4. 随時、暗唱を課す。 5. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。 <p>前期に引きつづきインドネシア語で詩・スピーチ・司会・パーソナリティなど原稿の作成から発表までふさわしい表現出来るようになる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表にふさわしいインドネシア語が運用できるようになること。 2. レポートにふさわしいインドネシア語の文章が書けるようになること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ニュースや新聞等の情報を読んだり聴いたりし、その内容を理解できることを目標します。 2. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 3. 随時、レポートを課す。 4. 随時、暗唱を課す。 5. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。復習も欠かさないこと。扱う単語もやや難しいので、何度も繰り返し聞いてみましょう。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1. プロローグ	1. 授業の進め方や受講にあたっての留意点、準備・予習・復習の仕方、資料の探し方、発表の手順・発表資料の作成などについて説明を行なう。 2. シャドーイング	授業内容の復習
2	インドネシア語の詩 ①	1. 読む、内容を理解する 2. 暗記・感情表現	授業内容の復習
3	インドネシア語の詩 ②	1. 読む、内容を理解する 2. 暗記・感情表現	授業内容の復習
4	インドネシアのラジオ①	1. 聞く・内容理解する。 2. 原稿の作成。	授業内容の復習
5	インドネシアのラジオ ②	1. 原稿の作成。 2. 発表する。	授業内容の復習
6	インドネシア語のスピーチ ①	スピーチ内容と原稿の作成	授業内容の復習
7	インドネシア語のスピーチ ②	原稿の作成と発表。	授業内容の復習
8	広告を作る①	1. 企画：テーマ 2. 原稿の作成	授業内容の復習
9	広告を作る②	各原稿の発表・議論	授業内容の復習
10	発表会	第2回目～9回目の中から受講者一人一人関心がある内容について詳しく発表する。	授業内容の復習
11	短編小説を読む。	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
12	短編小説を読む。	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
13	短編小説を読む。	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
14	短編小説を読む	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
15	発表 ③	1. 第12回、第13回、第14回の授業から、受講者が関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teams コード	6odu36n		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	B 中のチャット		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	1. 授業での発表とディスカッション(40%) 2. 暗唱とレポート(60%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。		
学生への メッセージ	前期の『インドネシア語コミュニケーションⅢa』でインドネシア語運用能力が高まったかと思います。 この授業ではいっそうの高みを目指しましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。		

科目名	時事インドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Media Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7e, DP8e		
科目ナンバリング	LDL3137e0		

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。授業の進め方の詳細は初回授業時に指示する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。	

実務経験				
関連科目	基礎マレー語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期末課題 (50%)、確認課題 (20%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。			
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(上田研究室)			
備考	提出物は原則として翌週に返却する。事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。			

科目名	ビジネスインドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3138e0		

授業概要・目的	インドネシア語の力を活かしてインドネシアで働くことを想定した授業です。この授業では、ビジネス会話表現や経済用語だけでなく、ビジネス・パートナーとして共に働くことになるインドネシア人の社会・文化習慣や、社会関係のありようを理解することにも重点を置きます。
到達目標	インドネシア語で働く際に有益なインドネシア語の語彙力や書き言葉、フレーズを修得するとともに、インドネシア人のビジネス慣習や、社会制度、そして社会的・文化的な習慣を理解する。
授業方法と留意点	フォーマルなインドネシア語を中心に学びます。 テキストは各回のテーマに応じた PDF ファイルを配布する他、会話表現については『ビジネス・生活で使えるインドネシア語ダイアログ』をテキストとして用います。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (B, C 級)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	インドネシア行政制度の概要	インドネシアの行政制度や行政手続きなどの基礎をインドネシア語で学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
3	インドネシア会社法や商習慣の概要	インドネシアの会社法や商慣習などの基礎をインドネシア語で、学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
4	フォーマルな挨拶	フォーマルなインドネシア語の挨拶や身体言語について学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
5	ビジネス会話 1	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声聞きながら反復練習する。
6	ビジネス会話 2	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声聞きながら反復練習する。
7	ビジネス会話 3	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声聞きながら反復練習する。
8	1回～7回まとめ(小テスト)	復習・中間テスト	1回から7回までに学んだことを再確認。
9	生活会話 1	赴任先での生活に関わる様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声聞きながら反復練習する。
10	生活会話 2	赴任先での生活に関わる様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声聞きながら反復練習する。
11	生活会話 3	赴任先での生活に関わる様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声聞きながら反復練習する。
12	インドネシア語の金融・経済用語を学ぶ 1	インドネシア語の金融・経済用語を学ぶことで、ビジネスの様々なシーンに役立てる	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
13	インドネシア語の金融・経済用語を学ぶ 2	インドネシア語の金融・経済用語を学ぶことで、ビジネスの様々なシーンに役立てる	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
14	インドネシア語の金融・経済用語を学ぶ 3	インドネシア語の金融・経済用語を学ぶことで、ビジネスの様々なシーンに役立てる	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
15	9回～14回の復習・テスト。	復習・テスト	9回から14回までに学んだことを再確認

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom
Teams コード	3n1qaJ3
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール、Teams チャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	授業の準備・授業中の活動 50%

(基準)	復習テスト 50%
学生へのメッセージ	インドネシアで働くことを想定した授業なので、やや高度な文語的表現、公式行事における表現、行政制度や金融経済等の専門用語を学んでいきます。さらにビジネス関連のリスニング能力向上のために、BBC Indonesia のポッドキャストなど経済ニュースをインドネシア語で定期的に聴くことを勧めます。
担当者の研究室等	7号館5階金子研究室
備考	事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	上級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Advanced Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3139e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 (C級) 受検を想定した授業です。過去3年間の試験問題を元に、出題カテゴリのそれぞれ (①語彙、②文法、③作文、④リスニング) について実践的に学び、過去問題にも挑戦します。
到達目標	インドネシア語技能検定試験 (C級) 合格レベルのインドネシア語能力の修得を目指します。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に授業を進めます。 基本的に、Microsoft Teams 等を用いた「遠隔授業」(非同同期型) とします。 教員は動画形式で講義を配布、学生はそれに基づき学習し、課題を提出する流れです。

科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (C級)
--------------	--------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	練習問題 (1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直すこと。
2	練習問題 (1) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
3	練習問題 (1) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
4	練習問題 (2)	過去問を解く	練習問題 (1) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
5	練習問題 (2) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
6	練習問題 (2) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
7	練習問題 (3)	過去問を解く	練習問題 (2) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
8	練習問題 (3) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
9	練習問題 (3) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
10	練習問題 (4)	過去問を解く	練習問題 (3) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
11	練習問題 (4) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
12	練習問題 (4) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
13	練習問題 (5)	過去問を解く	練習問題 (4) を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
14	練習問題 (5) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
15	練習問題 (5) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。

実務経験	
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	課題の提出 50%、テスト 50%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	技能検定 C 級合格に向けて、一緒に頑張りましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館 5階金子研究室
----------	-------------

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。
----	--

科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3140d0		

授業概要・目的	フォーマル/インフォーマルなさまざまな局面でのインドネシア語を使った適切な表現を理解するとともに、インドネシア語で意志を伝達する訓練を行う。少なくとも三回の発表の機会を設けて、フォーマルなインドネシア語原稿の作成と発表のための口頭表現を実践的に学ぶ。学習の成果を計るため、インドネシア語プレゼンテーションコンテストへの参加を必須とする。
到達目標	インドネシア語能力の向上。
授業方法と留意点	*「インドネシア語プレゼンテーションコンテスト」への参加を必須とする。 *資料の収集やインドネシア語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 *授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
	2	紹介 1	組織や事項について書かれたインドネシア語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したインドネシア語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらインドネシア語による紹介文を作成する。	紹介文の完成
	5	演習 1	紹介文を発表する。	既習事項を確認する
	6	文書 1	インドネシア語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したインドネシア語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲
	9	演習 2	作成した文書を発表する。	既習事項を確認する
	10	広告 1	インドネシア語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	11	広告 2	インドネシア語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
	12	広告 3	広告を発表する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	既習事項の復習
	14	演習 3	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備
	15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成

実務経験	
関連科目	インドネシア・マレー語関係の授業

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	68lumjt
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	B 中のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	「インドネシア語プレゼンテーションコンテスト」を含めて三回実施する演習課題 (70%)、その他課題の提出状況等授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	インドネシア語を使った表現を楽しみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室

備考	受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。 参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考のこと。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。
----	---

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達, ユニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3141e0		

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。そのために上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加することが望まれる。授業の進め方の詳細は初回授業時に指示する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語、マレー語運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	講読 1	社会に出来事についてメディアの記事を使用して授業行う (エニ担当)	予習をしておくこと。
3	講読 2	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
4	講読 3	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。
5	論文の執筆 1	論文の執筆を行うための基礎知識を学習する。論文の執筆を行う。(エニ担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。
6	論文の執筆 2	論文の執筆を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(エニ担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。
8	プレゼンテーション	5 週目～7 週目までのまとめを発表する。(エニ担当)	プレゼンテーションの練習をしておくことと発表する。
9	文献講読 1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
10	文献講読 2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
11	文献講読 3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
12	資料読解 1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
13	資料読解 2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
14	資料読解 3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。

実務経験

関連科目

インドネシア語・マレー語の全科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名
および登録キー

連絡手段

メールアドレス

メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス：

評価方法 (基準)

前半 (エニ担当) と後半 (上田担当) のそれぞれについて、提出物や課題等の取り組み (30%) と、最終課題 (70%) から総合的に判断する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

7号館2階非常勤講師控室
7号館5階 (上田研究室)

備考

提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後に評価を記して返却する。
事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	インドネシア・マレー語学研究	科目名 (英文)	Indonesian-Malay Linguistic Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達・金子 正徳
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3142e0		

授業概要・目的	インドネシア語やマレー語で書かれた文献に触れることで、インドネシア語、マレー語についての専門的な知識を習得するだけでなく、当該言語の話されている社会に関する知識を得ることを目的とする。
到達目標	インドネシア語とマレー語の実践的な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	本授業は、教員側から講義するだけでなく、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。プリント/PDF ファイルを配布するが、テーマに応じて、図書館等での文献調査が必要。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語とマレー語に関する理解や、インドネシアやマレーシアの社会についての理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明 (上田・金子担当)	これまで学んできたインドネシア語、マレー語の再確認 次回の予習
2	マレー語の歴史 1	マレーシア社会におけるマレー語の歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
3	マレー語の歴史 2	マレーシア社会におけるマレー語の歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
4	マレーシアの歴史 1	マレーシアの歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
5	マレーシアの歴史 2	マレーシアの歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
6	マレーシアの文化 1	マレーシアのマレー人の衣服について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
7	マレーシアの文化 2	マレーシアのマレー人の食文化について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
8	マレーシアの文化 3	マレーシアのポピュラーカルチャーについて書かれたマレー語文献を読むとともに、到達度の確認する課題に取り組む (上田担当)	総合復習
9	時事インドネシア語を学ぶ 1	「政治」・「司法」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
10	時事インドネシア語を学ぶ 2	「経済」・「都市問題」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
11	時事インドネシア語を学ぶ 3	「先端テクノロジー」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
12	時事インドネシア語を学ぶ 4	「医療・健康」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
13	時事インドネシア語を学ぶ 5	「ファッション」・「ライフスタイル」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
14	時事インドネシア語を学ぶ 6	「環境問題」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
15	時事インドネシア語を学ぶ 7	「宗教」・「国際関係」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶとともに、到達度の確認する課題に取り組む。(金子担当)	今回の復習 課題の準備

実務経験				
関連科目	主言語インドネシア・マレー語の科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom			
Teams コード	nz2t9gp			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール、Teams チャット			

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	第八回目の講義と第十五回目の講義の際に実施する到達度の確認課題（60%）と平常点（40%）から評価する
学生への メッセージ	インドネシア語とマレー語にたくさん触れて、運用能力を高めましょう。
担当者の 研究室等	7号館5階
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。

科目名	英語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1143c0		

授業概要・目的	本授業では、世界に広がる英語と関連する文化について概観し、学ぶことが目的である。			
到達目標	英語が世界各地でどのような特徴をもち、どのように使われているかについて、各地の文化と合わせて理解を深める。			
授業方法と留意点	テーマに応じて、視聴覚教材も用いながら授業を進める。			
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成 ・異文化理解 ・教養 			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業計画などの説明、世界の英語とは	授業計画と概要の確認 (4時間)
	2	イギリス英語とその方言	イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化	イギリス英語とその方言の予習・復習 (4時間)
	3	ケルト語地域の英語	ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化	ケルト語地域の英語の予習・復習 (4時間)
	4	アメリカ英語とカナダ英語	北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化	アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4時間)
	5	オーストラリア英語とニュージーランド英語	オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化	オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4時間)
	6	英語を第一言語とする、その他の地域	ジブラルタル、セントヘレナ島などについて	英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4時間)
	7	インドとその周辺地域の英語	インドへの英語の広まり、インドの英語と文化	インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4時間)
	8	東南アジアの英語	東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化	東南アジアの英語の予習・復習 (4時間)
	9	中間テストと解説	8週目までの内容に関するテストと解説	中間テストの予習・復習 (4時間)
	10	アフリカの英語	アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて	アフリカの英語の予習・復習 (4時間)
	11	カリブ地域の英語	カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明	カリブ地域の英語の予習・復習 (4時間)
	12	ヨーロッパの英語	イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用	ヨーロッパの英語の予習・復習 (4時間)
	13	中東における英語	中東における英語の使用	中東における英語の予習・復習 (4時間)
	14	東アジアの英語、まとめ	東アジアにおける英語の使用、まとめ	東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4時間)
	15	期末プレゼンテーション	プレゼンテーションとフィードバック	期末プレゼンテーションの準備と、授業内容の総復習 (4時間)
実務経験				
関連科目	エリアスタディーズなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子 編	昭和堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界の英語・私の英語	本名信行・竹下裕子 編著	桐原書店
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名				
および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 30% 中間テスト 40% 期末プレゼンテーション 30%			
学生へのメッセージ	英語は世界の様々な地域で使われています。世界に広がる英語の現状と特徴を学んでみましょう。			
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室			
備考	授業内容については、進度等により調整する場合があります。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は60時間程度とする。テストやプレゼンテーションに関するフィードバックは随時、授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。			

科目名	英語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1143c0		

授業概要・目的	This is an introduction to the people and the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with poster presentations.
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz - American Values and the American Dream (2 hours)
3	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz - Religion in America (2 hours)
4	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz - The Frontier Spirit (2 hours)
5	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz - Business and Consumerism (2 hours)
6	Poster Presentation Preparation	Create posters for next week's presentations	Review the lecture notes for week 2-5 (2 hours)
7	Poster Presentation 1	Give poster presentations to your classmates	Review the lecture notes for week 2-5 (2 hours)
8	Test 1	Take a test on the contents of weeks 2-5	Review the lecture notes for week 2-5 (2 hours)
9	Government and Politics	Lecture and discussion on America's political system	Quiz - Government and Politics (2 hours)
10	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiethnic society	Quiz - Ethnic and Racial Diversity (2 hours)
11	Education in America	Lecture and discussion on America's education system	Quiz - Education in America (2 hours)
12	The American Family	Lecture and discussion on the family structure and home customs in America	Quiz - The American Family (2 hours)
13	Poster Presentation Preparation	Create posters for next week's presentations	Review the lecture notes for week 9-12 (2 hours)
14	Poster Presentation 2	Give poster presentations to your classmates	Review the lecture notes for week 9-12 (2 hours)
15	Group Presentations	Take a test on the contents of weeks 9-12	Review the lecture notes for week 9-12 (2 hours)

実務経験	
関連科目	エリアスタディーズなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	Test 1 20% Test 2 20% Poster Presentation 1 10% Poster Presentation 2 10% Short Writing 8% Reading Quizzes 16% Lecture Quizzes 16%
-----------	--

学生へのメッセージ	Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes.
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業の事前・事後学習総時間は60時間程度とする。テスト等に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	中国語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the Chinese-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1144a0		

授業概要・目的	さまざまな映像を通じ、中国の衣食住を紹介し、異文化の多様性と共通性を学ぶことを目的とする。
到達目標	中国文化に関する基礎知識を身につけ、グローバル社会の一員としてコミュニケーション力を高めることができる。
授業方法と留意点	遠隔授業を通じて、毎回のテーマについて感想や意見を討論する形式で行う授業。 事前と事後にそれぞれ60分の学習を要する。
科目学習の効果(資格)	柔軟性を持って語学を学べ、価値観を広げる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	豆知識	授業内容と評価基準についての説明	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	2	衣①	服装の歴史	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	3	衣②	服装にまつわる話	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	4	食①	食文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	5	食②	酒と茶の文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	6	住①	中国の建物	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	7	住②	中国人にとって家とは	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	8	行①	古代の交通	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	9	行②	現代社会の交通	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	10	呼び名と姓名	呼び名と日常交際	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	11	娯楽と健康	琴棋書画と養生	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	12	家庭と婚姻	家庭の構造と婚姻の歴史	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	13	宗教と迷信	崇拝とタブー	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	14	言語と文化	言葉から見る中華文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	15	中国語と日本	コミュニケーションから生まれた日中友好	レポートにまとめる

実務経験	
------	--

関連科目	1年次必修の中国語各課目・中国関連の講義科目。
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の提出物70%、レポート30%
学生への メッセージ	事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	連絡事項や質問のある場合は、メールにてお問い合わせください。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	スペイン語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Spanish-speaking Area Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1145a0		

授業概要・目的	広大なスペイン語圏の国々（ヨーロッパのスペインとラテンアメリカ）に関する基礎知識をもち、関心を高めることを目的とする。ただし、ラテンアメリカに関しては1年後期のエリア・スタディーズで学習するので、この授業では主にスペインを対象とする。
到達目標	スペイン語圏の国や地域について地理、歴史、文化に関する基本的知識を身につける。 座学、すなわち講義を聞きおもに話し（口述）の内容を要約しながら書き留める作業になれること。
授業方法と留意点	大学の Portal や WebFolder および Teams はもちろん、メールおよびメーリングリストを用います。その都度よく指示、連絡を確認し応答するようにしてください。課題提出は期限を必ず守ること（提出期限を過ぎたものは不提出となります）。質疑応答についても、指定の時間帯および方法を守ってください。
科目学習の効果（資格）	集中して話を聞くこと、話の内容を要約すること、それを書き出してまとめること。 座学の訓練。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション スペイン語圏とは	この授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏	スペイン語の特徴 スペイン語圏の広がり
	2	スペインの地理 (1)	スペインの地理、歴史	地図
	3	スペイン、ふるくて新しい国	スペインの地理・歴史	地図
	4	スペイン、ふるくて新しい国	スペインは一つの国か？ 自治州について	スペインの地域区分 17の自治州
	5	スペインの言語と習慣	スペインは一つの国か？ 言語、自治州について	スペインの言語
	6	スペインの言語と習慣	スペインは一つの国か？ 言語、自治州について	スペインの言語
	7	スペインの食	スペインの食文化	食文化
	8	スペインの食	スペインの食文化	食文化
	9	スペインの祭り	祭儀、文化遺産	文化遺産
	10	スペインの祭り	祭儀、文化遺産	文化遺産
	11	スペインの文化 (スポーツ、音楽ほか)	スペインの大衆文化・娯楽	大衆文化
	12	スペインの文化 (スポーツ、音楽ほか)	スペインの大衆文化・娯楽	大衆文化
	13	スペインの芸術、文学	19世紀まで	芸術
	14	スペインの芸術、文化	20世紀以降	芸術
	15	総括	これまでの総まとめ 試験	配布プリント・ノートの整理

実務経験	
------	--

関連科目	「エリア・スタディーズ (ラテンアメリカ)」「同 (ヨーロッパ)」「スペイン語トビックス」「メディアのスペイン語」など。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペインを知るために	西川喬ほか	第三書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	課題 (提出状況と内容の精度) 80% + 小テスト (もしくはレポート) 20%
--------------	---

学生への メッセージ	日ごろから本や新聞記事を読み、ニュースを見聞きし、日本と世界の出来事、歴史を知ろうと努めること。 予習 (読解) を必ずノートを作ったうえでやってから授業に臨むこと。 授業計画はあくまで目安であり集団のレベル、規模や進捗等を見極めながら、随時変更、修正する。
---------------	---

担当者の 研究室等	7号館5階 (安達研究室)
--------------	---------------

備考	大学での講義のノートの取り方、まとめ方を学ぶ。事前・事後学修に各1時間を要する。 興味や関心は、知識や情報から芽生えるものです。予備知識 (世界史等) が必要なのでとにかく読書する習慣をつけよう。 プリントなどは一度しか配布しない。欠席により不利益を被らないよう意識的に努めること。 試験の答えは実施後次の授業内で返却し解説する。
----	--

科目名	インドネシア・マレー語圏概論	科目名 (英文)	A Survey of the Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳, 上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1146a0		

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得する。インドネシアとマレーシアが話題の中心になるが、これらの国と結びつきの深いシンガポール、ブルネイ、東ティモールといった国々についても適宜言及する。あわせて他の東南アジア諸国についても基礎的な情報を紹介する。
到達目標	インドネシア語とマレー語が話されている地域に関する基礎的な知識を得ること、インドネシア・マレー語圏の人々の生活を、われわれの日常と地続きのものとして理解すること、の二点を到達目標とする。
授業方法と留意点	1. 前半は金子が行い、後半は上田が行う。 2. 授業の進め方の詳細は初回の授業時に指示する。 3. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 4. 前半(金子担当)は映像資料やプリントなどを使用した講義が中心であるが、随時、演習・発表・レポートも課す。 5. 後半(上田担当)は映像資料やプリントなどを用いて講義を行う。適宜、学習事項に関連した課題を出す。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明(上田、金子担当)	関連する文献を紹介するので読むこと。
2	インドネシア1:基礎知識	インドネシアの基礎知識を知る(クイズ形式&いくつかの現物資料による紹介あり)。参考文献等の紹介。(金子担当)	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。	
3	インドネシア2:近現代史を知ろう	近・現代を中心に歴史を概観することで、現代インドネシアの理解の核とする。近・現代における日本とインドネシアの関係も学ぶ。(金子担当)	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。	
4	インドネシア3:消費生活とライフスタイルの変化を知ろう	「消費者」としてのインドネシア人に注目しながらライフスタイルの変化を示す。一般消費財メーカーや飲食業界など多様な日系企業の進出といくつかの導入エピソードから、インドネシアの消費生活とライフスタイルの変化を知る。労働・国内移民・巡礼・観光など、現代インドネシア人の多様な移動・移住を扱う。(金子担当)	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。	
5	インドネシア4:民族集団・伝統文化・世界遺産	インドネシアにおける主要な民族集団とその伝統文化を概観していく。世界遺産のボロブドゥル寺院などの紹介あり。(金子担当)	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。	
6	インドネシア5:民族誌映画でまなぶ文化的価値観の違い	民族誌映画「Anak Boto1」を観て、自分たちの文化や価値観の違いを考える。(金子担当)	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。	
7	インドネシア6:宗教	多様な宗教と宗教間関係について知る。(金子担当)	各回のノートを読み、まとめておくこと。 各回の配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。 7回までの授業で学んだ内容を整理しておくこと。	
8	前半まとめ	授業前半の総括をおこなう。「到達度の確認課題」を課し、評価する。(金子担当)	授業で学んだ内容をノートに整理しておくこと。	
9	マレーシア1(多民族社会)	マレーシアに住む多様な民族集団について概説する。多民族社会という概念を説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。	
10	マレーシア2(マレー人社会)	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。マレー人の生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。	
11	マレーシア3(華人社会)	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。中国系住民の生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。	
12	マレーシア4(インド系の人々、少数民族の人々の社会)	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。インド系住民やオランダ系、サバヤサラワクの人びとの生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。	
13	ブルネイ	ブルネイという国やブルネイに住む人びとについて概説する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。	
14	シンガポール	シンガポールという国やシンガポールに住む人びとについて概説する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。	
15	まとめ	授業の総括と到達度の確認をはかる課題を実施する。終了後は講評と授業の振り返りをおこなう。(上田担当)	ノートやプリントを使って、授業で学んだ内容を整理しておくこと。	

実務経験	
関連科目	インドネシア・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>東南アジアを知る事典</td> <td></td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	東南アジアを知る事典		平凡社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	東南アジアを知る事典		平凡社														
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	前半(金子担当)と後半(上田担当)のそれぞれについて次のような観点から評価したものを総合する。 前半：提出物や課題等の取り組み(30%)と、最終課題(70%)から総合的に判断する。 後半：提出物や課題等の取り組み(30%)と、最終課題(70%)から総合的に判断する。																
学生への メッセージ	スポーツ・文芸・映像・音楽・動物・交通・ファッション・グルメなど自分の関心分野にあわせて、日常でもインドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポールのニュースや情報を積極的に探してください。																
担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室、7号館5階上田研究室																
備考	提出物は評価を付した上で、原則として翌週に返却する。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。																

科目名	エリアスタディーズ (日本)	科目名 (英文)	Area Studies (Japan)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1147a0		

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは宮崎駿監督の映画『もののけ姫』と「和食」です。『もののけ姫』にえがかれる「日本」を題材に日本文化の相対化を行います。また、身近な「食」から、日本の生活史、また現代日本の問題についても考えます。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果 (資格)	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	もののけ姫について web や書籍で調べておく
	2	日本の周縁社会 ～『もののけ姫』とエミシの世界～	単一民族国家ではない「日本」の領域と周縁について考えます。	蝦夷について調べておく
	3	日本中世の村と町 ～『もののけ姫』の中の「日本」～	中世における村と町の成立と実態について解説します。	講義で説明した町と村の特質についてまとめておく
	4	製鉄と身分社会 ～『もののけ姫』におけるタタラ場の世界～	製鉄を通して、日本中世の生業、身分について考えます。	タタラ製鉄について web や書籍で調べておく
	5	日本における自然界と神の世界 ～『もののけ姫』におけるシシガミの世界～	日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	web を用いて日本の神社で祀られる獣神の事例をまとめる
	6	『もののけ姫』の語る「日本」1	『もののけ姫』を通して見える「日本」について受講者がそれぞれ考え、議論します。	もののけ姫を題材に日本についての考えを整理しておく
	7	『もののけ姫』の語る「日本」2	『もののけ姫』と日本文化について総括します。	他の受講生の意見を踏まえて自分の考えを整理する
	8	和食の源流	和食に対するイメージや考えをみなが考え、整理します。和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	自分が住む地域の氏神、祭礼について調べておく
	9	日本における食肉文化	日本における食肉の歴史と、日本人に与えた影響について考えます。	授業で紹介した食肉に関する法令を整理しておく
	10	米・小麦と日本	日本人の主食である米と稲作文化、また小麦の栽培と粉物文化の成立について考えます。	食が体に与えた影響について授業で解説したことをもとに整理する
	11	和食の展開 ～精進料理と本膳料理～	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	精進料理、本膳料理についてしっかり復習しておく
	12	麴と和食	麴菌と調味料の歴史について考えます。	漫画『もやしもん』を読んでおく
	13	和食の広がり ～2つの「かいせきりょうり」～	和食が社会に展開する過程について解説します。	日本における喫茶文化と江戸時代の町人文化について調べておく
	14	世界に広がる和食	現代における和食の実態や問題点について考えます。	和食の世界遺産登録について調べておく
	15	まとめ	講義の総括を行います	今までのノートをまとめておく

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	エリアスタディーズ (日本) 2020 (赤澤、後期木3) dolphin5dove
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	学期末のレポート70%、授業中に出す課題など30%とする。

(基準)	
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	7号館4階（赤澤研究室）
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 授業で課した課題については、整理して講義で紹介、講評する。

科目名	エリアスタディーズ (東アジア)	科目名 (英文)	Area Studies (East Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子, 田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1148a0		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解することができる。
授業方法と留意点	授業は遠隔授業 (教材・課題配信型およびオンライン型) によります。第1~9回は中国、第11~15回は韓国を対象とし、レジュメ・資料を配布し、映像資料も用います。
科目学習の効果 (資格)	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	華北 (小都)	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
3	華東 (小都)	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国の社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
4	華中 (小都)	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
5	西南・西北 (小都)	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
6	華南 (小都)	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
7	台湾 (小都)	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
8	華僑・華人 (小都)	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
9	授業の中間まとめと確認テスト (小都)	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える (事前) (5時間)
10	韓国新聞についての基礎知識 (田中)	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後) (1時間)
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (1) (田中)	記事の輪読と解説：現代社会の諸相	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (2) (田中)	記事の輪読と解説：政治経済・国際関係	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (3) (田中)	記事の輪読と解説：社会問題	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
14	韓国社会を読み解くための補助線 (1) (田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
15	韓国社会を読み解くための補助線 (2) (田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	14e3e7q
Moodleコース名および登録キー	https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/course/view.php?id=1397 mon04
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	第1~9回 (60%)、第10~15回 (40%) を合算して評価します。 第1~9回については、授業内で実施する課題および確認テストによって評価します。 第10~15回については、授業内で指示する課題への取り組み (提出状況および内容) に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。

担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）・田中研究室（7号館4階）
備考	授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックします。

科目名	エリアスタディーズ (東南アジア)	科目名 (英文)	Area Studies (Southeast Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達・山本 文子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1149a0		

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を山本、島嶼部を上田が担当する。																																																																		
到達目標	*東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 *東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	*講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 *受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 *話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義の目的、内容、進め方について説明する。(上田・山本)</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジア (大陸部) の国々</td> <td>自然環境、民族、宗教</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東南アジア (大陸部) の宗教</td> <td>仏教の広がりとその受容・発展</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>東南アジア (大陸部) の歴史</td> <td>植民地支配と独立</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>東南アジア (大陸部) の国々 —ベトナム</td> <td>ベトナムの政治と社会</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>東南アジア (大陸部) の国々 —タイ</td> <td>タイの政治と社会</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>東南アジア (大陸部) の国々 —ミャンマー</td> <td>ミャンマーの政治と社会</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>東南アジア (大陸部) のまとめ</td> <td>前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>東南アジア (島嶼部) の国々</td> <td>自然環境、民族、宗教</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>東南アジア (島嶼部) の宗教</td> <td>イスラームとキリスト教の広がり</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>東南アジア (島嶼部) の歴史</td> <td>植民地支配と独立</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>東南アジア (島嶼部) の国々 —マレーシア</td> <td>マレーシア 宗教、多民族、</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>東南アジア (島嶼部) の国々 —インドネシア</td> <td>インドネシア 宗教、多民族</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>東南アジア (島嶼部) の国々 —東ティモール</td> <td>東ティモール</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>東南アジア (島嶼部) のまとめ</td> <td>後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。</td> <td>紹介する資料を参照すること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。(上田・山本)	紹介する資料を参照すること。	2	東南アジア (大陸部) の国々	自然環境、民族、宗教	紹介する資料を参照すること。	3	東南アジア (大陸部) の宗教	仏教の広がりとその受容・発展	紹介する資料を参照すること。	4	東南アジア (大陸部) の歴史	植民地支配と独立	紹介する資料を参照すること。	5	東南アジア (大陸部) の国々 —ベトナム	ベトナムの政治と社会	紹介する資料を参照すること。	6	東南アジア (大陸部) の国々 —タイ	タイの政治と社会	紹介する資料を参照すること。	7	東南アジア (大陸部) の国々 —ミャンマー	ミャンマーの政治と社会	紹介する資料を参照すること。	8	東南アジア (大陸部) のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。	紹介する資料を参照すること。	9	東南アジア (島嶼部) の国々	自然環境、民族、宗教	紹介する資料を参照すること。	10	東南アジア (島嶼部) の宗教	イスラームとキリスト教の広がり	紹介する資料を参照すること。	11	東南アジア (島嶼部) の歴史	植民地支配と独立	紹介する資料を参照すること。	12	東南アジア (島嶼部) の国々 —マレーシア	マレーシア 宗教、多民族、	紹介する資料を参照すること。	13	東南アジア (島嶼部) の国々 —インドネシア	インドネシア 宗教、多民族	紹介する資料を参照すること。	14	東南アジア (島嶼部) の国々 —東ティモール	東ティモール	紹介する資料を参照すること。	15	東南アジア (島嶼部) のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。	紹介する資料を参照すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。(上田・山本)	紹介する資料を参照すること。																																																																
2	東南アジア (大陸部) の国々	自然環境、民族、宗教	紹介する資料を参照すること。																																																																
3	東南アジア (大陸部) の宗教	仏教の広がりとその受容・発展	紹介する資料を参照すること。																																																																
4	東南アジア (大陸部) の歴史	植民地支配と独立	紹介する資料を参照すること。																																																																
5	東南アジア (大陸部) の国々 —ベトナム	ベトナムの政治と社会	紹介する資料を参照すること。																																																																
6	東南アジア (大陸部) の国々 —タイ	タイの政治と社会	紹介する資料を参照すること。																																																																
7	東南アジア (大陸部) の国々 —ミャンマー	ミャンマーの政治と社会	紹介する資料を参照すること。																																																																
8	東南アジア (大陸部) のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。	紹介する資料を参照すること。																																																																
9	東南アジア (島嶼部) の国々	自然環境、民族、宗教	紹介する資料を参照すること。																																																																
10	東南アジア (島嶼部) の宗教	イスラームとキリスト教の広がり	紹介する資料を参照すること。																																																																
11	東南アジア (島嶼部) の歴史	植民地支配と独立	紹介する資料を参照すること。																																																																
12	東南アジア (島嶼部) の国々 —マレーシア	マレーシア 宗教、多民族、	紹介する資料を参照すること。																																																																
13	東南アジア (島嶼部) の国々 —インドネシア	インドネシア 宗教、多民族	紹介する資料を参照すること。																																																																
14	東南アジア (島嶼部) の国々 —東ティモール	東ティモール	紹介する資料を参照すること。																																																																
15	東南アジア (島嶼部) のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。	紹介する資料を参照すること。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>東南アジアを知る事典</td> <td></td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>入門 東南アジア近現代史</td> <td>岩崎育夫</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	東南アジアを知る事典		平凡社	2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	東南アジアを知る事典		平凡社																																																																
2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社																																																																
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom																																																																		
Teams コード	5ckd7g4																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール (詳細は初回授業時に指示します)																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 *平常点 40% (授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する) *到達度の確認を問う課題 60% (授業期間中に行う)																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室 7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	*受講者数によって、評価方法等を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 *質問は原則として授業中に受け付けるほか、適宜、上記の担当者の研究室等でも応対する。 *事前事後学習時間は、60時間以上とする。																																																																		

科目名	エリアスタディーズ (ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Area Studies (Europe)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増永 理考
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1150a0		

授業概要・目的	現代のヨーロッパ世界を理解するために、古代ギリシア・ローマ世界を知っておくことはきわめて重要である。というのも、古代終焉後、その歴史や文化、あるいは思想は、社会の多方面に受け継がれ、ヨーロッパ世界の根幹として、現代においてさえもその痕跡を多数とどめているからである。本授業では、このようにヨーロッパ世界の礎となった古代史を概観しつつ、現代に至る後世において古代がどのように受容され、影響を与えたかを論じる。
到達目標	ヨーロッパ世界の基礎をなす古代世界を理解するとともに、現在も含めて、古代の後代への影響を説明することができる。
授業方法と留意点	パワーポイントによる授業資料を配布する。また、適宜、参考となる一次史料も添付することがある。
科目学習の効果 (資格)	古代世界とその影響をめぐる学習を通じて、現代のヨーロッパ世界を深部から理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ミケーネ文明	・ミケーネ社会の構造と特質 ・ギリシア世界の萌芽	書物やインターネットなどで、現在に残るミケーネ文明の遺構や遺物を確認する。
3	前8～6世紀のギリシア世界	・「ポリス社会」の興り ・ソロン改革と僭主政	前回のミケーネ社会とギリシアのポリス社会を比較し、差異を確認する。
4	古典期のギリシア世界 (1)	・ペルシア戦争とペロポネソス戦争 ・ギリシアの演劇と哲学	実際に、ギリシアの演劇作品や哲学的著作を日本語で読んでみる。
5	古典期のギリシア世界 (2)	・マケドニアの台頭とギリシア人の反応	前回のペルシア戦争との違いを整理する。
6	ヘレニズム期のギリシア世界 (1)	・アレクサンドロスの東征とその影響 ・「後継者たち」の時代	地図とともに、複雑なヘレニズム時代の情勢を整理する。
7	ヘレニズム期のギリシア世界 (2)	・東地中海世界におけるローマの台頭 ・ヘレニズム時代の終焉	ヘレニズム時代の展開を年表にまとめる。
8	王政、共和政初期のローマ世界	・都市ローマの興り ・王政から共和政へ	ローマにおける国制の変化を整理し、ギリシア社会と比較する。
9	共和政中期のローマ世界	・ポエニ戦争、マケドニア戦争、ジュリア戦争 ・パトロスとクリエンテス	地図とともに、ローマの覇権拡大のありようを整理する。
10	共和政末期のローマ世界	・「内乱の1世紀」 ・共和政から帝政へ	この時代に関する人物や出来事を扱った、後代の文学作品や映像作品などを調べる。
11	帝政前期のローマ世界	・ローマ皇帝とその役割 ・「3世紀の危機」	3世紀に至るまでの個々のローマ皇帝について調べてみる。
12	ローマ帝国の属州社会—東部属州を中心に—	・ローマ支配下のギリシア人社会	古典期やヘレニズム期のギリシア人社会と比較する。
13	帝政後期のローマ世界	・ローマ帝国とキリスト教 ・古代世界の終焉	初期キリスト教と後のキリスト教との違いを確認する。
14	後世への古代の影響 (1)	・ルネサンス期における古代	一般的に「ルネサンス期」とされる15世紀前後のヨーロッパ社会の状況について調べる。
15	後世への古代の影響 (2)	・近代以降における古代	授業で扱ったもの以外にも、古代の影響について調べてみる。

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「教材・課題配信型」

Teams コード 045famj

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 Microsoft Teams のチャット、もしくは下記メールアドレス

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 期末レポート (70%)、不定期に課す課題 (30%) によって評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

備考 事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。
フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する

質問等はメールにていつでも受け付ける。

科目名	エリアスタディーズ (アフリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (Africa)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1151a0		

授業概要・目的

アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識をもっています。それでは、みなさんがアフリカにかんじて持っているイメージや知識とは、どのようなものでしょうか。それらはどこでどのように得られたものでしょうか。

本講義では、アフリカのさまざまなトピック (政治、経済、文化、現代の問題) について、じっさいに現地へ人びとがどんな暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に学んでいきます。一般にわたしたちのよく知っているアフリカ (たとえば紛争や貧困、開発支援など) の問題を、より具体的に、現地の人たちの視点から見ていくと、わたしたちのあまり知らないアフリカ (伝統の変化、紛争の現実、仕事の仕方、助け合いの方法など) が見えてきます。

この講義では、アフリカの外からアフリカの問題を考えるのではなく、アフリカの中からアフリカの問題や世界の問題を考えることを目指します。

到達目標

- ・自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解できる。
- ・アフリカの人びとのじっさいの生活や現地の実態について理解できる。
- ・以上を踏まえたうえで、「アフリカとは何なのか」について考え、自分なりの答えを出せる。
- ・「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出せる。

授業方法と留意点

- ・Teams または Moodle による教材・課題講義形式を予定していますが、受講人数や受講者の関心、学習環境に応じて適宜変更する可能性があります。
- ・授業テーマに関連する、課題論文の講読しながら授業をすすめます。課題論文の講読は必須です。
- ・課題論文は、Web 上で閲覧可能なものを授業中に紹介します。
- ・受講者に発表などの課題を課することがあります。
- ・授業前・授業後に、学習課題を課します。
- ・履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラバスの内容を一部修正する場合があります。

科目学習の効果 (資格)

- ・異文化理解に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
2	アフリカのイメージ (1)	身の周りにおけるアフリカの情報 (ニュース、文化、モノなど) を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
3	アフリカのイメージ (2)	身の周りにおけるアフリカの情報 (ニュース、文化、モノなど) を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
4	「文化」(1)	アフリカの民族と伝統について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
5	「文化」(2)	アフリカの民族と伝統について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
6	「政治」(1)	アフリカの紛争・難民について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
7	「政治」(2)	アフリカの紛争・難民について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
8	「自然」(1)	アフリカにおける自然保護と地域住民について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
9	「自然」(2)	アフリカにおける自然保護と地域住民について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
10	「経済」(1)	アフリカにおける交換とお金の使い方について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
11	「経済」(2)	アフリカにおける交換とお金の使い方について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
12	「開発と経済発展」(1)	アフリカの開発と豊かさについて	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
13	「開発と経済発展」(2)	アフリカの開発と豊かさについて	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
14	総合ディスカッション	これまでの講義をふまえて受講者でディスカッションをおこなう。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
15	まとめと学習の到達度を測る試験	これまでの講義のふりかえりとまとめをしたうえで、筆記試験を実施する	【事前】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社

	2	文化人類学を学ぶ人のために	米山俊直・谷泰編	世界思想社
	3	アフリカで学ぶ文化人類学	石田慎一郎・橋本茉莉ほか編	昭和堂
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Web Folder (Teams「オンライン型」またはZoom使用の可能性もある)			
Teams コード	qap6z1p			
Moodle コース名 および登録キー	エリア・スタディーズ (アフリカ) Area Studies Africa			
連絡手段	チーム内のチャットとメール等			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	①平常点 (授業でのディスカッションやグループワークへの積極的な参加、提出物、事前・事後学習の成果など。)・・・50% ②学習の到達度を測る試験 (授業最終回に実施) の得点・・・50%			
学生への メッセージ	授業前後に参考文献に目を通し、講義内容の理解を深めるようにしてください			
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	参考文献は上記のほか、適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に7号館2階 (非常勤講師室) に来てください。 提出物 (課題など) は返却します。散逸しないように保管してください。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。			

科目名	エリアスタディーズ (北アメリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (North America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1152a0		

授業概要・目的	<p>アメリカの歴史はヨーロッパ人が入植してから 400 年ほどですが、ダイナミックな変化を経験してきました。この授業では、アメリカという国の社会・文化を、歴史、地理、民族、精神、生活、人間関係、日米関係など、さまざまな視点から考察し理解を深めていきます。各回のテーマに沿って、ニュース記事、用語解説記事、統計資料、写真、地図、動画など各種資料を参照してもらい、講義と演習を行います。</p> <p>外国語学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」の部分の基礎をつくる科目です。教職課程における「異文化理解」区分の選択科目でもあります。</p> <p>毎回の授業には、指定された資料に目を通し予習をした上で臨んでもらいます。復習のための作文課題も原則毎回出します。授業中は一人一人の受講生が責任を持ち、多くの情報を処理しなければなりません。ポイントを自分の言葉でまとめるノート・テーキングのスキルを意識して身につけましょう。また、講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスボンズペーパー、グループワーク等）にとり組んでください。</p>
到達目標	<p>1) アメリカ社会・文化を多角的な視点から理解する。</p> <p>2) アメリカという国の理念とその実現の試みを批判的に理解する。</p> <p>3) 日本人としてアメリカ社会・文化を学ぶ意義を説明できる。</p>
授業方法と留意点	<p>・Teams と Moodle を併用します。受講生は Teams で教員と連絡をとりあい、Teams のチャットやビデオ会議でクラスメートとのグループワークやディスカッションを行える PC 環境と技能を持つ必要があります。また、毎回の教材の閲覧とダウンロードや課題の提出に Moodle を用いますので、Moodle にも習熟する必要があります。PC やスマホの学習への活用法や、学内の情報ネットワークサービスの使い方にも習熟することが非常に重要です。文書・統計・写真・地図などの資料を予習し、復習する必要があります。資料の中でも、文</p>
科目学習の効果 (資格)	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる一般常識、国際感覚。高度な英語力を身につけるための基盤となる英語圏についての基礎知識。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
2	アメリカの歴史 1 建国期	あれほど乱射事件が起きているのにアメリカで統規制が難しいのはなぜ? : 植民地時代、独立戦争までさかのぼって考える。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
3	アメリカの歴史 2 領土拡張と奴隷制	アメリカで統規制が難しいのはなぜか? その 2 : 領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
4	アメリカの歴史 3 南北戦争の原因と結果	アメリカの人種問題の原点: 民主主義の拡大と領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
5	アメリカの地理 1 北部・南部	「アメリカ南部」とは? アメリカの南のほう?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
6	アメリカの地理 2 中西部	ニュースでよく見る「アメリカ中西部のラストベルト」とは?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
7	アメリカの歴史 4 第二次世界大戦	今のアメリカ人は「昔、日本に原爆落としたのは悪かった」と思っているのか? : 日米における戦争と原爆の記憶	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
8	アメリカの民族 1 ヨーロッパ系	WASP? ユダヤ系? イタリア系? みんな「白人」じゃないの?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
9	アメリカの民族 2 アジア系	日本人も差別される? アジア系はみんな成功している? 「モデルマイノリティ」とは?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2時間程度)
10	アメリカの民族 3 ラティノ/ヒスパニック	トランプがメキシコ移民の悪口をいうのはなぜか。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
11	アメリカの宗教	個人の自由を大切にしているはずのアメリカで、妊娠中絶や同性愛がなぜそれほど大きな政治問題なのか	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
12	アメリカとカナダ	カナダはアメリカと同じような国か? 実は、けっこう違います。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2時間程度)
13	日米関係	日米安保破棄という可能性を真面目に考えてみましょう。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
14	まとめ 1 アメリカの進歩と分断	「進歩」と「分断」のキーワードでこれまで学んだ内容を整理してみましょう。	ここまでの全ての資料やノートにあらためて目を通し、まとめ課題に取り組み始める。(5時間程度)
15	まとめ 2	まとめ課題についての質疑応答を通じ、全体を振り返ります。	もしも質疑の時間が足りなければアポイントをとって研究室へ

実務経験	
関連科目	日米比較文化、日米文化交流史

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント教材および参考資料を電子配布		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプルな英語で話すアメリカ史	ジェームス・バーダマン	ジャパンタイムズ
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	pnldqc6			
Moodle コース名 および登録キー	https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/course/view.php?id=1902 2020hokubei			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点70% (平常の小レポート、グループワーク成果物等の提出物、質疑への参加による評価の合計) まとめ課題30% (平常の小レポートやグループワーク課題を見直し、ファクトチェックをして整理したものを学期末に提出)			
学生への メッセージ	アメリカ合衆国は本当に面白い国です。外国語学部に来たのにアメリカの面白さを知らずに過ごしてしまう学生を一人でも減らしたいと思っています。決して「楽」な授業にはしませんが、アメリカのことを知りたい学生には「楽しい」授業にしたいです。一緒にがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。予習、復習、宿題、レポート等に関する質問やフィードバックはスチューデントアワーまたはアポイントにより研究室にて対応する。アポイントは電子メール torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。(追記：今年度は遠隔授業なので、いったん授業がはじまったらできるだけ Teams にて連絡を取り合います。)			

科目名	エリアスタディーズ (ラテンアメリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (Latin America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1153a0		

授業概要・目的
ラテンアメリカは古来、先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降ヨーロッパ諸国による征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その間に文化的混淆と都市部では生活の欧化が進行しました。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて150年ほど早く植民地支配からの独立を遂げますが、欧米による政治経済的介入を受け続けることになりました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアンゴロアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。6つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。
地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しています。親日的な国々と人びとについて知ることで世界観を広げてください。

到達目標
ラテンアメリカとは、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33の独立国と13の非独立領土から構成される広大な地域の総称です。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことは、異文化理解を深めるための一助となります。

授業方法と留意点
Teamsによる双方向オンライン授業を行います。資料の配布とreaction paperやレポートの回収にはWebFolderを用います。毎回の授業内容に対する質問には、次の授業で解説を行います。

科目学習の効果 (資格)
日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理 (1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理 (2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理 (3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史 (1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史 (2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史 (3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史 (4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化 (1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化 (2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化 (3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	Web上での理解度確認テストの後、アメリカ合衆国への移民および「ラティノス」がもたらす影響についての解説	広く西半球(米州)の相互関係に対して目を向ける。

実務経験

関連科目
スペイン語圏概論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ラテンアメリカ研究入門―(抵抗するグローバル・サウス)のアジェンダー	松下 洸	法律文化社
2	ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック	ラテン・アメリカ政経学会編	新評論
3	ラテンアメリカはどこへ行く	後藤政子・山崎圭一	ミネルヴァ書房

授業形態
Teams「オンライン型」/Web Folder

Teams コード
aqas68v

Moodle コース名および登録キー

連絡手段
学内メール

メールアドレス
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	リアクション・ペーパー、レポート等 60%、Web 上での理解度確認テスト 30%により総合的に評価する。
学生への メッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
担当者の 研究室等	7号館 5階 北條研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 臨時試験に関するフィードバックは 15 回目のなかで実施する。

科目名	エリアスタディーズ (オセアニア)	科目名 (英文)	Area Studies (Oceania)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1154a0		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民、マイノリティ政策、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を把握できる ・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	・この授業ではグループ活動(授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション)への積極的な参加が求められます ・自分の興味のある内容についてプロジェクトを企画し、その内容についての発表とレポート作成が求められます
科目学習の効果(資格)	・より発展的なオセアニア地域の研究につながる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	2	オセアニアという地域	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	3	オセアニアの歴史と今	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間) プロジェクトプランの準備(1時間)
	4	オセアニアの歴史と今	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間) プロジェクトプランの準備(1時間)
	5	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間) プロジェクトプランの準備(1時間)
	6	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	7	オーストラリア英語とニュージーランド英語	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	8	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	9	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	10	オーストラリア、ニュージーランドの先住民について	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	11	オーストラリア、ニュージーランドのマイノリティ政策	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間)
	12	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間) プロジェクト発表会の準備(1時間)
	13	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	次回の授業内容についての下調べ(2時間) プロジェクト発表会の準備(1時間)
	14	オセアニアと日本との係わり	前回講義の質問・コメントのシェア、講義、発表、クイズ	プロジェクト発表会の準備(3時間)
15	プロジェクト発表会	紙芝居式発表会、プロジェクト内容のシェア	レポートの準備(5時間)	

実務経験	
------	--

関連科目	英語圏概論など
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle/Web Folder Line group QR code/Zoom online & Line (Teamsなし)
------	---

Teamsコード	
----------	--

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	Line
------	------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	グループ活動(授業内容の下調べ、プレゼンテーション): 20%、グループ・プロジェクトの発表: 30%、英語のreadingとQuiz 30%、Reports 20%
----------	---

学生へのメッセージ	This class will take place in English. Be ready to study hard.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 Taura 研究室
----------	-----------------

備考	講義、学生発表、リーディング、レポートは全部100%英語で行うので一生懸命英語で頑張る学生に大歓迎です。
----	--

科目名	音声学	科目名 (英文)	Phonetics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1155a0		

授業概要・目的	言語の音声・音韻体系に基づく調音音声学について、英語を中心に日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていく。①母音や子音の発音記号とその音的特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象および強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④音韻の歴史の変遷、⑤言語の変種(方言)などについて具体例とともに学ぶ。
到達目標	言語の音声の特徴について、英語を軸としながらも、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいく。言語の音声の仕組み、文法と音声の関連性、音韻の歴史の変遷、言語の変種(方言)などについて理解することを目標およびテーマとする。
授業方法と留意点	※今学期のこの授業は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態で、すべて「WebFolder」を利用して行います。
科目学習の効果(資格)	語学検定試験のリスニング対策など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (調音) 音声学について	(調音) 音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
2	母音について(1) —英語の単母音を中心に	英語の単母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
3	母音について(2) —英語の二重母音を中心に	英語の二重母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
4	母音からみた英語の変種(方言)について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種について理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
5	子音について(1) —英語の閉鎖音や摩擦音を中心に	英語の閉鎖音や摩擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
6	子音について(2) —英語の鼻音や破擦音を中心に	英語の鼻音や破擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
7	子音と半母音(接近音)について	子音と半母音(接近音)について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
8	音(音韻)の単位について—分節音と異音、音節とモーラなど	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
9	音韻論と形態論の接点について	音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
10	音の変化について—連結・脱落・同化など	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
11	強勢(アクセント)について	英語の強勢(アクセント)の特徴について、体系的に理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
13	リズムとイントネーションについて	英語のリズムやイントネーションについて、体系的に理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
14	音韻の歴史の変遷について	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷について理解する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。
15	まとめ	これまでの学習内容を総括する。	・授業時に示された課題(グループワーク)の下調べをしておくこと(2時間)。 ・授業内容の要点整理をし、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること(2時間)。

実務経験

関連科目	他の語学科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ルミナス英和辞典—つづり字と発音解説	竹林 滋・斎藤 弘子	研究社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	※今学期は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態のため、提出物(レポート)(100%)に基づいて評価します。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度の高い科目ですので、しっかりと取り組む姿勢が大切です。 ・知的好奇心を持った学生の受講を期待しています。 			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室			
備考	授業のためのテキストの読解、担当教員から示された課題(グループワーク)の準備、授業内容の要点整理とさらなる調査などに要する事前・事後学習総時間を60時間程度とする。課題(グループワーク)に関するフィードバックは各回の授業内で行う。			

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1156a0		

授業概要・目的	母語英語の歴史や諸特徴、世界で使用される様々な英語 (World Englishes)、英語と文化・社会、英語の会話構造、英文法・構文の理論、英語の音声特徴など、英語に係る様々な研究分野について、グループ学習・演習やディスカッションを織り交ぜながら、その考え方や研究の着眼点などについて、基本的な知識と方法を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 国際共通語としての英語の多様性について理解を深める 英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や方法について理解する 英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方が身に付く
授業方法と留意点	授業の中では、グループ学習や演習等も積極的に取り入れていきますので、授業への積極的な参加がとても重要です。
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	教科書 pp. 1-13 (復習) 教科書 pp. 15-30 (予習) (2 時間)
	2	世界で使われる英語	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 31-61 (予習) (2 時間)
	3	母語英語の歴史と特徴	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 63-79 (予習) (2 時間)
	4	英語と社会的属性について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 81-97 (予習) (2 時間)
	5	発話行為論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 99-109 (予習) (2 時間)
	6	ポライトネス理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 107-117 (予習) (2 時間)
	7	談話分析と会話分析	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 (1 時間 30 分)
	8	英語会話の構造	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 119-134 (予習) (2 時間)
	9	英語文化について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 135-153 (予習) (2 時間)
	10	英語における非言語コミュニケーション	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 155-162 (予習) (2 時間)
	11	生成文法と認知言語学	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 162-165 (予習) (2 時間)
	12	メタファー理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 171-182 (予習) (2 時間)
	13	日英語文法比較	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 182-188 (予習) (2 時間)
	14	構文と事態把握	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 189-204 (予習) (2 時間)
	15	英語音声学と音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	総復習 (3 時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシック新しい英語学概論	平賀正子	ひつじ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	期末テスト: 40% リアクション・ペーパー: 30% 授業への参加: 30%
学生へのメッセージ	英語学は英語という言葉の研究する学問ですが、英語学の中には、実に様々な研究分野や方法論があります。英語学の世界を知ってもらえる機会になれば幸いです。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室
備考	リアクション・ペーパー等に関するフィードバックは、その都度授業内で行います。

科目名	言語学	科目名 (英文)	Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1157a0		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	「言語学」という学問分野を理解し、外国語学習に役立てることができる。
授業方法と留意点	授業はWebFolderにて資料配信方式で行われる。
科目学習の効果(資格)	言語の多様なしくみを深く知ることができる。音声学と合わせて3・4年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。また、現在学んでいる主言語、共通言語に対する学習効果の向上も期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 子供の文法	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。 資料配信形式	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。(2時間)
2	子供の文法	子供がどのように母語を身につけるのを学習する。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
3	文法規則	文法にみられる共通の規則について学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
4	なまりと方言	なぜ言語に方言やなまりが存在するのか、そして自分たちが学んでいる言語はどのような位置づけにあるのかを理解する。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。(2時間)	
5	バイリンガリズム	バイリンガルについて学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
6	世界の言語	世界にどういった言語があるのかを学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
7	サイン言語	手話について学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。(2時間)	
8	中間まとめ	第2回から第7回の内容について復習する。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
9	危機言語	絶滅が危惧される言語の状況について学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
10	言語変化	時代とともに言語がどう変化したのかを学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
11	言語変異	第4回で学んだ内容についてより深く学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
12	感情を映す鏡としての言語	感情が言葉にどう反映されるのかを学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。次週までに各自が学んでいる言語の語形変化について確認しておくこと。(2時間)	
13	政治的に正しい言葉	政治的に正しい、所謂PCについて学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
14	応用言語学	応用言語学について学ぶ。 資料配信形式	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)	
15	総復習	総復習を行う。 資料配信形式	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。(2時間)	

実務経験	
関連科目	音声学・各言語科目等。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クリスタルのことばの世界 The Wonderful World of Language	David Crystal	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各授業の成果物で評価する。(100%)
学生への メッセージ	この授業は、外国語学部で外国語を学ぶための基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。
担当者の 研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	日本語史概説	科目名 (英文)	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1158a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、コメントを求めたり、課題を出したりする。
科目学習の効果 (資格)	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる (2時間)
3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する (2時間)
4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する (2時間)
5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる (2時間)
6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する (2時間)
7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する (2時間)
8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる (2時間)
9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる (2時間)
10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる (2時間)
11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する (2時間)
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する (2時間)
13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる (2時間)
14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する (2時間)
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習 (2時間)

実務経験	
関連科目	日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論、ことばに関する授業すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	4wceckk
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	最終確認テスト (60%)、確認小テスト (10%)、毎回の講義時の課題 (30%)。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。 ※遠隔授業の場合 最終課題 (70%)、毎回の課題・コメント (30%)
学生への メッセージ	日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階 (橋本研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、上記の時間に試験勉強時間も加えて約60時間。 コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。

科目名	英語意味論・語用論	科目名 (英文)	English Semantics and Pragmatics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2159a0		

授業概要・目的	「文法構造」「形式(音声・文字)」「意味」という言語がもつ3つの側面のうち、「意味」は頭ではわかっているつもりでもそれを記述するとなるとなかなか難しい領域である。しかし、意味が変化したり他の言語表現と関連しあったりする現象にはいくつかの規則性がある。また、具体的な場面でなされる発話が伝達する意味まで観察すると、「意味」に関する理解を深めるためのアプローチがいくつかあることがわかる。言語使用によるコミュニケーションが成立するためには、その基礎となっている語彙や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でのどのように使われ、どのような意図を伝えているかということを理解することが重要になる。この講義では、英語の意味・用いられ方を眺めることで、言語についてのさまざまな疑問に興味を持ち、その疑問に対して「なぜか」という問いを深める姿勢を涵養する。
到達目標	1. 同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的關係を理解できるようになる。 2. 意味とコンテキストの關係を理解できるようになる。 3. 意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 4. 場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用して「遠隔授業」方式の授業を行う。当面は、WebFolder に各回(全11回)の(1)解説(録画)、(2)資料(必要に応じて)、(3)課題のファイルを上アップロードするので、学生の皆さんはそれらすべてを閲覧し、動画で言及される指示、または課題ファイルに記載された指示にしたがって学習することになる。したがって、この方式で進める間はいわゆる「ライブビデオ」形式で双方向的な対話を行うものではないが、上記のファイルへのアクセスおよび課題への取り組みは必ず時間割に決められた時刻にアクセスして取り組む
科目学習の効果(資格)	教員の免許状取得のための選択科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。英語学のいくつかの分野を振り返りながら、日常に見られるさまざまな意味にかかわる現象を紹介し、意味への興味を喚起する。	英語学の諸分野について復習しておく。(2時間)
2	英語の意味論と語用論	英語学における意味の扱いと位置づけを明らかにする。意味論と語用論がそれぞれ何を問題としているか、さらに両者が互いにどう関連しあうかを考え、本科目で扱う内容の全体像をつかむ。	「意味」の意味について調べておく。(2時間)	
3	意味と指示物	意味と指示物の關係を考へながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉遣いにかかわるメカニズムを考へる。	うそと誤用はどのように違うのか、考へておく。(2時間)	
4	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考へながら、意味記述の難しさを考へていく。	多義語の get の意味分類がどのようになっているのか、辞書で調べておく。(2時間)	
5	語の意味的關係①	多義性、類義性、同音性、反義性などの意味に関わる性質について学ぶ。	英語の多義語、反意語の例を調べておく。(2時間)	
6	語の意味的關係②	語彙の持つ關係性を考へしながら、意味の構成性や語彙の意味關係の多様性を考へていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考へる。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。(2時間)	
7	文法と意味	文法は意味と構造を結びつける記号体系の根幹をなす領域であるが、なかでも「構文」と呼ばれる現象から文法と意味の關係を具体的な事例をもとに考へる	文法と意味の「レベル」とはどういう概念であるか調べておく。(2時間)	
8	意味の変化①	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考へ、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。(2時間)	
9	意味の変化②	英語の多義性にかかわるメカニズムを考へる。	意味変化にはどのような規則性があるか調べておく。(2時間)	
10	意味の習得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考へ、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。(2時間)	
11	意味の普遍性と相対性	色名や親族關係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考へて、意味が相対的であることを考へる。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。(2時間)	
12	意味とコンテキスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考へる。また話の情報構造について考へ、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考へる。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考へてみる。(2時間)	
13	会話の成立	P.H.グライスの「強調の原理」という考へ方を学び、「会話の格率」(量(Quantity)、質(Quality)、關係(Relation)、様態(Manner))という点から会話の成立要件となる理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考へる。(2時間)	
14	発話行為	具体的な事例を使用して、発話が状況や対人關係に及ぼす影響を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテキストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考へておく。(2時間)	
15	関連性	人はコミュニケーションの中で発話の意味を推し量って理解する。この「推論」はどのような仕組みによって行われる	第13回で学んだグライスの考へ方を整理し、推論はどのような条件のもと適切に働くのかを考へておく。(2時間)	

				のか, 具体的な例をとおして理解する。	
実務経験					
関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店	
	2	(配布プリント)			
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:				
評価方法 (基準)	各回の「課題」への取り組み (40%) レポート (60%)				
学生への メッセージ	普段から使っている言葉の意味がどうやって生まれてくるのかを考えてみましょう。				
担当者の 研究室等	船本研究室				
備考	配布資料の読み込みなど、事前・事後学習にかかる総時間数を60時間程度とします。 ミニツペーパー等に関するフィードバックは、その都度授業内で行います。				

科目名	日本語音韻論	科目名 (英文)	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2160a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。 (遠隔授業の場合は、ファイルで資料を配付し、授業を行う。授業後、コメントや課題を求める。)
科目学習の効果 (資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える (2時間)
	2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる (2時間)
	3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる (2時間)
	4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する (2時間)
	5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する (2時間)
	6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する (2時間)
	7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る (2時間)
	8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる (2時間)
	9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる (2時間)
	10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える (2時間)
	11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる (2時間)
	12	アクセント2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる (2時間)
	13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる (2時間)
	14	音の交替 《最終確認テスト》 まとめ	母音交替・連濁 これまでの総括をし、復習テストを行う	母音交替、連濁の例を調べる (2時間) これまでの復習をする (2時間)

実務経験	
関連科目	音声学 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	最終確認テスト (60%)、確認小テスト (10%)、講義時の課題等 (30%)。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。 (遠隔授業の場合は、最終課題 (40%)、授業参加度 (授業後のコメント・課題などを含む) (60%) で評価する。)
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 (橋本研究室)
備考	毎回のコメント・課題については次回にフィードバックする 事前・事後学習に要する総時間数は、上記時間に試験勉強などを加えて約60時間。

科目名	英語構造論	科目名 (英文)	English Syntax
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2161a0		

授業概要・目的	なぜこの表現を使うのか、他の表現ではいけないのか、他にどんな表現が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、英語(の構造)についての素朴な疑問を大事にしながら、英語の構造を主にコミュニケーション(情報や伝達機能)の視点から考察する。
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語(構造)に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになることを目指す。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察を試みる。
授業方法と留意点	・基本的にはプリントを配布し、講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 ・本講義は受講生として言語(とりわけ構造や意味)に興味がある学生を想定している。「英語学概論(英語学Ⅰ)」や「英語意味論・語用論(英語学Ⅱ)」を履修済みであることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	・言語の構造・意味の理解 ・3年次以降のゼミや大学院進学 ・教員の免許状取得のための選択科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	授業の計画・内容の確認と、機能(言語学)的アプローチの予習(2時間)
2	機能(言語学)的アプローチ	機能(言語学)的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	機能(言語学)的アプローチの復習と、言い換え表現の予習(2時間)
3	言い換え表現(本当に言い換え可能か?)	言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。	言い換え表現の復習と、トピック(とコメント)・主題(と題述)の予習(2時間)
4	トピック(とコメント)・主題(と題述)	トピック(とコメント)・主題(と題述)について理解を深め、グループで議論を行う。	トピック(とコメント)・主題(と題述)の復習と、旧情報と新情報(there構文など)の予習(2時間)
5	旧情報と新情報(there構文など)	旧情報と新情報(there構文など)について理解を深め、グループで議論を行う。	旧情報と新情報(there構文など)の復習と、焦点と強調(倒置表現など)の予習(2時間)
6	焦点と強調(倒置表現など)	焦点と強調(倒置表現など)について理解を深め、グループで議論を行う。	焦点と強調(倒置表現など)の復習と、照応と代用(代名詞など)の予習(2時間)
7	照応と代用(代名詞など)	照応と代用(代名詞など)について理解を深め、グループで議論を行う。	照応と代用(代名詞など)の復習と、中間のまとめ(テスト)の準備(2時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。	これまでの授業内容の復習と、認知(言語学)的アプローチの予習(2時間)
9	認知(言語学)的アプローチ	認知(言語学)的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	認知(言語学)的アプローチの復習と、類像性(恣意性の有無)の予習(2時間)
10	類像性(恣意性の有無)	類像性(恣意性の有無)について理解を深め、グループで議論を行う。	類像性(恣意性の有無)の復習と、類義語(英語)の予習(2時間)
11	類義語①(英語)	類義語(英語)について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語(英語)の復習と、類義語(日本語との比較)の予習(2時間)
12	類義語②(日本語との比較)	類義語(日本語との比較)について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語(日本語との比較)の復習と、文法化と意味変化(英語)の予習(2時間)
13	文法化と意味変化①(英語)	文法化と意味変化(英語)について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化(英語)の復習と、文法化と意味変化(日本語との比較)の予習(2時間)
14	文法化と意味変化②(日本語との比較)	文法化と意味変化(日本語との比較)について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化(日本語との比較)の復習と、総まとめ(確認テスト)の準備(2時間)
15	まとめ(確認テスト)	これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総まとめ(確認テスト)の準備と、授業後の振り返り(2時間)

実務経験	
関連科目	英語学概論(英語学Ⅰ)、英語意味論・語用論(英語学Ⅱ)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(プリントを配布する)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ディスコース-談話の織りなす世界	橋内 武	くろしお出版
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teamsコード	0qwane0
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業中の討論や課題、提出物、確認テスト(100%)
学生へのメッセージ	講義テーマの性質上、難解に思えるものを扱いますが、言語の構造について深く考えていきましょう。

担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	日本語語彙論	科目名 (英文)	Japanese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3162a0		

授業概要・目的	<p>日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて語彙を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。</p> <p>単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「語彙」を学ぶことの意義や歴史について考察する授業を心がける。ことばを無自覚に使うのではなく、ことばとは(そもそも)どういうものかを問いかける意識を大事にしたい。</p>																																																																		
到達目標	<p>①日本語の語彙に関する知識を身につける ②日本語の語彙を意識した文章を書くことができる ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新語・流行語・死語</td> <td>新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>集団語</td> <td>集団語(職業語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>性差</td> <td>ジェンダー(男のことばと女のことば)の問題から「語彙」を考える</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>方言(地域語)</td> <td>地域による語彙の違いについて学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>標準語</td> <td>標準語の内実や歴史について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>差別語</td> <td>差別につながる語彙について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>語種の変遷</td> <td>語種とその変遷について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>語種の使われ方</td> <td>語種とその使われ方について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>語彙体系</td> <td>語彙の体系について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>意味関係</td> <td>語彙の意味関係について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>語構成</td> <td>語構成について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>辞書と語彙調査</td> <td>辞書・語彙調査について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>課題(レポート)</td> <td>教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括・レポート提出</td> <td>授業内容全体を総括し、レポートを提出する</td> <td>レポートの印刷・提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	3	集団語	集団語(職業語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	4	性差	ジェンダー(男のことばと女のことば)の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	5	方言(地域語)	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認	6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認	7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認	8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認	9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認	10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認	11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認	12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認	13	辞書と語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認	14	課題(レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認	15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
3	集団語	集団語(職業語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
4	性差	ジェンダー(男のことばと女のことば)の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
5	方言(地域語)	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認																																																																
6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認																																																																
13	辞書と語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	課題(レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認																																																																
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目(「日本語文法論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	平常点(コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%																																																																		
学生への メッセージ																																																																			
担当者の 研究室等	7号館4階(古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。 課題等については授業内でフィードバックを行う。																																																																		

科目名	中国語文字論	科目名 (英文)	Chinese Writing System
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3163a0		

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古(周代)漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることによって何を表現しているのかを説明できるようになる。また、未知の漢字に接した時もその意味や読音を推測できるようになる。
授業方法と留意点	一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。一方向配信型またはオンライン双方向の形式で授業を行う。
科目学習の効果(資格)	中国語教職科目(中国語の分野)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス。 人体・姿勢	この授業の目的及び目標を概説する。 人・女・子・鬼・兄...	この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	2	身体部位1	頭・毛・目・耳・口...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	3	身体部位2	手・足...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	4	動物1	牛・馬・羊...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	5	動物2	犬・鹿・豚...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	6	単元テスト1 動物3	第1回～第5回の理解度を確認する。 鳥・虫・蛇...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	7	天体・気象	日・月・水...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	8	鉱物	土・火・金...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	9	人工物	高・示...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	10	単元テスト2 器具1	第6回～第10回の理解度を確認する。 方・網・工...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	11	器具2	玉・父・車...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	12	器具3	刀・辛・戈...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	13	動作	又・口・之...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	14	状態	束・阜・変...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
	15	単元テスト3 形状	第10回～第14回の理解度を確認する。 宇・王・弗...	この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。

実務経験	
関連科目	中国語の科目(専門または基礎)を履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生への メッセージ	講義の内容をノートするの必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)
備考	教材として、プリントを授業中に配布する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	日本語文法論	科目名 (英文)	Japanese Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3164a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「文法」を学ぶことの意義や歴史について考察しながら、日本語を「楽しむ」ような授業を心がけたい。																																																																		
到達目標	①日本語の文法に関する知識を身につける ②日本語の文法を意識した文章を書く ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文の成分</td> <td>文の成分について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>形態論</td> <td>形態論・統語論について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>品詞 (動詞・形容詞)</td> <td>品詞、とくに動詞・形容詞について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>品詞 (名詞・助詞)</td> <td>品詞、とくに名詞・助詞について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>語形成</td> <td>語形成について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>格・文型</td> <td>格と文型について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ヴォイス</td> <td>態を表す文法について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>アスペクト・テンス</td> <td>時間を表す文法について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>モダリティ (ムード)</td> <td>態度・認識を表す文法について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>肯否</td> <td>肯定文・否定文について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>とりたて</td> <td>とりたてについて学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>複文</td> <td>複文について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>課題 (レポート)</td> <td>教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括・レポート提出</td> <td>授業内容全体を総括し、レポートを提出する</td> <td>レポートの印刷・提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認	3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認	4	品詞 (動詞・形容詞)	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認	5	品詞 (名詞・助詞)	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認	6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認	7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認	8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認	9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認	10	モダリティ (ムード)	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認	11	肯否	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認	12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認	13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認	14	課題 (レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認	15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認																																																																
3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認																																																																
4	品詞 (動詞・形容詞)	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
5	品詞 (名詞・助詞)	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	モダリティ (ムード)	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	肯否	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認																																																																
13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	課題 (レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認																																																																
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目 (「日本語語彙論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	u6wjbwk																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階 (古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。																																																																		

科目名	中国語語彙論	科目名 (英文)	Chinese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1c, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3165a0		

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級レベルでよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力(分析力、理解力、運用力)を高める。
到達目標	日中常用同形語の相違をはっきりさせ、日中混同と誤用を避けられるようになる。そして中国語検定試験2級合格を目指すレベルに到達する。
授業方法と留意点	授業は、日中同形語について3つずつ口述解説とドリルを中心に演習形式で行う。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験3級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。 事前・事後に各60分の学習を要する。
科目学習の効果(資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「意思、援助、円満」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 22-37
3	「温和、顔色、活動」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 44-63
4	「感覚、確実、議論」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 67-79
5	1-4回目の復習 「気味、工夫、結束」	★単元テスト1 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	・指定した範囲を復習すること テキスト p. 82-103
6	「検討、経験、結構」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-117
7	「告訴、構造、差別」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 126-157
8	「事情、柔軟、趣味」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 158-175
9	5-8回目の復習 「新鮮、損害、単純」	★単元テスト2 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	・指定した範囲を復習すること。 テキスト p. 180-209
10	「情緒、注目、注意」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 230-247
11	「通過、適当、到底」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 256-281
12	9-11回目の復習・まとめ 「得意、把握、発現」	★単元テスト3 混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	・指定した範囲を復習すること。 テキスト p. 284-337
13	「表現、評判、批評」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 340-246
14	「披露、貧乏、勉強」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 348-264
15	12-14回目の復習	★単元テスト4 学期学習のまとめ	・指定した範囲を復習すること。

実務経験	
関連科目	3年次の専門科目の中の各中国語科目(必修と選択)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本僑報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中同形異義語辞典	王永全・小玉新次郎・許晶福	東方書店
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	j2epzc3
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	提出物 30%、単元テスト 70%。
学生への メッセージ	授業中は集中して授業内容の理解に努めましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階(兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	日本史学	科目名 (英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2166a0		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかわる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	講義の資料を配布し、数回にわたって到達度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍や web で復習しておく。
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政について書籍や web で復習しておく。
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍や web で復習しておく。
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か、成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府について書籍や web で復習しておく。
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の政治や文化について書籍や web で復習しておく。
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍や web で復習しておく。
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍や web で復習しておく。
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	江戸幕府について書籍や web で復習しておく。
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸時代の百姓について書籍や web で復習しておく。
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治維新について書籍や web で復習しておく。
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	大正デモクラシーについて書籍や web で復習しておく。
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦・第二次大戦について書籍や web で復習しておく。
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	太平洋戦争について書籍や web で復習しておく。
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート (100%)
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階 (赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	中国史学	科目名 (英文)	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2167a0		

授業概要・目的	近年、日中の相互往来はますます増加しているが、一方で領土や歴史認識などがたびたび問題になってきた。中国は古くから東アジア世界に影響を与え、20世紀以降は帝国の終焉、戦争や社会主義化などを経て大きく変化した。本講義の目的は、中国の歴史を学ぶことによって、現在の中国に対する理解をも深めることである。国際的視野をもって、日本と中国の関係を考えるきっかけとなることを目指す。																																																																		
到達目標	中国史の流れを理解し、歴史的視野によって日本と中国、日本と東アジアの関係を説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	遠隔授業のオンライン型および教材配信型による。教科書および配布資料にそって進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国史に関する知識を通して、現在の中国や日中関係についての理解も深める。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>授業の進めかた・評価方法などのガイダンスを行った後、中国についての基本事項を学ぶ。</td> <td>配布資料を復習する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国史のみかた</td> <td>中国史の大きな流れを学び、そのみかたを考える。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>清朝の統治</td> <td>清朝の統治とその隆盛について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>清朝の斜陽</td> <td>19世紀の清朝について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>中華民国の成立</td> <td>北京政府時期の中国について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>南京国民政府と中国共産党</td> <td>南京国民政府時期の中国について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日中戦争と中国</td> <td>日中戦争時期の中国について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国共内戦から中華人民共和国の成立へ</td> <td>戦後内戦期の中国について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会主義建設</td> <td>中国における社会主義建設について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文化大革命</td> <td>文化大革命時期の中国について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>改革開放から社会主義市場経済へ</td> <td>改革開放以後の中国について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>日中関係</td> <td>戦後の日中関係について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>香港・マカオ</td> <td>近現代の香港・マカオについて学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>台湾</td> <td>近現代の台湾について学ぶ。</td> <td>教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業のまとめと確認テスト、解説</td> <td>講義内容の総括と確認テストを行った後、解説を加える。</td> <td>これまでの内容を復習して、確認テストに備える (3~5時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の進めかた・評価方法などのガイダンスを行った後、中国についての基本事項を学ぶ。	配布資料を復習する (1時間)	2	中国史のみかた	中国史の大きな流れを学び、そのみかたを考える。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	3	清朝の統治	清朝の統治とその隆盛について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	4	清朝の斜陽	19世紀の清朝について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	5	中華民国の成立	北京政府時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	6	南京国民政府と中国共産党	南京国民政府時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	7	日中戦争と中国	日中戦争時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	8	国共内戦から中華人民共和国の成立へ	戦後内戦期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	9	社会主義建設	中国における社会主義建設について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	10	文化大革命	文化大革命時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	11	改革開放から社会主義市場経済へ	改革開放以後の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	12	日中関係	戦後の日中関係について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	13	香港・マカオ	近現代の香港・マカオについて学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	14	台湾	近現代の台湾について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)	15	授業のまとめと確認テスト、解説	講義内容の総括と確認テストを行った後、解説を加える。	これまでの内容を復習して、確認テストに備える (3~5時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業の進めかた・評価方法などのガイダンスを行った後、中国についての基本事項を学ぶ。	配布資料を復習する (1時間)																																																																
2	中国史のみかた	中国史の大きな流れを学び、そのみかたを考える。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
3	清朝の統治	清朝の統治とその隆盛について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
4	清朝の斜陽	19世紀の清朝について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
5	中華民国の成立	北京政府時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
6	南京国民政府と中国共産党	南京国民政府時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
7	日中戦争と中国	日中戦争時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
8	国共内戦から中華人民共和国の成立へ	戦後内戦期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
9	社会主義建設	中国における社会主義建設について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
10	文化大革命	文化大革命時期の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
11	改革開放から社会主義市場経済へ	改革開放以後の中国について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
12	日中関係	戦後の日中関係について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
13	香港・マカオ	近現代の香港・マカオについて学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
14	台湾	近現代の台湾について学ぶ。	教科書および配布資料の予習・復習 (各1時間)																																																																
15	授業のまとめと確認テスト、解説	講義内容の総括と確認テストを行った後、解説を加える。	これまでの内容を復習して、確認テストに備える (3~5時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	「エリアスタディーズ (東アジア)」などの中国関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新・図説 中国近現代史 [改訂版]</td> <td>田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新・図説 中国近現代史 [改訂版]	田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新・図説 中国近現代史 [改訂版]	田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懐	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	m0cqt9																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内で実施する課題と確認テストによって評価する (100%)。																																																																		
学生へのメッセージ	中国史に関する理解を深め、アジアにおける日本の位置を考えるきっかけをつかんでください。																																																																		
担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)																																																																		
備考	課題や確認テストは返却時、または実施後の授業でフィードバックを行う。																																																																		

科目名	ヨーロッパ史学	科目名 (英文)	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3168a0		

授業概要・目的	ヨーロッパ世界を中心に世界の歴史をたどる。ヨーロッパ諸国は、「大航海時代」以来、アジアやアフリカ、アメリカ世界と密接なかかわりをもってきた。時代によってその「中心」(覇権国)は刻々と変化するものの、ヨーロッパ世界は今日にいたるまで、ある種の一体性を有しながら発展してきたといえる。常に世界史上の重大局面にかかわってきたヨーロッパを中心に、世界の歴史を読み解くことで、現代社会を歴史的観点からとらえかえす。
到達目標	ヨーロッパ、ひいては(日本を含めた)アジアの未来に関する明確なビジョンをもつために、古代、中世、近世、近代の歴史的特質を把握する。
授業方法と留意点	パワーポイントをもちいた授業を実施する。
科目学習の効果(資格)	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	古代エジプト(1)	時代区分と歴史学	古代エジプトの歴史について予習してくる。
	2	古代エジプト(2)	ナイル川・ピラミッド・ファラオ	古代エジプトにおける王権についてまとめる。
	3	古代エジプト(3)	ミイラ信仰に見る古代の死生観	エジプトと宗教の関係についてまとめる。
	4	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(1)	「魔女」とは誰か? ~時代による変遷~	「魔女」に関するイメージと、その源泉について考えてくる。
	5	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(2)	魔女裁判の社会的・宗教的意義	魔女裁判がもつ社会的機能についてまとめる。
	6	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(3)	魔女狩りの時代差・地域差	魔女狩りの時代差・地域差魔女裁判が中世社会においてもった意義についてまとめる。
	7	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(4)	古代および中世ヨーロッパと宗教・王権(中間テスト)	これまでの授業内容をまとめ、テスト対策をしてくる。
	8	「大航海時代」~アジアへの道~(1)	ヨーロッパはなぜ「大航海時代」を必要としたか?(中間テスト解説)	「大航海時代」の新航路の開拓を地図上にまとめる。
	9	「大航海時代」~アジアへの道~(2)	覇権国の移り変わり	「覇権国」としてのスペイン、ポルトガル、オランダ、フランス、イギリスについてまとめる。
	10	「大航海時代」~アジアへの道~(3)	ヨーロッパとアジアの「出会い」がもたらしたこと	ヨーロッパとアジア、双方の観点から「大航海」がもたらした影響についてまとめる。
	11	フランス革命(1)	フランス革命とは何か? ~何が革命的だったのか~	フランス革命に関する年表を作成する。
	12	フランス革命(2)	フランス革命の進展	フランス革命を描いたカリカチュア(風刺画)を検索してくる。
	13	フランス革命(3)	王権の廃止と諸外国の干渉	周辺国がフランス革命にどのような反応をとったか、調べてくる。
	14	フランス革命(4)	習俗の革命~「普通の人びと」は革命にどう反応したか~	フランス革命が「暮らし」に与えた変化についてまとめる。
	15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

実務経験	
関連科目	社会文化史(世界の歴史)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	4回実施するテスト(1回25点、計100点)の総合点で評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは、過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間試験に関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。

科目名	日米文化交流史	科目名 (英文)	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3169a0		

授業概要・目的
 アメリカと日本は太平洋を隔てた隣国であり、100年以上の交流の歴史があります。前半は、主にアメリカという国の歴史や文化を形成する思想について学びます。後半は、日本とアメリカのさまざまな文化的交流のあり方について学び、異文化コミュニケーションの課題について考えます。学生に卒業後、授業で学んだことを日米交流の実践にも役立てていただくため、基本的知識を試験で問ひ、同時に論述問題も試験で出題します。試験問題等については授業でしっかりと指し示しますのでご安心ください。授業では日米のあらゆる時代や、文化を取り扱いますが、なるべく早い時期から「越境」というキーワードに注目して、日本とアメリカの文化を比較、並列しながら、ふたつの近代国家というもののあり方、理想の形なども批判的に考察していきます。

到達目標
 1. 日米文化交流の歴史を学び、異文化コミュニケーションの諸問題を学ぶ
 2. アメリカという国の歴史・社会・文化を理解する
 3. 文化の多様性や異なる文化背景を持つ人々と交流する意義を学ぶ

授業方法と留意点
 映像・写真資料、PowerPoint スライド、配布資料を使用します。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	日米文化交流を学ぶ意義について考える	授業内容 (概要) を確認する。(2時間)
2	米国の成立と、その神話	アメリカの国の成り立ちと、それにまつわる神話を学び、アメリカ合衆国のイメージを批判的に考察する	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
3	宗教と思想、政治	アメリカ文化における宗教と思想の役割、そして宗教と政治の関連を学ぶ	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
4	フロンティア、暴力、表象、そしてその越境と近代: 1	アメリカ文化におけるフロンティアの意義について学ぶ。そしてそれにまつわる、文化表象や、暴力の越境と近代について考察する。特にアメリカの文脈について学ぶ。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
5	フロンティア、暴力、表象、そしてその越境と近代: 2	アメリカ文化におけるフロンティアの意義にまつわる、文化表象や、暴力の越境と近代について考察する。特に江戸末期を扱う	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
6	フロンティア、暴力、表象、そしてその越境と近代: 3	アメリカ文化におけるフロンティアの意義にまつわる、文化表象や、暴力の越境と近代について考察する。特に明治初期を扱う	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
7	中間テスト	これまでの授業で習った内容におけるキーワードについて答える問題と、論述問題による中間テストを行う。	これまでの授業内容を復習し、要点を整理する。(2時間)
8	日本の近代と、政治、宗教	明治以降の日本の近代化と政治と宗教のつながりを、米国の宗教文化と比較しながら考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
9	大正、昭和初期の文化とアメリカ: 1	アメリカの消費文化が非常に影響力が強かった大正、昭和初期の日本の都市文化と、アメリカとの関係を考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
10	大正、昭和初期の文化とアメリカ: 2	大正、昭和初期の日本の都市文化と、アメリカ、労働問題や、プロレタリア文化の発達について学ぶ	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
11	日米関係と戦争史	太平洋戦争の記憶や、歴史叙述と日米関係について考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
12	コンタクトゾーンとしての占領期	敗戦後の占領期における文化を通じた日米の交流や、軋轢などを学ぶ。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
13	音楽を通じた日米交流	明治から1960年代における日米の音楽を通じた交流を考え、その中で人種、ジェンダー、階級の概念がどのように変化、もしくは、変化しなかったかを考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
14	音楽を通じた日米交流	1970年代から現在における日米の音楽を通じた交流を考え、その中で人種、ジェンダー、階級の概念がどのように変化、もしくは、変化しなかったかを考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。(2時間)
15	最終テスト	これまでの授業で習った内容におけるキーワードについて答える問題と、論述問題による最終テストを行う。	これまでの授業内容を総復習し、要点を整理する。(2時間)

実務経験

関連科目
 「日米比較文化」など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点(授業への参加度、レスポンスペーパー、宿題) 40% 中間テスト・最終テスト 60%			
学生への メッセージ	日本とアメリカを比較しながら、異なる文化的背景を持つ人々と交流する意義を学んでください。			
担当者の 研究室等	7号館 永富研究室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とします。 中間テストに関するフィードバックは第7回目、最終テストに関するフィードバックは第15回目の授業で行います。 授業の進度は上記の表を目安としますが、開講後の様子を見て必要であれば調整します。			

科目名	東南アジア史学	科目名 (英文)	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3170a0		

授業概要・目的	本講義では、大陸部から島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、先史時代から現代に至るまで通時的に概観する。																																																																		
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ることにより、現在の東南アジア社会、東南アジアと日本との関係、東南アジアを中心とした世界情勢について理解するための基本的な視座を獲得する。																																																																		
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジアの基礎知識</td> <td>東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>先史時代と初期の国家形成</td> <td>交易国家の形成</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>諸王朝の盛衰 1</td> <td>大陸部における諸王朝の盛衰</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>諸王朝の盛衰 2</td> <td>島嶼部における諸王朝の盛衰</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ヨーロッパ勢力の到来 1</td> <td>新しい交易の時代 1</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ヨーロッパ勢力の到来 2</td> <td>新しい交易の時代 2</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>植民地支配の進行 1</td> <td>オランダ植民地支配の拡大</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>植民地支配の進行 2</td> <td>イギリス植民地支配の拡大</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>植民地支配の進行 3</td> <td>反植民地主義運動の展開</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1</td> <td>独立と国家統合</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2</td> <td>国民国家の誕生</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>東南アジアの現在 1</td> <td>東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>東南アジアの現在 2</td> <td>東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ +テスト</td> <td>授業全体のまとめとテスト</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。	2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。	3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。	4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。	5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。	6	ヨーロッパ勢力の到来 1	新しい交易の時代 1	関連する文献を紹介するので読むこと。	7	ヨーロッパ勢力の到来 2	新しい交易の時代 2	関連する文献を紹介するので読むこと。	8	植民地支配の進行 1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。	9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。	10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。	11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。	12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。	13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。	14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。	15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
6	ヨーロッパ勢力の到来 1	新しい交易の時代 1	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
7	ヨーロッパ勢力の到来 2	新しい交易の時代 2	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
8	植民地支配の進行 1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	エリアスタディーズ (東南アジア) など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>東南アジア史 I 大陸部</td> <td></td> <td>山川出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジア史 II 島嶼部</td> <td></td> <td>山川出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	東南アジア史 I 大陸部		山川出版社	2	東南アジア史 II 島嶼部		山川出版社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	東南アジア史 I 大陸部		山川出版社																																																																
2	東南アジア史 II 島嶼部		山川出版社																																																																
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom																																																																		
Teams コード	sose4ju																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	到達度の確認を問う課題 (60%) と授業中に行う小レポート (40%) から評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館5階 上田研究室																																																																		
備考	受講者多数の場合は、評価方法などを一部変更することがある。 事前・事後学習の総時間数は、60時間以上とする。																																																																		

科目名	社会文化史	科目名 (英文)	History of Society and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮網 佳苗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3171a0		

授業概要・目的	世界に先駆けて産業革命が起こり、さまざまな分野で世界をリードしてきたイギリスを事例として外国の歴史を学ぶ。「イギリス料理はなぜまずいのか?」「サッカーワールドカップにはなぜイギリス代表は存在しないのか?」といった今日の私たちにとって身近な疑問を起点としながら、近現代を中心に政治、経済、文化などさまざまな観点からイギリスの歴史を考えていく。
到達目標	歴史を通してイギリス社会の特徴を理解するとともに、政治、経済、芸術、スポーツ、帝国などさまざまな視点からイギリスの歴史を解釈する仕方を身につける。さらに、現在の私たちにとって一見当たり前と思われている事柄が長い歴史のなかで形成されてきたことをイギリスの事例から具体的に理解する。
授業方法と留意点	パワーポイントを用い、写真や図、当時の史料を紹介しながら、授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	歴史学の基礎知識を習得できるとともに、過去を通して現在の社会を考える手法を身につけることができる。これは、現在の国際社会をより深く理解することにもつながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	前近代のイギリス(1)	政治と宗教	イングランド宗教改革についてまとめる。
3	前近代のイギリス(2)	経済と社会構造(都市と農村)	前近代の経済の特徴をあげる。
4	産業革命(1)	資本主義社会の形成と階級	産業革命によって形成された近代以降の経済体制について、前近代の経済との違いに留意しながら説明する。
5	産業革命(2)	労働と文化	近代以降、労働のあり方がどのように変化したかをまとめる。
6	産業革命(3)	貧困と福祉	19世紀後半におこなわれた貧困救済のさまざまな取り組みをあげる。
7	芸術と娯楽(1)	文学、演劇、音楽、美術の変遷	イギリスの文学、演劇、音楽、美術作品のうち、最低でも一つについてその内容を事前に調べてくる。
8	芸術と娯楽(2)	19世紀末～20世紀初頭の芸術運動と現代への影響	芸術運動が盛んになった背景についてまとめる。
9	スポーツ	サッカーを代表とするイギリス発祥のスポーツのなりたち	イギリス発祥のスポーツにはサッカー以外に何かがあるか事前に調べてくる。
10	食	食文化の衰退とその原因	イギリス料理が「まずい」といわれる理由を社会的・経済的観点から説明する。
11	自然環境	環境保護思想の起源とその実践の歴史	環境保護の実践例の一つあげ、その内容をまとめる。
12	イギリス帝国(1)	帝国のなりたちとその展開	イギリス帝国には現在のどの地域が含まれるのか事前に調べてくる。
13	イギリス帝国(2)	植民地の独立とイギリス連邦	帝国のうち一つの地域を具体的にあげ、独立までの展開をまとめる。
14	現代のイギリス(1)	1960年代以降の若者文化	1960年代に若者文化が開花した要因を説明する。
15	現代のイギリス(2)	「イギリス人」としてのアイデンティティの模索	「イギリス人」としてのアイデンティティが揺らいでいる要因をまとめる。

実務経験	
関連科目	ヨーロッパ史学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	dgxdw6
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業のなかで実施する小テスト4回(80%) + 毎回の提出物(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	大学はさまざまな事柄について自ら思考し、学んでいく場です。歴史学も決して暗記の学問ではありません。過去について学んだら、考え、どんな疑問をぶつけていき、文献などを主体的に読んで多くの気づきを得てください。そうすれば、私たちの生きる社会がきっと違って見えるはずですよ。
担当者の研究室等	
備考	事前・事後学習に要する総時間数は50時間程度。 小テストは実施の前の週に告知する。また、解説はテスト実施の翌週におこなう。

科目名	風土と地理	科目名 (英文)	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1172a0		

授業概要・目的	地理学は、空間・地域・環境といった視点から、自然・人・社会とそれらの関係性を捉える学問です。自然科学・人文科学・社会科学の様々な分野間の境界領域に位置し、対象や方法が多岐にわたっているという特徴を持ちます。地理学の考え方を理解することで、皆さん自身が興味を持つ問題や身近な課題について調べ、説明する力を身に付けることができます。本講義では、そうした地理学の基本的な考え方を身に付けることを目的とします。
到達目標	地理学の基本となる考え方について説明できること。また、特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	主に、①現代地理学が成立する歴史、②主要な理論・学説、③従来の地理学がカバーする諸領域について講義します。さらに、学生の皆さんには、理解度を問うための小課題とレポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さん自身が興味を持つ事象や問題について、空間・地域・環境といった視点から捉える能力を養うことができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学とはどのような学問か	この授業の概要を説明し、地理学の成り立ちについて解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
2	近代地理学の形成	主要な人物を紹介しながら近代における地理学の成立史を概観する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
3	自然環境と人間とのかかわり	人間と環境との関係を捉える自然地理学や生態学的地理学について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
4	立地論	立地論と種々のモデルについて講義する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
5	人文地理学における計量革命	戦後の地理学における計量的方法の普及と見方の変化について講義する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
6	人の行動と空間	行動地理学とその展開について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
7	マルクス主義地理学と人文主義地理学	マルクス主義地理学と人文主義地理学について紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
8	都市空間	都市空間研究の論点や概念、モデルを紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
9	都市間ネットワークと世界都市	世界都市や都市間ネットワークの研究について紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
10	人口動態と人の移動	人口動態と人の移動についての地理学の視点・論点を紹介する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
11	観光に関する地理学的研究	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
12	農業研究とフードシステム論	「農と食」について地域・空間の視点から捉える方法とその成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
13	ジェンダーの地理学	ジェンダーの視点から空間を捉える立場について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
14	イノベーションとその空間的諸条件	イノベーションとその空間的諸条件を追求する方法と成果について解説する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。
15	地理学の課題	現代、そして今後の地理学の課題について検討する。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること (2時間)。

実務経験	
関連科目	「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学	小林茂・杉浦芳夫編著	放送大学出版会
2	最近の地理学	坂本英夫・浜谷正人編著	大明堂	
3	自然地理学概論	高橋日出雄	朝倉書店	

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 80%、授業で指示する課題・コメント 20%
学生へのメッセージ	大学の地理学は暗記科目ではなく、理解したうえで自分の探求に活かすことが重要です。自分自身が興味を持っている問題とどうつながるか考えながら講義を聴いてもらえることを期待します。
担当者の研究室等	7号館5階 小林研究室
備考	

科目名	日本文学	科目名 (英文)	Japanese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1173a0		

授業概要・目的	<p>日本の近現代(明治時代から現代まで)の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身につけることを目的とする。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことを大事にしたい。</p> <p>本年度は、「私小説(わたくし・しょうせつ)」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとして生息し続けている。</p> <p>自分のスキャンダルや貧困を赤裸々に公表する作家もいれば、自分の日常生活を芸術的に見つめ直した作家もいた。そのような自己表現に反発する作家もいれば、偽った自分を告白する作家もいた。そのような多様な「私小説」の諸相を辿りながら、文学のなかの「日本(人)」の特徴を明らかにできればと考えている。</p> <p>授業は「文学を読んでいない」「活字を読むのが苦手」の人も楽しめるよう、映像や漫画などを用いながら分かりやすく進めていく。この授業をきっかけに、本を読む習慣をつけていただければ幸いである。</p>
---------	---

到達目標	<p>①文学作品を読解する力を身につける</p> <p>②日本文学の特徴や歴史について理解する</p> <p>③文学作品を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>講義を中心に行う。適宜、映画化作品を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。</p> <p>毎回、読む作品についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらおう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。</p> <p>授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
2	リアリズムの形成	日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
3	私小説の起源(1)	田山花袋「蒲団」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
4	私小説の起源(2)	近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
5	私小説の起源(3)	葛西善蔵「子をつれて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
6	私小説の流行(1)	徳田秋声「徼」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
7	私小説の流行(2)	志賀直哉「城之崎にて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
8	私小説の流行(3)	広津和夫「諸崎行」、宇野浩二「蔵の中」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
9	前衛とロマン(1)	横光利一「春は馬車に乗つて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
10	前衛とロマン(2)	川端康成「伊豆の踊子」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
11	前衛とロマン(3)	梶井基次郎「檸檬」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
12	戦後の私小説(1)	三島由紀夫「仮面の告白」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
13	戦後の私小説(2)	安岡章太郎「陰気な愉しみ」など(第三の新人)を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
14	課題(レポート)	授業で扱った作品を1つ選び、教員の指示したテーマでレポートを作成する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出	

実務経験	
関連科目	日本文学・文化に関する科目(「翻訳文化論」など)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	u6agky7		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階 (古矢研究室)		
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。		

科目名	異文化接触論	科目名 (英文)	Cultural Interactions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2174a0		

授業概要・目的	この授業の目的は、多文化共生社会の実現に寄与できる異文化認知力と異文化適応力を養うために、異文化接触の理論を手掛かりに日常的な自分と身近な他者の接触の仕方を分析し、その技能を外国文化の理解にも応用する知識と態度を身につけることである。IT 技術の発達や人や企業活動の国境を越えた広がりによって、かつてないほど多様な文化的背景をもつ人々と接触し、理解し合わなくてはならない場面が増えている。この授業は、異文化接触の理論と世界の異文化対立の事例を学び、身近な他者や異文化との接触仕方をグループワークによって考え、また、留学時に生じる異文化摩擦における自分の対処法を考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の異文化接触の事例を理解する上で重要な理論を説明できる。 異文化認識の癖を知るためにグループワークに参加し、積極的に発言できる。 自己のアイデンティティについての身近な他者（クラスメイト）との議論に参加し、他者との文化的差異を発見し、その原因を説明できる。 外国認識についての身近な他者（クラスメイト）との議論に参加し、他者との文化的差異を発見し、その原因を理論を踏まえて説明できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ICT ツールを使った遠隔授業形式で、解説資料と課題を配布する。履修者はそれに基づいて学修し、ICT ツール上で課題を Word 等で提出する。疑問点があれば質問する。 文化の捉え方や歴史的な異文化接触の事例は配布資料による学修で行う。あわせて、自己とクラスメイトの文化認識を比較する個人ワークを 3 回行うので、ワークからの発見を中間レポートとして提出する。 個人ワークがない回はリアクションペーパーの課題を課す。 学期末には中間レポートからの発見と授業で紹介する異文化接触の理論と事例を総合し、「異文化と
科目学習の効果 (資格)	自文化と異文化の違いを知り、違いを積極的に理解する思考をもって、より多くの文化的背景の異なる人々との交流を広げる。異文化摩擦やカルチャーショックの仕組みを理解することで、留学の際に直面するカルチャーショックを乗り越える力を得る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションおよび異文化対応力 (1)	授業の概要、講師の異文化体験	日常生活における自分の文化的の癖を探してリストアップする。
	2	異文化対応力 (2)	自分の日常行動を分析し、他者と比較する。	配布資料を読んで、自己の日常行動の癖と異文化への視線との関係を考える。
	3	異文化への視線	西洋と非西洋の接触の歴史から異文化に対する視線と言説の創造の歴史を知る。	グループワークの下準備として、異文化接触時に想定される自分の行動や他者認識をリストアップする。
	4	身近な異文化を発見するグループワーク	異文化ゲームを通じて異文化的存在の他者との接触の際の自分の行動と思考を分析する。	グループワークからの発見をもとに中間レポートを作成する。
	5	文化の捉え方	「見える文化」と「見えない文化」の文化の重層性の理論を通して、他者をめぐる言説、文化のカテゴリー化の概念を知る。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。およびレジュメと配布資料を見直して文化の重層性の理論を理解する。
	6	価値観の衝突: 西洋とイスラーム	西洋とイスラームの文化摩擦の歴史を、言説、文化のカテゴリー化の概念を手がかりに読み解く。	欧米とイスラームの対立が表れている新聞・インターネットの記事を 5 つ探して、次回の授業で要点を発表できるように準備しておく。
	7	自分の文化の構成要素を分析するグループワーク	自己のサブカルチャー構成をリストアップし、他者との比較・分析から、自己を形成する文化的要素を認識する。	グループワークからの発見をもとに、文化のカテゴリー化の概念を用いて、中間レポートを作成する。
	8	アフリカにおける文化対立の悲劇 (1)	ルワンダ内戦の事例から、植民地支配における文化のカテゴリー化の影響を学ぶ。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および配布の質問用紙に従って、ルワンダ内戦の経緯について調べる。
	9	アフリカにおける文化対立の悲劇 (2)	ルワンダ内戦の事例から、為政者による「他者の創造」と人種・民族の政治的操作の事例を学ぶ。	ルワンダ内戦に関する映画を観て、文化のカテゴリー化と他者の創造が分かる場面をリストアップする。
	10	自己と他者の外国認識の違いを分析するグループワーク	外国に対する関心の違いをクラスメイトと比較し、知識量と外国認識の相関性を考察する。	グループワークからの発見をもとに、中間レポートを作成する。
	11	異文化摩擦と接触仮説	多文化共生のための接触仮説の詳細を知り、日本における日系ブラジル人の事例から確認する。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および接触仮説に関する配布資料を読んでおく。
	12	北米の文化対立と多文化主義	米国の文化的分断とカナダの多文化主義の事例を接触仮説に即して読み解く	米国とカナダの多文化政策に関する配布資料を読んでおく。
	13	多文化共生の条件を考えるグループワーク	多文化状況を描いた映像をもとに、文化の溝が縮まる条件と広がる条件を考察する。	グループワークからの発見をもとに、中間レポートを作成する。
	14	個人レベルの異文化接触: 留学の効果とは	留学を事例に、カルチャーショックの諸段階と自文化中心主義から文化相対主義への移行について学ぶ。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および期末レポート (A4 判 3 枚) の作成と発表準備
15	個人発表	学んだ諸概念を用いて「異文化との豊かな交流のための提言」について個人発表	期末レポートの提出および講評をもとにレポートの見直し	

実務経験	
関連科目	日米比較文化、芸術文化論、異文化ビジネス論、異文化コミュニケーション論、国際社会論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 異文化トレーニング ボーダレス社会を生	八代京子ほか	三修社

		きる		
	2	イスラム化するヨーロッパ	三井美奈	新潮社
	3	紛争・対立・暴力-世界の地域から考える	西崎文子・武内進一 編著	岩波書店
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業参加度 (リアクションペーパーの内容、個人ワークへの取り組み) 20% 中間レポート 40% 期末レポート 40%			
学生への メッセージ	他者や異文化とのかかわりを客観的に考えられるようになって、より多くの他者・異文化との関係を広げてください。			
担当者の 研究室等	7号館5階 藤井研究室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は60時間を目安とする。 受講生の関心や予備知識によって授業内容を一部変更する可能性がある。 課題に対するフィードバックとして、中間レポートは提出の翌週の授業で講評を行い、学期末レポートの講評と返却は研究室にて行う。			

科目名	日米比較文化	科目名 (英文)	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2175a0		

授業概要・目的	<p>19世紀から現代までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観の変遷と、その背景にある国際政治、国際政治との関わりを、主に映画と音楽から実例をとって年代順にみていく授業です。両国の人々が互いに抱いてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えてもらいます。</p> <p>外国語学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」という部分を担う位置づけにある授業です。教職課程における「異文化理解」区分の必修科目でもありません。</p> <p>受講生の皆さんには、ただ教室に来て講義を聞くのではなく、スケジュール通りに資料を読んでから講義を聴き、講義の後には moodle にアップされた講義ノートを読み返すことが要求されます。そして毎回の授業時間の終盤には、その日に理解できた内容を作文して提出する課題があります。高度な日本語を読む、書く、という文系の学生に必須の学習方法を習慣として身につけ、就職活動や卒業研究レポート作成に対応可能な水準の日本語力も同時に身につけましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。 ・日米間に限らず現代世界一般の人種問題、民族問題について、またメディアと異文化理解の関係についての基礎知識を持ち、多様な文化背景を持った人々との共生のありかたについて当事者意識を備えた意見を述べられるようになる。 ・就職活動や卒業研究レポート作成に向けて活用できる日本語能力、作文能力を身につける。 ・テーマに基づいて読解、作文、質疑を繰り返す学習技法を習得する。 ・ICTを生か
授業方法と留意点	<p>【重要なお知らせ】新型コロナウイルス対策のため、この授業もオンライン化されます。授業は、資料の閲覧と課題の提出には Moodle を使い、教員との質疑や学生同士での意見交換には Teams を用いる予定です。閲覧すべき資料の種類、課題の内容や回数など、この Web シラバスそのままというわけにはいきません。履修を考えて</p>
科目学習の効果 (資格)	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる国際感覚。高度な英語力を身につけるための基盤となる国際教養。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
		1	受講の方法を確認	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。
授業計画	2	相撲と minstrel show - 近代国民国家と「国民文化」	ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	3	「黄禍」としての日本人/日系人 その1 1910年代の日米関係	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	4	「黄禍」としての日本人/日系人 その2 Cheat (1915)の主要場面を分析する	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その1 1920年代～30年代の日米関係	1928年～1930年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その2 1930年代の反米知識人	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』(1937)など検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その1 アメリカのプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その2 日本のプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その1 1950年代の日米関係	映画『サヨナラ』(1957)を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その2 『サヨナラ』(1957)と人種・ジェンダー	映画『サヨナラ』(1957)を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その1 アメリカのカウンターカルチャー	ウッドストック (1969) と 1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版	ウッドストック (1969) と 1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所

		その2 日本のカウンターカルチャー	に考える。	を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その1 ジャズとブルース	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その2 ファンクとヒップホップ	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。(2時間程度) 授業後、期末レポートを作成する。(5時間程度)
実務経験				
関連科目	エリアスタディーズ(北アメリカ)、日米文化交流史ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材、動画等を電子配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える	兼子歩／貴堂嘉之 編	彩流社
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の小論文 60% 質疑応答・ディスカッションへの貢献 10% 学期末レポート 30%			
学生への メッセージ	最初から全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い!」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、敢えて背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスチューデントアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。メールは torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	中国文学	科目名 (英文)	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2176a0		

授業概要・目的	中国文学では、最高峰とされているのは唐詩や宋詩である。唐宋詩は普遍的な存在としていかに当時の人々の生活や文化を昇華させていたのかいをこの授業を通して示したい。その標本の一つとして茶や茶を飲用する生活を描写する茶詩を細かく考察する。																																																																		
到達目標	中国文学の扉から入り、茶詩に絵描かれてきた中国茶文化の源流や内容、特徴を把握してもらおう。																																																																		
授業方法と留意点	教室での講義や討論を中心としていましたが、事情より、音声ファイルと文字資料での遠隔授業を実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最古の茶樹</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>道教の茶</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>一回目の課題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>茶の流行と仏教</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>茶経と陸羽①</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>茶経と陸羽②</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>二回目の課題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>初めての「昇仙」茶詩</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>進化する「昇仙」茶詩</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>僧侶詩人たちの茶詩</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>三回目の課題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>茶を日常化した白居易の茶詩①</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>茶を日常化した白居易の茶詩②</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>写実的な宋の茶詩</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>蘇軾の茶①</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>要点整理</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>蘇軾の茶②</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>最後の課題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>中国茶文化の今</td> <td>音声ファイル、資料を学習する</td> <td>課題の再提出回</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	音声ファイル、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える	2	最古の茶樹	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	3	道教の茶	音声ファイル、資料を学習する	一回目の課題	4	茶の流行と仏教	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	5	茶経と陸羽①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	6	茶経と陸羽②	音声ファイル、資料を学習する	二回目の課題	7	初めての「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	8	進化する「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	9	僧侶詩人たちの茶詩	音声ファイル、資料を学習する	三回目の課題	10	茶を日常化した白居易の茶詩①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	11	茶を日常化した白居易の茶詩②	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	12	写実的な宋の茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	13	蘇軾の茶①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理	14	蘇軾の茶②	音声ファイル、資料を学習する	最後の課題	15	中国茶文化の今	音声ファイル、資料を学習する	課題の再提出回
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	音声ファイル、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える																																																																
2	最古の茶樹	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
3	道教の茶	音声ファイル、資料を学習する	一回目の課題																																																																
4	茶の流行と仏教	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
5	茶経と陸羽①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
6	茶経と陸羽②	音声ファイル、資料を学習する	二回目の課題																																																																
7	初めての「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
8	進化する「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
9	僧侶詩人たちの茶詩	音声ファイル、資料を学習する	三回目の課題																																																																
10	茶を日常化した白居易の茶詩①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
11	茶を日常化した白居易の茶詩②	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
12	写実的な宋の茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
13	蘇軾の茶①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理																																																																
14	蘇軾の茶②	音声ファイル、資料を学習する	最後の課題																																																																
15	中国茶文化の今	音声ファイル、資料を学習する	課題の再提出回																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	7n8jvy3																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	教材の視聴 (出席) 五割、課題五割																																																																		
学生への メッセージ	激動する現代中国の背景にある中国現代文化の状況を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。授業時間外の質問はメールで受け付け、他の学生も関心がある内容の場合もあるので、最も早い授業の冒頭などで返答する。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。																																																																		

科目名	芸能文化論	科目名 (英文)	Studies in Performing Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2177a0		

授業概要・目的	<p>【いかにメディアミックスは眼差しを変えるのか】</p> <p>西洋における「祝祭と美術」の関係に注目する。中世最大の祝祭であるフィレンツェ聖史劇を取り上げ、衣装・小道具・演出の特徴を確認する。次に、その見物客がどのように舞台を見て感じていたのかを考察する。それと同時に、聖史劇を見る眼差しと交差した可能性がある、当時の絵画を見る眼差しも検討する。ルネサンス期フィレンツェに暮らした市井の人びとは、かならずしも「知的エリート」だったわけではなく「高貴な趣味」を持っていたわけでもない。その彼らが祝祭や美術に触れた際の感情を体験することで、現代を生きるわたしたちの眼差しと認識がいかに形成されてきたのかに気づききっかけが得られる。</p>																																																						
到達目標	<p>以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 祝祭が呼び覚ます振れ幅の大きな感情 2. 祝祭が揺り動かす時間と空間の結び目 3. 祝祭が更新する人びとの生 																																																						
授業方法と留意点	<p>【Moodle と Zoom によるリアルタイムオンライン講義】</p> <p>[Moodle]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクセスキーで「芸能文化論 (2020)」に登録する。 2. 当該コース上で、授業日程、Zoom ミーティング URL、各回の配付資料を確認する。 3. 授業当日までに配付資料をプリントアウトし、目を通しておく。 <p>[Zoom]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 使用する PC もしくはスマートフォンに Zoom アプリをインストールしておく。 2. 授業 3 分前までに Moodle で確認した URL をクリックして Zoom をスタンバイする。 3. 																																																						
科目学習の効果 (資格)	西洋文化の精神性の理解 [学芸員資格]																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>授業概要の説明とルネサンスについて解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>方法#1</td> <td>「認識」 系譜学と慣習について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>方法#2</td> <td>「実践」 系譜学と眼差しについて解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生成</td> <td>「歴史」 中世と聖史劇について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>祝祭</td> <td>「生活」 演し物と読み物について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>舞台</td> <td>「書割」 山と布について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>浮揚</td> <td>「装置」 雲と鉄について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>飛翔</td> <td>「素材」 翼と羽根について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>演技</td> <td>「扮装」 女性と男性について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>身体</td> <td>「姿勢」 浮力と重力について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>回転</td> <td>「天球」 天体とランプについて解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>燃焼</td> <td>「聖霊」 花火と恩寵について解説する。</td> <td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業概要の説明とルネサンスについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	2	方法#1	「認識」 系譜学と慣習について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	3	方法#2	「実践」 系譜学と眼差しについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	4	生成	「歴史」 中世と聖史劇について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	5	祝祭	「生活」 演し物と読み物について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	6	舞台	「書割」 山と布について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	7	浮揚	「装置」 雲と鉄について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	8	飛翔	「素材」 翼と羽根について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	9	演技	「扮装」 女性と男性について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	10	身体	「姿勢」 浮力と重力について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	11	回転	「天球」 天体とランプについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	12	燃焼	「聖霊」 花火と恩寵について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																				
1	はじめに	授業概要の説明とルネサンスについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
2	方法#1	「認識」 系譜学と慣習について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
3	方法#2	「実践」 系譜学と眼差しについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
4	生成	「歴史」 中世と聖史劇について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
5	祝祭	「生活」 演し物と読み物について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
6	舞台	「書割」 山と布について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
7	浮揚	「装置」 雲と鉄について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
8	飛翔	「素材」 翼と羽根について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
9	演技	「扮装」 女性と男性について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
10	身体	「姿勢」 浮力と重力について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
11	回転	「天球」 天体とランプについて解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																																																				
12	燃焼	「聖霊」 花火と恩寵について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。																																																				

				事後：自分の質問に自分で応答を試みる（90分）。 事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する（90分）。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する（120分）。
	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する（90分）。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する（120分）。
	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する（90分）。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する（120分）。
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への回答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。 事後：自分の眼差しを形成してきた経験を書き出し、現在のメディアミックスが作り出しつつある今後の眼差しについて、仮説をまとめてみる（240分?）。
実務経験				
関連科目	暮らしの中の文化／芸術論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社
	2	ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）	エミール・マール	岩波文庫
	3	ルネサンス絵画の社会史	マイケル・バクサンドール	平凡社
授業形態	Moodle／Zoom			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	芸能文化論（2020） benitoite			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	1. 毎回の質問 [80%] 2. 実習課題 [20%]			
学生への メッセージ	1. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「論理性」と「好奇心」である。 2. 居眠りは質問レベルを下げる要因となるため体調は整えてもらいたい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室			
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。			

科目名	英米文学	科目名 (英文)	English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3178a0		

授業概要・目的	多様な文学作品を通して、英米の文学・文化について理解を深めることを目標とする。また、文学作品を英語で読むことを通して、描かれている国や地域の文化について理解し、さまざまな英語表現に親しむことを目指す。
到達目標	古典・文学賞・翻訳の観点から、英語で書かれた代表的な文学作品への理解を深める。
授業方法と留意点	授業中に原文を読むことがある。必ず辞書を持参すること。 授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	教員の免許状取得のための選択科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業オリエンテーション・アメリカの「独立」	アメリカ独立革命時代における文学・手記を読み解き、植民地の地域的特長や、植民地で育まれたアメリカの古典的思想について理解する。	アメリカの「独立」に関する予習と復習 (2時間)
2	アメリカ古典文学 (1) —— ナサニエル・ホーソン	アメリカ古典文学を代表するホーソンの作品を読み解き、ニューイングランド地域の思想風土と、人間の心の明暗などのテーマについて理解する。 Nathaniel Hawthorne, The Blithedale Romance (1852)	ナサニエル・ホーソンの予習と復習 (2時間)	
3	アメリカ古典文学 (2) —— ハーマン・メルヴィル	アメリカ古典文学を代表するメルヴィルの作品を読み解き、体験手記の形式をとる作品の社会背景と、象徴表現や描写法などの文学表現について理解する。	ハーマン・メルヴィルの予習と復習 (2時間)	
4	アメリカ古典文学 (3) —— エドガー・アラン・ポー	アメリカ古典文学を代表するポーの作品を読み解き、詩や小説における著者の美的表現の追及と、フランス象徴派への影響などについて理解する。	エドガー・アラン・ポーの予習と復習 (2時間)	
5	アメリカ古典文学を読むイギリス人——D. H. ロレンス	アメリカ古典文学の海外における受容の問題について考えるため、イギリス人作家ロレンスのアメリカ文学や文明についての批評を読み解く。	D. H. ロレンスの予習と復習 (2時間)	
6	文学のジャンル：短編小説	ナサニエル・ホーソンの短編小説“Wakefield”(1835)を読み解き、その人物・舞台・プロット・テーマなどについて考える。	ナサニエル・ホーソンの予習と復習 (2時間)	
7	英米の文学賞 (1) —— ブッカー賞	世界で最も権威のある文学賞の一つであるイギリスのブッカー賞について学び、その傾向と受賞作品のいくつかを紹介する。	ブッカー賞と、その受賞作品の予習と復習 (2時間)	
8	英米の文学賞 (2) —— ビューリッツァー賞	米国で最も権威のある文学賞であるビューリッツァー賞について学び、その傾向と受賞作品のいくつかを紹介する。	ビューリッツァー賞と、その受賞作品の予習と復習 (2時間)	
9	英米の文学賞 (3) —— ノーベル賞	世界で最も権威のある文学賞の一つであるノーベル文学賞について学び、その傾向と受賞作品のいくつかを紹介する。	ノーベル文学賞と、その受賞作品の予習と復習 (2時間)	
10	カズオ・イシグロ	ブッカー賞とノーベル文学賞を受賞した作家イシグロの“ <i>Nocturne</i> ” in <i>Nocturnes: Five Stories of Music and Nightfall</i> (2009)を読み解き、その内容と文学表現を学ぶ。	カズオ・イシグロの予習と復習 (2時間)	
11	英米文学の翻訳 (1) —— 日本の英文学	明治以降の日本における英米文学研究の歴史をふりかえり、日本における英米文学の受容について理解を深める。	日本の英文学の予習と復習 (2時間)	
12	英米文学の翻訳 (2) —— 柴田元幸	現代アメリカ文学の翻訳者・研究者として著名な柴田元幸の作品を読み解き、日本における英米文学の受容における諸問題と可能性について考える。	柴田元幸の予習と復習 (2時間)	
13	英米文学の翻訳 (3) —— 村上春樹	アメリカ文学の影響を受け、翻訳も数多く手がけた村上春樹の作品を読み解き、日本における英米文学の受容における諸問題と可能性について考える。	村上春樹の予習と復習 (2時間)	
14	F・スコット・フィッツジェラルド	日本の文学およびアメリカ文学研究に多大な影響を与えたフィッツジェラルドの <i>The Great Gatsby</i> (1925)を読み解き、翻訳の問題やその作品の意義について考える。	F・スコット・フィッツジェラルドの予習と復習 (2時間)	
15	全体のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、その要点について総括する。	これまでの授業内容の復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディングIIなど
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
----	-----	-----	------

	1	プリントを配布する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリス文学史入門	川崎寿彦	研究社
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	wouawlg			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業での取り組み (30%)、レポート等の課題 (30%)、定期試験 (40%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	天野研究室 (7号館3階)			
備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を60時間程度とする。 レポート等に関するフィードバックは、レポートを受理した後に行う。			

科目名	神話論	科目名 (英文)	Mythology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3179a0		

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入口に、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。神話は古代のものという見方は誤りである。神話は文化・文明の精髓(エッセンス)である。その証拠に、小説・映画・アニメといった大衆文化から、生活習慣、さらには政治のなかにも、神話モチーフは存在している。神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から考察を深める。
到達目標	・神話というジャンルについて、複数のテーマから説明できる。 ・現代文化にどのようなかたちで神話が生きているかについて説明できる。 ・日本や世界の文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、その全体像を把握できる。
授業方法と留意点	講義が中心となる。 プレゼンテーションまたはレポートの提出が必須となる。
科目学習の効果(資格)	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1部「世界の神話と構造」世界の創成 人類の誕生1	われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
3	人間の誕生2 文明の誕生	人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
4	英雄神話	世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスをとりあげ、その内容と意義について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承をとりあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
7	第1部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーションの準備(2時間)
8	第1部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーションの準備(2時間)
9	第2部「日本の神話と思想」日本の創成 イザナギ・イザナミ アマテラス	日本開闢神話から、その背景となる思想を探究する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
10	ヤマタノオロチとスサノオ	神話と地域の伝承について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
11	浦島太郎と異界	浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
12	一寸法師と下剋上	一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
13	縁起 由来を語ること	ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる(2時間)
14	第2部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーションの準備(2時間)
15	第2部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーションの準備(2時間)

実務経験	
関連科目	文化科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	dw0tp2e
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	レポートまたはプレゼンテーション (計 2 回) 70%、授業参加度 (コメントペーパー等) 30%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館 4階 (橋本研究室)
備考	事前事後の学習時間は、上記にレポート作成を加えた 60 時間を目安とする。 コメントペーパーについては翌週、プレゼンテーションについてはその場でフィードバックする。

科目名	現代社会論	科目名 (英文)	Modern Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2180a0		

授業概要・目的	<p>昨今、私たちの日常において、「ブラック企業」や「婚活」、「インスタ映え」、「パワハラ」、「イクメン」、「コンパニオンアニマル」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本講義においては、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまなレンズを使って見直してみることを通じて、私たちの住むこの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義では特に、社会と人との関わり合いの観点に焦点を絞ることとする。</p>
到達目標	<p>本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となる。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、一方的な講義形式に終わらせることなく、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。 なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。 ※本年度の授業は遠隔授業で行う。毎回、課題を提示するので提出を怠らないこと。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「現代社会論」の目指すこと	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
	2	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
	3	人間関係の社会学	現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
	4	血液型性格判断からみえるもの	血液型性格判断を通じて、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	5	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
	6	人口減少社会の構造	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の構造について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。
	7	人口減少社会の問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	8	各国の人口問題(人口減少社会と人口過剰社会の仕組み)	各国の人口問題を把握するとともに、各国が取り組んでいる施策について検討する。	日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
	9	セックスとジェンダー	男と女をめぐる固定観念について考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	10	男と女の関係性	男と女を題材に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
	11	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	12	個人と集団	自殺や犯罪という行為を事例に取り上げ、個人主義と集団主義について考える。	「社会規範」の意味について考えてみましょう。
	13	家族の役割	現代社会における家族の意味と役割について考える。	自身の家族間での位置づけについて客観的に捉え直してみましょう。
	14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール(たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE等)の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
	15	まとめ	「人」「モノ」「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。	これまでに何を学んだのかをまとめてみましょう。

実務経験	
関連科目	時事問題 I・II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	毎回の課題および最終レポートで評価する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの進行にかかわらず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。 また、受講者数(50名以下の場合)によっては学生諸君にプレゼンテーションをしてもらいながら授業を進めることとしたい。 毎授業時にリアクションペーパーにコメントを記入してもらい、翌週の授業でフィードバックを行う。 本授業における事前・事後学習課題は、総時間60時間を目安とする。

科目名	国際社会学論	科目名 (英文)	International Sociology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2181a0		

授業概要・目的	国際社会学を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会学について理解を深めることを目的とする。
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会学に対する理解を深めることができる。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・学事日程の変更にもない、授業計画は一部変更の可能性がありますが（原則的には一回一章）。
科目学習の効果（資格）	現代社会学における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 「国家」について考えるための枠組み	はじめに 第1章 国家とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	国家についての各論考察(1)	第2章 国家と暴力	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	3	国家についての各論考察(2)	第3章 国家と官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	4	国家についての各論考察(3)	第4章 国家と戦争	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	5	国家についての各論考察(4)	第5章 国家と正当性	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	6	国家についての各論考察(5)	第6章 国家と社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	7	国家についての各論考察(6)	第7章 国家と統計(学)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	8	国家についての各論考察(7)	第8章 国家とナショナリズム	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	9	国家についての各論考察(8)	第9章 国家と資本主義経済	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	10	国家についての各論考察(9)	第10章 国家と民主主義	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	11	国家についての各論考察(10)	第11章 国家と社会福祉	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	12	国家とグローバル化(1)	第12章 国家のグローバル化	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	13	国家とグローバル化(2)	第13章 脱植民地化と「崩壊国家」	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	14	国家とグローバル化(3)	第14章 グローバル化のなかの国家	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	15	まとめと補遺	第15章 国家の現在、国家の将来 おわりに	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

実務経験																	
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国家の社会学</td> <td>佐藤成基</td> <td>青弓社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Moodle																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー	https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/course/view.php?id=354 mon03																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<p>■定期試験 100%</p> <p>【遠隔授業の実施にともなう変更点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価を実施します(100%)。 <p>(課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。)</p>																
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。																
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室																
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。																

科目名	哲学と倫理	科目名 (英文)	Philosophy and Ethics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3182a0		

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	知識について (1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について (2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について (3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題 (1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題 (2)	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題 (3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性 (1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されるのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性 (2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死 (1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死 (2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHP サイエンス・ワールド新書	
3	哲学ってどんなこと?	ネーゲル	昭和堂	

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業内でのレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)
学生への メッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
担当者の 研究室等	7号館4階 有馬研究室
備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に60時間必要。 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。

科目名	現代学術論	科目名 (英文)	Contemporary Scientific Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3183a0		

授業概要・目的	現代のさまざまな文化 (サブカルチャー) を取り上げて、それがメインカルチャーであるいわゆる「学術」(専門的な学問と芸術) に対してどのようなインパクトを与え、それがどのような仕方現代におけるメインカルチャー自体の変貌へとつながっているのかを明らかにする。
到達目標	サブカルチャーの意義と限界を見極めることで、文化に対する柔軟な批評精神を獲得するとともに、現代日本の文化の発展を俯瞰する歴史的な目を養う。
授業方法と留意点	教科書を用いないノートでの講義が中心となるが、適宜学生による発表の機会を設ける。
科目学習の効果 (資格)	資格試験のベースとなる、教養・語彙力・文章読解力・思考力の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	文化とは何か 文明と文化、文化と教養、文化と未開、高級文化と大衆文化 日本における西洋近代の受容における文明と文化	講義内容の再確認と疑問点の整理
2	サブカルチャーについて (1)	芸術と遊び (ホイジンガ、カイヨフ) 限界芸術論 (鶴見俊輔) 民俗学と民芸運動 (柳田國男、柳宗悦)	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
3	サブカルチャーについて (2)	大衆文化と労働者の文化 文化産業と消費文化 グローバル化とクリエイティブ産業 日本におけるサブカルチャーの勃興	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
4	映画について (1)	写真と映画の誕生と発展 複製文化の時代 (ベンヤミン)	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
5	映画について (2)	産業としての映画 ハリウッド映画の支配 日本映画の黄金期と凋落	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
6	マンガ・アニメについて (1)	漫画の歴史 日本のマンガの誕生と発展	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
7	マンガ・アニメについて (2)	日本のマンガの現在 マンガの「表現」とマンガの「見方」	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
8	マンガ・アニメについて (3)	ディズニーとアニメ 日本のアニメーションの誕生と発展	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
9	メディアとサブカルチャー (1)	テレビと広告 芸能界とテレビ	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
10	メディアとサブカルチャー (2)	ネットワーク社会と政治 テレビ・新聞とインターネット ポスト・トゥルースとフェイクニュース	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
11	カワイイ革命とオタクの台頭	伝統文化としての「かわいらしさ」 キャラクターイメージの氾濫 「おたく」から「オタク」へ 二次元文化とオタクイメージの氾濫	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
12	オカルトとスピリチュアル	錬金術とオカルト 疑似科学の蔓延 カルト宗教の問題	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
13	巡礼と観光	江戸時代の巡礼 疑似イベントとしての観光 観光産業と世界遺産	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
14	パフォーマンスとしての文化・スポーツ	カラオケ ストリート・ファッションとストリート・ダンス 「する」スポーツ	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
15	授業のまとめ		ノートの総整理と講義内容の要点整理

実務経験	
関連科目	文化科目全般。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カルチュラル・スタディーズ入門	上野俊哉、毛利嘉孝	ちくま新書
2	現代文化論	吉見俊哉	有斐閣アルマ	
3	限界芸術論	鶴見俊輔	ちくま学芸文庫	

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	
および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業内小レポート、発表 (35%)、レポート課題 (65%) 受講者の人数によっては、発表を中間テストに換える場合がある。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (有馬研究室)
備考	事前・事後学習は、総時間60時間を目安とする。 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。

科目名	現代中国論	科目名 (英文)	Contemporary China
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3184a0		

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向的な授業となりがちなので、毎回授業後半には授業の振り返りとしてレポートを課すので、質問などがある際はレポートに付け加える形で書いてほしい。
科目学習の効果 (資格)	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ユニットⅠ 現代中国の概況	国土、自然、地域区分、人口	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差
2	ユニットⅠ 現代中国の概況	民族、宗教、行政	学習課題：多民族、与野党、地方自治
3	ユニットⅠ 現代中国の概況	インバウンドにみる日本と中国の関係	学習課題：インバウンドが日本にもたらすものを考察してみる。
4	ユニットⅠ 現代中国の概況	中国経済の今	学習課題：世界経済における中国の立ち位置を考察してくる。
5	復習	☆ 単元テスト 第1回	学習課題：現代中国についての基本知識を復習しておく。
6	ユニットⅡ 中国近現代史(1)	清末から中華民国へ	学習課題：清末から中華民国への移行過程を復習する。
7	ユニットⅡ 中国近現代史(2)	中華民国期の国民党と共産党との関係	学習課題：国民党と共産党の対立。
8	ユニットⅡ 中国近現代史(3)	日中戦争	学習課題：日中戦争の起きた時代背景を知る。
9	ユニットⅡ 中国近現代史(4)	国共内戦と中華人民共和国建国	学習課題：中華人民共和国の成立過程を考察する。
10	復習 清末から中華人民共和国まで	☆ 単元テスト 第2回	学習課題：中華人民共和国ができる過程を復習する。
11	ユニットⅡ 中国近現代史(5)	中華人民共和国建国から朝鮮戦争、1950年代の中国	学習課題：建国以降の中国の歩みを知る。
12	ユニットⅡ 中国近現代史(6)	文化大革命	学習課題：文化大革命の過程を整理する。
13	ユニットⅡ 中国近現代史(7)	文化大革命の終結と改革開放路線	学習課題：文化大革命以降の中国の歩みを知る。
14	ユニットⅣ 中国近現代史(8)	2000年代の中国	学習課題：2000年代に中国では何が起こって来たかを考察する。
15	復習 中華人民共和国建国以降現在まで	☆ 単元テスト 第3回	学習課題：中国近現代の歩みを自分の言葉で話せるようにしておく。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	eu26d13
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、レポート(授業最後の時間を利用)、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。 評価基準 チェックテスト60% レポート、課題 平常評価 40%
学生への メッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時レポート、チェックテストを課し、知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各60分の学修を要する。レポートは提出前に自分用にも記録をとることを勧める。 チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
担当者の	7号館2階非常勤講師控室

研究室等	
備考	授業外で連絡が必要な場合は水曜昼休みに講師控室までお越しください。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	ミュージアムへの招待	科目名 (英文)	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1185a0		

授業概要・目的	<p>【そもそも博物館とはなにか】</p> <p>博物館には、美術館・歴史博物館・文学館・記念館・民俗資料館・動物園・水族館などの施設が含まれる。全国では5700館もの博物館がある。この授業ではさまざまな博物館について、その機能や役割を学ぶ。今日の博物館はその姿を大きく変えており、カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、様々な参加型プログラムなど、エンターテインメントを志向する施設へと変化しつつある。ミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・お菓子など、さまざまなコンテンツとコラボする企画も多数生まれている。博物館はどこから来て、どこへ向かうのか、博物館とはそもそもなにかを、各自が考える時間となる。</p>		
到達目標	<p>以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館はどこから来たのか。 2. 博物館はどこへ向かうのか。 3. 博物館とはなにか。 		
授業方法と留意点	<p>【MoodleとZoomによるリアルタイムオンライン講義】</p> <p>[Moodle]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクセスキーで「ミュージアムへの招待(2020)」に登録する。 2. 当該コースで、授業日程、ZoomミーティングURL、各回の配付資料を確認する。 3. 授業当日までに配付資料をプリントアウトし、目を通しておく。 <p>[Zoom]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 使用するPCもしくはスマートフォンにZoomアプリをインストールしておく。 2. 授業3分前までにMoodleで確認したURLをクリックしてZoomをスタンバイする。 		
科目学習の効果(資格)	学芸員資格(必修科目)		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	はじめに	授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。
	2	日本の博物館#1	歴史博物館について解説する。 京都国立博物館 大阪くらしの今昔館ほか
	3	日本の博物館#2	動物園・水族館について解説する。 大阪市立天王寺動物園 海遊館ほか
	4	日本の博物館#3	私立・公立美術館について解説する。 大原美術館 豊田市美術館ほか
	5	日本の博物館#4	国立美術館について解説する。 国立国際美術館 国立西洋美術館ほか
	6	日本の博物館#5	話題の美術館について解説する。 国立新美術館 森美術館ほか
	7	博物館法#1	博物館法について解説する。 博物館の定義 資料の定義 博物館の機能・分類
	8	博物館法#2	その他法律について解説する。 博物館法施行規則 公立博物館に関する法律
	9	博物館の機能#1	博物館の機能について解説する。 保存 展示 常設展・企画展
	10	博物館の機能#2	博物館の機能について解説する。 研究
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載情報を検索して確認する(60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。
			事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる(90分)。

			教育 ワークショップ・講演会	索して確認する (90 分)。 事後：クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。
	11	博物館の歴史#1	ミュージアムの歴史について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後：クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。
	12	博物館の歴史#2	日本の博物館の歴史について解説する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後：クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。
	13	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後：現地での経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。
	14	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後：現地での経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後：博物館の役割と見学の経験を照らし合わせて自分にとっての博物館の意味を考えつつ、別の博物館を見学しに行ってみる (240 分?)。
実務経験				
関連科目	「他の学芸員課程の科目」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Zoom			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	ミュージアムへの招待 (2020) antarcticite			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	1. 各回的小クイズ (論述) [80%] 2. 実習課題 (論述) [20%]			
学生への メッセージ	1. 資格取得の要件であるため、出席はとくに大切にする。 2. 小クイズの評価基準は「知識量」ではなく「論理性」と「好奇心」である。 3. 居眠りは応答レベルを下げる要因となるため体調は整えてもらいたい。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室			
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。			

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名 (英文)	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2186a0		

授業概要・目的	<p>【博物館資料の価値とはにか】</p> <p>博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」を学ぶ。博物館にはなくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、さらに絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえて、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、個々の資料が持つかけがえのない価値とはにかを考える。その考察をとおり、個々人が抱く作品への興味や関心を大きく育み、博物館資料を仕事として取り扱う際の基本的知識を裏打ちする。</p> <p>以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館資料が有するふたつの資料価値 2. 博物館資料の構造的な特性と資料価値の関係 3. 上述のふたつの資料価値が衝突する際の対応策 		
授業方法と留意点	<p>【Moodle と Zoom によるリアルタイムオンライン講義】</p> <p>[Teams]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「058—ミュージアムコレクション論—杉山 博昭」に記載のアクセスキーをコピーする。 <p>[Moodle]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記アクセスキーで「ミュージアムコレクション論 (2020)」に登録する。 2. Moodle のコースには授業日程、Zoom ミーティング URL、各回の配付資料がアップされる。 3. 授業当日までに配付資料をプリントアウトし、目を通しておく。 <p>[Zoom]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 使用する PC もしくはスマートフォン 		
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、レジメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画、テンペラ画などの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	3	絵画資料#2	絵画資料のうち、油彩画、水彩画などの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	4	絵画資料#3	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	5	絵画資料実習	[ゲストレクチャー] 古典技法をもちいた絵画制作を体験することで、資料の構造と特性を実地に確認する。 実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	6	絵画資料実習	[ゲストレクチャー] 古典技法をもちいた絵画制作を体験することで、資料の構造と特性を実地に確認する。 実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	12	博物館見学	[校外実習] 実際の展示を見学し、資料見学は3コマ分に相当する。

			価値がどのように展開されているのかを確認する。	事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120分）。
	13	博物館見学	[校外実習] 実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120分）。
	14	博物館見学	[校外実習] 実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120分）。
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。 事後：博物館資料の価値が衝突する事例を複数考える。その事例に該当する作品を探し、鑑賞しに行く（240分?）。
実務経験				
関連科目	「他の学芸員課程の科目」／芸術論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	1. 毎回の質問 [80%] 2. ワークシート [20%]			
学生への メッセージ	1. 資格取得の要件であるため、出席はとくに大切にする。 2. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「論理性」と「好奇心」である。 3. 居眠りは質問レベルを下げる要因となるため体調は整えてもらいたい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室			
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。			

科目名	博物館資料保存論	科目名 (英文)	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2187a0		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の1つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	講義資料を配信する。その都度、内容を理解したか到達度をチェックする小テスト、もしくは課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	考古資料の保存 (1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する
3	考古資料の保存 (2)	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍やwebで調べる
4	考古資料の保存 (3)	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館のHPから調査する
6	石造物の保存 (1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。
7	石造物の保存 (2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
8	歴史資料の保存 (1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる
9	歴史資料の保存 (2)	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する
10	歴史資料の保存 (3)	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。
11	燻蒸とIPM	虫損から資料を守る燻蒸とIPM(総合的有害生物管理)という2つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する
12	資料保存の現実	博物館見学	3コマ分です。 日程は講義中に決めます。
13	資料保存の現実	博物館見学	3コマ分です。 日程は講義中に決めます。
14	資料保存の現実	博物館見学	3コマ分です。 日程は講義中に決めます。
15	まとめ	授業のまとめと筆記試験を行います(持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。

実務経験	
関連科目	他の学芸員課程の講義。日本史学、日本美術史、日本文化史。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各回的小テスト・課題 (50%)、期末レポート (50%)
学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。 課外学習の日程は天候などの用件によって変更する場合があります。 授業中に課した課題は成績をつけた上で講評して受講者に戻す。

科目名	ディスプレイ論	科目名 (英文)	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細田 慈人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2188a0		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。また、展示の企画立案を最終目標とするので、博物館及び展覧会を見学する。その際、集合時間などに留意すること。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。
2		博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前: 博物館施設の役割について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、博物館施設の役割についてまとめておくこと (2時間)。
3		学芸員の役割	学芸員の役割について理解する。	事前: 学芸員の役割について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、学芸員の役割についてまとめておくこと (2時間)。
4		展示の意義	展示の意義について理解する。	事前: 展示の意義について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと (2時間)。
5		展示の形態と手法	展示における形態と手法について理解する。	事前: 博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと (2時間)。
6		展示資料の取り扱い	展示資料の取り扱いについて理解する。	事前: 博物館施設における展示資料の取り扱いについて調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示資料の取り扱いについてまとめておくこと (2時間)。
7		展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前: 博物館施設における展示のための設備と補助具について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと (2時間)。
8		前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前: 博物館施設における展示の全体について確認しておくこと (5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと (3時間)。
9		実地見学	博物館を訪問し、展示の実例を把握するとともに器具・施設の実例の使用例を理解する。	事前: 博物館施設における企画展について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、企画展の計画についてまとめておくこと (2時間)。
10		実地見学	博物館を訪問し、展示の実例を把握するとともに器具・施設の実例の使用例を理解する。	事前: 博物館施設における企画展について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、企画展の計画についてまとめておくこと (2時間)。
11		展示企画	実際に展示を企画・立案し、展示資料の陳列、また陳列に必要な器具の策定を実際に作業し、理解する。	事前: 事前に自身の展示案について考えておく。(1.5時間)。 事後: 企画した展示案に必要な器具や展示資料についての理解を深めておく (2時間)。
12		調書等の作成	資料借用の際に使用する調書等の作成について理解する。	事前: 調書作成時における獣医事項を想起しておくこと (1.5時間)。 事後: 展示企画時と調書作成時の違いについて反芻しておくこと (1.5時間)。
13		借用・返却と梱包	展示資料の借用と返却の実務、また借用・返却に必要な不可欠な梱包について理解する。	事前: 企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示物の借用と返却の実務についてまとめておくこと (2時間)。
14		展示作業	展示設営もしくは展示案の発表	事前: 展示作業もしくはパネルの作成についての手順を確認しておくこと (1.5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の基準についてまとめておくこと (2時間)。
15		展示の評価と後半のまとめ	展示もしくは展示案の評価と後半の授業内容について理解度を確認する。	事前: 企画展の全体について確認しておくこと (5時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと (3時間)。

実務経験																	
関連科目	学芸員資格に必要な各科目。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>展示論—博物館の展示をつくる—</td> <td>日本展示学会</td> <td>雄山閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>博物館展示論</td> <td>黒沢浩</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>博物館展示・教育論 (博物館シリーズ3)</td> <td>小原巖</td> <td>樹村房</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	展示論—博物館の展示をつくる—	日本展示学会	雄山閣	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社	3	博物館展示・教育論 (博物館シリーズ3)	小原巖	樹村房
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	展示論—博物館の展示をつくる—	日本展示学会	雄山閣													
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社													
3	博物館展示・教育論 (博物館シリーズ3)	小原巖	樹村房														
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Web Folder																
Teams コード	wmpbf4d																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	個人メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	質疑応答等に関する積極的な受講態度 (10%)、展示演習における展示制作物 (10%)、課題に対するレポートの提出2回 (70%=35%×2回) によって評価する。 博物館実務を学ぶための演習が中心となる授業であるため、4回以上欠席した場合、不合格または評価不能とする。																
学生への メッセージ	第1回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。 8回目の授業で作成する課題レポートについては9回目の授業において、11回目・12回目の授業で作成する企画書・調書等についてはそれぞれの授業において、また、14回目の授業で実施する展示作業案の発表については、15回目の授業において、内容の講評をおこない、成績加点の判断材料とする。																

科目名	生涯学習論	科目名 (英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 孝成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2189a0		

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教員の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけることができます。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持ち、常に疑問を持つことを意識づけられます。
授業方法と留意点	事前に授業内容のプリントをアップロードしておきますので、授業当日にオンラインによる解説を行います。プリントが手元にないと理解できませんので、必ず前日までに入手しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会教育と生涯学習の歴史①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に関連する歴史の見直しを。(4時間)
3	社会教育と生涯学習の歴史②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	事前に前回の授業の見直し(1時間)、事後に近代日本歴史の復習。(3時間)
4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	事前に身の周りの「生涯学習」を考え(2時間)、事後、近隣自治体などで実状を見ること。(2時間)
5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	事前に近隣自治体の生涯学習を確認し(2時間)、事後、授業内容を踏まえて新聞やネットで行政の対応の確認。(2時間)
6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	事前に家族の生涯学習を顧みて(1時間)、事後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を改めて考える。(3時間)
7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	事前に周辺の社会教育施設を確認し(2時間)、事後、その運営や実態をみる。(2時間)
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	事前学習は必要ありませんが、直後に適塾の見学を予定していますので、事後の復習を。(4時間)
9	学外見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	事前に前回の授業の復習を(1時間)、事後に見学先の建物と先人について考えること。(3時間)
10	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	事前にこれまで訪れた博物館のことを思い出し(1時間)、事後に近隣の博物館の見学。(3時間)
11	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	事前に新聞の文化財報道などを読んでおき(2時間)、事後には周辺の自治体主催事業について再確認。(2時間)
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	事前に自身の歴史を振り返り(2時間)、事後、周囲の歴史についてももう一度考え直す。(2時間)
13	それぞれの「生涯学習」	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	事前に自身の趣味についてももう一度考え(1時間)、事後、各自の趣味に沿った活動を行う。(3時間)
14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	事前に各自がネットで行うSNSについて振り返り(1時間)、事後、社会にある意見について見直す。(3時間)
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習し(2時間)、事後は試験に向けて課題を行う。(2時間)

実務経験	
関連科目	教育系科目群

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房	
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂	

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	レポートにより評価します。レポートの内容については授業中に度々、通知し、レポートの記述テーマなどは授業中及び授業の最終日にお伝えする予定です。
学生への メッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間です。これには授業中に推奨する各自の映画鑑賞や音楽鑑賞、読書、課題の新書書評の時間も含まれます。質問などは原則授業時間前後です。非常勤講師室か教室で受け付けます。

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名 (英文)	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2190a0		

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント(博物館経営)が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	講義資料を配布し、その都度課題を与える。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	行財政制度と博物館	博物館に係る法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI法、指定管理者制度について、本やWEBで調べておく。
4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本やWEBで博物館のサービスの具体例を調べる。
13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEBやリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEBで、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などのHPを見る。
15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。	配布資料や参考書で復習する。

実務経験	
関連科目	ほかの学芸員科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義ごとに課す課題 (60%)、期末レポート (40%)
学生への メッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館を訪れることを望みます。
担当者の 研究室等	7号館4階 (赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。 レポートについては講義中にフィードバックする。

科目名	博物館情報・メディア論	科目名 (英文)	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2191a0		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり 1	写真と西洋絵画における写真表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり 2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現 1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現 2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史と表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える 博物館における映像の役割を考える	写真について復習する

実務経験	
関連科目	博物館科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	n9i1dxk
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業参加度40%、期末レポート60%で評価する
学生への メッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。 事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。 質問や提出物に対して口頭または文書でフィードバックを行う。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室) 水曜12時～15時
備考	

科目名	博物館教育論	科目名 (英文)	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永 和浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2192a0		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介し(受講生による体験レポートによる紹介もあり)。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講生は見学・参加・情報収集に努めてください。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格認定のための必修科目となります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について事例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について事例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
5	博物館と社会教育	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか事例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
6	社会教育の実例報告	受講生が参加した社会教育プログラムの内容について紹介します。	博物館で開催される社会教育プログラムに参加して、その内容をレポートにまとめておいてください。
7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について事例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と事例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会のつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

実務経験	
関連科目	学芸員資格に必要な各科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	8uvd47z
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	プレゼン・質疑 80%、提出物 20%
学生への メッセージ	各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	外部施設見学は大阪市内で、12月中の土日いずれか1日、180分間(2コマ分)の予定で行います。 事前事後学習の総時間の目安は約60時間。 授業中に課す課題については、受講生も含めた質疑応答を行う。

科目名	博物館実習	科目名 (英文)	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤澤 春彦, 杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3193a0		

授業概要・目的	博物館は展示物（歴史・美術・文学ほか）、設置母体（公立・民間）、目的（教育が主・研究が主・保存が主など）により、さまざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を実地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の2種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の2種に分かれる。(下記15回)また(2)の館内実習は、おおむね夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前：出身地にある博物館を見ておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
2	拓本 1	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前：拓本について調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
3	拓本 2	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前：拓本の道具を作っておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
4	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学する館について調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
5	美術品の扱い方 1	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
6	美術品の扱い方 2	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：絵巻物などの扱い方を調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
7	美術館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく (90分) 事後：レポートをまとめる (90分)
8	美術品の調査・整理	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前：美術品の計測について調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
9	歴史資料の調査・整理	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前：歴史資料について調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
10	写真撮影の方法	美術写真・建築写真・記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前：建築写真について調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
11	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく (90分) 事後：レポートをまとめる (90分)
12	博物館の教育・普及活動	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前：博物館のお活動についてWEBで調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
13	展覧会の企画 1	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：展覧会のテーマについて調べておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
14	展覧会の企画 2	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：指摘された点を改善して企画書を作っておく (90分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90分)
15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前：レジメを作り発表の練習をしておく (90分) 事後：指摘された点を改善してレポートを作る (90分)

実務経験	
関連科目	学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Zoom *一部対面
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	レポート・発表 30% 実習博物館による評価 50% 受講への参加態度 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	各地の博物館に赴いて行なう実習は5～14日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	赤澤・・・7号館4階（赤澤研究室） 杉山・・・7号館5階（杉山研究室）
備考	実習で課した課題は、その場もしくは次回の実習で講評する。 博物館実習ノートをもとに成果発表会を行う。

科目名	日本語教授法 I	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1194a0		

授業概要・目的	「日本語教授法 I・II・III」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。			
到達目標	教科書の前半内容に関する知識を習得する。			
授業方法と留意点	授業は、講義の他にディスカッション、動画視聴、課題、発表も含まれる。			
科目学習の効果 (資格)	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法 II・III」の先行科目。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第1章第1節 熟読
	2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第1章第2節 熟読
	3	日本語教育の歴史	時代区別の日本語教育史	教科書第2章第1節 熟読
	4	外国語教授法 (1)	外国語教授法の理論と実践	動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
	5	外国語教授法 (2)	外国語教授法の理論と実践	動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
	6	外国語教授法 (3)	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第2章第2節
	7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題
	8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題
	9	教材・教具 (1)	日本語教育の教科書	課題 (初級日本語教材の分析)
	10	教材・教具 (2)	日本語教育の教材・教具	課題 (教材分析)、教科書第3章第1節 熟読
	11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第3章第2節 熟読
	12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第3章第3節 熟読
	13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第3章第4節 熟読
	14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題
	15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック
実務経験				
関連科目	日本語教授法 II・III、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程 (副専攻相当)」配当の選択科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	確認テスト (30%)、課題及びレポート (60%)、授業への貢献度 (10%) により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。 海外及び国内の日本語教育機関において、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かし、理論と実践について具体的に解説します。			
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)			
備考	事前・事後学習は毎回1.5時間。 授業の最後にテストについてフィードバックする。			

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新谷 知佳
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2195a0		

授業概要・目的	初級レベルの文法項目を通覧し、多くの例文を文法的に分析することを目的とする。また、第二言語習得についても概観する。基礎知識を増やしつつ、主体的に思考・分析できるような講義・活動を行う。
到達目標	文法と第二言語習得に関する知識、分析方法を習得する。
授業方法と留意点	授業は講義、グループディスカッションおよび発表を中心に進める。 事前に課すワークシートがある場合は必ず取り組んでから授業に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 文型について	授業の進め方を説明する。日本語教育への関心について話す。 日本語の文型について知る。	《予習》シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。
2	動詞	日本語教育における動詞の分類、活用について知る。	《予習》[ワークシート1]学校文法との違いを確認し、「て形」、「た形」といった動詞の活用について確認する。	
3	形容詞・名詞	日本語教育における形容詞や名詞について知る。	《予習》[ワークシート2]学校文法との違いや「い形容詞」「な形容詞」の活用などについて確認する。	
4	指示文	「こ・そ・あ」の使い分けや現場指示、文脈指示について知る。	《予習》[ワークシート3]「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などの使い分けについて確認する。	
5	第二言語習得①	誤用分析、中間言語分析、母語の影響について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。	
6	第二言語習得②	習得順序、インプット仮説、アウトプット仮説について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。	
7	第二言語習得③	習得における個人差要因(年齢、動機付け、学習者ストラテジー)について知る。 効果的な外国語学習について考える。	《予習》資料を読んでおく。自身の外国語学習を振り返り、効果的な外国語学習を考えておく。 《復習》配布プリントを確認する。	
8	格助詞	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート4] 「で」や「に」の使い分けについて確認する。	
9	存在文	「います」「あります」の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート5]「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを確認する。	
10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る。	《予習》[ワークシート6]「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて確認する。	
11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。	《予習》[ワークシート7]自動詞、他動詞にどのようなものがあるか調べてみる。	
12	受身文	日本語の受身文の分類について知る。	《予習》[ワークシート8]「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか確認する。	
13	敬語	日本語の敬語の体系について知る。	《予習》[ワークシート9]尊敬語・謙譲語・丁寧語について確認する。	
14	発表①	グループで課題に取り組み発表する	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。	
15	発表②	グループで課題に取り組み発表する	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。	

実務経験	
関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅲ、日本語学、日本語教育実習等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Zoom
Teamsコード	gjia4wk
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	Teamsチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	ワークシート30%、発表30%、期末レポート40%により総合的に評価する
学生への メッセージ	普段、何気なく使っている日本語について分析的に考えてみましょう。学習者にとって何が難しいのかということも考えながら、新たな視点で捉えることで、多くの発見があるはずです。
担当者の 研究室等	遠隔実施
備考	(1)教科書は授業中にプリントを配布する。参考文献も適宜紹介する。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">(2) 質問・相談は Teams のチャットにて対応する。(3) 発表ごとに、学生同士または教師からのフィードバックを行う。(4) 事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 |
|--|--|

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮崎 玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2196a0		

授業概要・目的

本授業は、以下の2点の受講生の日本語教育上の課題について、自ら具体的な対策を考案できるようになることを目的としています。

1つ目は、日本語学習において必要とされる4つの技能(読む、聞く、話す、書く)それぞれについて、どのような学習が効果的かということについて適切に説明できないという課題です。

2点目は、日本語学習者が実際に体験するであろう様々な状況についての対応が不的確だったり、不正確だったりするという課題です。

このような課題を解決するためには、日本語教育に関する知識が必要不可欠です。この授業では、基礎的な知識を確保しながら、それを活用できるようにする方法について考えることを目的としています。

到達目標

本授業の目標は以下のようにまとめることができます。

1: 日本語学習における各技能に関する学習がどのように起こるかを学術用語を用いながら説明できる。
 2: 日本語学習における各技能に関する学習について、与えられた学習者の状況に対する具体的な対処を提案できる。
 3: 日本語の学習者が遭遇するであろう異文化的、情意的問題について適切に分析し、対処を提案できる。

授業方法と留意点

授業は、講義の他にディスカッション、課題、動画視聴などを含みます。
 授業前に必ず指定された箇所の教科書の内容を読んでくること。
 また、授業後には課題をこなして授業で学んだことを確認してください。

科目学習の効果(資格)

「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	【事前課題】第3章第4節を読む。
2	日本語の音声	日本語の音声の特徴について知り、効果的な指導方法を考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第1節を読む。
3	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	「読む」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。
4	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	読解の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第2節を読む。
5	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	「聞く」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。
6	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	聴解の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第3節を読む。
7	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	「話す」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。
8	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	会話やスピーキングの指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第4節を読む。
9	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	「書く」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。
10	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	作文の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第5節を読む。
11	日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践	日本事情の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第1節を読む。
12	学習者の異文化体験	異文化体験について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第2節を読む。
13	留学生が経験する現実の接触場面	日本語学習者が体験する接触場面について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第3節を読む。
14	日本語学習者の情意要因	日本語学習者の情意要因について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度の確認	総復習

実務経験

関連科目

日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams「オンライン型」

Teamsコード

lzmtcbs

Moodleコース名および登録キー

連絡手段

個人メール

メールアドレス

メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準)	確認テスト (30%)、課題およびレポート (60%)、授業への貢献度 (10%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、日本語学習者への具体的指導にまで踏み込んだ形で活動を行います。 ・授業中は素朴でもかまわないので質問、疑問等を大歓迎します。教授経験を踏まえてお答えできる箇所はお答えしますし、そうでない箇所は一緒に考えていきましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・前期「日本語教授法 I」との関係、授業進度、もしくは受講生の学習状況により、各時限の目標を変更したり、予定を早めたり遅らせたり省略したりする可能性があります。変更の際は別途授業内でお知らせします。 ・事前、事後学習に毎回1時間程度必要です。

科目名	異文化ビジネス論	科目名 (英文)	Cross-Cultural Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2198a0		

授業概要・目的	本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。(※英語プロフェッショナルコースの学生も履修できます) 国や地域の文化(宗教)・社会的背景とビジネスの関係に注目し、具体例とともに考察しながら理解を深めることが主な授業目的です。大切なことは、高校時代に学んだ「地理」や「世界史」の知識が基礎になっていることです。よって、それらをしっかりと復習しながら学んでほしいと思っています。
到達目標	文化(宗教)、社会、地理・歴史などの要因がビジネスに及ぼす影響について、ローカルとグローバルの両視点を交えて考察し、理解することを目指します。
授業方法と留意点	※今学期のこの授業は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態で、すべて「WebFolder」を利用して行います。
科目学習の効果(資格)	文化演習(3ゼミ)の研究などに活かすことができるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方などを確認する。 映像・資料からビジネスの現場を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書をざっと一読し、大まかな内容を確認する(2時間)。 今回の授業で扱った内容について、新聞記事や文献等で詳しく調べてみる(2時間)。
2	ユダヤ教の歴史からみた現代ビジネスと食文化	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、ユダヤ教(の歴史)の影響が残る現代ビジネスと食文化について、具体例とともに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 予習として、教科書の索引で「ユダヤ教」の関連ページを調べ、読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で扱った内容について、新聞記事や文献等で詳しく調べてみる(3時間)。 	
3	イスラム教の歴史からみた現代ビジネスと食文化	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、ユダヤ教(の歴史)の影響が残る現代ビジネスと食文化について、具体例とともに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 予習として、教科書の索引で「イスラム教」の関連ページを調べ、読んでおくこと(1時間)。 今回の授業で扱った内容について、新聞記事や文献等で詳しく調べてみる(3時間)。 	
4	プレゼンテーションの内容・実施方法について	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションのグループメンバーを決定する。 プレゼンテーションの内容と実施方法について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 決定したグループメンバーと、今後の活動計画について話し合う(2時間)。 前回までの授業内容を振り返り、要点を整理してみる(2時間)。 	
5	インド(ヒンドゥー教)の歴史からみた現代ビジネスと食文化	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、インド(ヒンドゥー教)の歴史的な影響が残る現代ビジネスと食文化について、具体例とともに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の索引で「インド」と「ヒンドゥー教」の関連ページを調べ、読むとともに、文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
6	アメリカの社会・文化とビジネスの現状	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、アメリカの社会・文化とビジネスの現状について、具体例とともに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の索引で「アメリカ」の関連ページを調べ、読むとともに、文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
7	これまでの授業内容の振り返りと今後の予告	これまでの授業内容の振り返りと今後の予告	<ul style="list-style-type: none"> これまでの授業で扱った内容を振り返り、要点を整理し、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
8	中国や東南アジアの社会・文化とビジネスの現状	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、中国や東南アジアの社会・文化とビジネスの現状について、具体例とともに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の索引で「中国」および「東南アジアの国名」の関連ページを調べ、読むとともに、文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
9	ヨーロッパ(EU)および英国の社会・文化とビジネスの現状	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、ヨーロッパ(EU)および英国の社会・文化とビジネスの現状について、具体例とともに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の索引で「イギリス」および「EU加盟国名」の関連ページを調べ、読むとともに、文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの資料の講評 プレゼンテーションのスキルについて 	<ul style="list-style-type: none"> 提出した全グループのプレゼンテーションの資料について講評し、プレゼンを行うグループと日程を決定する。 プレゼンテーションのスキルについて実例とともに学ぶ。 	グループごとにプレゼンテーションの準備を進め、完成させる(4時間)。	
11	グループによるプレゼンテーション(1)	2つの担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
12	グループによるプレゼンテーション(2)	2つの担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。 	
13	グループによるプレゼンテーション(3)	2つの担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 グループごとにプレゼンテーションの準備を進め 	

				ていく（2時間）。 ・今回の授業（プレゼンテーション）で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく（2時間）。																
	14	グループによるプレゼンテーション（4）	2つの担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。																	
	15	総括（まとめ）	・これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・プレゼンテーションの内容やスキルについて振り返り、講評する。	・これまでの授業やプレゼンテーションで扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。 ・自分たちのプレゼンテーションについてフィードバック用紙に基づいて振り返り、改善すべき点などを明らかにし、今後活かせるようにする（2時間）。																
実務経験																				
関連科目	他の国際ビジネスプログラム科目など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2020</td> <td>帝国書院編集部</td> <td>帝国書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2020	帝国書院編集部	帝国書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2020	帝国書院編集部	帝国書院																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 （基準）	※今学期は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態のため、提出物（レポート）（100%）に基づいて評価します。																			
学生への メッセージ	将来、国際ビジネスの分野で活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。																			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室																			
備考	毎回の授業のための教科書の読解、グループ・ディスカッションの下調べ、プレゼンテーションの準備などに要する事前・事後学習総時間は、60時間程度を目安とします。グループ・ディスカッションやプレゼンテーションに関するフィードバックはその都度（授業内）で行うとともに、翌週に評価（フィードバック）票を渡します。																			

科目名	ビジネス心理学	科目名 (英文)	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2199a0		

授業概要・目的	<p>ビジネスやマーケティングに関連する心理について解説していきます。 この科目は「国際ビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会におけるビジネスにおける心理と行動を解説していく。 ビジネスにおける消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。 SDGs-8, 9, 12</p>
到達目標	<p>マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。ビジネスに役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。 マーケティングの中の購買行動や消費者心理についての知識を得ることができる。 ビジネスに役立つ実践能力を身に付けることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>ビジネスにおける消費者の心理と行動を理解することができる。ビジネスに役立つ心理的手法を学ぶことができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス心理と心理学	消費行動とは何か？購買行動と消費行動	事前学習課題：ビジネスと心理について考えてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：消費行動と生産行動の具体例についてまとめておくこと(2時間)
3	ビジネス心理におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	事前学習課題：自分が好きなブランドとその理由についてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：ブランド戦略について具体例を挙げてまとめておくこと(2時間)
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	事前学習課題：自分が生活の中で何にお金をかけているかをまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：ライフスタイルと消費行動との関係についてまとめておくこと(2時間)
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	事前学習課題：自分の消費行動において、何が重要視されているかをまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：非計画購買の種類とその内容についてまとめておくこと(2時間)
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	事前学習課題：最近、自分が買った高いものについて具体例をあげ、その購買理由についても書いておくこと(1時間) 事後学習課題：心的モノサシとは何か？自分の例も含めてまとめておくこと(2時間)
7	消費者間相互作用と購買意思決定	クチコミによるマーケティング戦略	事前学習課題：自分の周りで起こっているクチコミについてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：クチコミの効果とその影響過程についてまとめておくこと(2時間)
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	事前学習課題：インターネットの発展について、1990年代から調べておくこと(1時間) 事後学習課題：ネットによるビジネスの変化についてまとめておくこと(2時間)
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	事前学習課題：自分が好きな広告とその理由についてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：比較広告の具体例を見つけ、分析すること(2時間)
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	事前学習課題：日本のテレビCMの歴史について調べること(1時間) 事後学習課題：広告の中のタレントの特徴についてまとめておくこと(2時間)
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	事前学習課題：テレビ広告における企業CMについて調べておくこと(1時間) 事後学習課題：人気のあるテレビ広告について調べ、その特徴をまとめておくこと(2時間)
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	事前学習課題：近年、流行っている悪質商法について調べておくこと(1時間) 事後学習課題：悪質商法への対策をまとめておくこと(2時間)
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	事前学習課題：企業に起こりうるリスクについて、具体例を考えておくこと(1時間) 事後学習課題：リスクマネジメントの方法について具体例を含めてまとめておくこと(2時間)
14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	事前学習課題：接客サービスにおいて重要なことを箇条書きにしておくこと(1時間) 事後学習課題：接客サービスの効果と問題点についてまとめておくこと(2時間)

	15	ビジネス心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品、サービスを選んでいくのか？	事前学習課題：今後求められるサービスについて、プランを練ってくること(1時間) 事後学習課題：ビジネスにおける消費者心理の役割について総復習を行うこと(2時間)
実務経験				
関連科目	「グローバルマーケティング論」と関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者心理学	山田一成・池内裕美	勁草書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業内テストの結果(3点満点)と授業課題の提出(3点満点)の合計(6点×10回=60点分)と教科書を用いた課題(40点分)の合計で、総合的に判断します。授業内テストは開講日時から1週間の間しか受験できません。課題に関しては締切があります。締め切りを必ず守ること。			
学生への メッセージ	皆さんの身の回りのビジネスの中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょうか？なぜ、そのサービスを選んだのでしょうか？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて、ビジネスの具体例を交えながら、解説していきます。 毎回スマホにより課題の提出とweb試験を行うため、持参すること(指示があるまで電源を切って待つこと)。			
担当者の 研究室等	11号館7階(牧野(幸)准教授室)			
備考	事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回2時間以上かけること。 授業内に課した課題については、授業中あるいは次週の授業で解説してフィードバックを行う。			

科目名	グローバル経済論	科目名 (英文)	Global Economy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2200a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム及び国際貢献プログラム対象科目である。 経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめる、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉はTPP交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。																																																																		
到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義ガイダンス</td> <td>講義概要、教科書紹介</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の大企業のグローバル化と中小企業</td> <td>教科書 第1章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム</td> <td>教科書 第2章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制</td> <td>教科書 第3章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アメリカ企業・政府によるグローバル化</td> <td>教科書 第4章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本の流通の再編と寡占化</td> <td>教科書 第5章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地球環境問題</td> <td>教科書 第7章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>グローバル化のもとでの日本の労働者の状態</td> <td>教科書 第8章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本における外国人労働者</td> <td>教科書 第9章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>労使関係の日本－スウェーデン比較</td> <td>教科書 第13章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料</td> <td>教科書 第10章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域間格差の拡大と日本財政</td> <td>教科書 第11章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グローバル化と税制改革</td> <td>教科書 第12章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代資本主義の特徴と日本社会</td> <td>教科書 序章</td> <td>事前・教科書予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—	2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習	3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習	4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習	5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習	6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習	7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習	8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習	9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習	10	労使関係の日本－スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習	11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習	12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習	13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習	14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習	15	まとめ		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—																																																																
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習																																																																
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習																																																																
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習																																																																
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習																																																																
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習																																																																
7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習																																																																
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習																																																																
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習																																																																
10	労使関係の日本－スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習																																																																
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習																																																																
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習																																																																
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習																																																																
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習																																																																
15	まとめ																																																																		
実務経験																																																																			
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、国際貢献プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>資本主義の現在－資本蓄積の変容とその社会的影響</td> <td>豊福裕二編</td> <td>文理閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在－資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	資本主義の現在－資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	5idzwpv																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	チーム内のチャットとメール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	期末レポート (100%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。 積極的に質問をしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室 (経済学部)																																																																		
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は60時間です。																																																																		

科目名	地域と国際ビジネス	科目名 (英文)	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2201a0		

授業概要・目的	この授業は、6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動が活発になっている。この授業では、海外直接投資と企業の立地戦略の視点に立って、国境を越えて活動する企業（多国籍企業、グローバル企業）と地域の関係を、①国や地域の投資環境の分析、②企業の立地戦略、③途上国市場における社会課題解決型ビジネス（BOP ビジネス）の3つの側面から学ぶことを目的とする。この3点についてグループワークとプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスに関して理論と事例を説明できる。 投資環境や企業の立地選択の指標を用いて分析できる。 グループワークに意欲的に参加し、グループとしての結論を導くことができる。 グループ討論の結果を分かりやすく発表できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Teams を用いた教材配信およびオンライン授業とする。 統計データベース等を使った作業を行うので、パソコンが使用できる環境が望ましい。 理論と事例の解説はレジュメを配布して講義形式で行う。またテーマに沿ってグループワークとプレゼンテーションを行う。 講義では内容に関して考えたことをリアクションペーパーとして提出する。 学期末には、投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスのいずれかを選んで、学期末レポートを作成・提出する。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> 企業のグローバル戦略の着眼点を知ることができる。 経済や経営に関心のある履修者にとっては文化演習や卒業研究の手がかりとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	企業活動の世界への広がり	授業の概要説明および国際ビジネスの視座の解説	レジュメを読み直して、授業の目的と方法および国際ビジネスの視座をよく確認する。
2	海外直接投資	国境を越えた企業活動を量的に把握するための海外直接投資を知る。	紹介する資料を読んで海外直接投資の役割の理解を深める。	
3	海外直接投資データベースの使い方	海外直接投資の統計データを用いて国の国際投資状況を調べる。	UNCTAD Stat の使い方を覚え、いくつかの国について調べて図表化する。	
4	Doing Business 指標による投資環境の分析	Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察する。	Doing Business の各指標の意味を調べ、グループワークのための下調べをしておく。	
5	グループワーク(1)：投資環境分析	海外直接投資と Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察し、発表する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。	
6	プレゼンテーション(1)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。	
7	国際分業、バリューチェーン、立地優位性	国際分業とバリューチェーンの概念を踏まえて、国の立地優位性と企業の立地戦略を学ぶ。	紹介する資料を読んで立地優位性の理解を深めておく。	
8	企業の立地選択の事例	インドの IT 産業から企業の立地戦略を考察する。	紹介する資料を読んで企業の立地戦略の理解を深めておく。	
9	グループワーク(2)：企業の立地戦略	仮定の日本企業を考察し、国の立地優位性と国際分業を踏まえて、海外進出の計画を考える。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。	
10	プレゼンテーション(2)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。	
11	途上国における BOP ビジネス	貧困層を対象とする BOP ビジネスとは何かを学ぶ。	紹介する資料を読んで BOP ビジネスの概要について理解を深めておく。	
12	BOP ビジネスの事例	日系企業を中心とした BOP ビジネスの事例を紹介する。	グループワークに備えて情報収集をしておく。また期末レポートの作成に着手する。	
13	グループワーク(3)：BOP ビジネス	困りごとを解決するビジネスを立案する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。	
14	プレゼンテーション(3)	前週の討論内容の発表と講評（期末レポートの提出）	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。また、期末レポートを完成させる。	
15	まとめと期末レポートの講評	講義の要点の整理と期末レポートへのフィードバックを行う。	期末レポートを提出し、フィードバックを確認する。	

実務経験	
関連科目	異文化ビジネス、グローバル企業論、グローバル経済論 その他の国際ビジネスプログラム科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての国際経営	中川功一ほか	有斐閣
	2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
	3	BOP ビジネス入門	菅原秀幸ほか	中央経済社

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teams コード	h452k22
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メールおよび Microsoft Teams のチャット

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	・期末レポート (40%)、グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容 (40%)、リアクションペーパー (20%) で評価する。
学生への メッセージ	普段の生活では世界の動きに注目することは少ないかもしれませんが、グローバル化の時代を生きる私たちの生活は世界の変動の影響を強く受けています。履修者のみなさんが世界に目を向け、その変化に関心を持ち、自分たちの生活とのかかわりのなかで世界における企業の活動を考えられるようになることを願っています。
担当者の 研究室等	7号館5階 藤井研究室
備考	参考書の読み込み、プレゼンテーションの準備、レポート作成などにかかる事前・事後学習の総時間数は約60時間を目安とする。 課題に対するフィードバックは授業内で行う。

科目名	グローバルマーケティング論	科目名 (英文)	Global Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3202a0		

授業概要・目的	この科目は、国際ビジネスプログラムおよびメディアビジネスプログラムの対象科目である。マーケティング初心者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。
到達目標	グローバルマーケティングについて理解を深める。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	グローバルマーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましよう。
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。
3	マーケティングの4P	製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングの4Pに関連する内容を読みましよう。
4	マーケティングのSTP	セグメンテーションやターゲティングについて説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングのSTPに関連する内容を読みましよう。
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。
6	マーケティングとグローバル化	グローバルな市場創造について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングとグローバル化に関連する内容を読みましよう。
7	グローバル・マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチのプロセスについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましよう。
8	グローバル市場参入戦略	市場参入戦略について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル市場参入戦略に関連する内容を読みましよう。
9	グローバル製品戦略	グローバルな製品の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル製品戦略に関連する内容を読みましよう。
10	グローバル価格戦略	グローバルな価格の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル価格戦略に関連する内容を読みましよう。
11	グローバル広告戦略	グローバルな販売促進の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル広告戦略に関連する内容を読みましよう。
12	グローバル・ロジスティクス戦略	グローバルなロジスティクスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・ロジスティクスに関連する内容を読みましよう。
13	グローバルマーケティングの組織	グローバルな組織構築について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティング組織に関連する内容を読みましよう。
14	グローバルマーケティングの調整と統制	グローバルに展開する時の調整と統制について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整と統制に関連する内容を読みましよう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。

実務経験	
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は、60時間です。

科目名	グローバル企業研究	科目名 (英文)	Studies on Multinational Corporations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3203a0		

授業概要・目的	本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。(※英語プロフェッショナルコースの学生も履修できます) まずは、各業界において世界規模で事業展開している「グローバル企業」について知ることから始めます。次に、海外と日本のグローバル企業のビジネス(展開・手法)を比較しながら、国際社会や経済の視点も交えてその動向を考察します。
到達目標	グローバル企業の事業内容について事例とともに考察し、その戦略や今後のビジネス展開について議論できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	※今学期のこの授業は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態で、すべて「WebFolder」を利用して行います。
科目学習の効果(資格)	文化演習(3ゼミ)や卒業研究(4ゼミ)などの研究にも活かせるでしょう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の進め方などを確認する。 ・映像・資料からビジネスの現場を知る。	・教科書をざっと一読し、大まかな内容を確認する(2時間)。 ・次回の授業で扱う食品・飲料業界に関する記事(新聞やビジネス誌)を調べてみる(2時間)。
2	グローバル企業の動向について(1): 食品・飲料業界	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、食品・飲料業界のグローバル企業(ネスレ、マクドナルド、スターバックスなど)の事業展開について考察、議論する。	・今回の授業で扱った食品・飲料業界について、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・次回の授業で扱うeコマース・ネットサービス業界について、教科書や記事などで下調べしておく(2時間)。	
3	グローバル企業の動向について(2): eコマース・ネットサービス業界	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、eコマース・ネットサービス業界のグローバル企業(アマゾン、マイクロソフト、グーグル、フェイスブックなど)の事業展開について考察、議論する。	・今回の授業で扱ったeコマース・ネットサービス業界について、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・次回の授業の準備として、プレゼンテーションのテーマについて下調べし、候補を考えておくこと(2時間)。	
4	・プレゼンテーションの計画を立てる。 ・プレゼンテーションのスキルを学ぶ。	・プレゼンテーションのグループメンバー、テーマ、発表日等を決定する。 ・プレゼンテーションのスキルについて、企業の具体例とともに大切な点を学ぶ。	・決定したグループメンバーと、今後の活動計画について話し合う(2時間)。 ・次回の授業で扱う「アパレル業界」について、教科書や記事などで下調べしておく(2時間)。	
5	グローバル企業の動向について(3): アパレル業界	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、アパレル業界のグローバル企業(ZARA、H&M、ユニクロ・GU; ナイキなど)の事業展開について考察、議論する。	・今回の授業で扱ったアパレル業界について、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。	
6	グローバル企業の動向について(4): 流通・小売業界	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、流通・小売業界のグローバル企業(ウォルマート、コストコ; イオン、無印良品など)の事業展開について考察、議論する。	・今回の授業で扱った流通・小売業界について、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。	
7	これまでの授業内容の振り返りと今後の予告	これまでの授業内容の振り返りながら、各業界の動向・要点を確認するとともに、来週以降のテーマの予告をする。	・これまでの授業で扱った内容を整理する(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。	
8	グローバル企業の動向について(5): 化粧品・トイレタリー業界	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、化粧品・トイレタリー業界のグローバル企業(P&G、ユニリーバ、ロレアル、花王、資生堂など)の事業展開について考察、議論する。	・今回の授業で扱った化粧品・トイレタリー業界について、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。	
9	グローバル企業の動向について(6): エレクトロニクス機器関連	前半は講義、後半はグループディスカッションを行い、エレクトロニクス機器関連のグローバル企業(ジョンソン&ジョンソン、シーメンス、フィリップス; ソニー、パナソニックなど)の事業展開について考察、議論する。	・今回の授業で扱ったエレクトロニクス機器関連のグローバル企業について、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく(2時間)。	
10	プレゼンテーションの準備と指導	来週から始まるプレゼンテーションの最終チェックを行い、指導を受けた点を修正しながら、資料を完成させる。	グループごとにプレゼンテーションの準備を進め、完成させる(4時間)。	
11	グループによるプレゼンテーション(1)	担当の2つのグループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく。また、プレゼンが終了したグループは事後報告書を作成する(2時間)。	
12	グループによるプレゼンテーション(2)	担当の2つのグループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく。また、プレゼンが終了したグループは事後報告書を作成する(2時間)。	
13	グループによるプレゼンテーション(3)	担当の2つのグループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教	・今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2	

			員との質疑応答により考察を深めていく。	時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく。また、プレゼンが終了したグループは事後報告書を作成する(2時間)。
	14	グループによるプレゼンテーション(4)	担当の2つのグループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・今回の授業(プレゼンテーション)で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・グループごとにプレゼンテーションの準備を進めていく。また、プレゼンが終了したグループは事後報告書を作成する(2時間)。
	15	総括(まとめ)	・グローバル企業や国際社会の動向に注目してきた授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・これまでのプレゼンテーションの内容・展開やスキルについて振り返り、講評する。	・これまでの授業やプレゼンテーションで扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる(2時間)。 ・自分たちのプレゼンテーションについて振り返り、改善すべき点などを明らかにし、今後活かせるようにする(2時間)。
実務経験				
関連科目	他の国際ビジネスプログラム科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社四季報 業界地図 2020年版	東洋経済新報社[編]	東洋経済新報社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	※今学期は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態のため、提出物(レポート)(100%)に基づいて評価します。			
学生への メッセージ	この授業で学んだことは、就職活動や社会人としての仕事においても大いに役立つことでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室			
備考	毎回の授業のための教科書の読解、グループ・ディスカッションの下調べ、レポートやプレゼンテーションの準備などに要する事前・事後学習総時間は、60時間程度を目安とします。グループ・ディスカッションやプレゼンテーションに関するフィードバックはその都度(授業内)で行うとともに、レポートについては講評を添えて第15回の授業で返却します。			

科目名	ビジネスコミュニケーション論	科目名 (英文)	Business Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2o		
科目ナンバリング	LDL3204a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム対応科目である。 2年次に習得した「異文化ビジネス論」や「ビジネス心理学」などの知識を活かしながら、国際ビジネスの現場におけるコミュニケーションの特徴や注意点について考察する。また、必要に応じて、日本語と外国語の場合を比較・対象しながら、接客から交渉に至るまで様々なビジネスの現場・場面を想定して、客観的な観点から学んでいく。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	国際化に対応したビジネス実務の基礎知識の習得と、それぞれの場面に必要な日本文化・日本語に基づいた外国語能力の向上を目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要であり、第二に即戦力として学習内容を実践する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	グローバル化した日本企業などのビジネス組織で行われている基本的なビジネス実務全般を理解し、国内外との対応に必要なコミュニケーション能力の必要性を理解し、その向上を図る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・変化するビジネス組織 ・国際ビジネスの基本-あいさつ ・イニシャルテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：シラバスを熟読すること (1時間) ・事後学修：講義からグローバル社会に関してレポートを作成すること (3時間)
2	パーティ文化	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺交換・席順 ・座席と服装、国の特徴 ・招待を受けた事例 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：公式なパーティとは何か、調べること (1時間) ・事後学修：「パーティ文化」をノートにまとめること (3時間) 	
3	設営と慶弔含む贈答	<ul style="list-style-type: none"> ・QUIZ① (第1回から第2回まで) ・日本文化における慶弔と贈答 ・主催者側としての設営 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：「慶弔」について調べること (1時間) ・事後学修：「設営」手順を作成すること (3時間) 	
4	会議等の設営	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の種類 ・会議に必要とされる書類 ・社内会議と社外会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：Minutes (議事録) 例を翻訳すること (2時間) ・事後学修：社内会議の案内文を作成すること (2時間) 	
5	ビジネス対応-敬語	<ul style="list-style-type: none"> ・常識としての敬語と礼儀正しい英語表現 ・QUIZ② (敬語表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：「敬語」プリントをすること (2時間) ・事後学修：敬語表現を復習すること (2時間) 	
6	ビジネス対応-応対	<ul style="list-style-type: none"> ・Expressions at Reception ・ロールプレイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：Expressions at Reception 1, 2 & 3 のロールプレイを練習すること (2時間) ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること (2時間) 	
7	ビジネス対応-電話	<ul style="list-style-type: none"> ・Expression at Business Call ・ロールプレイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：Expression at Business Call 1, 2 & 3 のロールプレイを練習すること (2時間) ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること (2時間) 	
8	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト (正答率60%で合格) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：第3回から7回までの復習をすること (2時間) ・事後学修：中間テストの解答を確認し、復習すること (2時間) 	
9	海外出張	<ul style="list-style-type: none"> ・Y T T方式の理解 ・外国語による日程表の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：San Franciscoに1週間の出張と考え、往復運賃、宿泊費等を調べてくること (2時間) ・事後学修：外国語による日程表を作成すること (2時間) 	
10	ビジネス文書 基礎編	<ul style="list-style-type: none"> ・文書の基本理解と作成 ・数字の扱い方、英語の略語 ・ファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：「時候のあいさつとビジネス用語プリント」をすること (2時間) ・事後学修：社内文書と社会文書、英文レターを清書すること (2時間) 	
11	ビジネス文書 応用編①	<ul style="list-style-type: none"> ・社内文書と社会文書作成 ・英文ビジネスレターとメモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：提示された条件で、文書を作成すること (2時間) ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること (2時間) 	
12	ビジネス文書 応用編②	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と外国語による社交文書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：ビジネス文書のルールを再確認すること (2時間) ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること (2時間) 	
13	総合演習①	<ul style="list-style-type: none"> ・QUIZ③ (第10回から第12回まで) ・ロールプレイを含む課題演習① 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：ビジネス文書を書けるよう、練習すること (2時間) ・事後学修：課題演習①を再度確認すること (2時間) 	
14	総合演習②	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを含む課題演習② 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：課題演習①を再度確認すること (2時間) ・事後学修：課題演習②を再度確認すること (2時間) 	
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションのあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：課題演習②を再度確認すること (2時間) ・事後学修：第1回から第15回までの授業内容の理解を図ること (2時間) 	
実務経験				
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂
	2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	69zftztz			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ロールプレイならびにプレゼンテーション (20%)、小テスト/QUIZ/中間テスト (40%)、レポート (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	グローバル化と言われ久しい日本の企業等のビジネス組織において、外国人労働者が積極的に採用・雇用される現実も出てきました。社内を英語で統一する日本企業も出現しており、対応可能な人材として外国語が使えるだけでなく、ビジネスの担い手としての常識がますます求められています。働く意識を高め、ビジネスの現場で必要とされる態度とコミュニケーションをしっかりと学び、自信を深め、一歩先を歩いてほしいと願っています。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 テキストは初回から使用するので準備しておくことが好ましい。 ロールプレイならびにプレゼンテーションにおいては、授業中に良かった点と改善点を明確に指示し、最終を迎える。			

科目名	国際協力論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2205a0		

授業概要・目的

国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。

この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。

SDGs- 1, 2, 4, 17

到達目標

国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。

授業方法と留意点

授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。

科目学習の効果 (資格)

将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える
3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える
4	非政府組織 (NGO)	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る
5	草の根組織・地方自治体	普通の人ができる国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる
6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる
7	国際協力を受ける国々 (1)	開発途上国 (アジア) について (過去・現在・将来)	世界でアジア地域の問題とは何かを考える
8	国際協力を受ける国々 (2)	開発途上国 (アフリカ) について (過去・現在・将来)	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える
9	国際協力を受ける国々 (3)	開発途上国 (アジア・アフリカ以外の国) について (過去・現在・将来)	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを説明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	人類が将来的に向き合わなければならないこととは何かを考える
15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える

実務経験 関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス

メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス：

評価方法 (基準)

記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。

学生へのメッセージ

国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力の興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。

担当者の研究室等

7号館5階(浅野研究室)

備考

この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を33名、JICA ボランティア (青年海外協力隊) に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2206a0		

授業概要・目的	この科目は、パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の対応科目である。本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済（市場主義）と政治（国民国家）との間の相互作用に注目するものである。
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。教科書の章立てに沿って各回1章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・学事日程の変更にもない、授業計画は一部変更します（原則一回一章ですが、統合して実施する回もあります）。
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	序章 「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国際政治経済学の理論的枠組み	第1章 国際政治経済の見方	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
3	国際経済体制の歴史（1）	第2章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
4	国際経済体制の歴史（2）	第3章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
5	国際政治経済体制の動態（1）	第4章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
6	国際政治経済体制の動態（2）	第5章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
7	国際政治経済体制の動態（3）	第6章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
8	国際政治経済体制の動態（4）	第7章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
9	国際政治経済体制の動態（5）	第8章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
10	国際政治経済体制の動態（6）	第9章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
11	国際政治経済体制の動態（7）	第10章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
12	国際政治経済秩序の模索（1）	第11章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
13	国際政治経済秩序の模索（2）	第12章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
14	国際政治経済秩序の模索（3）	第13章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国家の役割について考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	

	15	まとめと補遺	終章 国際政治経済学の未来像 「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのように考え、何を指すべきか。	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
実務経験				
関連科目	パッケージプログラム (国際貢献および国際教養) の各科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治経済学・入門 第3版	野林健ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	■定期試験 100% 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価を実施します。 (課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。)			
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 なお、本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととします。 この科目は外国語学部パッケージプログラム (国際貢献および国際教養) の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。			

科目名	ボランティア論	科目名 (英文)	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2207a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs 1, 2, 4, 17
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業 (非同期・非対面式) の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果 (資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ (起承転結) を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるか分からないということを理解する
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える
8	(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)	国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る
9	(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)	国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①
10	(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)	国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	自覚と義務とのギャップを巻がる
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える
15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teams コード	vwoxzap
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 (浅野研究室)
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学

	生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。
--	--

科目名	国際平和論	科目名 (英文)	International Peace Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3208a0		

授業概要・目的	この科目は、パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目である。 本講義は、「国際平和」をめぐる現代世界の諸問題について、基本的には国際政治学の立場からアプローチし、問題の包括的な理解を通じて、その現実的な解決策を模索していくことを目指すものである。			
到達目標	「国際平和」をめぐる取り上げられる様々な問題や議論に触れ、現代社会に対する理解を深める。			
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って毎回1章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・学事日程の変更にもない、授業計画は一部変更の可能性があります（原則的には一回一章）。			
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国際平和」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義内容およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	現代社会の前身—国際社会の誕生	第1章 国際社会の誕生とナショナリズム	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	3	国際社会の分析視角（1）	第2章 覇権と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	4	国際社会の分析視角（2）	第3章 理想と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	5	国際社会の分析視角（3）	第4章 規範と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	6	国際社会の分析視角（4）	第5章 構造と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	7	冷戦の終結とは何だったのか	第6章 ソビエト崩壊と歴史の終わり	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	8	現代の紛争（1）	第7章 紛争と宗教・文化	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	9	現代の紛争（2）	第8章 紛争と民族・領土	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	10	現代の紛争（3）	第9章 紛争と資源	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	11	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（1）	第10章 軍事介入と国際連合	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	12	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（2）	第11章 軍事介入の論理	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	13	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（3）	第12章 平和構築と権力分与	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
	14	人間の安全保障とは何か	第13章 人間の安全保障	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
15	まとめと補遺—地球社会の課題	第14章 G-ゼロ世界と地球社会の課題	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）	
実務経験				

関連科目	パッケージプログラム（国際貢献）の各科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際平和論	福富満久	岩波書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/course/view.php?id=194 wed04			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	■定期試験 100% 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価を実施します（100%）。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。）			
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 なお、本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととします。 この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。			

科目名	国際機構論	科目名 (英文)	International Organizations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3209a0		

授業概要・目的	<p>国連機関は一体どんな働きをしているのだろうか。この講義は、国際機関の基礎的知識を学ぶことを目的としている。</p> <p>この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。</p> <p>SDGs- 1, 2, 4, 17</p>																																																																		
到達目標	国際機構との関わりにおいて、過去の歴史から見た国際関係と現在について原理・概念がもつ重要性や課題を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	国際機関で働くために知っておくべき基礎的な教養																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクションと授業内容概要</td> <td>国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際機構とは何か</td> <td>国際機構の働きについて</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本と国際機構との関係</td> <td>日本が行ってきた国際機構との協力関係について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>国際機関で働くには</td> <td>国際機関でグローバルに生きる方法</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>国際援助</td> <td>国際機構が行う国際援助について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>国際法</td> <td>国際機関と国際法との関係</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域紛争</td> <td>国際機関と地域紛争や危機管理との関係について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>核の不拡散と輸出管理</td> <td>大量破壊兵器と国際機関との関係について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>テロリズム</td> <td>9・11事件以降のテロリズム対策について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>国際難民</td> <td>国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>人・物・金</td> <td>国際協力にまつわるキーワード</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>貧困問題</td> <td>開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>持続可能な発展</td> <td>「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>国際機構の課題</td> <td>今後、国際機構はどうあるべきかを考える</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>記述式総括確認 (必ず出席すること)</td> <td>これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う</td> <td>_____</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____	2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開	3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開	4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開	5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開	6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開	7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開	8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開	9	テロリズム	9・11事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開	10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開	12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開	13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く	前回の復習と、次回への展開	14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開	15	記述式総括確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	_____
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____																																																																
2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開																																																																
3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開																																																																
5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開																																																																
6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開																																																																
7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
9	テロリズム	9・11事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開																																																																
10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開																																																																
12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開																																																																
13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く	前回の復習と、次回への展開																																																																
14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開																																																																
15	記述式総括確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	_____																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	記述式小テストや記述式小レポートを合わせて(100%)評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座として役割を果たします。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を33名、JICA ボランティア (青年海外協力隊) に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。																																																																		

科目名	社会開発論	科目名 (英文)	Social Development
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3210a0		

授業概要・目的	<p>この科目は、国際貢献プログラム対応科目となっています。</p> <p>経済のグローバル化が進み、途上国への企業進出も盛んになる現代においては、それぞれの国や地域社会に対する理解力や思考力が重要です。特に、グローバルに展開される国際協力の場においては、開発援助の持つ理念やインパクト(メリット・デメリット)を理解することが必要になります。</p> <p>本講義では、近年の経済成長により注目されているアフリカ・アジア諸国に関する基礎知識を学ぶとともに、開発の現代性や必要性、外部者の役割について検討していきます。また、社会開発のプロジェクトにおいて対象社会を理解するためのひとつの手段として、社会調査(フィールドワーク)を取り上げ、その方法論についても解説します。</p> <p>SDGs-4, 9</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発援助の対象であるアジア・アフリカ地域の歴史と現状を理解し、ステレオタイプの見方を変える 2. 開発に関わる諸概念・方法論の変遷と現状を理解し、社会開発の位置づけを説明することができる。 3. 社会開発の可能性と限界、対象社会に与える影響、対象社会の主体的な営み、を認識した上で、私たちに何ができるのか、どのように関わっていくべきなのかについて主体的・論理的に考えることができる。
授業方法と留意点	授業方法等については初回の授業までに具体的な授業方法を指示しますので、該当する箇所(Teams等)の確認を忘れずに行ってください。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)
2	アフリカを知る1	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
3	アフリカを知る2	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
4	アフリカを知る3	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
5	アジアを知る1	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
6	アジアを知る2	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
8	開発と文化・価値・エンパワーメント	文化やエンパワーメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
9	社会開発の現状と課題1:教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
10	社会開発の現状と課題2:農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
11	社会開発の現状と課題3:環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
12	社会開発と社会調査:対象社会を理解するための視点と方法1	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
13	社会開発と社会調査:対象社会を理解するための視点と方法2	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	
15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める(1時間以上)	

実務経験				
関連科目	国際貢献プログラム関連科目(国際協力論、国際関係論、国際平和論、国際機構論等)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階（手代木研究室）			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	ことばと意味	科目名 (英文)	Languages and Meanings
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2211a0		

授業概要・目的	<p>この科目は、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。</p> <p>ことばが持つ意味というのは、突き詰めていけば非常に難しく、その分興味深いテーマです。ことばの意味について知るといことは、私たちがどのようにことばで伝達を行っているかについて知ることでもあります。そして、何気なく使っている日本語や英語に対する考え方がさらに広がり深まることでしょう。</p> <p>本授業は、ことばの「意味」について、体系的かつ総合的に学習し、ことばが持つ意味の複雑さや素晴らしさ、それらを理解して使っている人の賢さや優しさを改めて考えることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<p>言語学の様々な理論、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会的アプローチ、認知言語学、などを通して、ことばが持つ「意味」とは、どのようなものか、人はそれをどのように理解するのかについて学ぶことを目標とします。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>毎回様々な言葉の意味のテーマを取り上げながら、講義を聞き、理解し、その内容を基に学生同士で議論しながら、自ら能動的に参加しながら授業を進めていきます。</p> <p>配布資料と辞書は忘れないで持参してください。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の進め方</td> <td>「ことば」について予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「ことば」とは</td> <td>音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など</td> <td>言語学4分野について復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>音と意味</td> <td>オノマトペ、自然的意味と恣意的意味</td> <td>音が持つ意味について復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文字と意味</td> <td>表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらがな</td> <td>文字と意味の関係について復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形態素と意味</td> <td>接尾語と接頭語</td> <td>形態素の役割を復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>語と意味</td> <td>単語について 外延的意味と内包的意味</td> <td>単語が持つ意味について復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文法と意味</td> <td>時制・相</td> <td>文法がどのように文の意味に関係しているかを復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文脈と意味</td> <td>「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」</td> <td>文脈が発話の意味と同のように関係しているかを復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>役割語</td> <td>役割を明示することば</td> <td>役割語の機能について復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>結合語</td> <td>日本語と英語の結合語</td> <td>身近な結合語について復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>メタファー</td> <td>メタファーの解釈</td> <td>身近なメタファーについて復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>メトニミー</td> <td>メトニミーの解釈</td> <td>身近なメトニミーについて復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>アイロニー</td> <td>アイロニーの解釈</td> <td>身近なアイロニーについて復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>含意</td> <td>含意の解釈、ポライトネス</td> <td>身近な含意について復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>授業の復習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方	「ことば」について予習	2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	言語学4分野について復習	3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	音が持つ意味について復習	4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらがな	文字と意味の関係について復習	5	形態素と意味	接尾語と接頭語	形態素の役割を復習	6	語と意味	単語について 外延的意味と内包的意味	単語が持つ意味について復習	7	文法と意味	時制・相	文法がどのように文の意味に関係しているかを復習	8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」	文脈が発話の意味と同のように関係しているかを復習	9	役割語	役割を明示することば	役割語の機能について復習	10	結合語	日本語と英語の結合語	身近な結合語について復習	11	メタファー	メタファーの解釈	身近なメタファーについて復習	12	メトニミー	メトニミーの解釈	身近なメトニミーについて復習	13	アイロニー	アイロニーの解釈	身近なアイロニーについて復習	14	含意	含意の解釈、ポライトネス	身近な含意について復習	15	まとめのテスト	授業の復習	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方	「ことば」について予習																																																																
2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	言語学4分野について復習																																																																
3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	音が持つ意味について復習																																																																
4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらがな	文字と意味の関係について復習																																																																
5	形態素と意味	接尾語と接頭語	形態素の役割を復習																																																																
6	語と意味	単語について 外延的意味と内包的意味	単語が持つ意味について復習																																																																
7	文法と意味	時制・相	文法がどのように文の意味に関係しているかを復習																																																																
8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」	文脈が発話の意味と同のように関係しているかを復習																																																																
9	役割語	役割を明示することば	役割語の機能について復習																																																																
10	結合語	日本語と英語の結合語	身近な結合語について復習																																																																
11	メタファー	メタファーの解釈	身近なメタファーについて復習																																																																
12	メトニミー	メトニミーの解釈	身近なメトニミーについて復習																																																																
13	アイロニー	アイロニーの解釈	身近なアイロニーについて復習																																																																
14	含意	含意の解釈、ポライトネス	身近な含意について復習																																																																
15	まとめのテスト	授業の復習																																																																	
実務経験																																																																			
関連科目	その他の外国語専門職プログラム科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業態度 30%、小テスト 30%、まとめのテスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	普段何気なく使っていることばが持っている意味について、興味を持って授業に参加してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室																																																																		
備考	事前事後学習：60時間 小テストは次の授業時間に返却し、ポイントなどの説明を行う。 授業時間以外で質問などがある場合は、研究室にて対応する。																																																																		

科目名	異文化コミュニケーション論	科目名(英文)	Cross-Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2212a0		

授業概要・目的	<p>・この科目は、「外国語専門職プログラム」および「国際教養プログラム」対応科目です。</p> <p>・人間の使う言葉・行動・価値の置き方には、文化の違いが反映されています。この授業では、自文化を知り、他文化を尊重し、価値観を尊重しながら、異なる文化を持つ人々とのようにつきあっていくかを考えること、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義や実践法を学びます。</p>
到達目標	<p>・異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。</p> <p>・異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。</p> <p>・自分の意見を表現できる。</p>
授業方法と留意点	<p>・講義 資料の内容は熟読する。</p> <p>・ワーク 異文化コミュニケーションについて考えるワーク・課題を積極的に行う。 (状況により、授業の内容や方法が多少変更することがあります)</p>

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
2	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、ワーク	資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)	
3	異文化コミュニケーションとは(2)	講義、ワーク	資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)	
4	異文化適応	講義、ワーク	授業で出された課題 (1.5H)	
5	異文化摩擦・異文化コミュニケーションの障壁	講義、ワーク	授業で出された課題 (1.5H)	
6	違いに気づく	講義、ワーク	レポート作成 (1.5H)	
7	差別について	講義、ワーク	レポート作成 (1.5H)	
8	言語コミュニケーション(1)	講義、ワーク	資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)	
9	言語コミュニケーション(2)	講義、ワーク	資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)	
10	非言語コミュニケーション	講義、ワーク	資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で資料出された課題 (1.5H)	
11	外国語の学習	講義、ワーク	プリント熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)	
12	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、ワーク	プリント熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)	
13	多文化共生社会と日本語教育	講義、ワーク	総復習 (ノート、資料熟読) (2H)	
14	多文化共生社会と日本語教育	講義、ワーク	総復習 (ノート、資料熟読) (2H)	
15	まとめ・確認テスト	ふり返り	レポート作成 (2H)	

実務経験	
関連科目	外国語専門職プログラム・国際教養プログラム科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業で指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	異文化コミュニケーションの AtoZ -理論と実践の両面からわかる-	小坂貴志	研究社
	2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題及びレポート (60%)・授業への貢献度(10%)・テスト (30%)により総合的に評価する。
学生への メッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。 授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	レポートや確認テストについて全体または個別にフィードバックを行う

科目名	翻訳文化論	科目名 (英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2213a0		

授業概要・目的

文化は、その文化の言語を学べば理解できるものではない。文化の内容や背景をしっかりと捉え、それを理解し翻訳することの意義を考える必要がある。

ここで言う「翻訳」とは、単にある言語から別の言語に変換することではなく、「日本」を新しく問い直す視点を見出すことである。海外の文化人による日本文化論や、海外（とくに西洋）を体験した日本人による文化論などを幅広く読むことで、履修者各自が自身の所属する「日本」を捉えなおすきっかけになるよう、ともに考察していきたい。

なお本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。

到達目標

①文化論を読解する力を身につける
 ②文化を理解・翻訳することの意義を問う
 ③自身の所属する「日本」を捉えなおす視点を養う

授業方法と留意点

講義を中心に行う。ドキュメンタリーなどの映像資料を鑑賞する。教材はプリントで配布する。

毎回、授業内容についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらおう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。

授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。人数にもよるが、簡単なフィールドワークを行う予定である。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
2	「翻訳文化」をめぐる問題 (1)	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
3	「翻訳文化」をめぐる問題 (2)	日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム (ポストコロニアリズム) の問題について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
4	「外」から見た「日本」(1)	明治以降の日本文化論の系譜を概説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
5	「外」から見た「日本」(2)	ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
6	「外」から見た「日本」(3)	ブルーノ・タウトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
7	「外」から見た「日本」(4)	ルース・ベネディクトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
8	「外」から見た「日本」(5)	リービ秀雄について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
9	「外」を見た「日本 (人)」(1)	岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
10	「外」を見た「日本 (人)」(2)	森鷗外について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
11	「外」を見た「日本 (人)」(3)	夏目漱石について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
12	「外」を見た「日本 (人)」(4)	大正・昭和初期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
13	「外」を見た「日本 (人)」(5)	近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む
14	課題 (レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認 レポートを作成する
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出

実務経験

関連科目 日本文学・文化に関する科目 (「日本文学」など)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 Teams「教材・課題配信型」

Teams コード w6o4yr6

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (古矢研究室)
備考	

科目名	日本語表現論	科目名 (英文)	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2214a0		

授業概要・目的	<p>※この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。</p> <p>この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。</p>																																																																		
到達目標	日本語表現の特徴について、他言語とも比較しつつ、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、多様な視点から考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントペーパーを提出します。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td> <td>授業の内容を整理する (1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の中の日本語</td> <td>日本語は特殊な言語なのか考える</td> <td>日本語の特徴について調べる (2時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語の構造</td> <td>日本語の構造を考える</td> <td>日本語の構造について本をもとに考える (2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較</td> <td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-2.日本語のレトリック</td> <td>様々なレトリックを学ぶ</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-3.日本語のオノマトペ</td> <td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1-4.まとめ</td> <td>レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>事前：第1節の内容を整理する (2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2.詩文の日本語 2-1.歌詞の語感</td> <td>現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-2.和歌に見る語感</td> <td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-3.俳句に見る語感</td> <td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-4.まとめ</td> <td>レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>事前：第2節の内容を整理する (2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称</td> <td>小説を例に、人称表現について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3-2.現在形と過去形</td> <td>小説を例に、現在と過去の表現について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-3.多様な表現方法</td> <td>小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む (2時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>3-4.まとめ</td> <td>レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>事前：第3節の内容を整理する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する (1時間)	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる (2時間)	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える (2時間)	4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	7	1-4.まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前：第1節の内容を整理する (2時間)	8	2.詩文の日本語 2-1.歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	9	2-2.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	10	2-3.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	11	2-4.まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前：第2節の内容を整理する (2時間)	12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)	15	3-4.まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前：第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する (1時間)																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる (2時間)																																																																
3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える (2時間)																																																																
4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
7	1-4.まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前：第1節の内容を整理する (2時間)																																																																
8	2.詩文の日本語 2-1.歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
9	2-2.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
10	2-3.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
11	2-4.まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前：第2節の内容を整理する (2時間)																																																																
12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む (2時間)																																																																
15	3-4.まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前：第3節の内容を整理する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	8ag5aeh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	レポート (3回) (70%) まとめテスト (15%) 授業参加度 (コメントペーパー) (15%)																																																																		
学生への メッセージ	言葉に敏感になろう																																																																		
担当者の 研究室等	7号館4階 (橋本研究室)																																																																		
備考	コメントペーパー、レポートについては、次の回でフィードバックします。 上記時間にレポート作成に要する時間を加え、事前事後学習時間の目安は60時間。																																																																		

科目名	語学教育工学	科目名 (英文)	Technology in Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3215a0		

授業概要・目的	語学教育を行う上で有用となる ICT スキルの養成を目指す。 また、グループ課題を通して、協調性やコミュニケーション力を身につける。 なお、この科目は「外国語専門職プログラム」対応科目である。
到達目標	自分の関心のあるテーマについて ICT スキルを用いて取り組み、その成果を効果的に発表することができるようになる。
授業方法と留意点	グループでデジタル教材などの作成を目指す。 様々なコンピュータ操作が必須となるため、ファイルやフォルダ、拡張子などの概念は最低限理解しておいてほしい。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の詳細と評価方法の具体的な説明。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
2	デジタル教材の現状	デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
3	文書作成課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
4	文書作成課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
5	文書作成課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
6	プログラミング実習課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
7	プログラミング実習課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
8	プログラミング実習課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
9	表計算課題作成	教育現場で利用可能な表計算ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
10	表計算課題作成	教育現場で利用可能な表計算ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
11	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの編集方法について理解する。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
12	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの編集方法について理解する。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
13	プレゼンテーション作成 (1) 課題作成	教育現場で利用可能なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
14	プレゼンテーション作成 (2) 課題作成	教育現場で利用可能なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	
15	授業の総括プレゼンテーション	授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の発表・評価を行う	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)	

実務経験	
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への積極性・貢献度 30% 課題の達成度 50% ICT スキルの習熟度 20%
学生へのメッセージ	受身の姿勢で受講するのではなく、語学教育にこのように ICT を活用してはどうか、という皆さんからの積極的な提案を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (後藤研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ

	そ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
--	--

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつかかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わることが重要である。
科目学習の効果 (資格)	外国語専門職に関連する資格試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習
	2	Unit 1: 家族	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
	3	Unit 1: 家族	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
	4	Unit 2: 大学生生活	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
	5	Unit 2: 大学生生活	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
	6	Unit 3: 趣味 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
	7	Unit 3: 趣味 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
	8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習
	9	Unit 4: 趣味 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習
	10	Unit 4: 趣味 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
	11	Unit 5: 国際交流 実践演習 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
	12	Unit 5: 国際交流 実践演習 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
	13	Unit 6: 国際交流 実践演習 2	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
	14	Unit 6: 国際交流 実践演習 2	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備
	15	前期まとめ	前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。
学生へのメッセージ	集中力をもって、積極的に授業に参加すること

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習にはしっかりと時間を費やすこと。</p> <p>また、課題の提出期限は厳守すること。</p> <p>随時、教科書以外の教材を使うため、授業計画の変更がある。</p> <p>質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 スペイン語の文章を日本語にする練習。 翻訳とは、単純な語句の置き換えではなく、解釈と表現の両面で熟考を要する作業である。 まず、スペイン語の文章を文法的・論理的に正しくとらえること、次に、それを機械翻訳のような逐語的な訳ではなく日本語らしく表現することを心がける。			
到達目標	スペイン語の様々なジャンル・スタイルの文章を、正確に読み解く力を養うこと。 新聞記事やエッセイ、小説や評論など、ジャンルや書き手による文体の相違（存在）に気づくこと。 日本語とスペイン語の違いを、文法や表現法のレベルで認識すること。 日本語について考えること（文法や言い回し、日本人の言語文化）。 言語が文化そのものであるという認識をもとに、文法的にも文化的にも適当な翻訳ができるようになること。			
授業方法と留意点	予習・復習に相当の時間をかけること。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 Teams、WebFolder およびメールを用いて、課題の提出・添削を行います。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。			
科目学習の効果（資格）	言語能力（文法および論理と表現の面）を鍛えること。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む
	2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
	3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
	4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
	5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。
	9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
	13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
	14	試験	学習内容のすべて。	試験に準備して臨む。
	15	読み物	試験の返却・解説。今期の総括。	まとめ。
実務経験				
関連科目	スペイン語通訳ガイド、外国語通訳法、その他スペイン語のすべての科目。 日本語に関する科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常の課題の取り組み（提出状況と内容の精度）100%			
学生への メッセージ	自分の普段の言語活動についてよく考えよう。いつでもどこでも誰に対しても同じような話し方・書き方をするだろうか。どんな時にどのような言い方を工夫するだろうか。この科目はスペイン語の科目であっても、ほとんど、問題は日本語にあることに気づくだろう。 日ごろから、とにかく、文字（書かれた言語）に触れること、本を読むこと。			
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室			
備考	3分の1以上の欠席は、最終評価が0点となる。遅刻は原則、欠席とカウントする。 事前・事後学習にかかる総時間数は60時間。			

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。日本歴史、文化、地理を中国語で紹介するのに必要な語彙、表現、文法の知識と共に翻訳の技術を学ぶ。また、中国の最新の時事問題に関する教材を用いて、中国語文章を正確に読解する力を身につけます。
到達目標	翻訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、中国語の能力が向上する。 日本語から中国語、中国語から日本語への変換の訓練を通して、中国語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがある。
授業方法と留意点	授業はオンラインで行います。 教科書は身近なトピックと中国の時事を扱い、日本語から中国語、中国語から日本語の多様な練習を行う。予習を前提として、一つ一つ課題をこなして行く。 教科書以外にも翻訳に関する様々な問題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士 中国語検定 2 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	翻訳とはどういうものか 中国語と日本語の違い 辞書や参考書、アプリやツールについての説明	シラバスを読む 課題を取り込む
2	日本食文化の読み物① 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
3	日本食文化の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
4	日本食文化の読み物③ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
5	プレゼンテーション 1	自ら食文化のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練	
6	日本生活文化の読み物① 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
7	日本生活文化の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
8	日本生活文化の読み物③ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
9	プレゼンテーション 2	自ら生活文化のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練	
10	日本年中行事の読み物① 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
11	日本年中行事の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
12	日本年中行事の読み物③ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
13	日本観光文化の読み物① 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
14	日本観光文化の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む	
15	プレゼンテーション 3	自ら観光か年中行事のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練	

実務経験	
関連科目	中国語主言語または共通言語 2 年生対象科目を修了していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	時事中国語の教科書 (2019 年度版)	三瀧正道、陳祖？、古屋順子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	オンライン授業への参加度と提出物：70% 期末発表：30%

学生へのメッセージ	事前、事後の予習と復習は行うこと
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西， 兪， 小都）を通じて問い合わせることもできる。事前・事後学習にかかる総時間数は60時間。

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつかっていた英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わることが重要である。
科目学習の効果 (資格)	外国語専門職に関連する資格試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習にはしっかり時間を費やすこと
	2	Unit 7: 日本の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	3	Unit 7: 日本の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	4	Unit 8: 海外の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	5	Unit 8: 海外の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	6	Unit 9: 社会事情 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	7	Unit 9: 社会事情 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	9	Unit 10: 社会事情 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	10	Unit 10: 社会事情 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	11	Unit 11: 観光	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	12	Unit 11: 観光	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	13	Unit 12: コミュニケーション	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと
	14	Unit 12: コミュニケーション	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備に十分な時間をとること
	15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備には十分な時間をとること

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
------	-------------------------------

Teamsコード	97eptbs
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 70% まとめのテスト 30% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。 詳しくは第1回目の授業で説明する。
-----------	--

学生への	集中力をもって、積極的に授業に参加すること
------	-----------------------

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習にはしっかりと時間を費やすこと。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため授業計画が変更されることがある。

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。日本歴史、文化、地理を中国語で紹介するのに必要な語彙、表現、文法の知識と共に翻訳の技術を学ぶ。また、中国の最新の時事問題に関する教材を用いて、中国語文章を正確に読解する力を身につけます。
到達目標	翻訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、中国語の能力が向上する。 日本語から中国語、中国語から日本語への変換の訓練を通して、中国語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがある。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックと中国の時事を扱い、日本語から中国語、中国語から日本語の多様な練習を行う。予習を前提として、一つ一つ課題をこなして行く。 教科書以外にも翻訳に関する様々な問題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士 中国語検定 2 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本自然文化の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
3	日本自然文化の読み物③ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
4	日本自然文化の読み物④ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
5	プレゼンテーション 1	自ら日本の自然文化のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練
6	日本地理の読み物① 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
7	日本地理の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
8	日本地理の読み物③ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
9	日本地理の読み物④ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
10	プレゼンテーション 2	自ら日本地理のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練
11	日本社会の読み物① 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
12	日本社会の読み物② 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
13	日本社会の読み物③ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
14	日本社会の読み物④ 時事中国語の読み物	日本語から中国語 中国語から日本語	参考文献を読む 課題を取り込む
15	プレゼンテーション 3	自ら日本社会のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練

実務経験	
関連科目	中国語主言語または共通言語 2 年生対象科目を修了していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	時事中国語の教科書 (2019 年度版)	三瀧正道、陳祖？、古屋順子	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
2	中日辞典			
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	967.jhb5
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業参加度と課題の提出：60% オンラインテスト：40%
学生への メッセージ	事前、事後の予習と復習は行うこと
担当者の	

研究室等	
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西， 兪， 小都）を通じて問い合わせることもできる。事前・事後学習にかかる総時間数は 60 時間。

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムに対応する科目であるが、「観光ホスピタリティ」プログラムを選んだ者も履修できる。 通訳という専門的職業とはなにかを理解するために、その歴史、種類、求められる資質や能力、そのプロセス、翻訳との比較などの観点から、通訳という異言語間コミュニケーションの本質に迫る。その後、通訳トレーニングの紹介を通じて、言語コミュニケーションの本質を考える材料を提供し、導入的実践を行うことで履修者は外国語学習の新しい方法を体験する。
到達目標	通訳という職業を理論的に理解するとともに、実践的トレーニングを通じて異言語間コミュニケーションの方法論を学ぶ。
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布と回収にはWebFolderを用いる。 講義形式と実習の両方の要素があり、どちらにも積極的に取り組み、チャレンジしてほしい。
科目学習の効果(資格)	語学力を証明できる唯一の国家資格である「通訳案内士」の資格取得をめざす動機付けとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読んでおく
2	通訳とはなにか	通訳の種類(技術上の分類;分野別の分類)	参考文献を読む
3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む
4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む
5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む
6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む
7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	通訳理論について学んだことを復習し、次回からの実践トレーニングで用いる教材を読む。
8	通訳トレーニング	シャドウイング	参考文献を読む
9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む
10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む
11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む
12	実践編	スペイン語による通訳実践の試み(1)	参考文献を読む
13	実践編	スペイン語による通訳実践の試み(2)	参考文献を読む
14	プロの通訳を迎えて(または授業担当者による通訳業の具体例紹介)	体験談を聴く	参考文献を読む
15	臨時試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、準備を開始する

実務経験	
関連科目	外国語翻訳法

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	w94zray
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	講義内容に対する質問や提案、実習への積極的取組み 80%、学期中の小テスト・臨時試験 20%
学生へのメッセージ	通訳案内士や会議通訳として活躍する人物をお招きする機会をできれば設けます(時期は14回目とは限りません)。 授業のなかで紹介する参考文献をどんどん読み進めてください。とくに、履修予定者は上記の参考書を開講前に読んでおいてください。
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	毎回の授業内容について質問やコメントを求め、次回の授業中にそれに対する説明などのフィードバックを行う。 事前・事後学習に要する総時間数は30時間を目安とする。

科目名	ホスピタリティ論	科目名 (英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。 SDGs-8</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	Teamsを使用し、オンラインで授業を行う。 Power point と配布資料で授業を進めていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。 毎回、あらかじめ Teams にアップされている、配布資料と小レポートをダウンロードしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む (4時間)
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4時間)	
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4時間)	
4	事例研究1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)	
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4時間)	
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4時間)	
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。(4時間)	
8	事例研究2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足NO.1のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)	
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4時間)	
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4時間)	
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)	
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。(4時間)	
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4時間)	
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。(4時間)	
15	まとめ	授業全体のまとめ	15回分の復習をする (4時間)	

実務経験	
------	--

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目 (2015年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末課題レポート 50%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰も最初からできる人はいません。かまわずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）
備考	テストのフィードバックは個々に対応。

科目名	ホスピタリティ論	科目名 (英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。 SDGs-8</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	Teamsを使用し、オンラインで授業を行う。 Power point と配布資料で授業を進めていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。 毎回、あらかじめ Teams にアップされている、配布資料と小レポートをダウンロードしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む (4時間)
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4時間)	
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4時間)	
4	事例研究1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)	
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4時間)	
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4時間)	
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。(4時間)	
8	事例研究2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足NO.1のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)	
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4時間)	
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4時間)	
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)	
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。(4時間)	
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4時間)	
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。(4時間)	
15	まとめ	授業全体のまとめ	15回分の復習をする (4時間)	

実務経験	
------	--

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目 (2015年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末課題レポート 50%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰も最初からできる人はいません。かまわずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)
備考	テストのフィードバックは個々に対応。

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	訪日外国人の増加や2020年東京オリンピック・パラリンピック、開催が決まった大阪関西万博に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。また、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	Teamsを使ったリアルタイム授業とする。履修者は時間割の授業時間に Teams に参加してください。 パワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を Teams に添付するので、重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入してください。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となっている要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習し
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	特になし。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回は引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
13	ホテルの組織と仕事(1)宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
14	ホテルの組織と仕事(2)料	前回は引き続き、料飲部門、宴会部門、	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積	

		飲・宴会部門など	管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
実務経験				
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業終了時、出席確認を兼ねた授業に関する小レポートを Teams で提出。小レポートの提出は7回以上必要。 定期試験のかわりとなるレポート課題60%、このレポートを提出しないと評価の対象とならないので必ず提出のこと。 毎回の授業後に提出する小レポート40%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、開催が決まった2025年大阪関西万博に向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)			
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	訪日外国人の増加や2020年東京オリンピック・パラリンピック、開催が決まった大阪関西万博に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。また、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	Teamsを使ったリアルタイム授業とする。履修者は時間割の授業時間に Teams に参加してください。パワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を Teams に添付するので、重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入してください。授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となっている要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習し
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立つ事ができる (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	特になし。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
13	ホテルの組織と仕事(1)宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
14	ホテルの組織と仕事(2)料	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積	

		飲・宴会部門など	管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
実務経験				
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業終了時、出席確認を兼ねた授業に関する小レポートを Teams で提出。小レポートの提出は7回以上必要。 定期試験のかわりとなるレポート課題60%、このレポートを提出しないと評価の対象とならないので必ず提出のこと。 毎回の授業後に提出する小レポート40%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、開催が決まった2025年大阪関西万博に向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)			
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	エアラインビジネス論	科目名 (英文)	Airline Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2220a0		

授業概要・目的	日本の主要航空会社で空港接客部門、整備管理部門、グランドハンドリング会社や予約販売会社で長年にわたり、人事、総務、経営部門を担った実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協働体制について、実務経験をとおして講義することにより、航空企業での業務実態を説明する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしりがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。
授業方法と留意点	Teamsを使ったリアルタイム授業とする。履修者は時間割の授業時間に Teams に参加してください。パワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を Teams に添付するので、重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入してください。授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票を兼ねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となっている要点についてパワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくこと
科目学習の効果 (資格)	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する (特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和まで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
4	我が国の航空自由化	45・47 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
6	ハブ&スポーク (自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
7	グローバル・アライアンス (自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社が実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足 (CS) を満たすには、まず従業員満足 (ES) を満たす必要がある。CS と ES の重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)	
13	航空会社の仕事	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの	

		コントロール・PILOT	また、運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。	要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)
	14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多岐にわたる。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく機内サービスの努力と工夫について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2時間)
実務経験				
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	航空産業入門第2版	ANA総合研究所	東洋経済新報社
	2	エアラインオペレーション入門	ANA総合研究所	ぎょうせい
	3	数字で見る航空(2018)	国土交通省航空局	航空振興財団
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	vc14epg			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	Teamsの投稿欄			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業終了時、出席確認を兼ねた授業に関する小レポートをTeamsで提出。小レポートの提出は10回以上必要。定期試験にかわるレポート課題60%。このレポートを提出しなければ評価の対象とはならないので必ず提出のこと。毎回の授業後に提出する小レポート40%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか?実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分かり易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)			
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出してもらいます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックします。			

科目名	エコツーリズム論	科目名 (英文)	Ecotourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2221a0		

授業概要・目的
 エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。
 本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。

なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。

到達目標
 1. エコツーリズムについて理解し、説明できる
 2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る

授業方法と留意点
 投影資料の利用による講義形式を基本とするが、資料収集等の個人作業等を取り入れる。

科目学習の効果 (資格)
 旅行業務取扱管理者等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
2	マストツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
3	マストツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
4	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
5	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
6	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
7	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
8	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
9	エコツーリズムを体験する 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
10	エコツーリズムを体験する 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
11	エコツーリズムを体験する 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1時間以上)

実務経験
 観光ホスピタリティプログラム関連科目 (ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Moodle
 Teams コード
 Moodle コース名 2020 エコツーリズム論
 および登録キー 202055
 連絡手段 学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館5階（手代木研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	イベント企画論	科目名 (英文)	Event Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3222a0		

授業概要・目的	This course will be examine tourism events in the leisure industry around the world. An overview of the history, reasons for holding the events, planning and organization of events will provide the focus of the course. ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」および「メディアビジネス」プログラムの対応科目です。
到達目標	Students will demonstrate an understanding of the roles and significance of tourism events and experiences in past and present societies, and knowledge of the factors surrounding the process of organizing an event. Students will work collaborat
授業方法と留意点	Students will research events in Japan for homework prior to the class. The lecture will then introduce similar events in other countries. The class will be interactive including a mini-lecture, note-taking in English, group discussion, and a conte
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Leisure Behaviour and the Event Industry / Note taking / Research on Japanese events	An introduction to the course, This class is very important to attend.	Find out about 1 music festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	2	Iconic Music Events & Planning	Pair share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Research 1 event you would like to attend in Kansai.
	3	Event project plans	Project-based groups made Events decided. This is an important class to attend	Find out about 1 food festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	4	Food Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 religious festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	5	Religion-based Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 political event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	6	Political Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 beer or wine event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	7	Beer and Wine Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 flower event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	8	Flower Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 sporting event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	9	Sporting Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 comedy event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	10	Comedy Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 christmas event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	11	Christmas Market Events & Planning	Group share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Prepare information for your powerpoint presentation to discuss with your group / text in English / video / photos
	12	Event Project group - division of work - English check	Example of 2017 powerpoint presentations shown	Portfolio summaries collected (9 events at least 100 words each event) Event Presentations (1) to send powerpoint files
	13	Event Presentations (1)	Evaluations	Event Presentations (2) to send powerpoint files
	14	Event Presentations (2)	Evaluations	Event Presentations (3) to send powerpoint files
15	Event Presentations (3)	Evaluations	Final sum-up	

実務経験									
関連科目	「観光ホスピタリティ」や「メディアビジネス」プログラムの他の科目など。								
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	Group-based Attendance at an event & Presentation about that event 30% In-lecture quizzes on class content 30% Portfolio of Research about events in Japan 20% Class attitude - participating, using English, talking, asking questions 20%			
学生への メッセージ	Enjoy finding out about events all over the world while using English in a meaningful way.			
担当者の 研究室等	7号館5階田浦研究室			
備考	事前・事後学習にかかる総時間は60時間です。			

科目名	アーバンツーリズム論	科目名 (英文)	Urban Tourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3223a0		

授業概要・目的	都市には多くの旅行者が訪れているが、都市におけるツーリズムが学術的な研究の対象となってきたのは意外に最近である。本講義は、都市におけるツーリズムとその存在条件、都市とツーリズムとの関係性などについて幅広く検討するアーバンツーリズム論の主要なトピックについて学び、都市・地域の視点から観光を捉える見方を身に付けることを目的とする。
到達目標	※本授業は、「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。 アーバンツーリズム論に関する基礎知識を習得し、具体的な対象事例・地域について分析したり、客観的なデータを提示しながら自らの考えを述べることができる。
授業方法と留意点	アーバンツーリズム論についての講義を聴き、理解度を問う小課題に取り組む。また、関連テーマについて学期末にレポートを作成・提出する。
科目学習の効果(資格)	将来的に観光産業に関連する進路に進みたい学生や、卒業研究で観光に関するテーマを扱いたい学生にとっては、この授業が自らの関心について探求することに貢献できると考えている。もちろん、その他の受講者も幅広く歓迎する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	都市とツーリズム	授業の進め方や評価について述べる。都市およびツーリズムとその研究の概要について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
2	都市研究の視点(1)	都市地理学を中心とする都市研究の基礎的な方法・視点・課題について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
3	都市研究の視点(2)	都市地理学を中心とする都市研究の基礎的な方法・視点・課題について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
4	都市研究の視点(3)	都市地理学を中心とする都市研究の基礎的な方法・視点・課題について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
5	インターネット、メディアとツーリズム	インターネットとメディアが都市とツーリズムをいかに変容させたかについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
6	ツーリストとその行動	ツーリストの行動メカニズムについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
7	企業とツーリズム	観光産業を支える企業とその経営行動について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
8	地域振興とツーリズム(1)	各地域における地域振興について、ツーリズムとの関係から検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
9	地域振興とツーリズム(2)	各地域における地域振興について、ツーリズムとの関係から検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
10	都市とコンテンツ・ツーリズム	都市におけるコンテンツ・ツーリズムの展開について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
11	アーバンツーリズムと伝統	アーバンツーリズムにおいて「伝統」が果たす役割や位置づけについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
12	アーバンツーリズムと美食	アーバンツーリズムにおいて美食がどのような役割を果たすのかについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
13	アーバンツーリズムと再開発	アーバンツーリズムの展開にもなって生じる開発とそれが含む諸問題について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
14	アーバンツーリズムと異文化	アーバンツーリズムの展開にもなって生じる異文化接触とその問題について、事例を紹介しつつ検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)
15	アーバンツーリズムとイノベーション、創造性	アーバンツーリズムにおいてイノベーションと創造性が果たす役割について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する(事後学習、2時間)

実務経験	
関連科目	「エコツーリズム論」「風土と地理」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光学ガイドブック	大橋 昭一ほか編著	ナカニシヤ出版
2	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	
および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	学期末レポート70%、小課題への取り組み(理解度の確認、質疑・コメント)30%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	コメントシートやレポートへのフィードバック(提出物へのコメントや質問への回答)は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室にて行う。

科目名	メディア文化論	科目名 (英文)	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2224a0		

授業概要・目的	<p>私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているのでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。</p> <p>なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。</p> <p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p>
到達目標	<p>(1) メディアリテラシーが身についている</p> <p>(2) さまざまなメディアの特性について理解している</p> <p>(3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル (メディア技法) を身につけている</p>
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とします。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook、twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているのでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	
3	まわしよみ新聞を作る (1)	インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作成し、新聞に触れるとともに情報を編集・加工・発信するとはどういうことなのかを学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1 週間以内の新聞を持ってきましょう。	
4	まわしよみ新聞を作る (2)	前回の授業で作成したまわしよみ新聞を各編集グループごとに発表し、まわしよみ新聞を作ることによって何を行ってきたのか、そこにどのような学びがあったのかを話し合います。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	
5	たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか? (1)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』ちくまプリマー新書、2014 年を読んでみましょう。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	
6	たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか? (2)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』ちくまプリマー新書、2014 年を読んでみましょう。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	
7	たったひとつの「真実」なん	森達也『たったひとつの「真実」なんて	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真	

		てない—メディアは何を伝えているのか? (3)	ない—メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?』ちくまプリマー新書、2014年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
	9	映像を撮る—世界を切り取るということ (1)	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
	10	映像を撮る—世界を切り取るということ (2)	受講生が撮影した映像を鑑賞し、映像を撮るということの意味について話します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	11	映像を編集する—切り取った世界を加工すること	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。

実務経験

関連科目

メディアビジネスプログラム科目 (2015年度入学生)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない—メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	この授業は、授業内課題（リフレクションシート）15%、ワークショップ30%、講義内容に関連する課題調査10%、期末試験45%で評価します。
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp （[*]を半角の@に置き換え）
備考	

科目名	マスコミ論	科目名 (英文)	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2225a0		

授業概要・目的	「マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する。一方で、「報道とは何か」というジャーナリズムの根幹やその変遷について考え、マスコミの将来について考えたい。 ※この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。
到達目標	マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基づく、判断ができる能力の開発を目指す。
授業方法と留意点	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。
科目学習の効果 (資格)	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	マスコミって何だろう 1	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNS はマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
3	マスコミって何だろう 2	新聞記事を基に 5 W1H を考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
4	マスコミって何だろう 3	ニュース記事を書いてみる 5 W1H を意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
6	報道を考える 1	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
7	報道を考える 2	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
8	報道を考える 3	ジャーナリストはなぜ疑い深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
10	報道と情報 1	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。 四つの疑問 (①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
11	報道と情報 2	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。 四つの疑問 (①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
12	報道と情報 3	information と intelligenen の違い 四つの疑問 (①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
13	報道と情報 4	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。
15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。

実務経験

関連科目

メディアビジネスプログラムの他の科目など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題・レポート(70%)、授業への取り組みなど(30%)により、総合的に評価する。
学生への メッセージ	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけでなく、新聞、テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってくだ
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師控室) 学習支援センター
備考	事前・事後学習にかかる総時間は15時間です。 課題や発表に対してはそのつどフィードバックを行います。 全国紙などで30年間、経済部記者を中心に現場で記事を書いた。

科目名	メディアリテラシー論	科目名 (英文)	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2226a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
	2	新聞とニュースについて (1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
	3	新聞とニュースについて (2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
	4	新聞とニュースについて (3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
	5	テレビについて (1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
	6	テレビについて (2)	NHKと民放 NHKの受信料問題 テレビの番組編集・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHKと民放の違いについて考えてみる。 NHKの受信料問題についての各自の考えをまとめる。
	7	テレビについて (3)	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
	8	メディアと広告	広告・CMの影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビCMが喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
	9	メディアと〈権力〉	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての〈資本〉	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
	10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
	11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
	12	ソーシャルメディアについて (1)	コミュニケーション空間としてのSNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
	13	ソーシャルメディアについて (2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
	14	ソーシャルメディアについて (3)	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が必要かについて各自の考えをまとめる。
	15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

実務経験	
関連科目	メディアビジネスプログラム科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
	2	池上彰に聞くどうなってるの?ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版

	3	信じてはいけない：民主主義を壊すフェイクニュースの正体	平和博	朝日新聞出版
授業形態	Moodle			
Teams コード	kaw1w2g			
Moodle コース名 および登録キー	media			
連絡手段	Teams			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館4階 (有馬研究室)			
備考	事前事後学習 計60時間 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。			

科目名	クリエイティブビジネス論	科目名 (英文)	Creative Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2227a0		

授業概要・目的	<p>本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のコンテンツ・クリエイティブ業界（放送、映画、出版、音楽等）の産業構造とビジネスモデル、およびメディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界の企業による取り組み事例について、経営学及び産業論の観点から解説する。本講義の目的は、情報通信ネットワーク技術とコンテンツ技術の発展が、業界構造やビジネスのあり方に与える影響と変化を理解することである。</p> <p>なお、この科目は「メディアビジネス」プログラムの対応科目である。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 代表的なコンテンツ・クリエイティブ業界の市場規模、産業構造について説明ができる。 代表的なコンテンツ・クリエイティブ業界のビジネスモデルについて説明ができる。
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教材資料は配布プリントを使用します。開講日3日前にWebFolderにアップロードしておくので、各自入手し内容確認しておいてください。 授業は以下のように進めます。 <ul style="list-style-type: none"> 前半：教材資料の解説（音声解説資料も準備する予定） 後半：補足解説、質疑 講義内容は、遠隔配信・受講に利用するネットワーク環境の状態によって変更する場合があります。変更する場合は、教材資料と同様に伝達事項をまとめたテキストデータをWebFolderにアップして伝えます。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	主に以下について解説する。 ・コンテンツビジネスとは ・講義の進め方、評価について	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)
2	放送業界 (1)	主に以下について解説する。 ・放送業界の市場と産業構造 ・放送業界のビジネスモデル ・放送番組の制作過程 ・放送法ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
3	放送業界 (2)	主に以下について解説する。 ・放送のデジタル化 ・ネット配信事業者 (Amazon, Hulu など) ・放送業界の現状と今後ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
4	レポートとグループワーク	Teams上でグループワーク及びレポート作成を行う。	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
5	映画業界 (1)	主に以下について解説する。 ・映画業界の市場と産業構造 ・映画業界のビジネスモデル ・映画作品の制作過程 ・資金調達ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
6	映画業界 (2)	主に以下について解説する。 ・米国の映画産業 ・映画のデジタル配信 ・映画業界の現状と今後ほか	予習：事前課題（世界と日本のコンテンツ比較について）について作成しておくこと。 復習：グループディスカッションの内容をまとめたレポートを作成しておくこと。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
7	レポートとグループワーク	Teams上でグループワーク及びレポート作成を行う。	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
8	出版業界	主に以下について解説する。 ・出版業界の市場と産業構造 ・出版業界のビジネスモデル ・再販売価格維持制度 ・出版業界の現状と今後ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
9	音楽業界	主に以下について解説する。 ・音楽業界の市場と産業構造 ・音楽業界のビジネスモデル ・著作権（原盤権、著作隣接権等） ・音楽業界の現状と今後ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60分、復習 30分程度)	
10	レポートとグループワーク	Teams上でグループワーク及びレポート作成を行う。	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。	

				復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	11	自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車業界の現状 ・自動運転と ICT ・自動車ビジネスへの新規参入企業 ・テスラ、トヨタ等の取り組みほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	12	時計業界	主に以下について解説する。 ・時計（時間計測器）の歴史 ・スマートウォッチ ・時計業界の現状と今後ほか	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	13	関連業界	主に以下について解説する。 ・関連業界の最新動向	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	14	レポートとグループワーク	Teams 上でグループワーク及びレポート作成を行う。	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	15	まとめとテスト	主に以下について取り上げる ・本講義のまとめ ・テスト	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)

実務経験

関連科目 経営学部実施科目 (ICT 概論、メディア戦略論)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Web Folder

Teams コード j23ap56

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。
メールアドレス：

評価方法 (基準) レポート (60%)、テスト (40%) で評価する。
講義中の質疑内容についても加点する場合もあり。

学生へのメッセージ 新型コロナウイルス予防のため、在宅受講となります。Teams 上でのオンライン型で行いますが、通常の対面講義同様にビデオ通信を取り入れ質疑を積極的に進めていく予定です。

担当者の研究室等 11 号館 7 階 (針尾准教授室)

備考 講義で取り扱う業界とその内容については、受講生の関心や情勢にあわせて変更する場合があります。
事前・事後学習にかかる総時間は 60 時間です。

科目名	ビジュアルデザイン論	科目名 (英文)	Visual Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井岡 詩子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3228a0		

授業概要・目的	この科目は「メディアビジネス」プログラム対応科目です。商品のパッケージや広告、企業や行政によるポスター、SNS上のプロモーションなど、わたしたちの身の回りにはビジュアルデザインが溢れています。これらの視覚情報は、見る者に対して直接的かつ簡潔にメッセージを伝えと同時に、巧みなイメージ操作によって人々の価値観にはたらきかけもします。ビジュアルデザインとは、真実や虚構、政治や欲望のないまぜになった複雑な領域なのです。この授業では、ビジュアルデザイン（視覚情報）を読み解くための方法と、さまざまなビジュアルデザインが生み出され利用されてきた歴史上の事例（おもにヨーロッパの近代以降の事例）を学び、視覚情報を批判的に見るための知識と姿勢を身につけます。
到達目標	ビジュアルデザインをはじめとする作画的な視覚情報を批判的に見る力を養うとともに、視覚情報を言葉で説明できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	音声付きパワーポイント（動画ファイル）により講義をおこないます（Moodleを通して公開）。課題として文章だけでなく画像の提出を求める場合がありますが、スマートフォン等のカメラで撮影したファイルで十分です（特別なアプリケーションソフト等は必要ありません）。提出物の内容を講義で紹介する場合があります。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要と進め方について、ビジュアルデザインとは何か	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
2	ビジュアルデザインの構成と読解	記号論の基礎的な概念と考え方	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
3	ビジュアルデザインの構成と読解	記号論の応用(ロラン・バルトの広告論と日本文化論)	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
4	ビジュアルデザインの構成と読解	単純な図形と色彩の効果について	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
5	ビジュアルデザインの構成と読解	ファインアートと「商品」について	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(270分)
6	写真とデザイン	写真の誕生、初期写真と絵画の関係について	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
7	写真とデザイン	複製技術の理論と応用(ヴァルター・ベンヤミン、アンドレ・マルローほか)	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
8	写真とデザイン	報道写真(ロバート・キャパとユージン・スミス)	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(270分)
9	肖像とデザイン	セルフイ(クロード・カーアンとシンディ・シャーマン)	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
10	肖像とデザイン	オートポートレート(自画像と森村泰昌)	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
11	肖像とデザイン	名もなき人々の肖像と記憶、「顔」について	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(270分)
12	プロパガンダとデザイン	モダン・デザインと広告について	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
13	プロパガンダとデザイン	戦時下の広報政策について(ドイツ、日本ほか)	最事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
14	プロパガンダとデザイン	「科学」と生政治	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分) 事後:授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(270分)
15	総括	授業内容の振り返りと小レポートへの	事前:Moodleから資料をダウンロードする。(30分)

			フィードバック	事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。自身の小レポートを見直す。(270分)
実務経験				
関連科目	他の「メディアビジネス」プログラム対応科目など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イメージと意味の本 記号を読み解くトレーニングブック	ショーン・ホール著、前田茂訳	フィルムアート社
	2	絵には何が描かれているのか 絵本から学ぶイメージとデザインの基本原則	モリー・バング著、細谷由依子訳	フィルムアート社
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020visual_design			
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回、授業の内容に関するアンケートを実施し、理解度を測ります。また、各テーマの最後に小レポートを課します。成績評価の内訳は、アンケート30%、小レポート70%です。なお、出席数が3分の2に達するものを成績評価の対象とします。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	アンケートや小レポートに関する相談・質問等はメールにてご連絡下さい。			

科目名	地域環境論	科目名 (英文)	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2229a0		

授業概要・目的	<p>環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。</p> <p>この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。 SDGs-13</p>																																																																		
到達目標	<p>1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本としますが、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもあります。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>環境を学ぶための基礎知識1</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境を学ぶための基礎知識2</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>環境を学ぶための基礎知識3</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>環境を学ぶための基礎知識4</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>環境と自然災害1</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>環境と自然災害2</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>環境と自然災害3</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>環境と自然災害4</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地球環境問題1</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地球環境問題2</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地球環境問題3</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>身近な地域の環境1</td> <td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>身近な地域の環境2</td> <td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>身近な地域の環境3・授業のまとめ</td> <td>全体のまとめ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	国際教養プログラム関連科目 (暮らしの中の文化、多文化共生論等)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	2020 地域環境論 202055																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			

担当者の研究室等	7号館5階(手代木研究室)
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	暮らしの中の文化	科目名 (英文)	Cultures in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2230a0		

授業概要・目的	<p>【いかにイメージは「当たり前」を決めるのか】</p> <p>西洋における「生活と芸術」の関係に注目する。ルネサンスの芸術という「高級」な絵画や彫刻という印象が強く、意味が「難解」で理解しづらいと考える人は多い。しかし実際には多くの表現が、市井の人びとが日々生活していく時間に寄り添い、ときには人びとを厳しくしつけ、またあるときは人びとを癒やすように作用した。芸術作品と文字資料を対比することで浮かび上がるのは、かつて遠い異国の地に暮らし始めた人びとが成長とともに向かい合った困難の記録である。その記録は、現代を生きるわたしたちが抱える困難の隠された側面に光を当て、それらと真摯に向かい合うヒントにもなるだろう。</p> <p>※ この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。</p> <p>以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること。</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼少期に触れる視覚イメージはいかに本人の成長と結びつくのか。 2. 親子関係を表わす視覚イメージはいかに家族のかたちを整えていくのか。 3. 結婚に関わる視覚イメージはいかに社会の制度を変えていくのか。
------	--

授業方法と留意点	<p>【Moodle と Zoom によるリアルタイムオンライン講義】</p> <p>[Moodle]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクセスキーで「暮らしの中の文化 (2020)」に登録する。 2. 当該コースで、授業日程、Zoom ミーティング URL、各回の配付資料を確認する。 3. 授業当日までに配付資料をプリントアウトし、目を通しておく。 <p>[Zoom]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 使用する PC もしくはスマートフォンに Zoom アプリをインストールしておく。 2. 授業 3 分前までに Moodle で確認した URL をクリックして Zoom をスタンバイする。 3.
----------	---

科目学習の効果 (資格)	西洋文化の精神性の理解 [学芸員資格]
--------------	---------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。
2	前提#1	「家族関係」 老いた父と若い母について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
3	前提#2	「対象関係」 自分と他人について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
4	母親	「マリア」 母親と授乳について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
5	乳母	「モーセの母」 乳母と捨て子について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
6	男児	「洗礼者ヨハネ」 男児と教育について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
7	女兒	「聖女たち」 女兒と教育について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
8	親子	「アブラハムとイサク」 親子と服従について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
9	結婚	「マリアとヨゼフ」 結婚と嫉妬について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
10	両家	「侯爵とグリゼルダ」 両家と資産について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
11	夫婦	「ソロモンとシバの女王」 夫婦と会話について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	
12	老年	「スザンナと長老」	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。	

			老年と貞節について解説する。	問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後：自分の質問に自分で応答を試みる (90 分)。																
	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60 分)。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。																
	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前：対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60 分)。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。																
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後：自分の家族観を構成したと思われる視覚イメージを振り返りつつ、あらためて当該イメージを再鑑賞する (240 分?)																
実務経験																				
関連科目	芸能文化論／芸術論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>もうひとつのルネサンス</td> <td>岡田温司</td> <td>平凡社ライブラリー</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>家族論</td> <td>レオン・バットィスタ・アルベルティ</td> <td>講談社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ルネサンスの聖史劇</td> <td>杉山博昭</td> <td>中央公論新社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	もうひとつのルネサンス	岡田温司	平凡社ライブラリー	2	家族論	レオン・バットィスタ・アルベルティ	講談社	3	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	もうひとつのルネサンス	岡田温司	平凡社ライブラリー																	
2	家族論	レオン・バットィスタ・アルベルティ	講談社																	
3	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社																	
授業形態	Moodle／Zoom																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	暮らしの中の文化 (2020) euclase																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	1. 毎回の質問 [80%] 2. 実習課題 [20%]																			
学生への メッセージ	1. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「論理性」と「好奇心」である。 2. 居眠りは質問レベルを下げる要因となるため体調は整えてもらいたい。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室																			
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。																			

科目名	グローバル社会と日本	科目名 (英文)	Japan and Globalization
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3231a0		

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には16世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各單元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果 (資格)	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
4	それは16世紀に (1)	グローバル化が本格的に始まった時代	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
5	それは16世紀に (2)	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
6	それは16世紀に (3)	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
7	戦争と出会い (1)	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	
8	戦争と出会い (2)	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	
9	戦争と出会い (3)	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。	
10	戦争と出会い (4)	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
11	宗教と出会い (1)	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
12	宗教と出会い (2)	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
13	宗教と出会い (3)	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
14	宗教と出会い (4)	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
15	宗教と出会い (5)	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	

実務経験	
関連科目	世界の宗教

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40点)、②レポート (30点)、③レスポンスペーパー (30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイル
-----------	---

学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業のものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明
-----------	---

	できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠か
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。 緊急の場合は非常勤講師控室（7号館2階）を訪ねてください。

科目名	共同体論	科目名 (英文)	Theory of Community
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3232a0		

授業概要・目的	エスニック・マイノリティとセクシュアル・マイノリティに対するイギリスのコミュニティ・ケアの実践を通して、共同体（コミュニティ）と国家・地域・家族・個人との関係性について考えていく。焦点をあてるのは、エスニック・マイノリティとしての移民と、セクシュアル・マイノリティとしてのLGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）である。彼らは、1970年代以降、独自のコミュニティや文化を形成してきたが、それはマジョリティの「コミュニティ」とは一線を画すものであった。本講義では、法制度の整備を中心とする政府主導の改革だけでなく、民間の取り組みやマイノリティ側からの権利要求にも注目しながら、マイノリティ集団を社会統合していくうえでの諸問題を、グローバルイゼーションと多文化主義をキーワードに考察する。 ※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	共同体（コミュニティ）を、国家・地域・家族・個人とのかかわりのなかで多層的にとらえる視点を身に付ける。
授業方法と留意点	パワーポイントをもちいて授業をおこなう。
科目学習の効果（資格）	グローバル社会のなかで共同体（コミュニティ）がもつ可能性について広く学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会的マイノリティの共同体	マイノリティ集団が作り出す独自の共同体について考察する。	代表的なマイノリティ問題を整理し、イギリスと日本の具体例を調べてくる。
3	セクシュアル・マイノリティの歩み	LGBT という言葉が誕生するまでのセクシュアル・マイノリティの歩みを概観する。	LGBT という言葉が生まれた背景を調べてくる。
4	同性婚というゴール	セクシュアル・マイノリティによる権利要求運動について考える。	同性婚をめぐる世界の動きについて調べてくる。
5	LGBT コミュニティの形成と多数派社会との軋轢	LGBT 独自のコミュニティ形成と、多数派社会との衝突について考察する。	LGBT コミュニティの特徴を、日本とイギリスとで比較検討する。
6	LGBT の社会統合	多様な性のあり方を認める社会の実現に向けた取り組みについて考える。	LGBT を社会統合していく上での問題点をまとめる。
7	映画『ぼくのバラ色の人生』を読む	性同一性障碍と子どものLGBTについて考える。	「親」の立場から子どものLGBTについて考えてくる。
8	中間テストと解説	中間テスト（論述問題）を実施し、その解説を通して、前半の授業を振り返る。	前半の授業内容のポイントを整理する。
9	Brexit の衝撃	イギリスのEU 離脱（Brexit）が移民問題といかなるかわりをもっているかについて考える。	Brexit がもたらした影響についてまとめる。
10	イギリスにおける移民の歴史	1960年代から現代に至るまでの移民の歴史をたどり、移民問題の概要をおさえる。	イギリスにおける移民の歴史を年表の形で整理する。
11	多文化主義の実践	学校や共同体レベルで取り組まれている多文化主義の実践例について学ぶ。	各共同体の特徴に応じた対策例を表にまとめる。
12	移民コミュニティとイギリス社会	移民コミュニティが抱える問題を、イギリス全体の社会問題とリンクさせる。	当事者、共同体、国家、という複数の観点からエスニック・マイノリティをめぐる問題を整理する。
13	映画『ベッカムに恋して』を読む	エスニック・マイノリティのなかのジェンダー問題、世代格差の問題について考える。	授業中に配布される「あらすじ」を読み、結末を予想してくる。
14	ポスト多文化主義社会の構築に向けて	多文化主義が抱える諸問題を克服するために必要なことは何か考える。	多文化主義を乗り越えるための具体策を考えてくる。
15	小テストと総括	・小テストの実施と解説 ・まとめ	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

実務経験	
関連科目	多文化共生論、グローバル社会と日本

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	2回のテスト（1回50点、計100点）の総合点で評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	現在、われわれが直面している深刻な社会問題を扱います。世界の動きにアンテナを張りながら、高い問題関心をもって授業にのぞんでください。
担当者の研究室等	7号館4階（林田研究室）
備考	事前・事後学習の総時間数は60時間。 中間テストに関するフィードバックは第9回目の授業で、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。

科目名	多文化共生論	科目名 (英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3233a0		

授業概要・目的	世界にはなぜ多様な文化が並存しているのだろうか。それらはいかに形成され盛衰するのだろうか。本講義では、文化と多様性についての様々な立場の中に位置づけながら、文化進化論の枠組みを紹介し、批判的な検討を行いつつ、多様な文化とその共存について考える視点を養うことを目的とする。 ※本授業は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	文化の多様性と変容に関する主要な概念と知識、その限界について理解し、説明できる。また、文化的多様性をめぐる問題について、具体的な事例やデータを示しながら論じることができる。
授業方法と留意点	講義を聴き、小課題を通じて自らの見方を養う。学期末に関連テーマのレポートを提出する。
科目学習の効果 (資格)	文化、多様性、共生、寛容などの抽象的なコンセプトについて、具体的な事例とデータを示しながら議論する力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	文化とその多様性への種々のアプローチ	文化・多様性・共生についての従来の研究の主要な論点、議論について解説する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
3	文化とその多様性への進化的アプローチ (1)	文化とその多様性を捉える文化進化論の枠組と背景知識について説明する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
4	文化とその多様性への進化的アプローチ (2)	文化とその多様性を捉える文化進化論の枠組と背景知識について説明する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
5	文化進化とその法則	これまでに見いだされた文化進化の諸法則について紹介する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
6	人類の歴史にみる文化進化 (1)	人類史上における文化の多様性とその変動についての実証研究を紹介する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
7	人類の歴史にみる文化進化 (2)	人類史上における文化の多様性とその変動についての実証研究を紹介する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
8	様々な民族にみる文化とその多様性	様々な民族にみる文化とその多様性がいかに形成、変容したのかについて実証研究をもとに議論する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
9	研究開発と学問の進化	学問的な知識の形成と盛衰について、その社会的背景に注目しながら議論する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
10	経済現象にみる文化進化 (1)	経済活動にみる多様性とその変化について実証研究をもとに検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
11	経済現象にみる文化進化 (2)	経済活動にみる多様性とその変化について実証研究をもとに検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
12	暴力へのアプローチ	暴力のメカニズムやその様相の変化について、データや実証研究をもとに検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
13	寛容性と幸福へのアプローチ	寛容性と主観的幸福について、データや実証研究をもとに検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
14	現代社会における価値観の世代間差	多様性を許容する価値観の普及とその背景について実証研究をもとに検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
15	多文化の共生に向けて	本講義の内容を整理し、文化をいかに捉え向き合うかについてディスカッションする。	ディスカッションの成果を整理する (事後学習)。

実務経験	
関連科目	「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化進化論	メスーディ、A.	NTT 出版
2	文化的進化論	イングルハート、R	勁草書房	
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	801b3j5
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール、個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	最終レポート 70%、授業への取り組み (課題、コメント・質疑) 30%

(基準)	
学生へのメッセージ	担当教員が紹介する見方は、先達の議論の中で洗練されたものである。それを知ることは重要だが、その中に唯一の「正解」を探すことにはあまり意味がない。みずから、異文化に対してどのように向き合うか、そして自らの行動原理に影響をおよぼす文化をどのように捉えるかを考えるきっかけとして、授業を活用してもらいたい。
担当者の研究室等	
備考	コメントシートやレポートへのフィードバック（提出物へのコメントや質問への回答）は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室にて行う。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト Unit 1 Our Garden	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 精読テキストUnit 1を始める	下読みと単語調べ、, exerciseの予習 (2時間)
	2	1 Our Garden—be動詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	3	2 Do you trust your GPS? 3 The History of the Village—一般動詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	4	4 Waiting for a Plane 5 Where are my socks?—代名詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	5	6 Are you all right? 7 Checking in at a Hotel—数詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	6	8 Tour Schedule 9 House for Sale—前置詞・接続詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	7	10 The City 11 Our Company—助動詞・完了形	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	8	12 At the Hospital 中間テスト	前半の既習内容の確認テスト	前半の既習内容の復習(テスト勉強) (2時間)
	9	12 At the Hospital 13 Packing Your Bags—県警代名詞・命令文	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	10	14 A Train Ticket 15 Airport Forms—関係副詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	11	16 During the Flight 17 What kind of person?—不定詞・動名詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	12	18 At the Hotel 19 Driving Instructions—形容詞・副詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	13	20 A Lovely Blouse 21 How was your room?—疑問詞・未来形	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	14	22 What happened? 23 Shopping—可算名詞・不可算名詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習 (2時間)
	15	期末テスト	後半の既習内容の確認テスト	前半の既習内容の復習(テスト勉強) (2時間)

実務経験

関連科目 英語II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Here and There (「読解と基本文法で極める総合英語」)	Terry O'brien / 三原京 他2名	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 中間及び期末テスト、発表、提出物、授業態度 70%
学生への メッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習をしっかりしましょう。 積極的な授業参加を期待します。 英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	Moodleによる遠隔授業を行います。教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。自分で電子辞書や紙の辞書を引いてください。提出期限内に余裕を持って出してください。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。4回を超える未提出、つまり欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト 1 世界の結婚式	授業の進め方など説明 Chapter 1を始める	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	2	1 世界の結婚式	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	3	2 世界の葬式と埋葬文化	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	4	3 世界の成人式	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	5	4 世界のトイレ事情	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	6	5 世界のお酒	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	7	6 世界の不思議な食べ物	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	8	7 女性の地位	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	9	8 ギリシャ神話と日本神話の共通点	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	10	9 子供の遊び	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	11	10 オリンピック	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	12	11 不思議な風習	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	13	12 宗教と言語観と自然観	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	14	13 左右が文化に与える影響	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。
	15	14 待ち合わせと文化	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習(2時間) 提出期限を確認し、1日程度余裕を持って提出するように。

実務経験	
関連科目	英語Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Cross-Cultural Awareness-英語で学ぶ異文化の不思議	石井隆之監修・岩田雅彦・山口修・他2名	開文社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名						
	1									
	2									
	3									
授業形態	Moodle									
Teams コード										
Moodle コース名 および登録キー	E0G									
連絡手段	学内メール									
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：									
評価方法 (基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>TOEIC Bridge</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>課題の提出</td> <td>60%</td> </tr> </table>				全学共通英語課題	30%	TOEIC Bridge	10%	課題の提出	60%
全学共通英語課題	30%									
TOEIC Bridge	10%									
課題の提出	60%									
学生への メッセージ	<p>外国語学習は、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。音声なども利用し、聞いたり声に出したり工夫をして勉強しましょう。</p> <p>後期も遠隔授業です。自宅での学習時間が長くなり、じっくり紙の辞書を引いて力を付けるチャンスです。できるだけ辞書を引きましょう。Moodle への課題提出は入力時間を短く抑えられるよう予め準備するなど工夫してください。</p> <p>提出課題について、全く同じ答えを共有していると思われる場合は全員0点とする。</p>									
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室									
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。									

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2303c1		

授業概要・目的	本講座は、1年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検2級以上、TOEIC550点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は'Active Participation in Class' (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書(できれば、紙の英和辞典)は必ず持ってくること。
科目学習の効果(資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはずだ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 1の導入 Physical Education	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 1の予習 (1時間)
2	Lesson 1 Physical Education	Physical Education に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 1の復習及び予習 (1時間)	
3	Lesson 2 Sports Clubs	Sports Clubs に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 2の復習及び予習 (1時間)	
4	Lesson 2 Sports Clubs	Sports Clubs に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 2の復習及び予習 (1時間)	
5	Lesson 3 Cultural Differences	Cultural Differences に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 3の復習及び予習 (1時間)	
6	Lesson 4 Haircuts	Haircuts に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 4の復習及び予習 (1時間)	
7	Lesson 5 Music	Music に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 5の復習及び予習 (1時間)	
8	Lesson 6 Money	Money に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 6の復習及び予習 (1時間)	
9	Lesson 7 Safety	Safety に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 7の復習及び予習 (1時間)	
10	Lesson 8 Life Expectancy	Life Expectancy に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 8の復習及び予習 (1時間)	
11	Lesson 9 The Metric System	The Metric System に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 9の復習及び予習 (1時間)	
12	Lesson 10 Police	Police に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 10の復習及び予習 (1時間)	
13	Lesson 11 Seasons	Seasons に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 11の復習及び予習 (1時間)	
14	Lesson 12 TV Sports	TV Sports に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 12の復習及び予習 (1時間)	
15	Lesson 1 ~ Lesson 12 Physical Education ~ TV Sports	Lesson 1 ~ Lesson 12 の総復習 定期試験 (前期末) の準備	これまでの授業で扱った内容について総復習する (定期試験の準備) (1時間)	

実務経験

関連科目 他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版)		成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

評価方法 (基準) 定期試験 60%
小テスト(Quiz) 20%
課題レポート(只管筆写、英語多読) 20%
※原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2304c1		

授業概要・目的	本講座は、1年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検2級以上、TOEIC550点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は'Active Participation in Class' (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書(できれば、紙の英和辞典)は必ず持ってくること。
科目学習の効果(資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはずで。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 13の導入 Business	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 13の予習(1時間)
	2	Lesson 13 Business	Lesson 13の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 13の復習及び予習(1時間)
	3	Lesson 14 Jobs	Lesson 14の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 14の復習及び予習(1時間)
	4	Lesson 14 Jobs	Lesson 14の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 14の復習及び予習(1時間)
	5	Lesson 15 NHK vs. PBS	Lesson 15の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 15の復習及び予習(1時間)
	6	Lesson 16 Marriage Ceremonies	Lesson 16の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 16の復習及び予習(1時間)
	7	Lesson 17 American Culture	Lesson 17の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 17の復習及び予習(1時間)
	8	Lesson 18 International Marriage	Lesson 18の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 18の復習及び予習(1時間)
	9	Lesson 19 Apartments	Lesson 19の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 19の復習及び予習(1時間)
	10	Lesson 20 Technology	Lesson 20の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 20の復習及び予習(1時間)
	11	Lesson 21 School Rules	Lesson 21の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 21の復習及び予習(1時間)
	12	Lesson 22 Drinking	Lesson 22の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 22の復習及び予習(1時間)
	13	Lesson 23 Entertaining	Lesson 23の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 23の復習及び予習(1時間)
	14	Lesson 24 Choice	Lesson 24の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 24の復習及び予習(1時間)
	15	Lesson 13 ~ Lesson 24 Business ~ Choice	Lesson 13 ~ Lesson 24の総復習 定期試験(後期末)の準備	これまでの授業で扱った内容について総復習する(定期試験の準備)(1時間)

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (旧版)		成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	定期試験 60% 小テスト(Quiz) 20% 課題レポート(只管筆写、英語多読) 20% ※原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1320e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計30時間の学習時間を必要とする。 春学期はオンラインを行います。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	発音2、発音3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
3	発音4、付録1、付録2	挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
4	発音編のまとめ 小テスト1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。
5	第1課 これは何ですか?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
6	第1課 これは何ですか?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
7	第2課 お名前は?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
8	第2課 お名前は?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
9	小テスト2 第3課 今年いくつですか?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
10	第3課 今年いくつですか?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
11	第4課 何人家族ですか?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
12	第4課 何人家族ですか?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
13	小テスト3 第5課 家はどこですか?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
14	第5課 家はどこですか?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
15	まとめ 小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

実務経験	
関連科目	中国語II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	テストと課題: 50% 平常点: 50%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に各1時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1320e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	オンライン型授業【双方向の授業形式】を行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	発音2、発音3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
3	発音4、付録1、付録2	挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
4	発音編のまとめ 小テスト1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。
5	第1課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
6	第1課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
7	第2課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
8	第2課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
9	小テスト2、 第3課 今年いくつですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
10	第3課 今年いくつですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
11	第4課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
12	第4課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
13	小テスト3 第5課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
14	第5課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
15	まとめ 小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

実務経験	
関連科目	中国語II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	出席・課題：70% テスト：30%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1321e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	ツール：Teams 方法：予め作成した動画をTeamsに掲載しておく。この科目の授業時間にTeams上で動画を視聴することもできるが、学生には事前にダウンロードしておくことを強く推奨する。動画視聴後は、課題を提出してください。(3日以内)
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第6課 何をしていますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
3	第7課 今日授業は分かりましたか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
4	第7課 今日授業は分かりましたか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
5	第8課 今日また先生に注意された。	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
6	第8課 今日また先生に注意された。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
7	中間テスト 第9課 あなたは泳げますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
8	第9課 あなたは泳げますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
9	第10課 学校の北側に何がありますか？	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
10	第10課 学校の北側に何がありますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
11	第11課 どこか具合が悪いですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
12	第11課 どこか具合が悪いですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
13	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
14	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
15	まとめ	復習、テスト	テストの内容を準備する。

実務経験	
------	--

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	aquxxe0
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	課題 70% テスト 30%
学生への メッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1321e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	授業は双方型のオンラインで行う。口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。 学期中は事前及び事後に合計30時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介 第6課 何をしていますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第6課 何をしていますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第7課 今日の授業は分かりましたか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第7課 今日の授業は分かりましたか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	小テスト1 第8課 今日また先生に注意された。	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第8課 今日また先生に注意された。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	第9課 あなたは泳げますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第9課 あなたは泳げますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2 第10課 学校の北側に何がありますか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第10課 学校の北側に何がありますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第11課 どこか具合が悪いですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第11課 どこか具合が悪いですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3 第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
15	まとめ 小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。	

実務経験	
------	--

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	50db17z
----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams 内のチャット、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	単元テスト： 80% 平常点： 20%
学生への メッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に各1時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語Ⅲ	科目名 (英文)	Chinese III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1322e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国への旅行や買い物などに困らないレベルの聞く力、話す力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、新出単語や文法を解説するとともに、対話文や例文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 キャンパスで (1) 対話文1・文法・練習	1. 進行表現 2. 可能補語1	会話をノートに書き写しておく(2時間)。
2	第一課 キャンパスで (2) 対話文2・文法・練習	3. 可能補語2 4. 「……, 好不好?」	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
3	第二課 アルバイト仲間 対話文1・文法・練習	1. 様態補語 2. 可能補語と様態補語	会話をノートに書き写しておく(2時間)。
4	第二課 3人で京劇を見終わって 対話文2・文法・練習	3. 比較表現1 4. 比較表現2	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
5	オンライン課題	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(2時間)。
6	第三課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (1) 対話文1・文法・練習	1. 状態持続 2. 「着」を用いた存現文 3. 「(正) 在V…… (?)」 と 「V着」の違い	会話をノートに書き写しておく(2時間)。
7	第三課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (2) 対話文2・文法・練習	4. 「有点儿」 5. V1着(+02) V2(+02) 6. 「怎?」	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
8	第四課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (1) 対話文1・文法・練習	1. 「把」構文 ① 「把」 0+V+方向補語 ② 「把」 0+V+結果補語	会話をノートに書き写しておく(2時間)。
9	第四課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (2) 対話文2・文法・練習	③ 「把」 0+V+V 「把」 0+「一下」 ④ 「把」 0+V+「給」+人 「把」 0+V+「到」+場所 「把」 0+V+「在」+場所	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
10	オンライン課題	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(2時間)。
11	第五課 キャンパスで (1) 対話文1・文法・練習	1. 名詞の重ね型 2. 「下来」の派生義 3. 受身文1 4. 可能性の「会」	会話をノートに書き写しておく(2時間)。
12	第五課 キャンパスで (2) 対話文2・文法・練習	5. 受身文2	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
13	第一課～第五課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく(2時間)。
14	第一課～第五課 総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
15	オンライン課題	第一課～第五課 日文中訳復習と前期習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(2時間)。

実務経験	
関連科目	「中国語 I」, 「中国語 II」, 「中国語 IV」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	
および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	オンライン授業への参加度：30% オンライン課題提出：70%
学生への メッセージ	授業前の予習や授業後の復習は慣習化し、かかさず行ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修したうえ、「中国語Ⅲ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語Ⅳ	科目名(英語)	Chinese IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1323e1		

授業概要・目的	前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読める能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、新出単語や文法を詳しく解説すると共に、対話文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第六課 北京国際空港で(2) 短文・文法・練習	4. 跟……相比 5. 听说、听……说 6. 「值得」 + 「一」 + V 7. 打算	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
3	第七課 キャンパスで(1) 対話文・文法・練習	1. 「? 那 ?」と量詞 2. 動詞フレーズ + 「的」 3. 「起来」の派生義	対話文・短文をノートに書き写しておく(2時間)。
4	第七課 キャンパスで(2) 短文・文法・練習	4. ~极了 5. 终于 6. 一边…… 一边…… 7. ?然…… 但是……	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
5	第1回単元テスト(筆記と口頭)	第六課・第七課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(2時間)。
6	第八課 中華料理店で(1) 対話文・文法・練習	1. 「怪不得」 2. 「要」 3. 「愛」 + 動詞フレーズ	対話文・短文をノートに書き写しておく(2時間)。
7	第八課 中華料理店で(2) 短文・文法・練習	4. 又…… 又…… 5. 不僅…… 還…… 6. 只好 7. 向	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
8	第九課 チャイナドレス店で(1) 対話文・文法・練習	1. 主述語文 2. 疑問詞 + 「也/都」…… 3. 「是」を用いた譲歩構文	対話文・短文をノートに書き写しておく(2時間)。
9	第九課 チャイナドレス店で(2) 短文・文法・練習	4. V成 5. 对……来说 6. 越来越……	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
10	第2回単元テスト(筆記と口頭)	第八課・第九課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(2時間)。
11	第十課 帰国のあいさつ(1) 対話文・文法・練習	1. 「就」 2. 「才」 3. 「就」と「才」	対話文・短文をノートに書き写しておく(2時間)。
12	第十課 帰国のあいさつ(2) 短文・文法・練習	4. 戴上/穿上 5. 準備 6. 需要 7. 像……??/那?	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
13	第六課～第十課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく(2時間)。
14	第六課～第十課 総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく(2時間)。
15	第3回単元テスト(筆記と口頭)	第六課～第十課 日文中訳復習と後期習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく(2時間)。

実務経験	
関連科目	「中国語Ⅲ」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	mrlz323

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	学内メール、個人メール等
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	オンライン授業への参加度：30% オンライン課題提出：70%
学生への メッセージ	授業前の予習と授業後の復習は慣習化し、かかさず行ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1324e1		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め、第4課まで学習する予定。 最初は教科書とは別にプリントを配布し、それに基づいてアルファベットの読み方などを学ぶが、できるだけ早いうちに教科書を購入すること。辞書については授業が始まってから説明する。 以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。	挨拶表現を練習する。
	2	第1課	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。 基数1～10を覚える。
	3	前回の復習 第1課	アルファベットと発音の徹底。 音節分けとアクセント	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。
	4	前回の復習 第2課	名詞の性と数	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話を声に出して繰り返し練習する。
	5	前回の復習 第2課	冠詞 (不定冠詞と定冠詞)	会話を声に出して繰り返し練習する。基数11～20を覚える。
	6	第2課 理解度確認テスト (1)	動詞 ser の活用と用法 発音、アクセント、名詞に関する確認テスト	会話を声に出して繰り返し練習する。 授業後、動詞 ser の活用を繰り返し覚えること
	7	理解度確認テスト (1) の確認 第3課	これまでの復習 形容詞の性と数	会話を声に出して繰り返し練習する。
	8	前回の復習 第3課	所有格 疑問文と否定文 動詞 tener の活用と用法	授業後、動詞 tener の活用を確認する。
	9	前回の復習 第3課	数字 (1～100) di?logo と pr?ctica	会話を声に出して繰り返し練習する。
	10	理解度確認テスト (2)	動詞 ser と tener の活用と用法に関する確認テスト	辞書の使い方に慣れる
	11	理解度確認テスト (2) の見直し スペイン語文読解にチャレンジ	これまでの復習 各課の後ろにある Lectura の文章を読み、文法事項を復習	基本単語を覚える
	12	第4課	動詞の規則活用と用法	動詞活用の練習
	13	前回の復習 第4課	基本動詞の使い方 前置詞	作文練習
	14	第4課 これまでの総復習	疑問詞の使い方	会話を声に出して読んでみる。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語圏概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Espanol en imagenes	Eugenio del Prado 他	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	一定程度進んだ段階での理解度確認テスト (30%) 最終週に既習範囲を対象とする臨時試験 (50%)

	しばしば行う単語テスト (20%)
学生へのメッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信できるようになります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 理解度確認テストに関するフィードバックはその次週、単語テストに関するフィードバックは当日、解答を示しながら解説する。

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1325e1		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	Teamsを使った双方向オンライン授業を行なう。教材・課題の配布も Teams に掲示する。 後期では第5課から第8課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級
-------------	-----------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の確認	前期で学習したことの確認(動詞の活用を中心に)	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。
2	第5課	指示形容詞 動詞 estar の活用と用法	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
3	前回の復習 第5課	動詞 estar の活用と用法の復習 動詞 hay の用法	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。	
4	前回の復習 第5課	ser+形容詞と estar+形容詞 tener+名詞	会話文を声に出して繰り返し練習する。	
5	理解度確認テスト(1) 第6課	第5課の学習内容の確認テスト 動詞 ir, ver, hacer など	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。	
6	理解度確認テスト(1)の見直し 第6課	第5課に関する確認テストの見直し 時刻、日付の表現	授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
7	前回の復習 第6課	疑問詞の用法(II)	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
8	前回の復習 第7課	語幹母音変化動詞	語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること	
9	理解度確認テスト(2) 第7課	第6課の内容と語幹母音変化動詞の活用に関するテスト 天候表現	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
10	理解度確認テスト(2)の見直し 第7課	テストの見直しをして理解できていない箇所を復習 目的格代名詞	試験前に既習事項(特に動詞の活用)を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
11	前回の復習 第8課	その他の不規則動詞(oir, venir, saber など)の活用と用法	授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
12	第8課	目的格代名詞(間接)	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
13	第8課	動詞 dar, decir, traer	授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。	
14	これまでの復習	弱点の克服	会話文を声に出して繰り返し練習する。	
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。	

実務経験	
------	--

関連科目	エリア・スタディーズ(ラテンアメリカ)
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Espanol en imagenes	Eugenio del Prado 他	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・ブロッグシップ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	yrxv6cw
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	毎回出す課題(オンライン授業で習った箇所+α)40%;ときどき行なう理解度確認テスト30%;最終的な到達度確認テスト30%
----------	---

学生への メッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。

科目名	スペイン語Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1326e1		

授業概要・目的	スペイン語Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト『Plaza MayorⅠ(プラサ・マヨールⅠ)』を使って授業を行います。
到達目標	スペイン語を学ぶことにより、スペイン語圏の文化を知り知識と興味を深める。
授業方法と留意点	前期ではテキストの第10課から13課までを学習します。 最初はスペイン語Ⅰ・Ⅱの復習をし、その後新しい課題に進みます。 授業に関する不安な点や疑問点は質問して解決を図ること。 尚、オンライン授業につきPC、スマホ、使用するツールを利用できる状態にしておくこと。 課題提出、質問などは指定した方法で行うこと。 以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級または5級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	スペイン語Ⅰ・Ⅱの学習内容の確認と復習(1)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。 自己紹介の会話。	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
2	スペイン語Ⅰ・Ⅱの学習内容の確認と復習(2)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
3	スペイン語Ⅰ・Ⅱの学習内容の確認と復習(3)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
4	テキスト第10課(1)	再帰動詞 無人称文	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
5	テキスト第10課(2)	感嘆文 基数	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
6	テキスト第11課(1)	過去分詞 直説法現在完了	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
7	テキスト第11課(2)	現在分詞 序数	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
8	テキスト第10・11課のまとめ	テキスト第10・11課の復習 弱点の克服	テキスト第10・11課で学習した文法・語彙・表現を見直し、復習しておくこと。	
9	理解度確認テスト(1)	テキスト第10・11課の理解度を確認する 見直しと復習	テストに備えて総復習をしておくこと。	
10	テキスト第12課(1)	直説法過去(規則形) 不定語と否定語のまとめ	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
11	テキスト第12課(2)	比較表現	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
12	テキスト第13課	直説法過去(不規則動詞)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
13	テキスト第12・13課のまとめ	テキスト第12・13課の復習 弱点の克服	テキスト第12・13課で学習した文法・語彙・表現を見直し、復習しておくこと。	
14	総復習	これまでの学習の総復習	前期で学習した内容を見直し、復習しておくこと。	
15	理解度確認テスト(2)	これまで学習した内容についての理解度を確認する 見直しと復習	テストに備えて総復習をしておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『Plaza MayorⅠ(プラサ・マヨールⅠ)』	E・アルマラス 他	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館
	2			

	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題提出・その内容 70% + 小テスト 30%			
学生への メッセージ	スペイン語を通じて世界を広げましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	週1時間程度の事前・事後学習が必要。			

科目名	スペイン語Ⅳ	科目名 (英文)	Spanish IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1327e1		

授業概要・目的	<p>スペイン語 III に引き続きテキスト『Plaza Mayor I (プラサ・マヨール)』を使用して授業を進めます。後期では第14課から第16課まで学習します。読む・聴く・話すに重点をおき、会話をさらに高めることを目的としています。</p> <p>なお、受講にあたっては、スペイン語 III の履修経験者がのぞましい。</p>
到達目標	<p>語彙を増やし、多くの表現法を学ぶことで会話力をつける。</p> <p>スペイン語圏の知識と興味をさらに深める。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Teams を使った双方向オンライン授業を行う。教材・課題の配布および課題の回収は WebFolder で行う。 授業中はできるだけ声を出す機会を増やし、全員が会話に参加するようにする。 不安や疑問点は質問し、必ず解決を図ること。 必要に応じて小テストを実施する。 <p>以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。</p>

科目学習の効果 (資格)	・スペイン語検定 6 級・5 級
--------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の確認(1)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第10・11課)	予習として、第10・11課を見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
2	前期の学習内容の確認(2)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第12・13課)	予習として、第12・13課を見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
3	テキスト第14課(1)	前回の復習 再帰動詞の点過去	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
4	テキスト第14課(2)	前回の復習 受け身表現	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
5	テキスト第14課(3)	前回の復習 直説法線過去	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
6	テキスト第15課(1)	前回の復習 直説法未来	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
7	テキスト第15課(2)	前回の復習 直説法過去未来	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
8	テキスト第14・15課のまとめ	テキスト第14・15課の復習 弱点克服	テキスト第14・15課を見直し、復習しておくこと。	
9	理解度確認テスト(1)	テキスト第14・15課の理解度を確認する 見直しと復習	テストに備えて復習しておくこと。	
10	テキスト第16課(1)	命令文	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
11	テキスト第16課(2)	前回の復習 弱点克服	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
12	Lecturas(1)	テキストのLectura13を読み解く	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
13	Lectures(2)	テキストのLectura14を読み解く	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	
14	テキスト第14・15・16課のまとめ	これまで学習した内容の復習 弱点克服	これまでの学習内容を見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習すること。	
15	理解度確認テスト(2)	後期で学習した内容の理解度を確認する。 見直しと復習	これまでの総復習をしておくこと。	

実務経験	
関連科目	スペイン語 I, II, III。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『Plaza Mayor I (プラサ・マヨール I)』	E・アルマラス 他	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder
Teams コード	z0vd51k
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	理解度確認テスト (1) 30%、理解度確認テスト (2) 50%、その他 20%を合わせて 総合的に評価する。
学生への メッセージ	声に出して話すことで会話は上達します。間違いを怖れずに積極的に会話に参加して下さい。 新しい表現が増えてきますが、会話を通して身につけましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	週1時間ほどの事前・事後学習が必要。 毎回の授業のはじめに、前回の学習内容に関する質問等を受け付けフィードバックを行う。

科目名	インドネシア語 I	科目名 (英文)	Indonesian I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1328e1		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語の基礎的な会話能力の修得を目的とする。 インドネシアの日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアはもちろん、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダにも関心を高める。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指す。 インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。 声に出して繰り返し練習することを重視する。 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験に役立つ。 旅行に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文字と発音	アルファベットの読み方を説明したのち演習をおこなう。	インドネシア語のアルファベットを正確に読めるようにしておくこと(1時間)。
3	発音	基本単語の発音を説明したのち演習をおこなう。	配布された「発音」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 授業で習った基本単語を声に出して練習しておくこと(1時間)。
4	挨拶 (1)	挨拶表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「挨拶 (1)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 「挨拶 (1)」のプリントの会話部分を復習すること(1時間)。
5	挨拶 (2)	感謝表現・謝罪表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「挨拶 (2)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 「挨拶 (2)」のプリントの会話部分を復習すること(1時間)。
6	紹介 (1)	自己紹介の表現・人称代名詞を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介 (1)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 「紹介 (1)」のプリントの会話部分、人称代名詞について復習すること(1時間)。
7	紹介 (2)	自己紹介の表現・疑問詞を用いた表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介 (2)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 「紹介 (2)」のプリントの会話部分、疑問詞について復習すること(1時間)。
8	紹介 (3)	家族や友人を紹介をする表現・疑問詞を用いた表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介 (3)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)と。 「紹介 (3)」のプリントの会話部分を復習すること(1時間)。
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習をおこなう。 中間テストを実施したのち解説をおこなう。	これまでに配布された全てのプリントで学んだことを復習しておくこと(1時間)。 中間テストで間違えたところを再確認しておくこと(1時間)。
10	数詞 (1)	数詞の仕組みを説明する。	配布された「数詞 (1)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 数詞の仕組みを復習しておくこと(1時間)。
11	数詞 (2)	序数詞や分数を説明したのち、演習をおこなう。	配布された「数詞 (2)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 序数詞や分数の表現を復習しておくこと(1時間)。
12	数詞 (3)	電話番号の表現や数詞を用いた表現の演習をおこなう。	配布された「数詞 (3)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 電話番号の言い方と数詞の練習問題について復習しておくこと(1時間)。
13	数詞 (4)	日付の表現を説明したのち、演習をおこなう。	配布された「数詞 (4)」のプリントに目を通しておくこと(1時間)。 日付の言い表し方について復習しておくこと(1時間)。
14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習と演習をおこなう。	10回から13回までに配布された数詞のプリントを中心に復習しておくこと(1時間)。 不明な点を明らかにしておくこと(1時間)。
15	総復習	これまでに学んだことの総復習として理解度確認テストを実施する。その後、解説をおこなう。	理解度確認テストに臨むため、これまでに学んできたことを振り返っておくこと(1時間)。 理解度確認テストで間違えたところを再度復習しておくこと(1時間)。

実務経験				
関連科目	インドネシア語 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する小試験 15%、授業中の演習と発表に対する取り組み 15%、 中間テスト 35%、理解度確認テスト 35%			
学生への メッセージ	1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。 2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探してください。 3. シンガポールやマレーシア、ブルネイ、オランダへ旅行する際にもインドネシア語が役立つことがあります。積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	1 事前学習と事後学習は毎週少なくとも2時間以上おこなうこと。 2 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 3 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。			

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名(英文)	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1329e1		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面で役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。 またインドネシアの人びとの日常的な習慣について理解を深めることもできる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。 声に出して繰り返し練習することを重視する。 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定に役立つ。 旅行に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと復習	1. 授業のすすめ方について説明する。 2. 前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習をおこなう。	・前期の項目を復習してから授業に臨むこと(1時間)。 ・学習項目の復習(1時間)
2	曜日 (1)	曜日と月の言い表し方を説明したのち、演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
3	曜日 (2)	季節の表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
4	時間 (1)	時間と時刻の言い表し方を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
5	時間 (2)	時間と時間の表現を用いた会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
6	色 (1)	色および形容詞を使った表現を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
7	色 (2)	助数詞を用いた表現を説明する。 色と助数詞を用いた表現の会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
8	復習	1. これまでに学んだことの理解を確認するために中間試験をおこなう。 2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認(3時間)
9	ショッピング (1)	値段の尋ねる表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
10	ショッピング (2)	店での会話表現を説明したのち会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
11	ショッピング (3)	買い物の際に役に立つさまざまな表現を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
12	位置 (1)	位置の表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
13	位置 ②	道を尋ねる表現を説明したのち会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること(2時間)
14	9回～13回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習をおこなう。	・9回～13回までに学んできたことの再確認(2時間) ・いままでに学んだ単語の綴りと意味を確認すること(2時間)
15	総復習	1. これまでに学んだことの理解度を確認するための総復習試験をおこなう。 2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。	これまでに学んだことの再確認(2時間)

実務経験	
------	--

関連科目	インドネシア語Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	t1s5y48
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	
-------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	授業中に随時実施する小試験 15%、授業中の会話演習と発表に対する取り組み 15%、中間試験 35%、総復習試験 35%
学生への メッセージ	1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。 2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。 .
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	1 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習は毎週少なくとも2時間以上はおこなうこと。 2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 3. 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。

科目名	インドネシア語Ⅲ	科目名 (英文)	Indonesian III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1330e1		

授業概要・目的	本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 文法説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話演習も随時おこなう。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアはもちろん、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダにも関心を高める。
到達目標	短文を読み書きできるとともに会話能力も発揮できるよう、文法力・読解力・作文力・会話能力のバランスが取れたインドネシア語運用能力の育成をめざす。
授業方法と留意点	1. テキストはプリントを配布する。 2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習と会話演習、発表を課す。 3. 随時、小試験をおこなう。 4. 会話演習は繰り返し練習することを重視する。 5. 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。 旅行にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方の説明 インドネシア、インドネシア語の説明 綴りと発音の練習	発音の復習(1時間)
2	文法1・会話1	名詞文「～です」「これは～です」の文型 や文法、語順を説明する。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計2時間)	
3	文法2・会話2	人称代名詞の復習と、名詞文や語順の復習 をおこなう。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 練習問題の復習。 3. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
4	文法3・会話3	基語動詞の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
5	文法4・会話4	基語動詞と前置詞の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
6	文法5・会話5	接頭辞 ber- の語形と用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 学んだ語形の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
7	文法6・会話6	接頭辞 meN- の語形を説明する。 会話練習をおこなう。	1. 学んだ語形の徹底。 2. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 3. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
8	文法7・会話7	接頭辞 meN- の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 学んだ語形の徹底。 2. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 3. 会話練習の復習。 4. 練習問題の復習。 (合計2時間)	
9	いままでの復習1	いままでに学んだ事項の理解度を確認 するために中間試験をおこなう。 試験終了後に理解の足りない事項をとり あげて説明をする。	第8回までに学んだことの総復習。(2時間)	
10	文法8・会話8	時制をあらわす助動詞の用法を説明す る。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 会話練習の復習。 3. 練習問題の復習。	
11	文法9・会話9	日付、時刻、時間の表現を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこな う。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
12	文法10・会話10	時制以外の助動詞の用法について説明 する。講読練習、作文練習、会話練習を おこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
13	文法11・会話11	形容詞と副詞の用法を説明する。講読練 習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計2時間)	
14	いままでの復習2	いままでに既習した事項を含むやや複	第13回までに学んだことの総復習。(合計2時間)	

			雑な文を用いて講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	
	15	総復習	いままでに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項をとりあげて説明する。	第14回までに学んだことの総復習。(合計2時間)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する小試験 15%、授業中の演習や発表に対する取り組み 15%、中間試験 35%、総復習試験 35%			
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 今後さらに発展が見込まれるインドネシアの国語であるインドネシア語能力を身につけると、必ず将来の役に立ちます。 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。 シンガポールやマレーシア、ブルネイ、オランダへ旅行する際にもインドネシア語が役に立つことがあります。積極的に授業に参加してください。 			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	<ol style="list-style-type: none"> 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 随時課す単語小試験の模範解答は授業中に提示する。 中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示し、解説もおこなう。 また理解が足りないところの復習方法も説明する。 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習には毎週少なくとも2時間以上を充てること。 			

科目名	インドネシア語IV	科目名 (英文)	Indonesian IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1331e1		

授業概要・目的	本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 やや複雑な文法の説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話練習も随時おこなう。
到達目標	・中級レベルのインドネシア語運用能力をめざす。すなわち、 1. やや複雑な文章を理解できる。 2. やや複雑な文法を使った作文ができる。 3. やや複雑な文法を使った会話が理解できる。
授業方法と留意点	1. テキストはプリントを配布する。 2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習と発表を課す。 3. 随時、単語試験をおこなう。 4. 随時、宿題を課す。 5. 会話演習は繰り返し練習することを重視する。 6. 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果 (資格)	1. インドネシア語能力の向上。 2. インドネシア語技能検定試験に役立つ。 3. インドネシアはもちろん、シンガポールやマレーシアへの旅行にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	1. 授業の進め方を説明する。 2. 既習事項の確認と復習。	既習事項を復習すること。
2	文法 1	接尾辞-an、接頭辞 pe-を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	
3	文法 2	同等・比較・最上級の表現を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 接頭辞 me-の復習。 (合計 3 時間)	
4	文法 3	接頭辞 di-を学習する。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	
5	文法 4	接頭辞 ter-を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 過去に学習した疑問詞を整理しておくこと。 (合計 2 時間)	
6	文法 5	疑問詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 練習問題の復習。 (合計 2 時間) 第 7 回の予習として今までに学んだ事項の総復習。 (合計 3 時間以上)	
7	復習 1	第 6 回までに学んだ事項の理解度を確認するために中間試験をおこなう。試験後に理解の足りない事項の説明をおこなう。	第 6 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)	
8	文法 6	共接辞 ber--an, per--anを学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	
9	文法 7	共接辞 pe--anを学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 第 10 回目への予習として、過去に学んだ接続詞を整理しておくこと。 (合計 2 時間)	
10	文法 8	接続詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	
11	文法 9	共接辞 ke--an、接尾辞-nyaを学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	
12	文法 10	接尾辞-i, -kanを学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	
13	文法 11	接頭辞 memper-を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)	

	14	1. 文法 12 2. 復習 2	1. 重複の形態と機能を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。 2. 第 14 回までに学んだ事項の復習	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間) 第 14 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)
	15	総復習	第 14 回までに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項を説明する。	今までに学んだ事項の総復習と練習問題に取り組むこと。 総復習試験をもういちど解くこと。(合計 3 時間)
実務経験				
関連科目	インドネシア語、マレー語、東南アジア関係の授業すべて。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams 「オンライン型」			
Teams コード	10bu6j6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業での発表 10%、単語小試験 10%、宿題 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%			
学生への メッセージ	1. 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。 2. 自分の関心分野にあわせて、日常でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	1. 随時課す単語小試験の模範解答は授業中に提示する。 2. 随時課す宿題の模範解答は授業中に提示する。また理解が足りないところも授業中に再度説明する。 3. 中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示して講評をおこなう。 理解が足りないところの復習方法も説明する。 4. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。			

科目名	フランス語 I	科目名 (英文)	French I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1332e1		

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくなんでしょうか？あるいはフランスに旅行に行ったとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	Moodle を用いた遠隔授業を行う。教科書を使用するので購入すること。基本的なフランス語の表現を学んでいく。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 5 級へ向けた学力の準備をする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	『話したくなるフランス語』導入 (pp. 2-3)	アルファベットとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』第 1 課 (pp. 4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方 (1)	『話したくなるフランス語』第 1 課の予習復習、練習問題 1
4	『話したくなるフランス語』第 1 課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音 (1)	『話したくなるフランス語』第 1 課の予習復習、練習問題 2
5	『話したくなるフランス語』第 2 課 (pp. 10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第 2 課の予習復習、練習問題 3
6	『話したくなるフランス語』第 2 課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音 (2)	『話したくなるフランス語』第 2 課の予習復習、練習問題 4、練習問題 5
7	『話したくなるフランス語』第 3 課 (pp. 16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第 3 課の予習復習、練習問題 6、練習問題 7
8	『話したくなるフランス語』第 3 課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズィオン・アンシエスマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第 3 課の予習復習、練習問題 8
9	『話したくなるフランス語』第 4 課 (pp. 22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第 4 課の予習復習、練習問題 9、練習問題 10
10	『話したくなるフランス語』第 4 課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第 4 課の予習復習、練習問題 11、練習問題 12
11	『話したくなるフランス語』第 5 課 (pp. 28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第 5 課の予習復習、練習問題 13、練習問題 14
12	『話したくなるフランス語』第 5 課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音 (3)	『話したくなるフランス語』第 5 課の予習復習、練習問題 15、練習問題 16、練習問題 17
13	『話したくなるフランス語』第 6 課 (pp. 34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第 6 課の予習復習、練習問題 18
14	『話したくなるフランス語』第 6 課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第 6 課の予習復習、練習問題 19、練習問題 20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

実務経験	
関連科目	後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フランス文法総まとめ	東郷雄二 [著]	白水社
2	フランス語 1 ('18)	パトリック・ドゥヴォス、桑田光平 [著]	放送大学教育振興会	
3	フランス語 2 ('18)	パトリック・ドゥヴォス、森元庸介 [著]	放送大学教育振興会	

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出により評価を行う。
学生への メッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をする楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	フランス語Ⅱ	科目名(英文)	French II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFRI133e1		

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口について出るようになります。
授業方法と留意点	Moodle を用いた遠隔授業を行う。教科書『話したくなるフランス語』を使用するので購入すること。基本的なフランス語の表現を学んでいく。毎回の授業について、最低1時間を目安とした事前・事後学習を求める。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざまな動詞の活用	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』第7課(pp.40-45)	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音(4) CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23
5	『話したくなるフランス語』第8課(pp.46-51)	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音(5) 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26
7	『話したくなるフランス語』第9課(pp.52-57)	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29
9	『話したくなるフランス語』第10課(pp.58-63)	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31
11	『話したくなるフランス語』第11課(pp.64-69)	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36
13	発展的学習(1)	役に立つ表現と文法事項の補足(1) 会話練習(1)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
14	発展的学習(2)	役に立つ表現と文法事項の補足(2) 会話練習(2)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

実務経験	
------	--

関連科目	前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フランス文法総まとめ問題集	東郷雄二[著]	白水社
	2	フランス語で読む八十日間世界一周	ジュール・ヴェルヌ[著]	IBCパブリッシング
	3	フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話	シャルル・ペロー[著]	IBCパブリッシング

授業形態	Moodle
------	--------

Teamsコード	
----------	--

Moodleコース名および登録キー	newtlcheetah
-------------------	--------------

連絡手段	Moodle上に問い合わせ指定連絡先を設ける
------	------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	課題の提出により評価を行う。(100%)
----------	----------------------

学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話することの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	連絡等はMoodle上にて行う
----	-----------------

科目名	フランス語Ⅲ	科目名(英文)	French III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFRI1334e1		

授業概要・目的	芸術・観光・歴史・グルメ・服飾など、フランス文化の魅力にふれながら、それらにアプローチする助けになるようなフランス語の知識を少しづつ身につけます。
到達目標	辞書の助けを借りれば、興味のある内容に関する平易なフランス語の文章が理解できる。 旅行の際に役立つような基本的な会話ができる。
授業方法と留意点	毎回テーマを変えて文書や動画でフランスの文化を紹介。それにまつわる簡単なフランス語の表現も紹介。それらを用いてフランス語の基礎知識を確認・習得していきます。 特定の教科書は使用せず、テーマに応じた教材をその都度配布し、それに関する課題を提出することとします。 なお、扱うテーマのうちの半分は受講生の希望に従って決定します。 授業形態は Moodle システムを用いた教材・課題提供型授業とします(リアルタイムでの授業参加ではなく、各自都合の良い時間に学習を行い、あらかじめ定められた期限までに課題を提出すると)
科目学習の効果(資格)	フランス語検定5級～4級レベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランスの諸文化についての一般的な紹介。	フランス文化について、自分に興味のあるテーマをいくつか選択する。
2	フランスの食文化について(1)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
3	フランスの食文化について(2)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
4	フランスにおけるマンガ・アニメ、とりわけ日本のマンガ・アニメとの関係(1)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
5	フランスにおけるマンガ・アニメ、とりわけ日本のマンガ・アニメとの関係(2)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
6	フランスの歴史について(1)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
7	フランスの歴史について(2)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
8	フランスの音楽について(1)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
9	フランスの音楽について(2)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
10	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
11	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
12	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
13	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
14	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
15	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	

実務経験																	
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	①期末試験は実施しません。 ②評価の内訳はつぎのとおりです： (1) フランス語の知識に関する評価：毎回の授業で課す課題・・・50% (2) フランス文化の理解に関する評価：授業で扱ったテーマの内容に関する簡単なコメントおよび各自が興味をもったフランス文化に関するレポート・・・50%																
学生への メッセージ	語学は目的ではなく手段です。まずはフランスの諸文化に興味をもつていただくことを第一とします。そこで皆さんが興味をもったテーマにアプローチする手段として、必要なフランス語の知識を少しずつ伝授していきます。 したがって、受講にあたってのフランス語の知識のレベルは問いません。 なお、受講者が少ない場合は、受講者それぞれの希望に応じた内容の授業に変更することも可能です。																
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																
備考	個人的な質問等は、メール等を利用していつでも対応します。 事前・事後学習に各1時間程度を想定しています。 上記の授業スケジュールは、受講者の希望や授業の進捗状況によって変更することがあります。																

科目名	フランス語Ⅳ	科目名 (英文)	French IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFRI1335e1		

授業概要・目的	フランス語 III に引き続き、芸術・観光・歴史・グルメ・服飾など、フランス文化の魅力にふれながら、それらにアプローチする助けになるようなフランス語の知識を少しずつ身につけます。
到達目標	フランス語 I I I では、受講者の希望により、フランス語文法と発音の基礎を中心に学習しましたが、フランス語 IV ではフランスの文化に対するアプローチという側面を増やしていきます。 辞書の助けを借りれば、興味のある内容に関する平易なフランス語の文章が理解できる。 旅行の際に役立つような基本的な会話ができる。
授業方法と留意点	毎回テーマを変えて文書や動画でフランスの文化を紹介。それらにまつわる簡単なフランス語の表現も紹介。それらを用いてフランス語の基礎知識を確認・習得していきます。 特定の教科書は使用せず、テーマに応じた教材をその都度配布し、それに関する課題を提出することとします。 なお、扱うテーマのうちの半分は受講生の希望に従って決定します。 授業形態は Moodle システムを用いた教材・課題提供型授業とします(リアルタイムでの授業参加ではなく、各自都合の良い時間に学習を行い、あらかじめ定められた期限までに課題を提出すると)
科目学習の効果(資格)	フランス語検定 5 級～4 級レベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランスの語文化についての一般的な紹介。	フランス文化について、自分に興味のあるテーマをいくつか選択する。
2	ココ・シャネルと服飾について(1)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
3	ココ・シャネルと服飾について(2)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
4	フランスの映画について(1)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
5	フランスの映画について(2)。	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
6	『レ・ミゼラブル』について(1)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
7	『レ・ミゼラブル』について(2)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
8	フランスの世界遺産について(1)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
9	フランスの世界遺産について(2)	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
10	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
11	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
12	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
13	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
14	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	
15	受講者の希望によるテーマ	テーマに関する文書(フランス語と日本語)および映像の紹介。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。	

			関係するフランス語表現についての演習。	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	フランス語 I V F2020			
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①期末試験は実施しません。 ②評価の内訳はつぎのとおりです： (1) フランス語の知識に関する評価：毎回課す課題の内容・・・50% (2) フランス文化の理解に関する評価：授業で扱ったテーマの内容に関する簡単なコメントおよび各自が興味をもったフランス文化に関するレポート・・・50%			
学生への メッセージ	語学は目的ではなく手段です。まずはフランスの諸文化に興味をもっていただくことを第一とします。そこで皆さんが興味をもったテーマにアプローチする手段として、必要なフランス語の知識を少しずつ伝授していきます。 したがって、受講にあたってのフランス語の知識のレベルは問いません。 なお、受講者が少ない場合は、受講者それぞれの希望に応じた内容の授業に変更することも可能です。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	個人的な質問等は、メール等を利用していつでも対応します。 事前・事後学習に各1時間程度を想定しています。 上記の授業スケジュールは、受講者の希望や授業の進捗状況によって変更することがあります。			

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01336e1		

授業概要・目的	この授業では初めて韓国語を学ぶ人を対象とし、まずは文字やその読み方から始めていく。読み書きを反復練習することを通じて文字や読み方が定着した後は、発音ルールを学び、単語、文章なども読めるように練習する。その後は基礎的な文法の能力も養っていく。																																																																		
到達目標	韓国語の文字、発音と基礎的な文法事項を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	PDF 資料やパワーポイント資料、動画教材などをネット上に掲示します。オンライン教材資料を見て、課題をその日の時間割通りの授業終了時間までに提出してください。期限内の課題提出をもって出席と課題点とします。前期授業最終日には試験代わりに、時間割通りの時間に前期オンライン授業の総まとめとしての最も大きな課題を出します。オンライン授業をきちんと受け、理解していなければ、時間内にやって提出することはできないと思うので、家においても教室にいるような気持ちで理解して行ってください。毎回の課題提出(出席と課題点)、前期授業																																																																		
科目学習の効果(資格)	韓国語を通して、韓国の社会や文化への理解を深める。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国語とは</td> <td>文字の構成</td> <td>テキスト1課</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ハングル文字について</td> <td>基本母音</td> <td>テキスト2課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ハングル文字について</td> <td>基本母音の確認テスト、子音(平音)</td> <td>テキスト3課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ハングル文字について</td> <td>基本母音、子音(平音)の確認テスト、子音(濃音、激音)</td> <td>テキスト3課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ハングル文字について</td> <td>基本母音、子音(平音、激音、濃音)の確認テスト、複合母音</td> <td>テキスト4課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ハングル文字について</td> <td>反切表</td> <td>反切表</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ハングル文字について</td> <td>文字のまとめと復習</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>まとめ</td> <td>前半のまとめと確認テスト</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>パッチム</td> <td>パッチムの種類と発音</td> <td>テキスト5課</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発音ルール</td> <td>有声音化、連音化、鼻音化</td> <td>テキスト6課</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>発音ルール</td> <td>h音の発音ルール</td> <td>テキスト6課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>基本のあいさつ</td> <td>あいさつ文</td> <td>テキスト7課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自己紹介文</td> <td>ある程度まとまった文の読み書き</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>前期のまとめ</td> <td>後半のまとめと確認テスト</td> <td>プリントの配布</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韓国ドラマの鑑賞</td> <td>韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解</td> <td>プリント配布</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	文字の構成	テキスト1課	2	ハングル文字について	基本母音	テキスト2課	3	ハングル文字について	基本母音の確認テスト、子音(平音)	テキスト3課	4	ハングル文字について	基本母音、子音(平音)の確認テスト、子音(濃音、激音)	テキスト3課	5	ハングル文字について	基本母音、子音(平音、激音、濃音)の確認テスト、複合母音	テキスト4課	6	ハングル文字について	反切表	反切表	7	ハングル文字について	文字のまとめと復習	プリント配布	8	まとめ	前半のまとめと確認テスト	プリント配布	9	パッチム	パッチムの種類と発音	テキスト5課	10	発音ルール	有声音化、連音化、鼻音化	テキスト6課	11	発音ルール	h音の発音ルール	テキスト6課	12	基本のあいさつ	あいさつ文	テキスト7課	13	自己紹介文	ある程度まとまった文の読み書き	プリント配布	14	前期のまとめ	後半のまとめと確認テスト	プリントの配布	15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリント配布
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	文字の構成	テキスト1課																																																																
2	ハングル文字について	基本母音	テキスト2課																																																																
3	ハングル文字について	基本母音の確認テスト、子音(平音)	テキスト3課																																																																
4	ハングル文字について	基本母音、子音(平音)の確認テスト、子音(濃音、激音)	テキスト3課																																																																
5	ハングル文字について	基本母音、子音(平音、激音、濃音)の確認テスト、複合母音	テキスト4課																																																																
6	ハングル文字について	反切表	反切表																																																																
7	ハングル文字について	文字のまとめと復習	プリント配布																																																																
8	まとめ	前半のまとめと確認テスト	プリント配布																																																																
9	パッチム	パッチムの種類と発音	テキスト5課																																																																
10	発音ルール	有声音化、連音化、鼻音化	テキスト6課																																																																
11	発音ルール	h音の発音ルール	テキスト6課																																																																
12	基本のあいさつ	あいさつ文	テキスト7課																																																																
13	自己紹介文	ある程度まとまった文の読み書き	プリント配布																																																																
14	前期のまとめ	後半のまとめと確認テスト	プリントの配布																																																																
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリント配布																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版</td> <td>木内明</td> <td>国書刊行会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	PDF 資料やパワーポイント資料、動画教材などをネット上に掲示します。オンライン教材資料を見て、課題をその日の時間割通りの授業終了時間までに提出してください。期限内の課題提出をもって出席と課題点とします。前期授業最終日には試験代わりに、時間割通りの時間に前期オンライン授業の総まとめとしての最も大きな課題を出します。オンライン授業をきちんと受け、理解していなければ、時間内にやって提出することはできないと思うので、家においても教室にいるような気持ちで理解して行ってください。毎回の課題提出(出席と課題点)、前期授業																																																																		
学生へのメッセージ	きちんと努力して学べば、これまで全く知らなかった言語を読めるようになります。隣国であり近年特に文化的にも交流のある韓国について言語を通して学んでいきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	必要事項は授業中に指示する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01336e1		

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を見ることが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	オンラインを使つての授業なので、ポータルサイトを通して掲載する連絡事項に常に気を配り、資料プリントなどはプリントアウトして教科書を用意の上、授業に参加できるようにしてください。詳しいことはまたお知らせします。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ハングル 1	基本子音 5つ、基本母音 6つを組み合わせて出来る 30文字を読み書きする。そして 30文字でできる単語を学ぶ。	復習：テキスト p 16 - 19 (1時間) 予習：p 25 (0.5時間)
3	ハングル 2	p 18 単語テスト (発音記号、意味) 重母音 4つ、基本子音 5つを学ぶ。これまで学んだ母音 10と子音 10を組み合わせて 100文字を読み書きの練習 100文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	復習：テキスト p 20 - 27 (1時間) 予習：p 28 (0.5時間)
4	ハングル 3	p 25 単語テスト (発音記号、意味) 二重母音 5つ、激音子音 4つ、濃音子音 5つを学び、単語を勉強する。	復習：テキスト p 35 (1時間) 予習：p 30、p 36 (0.5時間)
5	ハングル 4	p 35 単語テスト (発音記号、意味) 複雑な二重母音 6つ、濃音について学ぶ。 自分の名前と家族や友達の名 3をハングルで書いてみる	復習：テキスト p 29 (1時間) 予習：ひらがな表の発音をハングルに置き換えるプリントを完成する (0.5時間)
6	子音 19、母音 15を覚えよう 1	p 29 単語テスト (発音記号、意味) 韓国で使っている外来語を読んで意味を推測してみる。 ハングルを使ってラインをする。	復習：テキスト p 36 (1時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5時間)
7	子音 19、母音 15を覚えよう 2	p 36 単語テスト (発音記号、意味) ハングルで出来たアンケート用紙を完成しながら、ラインを行う。	復習：テキスト p 30 (1時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5時間)
8	ハングル 5 バッチム バッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト (発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	復習：テキスト p 43 (0.5時間) 予習：p 44 (0.5時間)
9	ハングル 5 バッチム バッチムの仕組みを勉強する。	p 43 単語テスト (発音記号、意味) バッチムの難しい外来語を読みながら意味を調べる	復習：テキスト p 44 (0.5時間) 予習：p 47、p 48 (0.5時間)
10	ハングル文字の総まとめ	p 44 単語テスト (発音記号、意味) これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめる。 特に難しい発音の二重母音の単語のプリントを読みながら練習する	復習：p18、p25、p29、p 30、p 35、p 36、43、p 44 (2時間) 予習：p 49 (0.5時間)
11	総合テスト	前期に学んだすべての範囲から単語の発音と意味の総合テスト。 音読テスト	テストの準備学習 (3時間)
12			
13			
14			
15			

実務経験																	
関連科目	韓国語基礎会話																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>美しい韓国語 1-1 初級 教科書</td> <td>韓国語教育開発研究院</td> <td>EKO ランゲージセンター</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター														
2																	
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点 (授業参加状況、課題) 50% 総合試験 50%			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で手軽に行ける隣国である韓国へ旅し、授業で学んだ韓国語が活かされたら、大学生生活の最高の思い出になるでしょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	質問がある場合は授業日に非常勤講師室で受け付ける。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01337e1		

授業概要・目的	本授業では前期に学んだ文字や読み方などを基礎として、まずは自己紹介などができるように日常会話に必要な基本的な文法事項を習得していく。基本的な文法事項の習得とそれを使った作文練習などが主になる。
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は原則オンラインで行う。前期同様に、授業教材として動画配信をするので、視聴して授業時間内に課題を提出する形式となる。課題は毎回出すこと。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語を通して韓国の社会や文化への理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習1	文字の復習	
	2	前期の復習2	パッチム、発音ルールの復習	
	3	数詞と助数詞	漢数詞と固有数詞、および助数詞	
	4	私は～です	体言文(平叙文)	テキスト 文法1課
	5	～ですか?	体言文(疑問文)	テキスト 文法2課
	6	～ではありません	体言文(否定文)	テキスト 文法3課
	7	まとめ	前半のまとめと確認	
	8	用言文のです・ます形	公的で固い表現のです・ます形	
	9	あります・ありません	存在を表す用言文	テキスト 文法4課
	10	～をします	動詞「する」のです・ます形	テキスト 文法5課
	11	用言のです・ます形を使った作文	さまざまな用言のです・ます形	テキスト文法7課
	12	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形(1)	テキスト 文法6課
	13	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形(2)	テキスト 文法8課
	14	後半のまとめ	後半のまとめと確認	
	15	前期・後期のまとめ	既習事項の総確認	

実務経験	
------	--

関連科目	韓国語初級
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	個人メール(後期初回授業時に提示)
------	-------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	毎回必ず課題を出すので、それらの課題の提出の有無や提出された課題の内容により総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	基本的な文法事項を習得していき、その知識を使って基本的な会話や、簡単な作文などもできるように、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問がある場合は、前期同様にwebfolderの質疑応答か、後期第1回目の授業時に質問用のメールアドレスを知らせるので、そのアドレスに連絡をしてください。
----	---

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01337e1		

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。 一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来ようになる。 2. 200文字以上の自己紹介の作文が出来ようになる。
授業方法と留意点	前期と同様、zoom と line を用いてオンライン授業。 教科書とプリントをオンライン配布して授業を行う。 必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 こんにちは。	簡単な挨拶と自己紹介、日本語と非常に似ている文法や助詞について学ぶ。	復習: テキスト p 52、p 55 p 58 (1時間) 予習: p 62、読む練習 (0.5時間)
2	第7課 はじめまして。	どの国の人ですか? 一ではありません。 助詞 -は、-がについて練習。	復習: テキスト p 65-67 (1時間) 予習: p 70 (0.5時間)
3	第7課 はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。 7課ワークプリント	復習: 第7課の単語テスト勉強 (1時間) 予習: p 70 (0.5時間)
4	第8課 これは何ですか?	第7課の単語テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 疑問詞を勉強する。 家族構成員について学ぶ。	復習: テキスト p 70-72 家計図を覚える (1時間) 予習: p 74 単語の意味を調べる (0.5時間)
5	第8課 これは何ですか?	p 72 家族構成員の単語小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか?の会話を練習する。 所有格助詞-のについて学ぶ。	復習: p 74-76 (0.5時間) 予習: p 79 読む (0.5時間)
6	第8課 これは何ですか?	テキスト p 76 会話練習をもう一度する。 「私の家族」の作文を読解し、問題に答える。 テキストの内容を参考に「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。 8課ワークプリント	復習: 8課の単語を全て覚えてくる。(1時間) 予習: テキスト p 82 読んでくる (0.5時間)
7	第9課 週末に何をしますか?	第8課の単語テスト 動詞、形容詞の終止形を勉強する。 助詞-を、-にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞、形容詞25個の終止形活用について学ぶ。	復習: 動詞の活用の練習プリント (1時間) 予習: p 83 (0.5時間)
8	第9課 週末に何をしますか?	動詞の活用の練習プリントの小テスト p 82-85 “-と一緒に”という言い方を練習する。	復習: p 82-85 (0.5時間) 予習: p 86、87 読む (0.5時間)
9	第9課 週末に何をしますか?	動詞、形容詞の終止形を使った作文をする。 時を表す単語を覚える。 9課ワークプリント	復習: 9課全体 (1時間) 予習: p 95 数字 (0.5時間)
10	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	9課単語テスト 5桁の数字の読み書きが出来るように練習する。 位置関係の言葉を覚える。	復習: p 96 単語を覚える (0.5時間) 予習: p 94 読む (0.5時間)
11	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	位置関係の言葉小テスト 5桁の漢数字を練習する。 p 94-p 96	復習: p 94-96 (0.5時間) 予習: p 97、p 98 読む (0.5時間)
12	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	前回の授業で新しく学んだ5桁の数字の小テスト。 位置関係の言葉を練習。 ここはどこですか?どこに何がありますか?	復習: p 94-96 (0.5時間) 予習: p 97、p 98 読む (0.5時間)
13	第10課 ビエールさんの事務室は3階にあります。	5桁の数字の練習 p 98-101	復習: 10課全体単語テスト勉強 (1時間) 予習「自己紹介」200文字作文 (1時間)
14	第11課 電話番号は何番ですか? 後期総合まとめ	10課全体単語テスト 助詞-は、-も、-のみの使い方を練習する。 200文字の自己紹介をチェック	復習: 7課~11課まで 5桁の漢数字 200文字の自己紹介 (3時間)

			後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	
	15	まとめ	後期末試験	
実務経験				
関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/zoomとラインを併用			
Teamsコード	gk329j2			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	ライン			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学はまじめに積み重ねる他、方法がありませんので、遅刻・欠席しないように頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、そして将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	遠隔授業時は自宅に居ます。			
備考	質問がある場合は授業日に非常勤講師室で受け付ける。課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。 myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅲ	科目名(英文)	Korean III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 知垠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01338e1		

授業概要・目的	韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的能力をベースに、日常生活における様々な場面において、基本的なコミュニケーションが取れるように、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。 *授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。
到達目標	①韓国語の尊敬語が使える。 ②理由の表現ができる。 ③自分の経験についての表現ができる。
授業方法と留意点	<授業方法> 授業形式は、TEAMSを使ったオンライン型授業(双方向型授業)、リアルタイムで行います。 <留意点> 授業に参加するためには、事前にTEAMSをダウンロードし、「チーム>連絡用>授業方法」の内容を必ず確認してください。 ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。 韓国語能力試験(TOPIK)1級、ハングル検定4・5級を目指すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	基礎の復習	現在形、過去形、存在形(‘へヨ体’)	文法項目の復習 現在形、過去形(2時間)
2	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	文法 ①未来形 ②可能形	教科書1課 文法の復習(30分)、 p18~19単語の予習(30分)
3	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	文法 ③形容詞 対話	教科書1課 文法の復習(30分)、 p20~24単語の予習(30分)
4	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	読解・聴解・作文	教科書1課 文法の復習(30分)、 p28~32単語の予習(1時間)
5	2課 ‘この服を着てみてください。’	文法 ①形容詞の連体形 ②否定	教科書2課 文法の復習(30分) p21単語の復習(1時間)
6	2課 ‘この服を着てみてください。’	文法 ③勧誘 対話	教科書2課 文法の復習(30分) 動詞単語の予習(30分) p39~41単語の予習(30分)
7	2課 ‘この服を着てみてください。’	読解・聴解・作文	教科書2課 文法の復習(30分) p43~50単語の予習(30分)
8	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	文法 ①尊敬語の現在形 ②尊敬語の過去形	教科書3課 文法の復習(30分) p54~55単語の予習(30分)
9	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	対話・読解	教科書3課 文法の復習(30分) p56~63単語の予習(30分)
10	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	聴解・作文	教科書3課 文法の復習(30分) p64~66単語の予習(30分)
11	4課 ‘水泳ができます。’	文法 ①やり方・方法の可能・不可能形 ②義務表現	教科書4課 文法の復習(30分) p70~72単語の予習(30分)
12	4課 ‘水泳ができます。’	文法 ③選択表現 対話	教科書4課 文法の復習(30分) p73~76単語の予習(30分)
13	4課 ‘水泳ができます。’	読解・聴解・作文	教科書4課 文法の復習(30分) p78~84単語の予習(30分)
14	総合確認	習得内容のまとめ	文法・単語の復習(2時間)
15	韓国文化	視聴覚授業	

実務経験	
関連科目	韓国語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New 西江韓国語 1B	西江大学校 韓国語教育院	西江大学校 国際文化教育院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西江韓国語 1B 翻訳・文法解説	西江大学校 韓国語教育院	西江大学校 国際文化教育院

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、協同力、提出物) 20%、小テスト 30%、期末テスト 50% で評価			
学生への メッセージ	この授業は、韓国語 I・II を履修し、'へヨ体'で現在形・過去形が出来る人を対象とします。 授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。 韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に出会えるきっかけになると思います。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業の内容は習得様子により変更する可能性があります。 質問がある場合は授業日に非常勤講師室で受け付けます。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 hangeul.nara143@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅳ	科目名 (英文)	Korean IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 知垠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01339e1		

授業概要・目的	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人、及びそれに応じる文法能力ができる人を対象にします。 韓国語Ⅲに引き続き、学んだ内容を実践的に会話で運用できるよう、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。 授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。
到達目標	日常生活における様々な場面において、韓国人と基本的なコミュニケーションが取れるようになります。
授業方法と留意点	授業方法は、TEAMSを用いたオンライン型です。 授業は演習形式で行い、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。 ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。 韓国語能力試験(TOPIK)1級・ハングル検定4・5級を目指すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	文法 ①提案表現 ②羅列接続(名詞)表現	教科書5課 文法の復習(30分)、 p 88～89単語の予習(30分)
2	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	文法 ③羅列接続(動詞)表現 対話	教科書5課 文法の復習(30分)、 p 90～94単語の予習(1時間)	
3	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	読解・作文	教科書5課 文法の復習(30分)、 p 97～99単語の予習(30分)	
4	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	聴解・作文	教科書5課 文法の復習(30分)、 p 101～102単語の予習(30分)	
5	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	文法 ①不可能表現 ②理由表現	教科書6課 文法の復習(30分)、 p 106～107単語の予習(30分)	
6	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	文法 ③意図表現 対話	教科書6課 文法の復習(30分)、 p 108～111単語の予習(1時間)	
7	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	読解・作文	教科書6課 文法の復習(30分)、 p 115～117単語の予習(1時間)	
8	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	聴解・作文	教科書6課 文法の復習(30分)、 p 119～120単語の予習(1時間)	
9	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	文法 ①経験表現 ②依頼表現	教科書7課 文法の復習(30分)、 p 124～125単語の予習(30分)	
10	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	対話・読解	教科書7課 文法の復習(30分) p 126～133単語の予習(1時間)	
11	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	聴解・作文	教科書7課 文法の復習(30分) p 135～136単語の予習(30分)	
12	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	文法 ①比較表現 ②最上級表現	教科書8課 文法の復習(30分) p 140～141単語の予習(30分)	
13	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	対話・読解	教科書8課 文法の復習(30分) p 142～149単語の予習(1時間)	
14	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	聴解・作文	教科書8課 文法の復習(30分) p 151～152単語の予(30分)習	
15	総合復習	習得内容のまとめ	文法・単語の復習(2時間)	

実務経験	
------	--

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New 西江韓国語 1B	西江大学校 韓国語教育院	西江大学校 国際文化教育院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西江韓国語 1B 翻訳・文法解説	西江大学校 韓国語教育院	西江大学校 国際文化教育院
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teams コード	xcr5mk9
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点(授業態度, 発表力, 提出物) 20%、小テスト 30%で、期末テスト 50%
学生への メッセージ	授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。 韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に出会えるきっかけになると思います。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業内容は、習得状況により変更可能です。 質問がある場合は授業日に非常勤講師室で受け付けます。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。 hangeul.nara1443@gmail.com

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	オンライン授業にて、話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。「ニュース検定公式テキスト」を参考にしながら、昨今のニュースを理解するための基礎的知識について解説する。一方的にならないように、課題などを通して、できるだけ受講者にも自分の考えをまとめて表現してもらうようにする。 ※前期は「ニュース時事能力検定」は中止となりました。

科目学習の 効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3級
------------------	---------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ大切さを知る。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。
2	ニュース検定 3級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (政治)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
3	ニュース検定 3級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (政治)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
4	ニュース検定 3級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (政治)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
5	ニュース検定 3級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (経済)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
6	ニュース検定 3級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (経済)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
7	ニュース検定 3級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (暮らし)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
8	ニュース検定 3級対策⑦	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況 を解説 (暮らし)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる	
9	中間確認テスト	・前回の確認小テスト ・中間確認テスト (前回のニュース検定 3級)	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習 する。	
10	「ニュース時事能力検定」受 検	・「ニュース時事能力検定」を受検する。	検定に向けて学習する。	
11	学生発表①	・政治、経済、暮らしにかかわるテーマ からとくに気になるものを選び、発表に よって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を 考える。	
12	学生発表②	・政治、経済、暮らしにかかわるテーマ からとくに気になるものを選び、発表に よって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を 考える。	
13	学生発表③	・政治、経済、暮らしにかかわるテーマ からとくに気になるものを選び、発表に よって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を 考える。	
14	学生発表④	・政治、経済、暮らしにかかわるテーマ からとくに気になるものを選び、発表に よって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を 考える。	
15	最終確認テスト 復習	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、 四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を 考える。	

実務経験	
------	--

関連科目	時事問題 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基		毎日新聞社

		基礎編		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮崎 友里
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 ====↓変更しました↓==== なお、ニュース時事能力検定の実施は【中止】とする。 ====↓変更前↓==== また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 最近のニュースを知り、その背景を考える。	具体的な時事トピックの提示 ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	6	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	7	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	8	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、開設する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	11	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	12	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	13	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
	14	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 指定している教科書も使い、授業内で実施した小テストの内容の理解を深める (1時間)
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う 総括	これまでの復習をする	

実務経験			
関連科目	時事問題Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	2020 ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編	毎日新聞社
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）		
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。		

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。受験料(3級 2,800円、準2級 3,300円、2級 4,300円。変更の可能性あり)が必要となるので、
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 3級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11	プレゼンテーションに向けて	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう方法を概説する。	新聞の一面に目を通す プレゼンテーションの準備
12	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう	新聞の一面に目を通す プレゼンテーションの準備
13	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう	新聞の一面に目を通す プレゼンテーションの準備
14	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう	新聞の一面に目を通す プレゼンテーションの準備
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

実務経験	
------	--

関連科目	時事問題 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	【ニュース検定の受検はありません。】 「ニュース時事能力検定試験」の教科書、新聞や資料を用いながら学習する。
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う (時事問題にかんするプレゼンテーション)	これまでの復習をする
10	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト 復習	最終確認テストを行う (時事問題にかんするプレゼンテーション)	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる これまでの復習をする

実務経験				
関連科目	時事問題 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。受験料(3級 2,800円、準2級 3,300円、2級 4,300円。変更の可能性あり)が必要とな
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ大切さを知る。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。
	2	ニュース検定準2級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説(社会・環境)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	ニュース検定準2級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説(社会・環境)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	ニュース検定準2級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説(社会・環境)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	ニュース検定準2級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説(国際)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	ニュース検定準2級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説(国際)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	ニュース検定準2級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する 上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説(国際)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	・中間確認テスト (前回のニュース検定準2級)	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	「ニュース時事能力検定」受験	・「ニュース時事能力検定」を受検する。	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。
	10	学生発表①	・社会・環境、国際にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	検定に向けて学習する。
	11	学生発表②	・社会・環境、国際にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	12	学生発表③	・社会・環境、国際にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	13	学生発表④	・社会・環境、国際にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	14	学生発表⑤	・社会・環境、国際にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	15	最終確認テスト	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
実務経験				
関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「2020 ニュース検定公式テキスト 発展編」</td> <td></td> <td>毎日新聞社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「2020 ニュース検定公式テキスト 発展編」		毎日新聞社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「2020 ニュース検定公式テキスト 発展編」		毎日新聞社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																
Teams コード	is8rasu																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	Outlook メールアドレス																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40% (ただし、ニュース検定を実施する場合には、 授業への参加度 50% 中間・最終課題 30% ニュース時事能力検定成績 20%とする。)																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）																
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。																

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書の解説および練習問題、小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する可能性もあるが今年度は(コロナの状況次第)未定。受験が授業内で実施された場合は、合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。またその場合、日程がシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,800円、準2級 3,300円、2級 4,300円。変更の)
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
9	「ニュース時事能力検定」受験(未定)	「ニュース時事能力検定」を受検する(未定)	新聞の一面に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。 検定に向けて学習する
10	プレゼンテーションに向けて	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう方法を概説する。	新聞の一面に目を通す レジュメ作成の準備
11	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、提出する。	新聞の一面に目を通す レジュメ作成の準備
12	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、提出する。	新聞の一面に目を通す レジュメ作成の準備
13	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、提出する。	新聞の一面に目を通す レジュメ作成の準備
14	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、提出する。	新聞の一面に目を通す レジュメ作成の準備
15	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力(時事能力)に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、提出する。	新聞の一面に目を通す レジュメ作成の準備

実務経験				
関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード	s301uwk			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40% (ただし、ニュース検定を実施する場合には、 授業への参加度 50% 中間・最終課題 30% ニュース時事能力検定成績 20%とする。)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。受験料(3級 2,800円、準2級 3,300円、2級 4,300円。変更の可能性あり)が必要となるので、
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15	最終確認テスト 復習	最終確認テストを行う (時事問題にかんするプレゼンテーション)	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる これまでの復習をする	

実務経験				
関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Web Folder			
Teams コード	jaqm635			
Moodle コース名 および登録キー	時事問題 II(早川) raven6toad			
連絡手段	チーム内のチャットとメール等			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度 60% 中間・最終課題 40% (ただし、ニュース検定を実施する場合には、 授業への参加度 50% 中間・最終課題 30% ニュース時事能力検定成績 20%とする。)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	L1L1327a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	L1L1327a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	L1L1327a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約40%を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1時間) 事後：出題内容の見直し (30分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30分) 事後：事後課題の完成・提出 (1時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50分) 事後：事後課題の完成・提出 (40分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1時間) 事後：出題内容の見直し (30分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1時間) 事後：出題内容の見直し (30分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	L1L1327a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報処理 II	科目名 (英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	L1L1328a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシー I の復習 (1 時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder 初回から両方使用			
Teams コード	7g598hi			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報処理 II	科目名 (英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	L1L1328a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシー I の復習 (1 時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	utdabusg			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams の講義チームにて。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (50%)、模擬試験や総合課題などの演習 (50%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。なお、遠隔講義中は課題提出=出席とする。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報処理 II	科目名 (英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	L1L1328a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシー I の復習 (1 時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder 初回から両方使用			
Teams コード	hf56bw0			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報処理 II	科目名 (英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	L1L1328a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシー I の復習 (1 時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	gyiipb8			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams の講義チームにて。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (50%)、模擬試験や総合課題などの演習 (50%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。なお、遠隔講義中は、課題提出=出席とする。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams 経由にてお願いします。			

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之・瀧 千波
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1351a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodleの2つのICTツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する(30分) 事後: 本実習の理解を深める(30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前: 運動を行い体力測定に備える(30分) 事後: 自身の体力についての振り返り(30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前: 運動を行い体力測定に備える(30分) 事後: 自身の体力についての振り返り(30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく(30分) 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分)
5	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
6	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
7	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
8	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
9	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後: 内容の振り返り(30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後: 全授業の総括(30分)

実務経験	
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之・瀧 千波
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1351a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodle の 2 つの ICT ツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する (30 分) 事後: 本実習の理解を深める (30 分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前: 運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後: 自身の体力についての振り返り (30 分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前: 運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後: 自身の体力についての振り返り (30 分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく (30 分) 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後: 内容の振り返り (30 分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後: 全授業の総括 (30 分)

実務経験	
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	活動点 50%、課題点 50% として、総合評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practicum in Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之・瀧 千波
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1352a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間内に課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業ではMicrosoft Teamsを使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく(30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
3	【対面授業】 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
4	【対面授業】 ・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
5	【対面授業】 ・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
6	【対面授業】 ・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
7	【対面授業】 ・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
9	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分)

		・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする（生涯スポーツなど）	事前：これまでのまとめと健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
実務経験																				
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																			
Teamsコード	4w4n1kx																			
Moodleコース名および登録キー																				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法（基準）	対面授業・・・活動点50％、態度点＋技能点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50％、課題点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。																			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来てください。																			
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。																			

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practicum in Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之・瀧 千波
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1352a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術に応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間内に課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業ではMicrosoft Teamsを使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通でTeamsを用い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する(30分) 事後：本実習の理解を深める(30分)
2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく(30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
3	【対面授業】 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
4	【対面授業】 ・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
5	【対面授業】 ・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
6	【対面授業】 ・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
7	【対面授業】 ・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
9	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	

		・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする（生涯スポーツなど）	事前：これまでのまとめと健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
実務経験				
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業			
Teamsコード	34fzy26			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	対面授業・・・活動点50％、態度点＋技能点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50％、課題点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来てください。			
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。			

科目名	健康論	科目名 (英文)	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LPH1331a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活気に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。スポーツには体力向上、健康増進、生活習慣病の予防・改善、ストレス解消、コミュニケーションの活性化など大きな効果があることが広く認められている。本講義では現代社会の健康問題と向き合い、スポーツが健康にもたらす効果を理解し、受講者が生涯にわたって心身の健康保持増進を実行するための基礎知識を習得することを目的とする。 SDGs-3, 4, 10
到達目標	①現代の健康問題について理解できる。 ②スポーツが健康にもたらす効果を理解し、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための基礎知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	授業方法は教材・課題提供型とする ICT ツール (Microsoft Teams, Moodle, WebFolder 等) を活用して、講義教材 (音声データ・PDF ファイル・課題等) を提示。 一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果 (資格)	心身の健康保持増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	健康論について	オリエンテーション 授業の進め方、履修上の注意点、課題・評価方法の説明	事前：現代社会の健康問題について調べておく (30分) 事後：オリエンテーションの内容について振り返りをする (30分)
	2	健康の定義・スポーツの意義	①健康の定義、スポーツの意義について学習し、スポーツと健康の関係を理解する ②自身の健康やスポーツへの関心、現在の取り組みについて考える	事前：(WHO) 健康の定義について調べておく (30分) 事後：健康の定義・スポーツの意義について復習をする (30分)
	3	スポーツの意義と社会的な役割	①オリンピック、ワールドカップを題材にスポーツの意義と社会的な役割について理解する ②スポーツの楽しみ方、関わり方について考える	事前：クーベルタン男爵とオリビズムについて調べておく (30分) 事後：スポーツの意義と役割について復習をする (30分)
	4	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について理解する	事前：生活習慣病とは何か調べておく (30分) 事後：なぜ生活習慣病が増加しているのかを復習する (30分)
	5	体重と健康	①身長や年齢に応じた適切な体重について理解する ②肥満、やせすぎの適切な対処法を理解する	事前：自身の身長、体重について調べておく (30分) 事後：体重と健康の関係について復習する (30分)
	6	食生活と健康	①食生活と健康の関係について理解する ②健康に良い食生活について考える	事前：普段の食事を記録し、自身の食事の取り方について調べておく (30分) 事後：食と健康の関係について復習をする (30分)
	7	飲酒・喫煙・薬物	飲酒、喫煙、薬物が健康におよぼす影響について理解する	事前：受動喫煙防止条例について調べておく (30分) 事後：飲酒・喫煙・薬物が健康に及ぼす悪影響について復習をする (30分)
	8	障がい者とスポーツ	①パラリンピックを題材にスポーツの意義と社会的な役割について理解する ②多様性やバリアフリーについて理解する	事前：パラリンピックの語源について調べておく (30分) 事後：障がい者スポーツ、多様性、バリアフリーとは何か復習をする (30分)
	9	ストレス・心の健康	①ストレスが健康におよぼす影響について理解する ②ストレスのメカニズムを理解し、ストレスを軽減させる方法を考える	事前：現代社会とストレスの関係について調べておく (30分) 事後：ストレスのメカニズムについて復習をする (30分)
	10	休息・睡眠と健康	①休息、睡眠と健康の関係について理解する ②質の高い睡眠、効果的な休息のとりかたについて考える	事前：普段の睡眠時間や質を記録し、自身の睡眠について調べておく (30分) 事後：睡眠と健康の関係について復習をする (30分)
	11	高齢者の健康問題	高齢者の健康問題と予防について理解する	事前：現代の高齢者の割合を調べておく (30分) 事後：高齢者の健康問題について復習をする (30分)
	12	運動プログラムの原理と原則	安全で効果的な運動を行うための基礎知識を理解する	事前：トレーニングの3原理について調べておく (30分) 事後：安全で効果的なプログラムについて復習する (30分)
	13	安全に運動を楽しむ	安全に運動をするための基礎知識を理解する	事前：熱中症について調べておく (30分) 事後：安全に運動を楽しむために事故、怪我の予防について復習する (30分)
	14	ヘルスマネジメント (健康管理)	今までの学習した内容を振り返り、自身の健康目標に対して実行可能なアクションプランを作成する	事前：今まで学習したことを振り返り、自身の健康管理について考えておく (30分) 事後：これからの自身のスポーツへの関わり方と健康への意識についてまとめる (30分)
	15	スポーツと健康論まとめ	事業のまとめ、補足、確認テスト	事前：これまでの授業内容を復習しておく (30分) 事後：健康目標に対するアクションプランを実行する (継続的に行う)
実務経験				
関連科目	スポーツ科学実習 I・II			

	生涯スポーツ実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点評価：70%（授業への取り組み姿勢・授業毎に提出する課題の評価） 最終授業終了後の課題：30%（全授業終了後に提出する課題の評価）			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館1F 体育館事務室			
備考				

科目名	人間の探求	科目名 (英文)	Humanities
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1301a1		

授業概要・目的	フロイトの精神分析は、現在でも多くの批判にさらされているとはいえ、無意識という新しい観点から人間の考え方や振舞い方の意味を考えるその立場は、西欧の伝統的な人間論と深い関係をもっている。授業では、フランスの哲学者デカルト以来の近代の人間論をフロイトの精神分析の過激性と対比させながら、その理論的厳密性を紹介する。また、後半では、授業で得た知識を確認するために、デカルトの考え方を批判的に捉えた映画『Blade Runner』を観る。
到達目標	他者との関係、自分自身との関係、見ることの複雑性、記憶の現在性などに対する問題意識を持つことができる。
授業方法と留意点	WebFolder を使用して、精神分析に基づく人間論に関するテキストを読み進めます。テキストの要約、関連項目の説明などに関して、全体的に五回レポートを提出してもらいます。必ずテキストを熟読し、課題に臨んでください。
科目学習の効果 (資格)	人間論によって自分自身の存在＝「私は何ものなのか」、あるいは死＝「私が無になるとは、どういうことなのか」について考えることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	講義の概要	――
	2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読
	3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し
	4	無意識の存在	夢の解釈方法	前回のノートの見直し
	5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し
	6	心的外傷	現実か幻想か	前回のノートの見直し
	7	デカルトの思想	「私は考える、故に私は存在する」	前回のノートの見直し
	8	デカルトの思想	欺く神と神の誠実性	前回のノートの見直し
	9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し
	10	死の欲動	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し
	11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し
	12	ラカンの精神分析	言語と無意識	前回のノートの見直し
	13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し
	14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し
	15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し

実務経験	
関連科目	思想系の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自己愛人間	小此木啓吾	筑摩書房 (ちくま学芸文庫)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	提出されたレポート (20点) ×5 で評価します。
学生へのメッセージ	自分自身のあり方、人間関係のあり方、生きるあるいは死ぬとはどういうことか、こうした根本的な問題に関して、答えは出ないものの、新しい見方をすることができますと思います。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。

科目名	芸術論	科目名 (英文)	Fine Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1302a1		

授業概要・目的	【いかに芸術作品を見て語るのか】 美術史と美術批評の方法を学び、作品の「見方」と「語り方」を知る。毎回、重要な美術史家や美術批評家をひとりピックアップし、その代表的な著作と具体的な分析をふまえて、作品の「記述」と「評価」がいかに移り変わってきたのかを確認する。このプロセスをとおして、有名な画家の名前や代表的な作品をただ覚えて満足してしまうレベルを超え、自分の眼で作品を見て自分の言葉で作品を語ることのむずかしさとおもしろさを体感する。		
到達目標	以下の2点を自分の言葉で説明できるようになること。 1. 芸術作品を「見て語る」方法が多岐にわたることの理由 2. 芸術作品の前で自分だけの眼と言葉を持つことがむずかしい理由		
授業方法と留意点	【MoodleとZoomによるリアルタイムオンライン講義】 [Moodle] 1. アクセスキーで「芸術論 (2020)」に登録する。 2. 当該コースで、授業日程、Zoom ミーティング URL、各回の配信資料を確認する。 3. 授業当日までに配信資料をプリントアウトし、目を通しておく。 [Zoom] 1. 使用する PC もしくはスマートフォンに Zoom アプリをインストールしておく。 2. 授業 3 分前までに Moodle で確認した URL をクリックして Zoom をスタンバイする。 3. 授業開		
科目学習の効果 (資格)	芸術作品を鑑賞する方法の理解 [学芸員資格]		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	はじめに	授業概要の説明と歴史叙述について解説する。
	2	伝記	「ジョルジョ・ヴァザーリ」作家の人生を基準にする見方と語り方を確認する。
	3	考古学	「ヨハン・ヴィンケルマン」古代の精神を基準にする見方と語り方を確認する。
	4	解剖学	「ジョ・ヴァンニ・モレッリ」骨格のカタチを基準にする見方と語り方を確認する。
	5	様式論	「アロイス・リーグル」カタチの進化を基準にする見方と語り方を確認する。
	6	美術史	「ハインリヒ・ヴェルフリン」カタチの比較を基準にする見方と語り方を確認する。
	7	イコノロジー	「エルヴィン・パノフスキー」カタチの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。
	8	知覚心理学	「エルンスト・ゴンブリッチ」眼差しの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。
	9	フォーマリズム#1	「クレメント・グリーンバーグ」カタチの新しさを基準にする見方と語り方を確認する。
	10	フォーマリズム#2	「マイケル・フリード」カタチの価値を基準にする見方と語り方を確認する。
			事前・事後学習課題 事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90 分)。

				い応答を試みる (90分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90分)。
	11	脱構築	「ロザリンド・クラウス」 価値の相対化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90分)。
	12	フェミニズム	「グリゼルダ・ポロック」 ジェンダーの非対称を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分なりにより良い応答を試みる (90分)。
	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に回答する (120分)。
	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に回答する (120分)。
	15	まとめ	実習課題を振り返り、授業を総括する	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:芸術作品の見方と語り方の種類を再認識しつつ、それぞれの方法を自分なりに使いこなせるよう、知識を補いつつさらに美術鑑賞を続けていく (240分?)。
実務経験				
関連科目	芸能文化論／暮らしの中の文化			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西洋美術史ハンドブック	(編) 高階秀爾・三浦篤	新書館
	2	モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平	(編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫	太田出版
	3	美術史学の系譜	加藤哲弘	中央公論美術出版
授業形態	Moodle/Zoom			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	芸術論 (2020) phosphophyllite			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	1. 各回的小クイズ (論述) [80%] 2. 実習課題 (論述) [20%]			
学生への メッセージ	1. 小クイズの評価基準は「知識量」ではなく「論理性」と「好奇心」である。 2. 居眠りは応答レベルを下げる要因となるため体調は整えてもらいたい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室			
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1303a1		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解できること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解できること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
2	人類学の誕生(1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
3	人類学の誕生(2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
4	機能主義人類学(1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
5	機能主義人類学(2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
6	アメリカ文化人類学の誕生(1):	フランツ・ポアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
7	アメリカ文化人類学の誕生(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
8	アメリカ文化人類学の展開(1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ポアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
9	アメリカ文化人類学の展開(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義(1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
11	構造主義(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
12	構造主義(3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
13	解釈人類学(1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
14	解釈人類学(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

実務経験	
関連科目	学芸員課程

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード	k4syxmo			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	100%レポートによって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。			
学生への メッセージ	<p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。質問等はTeamsにて可能な限り対応します。</p> <p>各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1304a1		

授業概要・目的	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、ことばの言語獲得、第二言語修得についても考察する。
到達目標	言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。講義で用いる資料は、事前に moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備
	2	こどもの言語発達 1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	3	こどもの言語発達 2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	4	単語の理解 1	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	5	単語の理解 2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	6	文の理解 1	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	7	文の理解 2	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	8	文章理解 1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	9	文章理解 2	文章理解における推論 文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	11	会話 1	会話の成立 対人配慮	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	12	会話 2	攻撃、皮肉 誤解	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	14	第二言語習得 1	生活の中の学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
	15	第二言語修得 2	学校などでの学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	ミニレポート 50%、期末レポート 50%
-----------	-----------------------

学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。
担当者の研究室等	7号館3階
備考	授業内で moodle を使用します。利用できるようにしておいてください。 各授業のはじめに、前回の「授業内レポート」から抜粋して紹介します。 事前事後学習時間の目安は総計 60 時間。

科目名	現代社会と法	科目名 (英文)	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01405a2		

授業概要・目的	「法」は私たちの生活の基盤となるものです。日頃実感できないことも多いと思いますが、私たちが社会で自由に活動するための基本的な仕組み・ルールを整備しています。この授業では、身近なニュースや問題を題材に、憲法・刑法・民法という代表的な3つの法を学習します。普段の生活の中で遭遇する様々な事柄を「法学」という視点から考える力を養うことを目的とします。
到達目標	この講義を通じて、学生には以下のことを身につけることが期待されます。 (1)法という仕組み・ルールの基本的な知識・考え方を習得する (2)時事問題を法という観点から考え、解決を模索する力をつける。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画を見てください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 必要に応じて学生との質疑応答などの双方向コミュニケーションにつとめ、皆さんの理解に役立てたいと思います

科目学習の効果 (資格)	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス (授業の進め方, 期末試験, 成績評価, 受講上の注意等) 法とは何か	事前: 教科書 Break(1)~(7) 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
2	刑事法(1)	犯罪と刑罰	事前: 教科書(第1章§1・2)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
3	刑事法(2)	罪刑法定主義とは	事前: 教科書(第1章§3)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
4	刑事法(3)	犯罪の成立要件	事前: 教科書(第1章§4)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
5	刑事法(4)	刑事手続	事前: 教科書(第2章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
6	民事法(1)	民法の仕組みと「物」と「人」	事前: 教科書(第3章、第4章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
7	民事法(2)	不法行為法	事前: 教科書(第3章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
8	民事法(3)	契約	事前: 教科書(第4章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
9	民事法(4)	婚姻と家族	事前: 教科書(第5章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
10	消費者と法	・訪問販売 ・マルチ商法 ・ローンとクレジット契約 ・製造物責任法	事前: 事前に配布レジュメを読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
11	労働関係と法	・労働法	事前: 事前配布レジュメを読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
12	憲法(1)	憲法の意義, 統治制度	事前: 教科書(第6章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
13	憲法(2)	人権保障の仕組み	事前: 教科書(第7章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
14	憲法(3)	表現の自由と著作権	事前: 教科書(第7章)を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
15	総括	これまでの講義の復習	事前: これまで整理・要約してきたノート類を見直す。 事後: 復習課題に取り組む。

実務経験	
------	--

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての法律学	松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代法学を学ぶ人のために	中川淳ほか	世界思想社
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・復習課題：40% ・ミニツツペーパー：30% ・小テスト（オンラインで実施予定）：30% <p>*各項目の内容について詳しい説明は授業初回に行います。</p>
学生への メッセージ	公務員志望者や法学系資格を取得したいと考えている方の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	未定
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01307a1		

授業概要・目的	憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。 この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の3つを習得することが期待されます。 (1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解すること。 (2) 具体的な事件について裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討を行えるようにすること。 (3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できるようにすること。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画を見てください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 主に講義形式で行いますが、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解
科目学習の効果 (資格)	各種公務員試験で問われる憲法の基礎学力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0, 1) * () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。
2	統治総論	・立憲主義、権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
3	国会	国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
4	内閣	内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
5	裁判所	裁判所の地位と役割 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
6	裁判所 (2)	裁判所の組織・手続 (Unit 9)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
7	基本的人権総論	人権保障の仕組み Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
8	基本的人権各論 (1)	思想良心の自由 (Unit 14)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
9	基本的人権各論 (2)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義、二重の基準 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由 (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
12	基本的人権各論 (5)	職業選択の自由 (Unit 21)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
13	基本的人権各論 (4) 生存権	生存権 (Unit 24)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	
14	幸福追求権	自己決定権、プライバシー権 (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2時間)。	

	15	平等原則	平等原則の意義と合理的な区別 (Unit 2.7)	時間)。 事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理, 要約する (2時間)。																
実務経験																				
関連科目	行政法、民法、刑法など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>一步先への憲法入門</td> <td>片桐直人ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	一步先への憲法入門	片桐直人ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	一步先への憲法入門	片桐直人ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>START UP 憲法判例 50 [第2版]</td> <td>上田健介・尾形健・片桐直人</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>授業中に適宜指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	START UP 憲法判例 50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣	2	授業中に適宜指示します。			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	START UP 憲法判例 50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣																	
2	授業中に適宜指示します。																			
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	lrfvp9t																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題：40% ・ミニツッパーパー：30% ・小テスト (オンラインで実施予定)：30% *各項目の詳しい説明は授業初回に行います。																			
学生への メッセージ	法学を勉強したことない人も受講を歓迎します。 この授業は、憲法の条文、原理や解釈がなぜそうなっているのか、という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また、社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めていきます。																			
担当者の 研究室等 備考	11号館9階 笛木講師室																			

科目名	経済のしくみ	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01407a2		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。
授業方法と留意点	基本的にはMoodle上でのオンデマンド型遠隔講義の形式で授業を進めるが、場合によってMicrosoft Teamsを用いたリアルタイム型の遠隔授業を行うことがある。その場合は事前にMoodle上で告知を行うので、通知を見逃さないように注意してください。 授業では、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。
科目学習の効果(資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
3	戦後日本経済の歩み(1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
4	戦後日本経済の歩み(2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
5	戦後日本経済の歩み(3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
6	戦後日本経済の歩み(4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
7	戦後日本経済の歩み(5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本の雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
10	授業内討論(1)日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
11	財政のしくみ(1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
12	財政のしくみ(2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodleで出題された復習課題に取り組む。
14	授業内討論(2)日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社
3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (60%), 期末レポート(40%)で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートはMoodle上で出題する。Moodleへの登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けないので注意してください。
学生への メッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいますが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。
担当者の 研究室等	
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質問や感想を書いてももらいますが、それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01305a1		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・学事日程の変更にとまらぬ、授業計画は一部変更します（原則的に一回一章）。
科目学習の効果 (資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	社会科学の方法 (1)	第1章 比較政治学とは何か	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	社会科学の方法 (2)	第1章 比較政治学とは何か 第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	社会科学の方法 (3)	第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	政治制度 (1)	第3章 選挙制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	政治制度 (2)	第4章 執政制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	政治制度 (3)	第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	政治制度 (4)	第6章 議会制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	政治制度 (5)	第7章 官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	政治制度 (6)	第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	政治制度 (7)	第9章 中央銀行制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	政治制度 (8)	第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	日本の政治制度 (1)	第3章 選挙制度 第4章 執政制度 第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	日本の政治制度 (2)	第6章 議会制度 第7章 官僚制 第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	日本の政治制度 (3) まとめと補遺	第9章 中央銀行制度 第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

実務経験																	
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>比較政治制度論</td> <td>建林正彦ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<p>■定期試験 100%</p> <p>【遠隔授業の実施にともなう変更点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価を実施します。(課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。) 																
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。																
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室																
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。																

科目名	組織と経営	科目名 (英文)	Organizations and Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01409a2		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになってきました。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅰでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。</p> <p>なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。</p> <p>[授業目的]</p> <p>企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
到達目標	<p>[到達目標]</p> <p>①経営学の中でも人のマネジメントの基礎的な概念について理解できるようになる。</p> <p>②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。</p> <p>この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。</p>
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んでください。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題：配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと	
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと	
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと	
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと	
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと	
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるのでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと	
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを1対1で見るとLMXとリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題：配付資料を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度読むこと	
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定されるのか(独立変数)、各々が何に影響を与えるのか(成果変数)について学びます。	事前課題：シラバスおよび教科書の第8章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第8章を1時間程度読むこと	
10	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと	
11	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類があるのか等について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第11章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第11章を1時間程度読むこと	
12	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴	事前課題：配付資料および教科書の第12, 13章を1時間程度読むこと	

			や機能があるのかについて学びます。	事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと
	13	労使関係	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14 章を 1 時間程度読むこと
	14	国際人的資源管理	なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 15 章を 1 時間程度読むこと
	15	まとめ	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：これまでの配付資料および学習したテキストの章を 1 時間程度読むこと
実務経験				
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	xoiipj6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	?小テスト①30 点、小テスト②30 点、レポート 40 点、合計 100 点			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(西之坊研究室)			
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥川 あかり
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1310a1		

授業概要・目的	住まいには安全かつ健康で快適な環境が求められる。本講義では、気候風土や社会的・文化的背景、風俗習慣から住まいを理解し、住居の歴史の変遷や家族と住まい、住空間の構成、地域との関係など住居と住生活の全般について学習し、基本的な知識を習得する。これらを基に、様々な時代で求められたデザインを捉え、持続可能な社会の構築を目指した現代のよりよい住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と世界の住生活の多様性と歴史の変遷を生活文化に即して理解する 2. 住まいや居住地の環境と管理、防災の重要性について理解する 3. 住まいに関する基本的な知識を習得し、快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付ける 4. 日本の住宅や建築を踏まえて自国の文化について世界の人々とコミュニケーションがとれる 5. 良好なコミュニティの形成につながるまちづくりに参画する重要性を理解する 6. 持続可能な社会の構築を目指して真に豊かな住生活とは何かについて主体的に考えられる
授業方法と留意点	適宜プリントを配布し、教科書やスライド、映像資料、板書による講義を基本とする
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス ひとの住まいについて	授業の進め方や受講上の留意点などのガイダンスを行う ひとの住まいとサステナブルな住まいについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
2	気候風土と住まい	日本の気候や風土(災害)と暮らし(住まいやライフスタイル)との関係について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	世界の住まい(1)	世界の住まいの歴史や住生活文化(気候風土に応じた住居)について時系列的な流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	世界の住まい(2)	現代の世界の住まいや住生活文化、生活様式について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	日本の住まい(1)	住まいの歴史や住生活文化について、先史時代から奈良(竪穴住居、高床建物、平地住居)、平安貴族(寝殿造)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	日本の住まい(2)	住まいの歴史や住生活文化について中世の支配階層(主殿造、書院造)から近世(武家住宅、町家、農家)、近代(サラリーマン住宅、田園都市、集合住宅)の住まいや間取り、近代化や洋風化について時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	現代の住まいと地域	現代の住宅(高層住宅や集合住宅)とその暮らし(都市、地域、郊外、複数拠点)、地域生活について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	住まいの管理	住まいの維持や管理として定期的なメンテナンス、生活財の管理と収納、家計や住居費について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	住まいの安全	住まいの安全と安心、住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	住まいのための人間工学	人間工学と人の生理機能を取り巻く環境について学び、快適な住環境について考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	住まいと環境	温熱、光、音、空気、都市環境や色彩について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	住まいの材料と構造	住まいの材料(土・石・木・コンクリート・鉄)とそれぞれの構造・工法について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいと福祉	高齢者や子どもを含む自立支援のための住まいづくりやユニバーサルデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいのデザイン	住まいのインテリアやエクステリアと設計について学び、AI化が進む情報化社会での暮らしやエコについて考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	総括	住まいとデザインのまとめと現代の住生活に関する課題や理解度の確認	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	私たちの住居学 サステナブル社会の住まいと暮らし	中根 芳一	オーム社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	住居学	後藤久他	朝倉書店
	2	住まいのデザイン	北村薫子他	朝倉書店
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	試験：70%・提出物等（小テストが行われる場合もある）：30% これらを合わせて総合的に評価を行う			
学生への メッセージ	建物や住宅に興味や関心を持ち、街並みや空間にも目を向けてください。疑問があれば授業前後や授業中に質問してください。その他、参考文献 や関連書籍は授業で適宜紹介します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波 由佳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1310a1		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども深くかかわってくる。この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを映像資料などを用いて多様な角度から学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを感じとり、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身につけることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身につけることができる。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身につけることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培うことができる。
授業方法と留意点	オンライン授業により講義を行う。授業時間内 15～20 分程度を、休憩・チェックをはさみ 2～3 回行う予定。 毎回授業終了後に質問、小課題あるいは小テストを行い、理解度を見る。
科目学習の効果 (資格)	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの移り変わり(1) たてにあなを掘ると... ～洞窟を出て堅穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
3	日本の住まいの移り変わり(2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造...	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、生活環境、美的感覚を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
4	日本の住まいの移り変わり(3) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と茶室の成立、数寄屋まで成熟から洗練を加えてゆく過程の美意識を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
5	住まいの成り立ち 気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
6	住まいのデザインを構成するもの 光 採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
7	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
8	住まいの成り立ち 気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
9	住まいのデザインを構成するもの 涼しさの演出 ～色彩・水・風	色彩や視覚、触覚によって感じる温度感覚の違いや効果的な使い方を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
10	住まいの成り立ち 気候風土文化 石積み壁の壁 ～自然を征服、永遠の Monument	西洋の気候風土に応じて発達した組積造の住まいについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
11	西洋の住まいの移り変わり(1) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	近代以前のヨーロッパの成熟した宮殿・邸宅について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
12	西洋の住まいの移り変わり・世界(2) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート アーツ・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォー、ゼセッション、グラスゴー派、モデルニスモ	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォー、ヨーロッパ各地で展開したウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、ガウディによるモデルニスモについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
13	西洋の住まいの移り変わり・	民衆のための合理的デザインの追求と	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		世界(3) あたらしい人と生活のデザイン ～普遍なるものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	モダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	14	現代の住まい 最先端デザインと生活スタイル ～現在に生きて暮らす	現代に展開する住宅や建築の事例を通して、現在とこれからの環境や生活空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	15	住宅をデザインする わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。																
実務経験																				
関連科目	特になし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで</td> <td>コロナブックス編集部</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td> <td>上田実・平地勲</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン</td> <td>ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル</td> <td>タッセン・ジャパン</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社	2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社	3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッセン・ジャパン
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社																	
2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社																	
3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッセン・ジャパン																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	オンライン授業後の小課題、小テスト 50% 最終回授業でのオンラインでの筆記試験 50%																			
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみる。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみる。																			
担当者の 研究室等																				
備考	授業内容に対する質問には授業時間後に非常勤講師室で対応可能。また個別にメールでの対応も可能。課題に対するフィードバックは文書または口頭で必ず行う。事前事後の総学習時間の目安は60時間。																			

科目名	食品機能学	科目名 (英文)	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 貴生
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1311a1		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系 (体調リズム)、神経系 (精神の高揚や鎮静) などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、触感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症 (高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを目的とする。 SGDs-2, 3
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。 食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。 また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料に沿って、教材・課題提供型授業を行う。 中間試験に代わるレポートおよび総合試験 (筆記) に代わるまとめの課題を課す。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。 受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合がある。 毎回の講義に課題を課し、翌週に解説する。
科目学習の効果 (資格)	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	食品機能学とは	食品の特性、一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、食感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)
2	機能性食品	保健機能食品、特用用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換えの基礎的な概念を解説した後、実際にどのように利用されているかを、関連する法令とともに紹介する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
4	活性酸素	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
5	抗酸化機能食品	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
6	ミネラルとビタミンの機能性	ヒトの健康な生活に不可欠なミネラルとビタミンを含む食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
7	炭水化物	ヒトを含む全ての生物のエネルギー源である炭水化物 (糖) について、解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
8	難消化性炭水化物	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
9	中間試験に代わるまとめ課題	第1回から第8回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。	第1回から第8回までの内容を復習しておく。(1時間)	
10	脂質と肥満	食品に含まれる脂質成分、および脂質と肥満との関係性について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
11	機能性脂質食品成分	肥満の解消に有効な機能性食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
12	高血圧と血圧降下作用がある食品成分	ヒトはなぜ高血圧になるのか、について簡単に説明した後、高血圧を解消するための食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
13	糖尿病	糖尿病になるメカニズムを解説し、その後に糖尿病にならないための食生活について、解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
14	免疫機能を活性化する食品	免疫について、簡単に説明した後、免疫機能を活性化する食品成分について解説する。免疫と深く関わりがあるアレルギーについても解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。(1時間)	
15	総合試験 (筆記) に代わる期末課題	第10回から第14回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。その後、内容について解説する。	第10回から第14回までの内容を復習しておく。(1時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂 食品機能学	青柳 康夫 編	建帛社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかりやすい食品機能学第2版	森田英利・田辺創一 編著	東京化学同人
2	食べ物と健康 食品の科学	太田英昭 他	南江堂	

	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	ifcnkbv		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メールまたは Teams のチャット機能		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	講義毎の課題、中間試験および総合試験(筆記)に代わるまとめの課題を総合的に判断して、評価を行う。		
学生への メッセージ	本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。 食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席してください。		
担当者の 研究室等	理工学部・生命科学科 1号館8階 大橋講師室		
備考	授業時の出席管理(出席および欠席)は、大学の規則に従って行います。 毎回必ず出席してください。 事前事後学習には、毎回1時間以上かけてください(総時間の目安は30時間)。		

科目名	人体の構造と機能	科目名 (英文)	Human Anatomy and Physiology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宇野 恭介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1312a1		

授業概要・目的	我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだは細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官(臓器)が出来ていること、さらにヒトという個体は10の器官系からなることを学習する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき(機能)について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。
到達目標	新聞・ニュース等にでてくるような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。授業はオンラインで行う。Moodleでの小テストやoffice teamsやstreamsを用いて教科書およびビデオ教材を参照し、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすすと、理解度が増す。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

実務経験	
関連科目	自然科学 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	機能形態学	櫻田忍・櫻田司編	南江堂
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テストを50%、臨時テストを50%で評価する
学生への メッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。 講義担当者<宇野恭介>は、薬剤師免許を有し臨床及び薬事行政の一端携わった経験がある。また、国立大学及び欧州研究機関において薬学の基礎研究に従事してきた。これらの経験から基礎生物から臨床薬理学に渡る広い視野で生理学及び解剖学の教授を行う。
担当者の 研究室等	枚方学舎（薬学部）1号館3階 機能形態学研究室（宇野講師室）
備考	講義前の予習（教科書を読む1時間×15回）、復習（ノートをまとめる、重要単語を暗記する1時間×15回）

科目名	自然科学の理解	科目名 (英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1313a1		

授業概要・目的	地球温暖化や放射性廃棄物などの社会問題は、物理、化学、生物、天文学や地球物理学等の科学分野にまたがっている。これらの問題を議論するときには、総合的な科学的知識が必要となり、そのような知識を得るためには、自然科学のすべてを概観でき、またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる必要がある。このコースでは、自然科学に対する知識の習得と、大局的な理解を目指す。国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応する。
到達目標	自然科学の体系や基本的な考え方について理解し、また、自然科学のすべてを概観でき、説明できる。またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる。科学リテラシーを確立できる。プレゼンテーションや対話の技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビデオ教材を用いて講義を行う。 Moodle を使用するので、使えるようにしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	科学リテラシーを確立できる。また、さまざまなテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。Moodle を使った講義に違和感なく取り組めるようになる。アクティブラーニングを体験して、自ら学習できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	自然科学とは何か 【入門編】	自然科学の学習前に、なぜ科学を勉強していくのかを明確にする。これから自然科学を統合的に理解することの意義を知る。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
2	天空の法則と地上での運動 【物理・1】	自然界にある秩序を認識することで、科学的方法論が発達してきた過程を学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	
3	ニュートンの法則 【物理・2】	ニュートンが示した、運動とその原因としての力の関係を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	
4	力学的エネルギー 【物理・3】	力学的エネルギーとは何かについて学習する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	
5	光の性質と相互作用及び相対性理論 【物理・4】	相対性の考え方に触れ、アインシュタインの相対性理論を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	
6	放射性物質と原子力 【物理・5】	原子核の中で起こる法則について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	
7	基本的な化学の概念と化学結合 【化学・1】	化学の基本となる原子間の結合、化学結合について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	
8	有機化学と化学反応 【化学・2】	有機化学の基本的な反応の仕組みについて理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。	

			する。	意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
9	物質の性質と科学的新素材【化学・3】		物質の持つ基本的な性質を学び、近年になり増え続ける科学的新素材についても学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
10	生命の発生と進化の戦略【生物・1】		生物の種類や成り立ち、生物進化の概略について学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
11	生命の基本となる化学物質【生物・2】		生命科学全般について概略する。特に、生命の基本となる化学物質について学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
12	細胞と生体エネルギー【生物・3】		細胞の構成や、細胞が如何にしてエネルギーを作り出しているかなどについて学ぶ これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
13	i P S 細胞と遺伝子治療【生物・4】		i P S 細胞とは何か、また、胚性幹細胞との違いや利点などについて学ぶ。また、再生医療の最先端に触れる。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
14	なぜがんになるのかその1【生物・5】		がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
15	なぜがんになるのかその2【生物・6】		がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。

実務経験																	
関連科目	食品機能学、人体の構造と機能																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Moodle を利用し配布します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Moodle を利用し配布します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Moodle を利用し配布します。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい基礎生物学</td> <td>南雲保</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>物理学入門 力と運動</td> <td>武谷三男</td> <td>ちくま文芸文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>はじめて学ぶ化学</td> <td>野島 高彦</td> <td>化学同人</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社	2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫	3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社														
2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫														
3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人														
授業形態	Moodle																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー	2020 年度自然科学の理解 sizen																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。																

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	毎回の小テスト (30%)、定期試験の点数 (30%) 振り返りレポート (10%)、およびレポート、小論文、演習問題などの課題 (30%) の総合点で評価する。ビデオ教材の視聴がされているかも確認し、成績評価 (受講態度) に加える。課題を 4 回以上未提出の場合も定期試験受験資格を失います。 出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。
学生への メッセージ	担当教員からのメッセージ： こんにちは！薬学部の大塚です。 自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。 毎回の授業の終わりに Moodle を用いて「ミニツツペーパー・リアクションペーパー」を書く時間 (5 分間) を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答する。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニツツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Moodle を
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1 号館 5 階 大塚教授室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。 3 回を超えての欠席 (4 回以上欠席すると) は、定期試験受験資格を失います。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間。

科目名	ものづくり研究の世界	科目名 (英文)	Introduction to Manufacturing Technology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1314a1		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 moodleによるweb授業を実施します。 テキストは必要ですので準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。 各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題(レポート)」などをmoodleに提出してもらいます。 質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M1」で受け付けます。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは?	<ul style="list-style-type: none"> 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 	配布資料に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	<ul style="list-style-type: none"> 道具の歴史:ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ 農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 	配布資料に目を通しておくこと。	
3	道具を作る(2) - 作り方	<ul style="list-style-type: none"> 鑄造, 塑性加工, 粉末冶金, 材料加工, 生産加工 刀鍛冶, セラミックス, 溶接・切断 	配布資料に目を通しておくこと。	
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	<ul style="list-style-type: none"> 金属材料はなぜ素材たり得るか? 鉄鋼の製造方法 	配布資料に目を通しておくこと。	
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	<ul style="list-style-type: none"> セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) 高強度・機能性材料の話 	配布資料に目を通しておくこと。	
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	<ul style="list-style-type: none"> 新素材と高度産業化社会 形状記憶, 超伝導, ナノ材料 	配布資料に目を通しておくこと。	
7	ものづくり(1) - 母なる機械	<ul style="list-style-type: none"> 機械部品を作る機械(工作機械の歴史) 機械時計, 工具と運動, 機械部品 	配布資料に目を通しておくこと。	
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> 精度を追求する(コンピュータと工作機械) 精密加工, マシニングセル, ナノ加工 	配布資料に目を通しておくこと。	
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	<ul style="list-style-type: none"> 世界が学ぶ・日本が誇る製造システム 無人化工場, デジタル屋台, トヨタ生産方式 	配布資料に目を通しておくこと。	
10	大きな力を得る(1) - 車輪	<ul style="list-style-type: none"> 作業を補助する機械の歴史 車輪, 滑車, てこ, 歯車 	配布資料に目を通しておくこと。	
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	<ul style="list-style-type: none"> 巨大な力を得るためのアクチュエータ 油圧・水圧・空気圧機器, 電動機 	配布資料に目を通しておくこと。	
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	<ul style="list-style-type: none"> アクチュエータの知能化とパワーアシスト パワードスーツ, 電動アシスト自転車, 人工筋肉 	配布資料に目を通しておくこと。	
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	<ul style="list-style-type: none"> 小さくなることで変わる使い方 時計, 携帯電話, 計算機, テレビカメラ, 情報機器 	配布資料に目を通しておくこと。	
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	<ul style="list-style-type: none"> 小さくすることで変わる物理の法則, 加工法・アクチュエータ 微細加工, ナノテク, 半導体製造, カーボンナノチューブ, 微細気泡 	配布資料に目を通しておくこと。	
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 カプセル内視鏡, 鞭毛モーター 	配布資料に目を通しておくこと。	

実務経験	
------	--

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回、「ノート」と「課題（レポート）」を提出する。 「ノート」(50%)、「課題（レポート）」(50%)で評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]
備考	フィードバック：Microsoft Teams で適宜対応

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1315a1		

授業概要・目的	環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは「環境」について本当に理解しているといえるでしょうか？環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要です。 本講義では、生物（ヒトも含む）と環境の関わりを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけることができるようになることを期待します。
到達目標	1. 生物と環境の関係について基礎知識を習得し、自ら説明することができる。 2. 環境問題や地域の環境の実態について、自分の意見を述べるができる。
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本とする。 理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。また、Moodleやウェブブラウザ等を利用することもあるため、スマートフォン・タブレット等を持ち込むことを推奨します。
科目学習の効果 (資格)	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
2	地球環境史	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
3	文明と環境 1	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
4	文明と環境 2	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
5	文明と環境 3	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
6	食からみる環境 1	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
7	食からみる環境 2	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
8	食からみる環境 3	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
9	食からみる環境 4	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
10	生物と環境の多様な関係性 1	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
11	生物と環境の多様な関係性 2	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
12	生物と環境の多様な関係性 3	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
13	生物と環境の多様な関係性 4	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
14	生物と環境の多様な関係性 5	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
15	全体の総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 生物と環境 202055			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（50%）、期末レポート（50%）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 水野 武, 山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1501a3		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)

実務経験

関連科目

キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ
エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアプランニング	科目名 (英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史, 赤澤 春彦, 浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1502a3		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の学修指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果 (資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	事前学習：シラバスを熟読し、理解する。
2	パッケージプログラムの紹介 (1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介 (2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介 (3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介 (4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介 (5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介 (6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	海外体験をキャリアにどう生かすか	海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。	事前学修：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。
9	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
10	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
11	グループワーク	前回 (第10回) の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
12	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。	・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括 (まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																
Teams コード	3lg5hxa																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（60%） 期末レポート（40%） ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。																
学生への メッセージ	複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。																
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 																

科目名	キャリアプランニング	科目名 (英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 天野 貴史, 有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1502a3		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の学修指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果 (資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	事前学習：シラバスを熟読し、理解する。
2	パッケージプログラムの紹介 (1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介 (2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介 (3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介 (4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介 (5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介 (6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	海外体験をキャリアにどう生かすか	海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。	事前学修：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。
9	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
10	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
11	グループワーク	前回 (第10回) の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
12	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種 の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。	・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括 (まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																
Teams コード	3lg5hxa																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（60%） 期末レポート（40%） ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。																
学生への メッセージ	複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。																
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 																

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1347a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ (将来社会に出て仕事をする際に必要な能力) の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2020年度入学生のみ履修ができる。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること (2 時間)
3	私が NO.1 プロジェクト② 中間振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間)
4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の 3 つの場面の概説	・講義内容を振り返ること (0.5 時間)
5	私が NO. プロジェクト③最終 振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO. プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること (2 時間)
6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること (1 時間)
8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (1 時間)
9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジープレスト、スマッシュアップシジョンなどアイデアを拡散する方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書) を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル (研究計画書) の作成」	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出 0.5 時間)
15	講義のまとめ (担当: 教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること (2 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン I ・ キャリアデザイン II ・ エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	v500rz8

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回のミニツッパーパー (15%)、グループワーク (15%)、グループレポート (10%)、個人レポート2回 (60%)、を総合的に判断する。
学生への メッセージ	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武、石井 三恵、上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1348a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果 (資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「先人(企業家)に学ぶ ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属：大阪企業家ミュージアム)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します DVD の上映も行います(予定)。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会人として転職4回で5社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたほうが、20歳から40歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介(社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたことをお話いただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	プログラマーを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、「公共性」を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	My proud work しあわせのまちづくり？主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方？(社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修：グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)
9	「ビジネス創造に必要な力」を事例から学ぶ(IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	信用金庫の仕事と期待される人材(金融/人材開発)	仕事へのやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	新卒での就職活動で全てが決まる！？(摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	SDGs で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGs について、ゲスト企業の取り組みについてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、グループ課題 (10%) を総合的に判断する。																
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。																
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)																
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。																

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA2505a3		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることが期待される。</p> <p>インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
---------	---

到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
------	--

授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
----------	--

科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。
-------------	-----------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 学生と社会人の違いを理解する インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(1時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(2時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> 組織の形態を知る ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(3時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(1時間) 	
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> 産業の分類を知る 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(1時間) 事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(3時間) 	
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること(1時間) 事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(3時間) 	
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> 第4回目の課題をプレゼンテーションする 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(3時間) 事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる(1時間) 	
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを知る 身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(2時間) 事後学修: 配付されたテキストを精読すること(2時間) 	
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> 文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(2時間) 事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(2時間) 	
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> 口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(2時間) 事後学修: マナーの大切さを再度考えること(2時間) 	
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(2時間) 事後学修: 講義を振り返り、履歴書を書き下すこと(2時間) 	
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> 掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(2時間) 事後学修: グループで課題に取り組むこと(2時間) 	
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> 掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(2時間) 事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(2時間) 	
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> 事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(2時間) 事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(2時間) 	
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(2時間) 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間) 	
14	課題のプレゼンテーション③	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(2時間) 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間) 	

	15	振り返りとまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること（2 時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（3 時間）
実務経験				
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップ II（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各課題 55%とレポート 45%(企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%)			
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※ 4 月下旬にリスト公開→5 月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5 月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6 月末頃に事前訪問→8 月上旬からインターンシップ開始（予定）</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</p>			

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	8	事後学修① 9月19日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	9	事後学修② 9月19日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	10	事後学修③ 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	11	事後学修④ 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	12	事後学修⑤ 10月3日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(1時間)
	13	事後学修⑥ 10月3日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
	14	事後学修⑦ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習：全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
	15	事後学修⑧ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	
実務経験				
関連科目	インターンシップⅠ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。																
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)																
備考	教科書・・・必要に応じてレジユメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。																

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1c, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1507a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する 文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入 文章の書き方1</td> <td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td> <td>———</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文章の書き方2</td> <td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事実と意見</td> <td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>【課題1】説明文</td> <td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>構成 要約</td> <td>レポートなどの文章構成を学ぶ要旨の要約の作成方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>課題1のフィードバック</td> <td>課題1を見直す</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文章を引用する</td> <td>文章を引用する方法を学ぶ</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>図表を引用する 意見を述べる</td> <td>図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>【課題2】論説文</td> <td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>資料を引用して意見を述べるの復習</td> <td>資料を引用して意見を述べるの復習</td> <td>これまでの復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>レポートの書き方1</td> <td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明</td> <td>前回の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>課題2のフィードバック レポートの書き方2</td> <td>課題2のフィードバック レポート作成の注意点を教える</td> <td>課題2を見直す</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポートの作成準備</td> <td>レポートの作成準備</td> <td>レポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小テストの復習 【レポート】</td> <td>小テストの復習テスト レポートを提出する</td> <td>小テストの復習 レポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポートのフィードバック</td> <td>レポートについて講評する</td> <td>レポートの反省 これまでの復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習	5	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習	6	課題1のフィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す	7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	これまでの復習	8	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習	9	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習	10	資料を引用して意見を述べるの復習	資料を引用して意見を述べるの復習	これまでの復習	11	レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習	12	課題2のフィードバック レポートの書き方2	課題2のフィードバック レポート作成の注意点を教える	課題2を見直す	13	レポートの作成準備	レポートの作成準備	レポートを作成する	14	小テストの復習 【レポート】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する	15	レポートのフィードバック	レポートについて講評する	レポートの反省 これまでの復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———																																																																
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習																																																																
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習																																																																
5	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習																																																																
6	課題1のフィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す																																																																
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	これまでの復習																																																																
8	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習																																																																
9	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習																																																																
10	資料を引用して意見を述べるの復習	資料を引用して意見を述べるの復習	これまでの復習																																																																
11	レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習																																																																
12	課題2のフィードバック レポートの書き方2	課題2のフィードバック レポート作成の注意点を教える	課題2を見直す																																																																
13	レポートの作成準備	レポートの作成準備	レポートを作成する																																																																
14	小テストの復習 【レポート】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する																																																																
15	レポートのフィードバック	レポートについて講評する	レポートの反省 これまでの復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	ゼミ、卒業研究など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学日本語教育イノベーションセンター編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	課題2回(20%×2)・レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。																																																																		

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	4	【課題1】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
	7	手紙を書く 課題1フィードバック	手紙文の作成 課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
	10	課題2 ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
	11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文 課題2フィードバック	グループワークの報告文を作成する 課題2のフィードバック	報告文の準備 課題2を見直す
	14	小テストの復習	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題3フィードバック	課題3フィードバック	課題3を見直す	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	x3ozf1g
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	【B】Teams「オンライン型」
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	課題(20%、20%、30%)、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	LCA1509a3		

授業概要・目的	<p>数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。</p>																																																																		
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実力テスト</td> <td>講義概要説明、実力テストの実施</td> <td>実力テストの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>算数・数学の基礎</td> <td>方程式の基礎</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>算数・数学の文章題①</td> <td>割合の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>算数・数学の文章題②</td> <td>金銭問題の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>算数・数学の文章題③</td> <td>分数の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>算数・数学の文章題④</td> <td>速度の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>復習①</td> <td>復習①</td> <td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テスト</td> <td>中間テスト</td> <td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思考力が必要な算数・数学①</td> <td>場合の数</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>思考力が必要な算数・数学②</td> <td>集合問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>思考力が必要な算数・数学③</td> <td>図表問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>思考力が必要な算数・数学④</td> <td>論証問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>思考力が必要な算数・数学⑤</td> <td>推理問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習②</td> <td>復習②</td> <td>全ての問題を事前に復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終テスト</td> <td>最終テスト</td> <td>全ての問題を事前に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習																																																																
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	キャリアデザインⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ASHITANE 数的思考 スタンダード</td> <td>(一社) キャリアラボ</td> <td>(一社) キャリアラボ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」& Moodle																																																																		
Teams コード	zwi8gk8																																																																		
Moodle コース名および登録キー	「数的能力開発」2020年度後期金曜5限(外国語学部) f5yt																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 40%、SmartSPI 20%																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考																																																																			

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎(第1章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題(第2,3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題(第4,7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題(第5,6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題(第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
7	復習①	復習①	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
8	中間テスト	中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数(第10,11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題(第9章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題(第12章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題(第13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題(第14章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
14	復習②	復習②	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
15	最終テスト	最終テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：テストに出た問題の復習 いずれも30分以上を目安とする

実務経験	
関連科目	キャリアデザインII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」& Moodle
Teamsコード	hsb77s5

Moodle コース名 および登録キー	「数的能力開発」2020年度後期金曜5限(外国語学部) f5yt
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 40%、SmartSPI 20%
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Skills
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣, 橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1510a3		

授業概要・目的
 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴く の4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣は航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

到達目標
 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
 SDGs4
 SDGs10

授業方法と留意点
 毎回オンライン(オンデマンド)で授業動画を配信します。それを学習し、レポート課題で習熟度を測ります。個人での学習にはなりますが、コミュニケーションに必要な理論を学び、それを実社会で主体的に実践してください。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聴く力①傾聴力を高める	聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
3	聴く力②質問力・コーチング力	聴いた内容を深めるために、質問とコーチングの基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
4	話す力①ロジカルコミュニケーション①	論理的に会話するための基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
5	話す力②ロジカルコミュニケーション②	論理的に会話するためのフレームワークを学び、発表する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
6	話す力③プレゼンテーションの技法①	非言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
7	話す力④プレゼンテーションの技法②	言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
8	中間テスト	聴く力・話す力を問う	今までの範囲を復習しておくこと(目安:2時間)
9	議論する力①対話と議論の進め方①	対話・議論を進めるための方法を知る	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
10	議論する力②対話と議論の進め方②	対話・議論の練習をして、対話・技法のスキルを習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
11	議論する力③ファシリテーションの技法	話し合いを円滑にする技術を習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
12	相手を尊重する①自分の気持ちを伝える	適切に主張する態度・手法を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
13	相手を尊重する②ダイバーシティを理解する	コミュニケーションの基礎となる多様性の考え方を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
14	総合演習①	課題について、発表と議論を行う	講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)
15	総合演習②・最終テスト	課題について、発表と議論を行う	全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)

実務経験

関連科目 キャリアデザインII, 数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法(基準) 毎回の小レポート40%、2回のテスト30%、動画プレゼンテーション30%

学生へのメッセージ 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。

担当者の研究室等

備考

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o		
科目ナンバリング	LCA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

実務経験				
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」//Web Folder			
Teams コード	w3uk3fb			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 折々小テストをしますので、復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
2	Lesson 1 Welcome to Japan (1) 空港にて初対面の挨拶、入国手続き関係の言い回し	会話を聴いて、そのなかの表現を、ペアワークで学ぶ。その後、短いパラグラフを聴き、空欄補充などの練習をする。	事前に、最初の会話をCDで聴いたり読んだりして、知らない表現は辞書で調べる。事後は、再度CDを聴くなどして、会話表現を口頭練習する。(1時間)	
3	Lesson 1 Welcome to Japan (2) 外国からの友人との初対面の挨拶や、空港の入国手続きなどで必要とされる表現	会話のなかで登場する表現を応用した英作文を行ったり、短い会話を覚えて、ペアでそれを口頭練習する。	事前に、Lesson 1の後半の練習問題を、できるだけ解いておく。事後は、授業のなかで学んだ会話表現を、口頭練習する。(1時間)	
4	Lesson 2 Tokyo Disneyland テーマパークに外国人の友人と行った時の会話	会話を聴いて、そのなかの表現をペアワークで学ぶ。さらに、別の会話を聴いて、内容理解を確認する練習問題を解く。	事前に、Lesson 2の会話を聴いたり、練習問題をできるだけ解いておく。事後は、再度CDを聴いて、授業中分からなかった箇所を確認する。(1時間)	
5	Lesson 3 Akihabara 家電製品の店の多い秋葉原。そこを訪れる外国人客と、店員との会話	会話のなかで登場する表現を覚え、ペアでその会話を口頭練習する。家電製品を英語でどういふかを学ぶ。	事前に最初の会話をCDで聴いたり読んだりして、知らない表現は辞書で調べる。事後は、授業中に習った表現を、CDを聴いたり、口頭練習したりする。(1時間)	
6	Lesson 4 Bullet Train (1) 外国からの友人と新幹線に乗った時の会話、新幹線の歴史についてのパラグラフの聴解	会話を聴いて、そのなかの表現をペアワークで学ぶ。新幹線に関連した単語を学ぶ。	事前に最初の会話やパラグラフを聴いたり読んだりして、知らない表現を辞書で調べる。事後は、習った表現をCDを聴いたり口頭練習したりして、定着させるようにする。(1時間)	
7	Lesson 4 Bullet Train (2) 鉄道の旅に関連した表現をさらに練習する。自分が外国人の友人と新幹線に乗る場面を想定し、会話の練習	冒頭の会話や、その後の短い会話をペアで口頭練習した後、自分の新幹線時刻表を使って、自分たちの会話を作って、口頭練習する。	Lesson 4後半の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。自分たちの会話を作るための準備をする。事後は、学習した表現を再度CDで聴いたり、口頭練習したりする。(1時間)	
8	Lesson 5 Long-Distance Bus 外国人旅行者と日本人との会話、長距離バス旅行に関する表現	会話を聴いて、そのなかの表現をペアワークで口頭練習する。	事前に、最初の会話をCDで聴いたり読んだりして、知らない表現を辞書で調べる。事後は、CDを再度聴いて、口頭練習する。(1時間)	
9	Lesson 6 Tour Guide (1) 外国から大阪に到着したばかりの旅行者と、ツアーコンダクターの日本人との会話	会話を聴いて、そのなかの表現をペアワークで学ぶ。関連したパラグラフの聴解練習をする。	事前に、最初の会話をCDで聴いたり、読んだりして、知らない表現を辞書で調べる。事後は、CDを再度聴いて、口頭練習する。(1時間)	
10	Lesson 6 Tour Guide (2) テーマに関連した英作文、会話の聴解	前回の授業で学んだ会話表現を基にして、外国人旅行者とツアーコンダクターのロールプレイをペアで行う。	事前に、Lesson 6の後半の練習問題を、できるだけ解いておく。事後は、授業中のリスニング練習を、CDを再度聴いて内容確認する。(1時間)	
11	Lesson 7 Let's Visit Kiyomizu Temple (1) 京都の日本人宅にホームステイする外国人と、日本人家族との会話	会話を聴いて、そのなかの表現をペアワークで学ぶ。内容に関係するパラグラフの聴解練習をする。日本の伝統文化に関連する語彙を学ぶ。	事前に最初の会話をCDで聴いたり読んだりして、知らない表現を辞書で調べる。事後は、CDを再度聴いて、口頭練習する。(1時間)	
12	Lesson 7 Let's Visit Kiyomizu Temple (2) 清水寺を含め、外国人に人気のある寺社仏閣の案内	前回の授業で学んだ会話表現を基にして、外国人観光客とそのホームステイ先の家族のロールプレイを行う。	事前に、自分が外国人観光客を案内したい寺社を頭に描き、その資料などを集めておく。事後は、授業中に用いた表現などを復習する。(1時間)	
13	Lesson 8 Traditional	会話を聴いて、そのなかの表現をペアワ	事前に、最初の会話をCDで聴いたり読んだりして、	

		Japanese Food (1) 外国人の友人と、一緒に蕎麦屋に行った日本人との会話	ークで学ぶ。内容に関するパラグラフの聴解練習をする。日本独特の食べ物の英語表現を学ぶ。	知らない表現を辞書で調べる。事後は、CDを再度聴いて、口頭練習する。(1時間)
	14	Lesson 8 Traditional Japanese Food (2) 日本食に関連する英作文と会話の聴解、外国人の友人への日本食の説明	前回の授業で学んだ会話表現を基にして、自分が外国人の友人と一緒に日本食を食べる状況のロールプレイをする。	事前に、自分が外国人の友人と一緒に食べたい日本食を想定し、会話をするうえで必要な表現を調べる。事後は、授業中に用いた表現などを復習する。(1時間)
	15	Lesson 9 Japanese Festival 外国人の友人と日本の伝統的な祭りを紹介する日本人との会話	会話やパラグラフ聴解の練習を行った後、日本の祭りについての説明を、ペアワークで行う。	最初の会話を事前にCDで聴いたり読んだりして、知らない表現を辞書で調べる。事後は、再度CDを聴くなどして、復習する。(1時間)
実務経験				
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Tourism English	河原・池中・Streetman 他	英宝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への参加度(課題の出来具合や積極的な姿勢) 50% 小テスト50%			
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>																																																																
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。 																																																																
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、「復習を忘れずにしてください」。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>																																																																
科目学習の効果(資格)	TOEICや英検など																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>評価方法、授業の進め方、基本会話</td> <td>授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Transportation 交通案内</td> <td>交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン</td> <td>ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内</td> <td>ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Giving Directions 街歩きのための道案内</td> <td>街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Recommending a Trip 観光スポットを薦める</td> <td>観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Dining in Japan1&2 日本食の紹介</td> <td>日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Arranging a Tour 国内旅行の手配</td> <td>国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Staying at a Ryokan 旅館</td> <td>旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Culture Experience in Japan1 日本文化体験</td> <td>日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Culture Experience in Japan2 日本文化体験</td> <td>日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Japanese Souvenirs ショッピング</td> <td>ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応</td> <td>けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応</td> <td>クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。</td> <td>クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>これまで学んできた授業内容について復習テストをする。</td> <td>これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)	2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)																																																														
2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)																																																														
15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)																																																														
実務経験																																																																	
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)bなど																																																																
教科書																																																																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	oradnt9
Moodle コース名 および登録キー	ESP(English for Specific Purposes) b Bell 2020 miso4soup
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への参加度 30% 小テスト 40% まとめのテスト 30%
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的				
到達目標				
授業方法と留意点				
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)				
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回のUnit8のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回のUnit9のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回のUnit10のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回のUnit11のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回のUnit12のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1時間)
12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のUnit13のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のUnit14の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のUnit15の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1時間)
15	まとめのテスト 振り返り	Unit8~15までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1時間)

実務経験	
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	uwdi5qm			
Moodle コース名 および登録キー	ESP b Carr 2020 jointheclass			
連絡手段	neil.carr@edu.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% 報告レポート 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応 する。			

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	2	Cool, Calm, and Heroic	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	3	Flying into the Future	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	4	Food Healthy for the Planet	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	5	Explosive Demand for Cobalt	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	6	Starting Somewhere	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	7	Serious Solution Needed	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	8	Self-Inflicted Wounds	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	9	Deeply Disturbing	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	10	Coping with Change	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	11	Playing a Better Role	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	12	Breaking the Connection	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	13	As Young as You Feel	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	14	まとめ1	学生の発表	ニュース英語表現の総復習 (2時間)
15	まとめ2	学生の発表	ニュース英語表現の総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	リーディング IIa, IIb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CNN: ビデオで見る世界のニュース (21) English for the Global Age with CNN, Vol. 21	関西大学 CNN 英語研究会 編著	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams 「オンライン型」
Teams コード	kv2dw9c
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト 15% 提出物 85%
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. ニュースに関する小テストを実施します。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044C0		

授業概要・目的	個人・ペア・グループで英語を使った映像作品を作成する。インプット（リーディング・リスニング）・アウトプット（スピーキング・ライティング）連動型の授業を行う。
到達目標	ただ漠然と英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価方法など	既存のムービーを鑑賞する
2	演技演出（1）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を予習・復習する
3	演技演出（2）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を復習する
4	動画編集	動画編集方法を学ぶ	動画編集方法を予習・復習する
5	ペアで動画作成	1, 2 分程度の動画を制作する	動画編集方法を予習・復習する
6	ショートムービーを制作する（1）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
7	ショートムービーを制作する（2）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
8	ショートムービーを制作する（3）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
9	ショートムービー上映会	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
10	ムービー制作活動（1）	10 分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
11	ムービー制作活動（2）	10 分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
12	ムービー制作活動（3）	10 分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
13	ムービー制作活動（4）	10 分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
14	ムービー制作活動（5）	10 分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする
15	ムービー披露会を行う	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	ムービー制作活動 80% 課題 20%
学生への メッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、クオリティーの高い作品を完成させましょう！
担当者の 研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室
備考	授業以外にも、グループメンバーで集まってムービー制作活動を行う必要があります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。 ★英プロ特設科目
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Sounds from the Past	Predicting	Students should study the content of the day's lesson.
3	For the Record: Album Reviews	Noticing Patterns	Students should study the content of the day's lesson.
4	College Start-Ups	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.
5	The Right Job for Your Personality	Skimming for General Ideas	Students should study the content of the day's lesson.
6	A Brief History of Chocolate	Recognizing Sequence of Events	Students should study the content of the day's lesson.
7	The Truth about Chocolate	Understanding the Main Ideas	Students should study the content of the day's lesson.
8	Review Mid-term Test	Fluency Strategy	Review the contents of Units 7-9
9	Ads Are Everywhere	Scanning for Proper Nouns	Students should study the content of the day's lesson.
10	Brand Engagement Gone Wrong	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.
11	Engineering a Better Burger	Distinguishing between Main and Supporting Ideas	Students should study the content of the day's lesson.
12	Is Your Diet Destroying the Environment?	Understanding Cause and Effect	Students should study the content of the day's lesson.
13	Clean up Australia, Clean up the World	Scanning for Names and Numbers	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.
14	Resources for the Future	Skimming to Assess a Passage	Students should study the content of the day's lesson.
15	Wrap-up Final Check	IReview Test	Review the contents of Units 10-12

実務経験	
------	--

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
------	----------------------

Teamsコード	Oodolao
----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%
-----------	---

学生へのメッセージ	留学前にしっかり読解力を身に付けて、留学中の授業に活かせるように頑張りましょう 多読が成績の30%を占めますので、易しめの本をたくさん「楽しみながら」読み続けることを心がけてください。
-----------	---

担当者の	7号館5階 松田研究室
------	-------------

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの2年次の学生を対象とする。ビジネスコミュニケーションをテーマとし、会社の内外で使われる英語表現を中心に演習形式で学んでいく。実践的な学習により、英語の4技能を総合的に身につけることを目的とする。
到達目標	ビジネスで使われる英語表現について場面や状況に応じて学習し、CEFR-B1レベルの英語運用能力の習得を目標とする。
授業方法と留意点	・ビジネスの現場で使われる英語表現について、ディクテーションを中心に学習する。 ・「教材・課題配信型」のオンライン（遠隔）授業の形式で行う。 ※ただし、初回の授業（オリエンテーション）は教室（対面形式）で行う予定である。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・方法およびビジネス英語の特徴などについて説明する。	授業内容の要点を整理し、重要な表現や用語等についてさらに調べてみる。(2時間)
2	ビジネスの現場での電話応対について(1)	社外の相手を想定し、電話応対に関する英語表現について実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
3	ビジネスの現場での電話応対について(2)	社外の相手を想定し、電話応対に関する英語表現について実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
4	ビジネスの現場での電話応対について(3)	社外の相手を想定し、電話応対に関する英語表現について実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
5	社外のネットワークの構築について(1)	社外の相手を想定し、そのネットワークの構築に関する英語表現について実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
6	社外のネットワークの構築について(2)	社外の相手を想定し、そのネットワークの構築に関する英語表現について実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
7	社外のネットワークの構築について(3)	社外の相手を想定し、そのネットワークの構築に関する英語表現について実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
8	取引先との交渉および会議について(1)	取引先との交渉および会議について、その英語表現とともに実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
9	取引先との交渉および会議について(2)	取引先との交渉および会議について、その英語表現とともに実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
10	取引先との交渉および会議について(3)	取引先との交渉および会議について、その英語表現とともに実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
11	関係者間における情報交換について(1)	関係者間における情報交換について、その英語表現とともに実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
12	関係者間における情報交換について(2)	関係者間における情報交換について、その英語表現とともに実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
13	関係者間における情報交換について(3)	関係者間における情報交換について、その英語表現とともに実践的に学習する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
14	学習内容のまとめ(1)	本授業の前半で学んだ英語表現について、要点を整理しながら総括する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) これまでに学習した内容を振り返りながら、理解度を確認する。(1時間)
15	学習内容のまとめ(2)	本授業の後半で学んだ英語表現について、要点を整理しながら総括する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) これまでに学習した内容を振り返りながら、理解度を確認する。(1時間)

実務経験				
関連科目	他の英語科目など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示する)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書など		
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	1tan575			
Moodleコース名				

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート等の成果物(100%)で評価します。
学生への メッセージ	大学での「学びのスタイル」を身につけるチャンスととらえて、がんばってもらえればと思います。
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはチューデントアワー(研究室)にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名(英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面・トピックについて、自分の意図を論理的に的確に伝えられるスピーキング力・ライティング力を身につける。
授業方法と留意点	様々な場面・トピックに対応できるよう、スピーキングとライティングをバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, Unit 1 Artificial Intelligence	Orientation, How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)
	2	Unit 1 Artificial Intelligence	How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)
	3	Unit 2 Business	The sharing economy	Review, Assignment (1 hour)
	4	Unit 3 Food Waste	Food loss and consumers	Review, Assignment (1 hour)
	5	Unit 4 Environmental Problems	Plastic waste	今 Review, Assignment (1 hour)
	6	Unit 5 The Japanese Mentality	Do they have good manners?	Review, Assignment (1 hour)
	7	Unit 6 Space Exploration	Will space benefit our future?	Review, Assignment (1 hour)
	8	Unit 7 Immigration	Foreign residents in Japan	Review, Assignment (1 hour)
	9	Unit 8 Education	Online learning	Review, Assignment (1 hour)
	10	Unit 9 Culture	Entertainment	Review, Assignment (1 hour)
	11	Unit 10 Science	The new agricultural revolution	Review, Assignment (1 hour)
	12	Unit 12 DNA	Advances in DNA Technology	Review, Assignment (1 hour)
	13	Unit 13 Relationship with Other Countries	Trade war	Review, Assignment (1 hour)
	14	Unit 15 Right to be Forgotten	Privacy and freedom of expression	Review, Assignment (1 hour)
	15	Final Presentations	Presentations and feedback	Review (1 hour)

実務経験	
関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL: Discuss the Changing World	Miyako Nakaya, Miyuki Yukita, Masaru Yamazaki, Chad L. Godfrey	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Zoom
Teamsコード	rmi0g56
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール、個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	Participation 60% Assignments 20% Final presentation 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	8	中間テスト	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	14	E-mailについての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
	15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備(2時間)

実務経験	
関連科目	英語Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACETリスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	全学共通英語課題 30%

(基準)	担当教員の評価 70%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1, 2の予習 (2時間)
	2	Unit 1, 2 "It's the Titanic" "A Floating Palace"	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3, 4 予習 (2時間)
	3	Unit 3, 4 Departure Iceberg (1)	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5, 6 予習 (2時間)
	4	Unit 5, 6 Iceberg (2), (3)	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7, 8 予習 (2時間)
	5	Unit 7, 8 Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1)	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9, 10 予習 (2時間)
	6	Unit 9, 10 The Miracle of Philip Aks (2), (3)	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11, 12 予習 (2時間)
	7	Unit 11, 12 Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1)	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13, 14 予習 (2時間)
	8	Unit 13, 14 Together until the End of Their Lives (2)	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15, 16 予習 (2時間)
	9	Unit 15, 16 The Carpathia Radio Officers	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習 (2時間)
	10	Unit 17 Firemen	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習 (2時間)
	11	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習 (2時間)
	12	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習 (2時間)
	13	Unit 20 Only 705 Survivors	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習 (2時間)
	14	Unit 21 If Only...	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	Unit 21 If Only...の復習 (2時間)
	15	まとめ	これまでのUnitの総まとめをする。	これまで学んできた内容の総復習 (2時間)

実務経験	
関連科目	英語Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 定期試験 40% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 30%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1の予習 (2時間)
	2	Unit 1 Family	Usage Patterns: Responding Positively and Negatively (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	3	Unit 2 Friends	Usage Patterns: Expressing Frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	4	Unit 3 Culture	Usage Patterns: Talking about what should and shouldn't be done (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	5	Unit 4 Education	Usage Patterns: Expressing opinions and making surprising statements (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	6	Unit 5 Sports	Usage Patterns: Expressing honesty and hope (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	7	Unit 6 Work	Usage Patterns: Talking about past, present, and future situations (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 中間テスト準備 (2時間)
	8	中間テスト	中間テスト	復習・次Unit予習 (2時間)
	9	Unit 7 Food	中間テストのフィードバック Usage Patterns: Talking about chances and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	10	Unit 8 Studying English	Usage Patterns: Talking about problems and goals (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	11	Unit 9 Health	Usage Patterns: Taking a sick day and expressing sympathy (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	12	Unit 10 Clothes	Usage Patterns: Giving reasons and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	13	Unit 11 Traveling	Usage Patterns: Talking about frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	14	Unit 12 Music	Usage Patterns: Exaggerating what we like and dislike (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・まとめテスト準備 (2時間)
15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	英語IIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Listening and Speaking Patterns 2 『パートナー』で学ぶ英語コミュニケーション2	Andrew E. Bennett 著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -	西谷恒志	成美堂

		Revised Edition- (指定の単語集)		
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。 授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業時に指示する。 email: iharashun0@gmail.com			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1, 2の予習 (2時間)
	2	Unit 1, 2 "It's the Titanic" "A Floating Palace"	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3, 4 予習 (2時間)
	3	Unit 3, 4 Departure Iceberg (1)	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5, 6 予習 (2時間)
	4	Unit 5, 6 Iceberg (2), (3)	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7, 8 予習 (2時間)
	5	Unit 7, 8 Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1)	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9, 10 予習 (2時間)
	6	Unit 9, 10 The Miracle of Philip Aks (2), (3)	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11, 12 予習 (2時間)
	7	Unit 11, 12 Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1)	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13, 14 予習 (2時間)
	8	Unit 13, 14 Together until the End of Their Lives (2)	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15, 16 予習 (2時間)
	9	Unit 15, 16 The Carpathia Radio Officers	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習 (2時間)
	10	Unit 17 Firemen	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習 (2時間)
	11	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習 (2時間)
	12	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習 (2時間)
	13	Unit 20 Only 705 Survivors	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習 (2時間)
	14	Unit 21 If Only...	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	Unit 21 If Only...の復習 (2時間)
	15	まとめ	これまでのUnitの総まとめをする。	これまで学んできた内容の総復習 (2時間)

実務経験	
関連科目	英語Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 定期試験 40% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 30%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選んだか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。(2時間)
2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。(2時間)
3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。(2時間)
4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions. (2時間)
5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。(2時間)
6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。(2時間)
7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。(2時間)
8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。(2時間)
9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。(2時間)
10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。(2時間)
11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。(2時間)
12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has become a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。(2時間)
13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでの学習内容のまとめ。(2時間)
15	総復習。	これまでのまとめ。期末テストへの注意と解説。	期末テストの準備。(2時間)

実務経験	
関連科目	英語Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	評価は以下の通りです。 全学共通英語課題 30% 課題レポート 10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 60%			
学生への メッセージ	出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。 【事前事後学習について】 ・特に単語はe-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習してください。 ・授業の13回目までに、単語番号201～400までを最低一巡は終わるようにしてください。 【授業中の注意点について】 ・辞書を必ず持参してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容・方法の説明 個人/ペア/グループワーク	自由作文: 自己紹介 (2時間)
2	Unit 1 Let's get started! 初対面の挨拶	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 1の復習 (2時間)	
3	Unit 2 On the job 職業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 2の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
4	Unit 3 My daily life 日常生活に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 3の復習 (2時間)	
5	Unit 4 My life story 過去の出来事に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 4の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
6	Unit 5 Getting around いま起こっていることに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 5の復習 (2時間)	
7	Unit 6 What a good story! 場所・方角に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 6の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
8	Unit 7 Seeing the world 将来の計画に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 7の復習 (2時間)	
9	Unit 8 What's she like? 容姿・性格・嗜好に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 8の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
10	Unit 9 Out and about 比較に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 9の復習 (2時間)	
11	Unit 10 Chores and bores 日々の作業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 10の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
12	Unit 11 What's on TV? 興味に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 11の復習 (2時間)	
13	Unit 12 All about money おカネに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 12の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
14	Unit 13 What's for dinner? 食べ物に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 13の復習 (2時間)	
15	総復習・実力チェック	総復習の個人/ペア/グループワーク	これまでの授業内容の総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への	皆さんには、在学中にひとりで外国を旅して行くことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

メッセージ	<p>若者の旅行者が集まる安宿が、どこにもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなっ</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1の予習 (2時間)
	2	Unit 1 Family	Usage Patterns: Responding Positively and Negatively (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	3	Unit 2 Friends	Usage Patterns: Expressing Frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	4	Unit 3 Culture	Usage Patterns: Talking about what should and shouldn't be done (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	5	Unit 4 Education	Usage Patterns: Expressing opinions and making surprising statements (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	6	Unit 5 Sports	Usage Patterns: Expressing honesty and hope (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	7	Unit 6 Work	Usage Patterns: Talking about past, present, and future situations (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 中間テスト準備 (2時間)
	8	中間テスト	中間テスト	復習・次Unit予習 (2時間)
	9	Unit 7 Food	中間テストのフィードバック Usage Patterns: Talking about chances and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	10	Unit 8 Studying English	Usage Patterns: Talking about problems and goals (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	11	Unit 9 Health	Usage Patterns: Taking a sick day and expressing sympathy (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	12	Unit 10 Clothes	Usage Patterns: Giving reasons and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	13	Unit 11 Traveling	Usage Patterns: Talking about frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit予習 (2時間)
	14	Unit 12 Music	Usage Patterns: Exaggerating what we like and dislike (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・まとめテスト準備 (2時間)
15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Listening and Speaking Patterns 2 『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2	Andrew E. Bennett 著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -	西谷恒志	成美堂

		Revised Edition- (指定の単語集)		
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	n28iaf8			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 60% TOEIC Bridge 10%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。 授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業時に指示する。 email: iharashun0@gmail.com			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記(2時間)
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
14	別れの手紙の文章を通してセンテンスの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記(2時間)	
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備(2時間)	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-up English	JACETリスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder/Youtube
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 課題提出 30%, 課題内容 30%

	TOEIC Bridge 10%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。 ※2019 年度 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となるので、必ず受験すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1, 2の予習 (2時間)
	2	Unit 1, 2 "It's the Titanic" "A Floating Palace"	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3, 4 予習 (2時間)
	3	Unit 3, 4 Departure Iceberg (1)	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5, 6 予習 (2時間)
	4	Unit 5, 6 Iceberg (2), (3)	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7, 8 予習 (2時間)
	5	Unit 7, 8 Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1)	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9, 10 予習 (2時間)
	6	Unit 9, 10 The Miracle of Philip Aks (2), (3)	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11, 12 予習 (2時間)
	7	Unit 11, 12 Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1)	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13, 14 予習 (2時間)
	8	Unit 13, 14 Together until the End of Their Lives (2)	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15, 16 予習 (2時間)
	9	Unit 15, 16 The Carpathia Radio Officers	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習 (2時間)
	10	Unit 17 Firemen	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習 (2時間)
	11	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習 (2時間)
	12	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習 (2時間)
	13	Unit 20 Only 705 Survivors	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習 (2時間)
	14	Unit 21 If Only...	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	Unit 21 If Only...の復習 (2時間)
	15	まとめ	これまでのUnitの総まとめをする。	これまで学んできた内容の総復習 (2時間)

実務経験	
関連科目	英語IIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語Ⅱa (火2・L部・E5クラス) 関初海 kisof5			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge 10% ムードル内評価 (小テスト・課題など) 60%			
学生への メッセージ	ムードルを用いて授業を行います。こまめにムードルをチェックして下さい。履修生への一斉連絡はムードル内メッセージ機能を使います。みなさんから担当者への質問は学内メールを使ってください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle. の和訳や要約を中心に。	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
3	経済を活性化する2方法。	There are two basic ways countries can stimulate their economics. の和訳や要約を中心に。	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust. の和訳や要約を中心に。	Chapter III: The State of the Economy の In extrem casus, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
5	経済は泡のように膨らむ。	In extrem casus, the economy can grow like a bubble. の和訳や要約を中心に。	Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
6	今日の2つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today. の和訳や要約を中心に。	これまでの復習。(2時間)
7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験1	Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure. の和訳や要約を中心に。	Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad. の和訳や要約を中心に。	Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done. の和訳や要約を中心に。	Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment. の和訳や要約を中心に。	プリントを用意する。 指定単語の学習 (2時間)
12	食物アレルギー	Food allergies の和訳や要約を中心に。	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
13	食物アレルギー	Food allergies の和訳や要約を中心に。	プリントを用意する。 指定単語の学習 (2時間)
14	青色発光ダイオード	Blue LED の和訳や要約を中心に。	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習 (2時間)
15	青色発光ダイオード	Blue LED の和訳や要約を中心に。	期末テストの注意と重点項目。(2時間)

実務経験	
関連科目	その他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 50%、課題レポート 10%、共通英語課題 30% 授業態度（授業中の発表）10%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	<p>※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など）は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p> <p>※2019年度11月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。</p> <p>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ1時間勉強するよりも、毎日15分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容・方法の説明 個人/ペア/グループワーク	自由作文: 自己紹介 (2時間)
2	Unit 1 Let's get started! 初対面の挨拶	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 1の復習 (2時間)	
3	Unit 2 On the job 職業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 2の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
4	Unit 3 My daily life 日常生活に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 3の復習 (2時間)	
5	Unit 4 My life story 過去の出来事に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 4の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
6	Unit 5 Getting around いま起こっていることに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 5の復習 (2時間)	
7	Unit 6 What a good story! 場所・方角に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 6の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
8	Unit 7 Seeing the world 将来の計画に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 7の復習 (2時間)	
9	Unit 8 What's she like? 容姿・性格・嗜好に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 8の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
10	Unit 9 Out and about 比較に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 9の復習 (2時間)	
11	Unit 10 Chores and bores 日々の作業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 10の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
12	Unit 11 What's on TV? 興味に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 11の復習 (2時間)	
13	Unit 12 All about money おカネに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 12の復習 自由作文: 語の定義 (2時間)	
14	Unit 13 What's for dinner? 食べ物に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 13の復習 (2時間)	
15	総復習・実力チェック	総復習の個人/ペア/グループワーク	これまでの授業内容の総復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle/Zoom
Teamsコード	f9qf5p4
Moodleコース名および登録キー	L部 基礎英語 Iia 曾我直隆 8152
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 60% TOEIC Bridge 10%

<p>学生への メッセージ</p>	<p>思いもよぬ事態が続き、皆さんも落ち着かない日々だろうと思います。 とはいうものの、与えられた制約の中で工夫して楽しくやってみましょう。</p> <p>この騒ぎもいつかは終わることでしょう。 そうなったら、ぜひ在学中にひとりで外国を旅してみてください。 旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。 若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。 そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。 今のあなたの英語力でも大丈夫。 インド英語、中国英語、ヒスパニック英語</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1, 2の予習 (2時間)
	2	Unit 1, 2 "It's the Titanic" "A Floating Palace"	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3, 4 予習 (2時間)
	3	Unit 3, 4 Departure Iceberg (1)	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5, 6 予習 (2時間)
	4	Unit 5, 6 Iceberg (2), (3)	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7, 8 予習 (2時間)
	5	Unit 7, 8 Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1)	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9, 10 予習 (2時間)
	6	Unit 9, 10 The Miracle of Philip Aks (2), (3)	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11, 12 予習 (2時間)
	7	Unit 11, 12 Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1)	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13, 14 予習 (2時間)
	8	Unit 13, 14 Together until the End of Their Lives (2)	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15, 16 予習 (2時間)
	9	Unit 15, 16 The Carpathia Radio Officers	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習 (2時間)
	10	Unit 17 Firemen	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習 (2時間)
	11	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習 (2時間)
	12	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習 (2時間)
	13	Unit 20 Only 705 Survivors	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習 (2時間)
	14	Unit 21 If Only...	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	Unit 21 If Only...の復習 (2時間)
	15	まとめ	これまでのUnitの総まとめをする。	これまで学んできた内容の総復習 (2時間)

実務経験	
関連科目	英語IIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語Ⅱa (火3・L部・E6 クラス) 関初海 kisof6			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge 10% ムードル内評価 (小テスト・課題など) 60%			
学生への メッセージ	ムードルを用いて授業を行います。こまめにムードルをチェックして下さい。履修生への一斉連絡はムードル内メッセージ機能を使います。みなさんから担当者への質問は学内メールを使ってください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果(資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder 初回から両方使用			
Teams コード	7g598hi			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	utdabusg			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams の講義チームにて。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (50%)、模擬試験や総合課題などの演習 (50%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。なお、遠隔講義中は課題提出=出席とする。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果(資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習(40分) 事後：演習課題の完成・提出(50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder 初回から両方使用			
Teams コード	hf56bw0			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	gyiipb8			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams の講義チームにて。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (50%)、模擬試験や総合課題などの演習 (50%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。なお、遠隔講義中は、課題提出=出席とする。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams 経由にてお願いします。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01306a1		

授業概要・目的	「法」は私たちの生活の基盤となるものです。日頃実感できないことも多いと思いますが、私たちが社会で自由に活動するための基本的な仕組み・ルールを整備しています。この授業では、身近なニュースや問題を題材に、憲法・刑法・民法という代表的な3つの法を学習します。普段の生活の中で遭遇する様々な事柄を「法学」という視点から考える力を養うことを目的とします。
到達目標	この講義を通じて、学生には以下のことを身につけることが期待されます。 (1)法という仕組み・ルールの基本的な知識・考え方を習得する (2)時事問題を法という観点から考え、解決を模索する力をつける。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画をご覧ください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 必要に応じて学生との質疑応答などの双方向コミュニケーションにつとめ、皆さんの理解に役立てたいと思います
科目学習の効果 (資格)	・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	ガイダンス (授業の進め方, 期末試験, 成績評価, 受講上の注意等) 法とは何か	事前: 教科書 Break (1) ~ (7) 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
2	刑事法 (1)	犯罪と刑罰	事前: 教科書 (第1章§1・2) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
3	刑事法 (2)	罪刑法定主義とは	事前: 教科書 (第1章§3) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
4	刑事法 (3)	犯罪の成立要件	事前: 教科書 (第1章§4) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
5	刑事法 (4)	刑事手続	事前: 教科書 (第2章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
6	民事法 (1)	民法の仕組みと「物」と「人」	事前: 教科書 (第3章, 第4章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
7	民事法 (2)	不法行為法	事前: 教科書 (第3章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
8	民事法 (3)	契約	事前: 教科書 (第4章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
9	民事法 (4)	婚姻と家族	事前: 教科書 (第5章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
10	消費者と法	・訪問販売 ・マルチ商法 ・ローンとクレジット契約 ・製造物責任法	事前: 事前に配布レジュメを読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
11	労働関係と法	・労働法	事前: 事前配布レジュメを読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
12	憲法 (1)	憲法の意義, 統治制度	事前: 教科書 (第6章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
13	憲法 (2)	人権保障の仕組み	事前: 教科書 (第7章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
14	憲法 (3)	表現の自由と著作権	事前: 教科書 (第7章) を読む。 事後: 講義・教科書の内容を整理・要約する
15	総括	これまでの講義の復習	事前: これまで整理・要約してきたノート類を見直す。 事後: 復習課題に取り組む。

実務経験	
関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての法律学	松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代法学を学ぶ人のために	中川淳ほか	世界思想社
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・復習課題：40% ・ミニツツペーパー：30% ・小テスト（オンラインで実施予定）：30% <p>*各項目の内容について詳しい説明は授業初回に行います。</p>
学生への メッセージ	公務員志望者や法学系資格を取得したいと考えている方の受講を歓迎します。
担当者の 研究室等	未定
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武, 山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン II、キャリアデザイン III、インターンシップ I、インターンシップ II、エンプロイメントデザイン I、エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史, 赤澤 春彦, 浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1346a1		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の学修指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果 (資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	事前学習：シラバスを熟読し、理解する。
2	パッケージプログラムの紹介 (1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介 (2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介 (3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介 (4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介 (5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介 (6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	海外体験をキャリアにどう生かすか	海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。	事前学修：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。
9	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
10	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
11	グループワーク	前回 (第 10 回) の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
12	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第 14 回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。	・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括 (まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																
Teams コード	3lg5hxa																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（60％） 期末レポート（40％） ※ただし、原則として、出席率80％以上の学生のみを成績評価の対象とします。																
学生への メッセージ	複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。																
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 																

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 天野 貴史, 有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1346a1		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の学修指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果 (資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	事前学習：シラバスを熟読し、理解する。
2	パッケージプログラムの紹介 (1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介 (2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介 (3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介 (4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介 (5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介 (6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容 (概要) について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	海外体験をキャリアにどう生かすか	海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。	事前学修：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。
9	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
10	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
11	グループワーク	前回 (第10回) の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
12	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種 の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。	・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括 (まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	(必要に応じて指示します)																
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																
Teams コード	3lg5hxa																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（60%） ・期末レポート（40%） ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。																
学生への メッセージ	複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。																
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 																

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語 (話し言葉、書き言葉) と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	総学習時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章（1000 字程度）を適切な方法を用いて書くことができる。
授業方法と留意点	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの3つの課題を提出する。
科目学習の効果（資格）	大学生生活、社会人生活に必要な文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文章の書き方 2	レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ 2	文章の書き方の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、 論理的に説明する方法を学ぶ	これまでの復習
4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
5	構成 フィードバック 1	レポートなどの文章構成を学ぶ 課題 1 の返却	課題 1 を見直す 文章構成の復習
6	要約 フィードバック 2	要旨の要約の作成方法を学ぶ 課題 1 の返却	要約の仕方の復習
7	文章を引用する	書籍、論文、インターネット上の記事等から文章を引用する方法を学ぶ	文章の引用の復習
8	図表を引用する	図表から数値を引用する方法を学ぶ	図表の引用の復習
9	文章と図表の引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習 論説文の書き方の復習
10	【課題 2】論説文	資料を引用し、論理的に意見を述べる文章を書く	課題 2 の復習
11	【課題 3 レポート】の説明 レポートの書き方 1 フィードバック 3	課題 3 レポートの説明 レポートの体裁について学ぶ レポート課題のアウトラインを作る 課題 2 のフィードバック	これまでの復習 課題 2 の見直し
12	レポートの書き方 2 フィードバック 4	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポートの下書きをする 課題 2 のフィードバック	課題 2 の見直し これまでの復習
13	フィードバック 5	課題 2 のフィードバック レポートの下書き・執筆をする	課題 2 を見直す これまでの復習
14	【課題 3 レポート】の提出	【課題 3 レポート】の提出をする	これまでの復習 小テストの復習
15	小テストの復習テスト フィードバック 6	小テストの復習テストを行う 課題 3 のフィードバック	これまでの復習

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格とする。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。 これからの大学生活、社会生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、教科書や配布プリントの予習・復習を中心に1時間程度は掛けること。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方(1)	授業の目的、進め方の説明	———
2	レポートの書き方(2)	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Web Folder/Teams「オンライン型」
Teams コード	96udz15
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークのなかから、ディベートする力を養う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
	7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
	8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
	9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
	14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	課題3の総評 小テストの復習	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
------	---------------

Teamsコード	4rqfose
----------	---------

Moodleコース名 および登録キー	
-----------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語(話し言葉)と、レポートなどで書く日本語(書き言葉)は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語(話し言葉、書き言葉)と向き合ってください。 これからのテレワークやオンラインを通じた会議システムのために、そのようなシステムを使ったワークに、一緒に慣れていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方(2)	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Web Folder/Teams「オンライン型」
Teamsコード	ns0a97n
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。 すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを行うので、話し合いや発表に各自責任を持って参加する必要がある。 課題3回を必ず提出すること。 随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な、書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス レポートの書き方1	授業の目的・進め方の説明 レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する1	—————
2	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する2	レポートの書き方の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、論理的に意見を述べる文章を書く	今回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	今回の復習
5	メールの書き方	メールの書式・用語・マナーを学ぶ	今回の復習
6	課題1のフィードバック 後半タームのガイダンス	課題1のフィードバックをする 後半ターム(グループディスカッション・プレゼンテーション・課題2と3)についての説明。準備を始める。	課題1を見直す グループディスカッションのために自分の考えを整理する
7	グループディスカッション1	グループ分け グループディスカッションの方法を確認する ディスカッションを行う	文章表現について復習 ディスカッションの経緯をまとめる
8	【課題2】報告書 グループディスカッション2	報告書の書き方について学ぶ。 資料の作成方法について学ぶ。 プレゼンテーションの資料を準備する。	プレゼンテーションに必要な資料を探す。 考えを整理する。
9	グループディスカッション3	プレゼンテーションの資料を準備する	発表資料を作成するために必要な資料を探したり、考えを整理する。
10	課題2のフィードバック	課題2のフィードバック グループでプレゼンテーションの資料を準備する。リハーサルを行う。	課題2を見て文章表現について復習する。 発表資料を準備し、リハーサルを行う。
11	プレゼンテーション1	準備した資料を基にプレゼンテーションを行う 聴衆は傾聴する	プレゼンテーション資料の作成・提出
12	プレゼンテーション2	準備した資料を基にプレゼンテーションを行う1。 聴衆は傾聴する	プレゼンテーションの準備 課題3のためにこれまでの振り返りをする
13	【課題3】レポート	グループディスカッションとプレゼンテーションの内容を、レポートとして文章化する。	後半タームの復習をする
14	手紙の書き方 課題3の講評	手紙の書き方を学ぶ 課題3の講評	手紙の書き方の復習 敬語の復習
15	小テストの復習テスト 授業の総括	小テストの復習	これまでの復習 小テストの復習

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン・ゼミ・卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	wcf06io
Moodleコース名 および登録キー	

連絡手段	【B】 Teams「オンライン型」
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。 また、日常での話し言葉と人前で話す日本語も異なります。 これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 宿題を出す場合もあります。

科目名	日本語教育実習演習	科目名 (英文)	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期		授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1cDP2△DP5△		
科目ナンバリング	LDL3197a0		

授業概要・目的	外国人日本語学習者実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。 初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。 外部の日本語教育機関での授業見学も可能な限り実施します。
到達目標	*日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 *外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。 この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	本学の日本語教師養成課程の修了証

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階 (初級・中級・上級レベル) について、実習運営について	配布資料 熟読
2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	日本語初級のテキスト・教材分析
5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書 第1部 熟読
7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書 第1部 熟読
8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書 第2部 熟読
9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書 第2部 熟読
10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	教科書 第2部 熟読
11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
14	模擬授業	発表、フィードバック	発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル)
15	模擬授業	発表、フィードバック	発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル) 課題レポート作成
16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料 熟読
21	日本語授業の実際 (1)	授業観察	授業観察レポート作成
22	日本語授業の実際 (2)	授業観察	授業観察レポート作成
23	日本語授業の実際 (3)	授業観察	授業観察レポート作成
24	日本語授業の実際 (4)	授業観察	授業観察レポート作成
25	実習準備 (1)	日本語教育実習実施概要と留意点	グループごとに課題
26	実習準備 (2)	教案作成、教材作成、授業準備	グループごとに課題
27	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
28	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
29	実習の振り返り 自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
30	作成教材発表、総括	発表	実習ノート完成

関連科目 日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 教え方の手引き		スリーエーネットワーク
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての日本語教育2		アスク
2				
3				

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業におけるタスク達成度・討論・発表(30%)、作成した教案・教材や実習ノート(60%)、実習中の取り組み(10%)から総合的に評価します。
学生への メッセージ	外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。 特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。(事前・事後学習1.5時間ずつ) 海外及び国内の日本語教育機関で、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かして、具体的な事例を挙げながら授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	授業で出された課題は、次の授業でフィードバックします。提出された実習ノートはコメントをつけて返却します。

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 古矢 篤史, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科:A◎, A科:A◎, M科:A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。 また由良町役場の行政担当者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。体験学習に参加できない学生は履修しないようにしてください。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【第1回】 4月11日(土) 1限 テーマ: オリエンテーション 内容・方法等: 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。地域のことを学ぶ意義を解説します。(鶴坂) 事前学習: シラバスをみて、内容を確認する。地域のことを学ぶことについて自分なりに考える (1時間)。 事後学習: 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える (1時間)。</p> <p>【第2回】 4月11日(土) 2、3限 テーマ: チームビルディング 内容・方法等: グループワークを進めていくためのチームビルディングを行います。(水野・鶴坂) 事前学習: グループワークを行う上で大切なことは何かを考える (1時間)。 事後学習: チームビルディングを行った感想と今後の豊富についてまとめる (1時間)。</p> <p>【第3回】 4月25日(土) 1限 テーマ: 今、地域で何が起きているか 内容・方法等: 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。(鶴坂) 事前学習: キーワード「消滅可能性都市」について調べる (1時間)。 事後学習: 由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第4回】 4月25日(土) 2限 テーマ: 由良町関係者の講演 内容・方法等: 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、防災、文化、地域医療等の現状や課題をお聞きします。(鶴坂・上野山) 事前学習: 和歌山県由良町の概要を調べる (1時間)。 事後学習: 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートを作成する (2時間)。</p> <p>【第5回】 4月25日(土) 3限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1、2限の講義内容をふまえ、由良町の課題と人口減少の原因を議論しまとめ、発表する。(鶴坂・上野山) 事前学習: プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p>【第6回】 5月2日(土) 1限 テーマ: 地域経済・経営-地域の観光・ブランディング- 内容・方法等: 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。(久保・鶴坂) 事前学習: 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる (1時間)。 事後学習: 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第7回】 5月2日(土) 2限 テーマ: 地域環境・防災-空き家の現状と課題- 内容・方法等: 大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。(稲地) 事前学習: 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと (1時間)。 事後学習: 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第8回】 5月2日(土) 3限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(鶴坂・久保・稲地) 事前学習: 前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p>【第9回】 5月16日(土) 1限 テーマ: 地域市民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。(田中・上野山) 事前学習: 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと (1時間)。 事後学習: 授業で発表された内容について整理し、由良町の地域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる (2時間)。</p>

	<p>【第10回】 5月16日(土) 2限 テーマ：地域政策・文化ー地域の小規模ミュージアムー 内容・方法等：地域(とくに過疎化地域)における「小規模ミュージアム(記念館、文学館、博物館、美術館など)」の意義や現状を踏まえ、内容や効果を考えます。(古矢) 事前学習：「小規模ミュージアム」とは何かを調べる(1時間)。 事後学習：地域における「小規模ミュージアム」の内容や効果をグループでレポートをまとめる(2時間)。</p> <p>【第11回】 5月16日(土) 3限 テーマ：グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等：1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(古矢・田中・上野山) 事前学習：前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する(1時間)。 事後学習：グループでのレポート作成(2時間)。</p> <p>【第12回】 5月30日(土) 1限 テーマ：プレゼンテーション講座 内容・方法等：プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。(石井、鶴坂) 事前学習：パワーポイントの練習(1時間)。 事後学習：最終報告会での大まかな流れを作る(2時間)。</p> <p>【第13回】 5月30日(土) 2, 3時間 テーマ：グループワーク 内容・方法等：由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、上野山) 事前学習：グループでどの領域の問題を取り扱うかを定める(1時間)。 事後学習：由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)。</p> <p>【第14回】 6月6日(土) 終日 テーマ：体験学習(和歌山県由良町) 内容・方法等：由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、久保、古矢、上野山) 事前学習：現地で調べることにについて予備調査しておく(1時間)。 事後学習：現地で得られた情報をまとめておく(2時間)。</p> <p>【第15回】 6月27日(土) 1, 2限 テーマ：グループワーク 内容・方法等：発表用スライドの作成。(鶴坂、上野山) 事前学習：現地で得た情報の整理(1時間)。 事後学習：スライドの完成(4時間)。</p> <p>【第16回】 7月18日(土) 1, 2限 テーマ：成果発表会 内容・方法等：作成したスライドを使い、成果発表を行う。(鶴坂、久保、稲地、古矢、上野山) 事前学習：発表の練習(4時間)。 事後学習：他のグループの取組内容の整理をする(1時間)発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。</p> <p>【第17回】 7月18日(土) 3限 テーマ：ふりかえり・わかちあい 内容・方法等：「地域と私」での学びの成果等をふりかえり、発表する 事前学習：これまでのプリントや副専攻ガイドブック等の整理(1時間) 事後学習：個人レポートの作成(4時間)</p>																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																
担当者の	鶴坂研究室 11号館7階																

研究室等	
備考	詳しい日程はガイダンスのときに発表します。基本的に土曜日開講です。

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																
授業方法と留意点	この授業は少なくとも前期中はネットで授業を行います。 授業で課題を出しますので、それぞれ履修者が調べ学習を行いレポートにまとめ指示された提出場所、提出期間に提出をお願いします。 提出されたレポートについて、プロジェクト(グループ)単位で議論をすることがあります。 学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行うかどうかは新型コロナウイルス感染症の状況に応じて判断をします。 状況が改善しない場合は、ネットでの授業や発表を後期も継続します。 また、対面で行わないような活動、たとえば連携先様の活動をSNSで発信するなどの広報活動等を行う可能性もあります。 状況に応じた活動内容となるため例年とは異なる授業内容となりますのでご注意ください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は本来フィールドワークを学生がチーム単位で主体的に行うことを前提にしていたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため不可能ですので、学生個人のワークが中心となります。 プロジェクトは今のところ3つありますので、自分が希望するプロジェクトに関する学びを深め課題解決のための提案を自分自身が深掘していく形となります。 新型コロナウイルス感染症状況に応じて、プロジェクトの活動時期や内容は異なりますのでご了承ください。 第1回 5月29日(金) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明をネットで行います。 例年とは異なる進め方となりますので、履修者は必ず出席してください。 第2回 6月5日(金) 第3回 6月19日(金) 第4回 7月3日(金) 第5回 7月17日(金) いずれもネットでの授業です。 上記以外でプロジェクトごとにネット上でミーティング等を行うことがあります。 後期については前期最後の授業でお知らせします。 授業担当者は経営学部 鶴坂、法学部 小野、教育イノベーションセンター 水野・上野山です。																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	課題提出物 40%、活動の取組 30%、最終レポート 30%																
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう!																
担当者の研究室等																	
備考	【事前学習】 活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。																

	<p>【事後学習】 活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をお願いします。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。</p>
--	--

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>		
関連科目	教職関連科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会 蒼丘書林
	2	学習指導要領解説	文部科学省
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE		
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。		
学生への メッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。		
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。		

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマネジメントの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立つという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																
Teams コード	lusjvks																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調査、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月15日6時限目、1124教室で行う。																

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会:4月中旬(9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回:6月中下旬~7月下旬(11月~2月) ・現地派遣:2週間程度 8月中旬~9月上旬(2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む):9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなければならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ(入門)、グローバル・シチズンシップ(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teamsコード	yjvwu6a																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	原則 Teams、履修前なら国際交流センターへメール問い合わせを																

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館4階国際交流センターまで 授業内容に関する質問、相談は鳥居(研究室は7号館3階)まで。
備考	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。</p>																		
到達目標	<p>①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 チーム10名程度のチームを作り、地域での活動に取り組みます。</p> <p>1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. 進捗管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。</p> <p>上記の1～6の活動を通じ、PDCAサイクルを回しながら、年度当初に設定した目標を達成できるよう協働していきます。</p> <p>第1回授業は 4月14日(火)6時間目です。 このときに、詳しい取組内容、どの取組内容に参加するかなどを決定します。 チームは「地域と私」のグループ(1グループ5人程度)を基本にして組んでいきます。</p> <p>【前期】 第2回目は4月28日(火)いずれも6時間目 第3回目は5月12日(火) 第4回目は5月26日(火) 第5回目は6月9日(火) 第6回目は6月23日(火) 第7回目は7月7日(火) 第8回目は7月21日(火)を予定しています。</p> <p>【後期】については前期授業中に連絡します。</p>																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:</p>																		
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																		
学生へのメッセージ	まずは一歩踏み出して、地域での活動に取り組んでみよう!																		
担当者の研究室等備考	鶴坂研究室 11号館7回																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6,13,14,15</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6, 13, 14, 15</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:IIⓐ, R科:Aⓐ, A科:Aⓐ, M科:A1ⓐ, E科:Bⓐ, C科:IIⓐ, L科:DP2ⓐ, DP5Δ, DP6Δ, D科:DP1ⓐ, S科:DP1ⓐ, P科:DP8Δ, J科:DP1ⓐ, DP6ⓐ, DP7ⓐ, W科:DP1ⓐ, DP7ⓐ, N科:DP1ⓐN:DP1ⓐ		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1, L科:LL02357a1, D科・S科:IL02364a1, P科:YL02420a2, J科:JL02366a1, W科:WL02345a1, N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査:地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画:具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施:実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告:プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる 																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査 (4時間×2回) ・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1時間×8回) ・データベース設計の見直し (3時間) ・作成したアプリの動作テスト (2時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる 																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査 (4 時間×2 回) ・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1 時間×8 回) ・データベース設計の見直し (3 時間) ・作成したアプリの動作テスト (2 時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>守口市の総合戦略の一環として取り組みます。</p> <p>①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。</p> <p>②守口市のシビックプライドを醸成する。</p> <p>③守口市の商店街等の活性化を図る。</p> <p>①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①守口市の実態を理解する。</p> <p>②企画立案の手法を習得する。</p> <p>③企画したものをカタチにする。</p> <p>④自ら考え行動できる力をつける。</p> <p>⑤チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク</p> <p>守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。</p> <p>企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>守口市の総合戦略の一環として取り組みます。</p> <p>①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。</p> <p>②守口市のシビックプライドを醸成する。</p> <p>③守口市の商店街等の活性化を図る。</p> <p>①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>①守口市の実態を理解する。</p> <p>②企画立案の手法を習得する。</p> <p>③企画したものをカタチにする。</p> <p>④自ら考え行動できる力をつける。</p> <p>⑤チームで活動できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義とフィールドワーク</p> <p>守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。</p> <p>企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 マーケティング手法の学習(座学による) 連携先との面談 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 まとめと最終報告会 			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 マーケティング手法の学習(座学による) 連携先との面談 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 まとめと最終報告会 			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 Dig! SDGs プロジェクト</p> <p>【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGs への取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGs に寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p>【目的】 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																		
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外部協力団体様と折衝することで社会人として必要なマナーを身につける 4. イベントなど取り組むべき課題に対処することで、工程管理の基本を身につける 5. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる 6. イベントを実施及び最終報告会に挑むことでPPTスキル、プレゼンテーションスキルの向上を目指す</p>																		
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【内容】 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p>【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に																		

(基準)	に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 Dig! SDGs プロジェクト</p> <p>【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGs への取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGs に寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p>【目的】 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外部協力団体様と折衝することで社会人として必要なマナーを身につける 4. イベントなど取り組むべき課題に対処することで、工程管理の基本を身につける 5. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる 6. イベントを実施及び最終報告会に挑むことでPPTスキル、プレゼンテーションスキルの向上を目指す</p>																
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【内容】 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p>【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																
関連科目	全ての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に																

(基準)	に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
授業方法と留意点	<p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッター街が閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動みおける様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防犯策や地域貢献活動等を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。 ・特に2020年度は、地域事業者主体のプログラム実施だけでなく学生が積極的に企画・運営することを推進する。 ・ICTツールを活用した事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) (2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。 ・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店街は場提供。)今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: その他、NPO事業に参画 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月~3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。

	このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。			
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川 すいめい	青土社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールによる提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等のNPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席(参画)が基本である。 			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。 			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

<p>授業概要・目的</p>	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。
<p>到達目標</p>	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
<p>授業方法と留意点</p>	<p>ICTツールを活用して下記内容を実施する。</p> <p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動における様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策や地域貢献活動等を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。 ・特に2020年度は、地域事業者主体のプログラム実施だけでなく学生が積極的に企画・運営することを推進する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールによる事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) (2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。 ・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) 今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: その他、NPO事業に参画 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月~3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。

	このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。			
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久 繁 哲 之 介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新 雅 史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールでの提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等のNPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは ICT ツールによる打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールでの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席(参画)が基本である。 			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。 			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之・カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シヤカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カカ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。
到達目標	<p>1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)きを取(ト)り組(ク)む力(チカラ)」、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。</p> <p>2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in your mother tange)。</p> <p>3) 社会における異文化摩擦(イブンカマサツ)による問題(課題)を知る。</p> <p>4) 3)の身近(ミヂカ)なところで起きている課題を、自分事(ジブンゴト)としてとらえる観点(カンテン)から考える視点(シテン)を養(ヤシナ)い、自分は何ができるのかを考え、行動(コウドウ)に移(ウツ)す。</p> <p>5) 1)～4)の目標のほかに、本プロジェクトの活動を通して解決したい個人的(コジンテキ)またはグループでの課題や到達目標(トウタツモクヒョウ)を設定(セッテイ)し、達成(タッセイ)する。 例1)「このプロジェクトの活動を通して、わたしは～する／～できるようになる」 例2)「私の専門性(センモンセイ)／強味(ツヨミ)を生(イ)かして、地域の課題に対(タイ)して向(ム)き合う力を養(ヤシナ)う」 例3)「これまでの経験(ケイケン)や学(マナ)んだことを、実社会(ジッシャカイ)において通用(ツウヨウ)するの試(タメ)してみる」 例4)「したいことを我慢(がまん)して(TVや音楽、ゲームなどの誘惑(ユウワク)に負けないで、今するべきことに向き合う力を身(ミ)につける。」</p>
授業方法と留意点	<p>1) 週1～2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピージュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。</p> <p>2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り入(イ)れたいと考(カンガ)えています。</p> <p>3) 評価(ヒョウカ)についても、担当教員(タントウキョウイン)とともに参加学生全員が話し合いながら納得(ナツク)する形(カタチ)で設定(セッテイ)していく予定(ヨテイ)です。シラバス上の評価方法の基準(キジュン)は確定(カクテイ)ではありません。</p> <p>4) お昼の集(アツ)まりには、毎回出席することが望(ノゾ)ましいですが、就職(シュウシヨク)活動や課外活動(クラブやサークルの活動)、専攻科目(センコウカモク)の宿題や課題などが重(カサ)なって出席が困難(コンナン)な時は、事前(ジゼン)に知らせてください。</p> <p>5) プロジェクト開始とともにポートフォリオを作成し、活動することに、日誌(記録)をつけて各自(カクジ)で振(フ)り返(カエ)ります。また、イベント実施後や発表等の後には、全体(ゼンタイ)で振(フ)り返(カエ)りの会議(カイギ)もします。</p> <p>6) ポートフォリオは中間発表、最終報告会、最終レポートなどまとめる際に活用できますので、普段(フダン)から(活動のあとは)、こまめに記録(キロク)する習慣(シュウカン)をつけましょう。気づいたことや自分たちの成長過程(セイチョウカテイ)、本プロジェクトで得(エ)られた成果(セイカ)などに生(イ)かせますので、写真や広告パンフレット、(eポートフォリオの場合は動画(ドウガ)や音声記録(オンセイキロク))などもファイリングしておくといいですよ。</p>
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシヤカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイソクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 <p>【方法】</p> <p>初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。</p>

	<p>【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。</p> <p>【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成（摂大HPにアップされます）など</p>																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	プロジェクト活動における貢献度：30%（自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%）、 レポート：20%（ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析）、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度：30%																
学生への メッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近（ミチカ）にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験（ミケイケン）のことにも、失敗（シッパイ）を恐（オソ）れずチャレンジしてください。自（ミズカ）ら様々な役割（ヤクワリ）を担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシン）に取り組んでほしいと思います。 自分																
担当者の 研究室等	梅野、カーティス=チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）																
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シヤカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カカ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。
到達目標	<p>1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)きを取(ト)り組(ク)む力(チカラ)」、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。</p> <p>2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in your mother tange)。</p> <p>3) 社会における異文化摩擦(イブンカマサツ)による問題(課題)を知る。</p> <p>4) 3)の身近(ミヂカ)なところで起きている課題を、自分事(ジブンゴト)としてとらえる観点(カンテン)から考える視点(シテン)を養(ヤシナ)い、自分は何ができるのかを考え、行動(コウドウ)に移(ウツ)す。</p> <p>5) 1)～4)の目標のほかに、本プロジェクトの活動を通して解決したい個人的(コジンテキ)またはグループでの課題や到達目標(トウタツモクヒョウ)を設定(セッテイ)し、達成(タッセイ)する。 例1)「このプロジェクトの活動を通して、わたしは～する／～できるようになる」 例2)「私の専門性(センモンセイ)／強味(ツヨミ)を生(イ)かして、地域の課題に対(タイ)して向(ム)き合う力を養(ヤシナ)う」 例3)「これまでの経験(ケイケン)や学(マナ)んだことを、実社会(ジッシャカイ)において通用(ツウヨウ)するの試(タメ)してみる」 例4)「したいことを我慢(がまん)して(TVや音楽、ゲームなどの誘惑(ユウワク)に負けないで、今するべきことに向き合う力を身(ミ)につける。」</p>
授業方法と留意点	<p>1) 週1～2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピージュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。</p> <p>2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り入(イ)れたいと考(カンガ)えています。</p> <p>3) 評価(ヒョウカ)についても、担当教員(タントウキョウイン)とともに参加学生全員が話し合いながら納得(ナツク)する形(カタチ)で設定(セッテイ)していく予定(ヨテイ)です。シラバス上の評価方法の基準(キジュン)は確定(カクテイ)ではありません。</p> <p>4) お昼の集(アツ)まりには、毎回出席することが望(ノゾ)ましいですが、就職(シュウショク)活動や課外活動(クラブやサークルの活動)、専攻科目(センコウカモク)の宿題や課題などが重(カサ)なって出席が困難(コンナン)な時は、事前(ジゼン)に知らせてください。</p> <p>5) プロジェクト開始とともにポートフォリオを作成し、活動することに、日誌(記録)をつけて各自(カクジ)で振(フ)り返(カエ)ります。また、イベント実施後や発表等の後には、全体(ゼンタイ)で振(フ)り返(カエ)りの会議(カイギ)もします。</p> <p>6) ポートフォリオは中間発表、最終報告会、最終レポートなどまとめる際に活用できますので、普段(フダン)から(活動のあとは)、こまめに記録(キロク)する習慣(シュウカン)をつけましょう。気づいたことや自分たちの成長過程(セイチョウカテイ)、本プロジェクトで得(エ)られた成果(セイカ)などに生(イ)かせますので、写真や広告パンフレット、(eポートフォリオの場合は動画(ドウガ)や音声記録(オンセイキロク))などもファイリングしておくといいですよ。</p>
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシヤカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイソクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 <p>【方法】</p> <p>初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。</p>

	<p>【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。</p> <p>【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成（摂大HPにアップされます）など</p>																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	プロジェクト活動における貢献度：30%（自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%）、 レポート：20%（ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析）、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度：30%																
学生への メッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近（ミチカ）にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験（ミケイケン）のことにも、失敗（シッパイ）を恐（オソ）れずチャレンジしてください。自（ミズカ）ら様々な役割（ヤクワリ）を担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシン）に取り組んでほしいと思います。 自分																
担当者の 研究室等	梅野、カーティス=チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）																
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。																

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムにおけるこれまでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とします。また、本演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指します。 ※なお、この科目 (クラス) は、「国際ビジネス」プログラム対応科目です。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、研究発表・プレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につけることを目標とします。																		
授業方法と留意点	※「教材・課題配信型」の遠隔授業を行います。 ・第1回：オリエンテーションとして、2人の教員 (天野、中島) が共同で担当します。 ・第2～8回：天野担当。国際ビジネス・金融・経済をテーマにした小説を通して、働くことへの興味と関心を高める。 ・第9～15回：中島担当。配信された教材・課題に基づいて、研究レポートを作成することを主な活動とします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が設定したテーマに基づいて調査や分析を行い、その研究成果をレポートとして発表します。また、議論を通じてそのテーマに関する理解を深めていきます。 【事前・事後学習課題】 ・研究テーマに関する調査、文献・資料の収集などを行います。 ・レポートの準備を行います。また、フィードバックを踏まえて加筆修正等を行っていきます。 ※なお、事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。																		
関連科目	海外インターンシップ、体験型特別実習B、卒業研究I・IIなど。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	(必要に応じて指示します)																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	(必要に応じて指示します)																		
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	whkd5ug																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	天野担当分：レポート等の成果物の評価 (50%) 中島担当分：レポート等の成果物の評価 (50%) を合わせて評価します。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げですので、主体的かつ積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室 7号館4階 中島研究室																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは、実施後に行います。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟, 手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目 (クラス) は、「国際貢献」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表 (討論・プレゼン・レポート作成等) が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle																		
Teams コード	pvqt7f1																		
Moodle コース名 および登録キー	https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/course/view.php?id=732 wed05																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室、7号館5階 手代木研究室																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史, 中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのメディアビジネスプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。このプログラムを通じてこれまでに身につけてきた知識を体系化するとともに、メディアの現場を見学したり自らメディアを企画、制作する活動を通してメディアについてより深く理解することを目指す。 ※この科目 (クラス) は、メディアビジネスプログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、メディア制作の作業やプレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	1. 適当なパッケージプログラム科目を取り上げ、授業内容や担当教員を紹介するムービーを制作する。グループ単位で企画、準備、取材、編集を行う。 2. 新聞社、放送局などメディアの現場や、メディア関係のミュージアムを個人またはグループ単位で見学し、その内容を報告する。なお、その際の費用は自己負担とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>この授業のテーマはメディアの現場を「見ること」と自らメディアを「作ること」である。教室内での調査・討議・制作・発表に加えて、学内での取材 (授業や研究室) および学外に出かけての見学も予定している。学年末には、他のプログラム演習のクラスと合同で成果発表会を行う。</p> <p>【事前、事後学習課題】</p> <p>事前学習として発表のための調査および資料の準備を行う。(1時間) 事後には授業で学んだことを整理してノートにまとめる。(1時間)</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくは制作物 (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (中西研究室) 7号館4階 (古矢研究室)																		
備考	報告や制作物に関するフィードバックは発表時に、学期を通じた成果に関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司, 沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、航空会社の現業接客部門、人事・総務部門を担当した実務経験者の教員が、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とした授業である。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。																
到達目標	・キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、課題発見・解決能力、高度な情報受信能力を身につける。 ・課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。																
授業方法と留意点	・観光ホスピタリティ演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに3回程度をかけて実施、1 Semesterで4つ程度のテーマを選定する。 ・1つのテーマについて、1回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。2回目は発表資料の作成。3回目はチーム毎の発表と質疑応答。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。 ・対面授業を予定。対面が困難となった場合は Teams の各別別チャンネルで討論、研究してもらおう。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 観光ホスピタリティ演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。 前年度のテーマ選定例（下記から3つ選定、本年度は別途提示） ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②訪日外国人4,000万人を目指すって!、オーバーツーリズムをどうやって解消する? ③東京リビック・パレニック終了後のホテル集客策を考える。 ④中・長距離のLCC? LCCの特性を活かしつつ、あなたならどこを目的地にする? ⑤大阪関西万博を成功させるためには? ⑥海外と日本のホスピタリティの違いを考える。 ⑦魅力ある旅行計画の作成。 4回目は下記から選択したテーマについて賛成・反対の立場から発表、議論する。 ⑧民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑨IR法案、日本にカジノは必要か。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。 【事前、事後学習時間】 総時間数は30h																
関連科目	海外実習、体験型特別実習A、体験型特別実習B など。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	対面授業																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	対面予定、不可となったら Teams 投稿欄																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。 特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。 10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。																
学生へのメッセージ	興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。 常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。 パッケージプログラムの総仕上げとして、主体的、積極的に取り組んでください。																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティールーム)																
備考	プレゼンテーションに関するフィード・バックは発表時に実施します。																

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵, 永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのパッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※この科目 (クラス) は、「外国語専門職」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 教室内での調査、分析、発表 (討論・プレゼン・レポート作成等) が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。																		
	<p>【事前、事後学習課題】</p> 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																		
Teams コード	kavlmjh																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 (永富研究室) 7号館5階 (松田研究室)																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目 (クラス) は、「国際教養」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表 (討論・プレゼン・レポート作成等) が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	sxjvadz																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	担当教員の豊富な実務経験を生かしながら演習をすすめます。パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 (赤澤研究室)																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名(英文)	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3235a0		

授業概要・目的	<p>ANA総合研究所と連携し、観光ホスピタリティプログラムの授業で学んだ内容を実践する授業です。日本の主要航空会社の現業接客部門やグランドハンドリング会社、グループ航空会社で人事・総務部門を長年にわたり担当してきた講師が、実務経験を踏まえた授業を実施する。</p> <p>ホスピタリティ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実務の体験をすることにより、</p> <p>①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感することである。</p> <p>※なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。</p>																		
到達目標	<p>ホスピタリティ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。</p>																		
授業方法と留意点	<p>6月頃、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。履修希望者はESを提出。選考後、履修者発表。(希望者多数の場合は、機会均等の観点から2年時に「体験型特別実習Aに参加していないものを優先する)。</p> <p>8月上旬、前期試験終了後、事前集中授業を開催(参加者は必ず受講のこと)。</p> <p>8月中下旬、各企業のインターンシップに参加。</p> <p>9月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。</p> <p>受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものには本インターンシップへの参加を認めない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[事前・事後授業] 下記①は39時間、②は14時間</p> <p>(1) 事前授業 前期授業終了後、本学内で2～6回の事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。</p> <p>(2) インターンシップ(対象企業は確定していません。下記は2020年度の予定企業です)。</p> <p>① ANA 関西空港グランドスタッフ業務の体験(2～3名) ・ANA 関西空港実務見学1日(通い) ・グランドスタッフ、インターンシップ2日(通い) ・対象企業 : ANA 関西空港㈱、(株)ANA 総合研究所</p> <p>② ホテル業務訓練の体験(2～3名) ・ホテルでの新人訓練と同等の訓練の圧縮版を体験 ・2週間程度で実際の訓練と実務を体験(通い) ・対象企業 : ANAクラウンプラザホテル大阪</p> <p>(3) 事後授業 後期授業開始前に事後授業とし2コマの報告会を実施する。</p>																		
関連科目	「観光ホスピタリティ」プログラム科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	各インターンシップとも受入企業先評価30%、事前・事後授業の参加姿勢30%、体験報告の内容40%																		
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を体験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会に実際の宿場にチャレンジして、自分との距離を縮めてみましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティールーム)																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。																		

科目名	海外インターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3236c0		

授業概要・目的	<p>外国語学部では、国際的な仕事で活躍できる人材の育成を目指しているが、この海外インターンシップは、将来、語学力を生かして、主に旅行・観光業界のビジネスに携わることを目標とする学生に向いている。具体的には、海外企業の現場を視察したり、実際に就業体験することによって、ビジネスの現場の言葉遣いやマナーを学ぶとともに、そこで働く人たちの現状や意識を正しく認識することを目的としている。また、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それらを尊重できる態度を身に付けるとともに、自分の考えを明確に表現し、コミュニケーション能力を向上させることも目的の一つである。</p> <p>※なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。</p>																
到達目標	<p>(1) 海外インターンシップの体験を通して、海外で働くためにはどのような能力や知識が必要なのかを理解する。</p> <p>(2) 日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それを仕事に応用できるような力を身につける。</p> <p>(3) 仕事の現場で必要とされる語学力を用いて、自分の考えを明確に表現し、他者とコミュニケーションできる基礎が身につく。</p> <p>(4) インターンシップの現場で体験したことを自らの言葉で人に語れるようになる。</p> <p>(5) 仕事に対する興味・関心が高まる。</p>																
授業方法と留意点	<p>海外インターンシップは、本学内での事前・事後授業、実習先での研修から構成されている。</p> <p>・実習・演習科目であるため、すべての授業や研修に必ず出席すること。</p> <p>※9月頃に「事前説明会」についてお知らせする予定である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>海外インターンシップは、日本国内と海外グアムの2ヵ所において、旅行業またはホテル業の就業体験を中心に実施する（グアムの近畿日本ツーリスト社の事務所またはホテルでのインターンシップのいずれかを選択して参加する）。特に、観光ホスピタリティに関する仕事に興味のある学生にとっては、有意義な体験ができるだろう。</p> <p><グアム・インターンシップ・プログラム></p> <p>日程（予定）：2021年3月上旬の約8日間、グアムの近畿日本ツーリスト社の事務所またはホテルにてインターンシップ（就業体験）を行う。</p> <p>*上記の他に、国内（近畿日本ツーリスト社の難波事務所）でのインターンシップ（2021年2月下旬の1日）、事前および事後授業（4回程度）にも必ず参加すること。</p> <p>*なお、2020年度の日程や参加費用などの詳細については、9月下旬に開催予定の事前説明会にて伝える。</p> <p>・事前学習課題：旅行・観光業界に関する記事やニュースを事前にチェックし、その概要や動向を把握しておくこと。</p> <p>・事後学習課題：就業体験に基づいて、レポートを作成するとともに、事後報告を行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	<p>・事前・事後授業、研修の取り組み（70%）</p> <p>・レポート・提出物等の評価（30%）</p>																
学生へのメッセージ	観光ホスピタリティや旅行業界に関心のある学生によって、実際の現場で仕事を体験できる魅力的なプログラムです。また、就業体験を通じて、働くことに対する価値観や考え方を自分自身に問いかける良い機会になることでしょう。																
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																
備考	<p>・レポートのフィードバックについては、受理した約1週間後に、コメントを添えて返却する。</p> <p>・参加希望者は、事前説明会に必ず出席すること。</p>																

科目名	海外ワークキャンプ	科目名 (英文)	Overseas Work Experience
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	上田 達, 田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3237c0		

授業概要・目的	参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。																		
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体に活動ができる。																		
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育 4回程度（生活環境・語学・習慣等について学ぶ） 現地活動 2020年2月中旬～3月上旬の2週間を予定している。 履修登録時の注意事項： 履修希望者は、説明会に参加し、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けずに履修申請した場合、履修を取り消すことがある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他（募集時に指示します）																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて評価する。																		
学生へのメッセージ	後期に説明会を行う。ポータルにて一斉に周知する。																		
担当者の研究室等	7号館5階（上田研究室）																		
備考																			

科目名	海外実習	科目名(英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることができる。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を高めることができる。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本学内での事前授業と、実習先での研修(約3週間)によって構成される。 ・事前授業は演習形式で行う。 ・事前授業には必ず出席すること。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項(リスクマネジメント)や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認する報告会を設ける。</p> <p>(2) 海外実習 他の国や他大学から集まった受講生と一緒に実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。それも中国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】 ・中国語コース(中国・上海外国語大学) (8月上旬～8月下旬)</p>																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	<p>事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。</p> <p>※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。</p> <p>※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。</p>																		
学生へのメッセージ	慣れない海外で実習をこなすのは色々不安がありますが、しかし、それ以上に得る物が多いと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 兪研究室																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン（遠隔）で行う。 ・不開催の可能性が高いことを予め認識しておくこと。 ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬で4週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・履修条件として、対象となる言語について半年以上の学習歴を有することとする ・事前指導には必ず出席すること。 ・単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる（8・9月実施であれば後期、2・3月実施であれば前期） 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>（1）事前授業 本学内での事前授業は数回行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明する。</p> <p>（2）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。</p> <p>【実習先と実習時期（予定）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）（8月中旬～9月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）（8月中旬～9月初旬） 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） 7号館4階 浦野研究室（インドネシア語コース） 7号館5階 安達研究室（スペイン語コース）																
備考	参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。																

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・履修条件として、対象となる言語について半年以上の学習歴を有することとする ・本学内での事前授業と、実習先での研修(約3週間)によって構成される。 ・事前指導には必ず出席すること。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 事前・事後授業 本学内での事前・事後授業は6回程度行う。スケジュールは受講者確定後に周知する。</p> <p>渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項(リスクマネジメント)や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認するための機会を設ける。</p> <p>具体的には次のような項目について指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備と諸手続について(航空券、予防接種、etc.) ・マナーについて(誤解と理解) ・留学先事情①(マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情②(パハンやパハン大学について知る) ・ホームを離れる事(各種トラブルへの対応について) <p>(2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パハン大学(Universiti Malaysia Pahang)(8月中旬～9月初旬) 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<p>事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。</p> <p>※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。</p> <p>※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。</p>																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	7号館5階 上田研究室																
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後(後期)になります。したがって、4年次後期参加者は卒業時まで成績登録されません。																

科目名	体験型特別実習 A	科目名 (英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3239a0		

授業概要・目的	<p>観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。</p> <p>まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種への役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。</p> <p>その後の空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。</p> <p>なお、この科目は、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エアラインの仕事の多様性を理解する。 ・空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを抱いているのか感じ取る。 ・自らの将来像を描く。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本学内での事前・事後授業と中部空港研修（2泊3日）及びテストによる。 ・空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 <p>※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。（詳細は事前の説明会にて）</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前事後授業と空港研修39時間から成る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会 ・事前授業 2日間 <ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GSの仕事 ⑤グラウンドハンドリングとオペレーション ⑥CAの仕事 ・神戸・関空・伊丹の3空港について自主学習 ・中部空港研修（2泊3日でGSの仕事を経験） ・研修報告会 																		
関連科目	ホスピタリティ論 エアラインビジネス論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	小レポート20%、自主学習レポート30%、授業への参加態度30%、プレゼンテーション20%																		
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グラウンドスタッフや、CAがどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																		
担当者の研究室等	7号館4階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）																		
備考																			

科目名	体験型特別実習 B	科目名 (英文)	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○		
科目ナンバリング	LDL3240e0		

授業概要・目的	<p>本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。</p> <p>この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。																
授業方法と留意点	学内で行われる事前授業や事後授業の実施日は追ってポータル等で案内する。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。 																
関連科目	体験型特別実習 A, 海外実習, 海外インターンシップなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																
Teams コード	34idt7o																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考																	

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	北米(アメリカ合衆国・カナダ)の大学への留学に向けて、各自の留学目的や計画を明確にし、充実した留学期間を送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。また、発表(プレゼン)やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。			
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養と知識を身につけることを目標とする。			
授業方法と留意点	授業では、留学手続きも並行して進めていく。よって、提出すべき書類を必ず期日までに提出すること(留学先[大学]ごとに、まとめて手続きを進めていくので、1人の遅れがメンバー全員に迷惑をかけることになるため)。 ※8月上旬に、留学許可書やホームステイ先などの重要書類を配布する「出発直前説明会」を開催する予定であり、参加を義務づける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><内容> 大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者(先輩たち)の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に関係する英語表現を習得すること：留学先(現地)での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <p><方法> 講義、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど</p> <p><事前、事後学習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学の手続きに必要なことを主体的に調べ、進めていく。 2. 次の回の授業内容について、グループで下調べをし、発表の準備をする。 <p>※事前・事後学習総時間は60時間程度を目安とする。</p>			
関連科目	エリアスタディーズ(北アメリカ)など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する取り組み姿勢・態度、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど：60% ・留学に関する書類を含めた提出物や課題：40% <p>※当科目の単位取得(=海外留学許可)のためには、原則として全授業への出席を必須とする。</p>			
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを忘れずに。			
担当者の研究室等	7号館船本研究室			
備考	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、提出物、課題等に関するフィードバックはその都度(授業内で)行う。			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	オセアニア (オーストラリア・ニュージーランド) の大学への留学に向けて、各自の留学目的や計画を明確にし、充実した留学生活が送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。また、発表 (プレゼン) やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。																		
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養と知識を身につけることを目標とする。																		
授業方法と留意点	※2020年度後期からの海外留学は「中止」となったため、本授業は不開講となった。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><内容></p> <p>大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者 (先輩たち) の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に関する英語表現を習得すること：留学先 (現地) での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <p><方法></p> <p>講義、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど</p> <p><事前、事後学習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学の手続きに必要なことを主体的に調べ、進めていく。 2. 次の回の授業内容について、グループで下調べをし、発表の準備をする。 <p>※事前・事後学習総時間は60時間程度を目安とする。</p>																		
関連科目	エリアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する取り組む姿勢・態度、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど：60% ・留学に関する書類を含めた提出物や課題：40% <p>※当科目の単位取得 (=海外留学許可) のためには、原則として全授業への出席を必須とする。</p>																		
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを忘れずに。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、提出物、課題等に関するフィードバックはその都度 (授業内で) 行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																		
到達目標	(現地の人々と意思疎通を図る) コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																		
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学準備の重要性について ・日本語メールの基本的な書き方指導 ・英語で自己紹介 (日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定) <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates)</p> <p>3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms)</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文メールの構成 ・海外大学担当者あてに英文メールを作成 <p>7～8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9～10. 研修先事情: 医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の差異 ・マナーなど <p>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 (物や写真を用いて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について (家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など) ・日本社会・文化について <p>12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学先で受ける可能性のあるテストについて ・英語の様々なテストの種類について <p>13. 安全対策 (Measures of safety)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険会社からの説明 ・危機管理 <p>14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいこと等</p>																		
関連科目	エリアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	sgu3twz																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	発表や授業への取り組み (50%)、提出物等 (50%)
学生への メッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。
担当者の 研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	発表や提出物等に関するフィードバックはその都度授業内で行います。

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																		
到達目標	(現地の人々と意思疎通を図る) コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																		
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学準備の重要性について ・日本語メールの基本的な書き方指導 ・英語で自己紹介 (日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定) <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates)</p> <p>3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms)</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文メールの構成 ・海外大学担当者あてに英文メールを作成 <p>7～8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9～10. 研修先事情:医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の差異 ・マナーなど <p>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 (物や写真を用いて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について (家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など) ・日本社会・文化について <p>12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学先で受ける可能性のあるテストについて ・英語の様々なテストの種類について <p>13. 安全対策 (Measures of safety)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険会社からの説明 ・危機管理 <p>14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいこと等</p>																		
関連科目	エリアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	発表や授業への取り組み (50%)、提出物等 (50%)
学生への メッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。
担当者の 研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	発表や提出物等に関するフィードバックはその都度授業内で行います。

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備しておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な準備を整えて留学に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。 メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認してもらう。 それぞれの授業では1時間の事前学習と1時間の事後学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出(日本円)、支払上の注意事項。 4回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5回目：日中文化の相違について。 6回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 10回目：安全対策(外務省の事例集) 11回目：医療関連の用語の中国語指導。 12回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 13回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 14回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	提出物70%、プレゼン30%。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けると同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。北京での留学がスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要や環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを学びながら、渡航までのスケジュールの確認、大学への提出書類の作成など、留学のための万全な準備を指導する。																		
到達目標	北京での留学が円滑に進められるように万全な準備を整えるとともに、中国の文化や生活事情についても理解することができる。																		
授業方法と留意点	授業は演習形式で進める。 授業では、留学手続きも並行して行うので、指定された書類は必ず期日までに提出すること。 各回の授業には事前・事後に各1時間の学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える。提携校の概要と環境を理解する。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成について。 3 回目：留学願書の作成状況の確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史や最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力の向上やそのほかの課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼンテーション、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手について。 10 回目：安全対策（外務省の事例集）。 11 回目：医療関連の中国語について。 12 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手続きを読解し、注意事項を整理する。 13 回目：大使館でのビザ取得、航空券の入手方法と留意点について。 14 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15 回目：日本文化についてのプレゼンテーション、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	中国語圏概論、エアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業への取り組み（プレゼンテーションなど）60% 提出物・課題 40%																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階（小都研究室）																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備しておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な準備を整えて留学に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。 メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認してもらう。 それぞれの授業では1時間の事前学習と1時間の事後学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出(日本円)、支払上の注意事項。 4回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5回目：日中文化の相違について。 6回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 10回目：安全対策(外務省の事例集) 11回目：医療関連の用語の中国語指導。 12回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 13回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 14回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	94x1152																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	提出物70%、プレゼン30%。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けると同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。北京での留学がスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要や環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを学びながら、渡航までのスケジュールの確認、大学への提出書類の作成など、留学のための万全な準備を指導する。																		
到達目標	北京での留学が円滑に進められるように万全な準備を整えるとともに、中国の文化や生活事情についても理解することができる。																		
授業方法と留意点	遠隔授業(オンライン型、双方向)による演習形式で授業を進める。 授業では、留学手続きも並行して行うので、指定された書類は必ず期日までに提出すること。 各回の授業には事前・事後に各1時間の学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える。提携校の概要と環境を理解する。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成について。 3 回目：留学願書の作成状況の確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出(日本円)、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史や最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力の向上やそのほかの課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼンテーション、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手について。 10 回目：安全対策(外務省の事例集)。 11 回目：医療関連の中国語について。 12 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手続きを読解し、注意事項を整理する。 13 回目：大使館でのビザ取得、航空券の入手方法と留意点について。 14 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15 回目：日本文化についてのプレゼンテーション、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	中国語圏概論、エアスタディーズ(東アジア)																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	rtmbfgc																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業への取り組み(プレゼンテーションなど)60% 提出物・課題40%																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(小都研究室)																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	台湾での留学が有意義なものになるよう、留学の目的を明確するとともに留学によって達成すべき目標を設定します。また、同じ中国語圏でも台湾と中国の間では政治制度や経済、文化が違うことを学ぶとともに、留学提携校がある台北市および新北市の地理概況や交通について理解を深めます。中でも日本で中国語を学ぶさいに使われる漢字と台湾で使われる漢字が違うことに慣れることに重点をおいて学びます。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 留学アクション・プランを策定することができる。 海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ることができる。 渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ることができる。 渡航先で出会う人々に日本の文化について中国語で説明するための基礎的な表現力を修得することができる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は演習形式で行い、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。 各回の授業につき1時間の事前学習と1時間の事後学習が必要です。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><内容></p> <p>大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 留学手続きに関すること 留学先に留学を申請する → 留学許可書を取得する → ビザを取得する → 保険に加入する、といった大まなか流れを理解し、実際に授業の時間を利用して書類やWebへの記入を行います。 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解します。同じ中国語圏でも中国と台湾とは違う点が多いうえ、台湾の中でも受け入れ校の間で違う点があります。台湾についての基本的な情報を学ぶほか、台湾に留学したことのある先輩から経験を聞きながら留学先の事情を把握します。 留学に関係する中国語を理解すること 標準中国語は中国と台湾の間でほとんど違いませんが、台湾は繁体字を使う点で、簡体字を使う中国と違いがあります。この授業では、現地での学習にスムーズに馴染めるよう繁体字に慣れることに力を入れます。また、台湾の中国語に特徴的な発音や単語についても学びます。 日本について中国語で発信できるようになること プレゼンなどを通じて日本の文化や時事問題について中国語で紹介できるよう準備します。 <p><方法></p> <p>講義+グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など 留学アクション・プランを策定し提出します。</p> <p><事前、事後学習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べます（1時間） 次の回の授業内容について、個人またはグループで下調べをし、発表の準備をします（1時間）。 																
関連科目	エリアスタディーズ（東アジア）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teamsコード	ap6h87p																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	Teams上に質問用フォームを設置し、メールなどの方法で回答する。																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40% 留学アクション・プランの内容：60%																
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！ プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																
担当者の研究室等	中西研究室（7号館3階）																
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	英語圏(マレーシアを除く)の大学への留学に向けて、各自の留学目的や計画を明確にし、充実した留学生活が送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。また、発表(プレゼン)やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。																		
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養と知識を身につけることを目標とする。																		
授業方法と留意点	本授業では、留学手続きも並行して進めていく。(メンバーに迷惑をかけないためにも)提出すべき書類は必ず期日までに提出すること。 ※9月(予定)の海外留学にかかる書類および面接選考の合格者(留学許可者)のみ履修できる科目である。 ※2月中旬(予定)に開催される「出発直前説明会」(留学許可書やホームステイ先などの重要書類を配布)への参加を義務づける。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><内容> 大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者(先輩たち)の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に関係する英語表現を習得すること：留学先(現地)での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <p><方法> 講義、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションなど</p> <p><事前、事後学習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学の手続きに必要なことを主体的に調べ、進めていく。 2. 次の回の授業内容について、グループで下調べをし、発表の準備をする。 <p>※事前・事後学習総時間は60時間程度を目安とする。</p>																		
関連科目	エアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表および授業に対する取り組む姿勢(60%) ・留学に関する書類を含めた提出物や課題(40%) <p>※当科目の単位取得(=海外留学許可)のためには、原則として全授業への出席を必須とします。</p>																		
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを忘れずに。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、提出物、課題等に関するフィードバックはその都度(授業内で)行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに値する責任と義務をはじめに確認し、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ発給申請、海外旅行保険加入、航空券入手等が自分自身で行えるよう導く。その他、スペインの歴史、文化、現代社会と政治情勢などに関する基礎知識を教授する。		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ発給申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>以下の点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説 (サラゴサ大学において留学期間中に受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ発給申請手続き) ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情 (スペイン現代事情、アラゴン州サラゴサの歴史・地理、サラゴサ大学について) ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な文法用語を含めた語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任の確認 (留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の継続履修、スペイン語技能検定 3 級合格、スピーチコンテスト参加等) <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ (ラテンアメリカ) を履修すること。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか (50%)、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか (50%) によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。		
学生へのメッセージ	現地での生活を恐れることはありません。 自ら率先して文献、雑誌、インターネット等を通じてスペインの情報入手し、知識を得る努力を怠らないこと。 留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。		
担当者の研究室等	7号館 5階 北條研究室		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を確認し、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ発給のための申請方法を詳しく解説する。ビザ発給申請、海外旅行保険加入、航空券入手等は、主体的に行う。さらに、スペインの生活習慣、歴史、文化、現代社会と政治情勢などに関する基礎知識を獲得し、自分自身と日本文化についてスペイン語で紹介できるよう導く。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、留学先の教室内外で、異文化圏の人びとと積極的に意見交換ができる基本姿勢を身につける。																		
授業方法と留意点	遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。 必要に応じ(安全であると判断できる限りにおいて)対面式授業を行うこともあるが、基本的には、Teamsによる双方向オンライン授業を行い、ビザ申請に関する書類や資料・教材の配布・回収にはWebFolderを用いる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説(留学期間中にサラゴサ大学において受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ発給申請手続き) ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情(スペイン現代事情、アラゴン州サラゴサの歴史・地理、サラゴサ大学について) ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任の確認(留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等) <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ(ラテンアメリカ)をできるだけ履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	fqc88zt																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか(50%)、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか(50%)によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	現地での生活を恐れることはありません。 自ら率先して文献、雑誌、インターネット等を通じてスペインの情報入手し、知識を得る努力を怠らないこと。 留学中の先輩や同級生とSkype等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペインアlicant大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。 自律心と規範意識の涵養。																		
授業方法と留意点	毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	以下の点を扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(学部合同のものもある) ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて(受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き) ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情(アlicantの歴史・地理、両大学について) ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任(留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等) 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する(留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物=100%) この出来によっては留学許可を取り消すこともある。																		
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理(勉学においても)ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。 個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。 留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。 個人々の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。 事前・事後学習に要する総時間は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、メキシコの歴史、文化、メキシコ特有のスペイン語等の留学中の勉学において必要となる基礎的な知識を得る。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを使った遠隔授業で行う。 ・すべて出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。加えて、与えられた課題に主体的に取り組み、最後まで遂行すること。 以下の点について講義する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ1年次で履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	3u3a.jo7																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学び、日本文化についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。 取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	現地での生活を恐れることはありません。 自ら率先して書籍、雑誌、インターネットを通じてメキシコの情報にアクセスし、知識を得る意識を持ってください。 留学中の先輩や同級生とSkype等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペインアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。 自律心と規範意識の涵養。																		
授業方法と留意点	毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。オンラインによる指導となるので、連絡（確認・報告・返答）を怠らないこと。留学が再開できるかについては、状況を注視する必要があるが、現時点で非常に厳しい状況にあることを十分に把握しておくこと（中止の可能性）。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点を扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス（学部合同のものもある） ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（アリカンテの歴史・地理、大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	46grugq																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝100%） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。																		
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉学においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。 個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。 留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。 個人々の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	<p>海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>本授業は、インドネシア(ストモ博士大学)へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。</p>			
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。			
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。</p> <p>第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学(ストモ博士大学)の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解(例えばイスラム主義に関する理解)を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイドンスを行う。 第13回目：留学先での生活(医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など)について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。</p>			
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目(インドネシア・マレー語圏概論等)すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%			
学生へのメッセージ	留学生生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。			
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)			
備考	予習・復習を15時間以上すること。			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	<p>海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。</p>																		
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。</p> <p>第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイドンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。</p>																		
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																		
学生へのメッセージ	留学生生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																		
担当者の研究室等	7号館4階（浦野研究室）																		
備考	予習・復習を15時間以上すること。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続などを行い、出発前に必要な情報や知識を学ぶ。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュールリング etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) <p>授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。</p>																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への取り組み状況 (100%) から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者が、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を学ぶ。		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジューリング etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) <p>授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。</p>		
関連科目	「基礎マレー語」		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/その他 Zoom		
Teams コード	6j6k710		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	授業への取り組み状況(100%)から判断する。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館5階上田研究室		
備考			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	台湾での留学が有意義なものになるよう、留学の目的を明確するとともに留学によって達成すべき目標を設定します。また、同じ中国語圏でも台湾と中国の間では政治制度や経済、文化が違うことを学ぶとともに、留学提携校がある台北市および新北市の地理概況や交通について理解を深めます。中でも日本で中国語を学ぶさいに使われる漢字と台湾で使われる漢字が違うことに慣れることに重点をおいて学びます。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 留学アクション・プランを策定することができる。 海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ることができる。 渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ることができる。 渡航先で出会う人々に日本の文化について中国語で説明するための基礎的な表現力を修得することができる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は演習形式で行い、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。 各回の授業につき1時間の事前学習と1時間の事後学習が必要です。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><内容></p> <p>大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 留学手続きに関すること 留学先に留学を申請する → 留学許可書を取得する → ビザを取得する → 保険に加入する、といった大まなか流れを理解し、実際に授業の時間を利用して書類やWebへの記入を行います。 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解します。同じ中国語圏でも中国と台湾とは違う点が多いうえ、台湾の中でも受け入れ校の間で違う点があります。台湾についての基本的な情報を学ぶほか、台湾に留学したことのある先輩から経験を聞きながら留学先の事情を把握します。 留学に関係する中国語を理解すること 標準中国語は中国と台湾の間でほとんど違いませんが、台湾は繁体字を使う点で、簡体字を使う中国と違いがあります。この授業では、現地での学習にスムーズに馴染めるよう繁体字に慣れることに力を入れます。また、台湾の中国語に特徴的な発音や単語についても学びます。 日本について中国語で発信できるようになること プレゼンなどを通じて日本の文化や時事問題について中国語で紹介できるよう準備します。 <p><方法></p> <p>講義+グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など 留学アクション・プランを策定し提出します。</p> <p><事前、事後学習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べます（1時間） 次の回の授業内容について、個人またはグループで下調べをし、発表の準備をします（1時間）。 																
関連科目	エリアスタディーズ（東アジア）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40% 留学アクション・プランの内容：60%																
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！																
担当者の研究室等	中西研究室（7号館3階）																
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、メキシコの歴史、文化、メキシコ特有のスペイン語等の留学中の勉学において必要となる基礎的な知識を得る。		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。		
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。 すべて参加し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。加えて、与えられた課題に主体的に取り組み、最後まで遂行すること。 以下の点について講義する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ1年次で履修すること。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法（基準）	諸手続きの指示を正確に理解し、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学び、日本文化についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。 取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。		
学生へのメッセージ	現地での生活を恐れることはありません。留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み（100%）																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み（100%）																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	<p>【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み（100%）																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	各研究室（7号館3～5階）																
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード	4311pb6																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	wk9psei																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																		
Teams コード	hfik0hu																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	ckhj3xl																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	zgvk7mo																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	pw9u6j0																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	adfpi81																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	vuwmy5h																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	x136102																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード	y4ilumb																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	w3giakm																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究の方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究の方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究の方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究の方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり10数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究の方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ・図書館やwebを使用した文献収集の方法 ・web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ・多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ・アンケートやインタビューなどを対象に調査する研究の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央, 上田 達, 金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回与えられた課題に取り組む。 ・ 発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Zoom (アクセス URL は学生に直接案内します)																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール、Teams チャット																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹, 小都 晶子, 兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	edyo9kj																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子, 中西 正樹, 兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	08q3a7y																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹, 藤井 嘉祥, 北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」																		
Teamsコード	藤井 dw7ty0a /安達 zbs219b																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥, 安達 直樹, 北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	藤井 dw7ty0a / 安達 zbs219b																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド, 天野 貴史, 永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams / Moodle																		
Teams コード	13segpc																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	email or Teams chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ, 鳥居 祐介, 永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	WebFolder																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	LINE																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー, 天野 貴史, 中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	gggyhsg																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史, 齋藤 安以子, 高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。																		
	<p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	3g2q4ke																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子. 田浦 アマンダ. フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	evr7t9i																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	email or Teams chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介, 中島 直嗣, マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	few7pbo																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美・高橋 真理子・フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teamsコード	wqlsgr4																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール, email, or Teams chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 齋藤 安以子, マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	7609chc																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子・田浦 アマンダ・鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。特に「基礎演習 II」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。																		
	<p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	lhl1tup6																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 歴史、文化とは何か 文献の検索と活用方法 テーマ設定</p> <p>【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	ゼミ活動への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7号館4階)		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	前期では、担当教員の指導のもと社会貢献活動などの学外活動による課題発見対処能力を高める。その活動の中で、社会問題を提起する。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業 (非同期・非対面式) の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第 1 回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20% で判断する。																		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	日頃から、物事について思考を巡らせること。連絡を怠らないこと。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 Teams、Webfolder およびメールを用いて、課題の提出・添削を行います。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマは、スペイン語・英語・日本語について（文法、語彙、表現）の研究、社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代語の文法、語彙、地域変種（～の英語、ラテンアメリカのスペイン語など） ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、ヨーロッパの複言語主義など。 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革と言語など <p>とにかく文章を読み、要約し、発表する。</p>																		
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	課題（提出状況と内容の精度） 100%																		
学生への メッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。 3分の1以上の欠席は落第となる。																		
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	小説を読む習慣を身につけるとともに、物語を通して身近な物事に興味を持つ。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>テーマ「戦後の日本の社会と文化の変遷」</p> <p>戦後日本社会の歴史的な変遷を追跡するなかで、様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。</p> <p>人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。</p> <p>必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> <p>①日本の戦後の現代史を概観 政治・経済の問題も視野に入れつつ、日本の文化の変化について概観する。その際、経済・社会の基礎的知識も身につけて欲しいと思います。基本図書として、池上彰『そうだったのか！ 日本現代史』（集英社文庫）を使用。</p> <p>②掘り下げて調べるべき課題をそれぞれが見つける 興味を持ったテーマに関してグループないしは個人で資料や文献、さらに調査を進める。例えば、駅前の商店街の繁栄と衰退、郊外のショッピングセンターが開発と店舗の変化など</p> <p>③発表とディスカッションを通じて相互に理解する力を養う 調べた結果をパワーポイントで発表する。その際、お互いに質問や意見交換をすることで、多様なものの見方を獲得することを目指す。</p> <p>【方法】</p> <p>資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td> <td>小笠原喜康</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>そうだったのか！ 日本現代史</td> <td>池上彰</td> <td>集英社文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書														
2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	7号館4階 有馬研究室																
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。																		
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。																		
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。後半はディスカッション等に当てる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について 30 分程度で報告をする。コメント担当者は 5 分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前には指定された文献を精読しておくこと。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み (20%)、課題 (50%)、口頭発表 (30%) に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)																		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究方法や考え方を体得する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、7月に行われる4年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。</p> <p>②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。</p> <p>【事前、事後学習課題】</p> <p>自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—</td> <td>浦野ゼミ</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況（50%）、レポートの内容（50%）により、総合的に判断します。 なお、1回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子（「参考書」欄に記載）を配布し、ガイダンスを行います。																		
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤しみましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階（浦野研究室）																		
備考	事前事後学修時間数の目安は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>この演習では経済発展の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。</p> <p>なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業形式で、教材と解説の配布とビデオ会議を織り交ぜて行う。 ・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発言することによって理解を深めていく。 ・学期後半には卒論の構想にも着手する。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加えていく。 ・学期中にレポート課題を出します。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ・内容・方法]</p> <p>①経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションの技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集）</p> <p>[事前事後学習課題]</p> <p>輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中1回レポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開発経済学入門</td> <td>戸堂康之</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社																
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションと発表の質（討論の内容、発表の内容）50% ・発言等のゼミへの参加意欲 30% ・レポートの内容（論点の絞り込みと論の展開）20% 																		
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言すること、他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。 2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は60時間 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは15回目の授業のなかで実施する。 																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 新聞やニュースの記事 (日本語・英語)、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、美術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「文学と映画」です。</p> <p>なんとなく観ておもしろい、を超えた分析をできるように、いくつかの作品を例に文献を読んだりディスカッションしたりします。予習で映像をじっくり観ること、を指定する週もあります。</p> <p>また、学期中に複数回、ビブリオバトルを行います。おもしろい本をたくさん読んで準備してください。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行き調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましよう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	プリント教材																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業にて紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業にて紹介します																
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業での協働作業 30% プレゼンテーション 30% レポート 40% 																
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考	担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか 事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 (これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。)																		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙 (調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ (人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・ アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・ なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> *日本語学習者の言語習得 *日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 *外国人との接触場面の異文化間コミュニケーション *海外における日本語教育 *在住外国人や留学生に関すること 等々です。 <p>海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *専門的な知識を得る。 *文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 *テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 *アカデミックライティングのスキルを身につける。 *ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 *卒業研究のテーマの設定を行う。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>【事前事後学習課題】(毎回 1.5H) 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。 学期末には、コメントを参考に再度レポートを加筆修正して提出する。</p>																		
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文献資料、プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	文献資料、プリントを配布する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で指示する																		
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への参加度(10%)、発表及びその他課題(30%)、レポート(60%)によって総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語(日本語)です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人(日本語を母語としない人)に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語や日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。 課外ゼミでは、様々な日本語教育機関を訪問し、外国人学習者と交流します。																		
担当者の 研究室等	門脇研究室(7号館4階)																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	Theme: Tourism and Hospitality We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service and polite spoken and written English for hospitality.																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ON-TIME attendance, oral presentations, reading books for pleasure in English, writing and research for the thesis questionnaire will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to joi																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on tr																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ</p> <p>【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3年次終了時点で合計12000字(40字x30行で10ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業研究レポートに発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																		
到達目標	<p>前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも6000字以上を提出する。</p>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書をPCで作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PCの基本操作は必須であり、自分のPCを所有しているか、好きな時に使えるPCを学内および自宅に確保しておく必要があります。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。</p>																		
関連科目	卒業研究 I、卒業研究 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+複数の小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>・2年次までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。</p> <p>・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。</p>																		
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて後期の文化演習Ⅱや4年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。																		
授業方法と留意点	※今学期のこの授業は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心としながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。</p> <p>・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。</p> <p>【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示したり、プリントを配布したりする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	※今学期は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態のため、提出物等 (100%) に基づいて評価します。																		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	課題やレポートに関するフィードバックは原則として翌週の授業で行います。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	Webには、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある (Google マップやYouTube など)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表することができる。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史に対する知識も深めることができる。																		
授業方法と留意点	観光情報をブログで配信する。感染状況が改善して外出制限が緩和されるまでは原則としてブログの素材は過去のものを使い、取材に出かける場合も個人で行い、公共交通機関を使わず人が集まらない場所を選ぶ。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は主として写真を動画に仕立ててそれにナレーションを付ける形式の観光案内ビデオを作成する。																		
関連科目	専攻言語の外国語科目および英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (60%)、ブログ執筆への貢献度 (40%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回課題を出します。課題を通して参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得も心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。そのためにも何度も練習しなければなりません。そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返すことが決定的に重要になります。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバル社会における異文化コミュニケーション</td> <td>池田理知子 他</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバル社会における異文化コミュニケーション	池田理知子 他	三修社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバル社会における異文化コミュニケーション	池田理知子 他	三修社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点 40%、 課題・発表 30%、 期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つけ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。																		
到達目標	他人の意見に耳を傾け、それに対する意見を発信できる。 他者と強調しながら、課題解決に向けて議論できる。 自分の意見を述べ、考えを整理できる。																		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、参加態度、課題) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階																		
備考	事前事後学習時間 計60時間 発表や提出物はすぐにフィードバックします。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	方法論としての社会史の概要を理解し、自ら問題を発見する。																		
授業方法と留意点	前半は、西洋社会史関連の文献を読みながら、方法論について学んでいく。新たな史料として、小説や伝説、風刺画などの「読み解き」もおこなう。 後半は、文献収集や研究の進め方、発表や討論の仕方についてガイダンスをおこなった後、各自、社会史関連のテーマを一つ選び、関連文献を収集・整理し発表をおこなう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 (1) 西洋史学の方法論、(2) 社会史とは何か、(3) 図像史料の可能性、(4) テーマ別討論 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	発表内容 (テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%)、討論 (積極的に発言しているかなど。20%)、レポート (40%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	夢中になって取り組める研究課題を見つけてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 林田研究室																		
備考	西洋の歴史 (世界史) に関する予備知識は必ずしも必要ではない。 研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。 総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write academic papers in English. Additionally, students will learn how ideas are communicated through visual images and symbols, and will be able to apply this knowledge by working on practical projects.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different aspect of comics. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning. Week 1: Seminar Introduction Week 2: Describing Characters Week 3: Describing Narrative Week 4: Lettering and Word Balloons Week 5: Use of Line Week 6: Use of Color Week 7: Symbols and Sound Effects Week 8: Panel Layout Week 9: Poster Project Week 10: Poster Project Week 11: Poster Project Week 12: Poster Project Week 13: Video Project Week 14: Video Project Week 15: Video Project																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	Video Project 20% Poster 20% Short Writing 15% Weekly Quiz 15% Notes 15% Participation 15%																		
学生への メッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の 研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	多文化社会とジェンダーをキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。 必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。																		
到達目標	基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを徐々に絞り込んでいく。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 指定図書を通販などで入手し、指定された範囲についてのレポートを、指定された形式で期日までに提出すること。 各自のレポート原稿に書かれた教員のコメント（これらは全員で共有する）および全員に対する解説を熟読すること。 さらに深く調べてわかったこと（レポートに書くべき事項を含む）や考察をもとに、議論の機会を設ける。そこでの積極的な発表を行うこと。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 グローバリゼーション・移民・多文化社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	レポートへの取り組み・提出状況 (40%)、レポートの内容と質 (30%)、議論への参加 (30%)																		
学生への メッセージ	日本語と専攻言語の両言語の力を伸ばし続けましょう。 専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章構成力を高めることを目指してください。																		
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に与えられた課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること（総時間数は60時間）。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。 ★Teams で連絡をします。		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	外国語の能力を高め、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、中国言語文化、あるいは中国の風俗、習慣、思考様式などを課題とする。中国言語文化や中国文化の特徴などを研究することによって、中国語や中国文化の知識、中国語表現力を涵養し、学習力、思考力を養い、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養い、同時に研究能力を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	オンライン型授業では、教員から与えられた課題、あるいは各自決めたテーマについて、収集した資料などを持ち寄り、それらを画面共有で提示しながら、他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】：①中国の語彙研究、②中国言語文化の研究、③中国文化の研究</p> <p>各授業において、前回は課題と内容を決め、必要に応じて調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。</p> <p>【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来ること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語と中国文化</td> <td>魯宝元著・神里常雄訳</td> <td>華語教学出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中日言語文化漫歩</td> <td>上野恵司</td> <td>吉林大学出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人が知りたい中国人の当たり前</td> <td>林松濤他</td> <td>三修社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社	2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社	3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社																
2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社																
3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社																
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	プレゼン 30%、課題提出 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考	事前・事後学習の総時間を60時間とする。課題提出等に対し、添削指導、フィードバックを行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	対象とする国／地域の社会や文化について、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	授業はオンライン形式（双方向を主とする）による。文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国／地域をとりあげてテーマを設定し、発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>対象とする国／地域の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄について文献リストおよびレビューを作成し、発表する。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	小都研究室 (7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	【いかにイメージをテキストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。																
到達目標	以下の2つの技術を習得すること。 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																
授業方法と留意点	1. 学生主体で進める。 2. 各自のテーマの関連テキストを読解、発表する。 3. その報告に対して質問する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	1. 発表内容 [40%] 2. 質問内容 [40%] 3. その他課題 [20%]																
学生への メッセージ	1. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「思考力」である。 2. 発表担当でない日も、しっかり体調を整えて出席する。																
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室																
備考	事前事後に学修時間計60時間を予定している。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	「メディア」を通じて文化やコミュニケーションを考察し、4年次の卒業研究につなげる。 ゼミ雑誌『Media:be』、ゼミ映像作品「THREE MINUTES OLDER」を制作する。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌『Media:be』、ゼミ映像作品「THREE MINUTES OLDER」を制作する																		
授業方法と留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作、ゼミ映像作品制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作や映像作品の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性） 100%																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力と関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。		
到達目標	グローバル社会において、英語が様々な地域においてどのように学ばれ、どのように使われているかを理解する。 第二言語習得・英語教育の基礎理論について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習 I では主に第二言語習得、世界での英語使用状況や英語教育の現状に焦点をあてる予定である。理論や実践について学ぶとともに、それに基づき、履修生自身の英語スキルが高められるよう、授業内で様々なアクティビティを行う。同時に、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらう。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べるなどが含まれる。授業外での学習時間は 60 時間程度である。参考文献は随時、授業内で紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。</p> <p>本授業では、日本のポピュラー音楽について書かれた学術書や論文を皆で読み、取り扱われている音楽やミュージックビデオも視聴し、音楽研究における様々な方法論や、従来の議論、研究されてきた具体的なトピックを把握します。そのうえで、前期終了までに各自のテーマと方法論を決定します。</p>																		
到達目標	<p>1：日本におけるポピュラー音楽研究の主な方法論や、議論を把握することができる。</p> <p>2：卒業レポートに向けてのテーマを決定し、大体的方法論を考えることができる。</p>																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業13回もしくは14回目くらいまでは、ポピュラー音楽に関する文献をほぼ毎週読み込み、発表します。その上で、扱われている音楽作品を視聴したり、フィールドワークに行くことができれば行き、参与観察などの方法も学ぶ可能性があります。</p> <p>授業の最後の2から3回で卒業レポートのテーマをゼミの学生さんと共有し、方法論、枠組みなどを話し合います。</p> <p>文献発表の担当ではない人にも対応する質問を課題として出しますので、課題書籍、論文に関しては必ず目を通してください。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『初回授業で伝えます』</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『初回授業で伝えます』</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館永富研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	人文地理学の研究方法を、実践を通じて身につけることを目的とする。受講生自らが関心を持つ対象について、空間・地域・環境にかかわる視点からアプローチする技能を養う。																		
到達目標	主に人文地理学の分野における研究を遂行するために必要な基礎的技能を習得すること。すなわち、意義のある問いを立てること、文献の収集・閲読・整理、データの収集・分析、論理的に議論を組み立てること、文章作成、口頭発表の能力である。																		
授業方法と留意点	論文作成に必要なさまざまな手順について担当教員が手短かにレクチャーを行ったのち、受講生がそれを実践し、成果物を提出する。また、各回の内容に応じた課題に取り組んでもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>◆授業テーマ：地理学的アプローチとその実践 実際に自らが関心を持つテーマ・問いについて追究し成果物を作成・報告することを通じて、地理学的アプローチについて学習する。</p> <p>◆内容、方法 1) 問いの設定.....テーマ設定の過程・方法。 2) 文献閲読.....問いに関連する論文・書籍等の探索・収集・閲読・整理。 3) データ収集・分析.....文献資料や統計データの扱い方、調査の方法と実践。 4) 文章作成.....論文の骨子を作ることと、文章作成法。 5) 口頭発表.....スライドショーを用いた発表とディスカッションの実践。</p> <p>◆事前・事後学習課題 授業時間における作業に取り組むだけで研究に必要な技能を身につけることはできない。教員が提示した課題に積極的に取り組むことのほか、自主的に文献の閲読や興味あるテーマの探索、関連情報の収集を行う必要があることに注意してください。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	最終報告およびレポートの水準 60%、授業への積極性 40%																		
学生へのメッセージ	授業外でも常日頃から努力し、情報収集、問題意識の明確化、技能の磨き上げを行ってください。																		
担当者の研究室等																			
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。(これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。) 																		
授業方法と留意点	フィールドワークで何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙 (調査)、観光地における調査のため、校外学習を実施します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>言語学の方法</td> <td>郡司隆男 他</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	言語学の方法	郡司隆男 他	岩波書店	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	言語学の方法	郡司隆男 他	岩波書店																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。来年の卒業論文にむけて準備をする。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】</p> 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 <p>【事前事後学習】</p> 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	その他 zoom		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	ゼミ活動への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	後期では、前期の活動で提起した社会問題について、様々な角度から調査し、その原因や解決方法を導くプロセスを習得する。その中から、自分にあった卒業研究テーマを見つけ出す。		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文章 (本や論文、記事) を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献 (本・資料) を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	とにかく、毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から、物事について思考を巡らせること。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>テーマは、前期同様、日本語、英語、その他の言語の言語学的分析。あるいは社会言語学、文化史などの研究。具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代英語の文法、語彙、地域変種。 ・英語の歴史。 ・現代ヨーロッパの社会言語学的問題：カタルーニャの言語政策・教育 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題 (ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル)、印刷技術 (情報革命)、宗教改革と言語など <p>とにかく文章を読み、要約し、発表する。</p>																		
関連科目	言語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	86fns91																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	毎回の課題とオンライン授業での発表・質疑応答への取り組み 100%																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。 3分の1以上の欠席は落第となる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	前期に引き続き、読書の習慣を継続・発展させる。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																		
Teams コード	6ozke2j																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>テーマ「戦後の日本の社会と文化の変遷」</p> <p>戦後日本社会の歴史的な変遷を追跡するなかで、様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくを目指す。これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																		
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。</p> <p>人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。</p> <p>必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																		
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> <p>①日本の戦後の現代史を概観 政治・経済の問題も視野に入れつつ、日本の文化の変化について概観する。その際、経済・社会の基礎的知識も身につけて欲しいと思います。基本図書として、池上彰『そうだったのか！ 日本現代史』（集英社文庫）を使用。</p> <p>②掘り下げて調べるべき課題をそれぞれが見つける 興味を持ったテーマに関してグループないしは個人で資料や文献、さらに調査を進める。例えば、駅前の商店街の繁栄と衰退、郊外のショッピングセンターが開発と店舗の変化など</p> <p>③発表とディスカッションを通じて相互に理解する力を養う 調べた結果をパワーポイントで発表する。その際、お互いに質問や意見交換をすることで、多様なものの見方を獲得することを目指す。</p> <p>【方法】</p> <p>資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td> <td>小笠原喜康</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>そうだったのか！ 日本現代史</td> <td>池上彰</td> <td>集英社文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書																
2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	2020 年文化演習Ⅱ 3 ゼミ																		
連絡手段	Teams																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。		
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。		
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	「人類的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人30分程度の発表時間がある。発表者、コメンテーター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/その他 Zoom		
Teams コード	amdo6ou		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み (20%)、課題 (50%)、口頭発表 (30%) に基づいて行う。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館5階上田研究室		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとする。 具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。 最終成果として、後期末に「3年次レポート」を作成、提出する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気づき」「目くぼり」「心くぼり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、4年ゼミ生との合同ゼミ合宿(秋)および1月に行われる4年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジュメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「3年次レポート」を作成する。 ちなみに、最近のゼミ生が取り組んだテーマは次の通り。 「神話からみる異なる民族の共通点」「『オネエ』が意味するもの—辞書の記述内容に関する比較研究—」「ディズニーランドの魅力—インスタグラム投稿写真からの分析—」「インドネシアにおける日本語教育—日本語学習者の低年齢化現象について—」「ボブ・ディランがモノ申す」「子どもたちの野球離れ」「焼酎の名前に関する考察」																		
	<p>【事前、事後学習課題】</p> 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
授業形態	Zoom (アクセス URL は学生に直接案内します) / 対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、ゼミ討論への積極的な参加状況(50%)、「3年次レポート」の成果(50%)により、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考	事前事後学修時間の目安は60時間。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>この演習では経済発展の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視点から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。</p> <p>なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。</p> <p>卒論のテーマの絞り込みも進める予定である。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。 ・自身の研究に必要な資料・データを収集できる。 ・自身の研究課題の面白さと重要性、および研究の進捗状況を分かりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文献購読は Teams を使った遠隔で、グループワークとプレゼン対面で行う。状況により一律遠隔授業に切り替わった場合には、すべて Teams で行う。 ・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をグループディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発表することによって理解を深めていく。 ・随時、卒論の構想についての発表も行う。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加えていく。 																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>[授業テーマ・内容・方法]</p> <p>①経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションの技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集）</p> <p>[事前事後学習課題]</p> <p>輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中1回レポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マイケル・ポーターの競争戦略</td> <td>ジョアン・マグレッタ</td> <td>早川書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレッタ	早川書房																
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・討論とプレゼンの内容とスキル 50% ・輪読その他のゼミ活動への参加意欲 30% ・レポートの内容（各自の研究課題の進捗状況） 20% 																		
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言することと他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。 2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は60時間とする。 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは15回目の授業のなかで実施する 																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。																		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。																		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	yz0h118																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%																		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。																		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身につける。 想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 新聞やニュースの記事(日本語・英語)、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、美術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「文学と映画」です。</p> <p>後期は、卒業後は社会に出る大学生に身につけてほしい言語の力に焦点をあてます。自分の言語能力を、言語以外の知識や技術と組み合わせ、他人のために役にたてるようになるのが目標です。接客現場や医療現場、職場内、など、対人関係のなかで言語が果たす役割について、文献調査と同時に、文学や映画・ドラマに描かれた例を分析します。</p> <p>前期と比べて研究色の濃いゼミになるでしょう。大量に読み、聞き、考え、話して、書きます。</p> <p>また、学期中に複数回、プレゼンを行います。たくさん話す練習をしてください。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接対象を調べて一次資料を得たり、立場の違う人にインタビューしたりなど、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	配布教材																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業にて紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業にて紹介します																
2																	
3																	
授業形態	Web Folder/ その他 (Zoom)																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	@edu の学内メール(初回授業でお知らせ)																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業での協働作業 30% プレゼンテーション 30% レポート 40% 																
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。 担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか																

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 (これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。) 																		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙 (調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ (人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・ アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・ なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	n3eyad0																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> *日本語学習者の言語習得 *日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 *外国人との接触場面の異文化間コミュニケーション *海外における日本語教育 *在住外国人や留学生に関すること 等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *専門的な知識を得る。 *文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 *テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 *アカデミックライティングのスキルを身につける。 *ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 *卒業研究のテーマの設定を行う。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 (毎回 1.5H) 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。</p>																		
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文献資料、プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	文献資料、プリントを配布する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で指示する																		
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	2ps4g13																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	個人メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への参加度 (10%)、発表及びその他課題 (30%)、レポート (60%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語 (日本語) です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人 (日本語を母語としない人) に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。 前期に引き続き、課外ゼミでは、日本語教育機関を訪問したり、外国人学習者と交流するプロジェクトを行います。																		
担当者の研究室等	門脇研究室 (7号館4階)																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	Theme: Tourism , Hospitality and Australian culture We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service. Australia will also be a focus for tourist destinations.																		
到達目標	Students will attain better reading , and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, reading outside class, staying in English 100% is the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook. Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with online research encouraged. (Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle /その他 Zoom & Line (Teams なし)																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	Amanda Taura 3rd year seminar class 2nd term																		
連絡手段	Line																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	Attendance online, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation. You will undertake a research project for your thesis in 2nd term.																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come online ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just kee																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー	https://moodle2.setsunan.ac.jp/moodle/course/view.php?id=1399 (教員による手動登録済み)																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎(研究手法・ルール・コツ等)についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ</p> <p>【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	授業への参加状況(議論での積極性等)(50%)と、種々のアウトプット(プレゼンテーションの内容、レポート等)(50%)によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	事前事後の総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3年次終了時点で合計12000字(40字x30行で10ページ)以上の小さなレポートの集りを書くことを目標にします。4年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポート群を卒業研究レポートに発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																		
到達目標	<p>前期からの通算で、合計少なくとも12000字以上のレポートを提出すること。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。</p> <p>・毎週文書をPCで作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PCの基本操作は必須であり、自分のPCを所有しているか、好きな時に使えるPCを学内および自宅に確保しておく必要があります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツNASCARの歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーグ、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。</p>																		
関連科目	卒業研究 I、卒業研究 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
授業形態	その他 zoom および前期から継続の3-4年次合同 Teams チームを使用																		
Teams コード	gplsz9m																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)																		
学生への メッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次前期までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。 																		
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて4年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・積極的かつ協調的な取り組みを心がけるようにしてください。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 <p>【事前学習】 毎回の授業のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>																		
関連科目	文化演習 I など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示したり、プリントを配布したりする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	レポート等の提出物の成果 (50%)、研究活動に取り組む姿勢 (50%) を合わせて評価します。																		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	課題やレポートに関するフィードバックは原則として翌週の授業で行います。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	Web には、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある (Google マップや YouTube など)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																		
到達目標	日本の歴史や地理に関する情報について、書籍や Web で得る情報と、現地での調査で得られる情報の違いを知ることができる。観光情報の翻訳作業では、必要な情報をできるだけ分かりやすい外国語に翻訳する技術を身につけることができる。また、外国人観光客に対する観光動向の調査活動を通じて、外国語によるコミュニケーション能力の向上が期待できる。																		
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍や Web など調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したり Web サイトに登録するなどの作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	後期は、前期のゼミで身につけた技術や経験を活かしながら、ビデオカメラによる撮影を現地で行い、これをつかっただ映像作品の作成を課題とする。																		
関連科目	専攻言語の外国語科目および英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams 上に質問用フォームを設置する。これに対してメールなどの方法でフィードバックを行う。																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (60%)、レポート、プレゼン (40%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回課題を出します。課題を通して参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得も心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバル社会における異文化コミュニケーション</td> <td>池田理知子 他</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバル社会における異文化コミュニケーション	池田理知子 他	三修社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバル社会における異文化コミュニケーション	池田理知子 他	三修社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	lydeow5																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点 40%、 課題・発表 30%、 期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つけ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。																		
到達目標	自分の意見を述べ、考えを整理できる。 上記について文章で論理的にまとめられる。 各自の関心あるテーマについて基本的な資料収集ができる。																		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。																		
関連科目	文化演習 I																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	imxwrh7																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(報告内容、参加態度、課題) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階																		
備考	事前事後学習時間 計60時間 発表や提出物は、すぐにフィードバックします。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	先行研究を網羅（整理・批判）した上で、問いを立てる。		
授業方法と留意点	自らテーマを設定し、個別発表・討論をおこなう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 文献収集、読解、レジユメの作成方法、討論の仕方等を指導する。 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。		
関連科目	文化演習 I		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	発表内容（テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%）、討論（積極的に発言しているかなど。20%）、レポート（40%）で評価する。		
学生へのメッセージ	できるだけ多くの文献を読み、積極的にフィールドワークに出かけることで、広い視野をもって研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 林田研究室		
備考	研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。 西洋の歴史（世界史）に関する予備知識は必ずしも必要ではない。		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write an academic paper in English. Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different social issue. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material. We will be studying online. In this course, we will be using Moodle and Teams for asynchronous lessons for most of the semester. For the last 3 weeks of the semester, we will be working on a presentation called "The Talk." These three classes will be synchronous lessons..																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Week 1: Introduction Week 2: Media and Power Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Gender and Comics Week 7: Class and Comics Week 8: Writing: Planning and Outline Week 9: Writing: Introduction Week 10: Writing: Literature Review Week 11: Writing: Content Week 12: Writing: Conclusion Week 13: The Talk Planning Week 14: The Talk Practice Week 15: The Talk Presentation																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																		
Teams コード	p384jxf																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	email or Teams chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	Presentation 20% Academic Paper 35% Weekly Quiz 15% Notes 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	多文化社会とジェンダーをキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。 必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなど研究の手法を指導する。																		
到達目標	文化演習Ⅰで得た国際社会学をめぐる基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマを定めるまでに至る。																		
授業方法と留意点	毎回担当箇所を決め、全員が発表を行う。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養うよう意識して臨んでもらいたい。 前期と同様、Teamsによるオンライン双方向授業を行い、教材・課題の配布と回収にはWebFolderを用いる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 移民・多文化社会・ジェンダー 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、自分自身の研究課題に取り組む。各自の研究テーマに即した主要文献を薦める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	21t2yys																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%。																		
学生への メッセージ	専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章校正力を高めることを目指してください。																		
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること(総時間数は60時間)。 課題等のフィードバックは授業中に行うとともに、各自のレポートはその都度添削し返却する。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Web Folder/その他/Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	4db0jsv		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生への メッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の 研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業		
Teamsコード	v2o21i3		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	課題準備20%、発表30%、理解度チェック%、多読20%		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	外国語の能力を高め、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、中国言語文化、あるいは中国の風俗、習慣、思考様式などを課題とする。中国言語文化や中国文化の特徴などを研究することによって、中国語や中国文化の知識、中国語表現力を涵養し、学習力、思考力を養い、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養い、同時に研究能力を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	授業では、教員から与えられた課題、あるいは各自決めたテーマについて、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら、他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ】：①中国の語彙研究、②中国言語文化の研究、③中国文化の研究 各授業において、前回は課題と内容を決め、必要に応じて調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来ること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語と中国文化</td> <td>魯宝元著・神里常雄訳</td> <td>華語教学出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中日言語文化漫歩</td> <td>上野恵司</td> <td>吉林大学出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人が知りたい中国人の当たり前</td> <td>林松濤他</td> <td>三修社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社	2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社	3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社																
2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社																
3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社																
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	7t61yya																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	プレゼン 30%、提出物 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	対象とする国/地域の社会や文化に関する文献を輪読するとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	授業は遠隔(オンライン型、双方向)に、必要に応じて対面を併用して進める予定である。文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国/地域をとりあげてテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 対象とする国/地域の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄についてテーマ発表を行い、レポートを作成する。</p> <p>【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	すでに使用している連絡手段を引き続き使用する																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	授業への貢献(50%)、発表・レポート(50%)によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	【いかにイメージをテキストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。																		
到達目標	以下の2つの技術を習得すること。 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	1. 学生主体で進める。 2. 各自のテーマの関連テキストを読解、発表する。 3. その報告に対して質問する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Slack																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	1. 発表内容 [40%] 2. 質問内容 [40%] 3. その他課題 [20%]																		
学生へのメッセージ	1. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「思考力」である。 2. 発表担当でない日も、しっかり体調を整えて出席する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	事前事後に学修時間計60時間を予定している。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies SeminarⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	「メディア」を通じて文化やコミュニケーションを考察し、4年次の卒業研究につなげる。 ゼミ雑誌『Media:be』、ゼミ映像作品「THREE MINUTES OLDER」を制作する。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌『Media:be』、ゼミ映像作品「THREE MINUTES OLDER」を制作する																		
授業方法と留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み(調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等)を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作、ゼミ映像作品制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作や映像作品の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点(課題、発表、発言、積極性・協調性) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	自らの関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、さらに知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。																		
到達目標	英語がどのように国際語として使われているかを理解する。 英語教育の基礎理論・手法について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。																		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習Ⅱでは主に英語教育の手法、国際語としての英語の使用状況に焦点をあてる予定である。卒業研究に向けて、様々な理論やデータに対する知識をさらに深めるとともに、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらおう。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べるなどが含まれる。参考文献は随時、授業内で紹介する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／その他 Zoom																		
Teams コード	otmlizj																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール、個人メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室																		
備考	授業外での学習時間は60時間程度である。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。</p> <p>本授業では、各自の卒業レポートのテーマに関する先行研究の読み込み、資料の収集を進め、レポート完成へ向けて、さまざまな章や部分を書き溜めます。</p>																		
到達目標	1：卒業レポートのテーマに即した先行文献と資料の収集を行うことができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業の半ばくらいまでに、卒業レポートのテーマに関する先行文献を調べ、発表していただきます。それらをゼミ生全員で検証し、学術研究に適した文献かどうか批判的に考察します。</p> <p>授業の後半から、実際の資料収集の進捗状況に関して、できれば、学生さんあたり2回は発表できるようにします。その中で、各自のトピックと関連する音楽作品や、音楽演奏などがあれば、視聴、フィールドワークを一緒に行う可能性もあります。</p> <p>授業の5回目以降くらいから、目標ページ数や文字数を設定し、実際の執筆に着手します。それを課題として、原則毎週提出していただき、添削や意見交換を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『初回授業で伝えます』</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『初回授業で伝えます』</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール、個人メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館永富研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	人文地理学の研究方法を、実践を通じて身につけることを目的とする。受講生自らが関心を持つ対象について、空間・地域・環境にかかわる視点からアプローチする技能を養う。																		
到達目標	主に人文地理学の分野における研究を遂行するために必要な基礎的技能を習得すること。すなわち、意義のある問いを立てること、文献の収集・閲読・整理、データの収集・分析、論理的に議論を組み立てること、文章作成、口頭発表の能力である。																		
授業方法と留意点	論文作成に必要なさまざまな手順について担当教員が手短かにレクチャーを行ったのち、受講生がそれを実践し、成果物を提出する。また、各回の内容に応じた課題に取り組んでもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>◆授業テーマ：地理学的アプローチとその実践 実際に自らが関心を持つテーマ・問いについて追究し成果物を作成・報告することを通じて、地理学的アプローチについて学習する。</p> <p>◆内容、方法 1) 問いの設定.....テーマ設定の過程・方法。 2) 文献閲読.....問いに関連する論文・書籍等の探索・収集・閲読・整理。 3) データ収集・分析.....文献資料や統計データの扱い方、調査の方法と実践。 4) 文章作成.....論文の骨子を作ることと、文章作成法。 5) 口頭発表.....スライドショーを用いた発表とディスカッションの実践。</p> <p>◆事前・事後学習課題 授業時間における作業に取り組むだけで研究に必要な技能を身につけることはできない。教員が提示した課題に積極的に取り組むことのほか、自主的に文献の閲読や興味あるテーマの探索、関連情報の収集を行う必要があることに注意してください。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	csbartz																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール、個人メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	最終報告およびレポートの水準 60%、授業への積極性 40%																		
学生へのメッセージ	授業外でも常日頃から努力し、情報収集、問題意識の明確化、技能の磨き上げを行ってください。																		
担当者の研究室等																			
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。(これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。) 																		
授業方法と留意点	オンラインと対面の併用で進めます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(人間の)言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ここから始める言語学プラス統計分析</td> <td>小泉政利</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ここから始める言語学プラス統計分析	小泉政利	共立出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ここから始める言語学プラス統計分析	小泉政利	共立出版																
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画書を作成する（卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む）。 調査に着手する。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う (100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50%）と、卒業研究の進捗状況（50%）に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。																		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。 文章を自分で推敲し、書き直しの「答え」を丸投げにしないこと。自分で修正案を考え、書き直すこと。 教員は、間違いや改善点を指摘はするが、考えることや執筆（内容）、書き直し作業の「代行」は決してしない。 Teams、Webfolder およびメールを用いて、課題の提出・添削を行います。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ることに。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする言語文化の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、欧州の複言語主義など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗语へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	卒業研究とそれのための取り組み																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。 必ず、指定された時間に参加すること（メールなど時間外での指導は基本的に行わない。駆け込みにならぬよう注意）。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くなって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。			
到達目標	日本語あるいは英語で卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導 (火2)、個別指導 (金3)。 後期・・・個別指導 (月3・月4)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み・・・100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3F 天野研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。		
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。		
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。 序章、第1章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う (7月の予定)。 卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への参加態度・課題の達成 (100%)		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階 有馬研究室		
備考	事前事後学習時間 計60時間。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。																		
到達目標	卒業研究レポートの作成。																		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の関心に基づいて、調査主題を設定していく。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	毎回の授業への取り組み (20%) と発表内容 (30%)、および期末レポート (50%) から総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、7月に卒論中間発表会を開催するので、留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2020—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	毎月のレポート (50%) および積極的に研究を進めていくという受講態度 (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 (浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	4月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 5月～6月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 7月：中間報告を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張ってください。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏、および日本語圏と関わりを持つ言語と文化 【 授業概要・目的・到達目標 】 3年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。 																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。																		
関連科目	ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の討論・発表 50% ・卒業研究レポートの中間報告 50% 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の間におきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。 																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	生活する中で接する身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、ゼミ生各自が気になる現象を含んだデータを持ち合い、とことんデータについて様々な角度から議論していく。そのような議論を通じて、データの見方、分析方法をお互いに切磋琢磨して磨いていく。ゼミ生仲間からの様々なインプットや気づきを得る中で、各個人が卒業研究レポートに向けて、より一層分析を深め、より質の高い、「厚みのある」記述ができるようになることを目指す。また、卒業研究レポート作成に向けて、特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章を書けるように適宜指導していく。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、膨大な自然な談話データのなかで、特定の現象に焦点を定め、課題設定できるようになること ・データに基づいた客観的な論証ができるようになること ・先行研究を客観的に批評できるようになること ・特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章が書けるようになること 																
授業方法と留意点	授業では、順番に自分の興味のある現象を含んだ会話データを2~3つ持ってきてもらい、そのデータをゼミ生全員で議論していきます (ゼミ生が会話分析で卒業研究レポートを書く場合)。または、順番に自分の研究の進捗状況 (読んだ文献のレビュー、データを含めた報告) を発表してもらい、それに基づき、ゼミ生全員で議論していきます (ゼミ生が会話分析以外で卒業研究レポートを書く場合)。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>授業テーマ・内容・方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生各自が興味のある現象を含んだ会話データについて、ゼミ生全員で議論していく (データ・セッション) ・卒業研究レポートの進捗状況について、報告・発表する ・卒業研究レポートの中間報告 <p>【会話分析】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある現象を含んだ会話データ (ターゲットとなる現象の前後 15~30 秒) について、会話分析の転記方法に基づいて、データを書き起こす。毎回 2~3 つのデータについて議論するので、2~3 つのデータを書き起こしを行う。その際、当該現象について、最もクリアなケース (自分にとって説明がしやすいもの) から順番に2~3つ用意するとよい。 <p>・ゼミでデータを披露する前に、会話分析の基本的な組織や考え方 (順番交替組織、連鎖組織、修復組織、優先性の組織、物語りの構造、成員カテゴリーetc.) を踏まえて、分析しておく</p> <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、データを再分析してみる <p>【会話分析以外】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近自分が読んだ文献のレビュー (要約とレビュー)、研究の進捗状況について、報告・発表に向けてまとめておく。また、報告・発表の際に、図や表などオーディエンスの理解を最大限に高めるためのやり方について十分検討したうえで準備を進めておく <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、WORDなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、報告・発表内容を修正する 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也・平本毅・林誠</td> <td>勁草書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>論文・レポートの基本</td> <td>石黒圭</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房	2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房														
2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社														
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの進捗状況：50% 報告・発表における議論への貢献度：20% 中間発表：30%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートを作成する過程で、ゼミ生、教員みんなで熱く議論することで、いろいろな発見や気づきを得られるはずです。卒業研究レポートで大学生活での有終の美を飾ってほしいと思います！！																
担当者の研究室等	非常勤講師室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。			
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究 (文献) の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容 (100%)			
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室			
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed."																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.																		
学生への メッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of																		
担当者の 研究室等	田浦研究室 7号館 5階																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。 																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 (なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。)																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 50% 卒業研究(研究計画・中間報告を含む) 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究をすすめ、論文を作成する。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	各自が論文作成を進めることを中心としながら、研究内容や論文作成、文献講読の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	論文執筆の他に、研究計画書の作成、文献講読/発表、調査/調査報告等の執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する (100%)。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等			
備考	計 60 時間以上の事前事後学習を必要とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを完成に近づけます。																		
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば 4 章構成の卒研であれば、2 つの章の下書きを書き終え、残りの 2 章にどのような資料を使って何を書くかという目途が立っている状態にする。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方ない」という姿勢では、就職活動も卒論もどちらも上手く行きません。両方、しっかりやりましょう。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーグ、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目	卒業研究 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポートの進行状況 (50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張っていただければと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室																		
備考	総学習時間は 60 時間程度。課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化（国際）ビジネス論の分野を中心に、各自がテーマを設定し、その研究を進めていきます。 ・(1)文献や資料の収集とその活用法、(2)論文の書式や引用・参考文献等の表記法、(3)客観的なデータ分析に基づく論文の展開法、などの習得を主な授業目的とします。 																		
到達目標	研究テーマの決定と、その卒業研究レポートの骨子を作成することを目標とします。																		
授業方法と留意点	※今学期のこの授業は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化（国際）ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていきます。 ・まず、4～5月に、3年次末の第1回中間研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認します。 ・次に、論文の基本的な書式や展開について学びながら、参考文献や資料の収集を行っていきます。 ・さらに、論文の骨子を作成し、後期の研究作業につなげます。 <p>【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>																		
関連科目	文化演習 I・II など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示したり、プリントを配布したりする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	※今学期は「教材・課題提供型の遠隔授業」の形態のため、提出物等（100%）に基づいて評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動との両立を心がけてほしいと願っています。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	研究内容・報告に関するフィードバックはその都度、授業内で行います。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。		
授業方法と留意点	レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、基本のテーマは「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」とし、これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では、英語や日本語による原語セリフと2種の中国語セリフを比較対照し、2人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	日中観光文化と通訳法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ (修正・変更可) にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させうえて、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない (「結論」の導き出せる) 問い (問題) を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。																		
	<p>【事前事後学習課題】</p> 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点 30%、 課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館 4階西川研究室																		
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の 1 年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次文化演習 I・II で各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。		
到達目標	研究テーマについて、具体的に説明することができる。 研究テーマについて、必要な資料を集め、整理することができる。 研究テーマについて、資料をもとに問題点を見出すことができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。		
関連科目	卒業研究 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	卒業研究に取り組む姿勢 100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階 橋本研究室		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ (修正・変更可) にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させうえて、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	卒業研究レポートの作成に必要な知識およびデータをすべて取得し、独創性のある章立てを考える。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない (「結論」の導き出せる) 問い (問題) を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。																		
関連科目	卒業研究 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	口頭発表・ディスカッション (30%)・レポート (70%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の 1 年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 林田研究室																		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Write at least 1500 words of your graduate thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Introduction and Thesis Topic Selection Week 2: Thesis Statement and Outline Week 3: Introduction to Library Research Week 4: Writing the Introduction Week 5: Writing the Introduction Week 6: Writing the Literature Review Week 7: Writing the Literature Review Week 8: Writing the Literature Review Week 9: Writing the Literature Review Week 10: Writing the Literature Review Week 11: Writing the Literature Review Week 12: Finalizing the Spring Paper Week 13: Research and Reading for Content Week 14: Research and Reading for Content Week 15: Research and Reading for Content																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>Draft Submission 1</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 2</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 3</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 4</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 5</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Spring Paper</td> <td>50%</td> </tr> </table>			Draft Submission 1	10%	Draft Submission 2	10%	Draft Submission 3	10%	Draft Submission 4	10%	Draft Submission 5	10%	Spring Paper	50%				
Draft Submission 1	10%																		
Draft Submission 2	10%																		
Draft Submission 3	10%																		
Draft Submission 4	10%																		
Draft Submission 5	10%																		
Spring Paper	50%																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識をもとに、卒業研究のテーマを決定する。アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備・実施・分析を行い、それに基づき主体的に考察し、論理的な文章が書けるようになることをめざす。論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。																		
到達目標	研究テーマを決め、必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明らかにし、執筆に取り組む。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポートのテーマを決め、必要かつ的確な資料の収集と分析を進め、段階的に word ファイルでの発表の提出を求める。教員がファイルに添削やコメントを書き入れたものを受信する。それらはゼミ生全員で共有し、意見を出し合うきっかけとする。テーマによっては可能な限りでフィールドワークや聞き取り調査の準備を進める。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、オンラインで発表しあう。意見交換を重視する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。																		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、歴史学・社会学・政治哲学系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	問題意識を深めるための取り組み (50%)、研究経過報告 (50%)																		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。 必ず読むべき文献は、各自のテーマと研究対象地域に応じて指示しますが、先行研究を自主的・意欲的に読むことでテーマと分析視角とを絞り込んでください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>3 年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識) だけではなく、様々なテーマに関心を向け、情報収集・発表を行ってきた。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れた。</p> <p>4 年次は、3 年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていく。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組む。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から 2 つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたる。</p>																		
到達目標	<p>卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始める。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていて、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とする。</p> <p>最終的には、口頭試問にて自分の研究目的と概要がきちんと説明できること、副査の試問に適切に答えられることを目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認する。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考える。調査が必要ならその準備をし、実行する。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成</p> <p>前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備 調査実施</p> <p>夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表①</p> <p>後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、(必要であれば) 追加調査、分析</p> <p>1 月： 論文提出</p> <p>1 月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き</p> <p>それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																		
評価方法 (基準)	<p>毎週の課題 30%</p> <p>中間発表 20%</p> <p>卒業研究レポート 50%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。</p> <p>卒研レポートは、提出までどこまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。</p> <p>★Teams で連絡をします。</p>																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	オンライン型授業を実施する。 各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語の形容詞の比喩的用法について ・中国語の由来と発想の研究 ・中国の婚姻に関する研究 ・中国のことわざについて ・中国の歇後語について <p>【事前事後学習課題】</p> <p>指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日の形容詞における比喩的表現の対照研究</td> <td>尤東旭</td> <td>白帝社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>慣用句 10000 条</td> <td>温瑞政・呉建生 ほか</td> <td>上海辞書出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>諺語 10000 条</td> <td>温瑞政 ほか</td> <td>上海辞書出版社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日の形容詞における比喩的表現の対照研究	尤東旭	白帝社	2	慣用句 10000 条	温瑞政・呉建生 ほか	上海辞書出版社	3	諺語 10000 条	温瑞政 ほか	上海辞書出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中日の形容詞における比喩的表現の対照研究	尤東旭	白帝社																
2	慣用句 10000 条	温瑞政・呉建生 ほか	上海辞書出版社																
3	諺語 10000 条	温瑞政 ほか	上海辞書出版社																
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	課題提出 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)																		
備考	課題等に対し、フィードバックや添削指導を行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	ゼミ生全員で、卒業制作活動を実施する。また卒業制作活動に基づいた研究を行い、卒業研究レポートを作成する。																		
到達目標	論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。 卒業制作活動において、質の高い映像作品を作成する。																		
授業方法と留意点	卒業制作活動については、active learning 形式で実施する。外部の映画祭に卒業制作作品を出品することを目標とする。卒業研究レポートについては、卒業制作活動の内容に関するものとし、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業制作活動では、オリジナルの脚本を作成し、オリジナルの映像作品を制作する。 教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業制作の成果物 50% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																		
備考	卒業制作活動、および資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。		
授業方法と留意点	授業はオンライン形式（双方向を主とする）による。各自が設定したテーマにもとづいて、卒業研究レポートを作成するための計画を立て、資料収集や調査を実施し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、検討を加える。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>①対象とする地域について、各自の関心にしたがって研究テーマを設定する。</p> <p>②研究計画（卒業研究レポートのおおまかな構成）をたてる。</p> <p>③計画にしたがって、資料分析や調査を実施する。</p> <p>授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、各自の文章化につなげる。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>資料収集や調査を実施し、分析する。</p> <p>発表のための資料作成・準備をする。</p> <p>討論をふまえて、文章化する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法（基準）	授業への貢献（50%）、発表・レポート（50%）によって総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	小都研究室（7号館3階）		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で設定したテーマに沿って、各自、資料収集や現地調査を行い、卒業研究レポートの作成に取り組む。各自の研究課題に取り組むなかで、新たな知識を吸収し、思考を深める。																		
到達目標	社会的に意義のある研究課題を発見できる。 研究テーマに関する資料収集や現地調査ができる。 収集した資料を読解し、自身の研究に取り込むことができる。 章立てをつくり、論理的に卒業研究レポートの骨組みをつくることことができる。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業形式で、教材配布とビデオ会議を織り交ぜて行う。 ・随時ビデオ会議で論文作成方法のレクチャーを行い、各自のテーマの相談を受ける。 ・最初にひとりひとりとテーマについて面談した後、卒業研究レポート提出までの作業についてガイダンスを行う。各自でスケジュールを立て、計画的に卒業研究を進める。随時、論文作成方法に関して解説する。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 社会経済の発展に関する研究 各自のテーマに基づいて資料収集や現地調査を行い、進捗を毎週報告する。</p> <p>【事前事後学習課題】 先行研究を読解し、自身の研究課題を明確にし、論文の骨組みを作る。 序論として論文全体の構想をまとめる。</p>																		
関連科目	卒業研究 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	課題提出を含む卒業研究の進捗 60% レジュメにもとづく口頭発表 40%																		
学生へのメッセージ	卒業研究は単なる書き物ではなく、自分の思考を表現するいわば自立した自己を確立する手段ともいえます。ユニークな発想を期待しています																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	事前事後学習の総時間数は約 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 日本語・日本語教育</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。</p>																		
到達目標	<p>*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。</p>																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削</p> <p>【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度 (20%)，論文の内容 (80%) により総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	担当教員と大部分のゼミ生は12月上旬の2週間は日本語教育実習にかかりきりになるので、11月の中旬には9割は完成させることを目標にしましょう！																		
担当者の 研究室等	7号館4階 (門脇研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【いかにイメージをテキストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）をあきらかにし、その現代的意義を考察する。																		
到達目標	以下の2つの技術を実践すること。 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	1. 学生主体で進める。 2. 卒業研究の関連テキストを読解、発表する。 3. 卒業研究のレポートを随時作成する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。 4. 上記課題を卒業研究レポートに反映させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	1. 発表内容 [70%] 2. 質問 [20%] 3. 研究姿勢 [10%]																		
学生への メッセージ	1. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「思考力」である。 2. 発表担当でない日も、しっかり体調を整えて出席する。 3. あらかじめ少しずつでもレポート作成を進める。																		
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	「メディア」に関する各自の研究テーマに基づき、卒業研究を制作する。		
到達目標	①「メディア」に関する研究テーマを持ち、自ら解説することができる ②研究テーマに関する資料を収集・管理することができる ③研究テーマについて、学術的な成果物を完成させる		
授業方法と留意点	卒業研究制作の指導を個別に行う。 ゼミ生間で定期的にディスカッションを行い、相互に研究を深める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自で卒業研究に必要な作業（文献調査、フィールドワーク、論文執筆等）を進める。 毎週、担当教員によるチェックと指導を行う。 月に1度、ゼミ生間で進捗報告を行い、ディスカッションを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み（研究内容、積極性、協調性） 100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、関連する文献を読み、資料・データを収集し、分析をして卒業研究レポートをまとめていく。																		
到達目標	研究テーマを発見できる。 研究計画を立てることができる。 関連する文献を読んで、まとめることができる。 資料・データを収集し、卒業研究レポートを書き始めることができる。																		
授業方法と留意点	作成した研究計画にあわせて各自で資料収集等をすすめ、授業時に発表・報告をおこなう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各自でテーマを設定し、担当教員と相談しながら研究計画を立て、それに沿って研究をすすめていく。授業時には主に発表・報告を行うため、授業外でしっかりと準備する必要がある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 (30%) 授業における報告・発表 (30%) 資料収集・分析 (40%)																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	その他 zoom		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	卒論への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」		
Teams コード	9geoz28		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	授業に取り組む姿勢(50%)と、卒業研究の進捗状況(50%)に基づいて評価		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文章(本や論文、記事)を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献(本・資料)を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。																		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。 遠隔(オンライン)で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマは、スペインを主とする言語文化の研究。</p> <p>具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題(ラテン語から俗语へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル)、印刷技術(情報革命)、宗教改革など <p>とにかく文章を読み、要約し、書き、発表(口頭と文章で)する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teamsコード	7zkvvl																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	卒業研究とそれのための取り組み																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くになって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。			
到達目標	日本語あるいは英語で卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導(火2)、個別指導(金3)。 後期・・・個別指導(月3・月4)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teamsコード	dagn31f			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	amano@ilc.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み・・・100%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3F 天野研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。		
到達目標	卒業研究を完成させる。		
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	11月下旬までに卒業研究レポート第一稿を完成する。 12月～1月 卒業研究レポートの修正作業 原稿の完成とチェック。最終的なOKが出るまで。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー	2020年卒業研究Ⅱ		
連絡手段	Teams		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への参加態度(30%)、卒業研究レポート(70%)		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階 有馬研究室		
備考	事前事後学習 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいて研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。																		
到達目標	卒業研究レポートの作成。																		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文を完成させる時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	設定した主題およびその近接領域について書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他 (Zoom と Slack)																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	毎回の授業への取り組み(20%)と、発表内容(30%)、完成した卒業研究レポート(50%)から総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンを見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、秋には3年ゼミと合同でのゼミ旅行を実施し、1月には卒論最終発表会を開催するので、留意のこと。 また、「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点も留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、最近のゼミ生が取り組んだテーマ(卒業研究レポート題目)は次の通りである。 『夢と魔法の王国』の誕生—ようこそ、東京ディズニーランドへ—「都市における人びとの集い—居酒屋チェーンの発展と広がりに着目して—」「リフォームの昔と今、そして未来—住宅メーカーからリフォーム産業へ—」「部活動の現在—中・高生の活動実態からみえる課題と展望—」「仮面をかぶる人びと—就職活動のいま—」「インドネシア語とマレー語の差異—それぞれの言語の発展過程を踏まえて—」「自動車運転免許に関する総合的研究—日本とアメリカの比較を通じて—」</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文集各年版</td> <td>浦野ゼミ</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2020—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
授業形態	Zoom(アクセスURLは学生に直接案内します) / 対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	積極的に研究を進めていくという受講態度(50%)および卒業研究レポートの内容:完成度(50%)で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	9月～12月：卒業研究を執筆する。 1月：卒業研究の最終発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張ってください。		
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏、日本語圏と関わりを持つ言語と文化</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。 																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。																		
関連科目	ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他 (Zoom・学内メール)																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	@edu の学内メール (前期と同じ)																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・同級生とのディスカッション 20% ・卒業研究レポート 80% 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の間におきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。 																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 II	科目名 (英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	生活する中で接する身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、ゼミ生各自が気になる現象を含んだデータを持ち合い、とことんデータについて様々な角度から議論していく。そのような議論を通じて、データの見方、分析方法をお互いに切磋琢磨して磨いていく。ゼミ生仲間からの様々なインプットや気づきを得る中で、各個人が卒業研究レポートに向けて、より一層分析を深め、より質の高い、「厚みのある」記述ができるようになることを目指す。また、卒業研究レポート作成に向けて、特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章を書けるように適宜指導していく。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、膨大な自然な談話データのなかで、特定の現象に焦点を定め、課題設定できるようになること ・データに基づいた客観的な論証ができるようになること ・先行研究を客観的に批評できるようになること ・特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章が書けるようになること 																
授業方法と留意点	授業では、順番に自分の興味のある現象を含んだ会話データを2~3つ持ってきてもらい、そのデータをゼミ生全員で議論していきます (ゼミ生が会話分析で卒業研究レポートを書く場合)。または、順番に自分の研究の進捗状況 (読んだ文献のレビュー、データを含めた報告) を発表してもらい、それに基づき、ゼミ生全員で議論していきます (ゼミ生が会話分析以外で卒業研究レポートを書く場合)。																
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ・内容・方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生各自が興味のある現象を含んだ会話データについて、ゼミ生全員で議論していく (データ・セッション) ・卒業研究レポートの進捗状況について、報告・発表する ・卒業研究レポートの個人指導 <p>【会話分析】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある現象を含んだ会話データ (ターゲットとなる現象の前後 15~30 秒) について、会話分析の転記方法に基づいて、データを書き起こす。毎回 2~3 つのデータについて議論するので、2~3 つのデータを書き起こしを行う。その際、当該現象について、最もクリアなケース (自分にとって説明がしやすいもの) から順番に2~3つ用意するとよい。 <p>・ゼミでデータを披露する前に、会話分析の基本的な組織や考え方 (順番交替組織、連鎖組織、修復組織、優先性の組織、物語りの構造、成員カテゴリーetc.) を踏まえて、分析しておく</p> <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、データを再分析してみる <p>【会話分析以外】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近自分が読んだ文献のレビュー (要約とレビュー)、研究の進捗状況について、報告・発表に向けてまとめておく。また、報告・発表の際に、図や表などオーディエンスの理解を最大限に高めるためのやり方について十分検討したうえで準備を進めておく <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、報告・発表内容を修正する 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也・平本毅・林誠</td> <td>勁草書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>論文・レポートの基本</td> <td>石黒圭</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房	2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房														
2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社														
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teamsコード	hb1k82																
Moodleコース名および登録キー	卒業研究 (杉浦ゼミ)																
連絡手段	大学メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの完成度：80% 報告・発表における議論への貢献度：20%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートを作成する過程で、ゼミ生、教員みんなで熱く議論することで、いろいろな発見や気づきを得られるはずです。卒業研究レポートで大学生活での有終の美を飾ってほしいと思います!!																
担当者の研究室等	非常勤講師室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。			
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究(文献)の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teamsコード	qtd69j3			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容(100%)			
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。			
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English.</p> <p>Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English.</p> <p>Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing.</p> <p>Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.</p>																		
到達目標	<p>Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.</p>																		
授業方法と留意点	<p>Regular on-time attendance, a willingness to enthusiastically, continuous and careful research towards finishing the thesis, and reading outside class are the key to a good grade.</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be further researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and students will discuss different topics connected to TED talks. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle /その他 Zoom & Line (Teams なし)																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー	Amanda Taura 4th year seminar class 2nd term																		
連絡手段	Line																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to read to build up your 4 skills - listening, speaking, reading and writing.																		
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of																		
担当者の研究室等	田浦研究室 7号館 5階																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	<p>1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。</p> <p>2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。</p> <p>2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。</p> <p>3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 (なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 50% 卒業研究(研究計画・中間報告を含む) 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、論文を完成させる。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	個別に調査、文献講読、分析等を行うとともに、構成員で議論を深めながら論文を完成させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文を完成させるために、文献講読/発表、調査/調査報告などといった執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する(平常点：100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 II	科目名 (英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を完成させます。																		
到達目標	自分自身、指導教員、査読や口頭試問等をしてくださる先生方の全員が満足できる卒業研究レポートを期限内に提出し、外国語学部生としてのプライドと達成感を持って本学を卒業すること。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期同様、週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーグ、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目	卒業研究 I																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
授業形態	その他 zoom および前期から継続の 3-4 年次合同 Teams チームを使用																		
Teams コード	haeedzm																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポート (50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間は 60 時間程度。課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次前期の卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、異文化(国際)ビジネスの分野を中心に研究を進めていきます。 ・資料やデータの客観的かつ多角的な分析力や、それに基づく論理的な思考力の養成を主な授業目的とします。 																		
到達目標	各自で選んだテーマについて、しっかりとした卒業研究レポートを完成させることを目標とします。																		
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究レポートの作成を計画的に進めていきましょう。 ・まず、前期の研究成果に基づいて、論文の概要をまとめ、後期開始直後に第2回中間研究発表を行います。 ・さらに、論旨の整合性を高めながら、文体上の不備を修正していきます。 ・その後、12月下旬までに、卒業研究レポートの完成を目指します。 <p>【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示したり、プリントを配布したりする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度(80%)、研究活動に取り組む姿勢(20%)を合わせて評価します。																		
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	研究内容・報告に関するフィードバックはその都度、授業内で行います。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。		
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、基本のテーマは「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」とし、これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では、英語や日本語による原語セリフと2種の中国語セリフを比較対照し、2人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	日中観光文化と通訳法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teamsコード	cpou44z		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	Teams上に質問用フォームを設置する。これに対してメールなどの方法でフィードバックを行う。		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容50%		
学生へのメッセージ	有終の美を飾ってください。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させうえて、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない(「結論」の導き出せる)問い(問題)を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 <p>【事前事後学習課題】</p> 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	ooybj2p																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。 <p>課題等のフィードバックは授業中に行います。</p>																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰに引き続き、卒業研究を進める。		
到達目標	自分で調べ、考察したテーマについて、まとめて報告することができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。		
関連科目	卒業研究Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teamsコード	quurw97		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	授業で学内メールをお伝えします。		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む姿勢 60% 卒業研究レポートの内容 40%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させうえて、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	4年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。																		
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなってほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	口頭発表・ディスカッション(30%)・卒業研究レポート(70%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室																		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、卒業研究レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Complete your thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students. We will be conducting synchronous seminar meetings online using Teams.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Introduction and Thesis Planning Week 2: Writing the Body Week 3: Writing the Body Week 4: Writing the Body Week 5: Writing the Body Week 6: Writing the Body Week 7: Writing the Body Week 8: Writing the Conclusion Week 9: Writing the Conclusion Week 10: Finalizing the Thesis Week 11: Finalizing the Thesis Week 12: Thesis Final Check and Submission Week 13: Thesis Feedback Week 14: Thesis Feedback Week 15: Thesis Feedback																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	ze4a5gn																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	email or Teams chat																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	Draft Submission 1 10% Draft Submission 2 10% Draft Submission 3 10% Draft Submission 4 10% Draft Submission 5 10% Thesis 50%																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。		
到達目標	テーマに関して、日本語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし資料・文献を渉猟する。そうして先行研究を整理したうえで、その中に自分の論文の位置づけを見出し、オリジナリティのある論文を作成する。		
授業方法と留意点	Teamsによる双方向オンライン授業を行い、資料の配布とレポートの回収にはWebFolderを用いる。 夏期休業中の成果を後期の始めに報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与え合うことが重要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder		
Teamsコード	ina19az		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	研究報告の積み重ね(50%)とそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたか(50%)を評価する。		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。 各自の研究課題に応じて必要かつ重要と思われる文献を指示しますので、英語やスペイン語のものも読みこなしてください。		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室		
備考	事前・事後学修に約60時間を要する。課題等のフィードバックは授業中に行うとともに、レポートは個別に添削し、やりとりする。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Web Folder/その他/Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	h2o2su7		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)だけではなく、様々なテーマに関心を向け、情報収集・発表を行ってきた。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れた。</p> <p>4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていく。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組む。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたる。</p>																		
到達目標	<p>卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始める。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていて、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とする。</p> <p>最終的には、口頭試問にて自分の研究目的と概要がきちんと説明できること、副査の試問に適切に答えられることを目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認する。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考える。調査が必要ならその準備をし、実行する。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成</p> <p>前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備 調査実施</p> <p>夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表①</p> <p>後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、(必要であれば)追加調査、分析</p> <p>1月： 論文提出</p> <p>1月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き</p> <p>それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/対面授業																		
Teamsコード	xujwxxr																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までどこまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																		
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語の形容詞の比喩的用法について ・中国語の由来と発想の研究 ・中国の婚姻に関する研究 ・中国のことわざについて ・中国の歇後語について <p>【事前事後学習課題】</p> <p>指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日の形容詞における比喩的表現の対照研究</td> <td>尤東旭</td> <td>白帝社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>慣用句 10000 条</td> <td>温瑞政・呉建生 ほか</td> <td>上海辞書出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>諺語 10000 条</td> <td>温瑞政 ほか</td> <td>上海辞書出版社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日の形容詞における比喩的表現の対照研究	尤東旭	白帝社	2	慣用句 10000 条	温瑞政・呉建生 ほか	上海辞書出版社	3	諺語 10000 条	温瑞政 ほか	上海辞書出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中日の形容詞における比喩的表現の対照研究	尤東旭	白帝社																
2	慣用句 10000 条	温瑞政・呉建生 ほか	上海辞書出版社																
3	諺語 10000 条	温瑞政 ほか	上海辞書出版社																
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	v94m3b5																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	毎回の提出物 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	ゼミ生全員で、卒業制作活動を実施する。また卒業制作活動に基づいた研究を行い、卒業研究レポートを作成する。																		
到達目標	論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。 卒業制作活動において、質の高い映像作品を作成する。																		
授業方法と留意点	卒業制作活動については、active learning 形式で実施する。外部の映画祭に卒業制作作品を出品することを目標とする。卒業研究レポートについては、卒業制作活動の内容に関するものとし、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業制作活動では、オリジナルの脚本を作成し、オリジナルの映像作品を制作する。 教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	卒業制作の成果物 50% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																		
備考	卒業制作活動、および資料の読み込み、発表の準備などにかかる事事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。		
授業方法と留意点	授業は対面と遠隔(オンライン、双方向)を併用して進める予定である。卒業研究レポートの研究計画にしたがって、資料を収集し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、相互に検討を加え、卒業研究レポートの完成につなげる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 ①研究計画にしたがって、資料分析を実施する。 ②発表、討論をふまえて、文章化する。 ③文章を推敲し、全体の構成を組み立てる。 授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、卒業研究レポートの完成につなげる。</p> <p>【事前事後学習】 資料収集を実施し、分析する。 発表のための資料作成・準備をする。 討論をふまえて、文章化する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	すでに使用している連絡手段を引き続き使用する		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	授業への貢献、卒業研究レポートへの取り組み(50%)、卒業研究レポート(50%)によって総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。あわせて、卒業研究レポートの作成を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰで作成した論文の骨組みと序論を土台として、卒業研究レポートを執筆し完成させる。																		
到達目標	集大成としての卒業研究レポートを完成させる。 社会的に意義のある研究課題を設定し、先行研究を踏まえて、論理的に自身の議論を展開できる。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・執筆過程での指導は原則的に Teams での遠隔授業の形式で行う。中間報告会、最終報告会および対面での指導を要する場合は対面授業の形式で行う。状況により一律遠隔授業に切り替わった場合にはすべて Teams での遠隔で行う。 ・中間報告を交えながら、各自で自分の研究の進捗を随時確認し、スケジュールを立てて計画的に卒業研究レポートの執筆を進める。論文の構成や議論の展開の仕方について随時解説する 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 社会経済の発展に関する研究 各自のテーマに基づいて資料収集や現地調査を行い、執筆を進め、進捗を毎週報告する。</p> <p>【事前事後学習課題】 各自資料が集まった部分から執筆を進め、添削を受けて、修正しながら、完成させていく。</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	卒業研究レポートの内容 70% 卒業研究に取り組む態度 30%																		
学生へのメッセージ	卒業研究は単なる書き物ではなく、自分の思考を表現するいわば自立した自己を確立する手段ともいえます。ユニークな発想を期待しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																		
備考	事前事後学習の総時間数は約60時間。 課題等のフィードバックは執筆過程で随時行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 日本語・日本語教育</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。</p>																
到達目標	<p>*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。</p>																
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削</p> <p>【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>よくわかる卒論の書き方</td> <td></td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房														
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teamsコード	9f2i7ku																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度(20%)、論文の内容(80%)により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	スケジュールをしっかりと立てて進めていってください。 参考文献は、各自のテーマに合わせて紹介します。 担当教員と大部分のゼミ生は12月上旬の2週間は日本語教育実習にかかりきりになるので、11月の中旬には9割は完成させることを目標にしましょう！																
担当者の研究室等	7号館4階 門脇研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【いかにイメージをテキストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）をあきらかにし、その現代的意義を考察する。																			
到達目標	以下の2つの技術を実践すること。 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																			
授業方法と留意点	1. 学生主体で進める。 2. 卒業研究の関連テキストを読解、発表する。 3. 卒業研究のレポートを随時作成する。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。 4. 上記課題を卒業研究レポートに反映させる。																			
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	Slack																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	1. 発表内容 [70%] 2. 質問 [20%] 3. 研究姿勢 [10%]																			
学生へのメッセージ	1. 質問の評価基準は「知識量」ではなく「思考力」である。 2. 発表担当でない日も、しっかり体調を整えて出席する。 3. あらかじめ少しずつでもレポート作成を進める。																			
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	「メディア」に関する各自の研究テーマに基づき、卒業研究を制作する。		
到達目標	①「メディア」に関する研究テーマを持ち、自ら解説することができる ②研究テーマに関する資料を収集・管理することができる ③研究テーマについて、学術的な成果物を完成させる		
授業方法と留意点	卒業研究制作の指導を個別に行う。 ゼミ生間で定期的にディスカッションを行い、相互に研究を深める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自で卒業研究に必要な作業（文献調査、フィールドワーク、論文執筆等）を進める。 毎週、担当教員によるチェックと指導を行う。 月に1度、ゼミ生間で進捗報告を行い、ディスカッションを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み（研究内容、積極性、協調性） 100%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	自らの関心に基づいた設定したテーマについて、卒業研究レポートを完成させる。			
到達目標	卒業研究レポートを完成できる。 自らのテーマについて発表できる。 クラスメートとディスカッションし、お互いの卒業研究レポートへフィードバックできる。			
授業方法と留意点	各自で卒業研究レポートを作成していく。授業時は報告・発表を行い、クラスメートとディスカッションし、互いにフィードバックを行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	資料・データの分析に基づき、卒業研究レポートを完成させる。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他 Zoom			
Teams コード	wkovehp			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール、個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	授業への積極的な参加・取り組み (30%) 卒業研究レポート (70%)			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	高橋研究室(7号館4階)			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 II	科目名 (英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究 (文献) の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容 (100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		